

新宿区高齢者の保健と福祉に関する  
調査報告書



令和5年(2023年)3月

新宿区



# 目次

## 調査概要

調査の目的 .....	3
調査の種類 .....	3
調査の方法 .....	3
この報告書の留意点 .....	5

## 集計結果

<b>1 一般高齢者+介護予防・日常生活圏域ニーズ調査.....</b>	<b>9</b>
あなた自身のことについて.....	9
あなたのご家族や生活状況について .....	12
からだを動かすことについて.....	14
食べることについて .....	21
日ごろの生活について .....	31
地域での活動について .....	35
たすけあいについて .....	39
健康状態について .....	44
介護予防について.....	51
かかりつけの医療機関について .....	52
在宅療養等について .....	54
ACP（人生会議）について.....	56
緩和ケアについて .....	57
認知症について.....	58
権利擁護について .....	61
健康・福祉サービスの情報や相談窓口について .....	63
介護保険制度について .....	65
通信機器の利用状況等について .....	66
自由記述 .....	70
<b>2 要支援・要介護認定者調査.....</b>	<b>73</b>
あなたご自身のことについて.....	73
あなたのご家族や生活状況について .....	79
食べることについて .....	81
たすけあいについて .....	83
健康状態について .....	85
かかりつけの医療機関について .....	86
在宅療養等について .....	88

ACP（人生会議）について.....	89
緩和ケアについて.....	90
権利擁護について.....	91
健康・福祉サービスの情報や相談窓口について.....	93
介護保険サービスの利用状況と利用意向について.....	95
通信機器の利用状況等について.....	103
家族等介護者の状況について.....	107
（宛名のご本人の）認知症について.....	111
自由記述.....	113
<b>3 第2号被保険者調査.....</b>	<b>115</b>
あなた自身のことについて.....	115
あなたのご家族や生活状況について.....	118
地域での活動について.....	119
たすけあいについて.....	122
健康状態や健康づくり等について.....	125
若年性認知症について.....	130
在宅療養等について.....	133
ACP（人生会議）について.....	134
緩和ケアについて.....	135
権利擁護について.....	136
健康・福祉サービスの相談窓口について.....	138
介護保険制度について.....	140
通信機器の利用状況等について.....	142
自由記述.....	145
<b>4 ケアマネジャー調査.....</b>	<b>146</b>
勤務先の事業所の概要について.....	146
あなた自身のことについて.....	149
ケアマネジメントの状況について.....	152
高齢者総合相談センターのケアマネジャーへの支援について.....	155
各種連携の状況について.....	157
在宅医療への対応について.....	161
ケアプランへの組み込みについて.....	163
在宅高齢者に必要な支援について.....	166
認知症について.....	168
ACP（人生会議）について.....	169
ケアマネジャーの仕事について.....	169
スキルアップについて.....	170
今後の意向について.....	172



新宿区への要望について .....	173
自由記述 .....	176
<b>5 介護保険サービス事業所調査 .....</b>	<b>177</b>
貴事業所の概要について .....	177
収支状況・処遇改善の状況について .....	178
事業所で取り扱っているサービスについて .....	182
今後の参入意向について .....	186
総合事業について .....	189
人材の確保・定着・育成について .....	189
高齢者総合相談センターの事業所への支援について .....	194
各種連携の状況について .....	197
介護保険によらないサービスについて .....	199
地域貢献活動について .....	201
在宅医療への対応について .....	204
ACP（人生会議）について .....	205
尊厳の保持について .....	205
身体拘束等の廃止の取り組みについて .....	206
新型コロナウイルス感染症予防策として新たに導入された情報通信技術(ICT)の導入状況について .....	207
BCP（業務継続計画）について .....	208
新宿区への要望について .....	212
自由記述 .....	214
<b>6 在宅介護実態調査 .....</b>	<b>215</b>
調査結果の留意点 .....	215
<b>1 調査結果の詳細(単純集計結果) .....</b>	<b>217</b>
要介護認定データ .....	217
基本調査項目（A票） .....	222
主な介護者様用の調査項目（B票） .....	225
<b>2 調査結果の詳細(クロス集計結果) .....</b>	<b>227</b>
在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討 .....	227
仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討 .....	248
保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討 .....	258
将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討 .....	264
サービス未利用の理由など .....	274

## 参考資料

調査票 .....	281
-----------	-----



## 調査概要

---



## 調査の目的

本調査は、高齢者が住み慣れた地域の中でその人らしく安心して心豊かに暮らし続けることができるよう、区民の健康や日ごろの健康状態、介護保険サービスの利用状況や利用意向及びケアマネジャーや介護保険サービス事業所の実態を把握し、令和6年度を初年度とする「新宿区高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画」策定のための基礎資料とする。

## 調査の種類

調査にあたっては、次の6種類の調査を実施した。

調査名	調査対象	調査対象数
①一般高齢者+介護予防 ・日常生活圏域ニーズ調査	要介護認定を受けていない 65歳以上の高齢者	4,000人
②要支援・要介護認定者調査	要支援・要介護認定を受けている 65歳以上の高齢者	1,500人
③第2号被保険者調査	要支援・要介護認定を受けていない 第2号被保険者（40～64歳）	1,500人
④ケアマネジャー調査	区内の居宅介護支援事業所に勤務する ケアマネジャー	190人
⑤介護保険サービス事業所調査	区内の介護保険サービス事業所	297所
⑥在宅介護実態調査	区内で在宅生活をしている 要支援・要介護認定者	637人

## 調査の方法

### ○調査方法：

調査名	調査方法
①一般高齢者+介護予防 ・日常生活圏域ニーズ調査	郵送による発送・回収（礼状兼督促はがきを1回発送） 及びWEB回答併用
②要支援・要介護認定者調査	
③第2号被保険者調査	
④ケアマネジャー調査	
⑤介護保険サービス事業所調査	
⑥在宅介護実態調査	ケアマネジャーによる聞き取り調査

調査概要

○調査期間：

調査名	調査期間
①一般高齢者+介護予防 ・日常生活圏域ニーズ調査	令和4年10月5日（水）から10月26日（水）まで
②要支援・要介護認定者調査	
③第2号被保険者調査	
④ケアマネジャー調査	令和4年10月3日（月）から10月24日（月）まで
⑤介護保険サービス事業所調査	
⑥在宅介護実態調査	令和4年6月23日（木）から12月27日（火）まで

○回収状況：

調査名	調査対象数	有効回収数	有効回収率
①一般高齢者+介護予防 ・日常生活圏域ニーズ調査	4,000人	2,651人	66.3%
②要支援・要介護認定者調査	1,500人	948人	63.2%
③第2号被保険者調査	1,500人	582人	38.8%
④ケアマネジャー調査	190人	144人	75.8%
⑤介護保険サービス事業所調査	297所	160所	53.9%
⑥在宅介護実態調査	637人	637人	100%

○回答者に占めるWEB回答の割合：

調査名	有効回収数	うちWEB 回答数	WEB回答率
①一般高齢者+介護予防 ・日常生活圏域ニーズ調査	2,651人	87人	3.3%
②要支援・要介護認定者調査	948人	12人	1.3%
③第2号被保険者調査	582人	120人	20.6%
④ケアマネジャー調査	144人	14人	9.7%
⑤介護保険サービス事業所調査	160所	32所	20.0%

## この報告書の留意点

- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現している。
- 「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示している。
- 百分率による集計では、回答者数（該当質問においては該当者数）を100%として算出し、本文及び図表の数字は、すべて小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを表記している。このため、すべての割合の合計が100%にならないことがある。
- 複数回答（2つ以上選ぶ問）の設問では、すべての割合の合計が100%を超えることがある。
- クロス集計では、分析軸の項目に無回答があるため、全体のnと合計が合わない場合がある。
- 前回調査比較は、令和元年に実施した調査と比較をしている。一般高齢者+介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、一般高齢者【基本】調査、一般高齢者【重点】調査、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査【ニーズ】と比較しているため、グラフの凡例に調査名を記している。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果または、回答者が皆無であることを表している。
- 図表の記載にあたり調査票の設問文、グラフ及び文章中の選択肢を一部簡略化している場合がある。
- クロス集計グラフでは見やすさを優先し「0.0%」の数値表示を省略しているものがある。
- コメントを作成するにあたり原則、次のような表現方法を用いた。

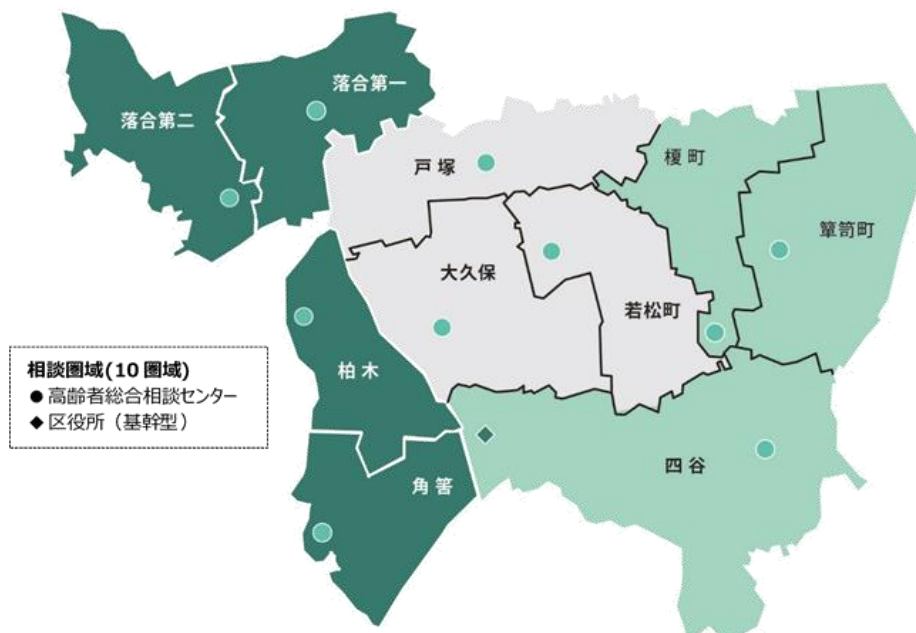
例	表現
80.1～80.9%	約8割
81.0～82.9%	8割強
83.0～84.9%	8割台半ば近く
85.0～85.9%	8割台半ば

例	表現
86.0～87.9%	8割台半ばを超え
88.0～88.9%	9割近く
89.0～89.9%	9割弱

## 調査概要

- 報告書に記載されている「圏域」は、特別出張所管轄10区域で構成している「日常生活圏域」(四谷、箆笥町、榎町、若松町、大久保、戸塚、落合第一、落合第二、柏木、角筈)であり、以下のとおりである。

※日常生活圏域は東圏域(四谷、箆笥町、榎町)、中央圏域(若松町、大久保、戸塚)、西圏域(落合第一、落合第二、柏木、角筈)の3つの圏域に分けている。





## 集計結果

---

※各調査の集計表は新宿区のホームページに掲載しています。

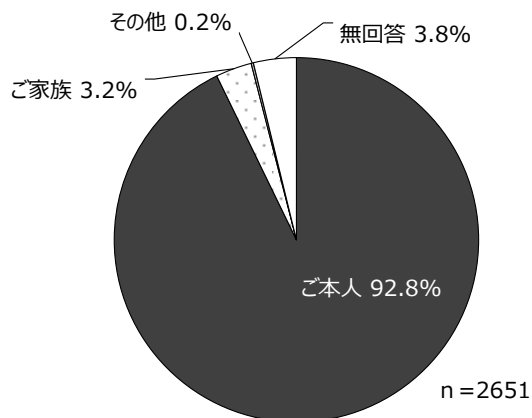


# 1 一般高齢者+介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

## あなた自身のことについて

調査票を記入した人

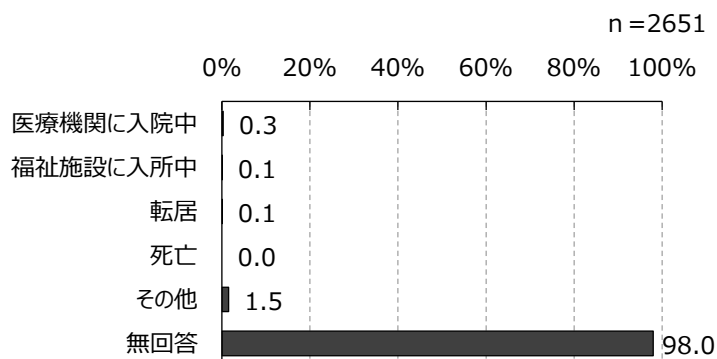
【図表 1】 調査票の記入者



記入者	人数
ご本人	2,460
ご家族	85
その他	4
無回答	102
合計	2,651

ご本人が何らかの事情によりご不在の場合

【図表 2】 不在の事情

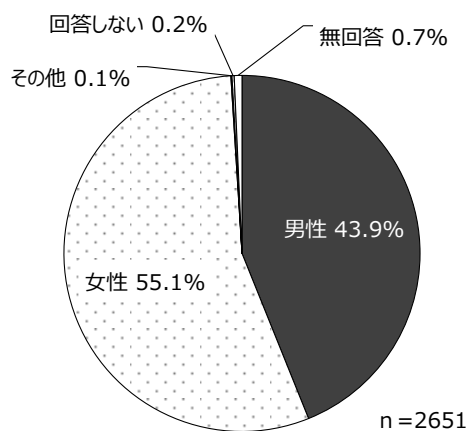


不在の事情	人数
医療機関に入院中	8
福祉施設に入所中	2
転居	2
死亡	0
その他	39
上記に該当しない	2,600
合計	2,651

1 一般高齢者+介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

問1 性別を教えてください。

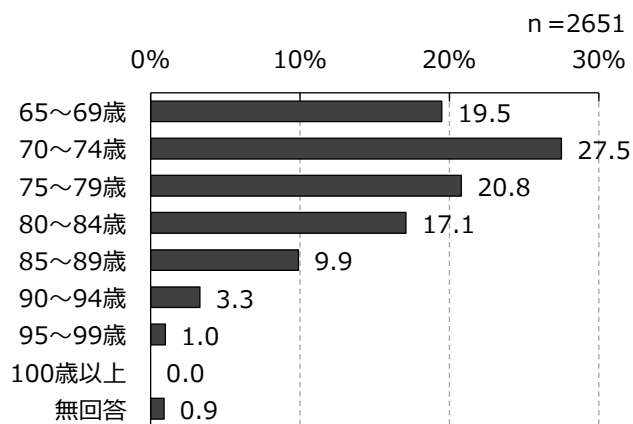
【図表 3】性別



性別	人数
男性	1,164
女性	1,461
その他	3
回答しない	4
無回答	19
合計	2,651

問2 年齢をご記入ください。

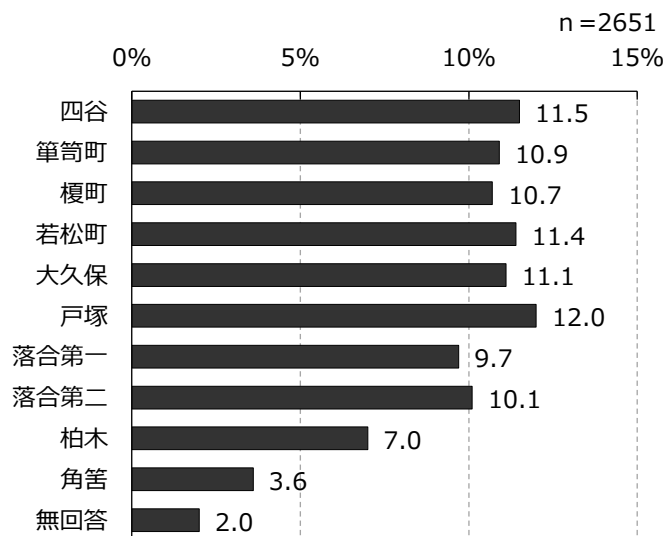
【図表 4】年齢



年齢	人数
65～69歳	517
70～74歳	728
75～79歳	551
80～84歳	453
85～89歳	262
90～94歳	88
95～99歳	26
100歳以上	1
無回答	25
合計	2,651

問3 あなたのお住まいは、どの特別出張所管内ですか。

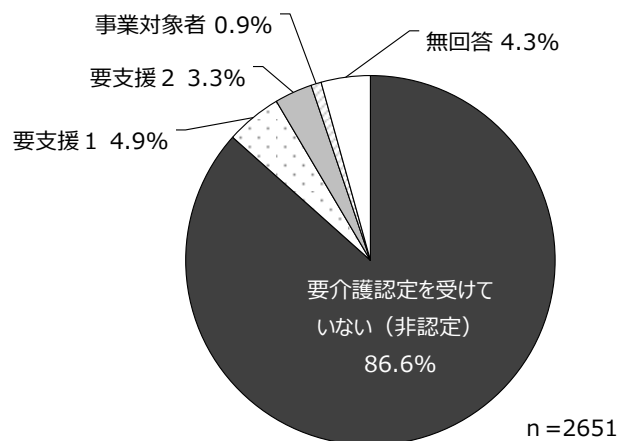
【図表5】居住地域



居住地域	人数
四谷	306
箆笥町	288
榎町	283
若松町	303
大久保	294
戸塚	317
落合第一	257
落合第二	268
柏木	186
角筈	96
無回答	53
合計	2,651

問4 あなたの現在の状態は、次のうちどれですか。

【図表6】現在の状態



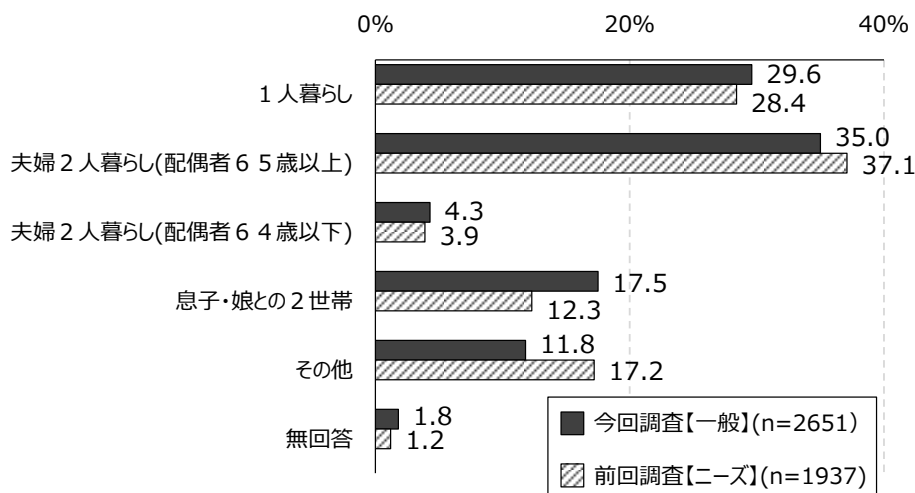
現在の状態	人数
要介護認定(非認定)	2,296
要支援1	129
要支援2	88
事業対象者	23
無回答	115
合計	2,651

## あなたのご家族や生活状況について

### 問5 家族構成を教えてください。

家族構成については、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が35.0%と最も多く、次いで「1人暮らし」が29.6%、「息子・娘との2世帯」が17.5%となっている。

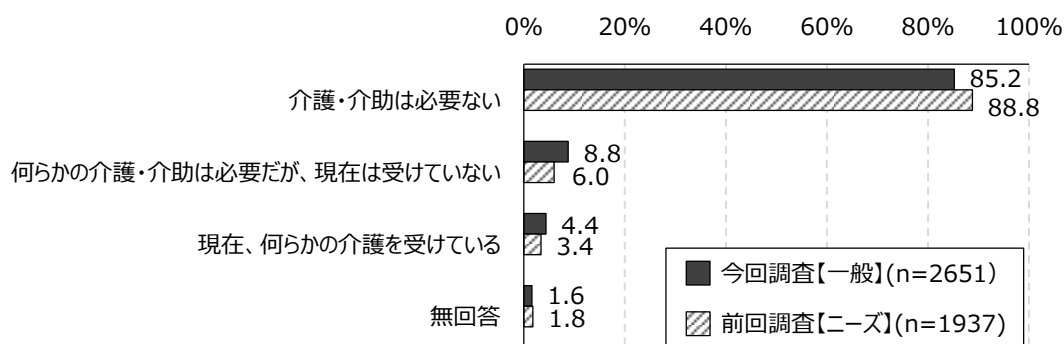
【図表 7】 家族構成〈前回比較〉



### 問6 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

普段の生活で介護・介助が必要かについては、「介護・介助は必要ない」が85.2%と最も多く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が8.8%、「現在、何らかの介護を受けている」が4.4%となっている。

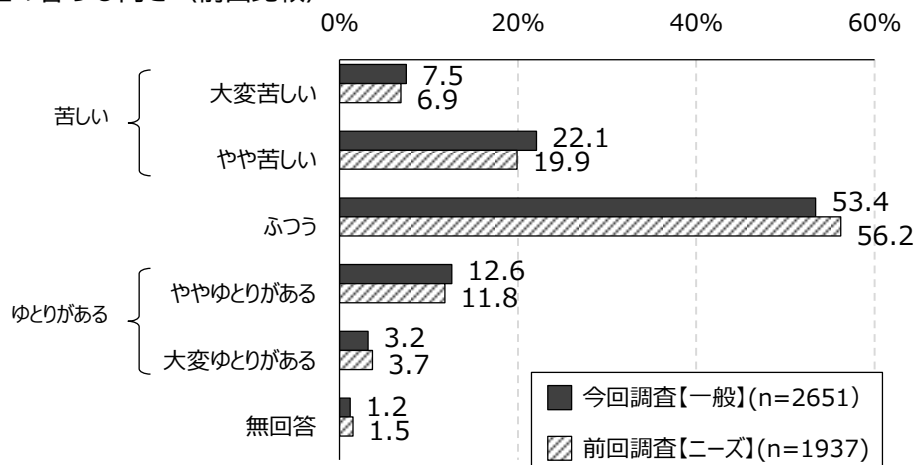
【図表 8】 普段の生活での介護・介助の必要性〈前回比較〉



### 問7 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。

現在の暮らしの経済的な状況については、「ふつう」が53.4%と最も多く、「大変苦しい」(7.5%)と「やや苦しい」(22.1%)を合わせた“苦しい”は29.6%となっている。一方、「ややゆとりがある」(12.6%)と「大変ゆとりがある」(3.2%)を合わせた“ゆとりがある”は15.8%となっている。

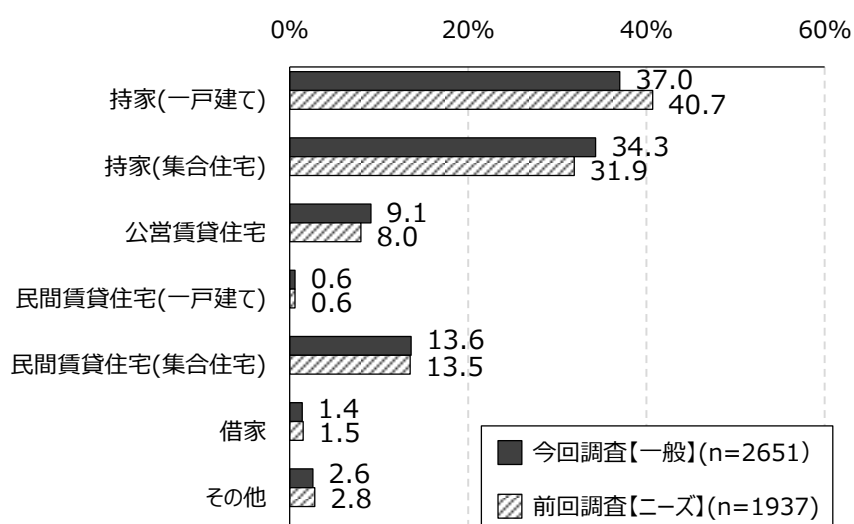
【図表9】現在の暮らし向き〈前回比較〉



### 問8 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。

住まいについては、「持家（一戸建て）」が37.0%と最も多く、次いで「持家（集合住宅）」が34.3%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が13.6%となっている。

【図表10】住居の形態〈前回比較〉



## からだを動かすことについて

問9 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。

問10 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。

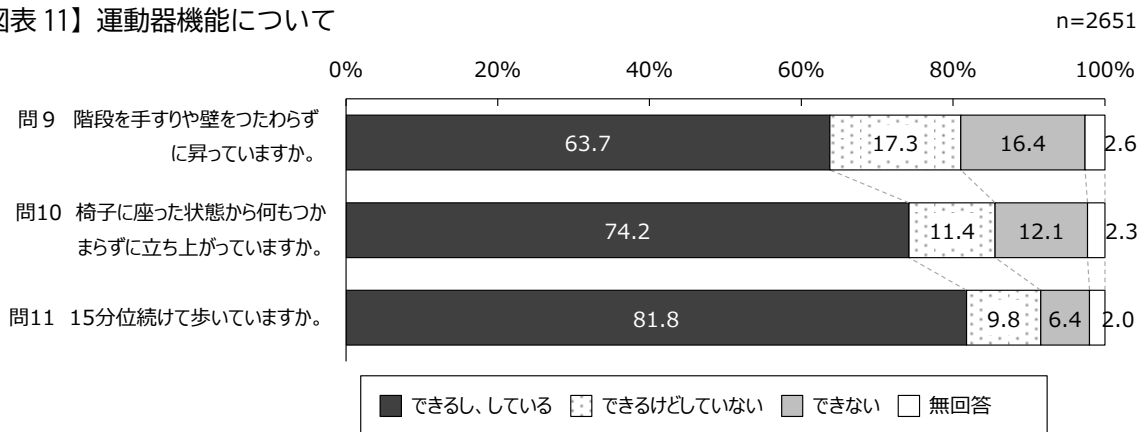
問11 15分位続けて歩いていますか。

階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかでは、「できるし、している」が63.7%となっている。

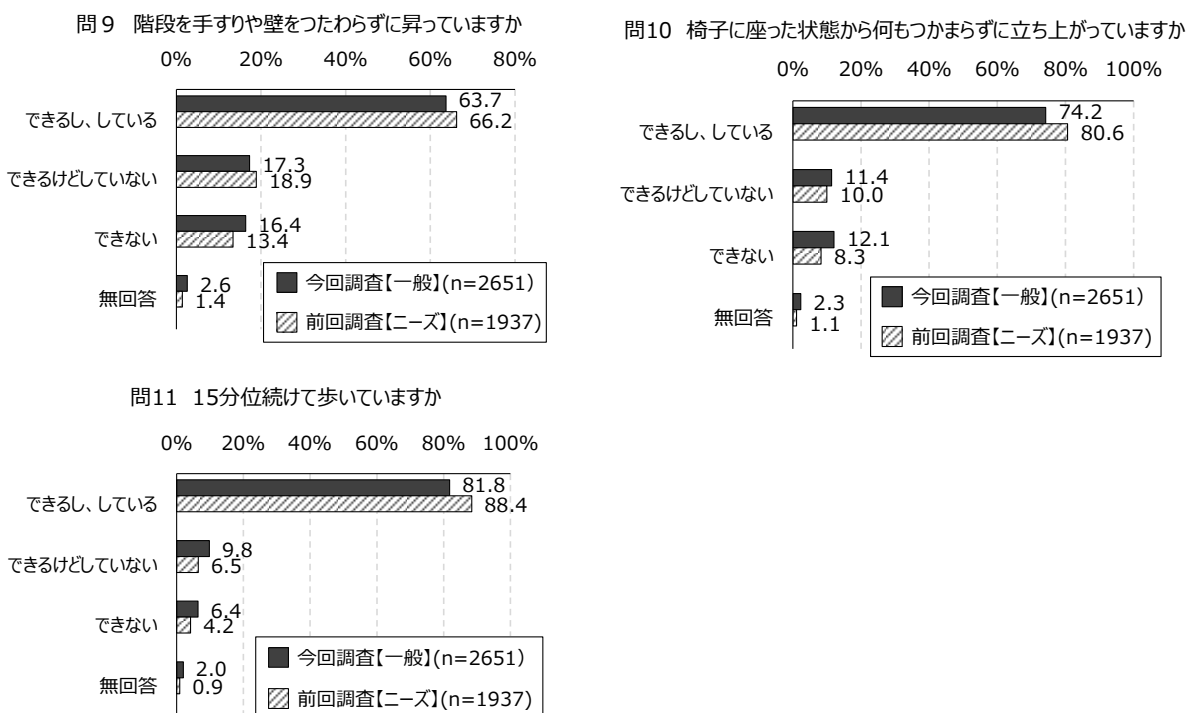
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかでは、「できるし、している」が74.2%となっている。

15分位続けて歩いているかでは、「できるし、している」が81.8%となっている。

【図表 11】 運動器機能について



【図表 12】 運動器機能について <前回比較>





## ◆各種リスクの状況

厚生労働省の『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き』において、リスク把握の考え方を示された項目について、各種リスクの状況を以下に示す。  
なお、各種リスクの状況については、標本数の多寡があるため、参考としての掲載とする。

## ■運動器機能の低下している高齢者割合

問9 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか（「できない」）

問10 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか（「できない」）

問11 15分位続けて歩いていますか（「できない」）

問12 過去1年間に転んだ経験がありますか（「何度もある」「1度ある」）

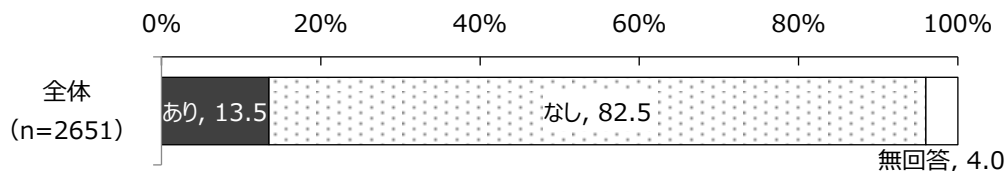
問13 転倒に対する不安は大きいですか（「とても不安である」「やや不安である」）

※上記5つの設問のうち、3問以上で機能低下に該当する選択肢（上記のカッコ内部分の選択肢）と回答している場合に「運動器機能の低下あり」と判定。

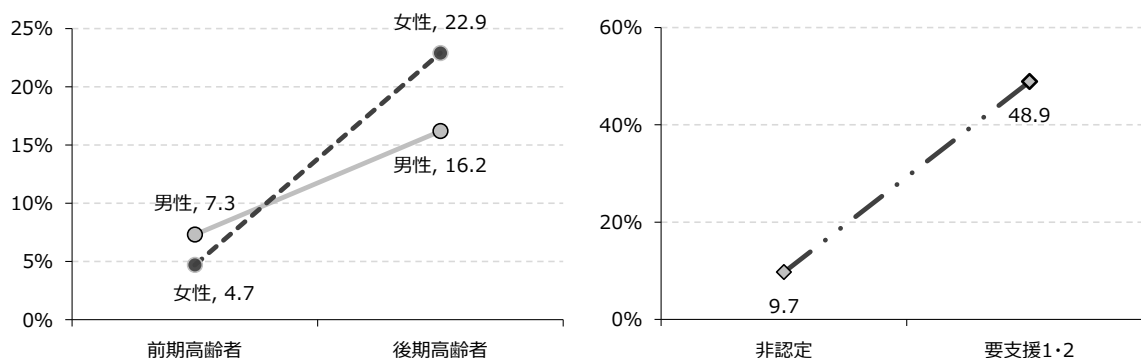
運動器機能の低下している高齢者割合の全体平均は13.5%で、性・年齢別でみると、前期高齢者では性別に大きな差異はみられないが、後期高齢者では女性が男性よりも6.7ポイント高く、女性は前期高齢者と後期高齢者間の増加の度合いが大きい。

認定状況別でみると、非認定で9.7%、要支援1・2で48.9%となっている。

【図表13】運動器機能の低下している高齢者割合



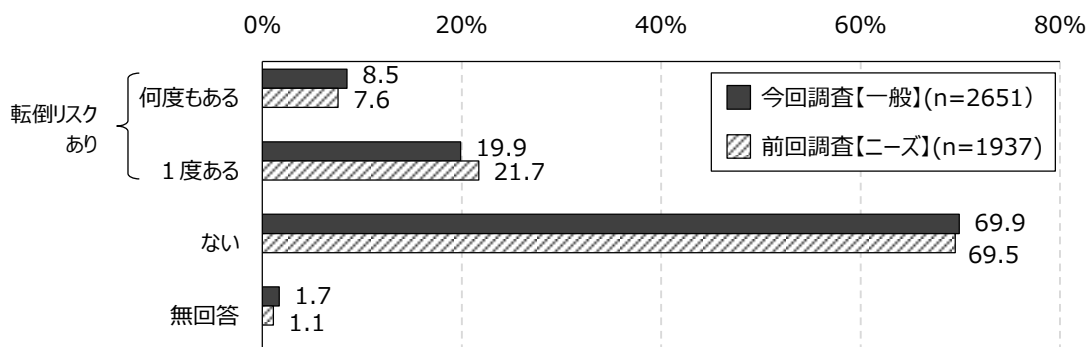
【図表14】運動器機能の低下している高齢者割合〈性・年齢別／認定状況別〉



問12 過去1年間に転んだ経験がありますか。

過去1年間に転んだ経験について、「何度もある」(8.5%)と「1度ある」(19.9%)を合わせた“転倒リスクあり”は28.4%となっている。

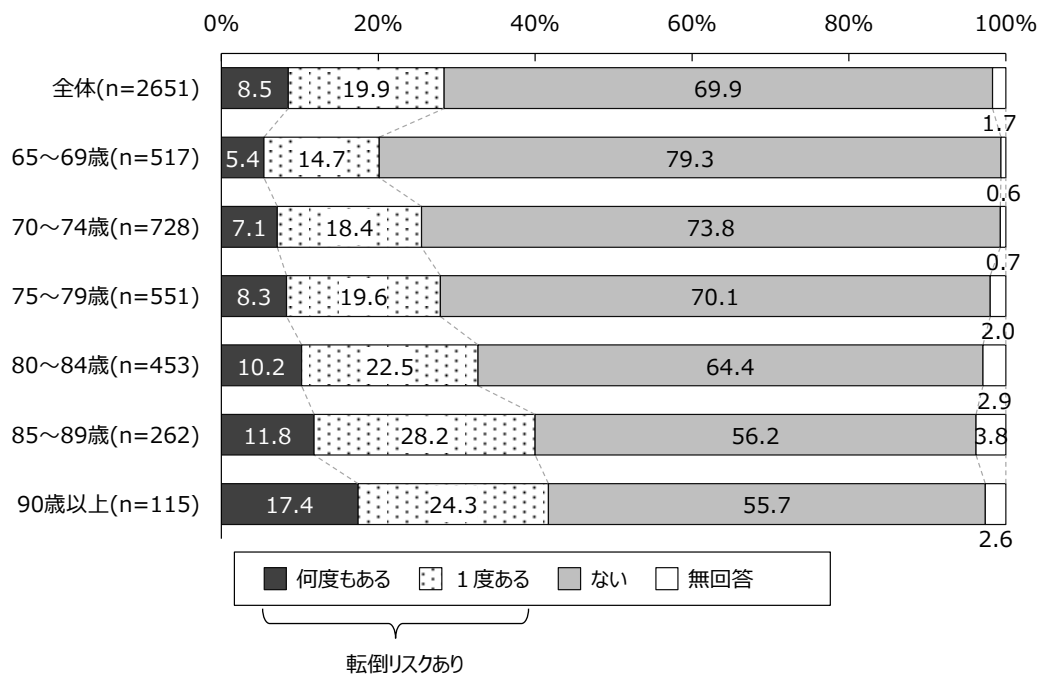
【図表 15】 過去1年間に転んだ経験〈前回比較〉



■過去1年間に転んだ経験〈年齢別〉

過去1年間に転んだ経験について、年齢別にみると年齢が上がるにつれて“転倒リスクあり”の割合が高くなっている。

【図表 16】 過去1年間に転んだ経験〈年齢別〉



◆各種リスクの状況

■転倒リスクのある高齢者割合

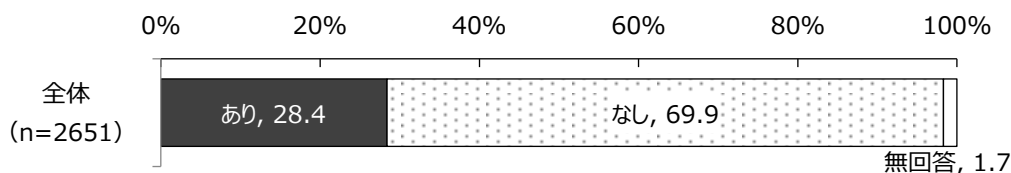
問 12 過去1年間に転んだ経験がありますか（「何度もある」「1度ある」）

※過去1年間の転倒経験で、「何度もある」、「1度ある」と回答している場合、転倒リスクのある高齢者と判定。

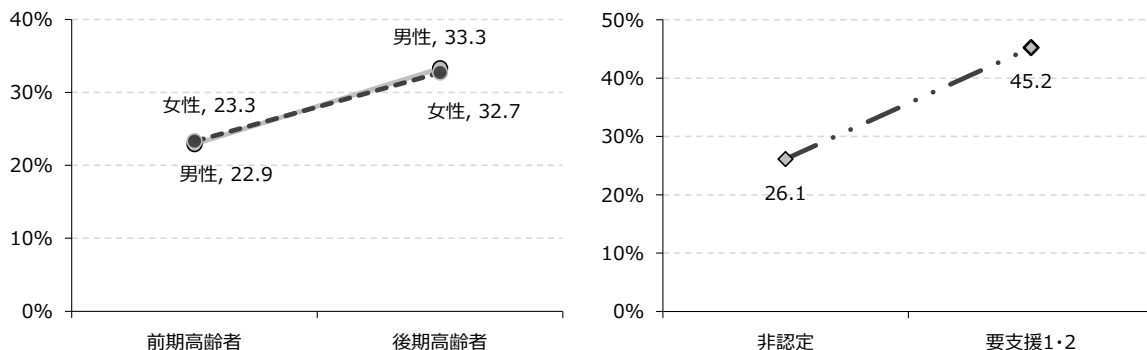
転倒リスクのある高齢者割合の全体平均は28.4%で、性・年齢別で見ると、前期高齢者、後期高齢者ともに性別による大きな差異はみられない。また、前期高齢者と後期高齢者間の増加の度合いでも性別で大きな差異はみられない。

認定状況別で見ると、非認定で26.1%、要支援1・2で45.2%となっている。

【図表 17】 転倒リスクのある高齢者割合



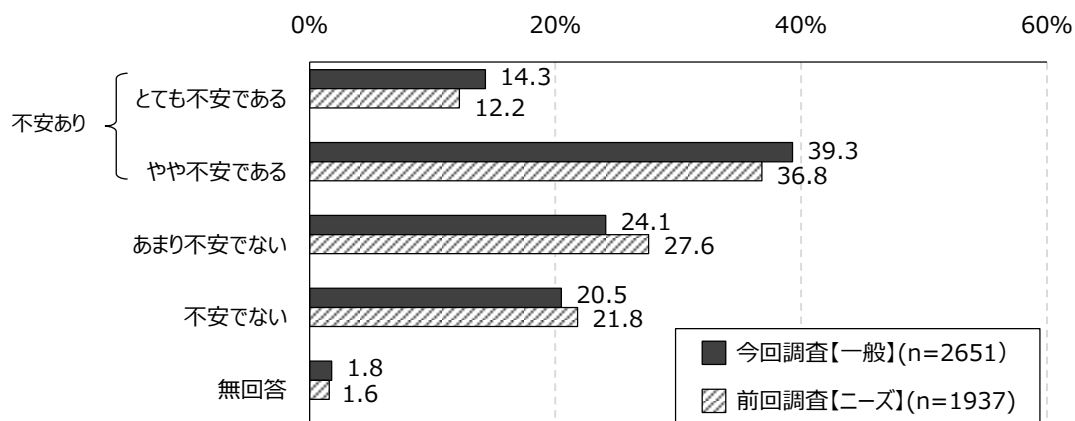
【図表 18】 転倒リスクのある高齢者割合〈性・年齢別／認定状況別〉



問13 転倒に対する不安は大きいですか。

転倒に対する不安について、「とても不安である」(14.3%)と「やや不安である」(39.3%)を合わせた“不安あり”は53.6%となっている。

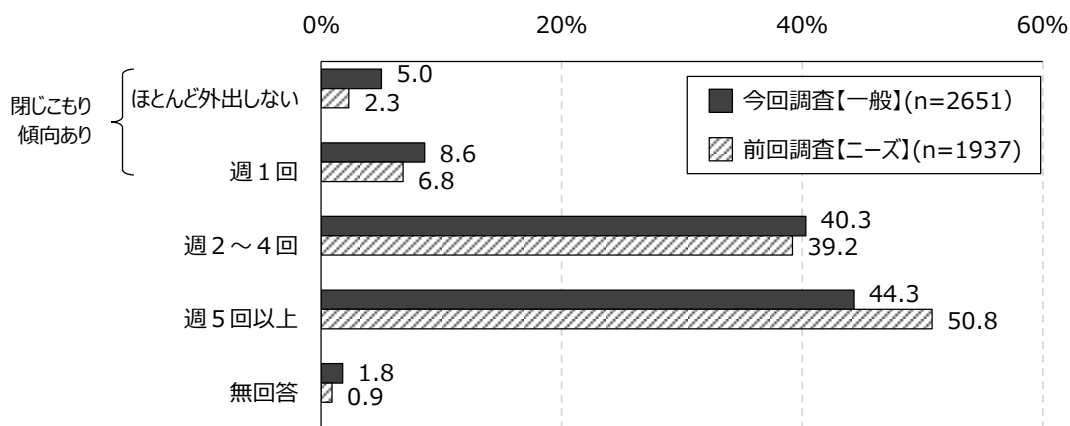
【図表 19】 転倒に対する不安〈前回比較〉



問14 週に1回以上は外出していますか。

1週間の外出頻度について、「週5回以上」が44.3%と最も多く、次いで「週2～4回」が40.3%、「週1回」が8.6%となっている。

【図表 20】 週1回以上の外出〈前回比較〉



## ◆各種リスクの状況

## ■閉じこもり傾向のある高齢者割合

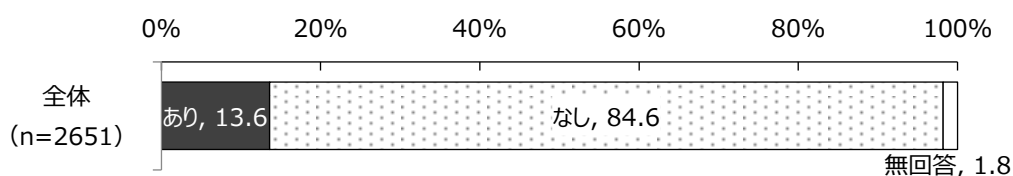
問 14 週に1回以上は外出していますか（「ほとんど外出しない」「週1回」）

※1週間の外出状況で「ほとんど外出しない」、「週1回」と回答している場合に、閉じこもり傾向のある高齢者と判定。

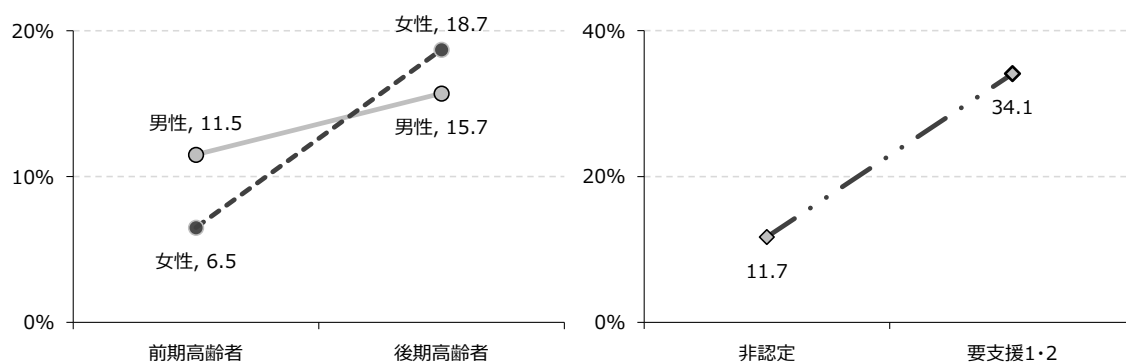
閉じこもり傾向のある高齢者割合の全体平均は13.6%で、性・年齢別で見ると、前期高齢者では女性が男性よりも5ポイント低く、後期高齢者では女性が男性よりも3ポイント高くなっている。女性は前期高齢者と後期高齢者間の増加の度合いが大きい。

認定状況別で見ると、非認定で11.7%、要支援1・2で34.1%となっている。

【図表 21】閉じこもり傾向のある高齢者割合



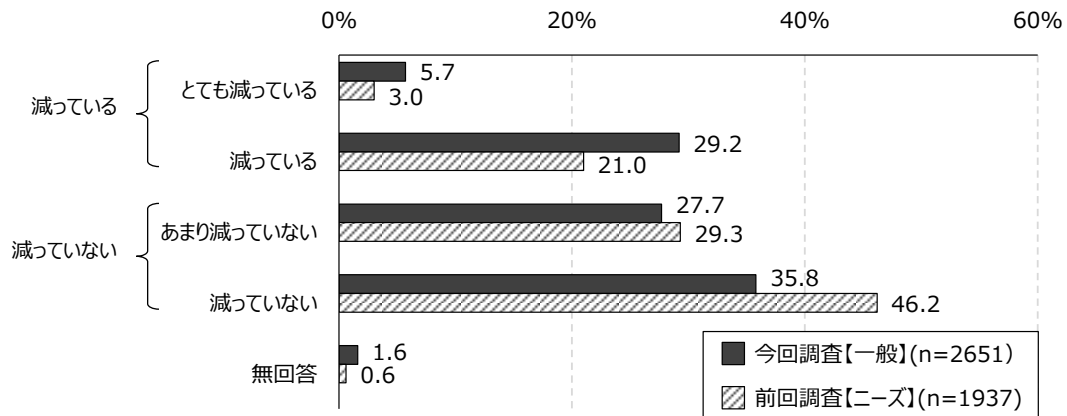
【図表 22】閉じこもり傾向のある高齢者割合〈性・年齢別／認定状況別〉



問15 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。

昨年と比較して外出回数が減っているかについて、「とても減っている」(5.7%)と「減っている」(29.2%)を合わせた”減っている“は34.9%となっている。一方、「あまり減っていない」(27.7%)と「減っていない」(35.8%)を合わせた”減っていない“は63.5%となっている。

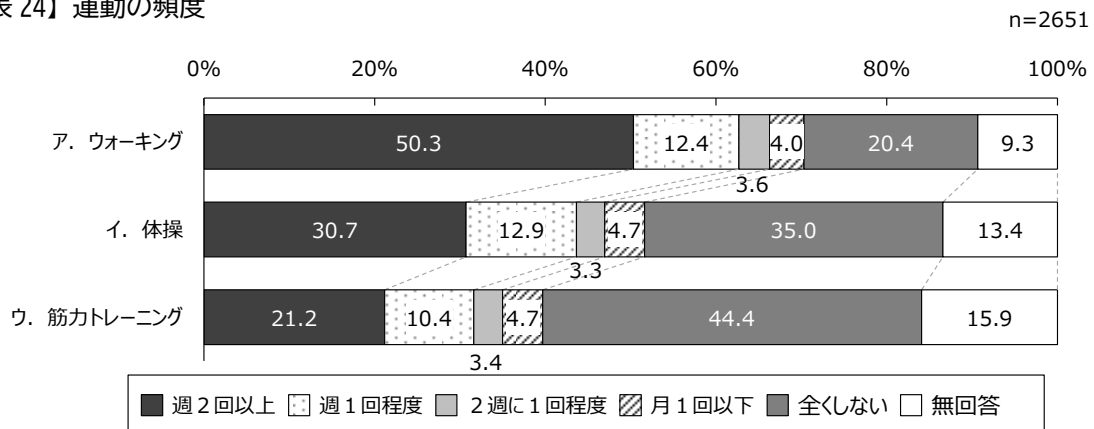
【図表 23】 昨年と比較した外出回数〈前回比較〉



問16 あなたは以下の運動をそれぞれどのくらいの頻度でしていますか。

運動の頻度について、ア.ウォーキングでは、「週2回以上」が50.3%と最も多くなっている。イ.体操では、「週2回以上」が30.7%となっており、「全くしない」が35.0%となっている。ウ.筋力トレーニングでは、「週2回以上」が21.2%となっており、「全くしない」が44.4%となっている。

【図表 24】 運動の頻度

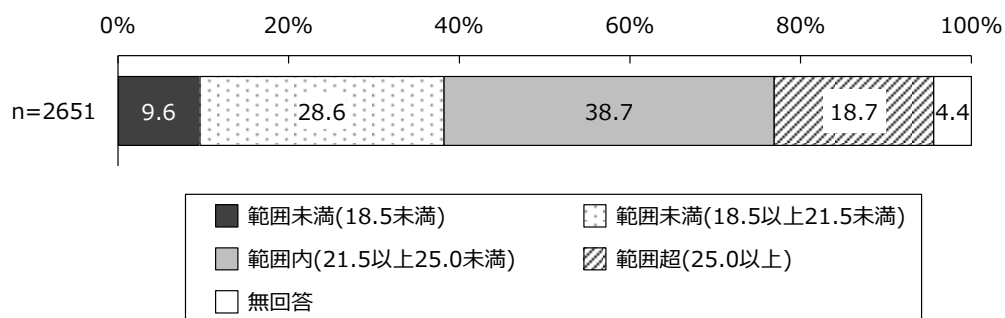


## 食べることについて

### 問17 身長・体重を教えてください。(BMI)

身長と体重からBMIを算出し目標とするBMIの範囲の分布をみると、「範囲内(21.5以上25.0未満)」が38.7%と最も多く、次いで「範囲未満(18.5以上21.5未満)」が28.6%、「範囲超(25.0以上)」が18.7%となっている。

【図表 25】 BMI



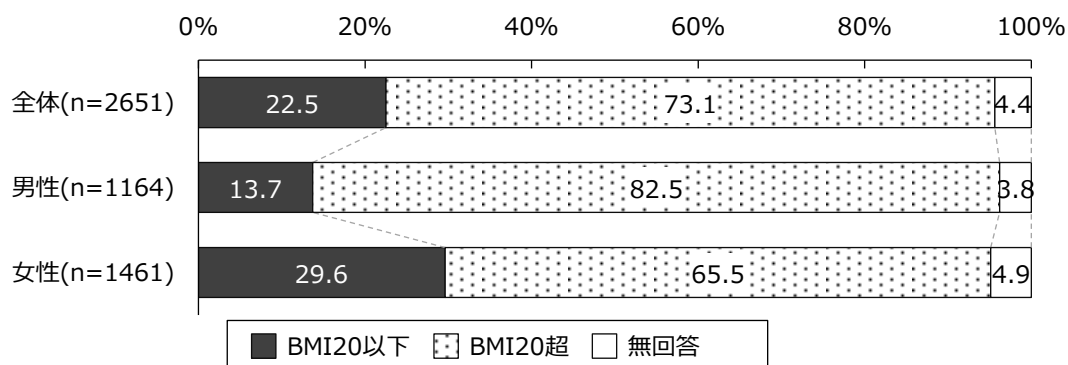
※BMIは体重(kg)÷身長(m)×身長(m)で算出される体重(体格)の指標であり、厚生労働省「日本人の食事摂取基準(2020年版)」策定検討会報告書では、65歳以上の目標とするBMIの範囲を21.5~24.9kg/m<sup>2</sup>としている。

### ■BMI(低栄養傾向BMI≤20)〈性別〉

低栄養傾向と考えられる「BMI20以下」は全体で22.5%となっている。

性別にみると、「BMI20以下」(男性:13.7%・女性:29.6%)は、女性の方が男性よりも15.9ポイント高くなっている。

【図表 26】 BMI(低栄養傾向BMI≤20)〈性別〉

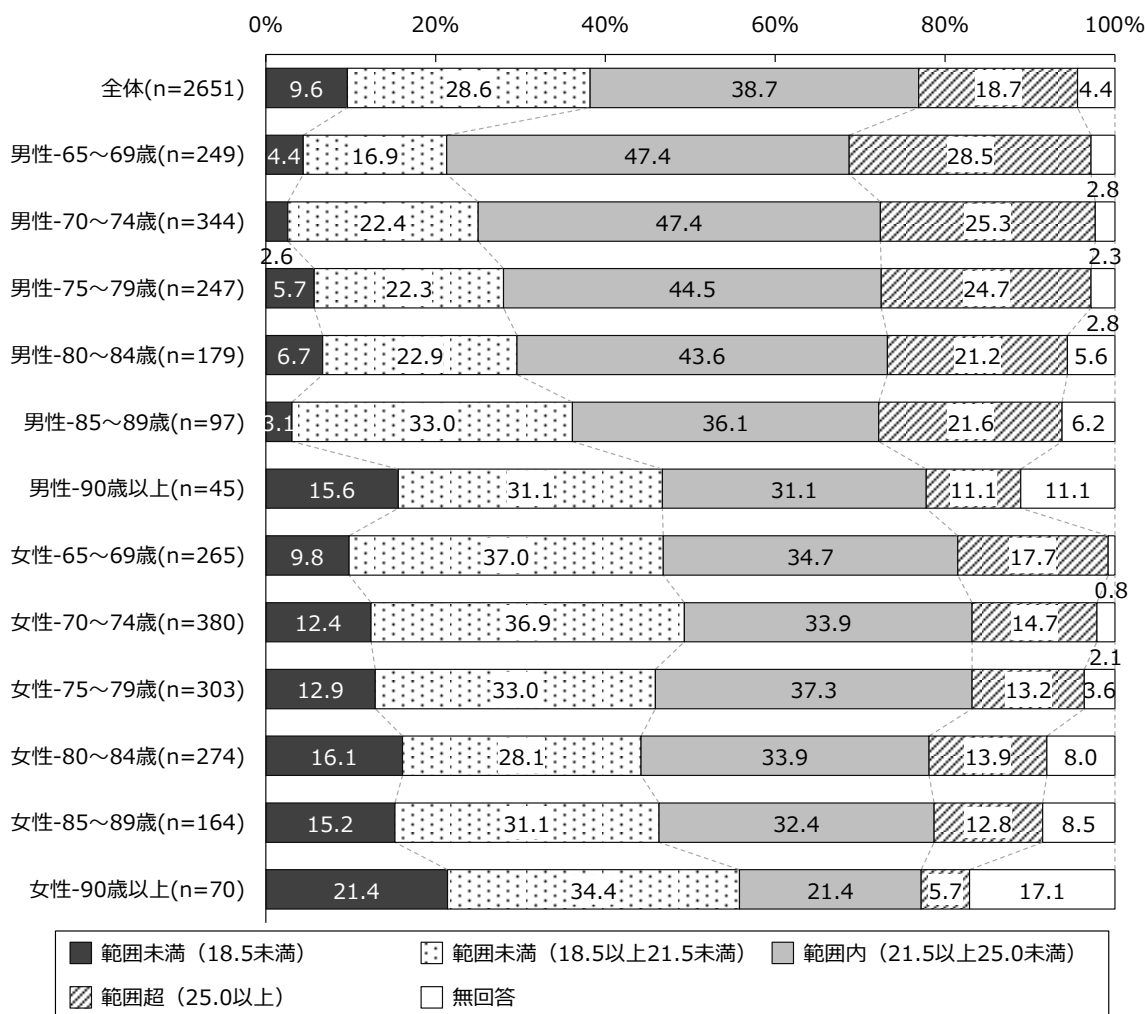


※厚生労働省「健康日本21(第二次)」では、低栄養傾向の基準を、要介護や総死亡リスクが統計学的に優位に高くなるポイントとして示されている「BMI20以下」とし、その割合の増加の抑制を指標として設定している。

■BMI（目標とするBMIの範囲）〈性・年齢別〉

BMIを性・年齢別にみると、年齢にかかわらず「範囲未満（18.5未満）」と「範囲未満（18.5以上21.5未満）」を合わせた割合は男性よりも女性の方が高く、「範囲超（25.0以上）」の割合は女性よりも男性の方が高い。

【図表 27】 BMI（目標とするBMIの範囲）〈性・年齢別〉





問18 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。

問19 お茶や汁物等でむせることがありますか。

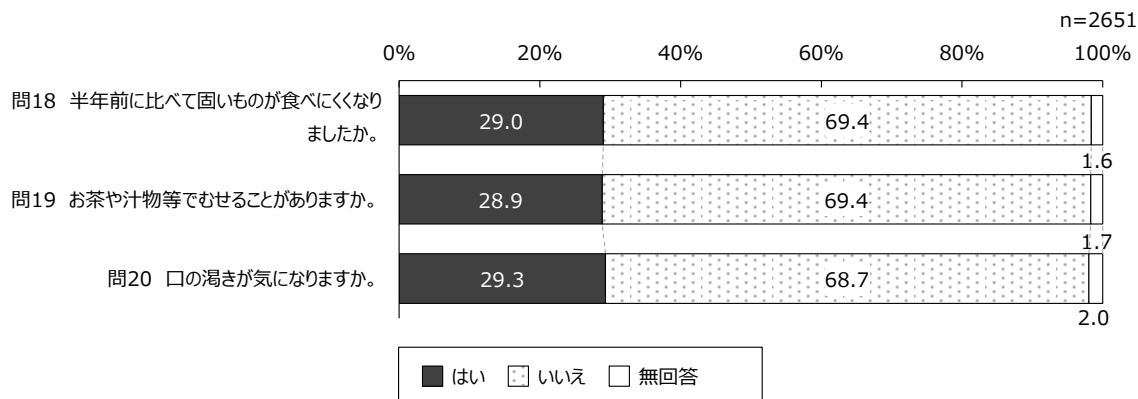
問20 口の渇きが気になりますか。

半年前に比べて固いものが食べにくくなったかでは、「はい」が29.0%、「いいえ」が69.4%となっている。

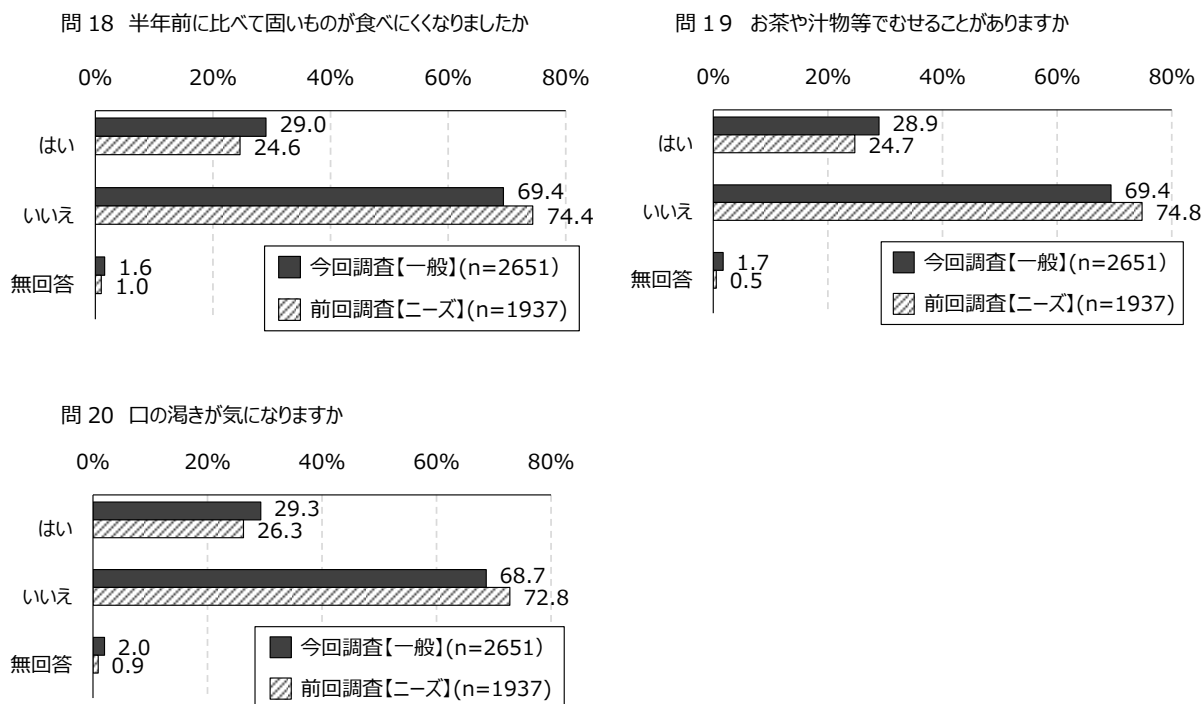
お茶や汁物等でむせることがあるかでは、「はい」が28.9%、「いいえ」が69.4%となっている。

口の渇きが気になるかでは、「はい」が29.3%、「いいえ」が68.7%となっている。

【図表 28】 口腔機能について



【図表 29】 口腔機能について〈前回比較〉



◆各種リスクの状況

■口腔機能が低下している高齢者割合

問 18 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか（「はい」）

問 19 お茶や汁物等でむせることがありますか（「はい」）

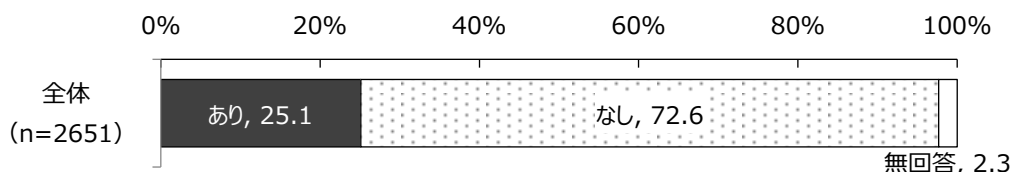
問 20 口の渴きが気になりますか（「はい」）

※「半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか」の設問で「はい」と回答した場合には、「咀嚼機能が低下が疑われる高齢者」と判定。さらに「お茶や汁物等でむせることがありますか」と「口の渴きが気になりますか」を加えた3設問のうち2設問で「はい」と回答した場合に、「口腔機能の低下あり」と判定。

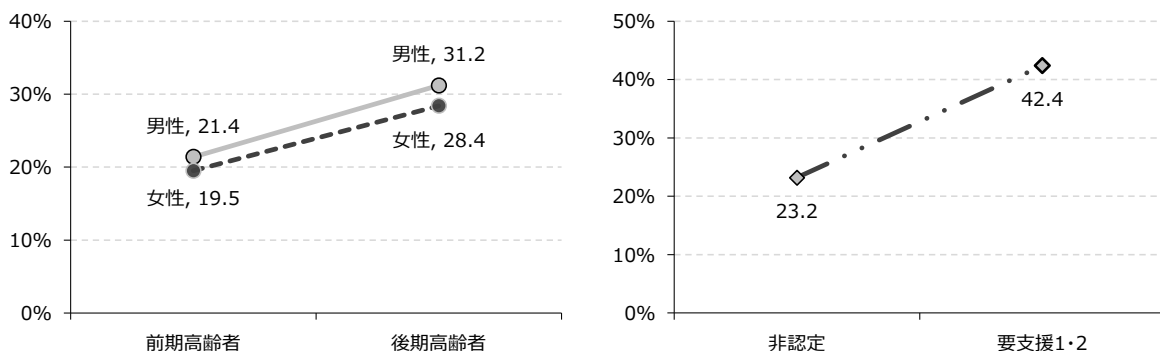
口腔機能が低下している高齢者割合の全体平均は25.1%で、性・年齢別でみると、前期高齢者、後期高齢者ともに男性が女性よりも高いが、前期高齢者と後期高齢者間の増加の度合いに性別で大きな差異はみられない。

認定状況別でみると、非認定で23.2%、要支援1・2で42.4%となっている。

【図表 30】口腔機能が低下している高齢者割合



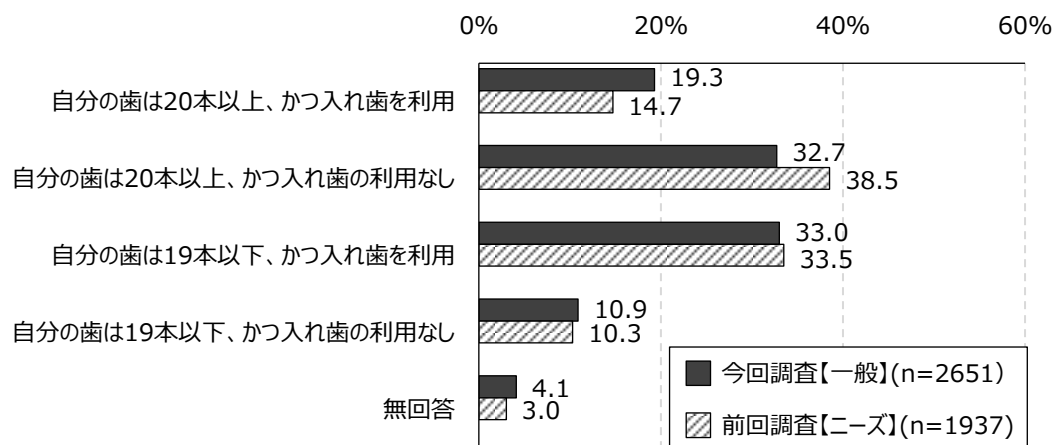
【図表 31】口腔機能が低下している高齢者割合〈性・年齢別／認定状況別〉



### 問21 歯の数と入れ歯の利用状況を教えてください。

歯の数と入れ歯の利用状況については、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が33.0%と最も多く、次いで「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯の利用なし」が32.7%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が19.3%となっている。

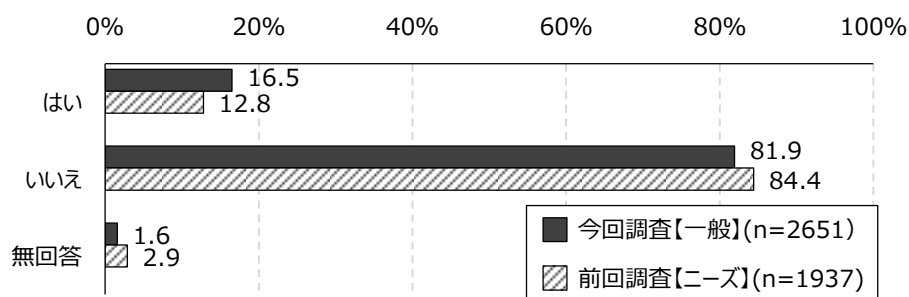
【図表 32】 歯の数と入れ歯の利用状況（前回比較）



### 問22 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。

6か月間で2～3kg以上の体重減少があったかについては、「はい」が16.5%、「いいえ」が81.9%となっている。

【図表 33】 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか（前回比較）



◆各種リスクの状況

■直近6か月間に体重減少を認め、低栄養状態にある高齢者割合

問 17 身長・体重 (BMI (体重 kg ÷ (身長 m × 身長 m)) 18.5 未満)

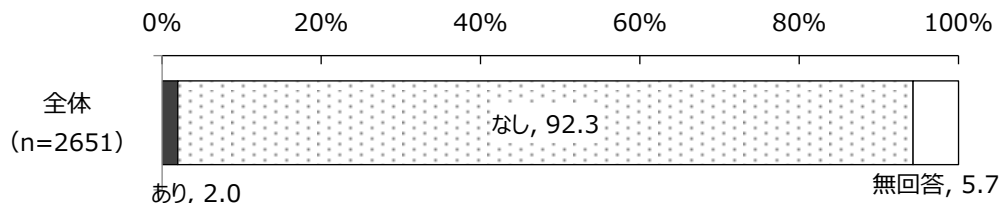
問 22 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか (「はい」)

※身長と体重から算出される BMI (体重 kg ÷ (身長 m × 身長 m)) が、18.5 未満の場合に低栄養が疑われる高齢者となり、かつ、直近の6か月間に2～3kg以上の体重減少があった場合に、「直近6か月間に体重減少を認め、低栄養状態にある」と判定。

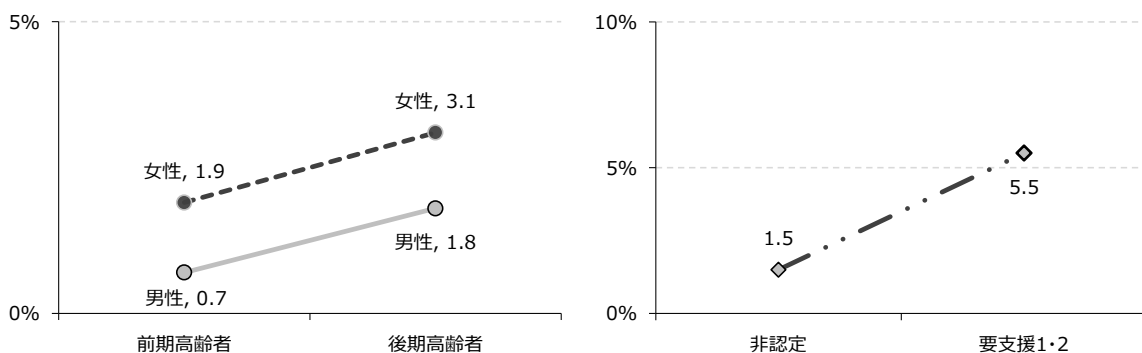
直近6か月間に体重減少を認め、低栄養状態にある高齢者割合の全体平均は2.0%で、性・年齢別でみると、女性が男性よりも高いが、前期高齢者と後期高齢者間の増加の割合に性別で大きな差異はみられない。

認定状況別でみると、非認定で1.5%、要支援1・2で5.5%となっている。

【図表 34】直近6か月間に体重減少を認め、低栄養状態にある高齢者割合



【図表 35】直近6か月間に体重減少を認め、低栄養状態にある高齢者割合  
〈性・年齢別／認定状況別〉

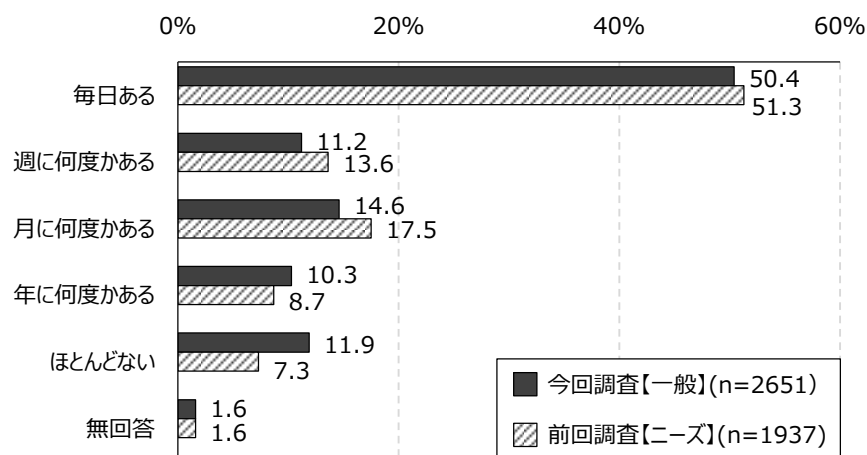


※低栄養傾向 BMI ≤ 20 かつ、直近の6か月間に2～3kg以上の体重減少があった高齢者の割合をみると、全体で4.2%、性・年齢別でみると男性の前期高齢者では1.7%、男性の後期高齢者では5.1%、女性の前期高齢者では4.3%、女性の後期高齢者では5.4%となっている。認定状況別でみると非認定で3.6%、要支援1・2で10.6%となっている。

### 問23 どなたかと食事をともにする機会がありますか。

どなたかと食事をともにする機会の有無については、「毎日ある」が50.4%と最も多く、次いで「月に何度かある」が14.6%、「ほとんどない」が11.9%となっている。

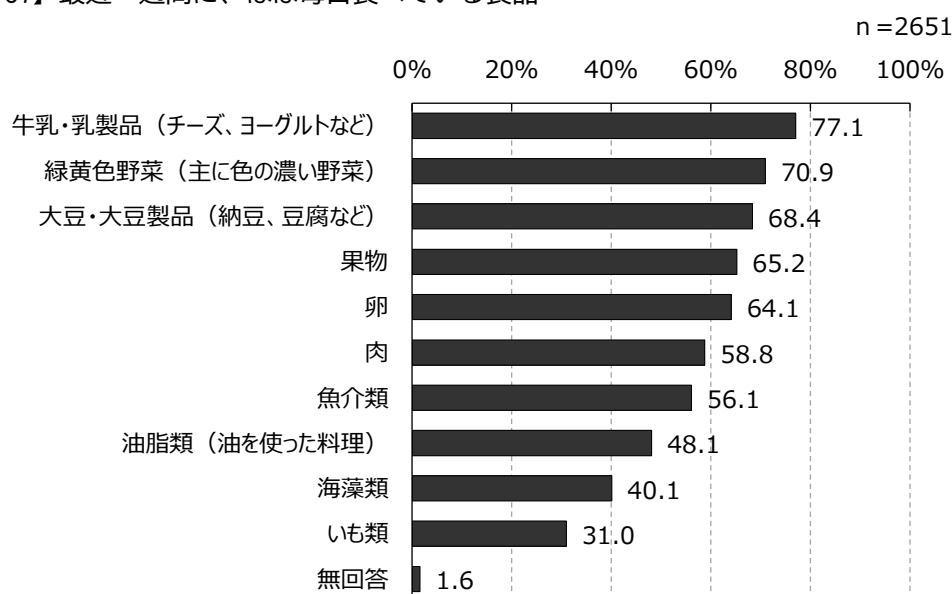
【図表 36】食事をともにする機会の有無〈前回比較〉



### 問24 最近一週間のうち、ほぼ毎日食べている食品に○をしてください。(複数回答)

最近一週間のうち、ほぼ毎日食べている食品については、「牛乳・乳製品（チーズ、ヨーグルトなど）」が77.1%と最も多く、次いで「緑黄色野菜（主に色の濃い野菜）」が70.9%、「大豆・大豆製品（納豆、豆腐など）」が68.4%となっている。

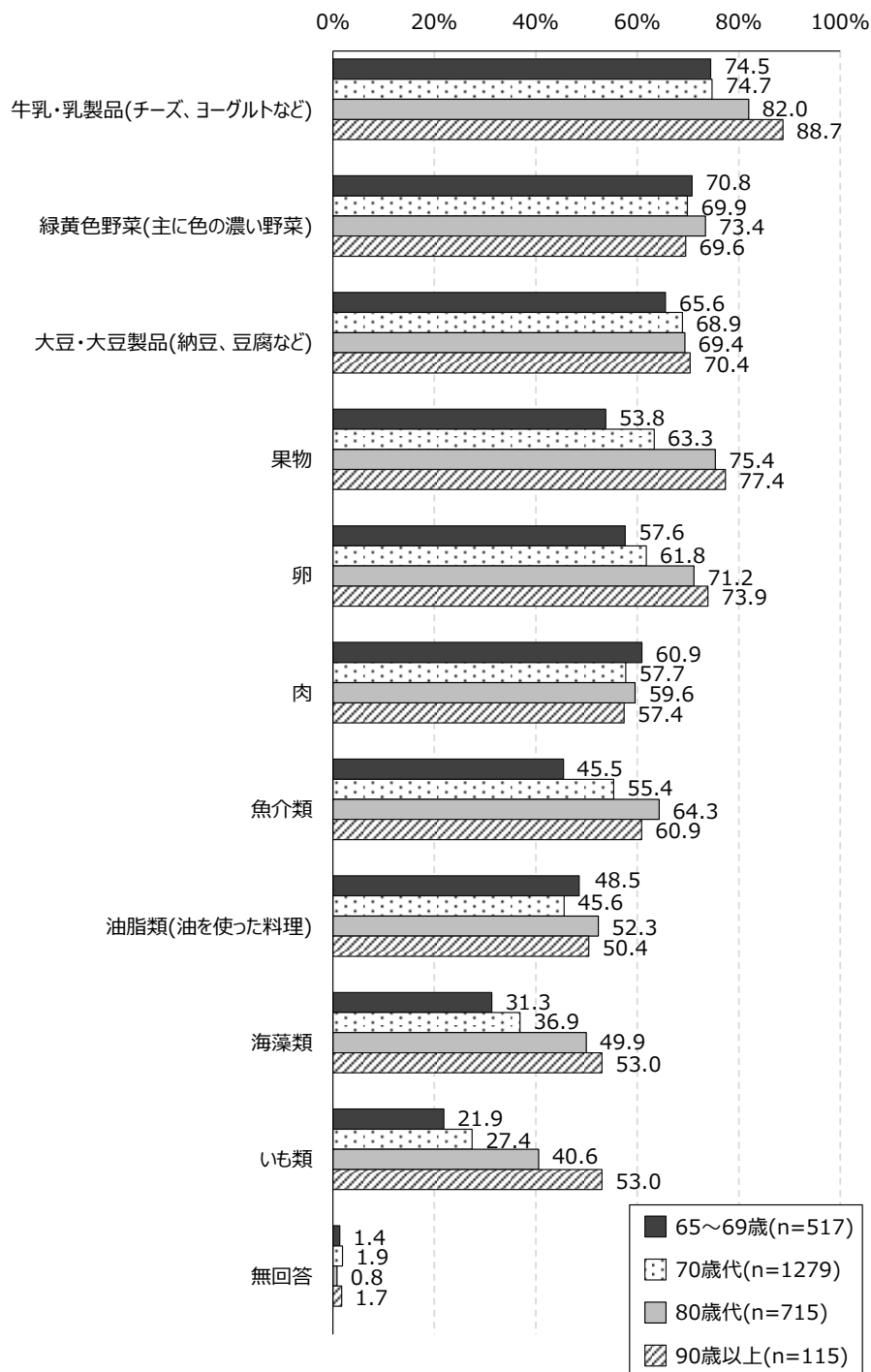
【図表 37】最近一週間に、ほぼ毎日食べている食品



■最近一週間に、ほぼ毎日食べている食品〈年齢別〉

最近一週間のうち、ほぼ毎日食べている食品について年齢別にみると、「牛乳・乳製品」は年齢にかかわらず7割台半ば近くから9割近くが摂取している。また、「牛乳・乳製品」、「果物」、「卵」、「海藻類」、「いも類」は年齢が上がるにつれ摂取している割合が高い傾向がみられる。

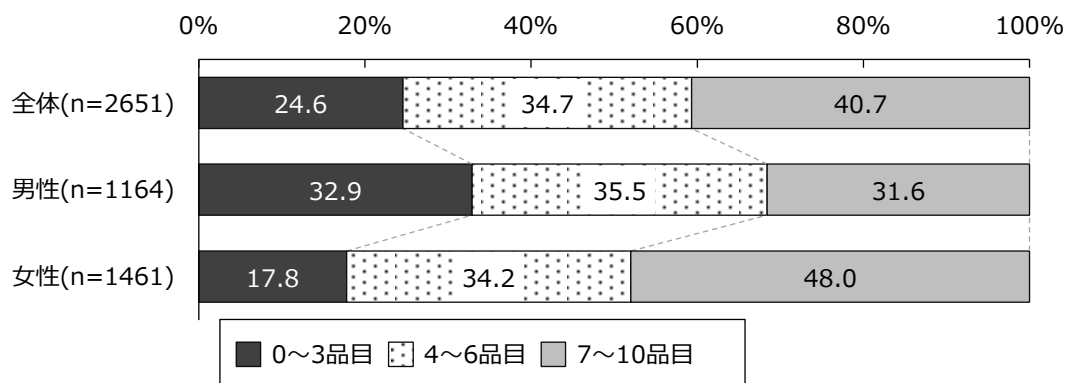
【図表 38】最近一週間に、ほぼ毎日食べている食品 〈年齢別〉



### ■最近一週間に、ほぼ毎日食べている食品数〈性別〉

最近一週間に、ほぼ毎日食べている食品の数を性別で見ると、「7～10品目」の割合は女性の方が男性より高くなっている。

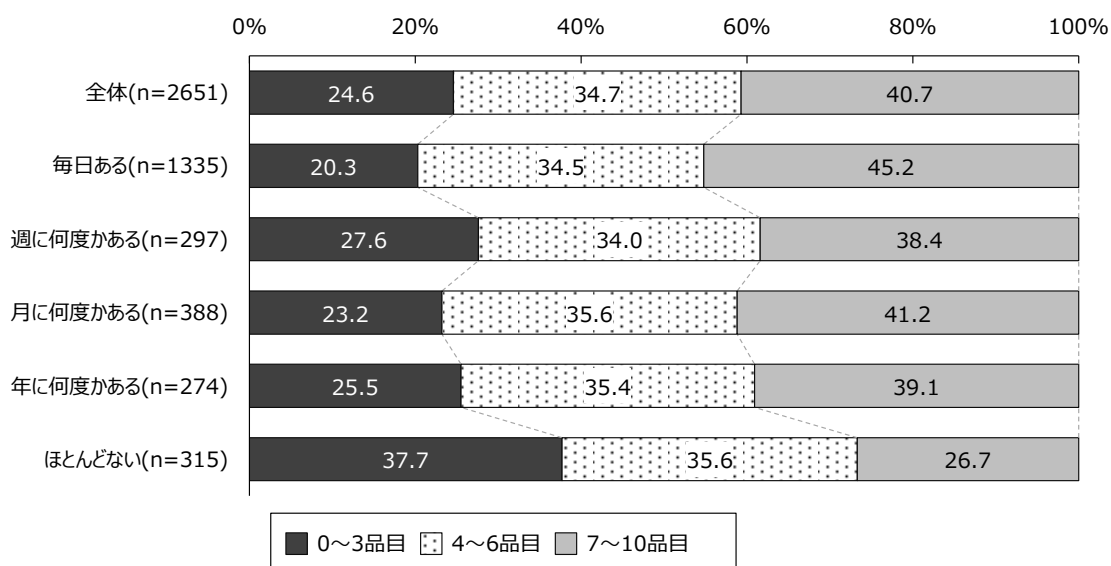
【図表 39】最近一週間に、ほぼ毎日食べている食品数 〈性別〉



### ■最近一週間に、ほぼ毎日食べている食品数〈食事をともにする機会の有無別〉

だれかと食事をともにする機会が多い人ほど、「7～10品目」を摂取している割合が高い傾向がみられる。

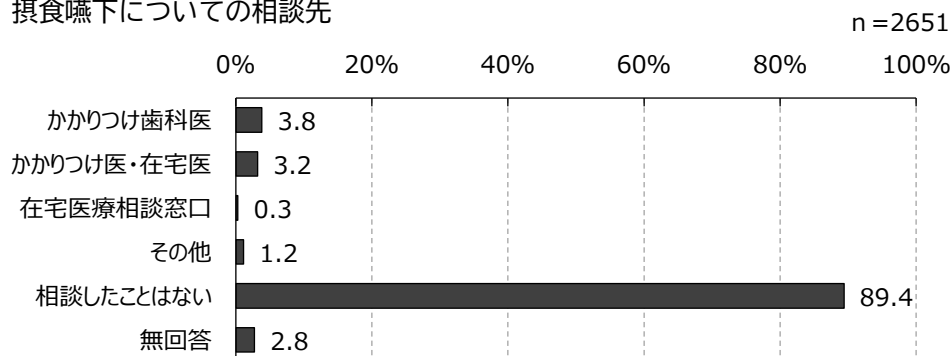
【図表 40】最近一週間に、ほぼ毎日食べている食品数 〈問 23 食事をともにする機会の有無別〉



問25 摂食嚥下(食べたり、飲み込んだりすること)についてどこかに相談したことがありますか。(複数回答)

摂食嚥下についてどこかに相談したことがあるかについては、「相談したことはない」が89.4%と最も多く、次いで「かかりつけ歯科医」が3.8%、「かかりつけ医・在宅医」が3.2%となっている。

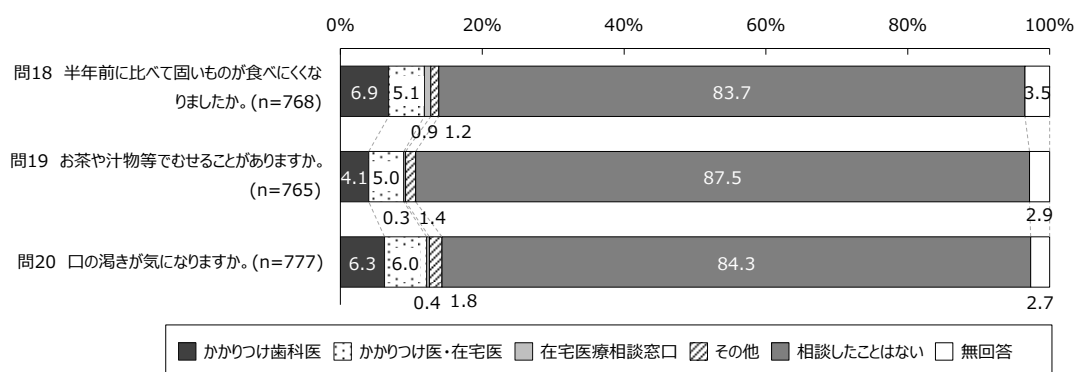
【図表 41】 摂食嚥下についての相談先



■ 摂食嚥下についての相談先<口腔機能別>

摂食嚥下についての相談先を口腔機能別にみると、いずれも『はい』と回答した人のうち「相談したことはない」の割合が8割を超えている。

【図表 42】 摂食嚥下についての相談先 <問 18~20 口腔機能の設問で「はい」と回答した人別>





## 日ごろの生活について

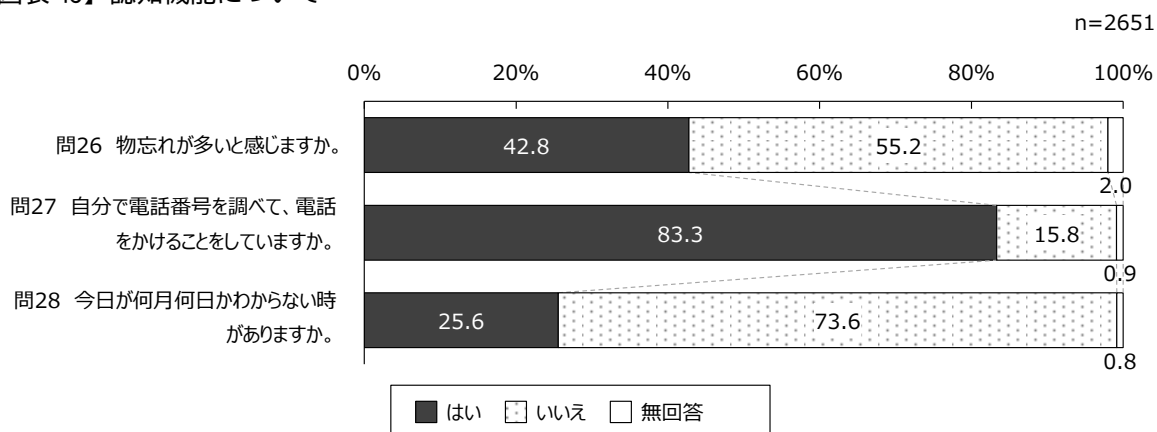
問26 物忘れが多いと感じますか。

問27 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。

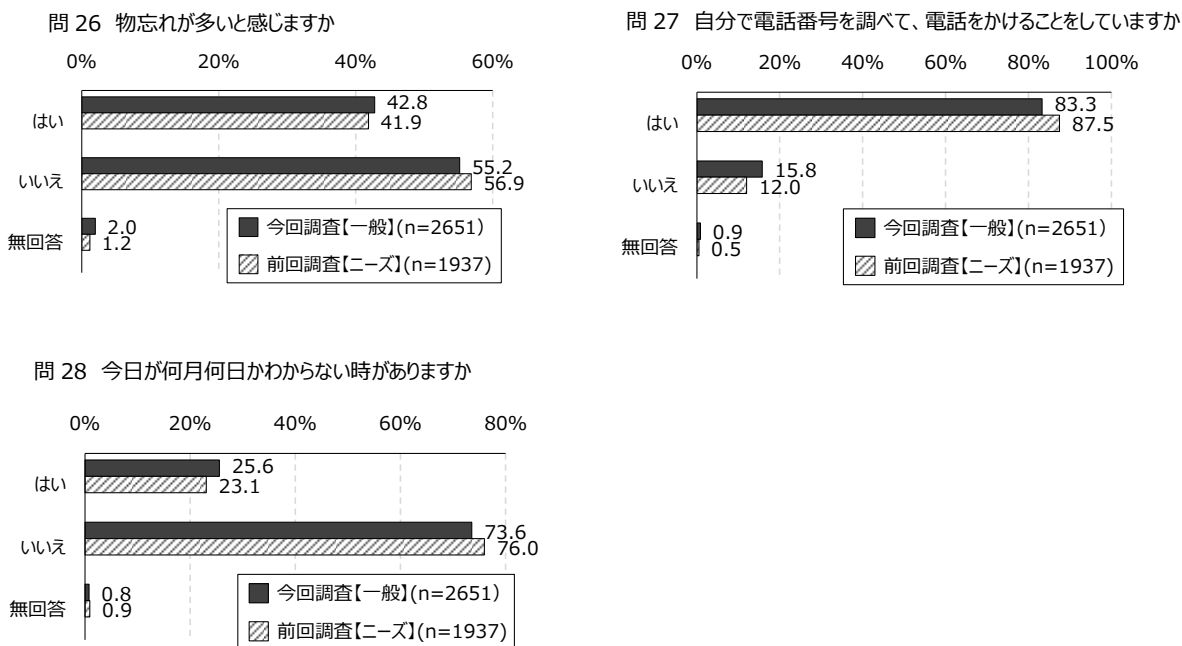
問28 今日が何月何日かわからない時がありますか。

物忘れが多いと感じるかでは、「はい」が42.8%、「いいえ」が55.2%となっている。自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしているかでは、「はい」が83.3%、「いいえ」が15.8%となっている。今日が何月何日かわからない時があるかでは、「はい」が25.6%、「いいえ」が73.6%となっている。

【図表 43】 認知機能について



【図表 44】 認知機能について <前回比較>



◆各種リスクの状況

■認知機能が低下している高齢者割合

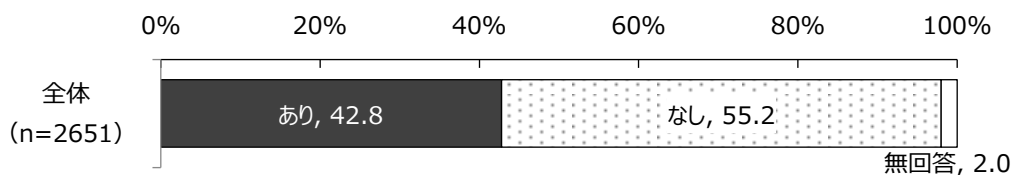
問 26 物忘れが多いと感じますか（「はい」）

※認知機能については、「はい」と回答している場合に、「認知機能の低下あり」と判定。

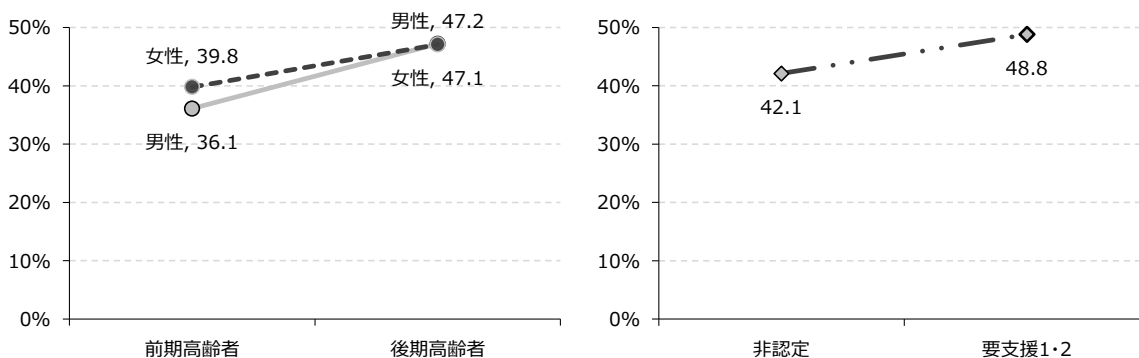
認知機能が低下している高齢者割合の全体平均は42.8%で、性・年齢別で見ると、女性は前期高齢者で男性よりも3.7ポイント高いが、後期高齢者では大きな差異はみられない。男性は前期高齢者と後期高齢者間の増加の度合いが女性よりも大きい。

認定状況別で見ると、非認定で42.1%、要支援1・2で48.8%となっている。

【図表 45】 認知機能が低下している高齢者割合



【図表 46】 認知機能が低下している高齢者割合〈性・年齢別／認定状況別〉



問29 バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可)

問30 自分で食品・日用品の買物をしていますか。

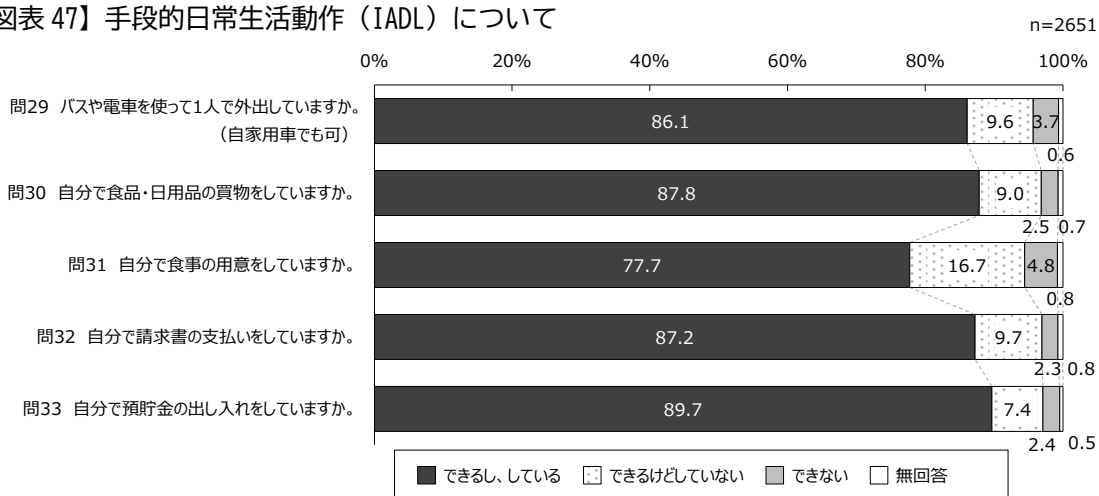
問31 自分で食事の用意をしていますか。

問32 自分で請求書の支払いをしていますか。

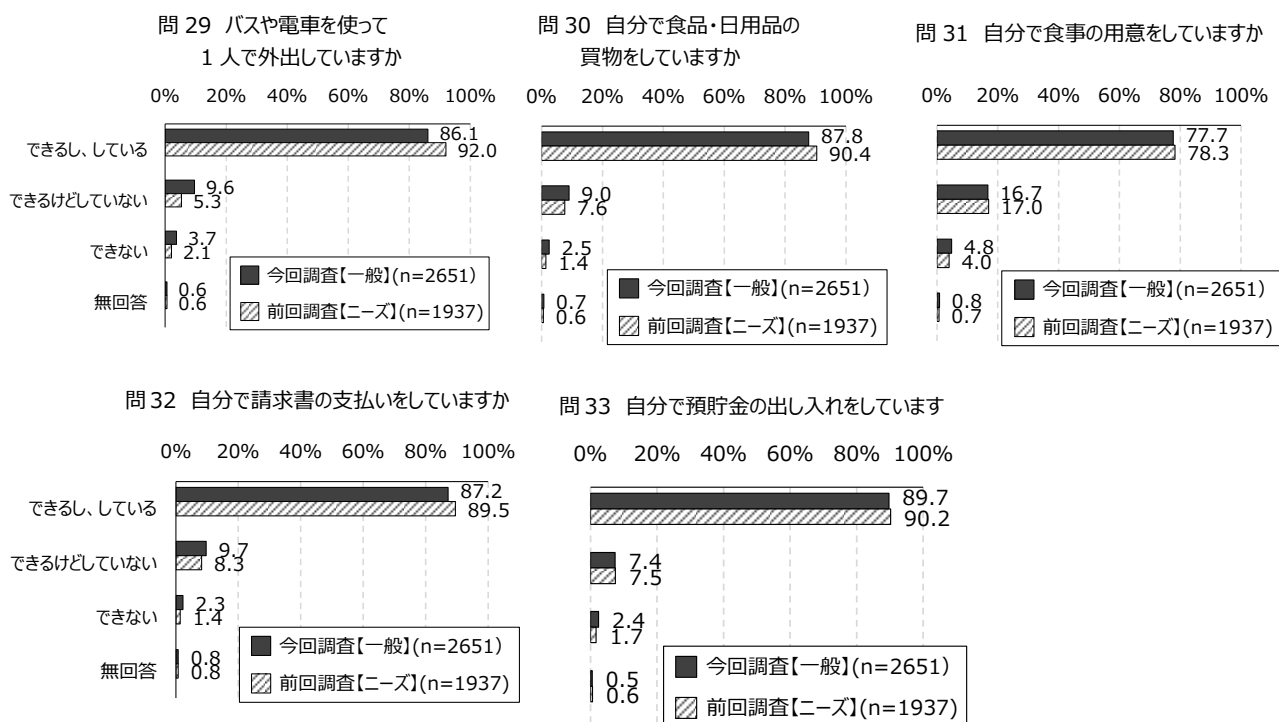
問33 自分で預貯金の出し入れをしていますか。

バスや電車を使って1人で外出しているかでは、「できるし、している」が86.1%となっている。自分で食品・日用品の買物をしているかでは、「できるし、している」が87.8%となっている。自分で食事の用意をしているかでは、「できるし、している」が77.7%となっている。自分で請求書の支払いをしているかでは、「できるし、している」が87.2%となっている。自分で預貯金の出し入れをしているかでは、「できるし、している」が89.7%となっている。

【図表 47】 手段的日常生活動作 (IADL) について



【図表 48】 手段的日常生活動作 (IADL) について <前回比較>



◆各種リスクの状況

■手段的日常生活動作(IADL)が低下している高齢者割合

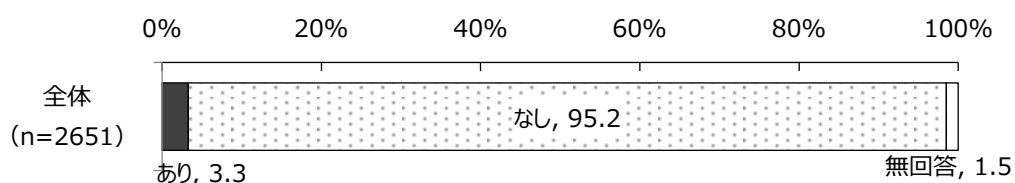
- 問 29 バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）（「できるし、している」「できるけどしていない」）
- 問 30 自分で食品・日用品の買物をしていますか（「できるし、している」「できるけどしていない」）
- 問 31 自分で食事の用意をしていますか（「できるし、している」「できるけどしていない」）
- 問 32 自分で請求書の支払いをしていますか（「できるし、している」「できるけどしていない」）
- 問 33 自分で預貯金の出し入れをしていますか（「できるし、している」「できるけどしていない」）

※各設問について、「できるし、している」か「できるけどしていない」を1点、「できない」を0点と点数化し、5つの設問の合計を判定。判定の区分は5点が「高い」、4点が「やや低い」、0～3点が「低い」となり、「3点以下」は『IADLが低下している高齢者』と判定。

手段的日常生活動作(IADL)が低下している高齢者割合の全体平均は3.3%で、性・年齢別で見ると、前期高齢者、後期高齢者ともに性別による大きな差異はみられない。また、前期高齢者と後期高齢者間の増加の度合いでも性別で大きな差異はみられない。

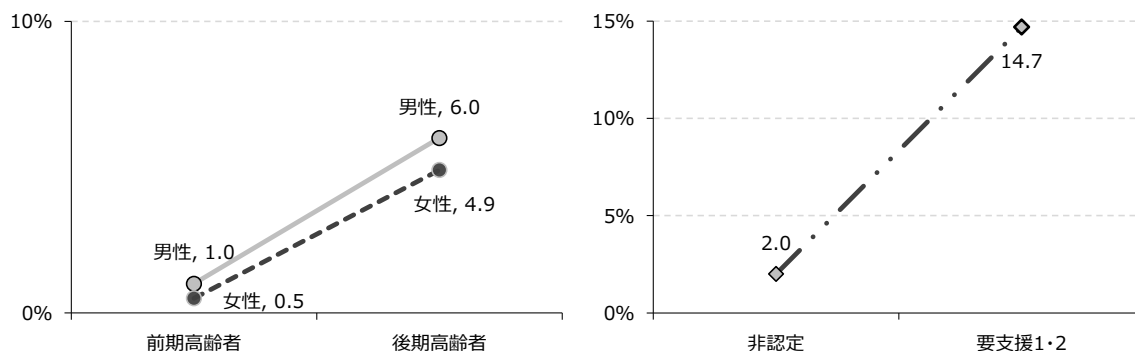
認定状況別で見ると、非認定で2.0%、要支援1・2で14.7%となっている。

【図表 49】手段的日常生活動作(IADL)が低下している高齢者割合



【図表 50】手段的日常生活動作(IADL)が低下している高齢者割合

〈性・年齢別／認定状況別〉



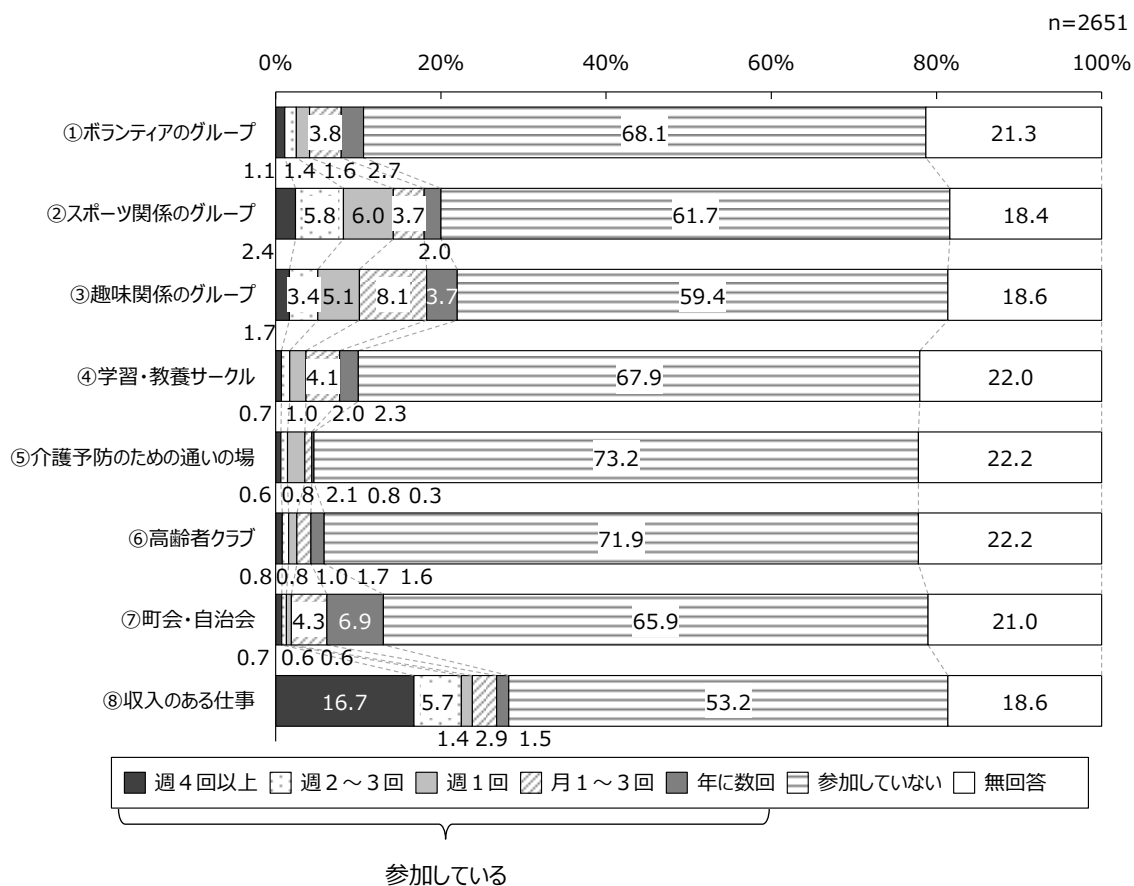
地域での活動について

問34 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

会・グループ等への参加頻度については、すべての会・グループ等で「参加していない」との回答が最も多くなっている。

「週4日以上」から「年に数回」までを合わせた“参加している”は①ボランティアのグループで10.6%、②スポーツ関係のグループで19.9%、③趣味関係のグループで22.0%、④学習・教養サークルで10.1%、⑤介護予防のための通いの場\*で4.6%、⑥高齢者クラブで5.9%、⑦町会・自治会で13.1%、⑧収入のある仕事で28.2%となっている。

【図表 51】 会・グループへの参加頻度

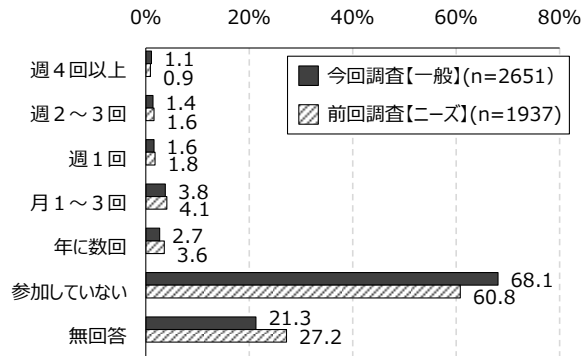


※通いの場：高齢者の身近な場所で介護予防のために活動する「新宿いきいき体操」、「しんじゅく100トレに取り組むグループ」、「通所型住民主体サービスグループ」、「地域安心カフェ」、「ふれあい・いきいきサロン」などを指します。

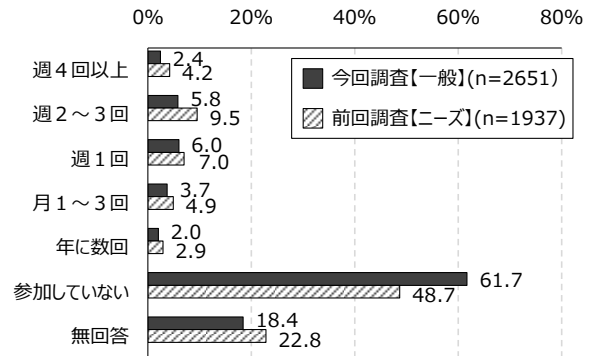
1 一般高齢者+介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

【図表 52】 会・グループへの参加頻度（前回比較）

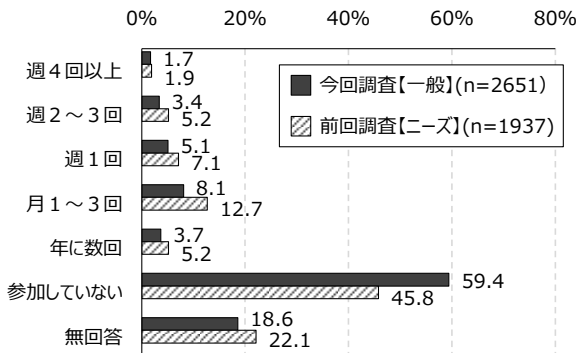
① ボランティアのグループ



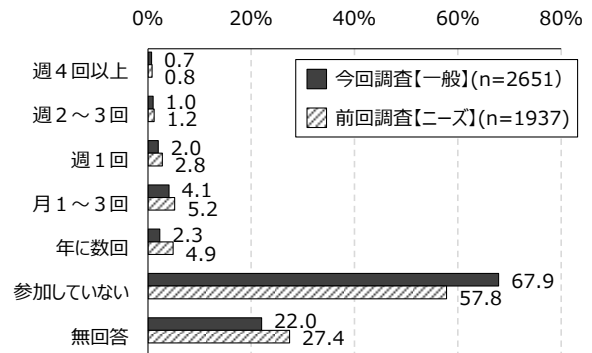
② スポーツ関係のグループ



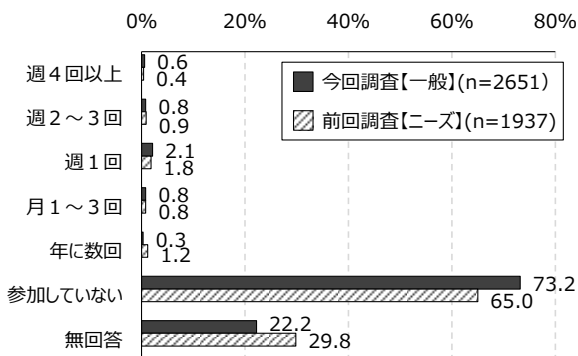
③ 趣味関係のグループ



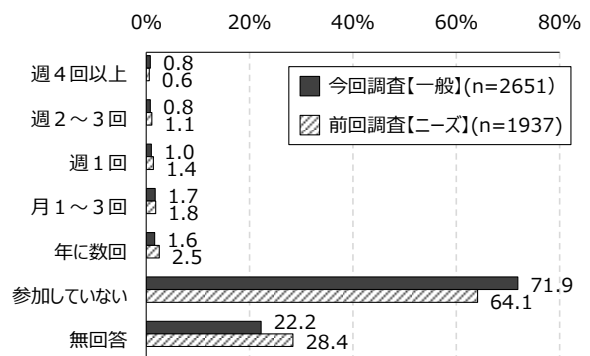
④ 学習・教養サークル



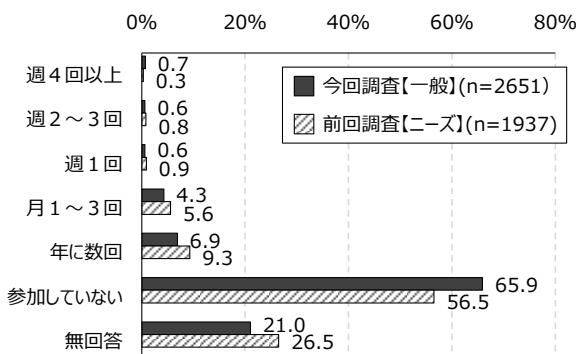
⑤ 介護予防のための通いの場



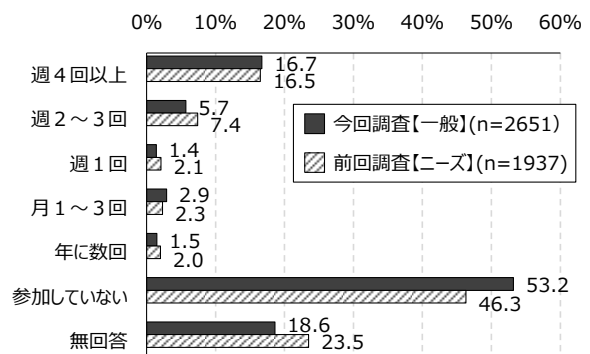
⑥ 高齢者クラブ



⑦ 町会・自治会



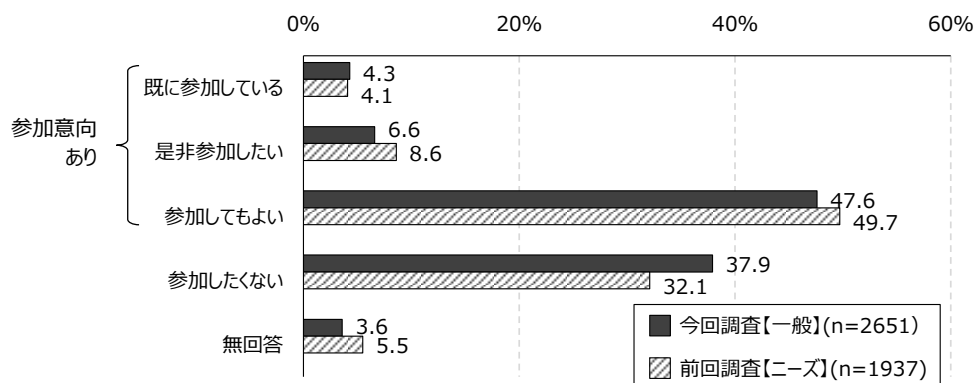
⑧ 収入のある仕事



問35 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

地域住民の有志による地域づくりへの参加者としての参加意向については、「既に参加している」が4.3%、「是非参加したい」が6.6%、「参加してもよい」が47.6%となっており、これらを合わせた“参加意向あり”は58.5%となっている。

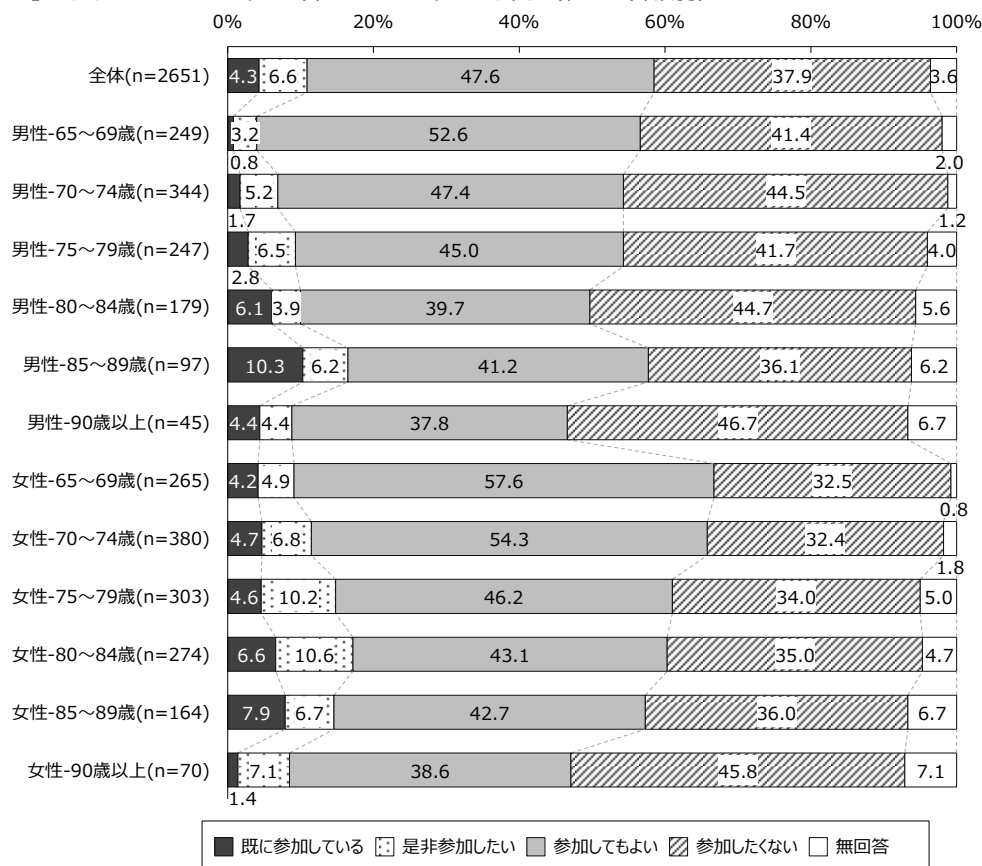
【図表 53】 地域づくりへの参加者としての参加意向〈前回比較〉



■地域づくりへの参加者としての参加意向〈性・年齢別〉

地域づくりへの参加者としての参加意向を性・年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「参加したくない」の割合が高くなる傾向がみられる。

【図表 54】 地域づくりへの参加者としての参加意向〈性・年齢別〉



<地域活動参加者(町会・自治会、ボランティア活動)の割合>

会・グループへの参加頻度のうち、地域活動(①ボランティアグループ及び⑦町会・自治会)の両方に「週4日以上」から「年に数回」までを合わせた“参加している”と回答した人は19.4%となっている。

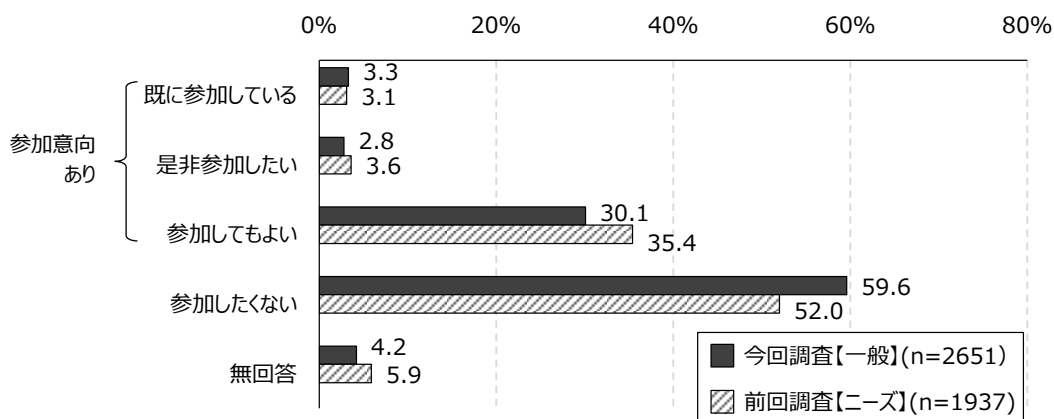
【図表 55】 地域活動参加者(町会・自治会、ボランティア活動)の割合

地域活動	人数/割合
①ボランティアのグループのみ参加	167人
⑦町会・自治会のみ参加	231人
①・⑦両方に参加	115人
計	513人
回答者に占める参加者の割合	19.4%

問36 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか。

地域住民の有志による地域づくりへの企画・運営としての参加意向については、「既に参加している」が3.3%、「是非参加したい」が2.8%、「参加してもよい」が30.1%となっており、これらを合わせた“参加意向あり”は36.2%となっている。

【図表 56】 地域づくりへの企画・運営としての参加意向(前回比較)



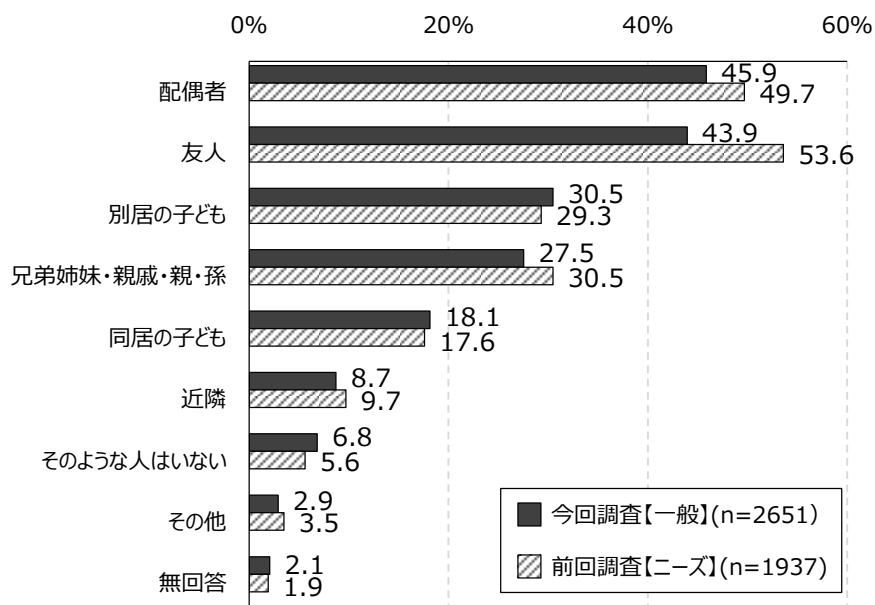


## たすけあいについて

## 問37 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人。(複数回答)

心配事や愚痴を聞いてくれる人については、「配偶者」が45.9%と最も多く、次いで「友人」が43.9%、「別居の子ども」が30.5%となっている。

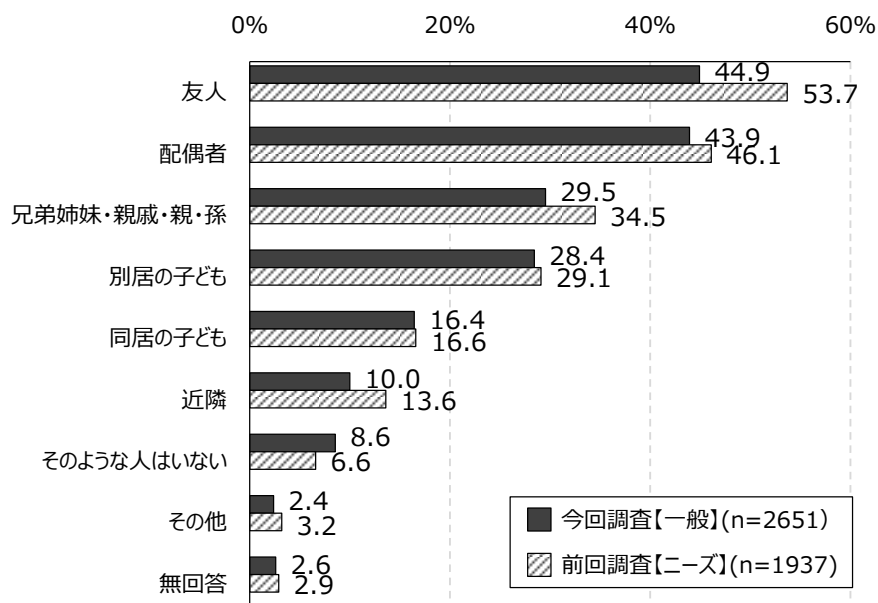
【図表 57】 心配事や愚痴を聞いてくれる人〈前回比較〉



## 問38 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人。(複数回答)

心配事や愚痴を聞いてあげる人については、「友人」が44.9%と最も多く、次いで「配偶者」が43.9%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が29.5%となっている。

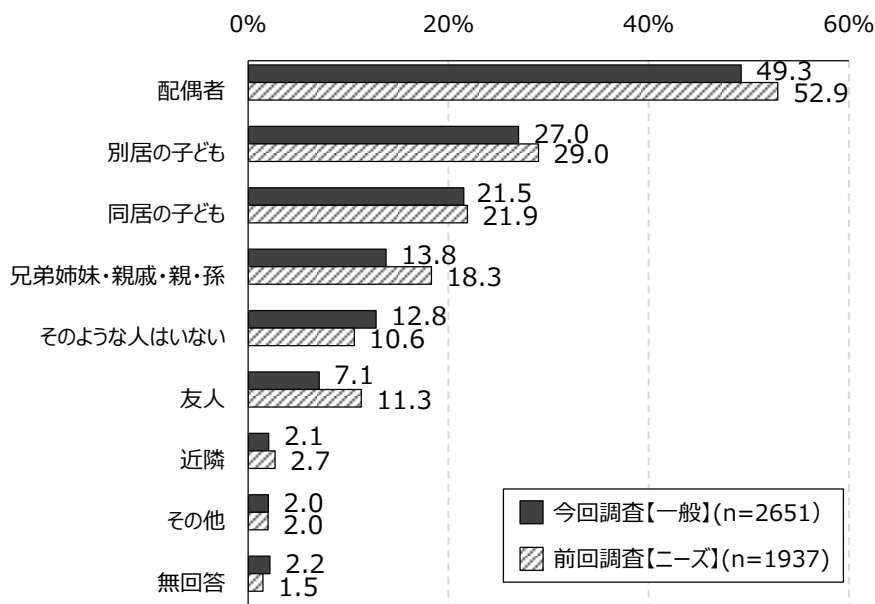
【図表 58】 心配事や愚痴を聞いてあげる人〈前回比較〉



問39 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人。  
(複数回答)

病気で寝込んだときに看病や世話をしてくれる人については、「配偶者」が49.3%と最も多く、次いで「別居の子ども」が27.0%、「同居の子ども」が21.5%となっている。

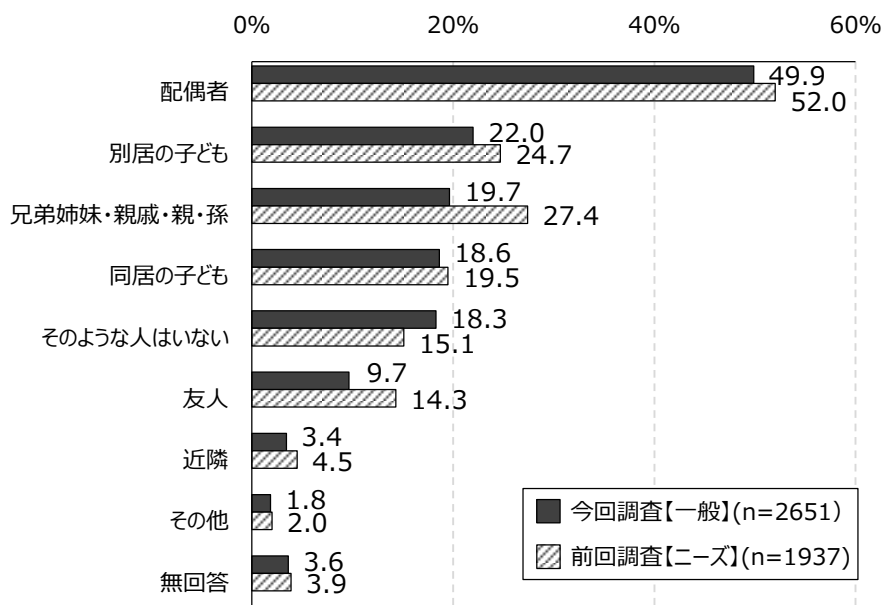
【図表 59】病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人〈前回比較〉



問40 反対に、看病や世話をしてあげる人。(複数回答)

看病や世話をしてあげる人については、「配偶者」が49.9%と最も多く、次いで「別居の子ども」が22.0%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が19.7%となっている。

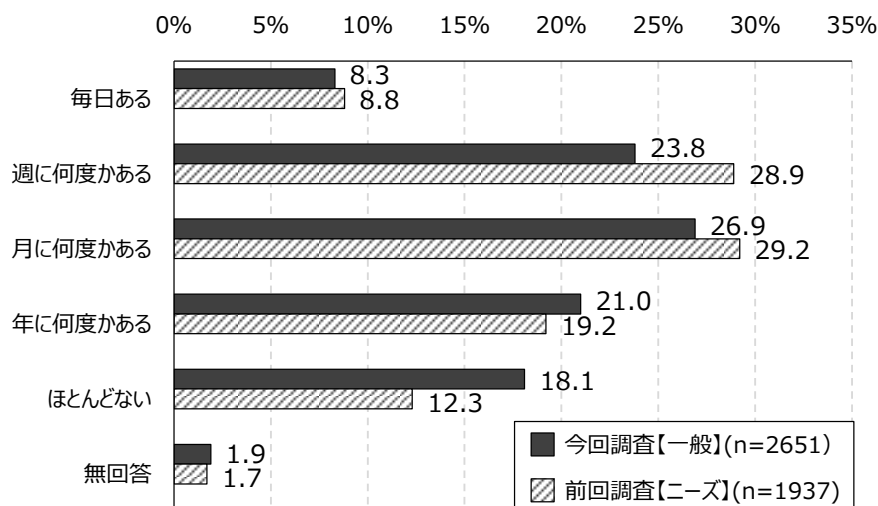
【図表 60】看病や世話をしてあげる人〈前回比較〉



## 問41 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。

友人・知人と会う頻度について、「月に何度かある」が26.9%と最も多く、次いで「週に何度かある」が23.8%、「年に何度かある」が21.0%となっている。

【図表 61】友人・知人と会う頻度〈前回比較〉

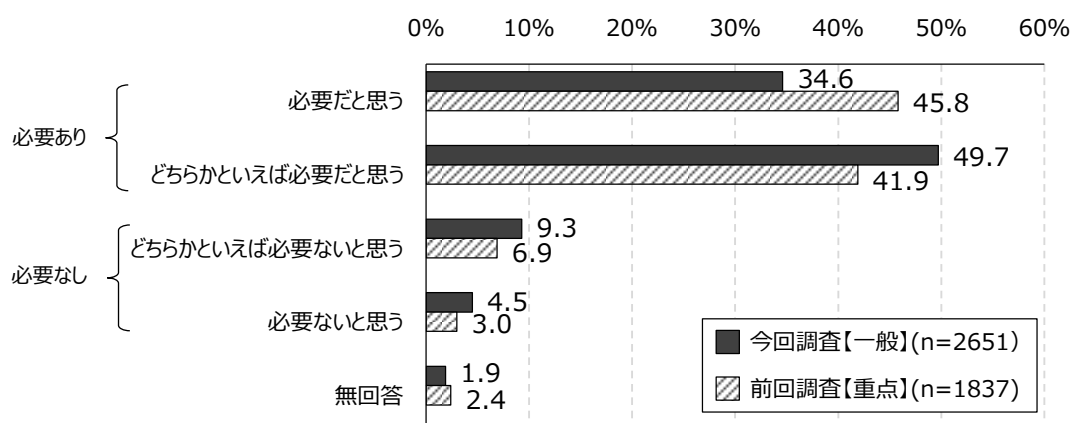


## 問42 あなたの日々の暮らしの中で、地域のつながり(住民同士の助け合い・支え合いなど)についておたずねします。

## (1)地域のつながりの必要性

地域のつながりの必要性については、「必要だと思う」(34.6%)と「どちらかといえば必要だと思う」(49.7%)を合わせた“必要あり”は84.3%となっている。一方、「どちらかといえば必要ないと思う」(9.3%)と「必要ないと思う」(4.5%)を合わせた“必要なし”は13.8%となっている。

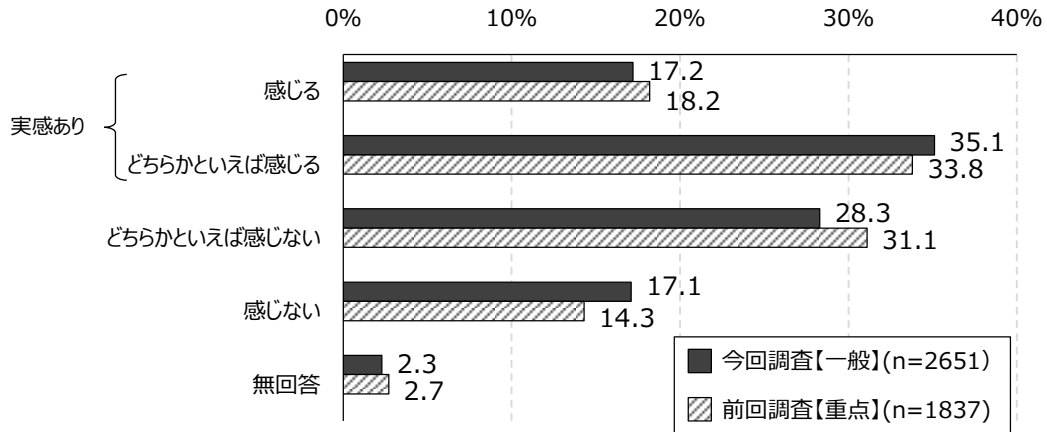
【図表 62】地域のつながりの必要性〈前回比較〉



## (2)地域のつながりの実感

地域のつながりの実感については、「感じる」(17.2%)と「どちらかといえば感じる」(35.1%)を合わせた“実感あり”は52.3%となっている。

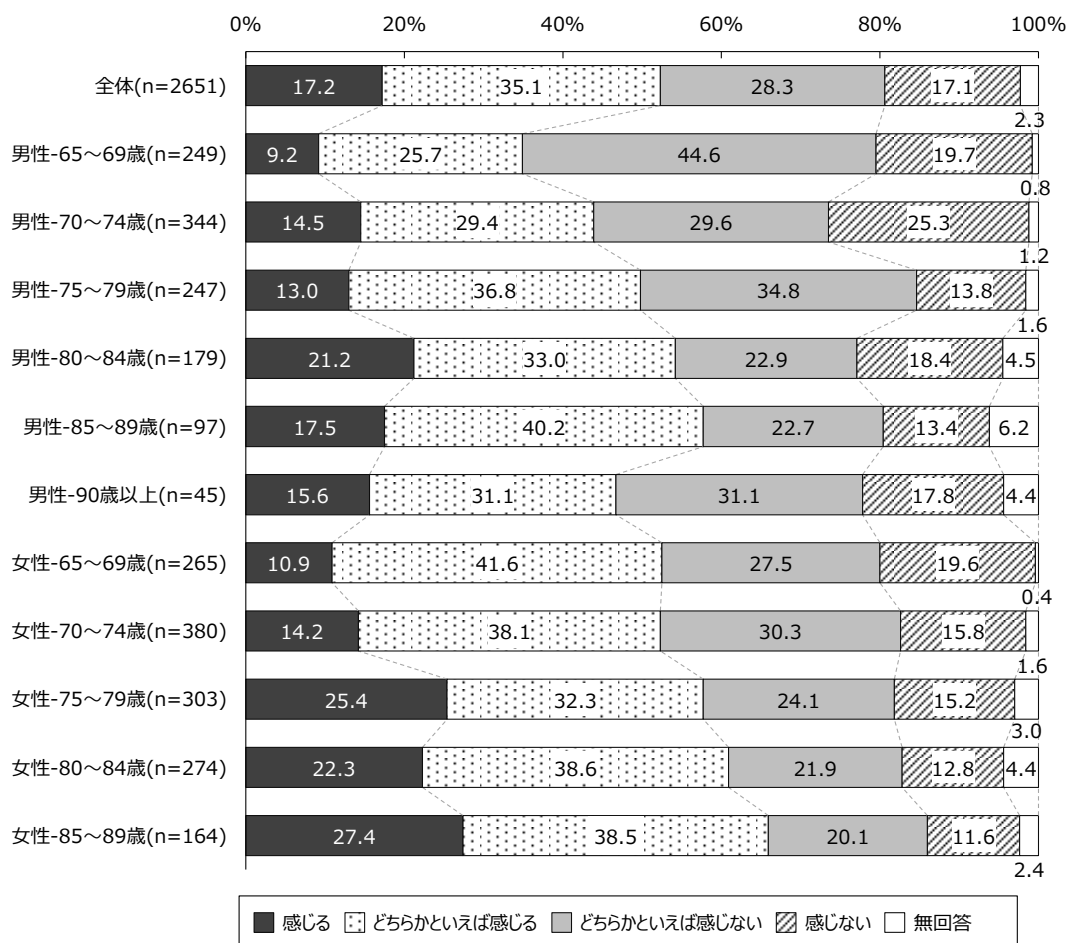
【図表 63】地域のつながりの実感〈前回比較〉



### ■地域のつながりの実感〈性・年齢別〉

地域のつながりの実感を性・年齢別にみると、“実感あり”は男女とも年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

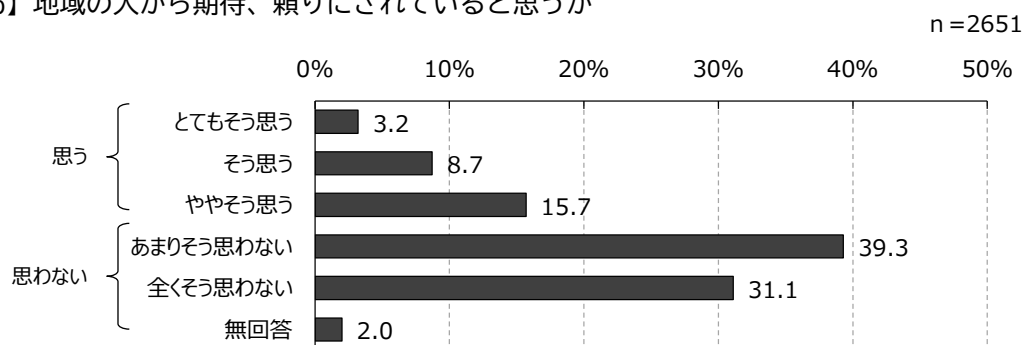
【図表 64】地域のつながりの実感〈性・年齢別〉



問43 あなたは、お住まいの地域の人から何らかの役割を期待されたり、頼りにされていると思いますか。

地域住人から何らかの役割を期待されたり、頼りにされていると思うかについて、「あまりそう思わない」(39.3%)と「全くそう思わない」(31.1%)を合わせた“思わない”が70.4%となっている。一方、「とてもそう思う」(3.2%)、「そう思う」(8.7%)、「ややそう思う」(15.7%)を合わせた“思う”は27.6%となっている。

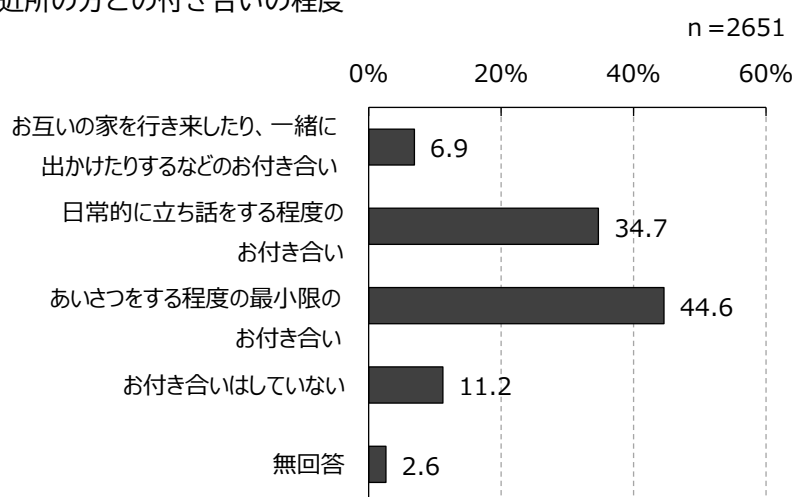
【図表 65】 地域の人から期待、頼りにされていると思うか



問44 あなたは、近所の方とどのようなお付き合いをしていますか。

近所の方との付き合いの程度については、「あいさつをする程度の最小限のお付き合い」が44.6%と最も多く、次いで「日常的に立ち話をする程度のお付き合い」が34.7%となっている。

【図表 66】 近所の方との付き合いの程度

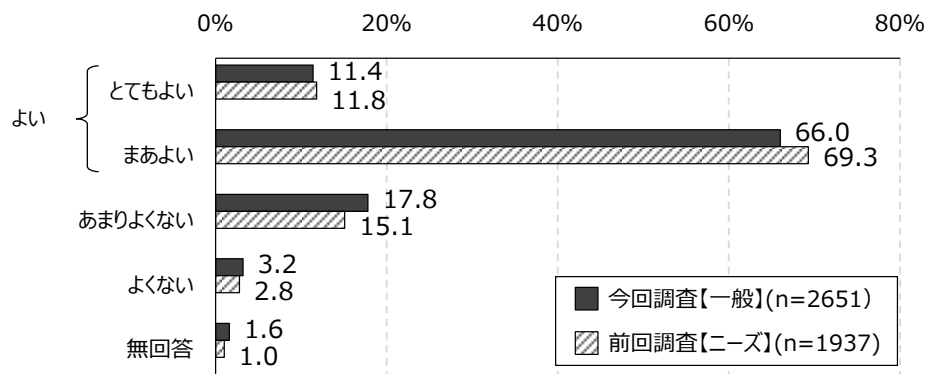


## 健康状態について

### 問45 現在のあなたの健康状態はいかがですか。

現在の健康状態については、「とてもよい」(11.4%)と「まあよい」(66.0%)を合わせた“よい”は77.4%となっている。

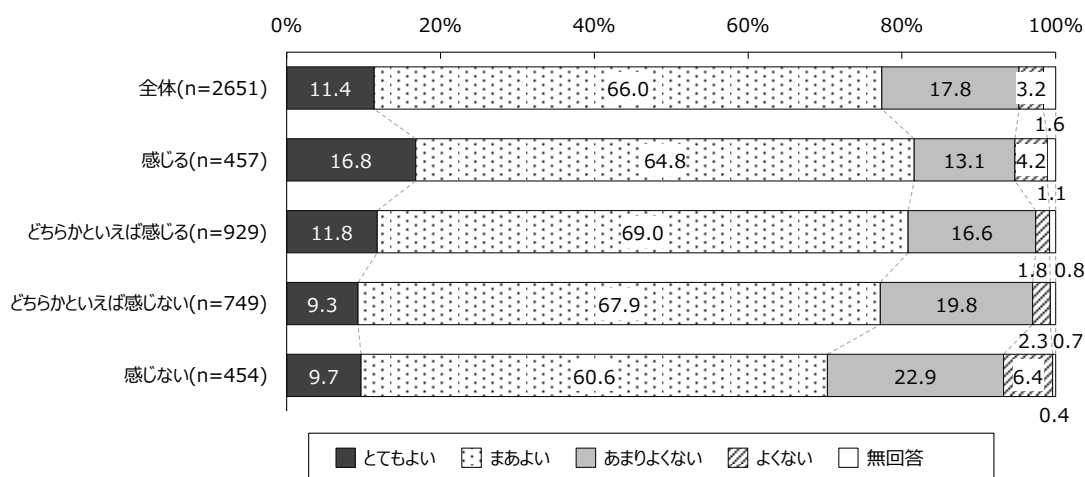
【図表 67】現在の健康状態〈前回比較〉



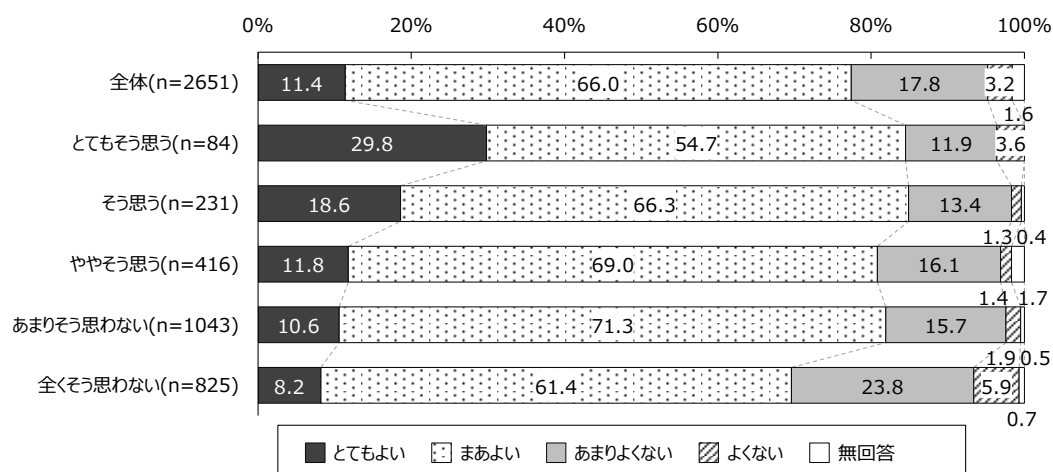
### ■現在の健康状態〈地域のつながり実感／地域からの役割期待別〉

現在の健康状態を地域のつながり実感別にみると、地域のつながりを感じるほど健康状態が“よい”と回答する割合が高くなっている。また、地域からの役割期待をされていると思うほど健康状態が“よい”と回答する割合が高い傾向がみられる。

【図表 68】現在の健康状態〈問 42(2)地域のつながり実感別〉



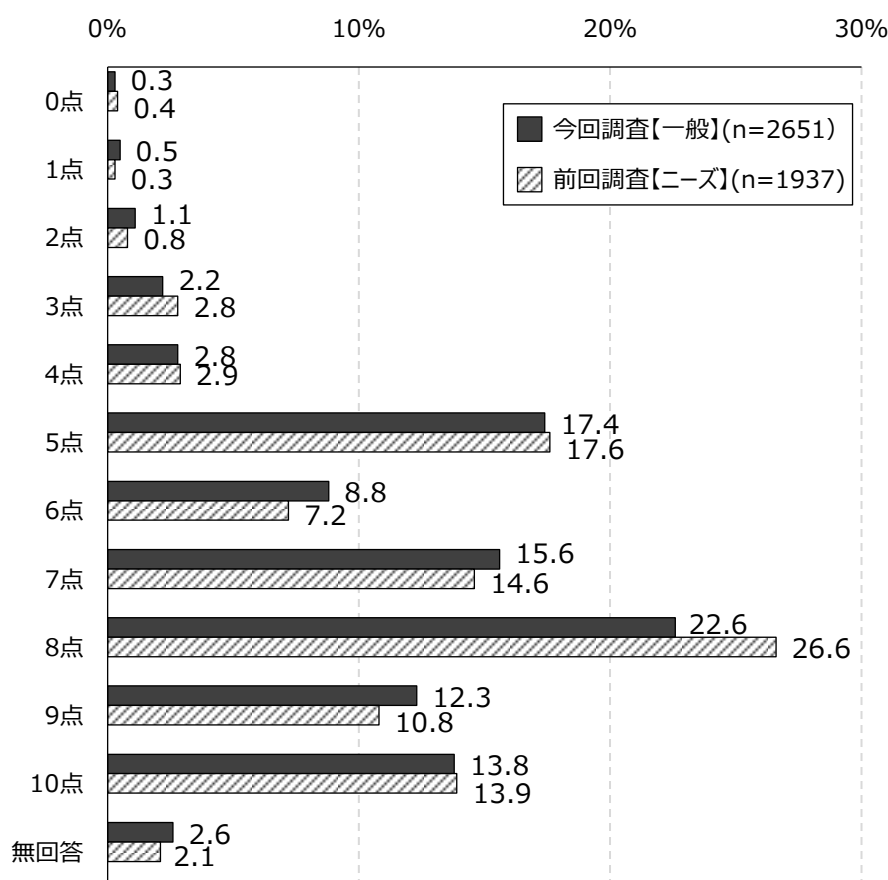
【図表 69】現在の健康状態〈問 43 地域からの役割期待別〉



問46 あなたは、現在どの程度幸せですか。

現在の幸福度については、「8点」が22.6%と最も多く、次いで「5点」が17.4%、「7点」が15.6%となっている。

【図表 70】現在の幸福度〈前回比較〉



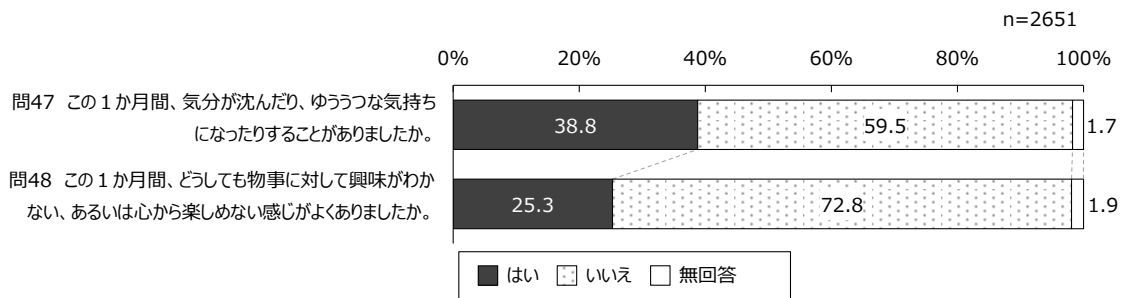
問47 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。

問48 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。

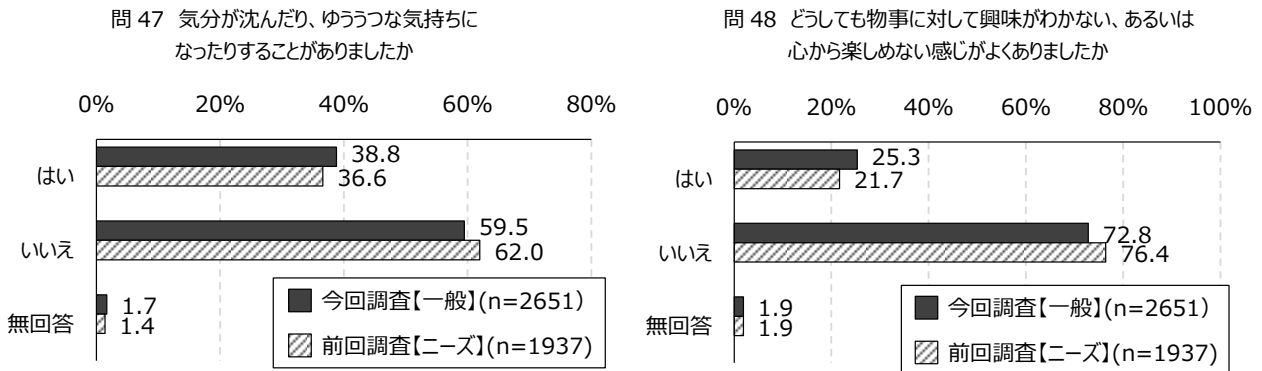
この1か月間の気持ちについては、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかでは、「はい」が38.8%、「いいえ」が59.5%となっている。

どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったかでは、「はい」が25.3%、「いいえ」が72.8%となっている。

【図表 71】この1か月間の気持ちについて



【図表 72】この1か月間の気持ちについて〈前回比較〉





◆各種リスクの状況

■うつ傾向の高齢者割合

問 47 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか（「はい」）

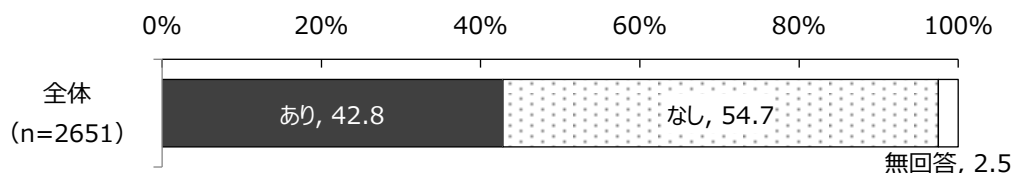
問 48 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか（「はい」）

※うつ傾向については、2つの設問でいずれか1つでも「はい」が回答された場合、「うつ傾向あり」と判定。

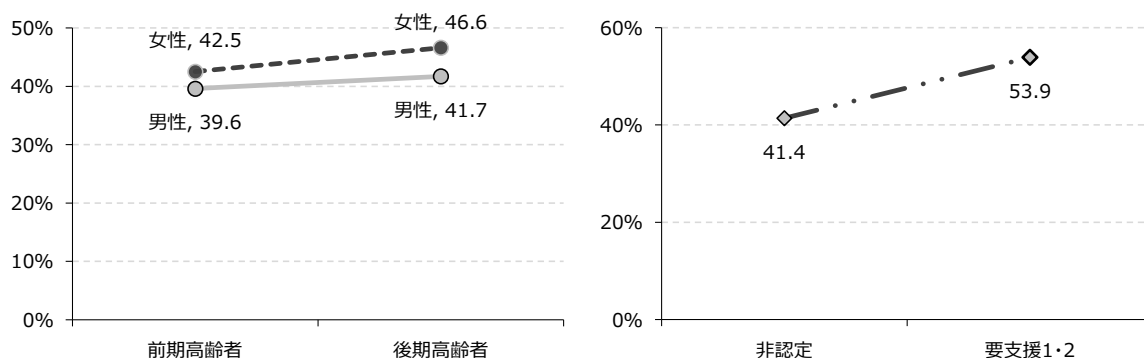
うつ傾向の高齢者割合の全体平均は42.8%で、性・年齢別で見ると、前期高齢者では性別による大きな差異はみられないが、後期高齢者では女性が男性よりも4.9ポイント高い。前期高齢者と後期高齢者間の増加の度合いに性別で大きな差異はみられない。

認定状況別で見ると、非認定で41.4%、要支援1・2で53.9%となっている。

【図表 73】うつ傾向の高齢者割合



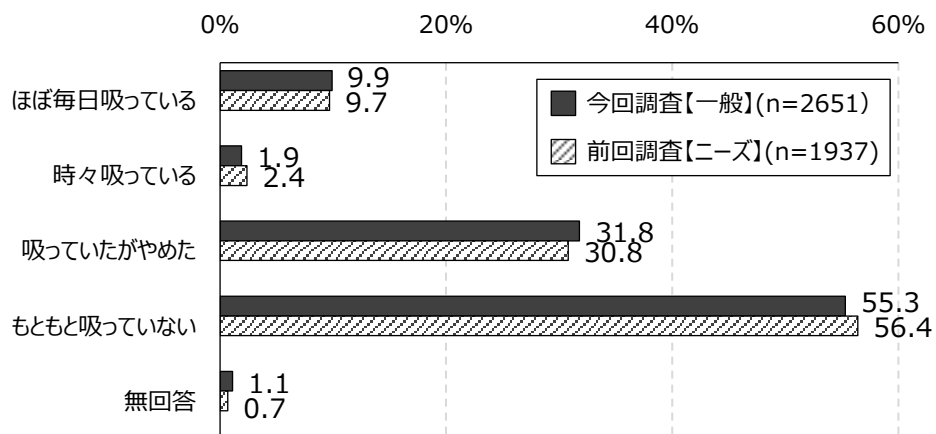
【図表 74】うつ傾向の高齢者割合〈性・年齢別／認定状況別〉



### 問49 タバコは吸っていますか。

喫煙については、「もともと吸っていない」が55.3%と最も多く、次いで「吸っていたがやめた」が31.8%、「ほぼ毎日吸っている」が9.9%となっている。

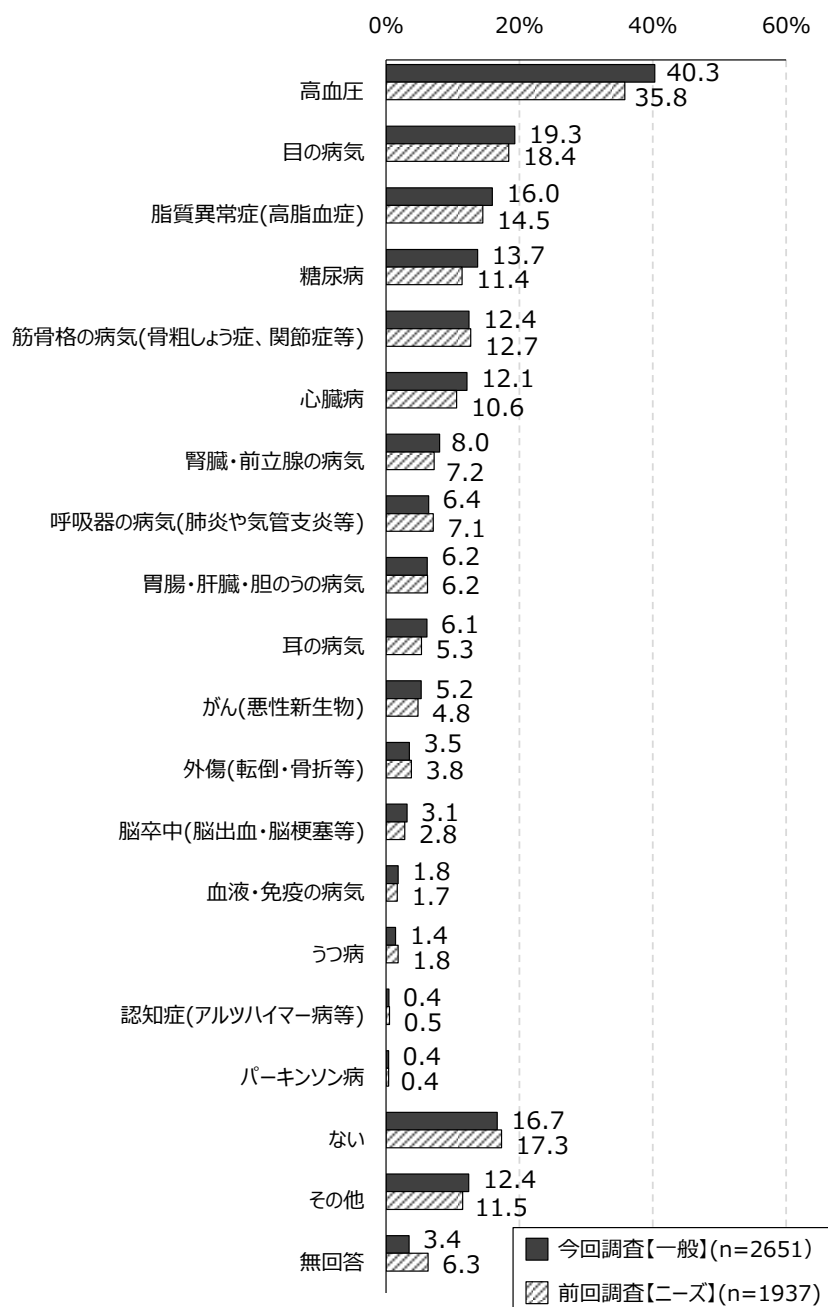
【図表 75】喫煙頻度〈前回比較〉



## 問50 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(複数回答)

現在治療中、または後遺症のある病気については、「高血圧」が40.3%と最も多く、次いで「目の病気」が19.3%、「脂質異常症（高脂血症）」が16.0%となっている。一方、「ない」は16.7%となっている。

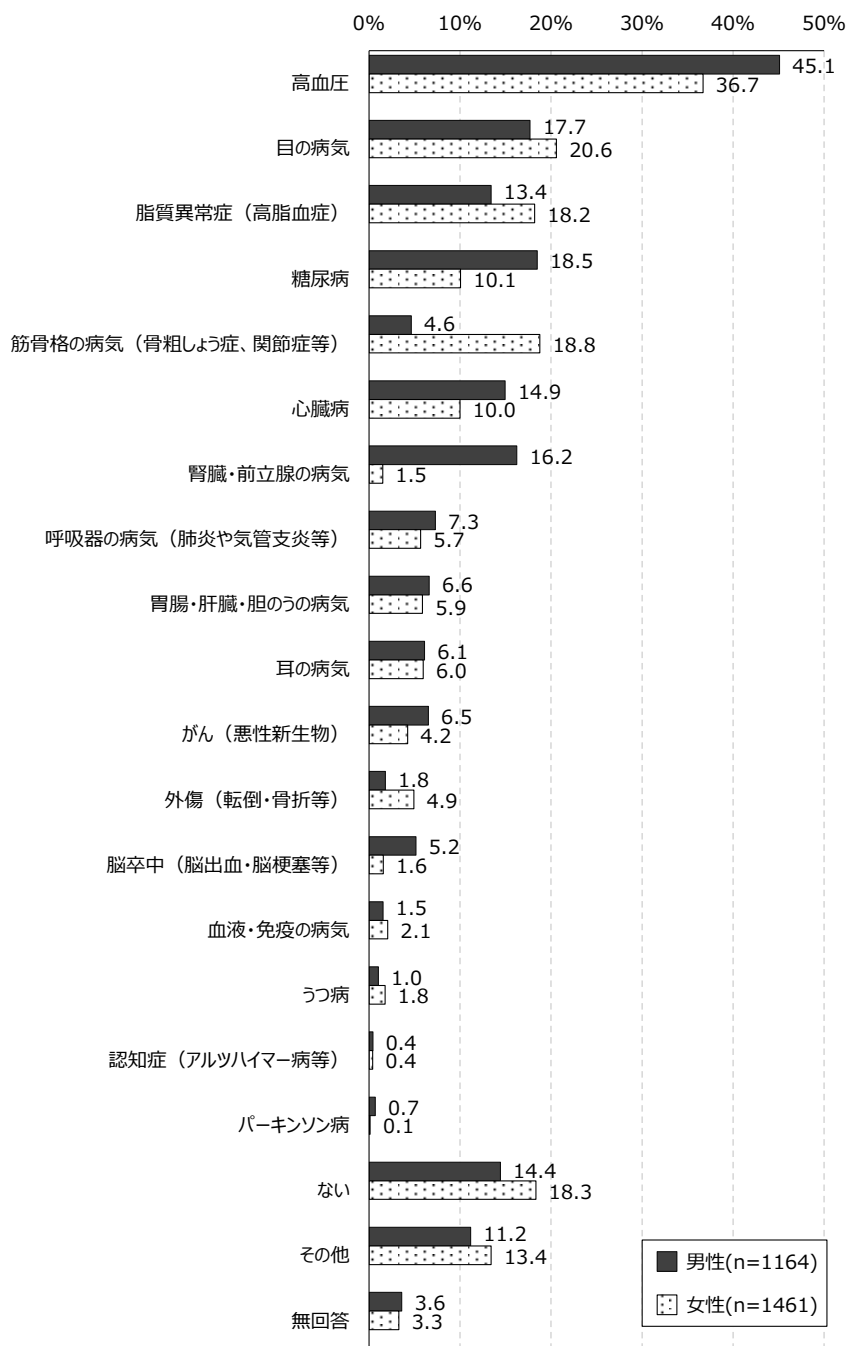
【図表 76】現在治療中、または後遺症のある病気〈前回比較〉



■現在治療中、または後遺症のある病気〈性別〉

現在治療中、または後遺症のある病気を性別にみると、「高血圧」、「糖尿病」、「腎臓・前立腺の病気」は男性の方が女性より割合が高く、「脂質異常症（高脂血症）」、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」は女性の方が男性より割合が高くなっている。

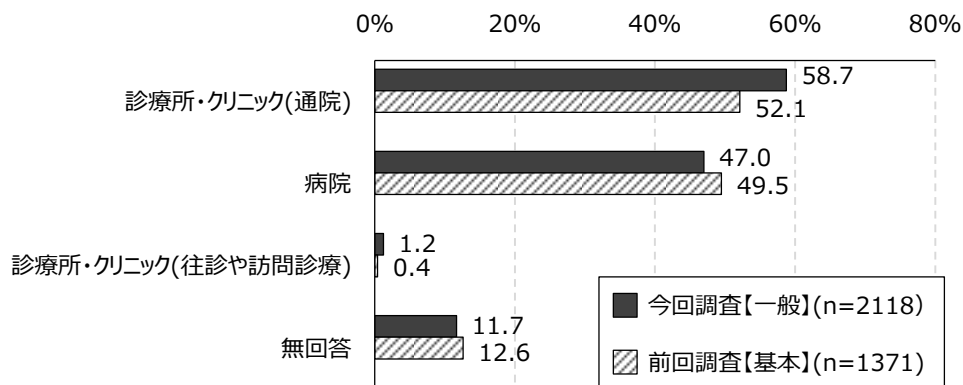
【図表 77】 現在治療中、または後遺症のある病気 〈性別〉



問50-1 受診している医療機関は、次のうちどれですか。(複数回答)

現在治療中、または後遺症のある病気について『ある』と回答した人に、受診している医療機関を聞いたところ、「診療所・クリニック（通院）」が58.7%と最も多く、次いで「病院」が47.0%、「診療所・クリニック（往診や訪問診療）」が1.2%となっている。

【図表 78】 受診している医療機関（前回比較）

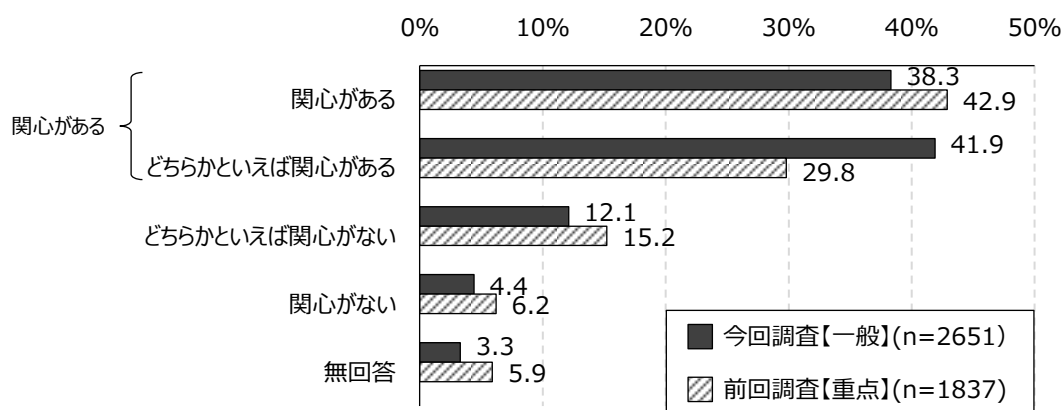


介護予防について

問51 あなたは、「介護予防」について関心がありますか。

介護予防への関心の有無について、「関心がある」(38.3%)と「どちらかといえば関心がある」(41.9%)を合わせた“関心がある”は80.2%となっている。

【図表 79】 介護予防への関心の有無（前回比較）

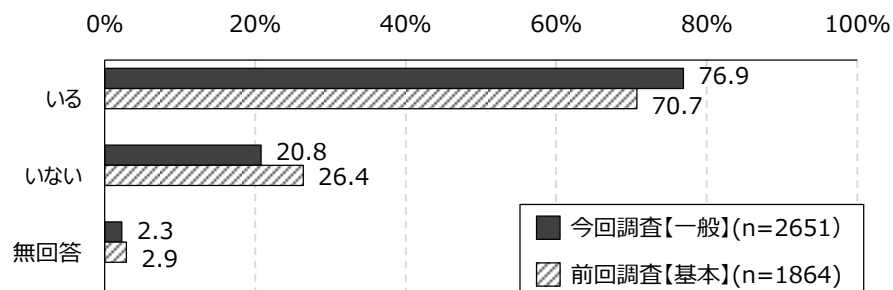


## かかりつけの医療機関について

問52 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる診療所・クリニックの「かかりつけ医」がいますか。

かかりつけ医の有無については、「いる」が76.9%、「いない」が20.8%となっている。

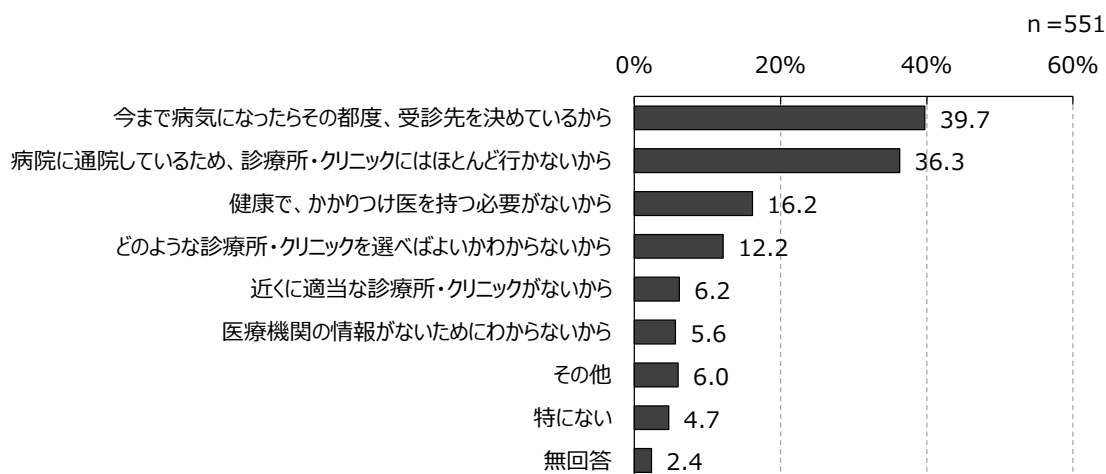
【図表 80】かかりつけ医の有無〈前回比較〉



問52-1 かかりつけ医がいない理由は、次のうちどれですか。(複数回答)

かかりつけ医が「いない」と回答した人にその理由を聞いたところ、「今まで病気になったらその都度、受診先を決めているから」が39.7%と最も多く、次いで「病院に通院しているため、診療所・クリニックにはほとんど行かないから」が36.3%、「健康で、かかりつけ医を持つ必要がないから」が16.2%となっている。

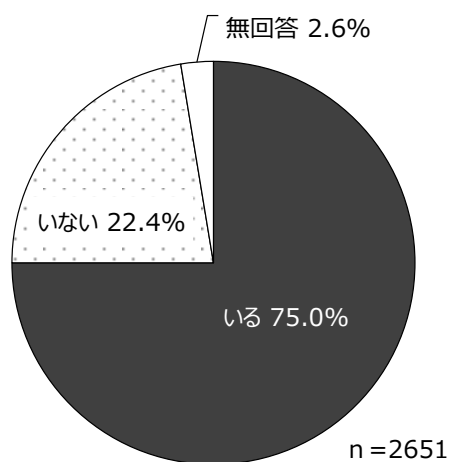
【図表 81】かかりつけ医がいない理由



問53 あなたは、治療や予防のために定期的に受診している「かかりつけ歯科医」がいますか。

かかりつけ歯科医の有無については、「いる」が75.0%、「いない」が22.4%となっている。

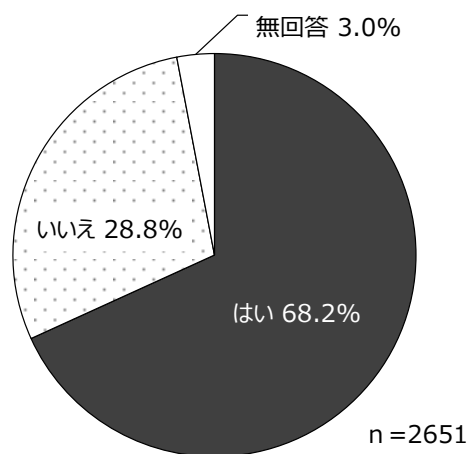
【図表 82】かかりつけ歯科医の有無



問54 あなたは、病院・診療所から処方された薬について相談できる「かかりつけ薬局」がありますか。

かかりつけ薬局の有無については、「はい」が68.2%、「いいえ」が28.8%となっている。

【図表 83】かかりつけ薬局の有無

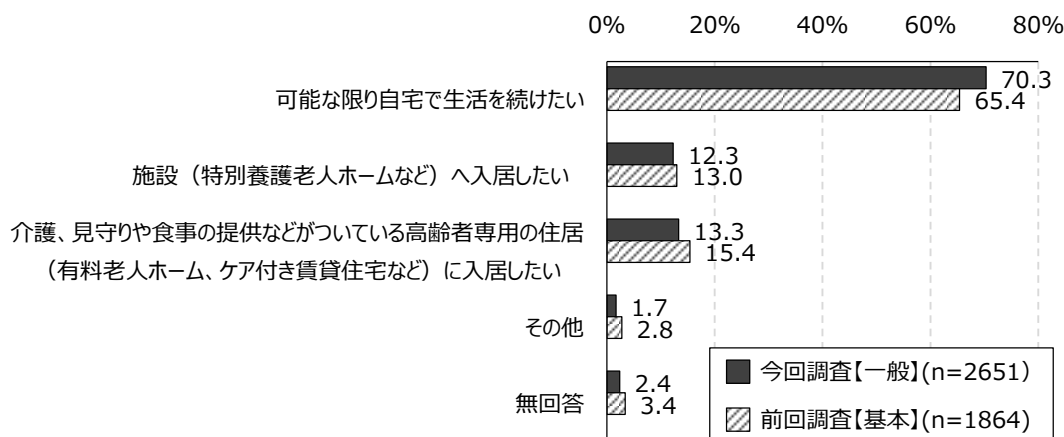


## 在宅療養等について

### 問55 あなたは、介護が必要になった場合、どこで生活を続けたいと思いますか。

介護が必要になった場合に生活を続けたい場所については、「可能な限り自宅で生活を続けたい」が70.3%と最も多く、次いで「介護、見守りや食事の提供などがついている高齢者専用の住居（有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅など）に入居したい」が13.3%、「施設（特別養護老人ホームなど）へ入居したい」が12.3%となっている。

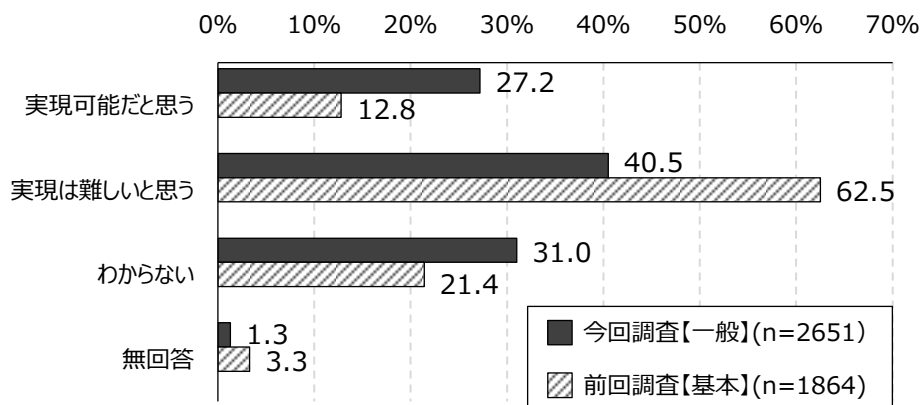
【図表 84】 介護が必要になった場合の生活を続けたい場所（前回比較）



### 問56 ご自宅での療養は実現可能だと思いますか。

自宅での療養は実現可能と思うかについては、「実現は難しいと思う」が40.5%と最も多く、次いで「わからない」が31.0%、「実現可能だと思う」が27.2%となっている。

【図表 85】 在宅療養の可能性（前回比較）

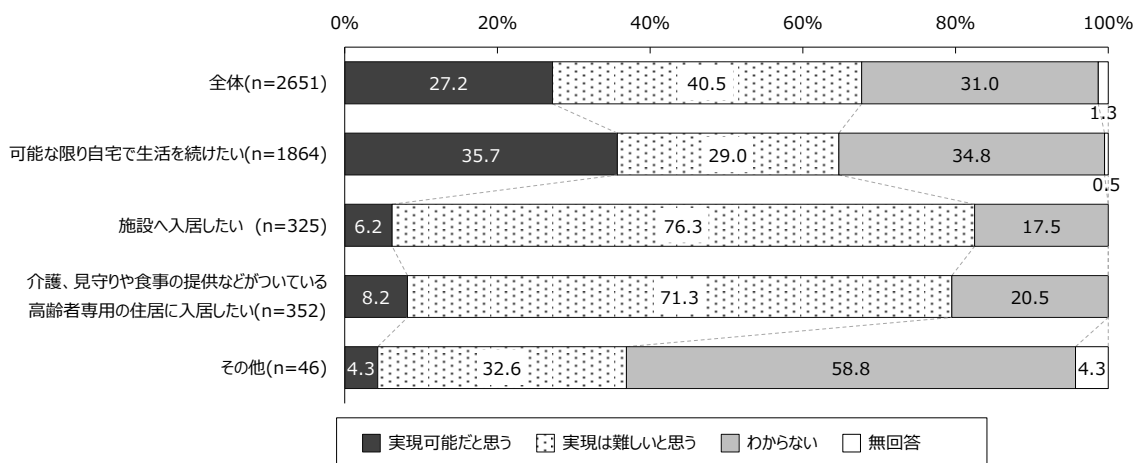




### ■在宅療養の可能性<介護が必要になった場合の生活場所別>

在宅療養の可能性を希望の生活場所別にみると、「可能な限り自宅で生活を続けたい」と回答した人のうち、「実現可能だと思う」は35.7%となっている。

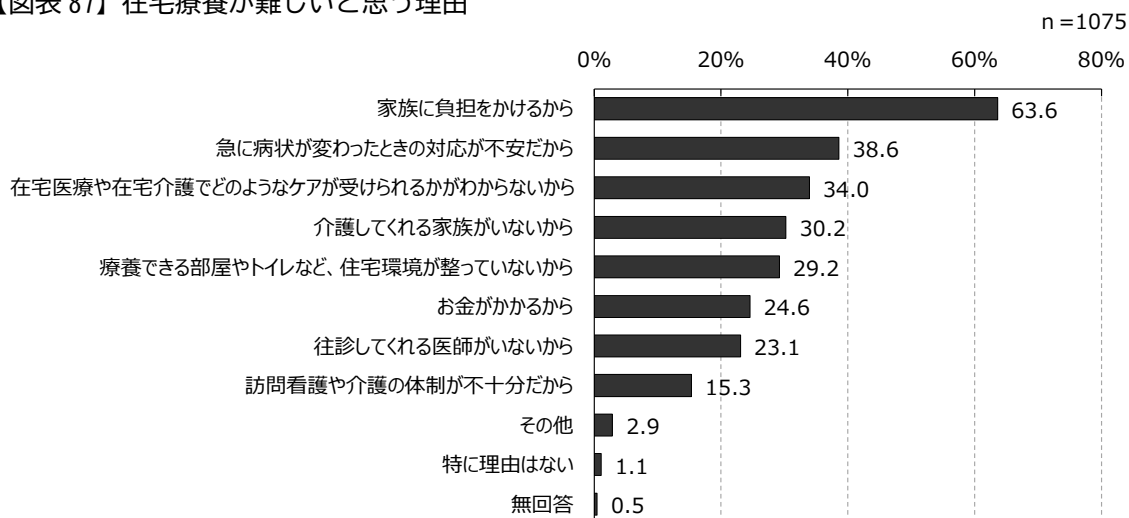
【図表 86】在宅療養の可能性 <問 55 介護が必要になった場合の生活場所別>



### 問56-1 実現は難しいと思う理由は何ですか。(複数回答)

自宅での療養について「実現は難しいと思う」と回答した人にその理由を聞いたところ、「家族に負担をかけるから」が63.6%と最も多く、次いで「急に病状が変わったときの対応が不安だから」が38.6%、「在宅医療や在宅介護でどのようなケアが受けられるかがわからないから」が34.0%となっている。

【図表 87】在宅療養が難しいと思う理由

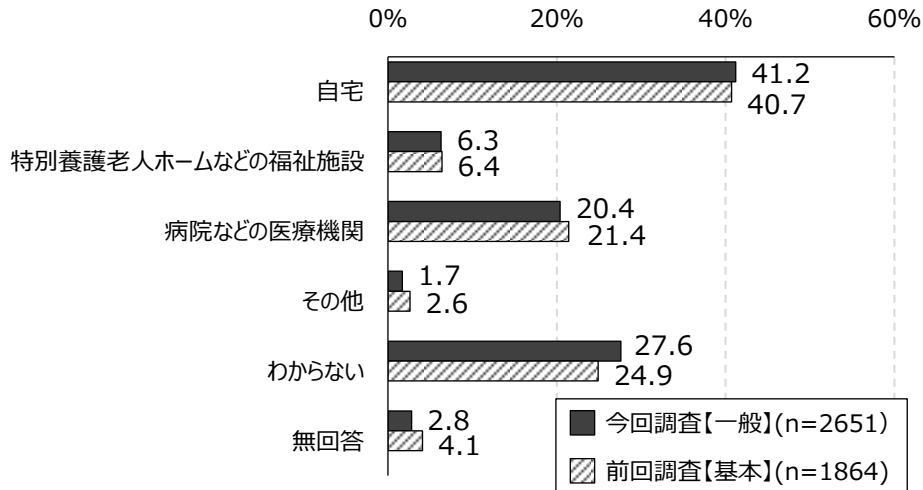


## ACP（人生会議）について

問57 あなたは、ご自身の最期をどこで迎えたいと思いますか。

自身の最期を迎えたい場所については、「自宅」が41.2%と最も多く、次いで「わからない」が27.6%、「病院などの医療機関」が20.4%となっている。

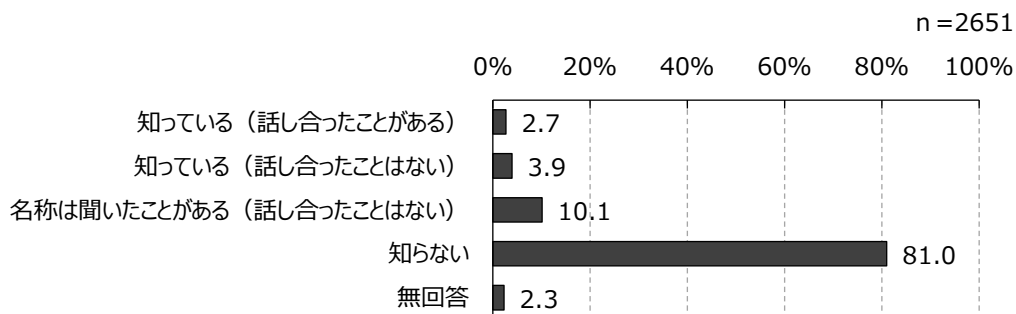
【図表 88】最期を迎えたい場所〈前回比較〉



問58 あなたは、ACP(人生会議)について知っていますか。

ACP（人生会議）についての認知度は、「知らない」が81.0%と最も多く、次いで「名称は聞いたことがある（話し合ったことはない）」が10.1%、「知っている（話し合ったことはない）」が3.9%となっている。

【図表 89】ACP（人生会議）の認知度

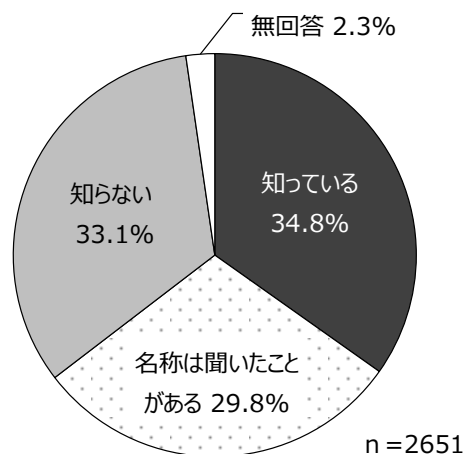


## 緩和ケアについて

問59 あなたは、「緩和ケア」について、知っていますか。

緩和ケアについての認知度は、「知っている」が34.8%と最も多く、次いで「知らない」が33.1%、「名称は聞いたことがある」が29.8%となっている。

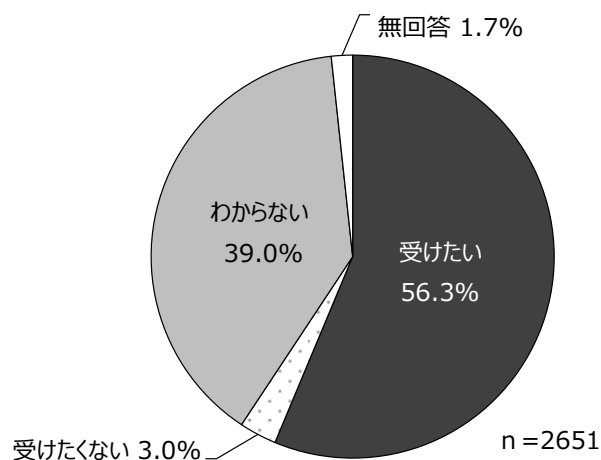
【図表 90】 緩和ケアの認知度



問60 あなたは、緩和ケアが必要になった時、早期から痛みやつらさの緩和を主とした「緩和ケア」を受けたいですか。

緩和ケアが必要になった時、緩和ケアを受けたいと思うかについて、「受けたい」が56.3%と最も多く、次いで「わからない」が39.0%、「受けたくない」が3.0%となっている。

【図表 91】 緩和ケアを受けたいと思うか

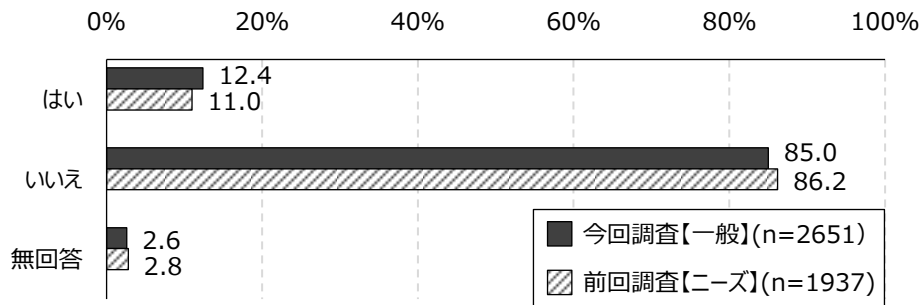


## 認知症について

### 問61 認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいますか。

自身に認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいるかについて、「はい」が12.4%、「いいえ」が85.0%となっている。

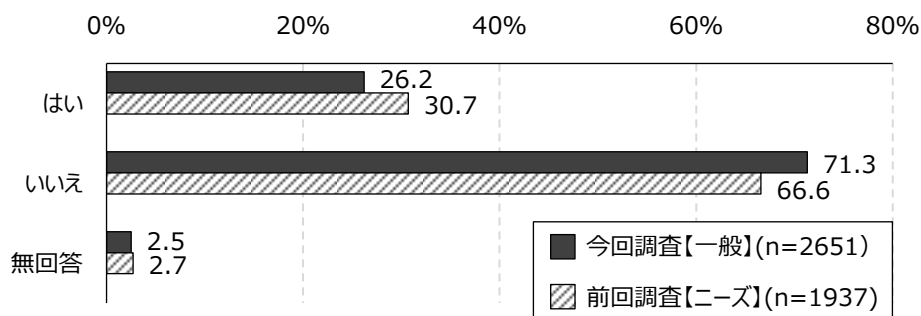
【図表 92】 認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいるか 〈前回比較〉



### 問62 認知症に関する相談窓口を知っていますか。

認知症に関する相談窓口の認知度については、「はい」が26.2%、「いいえ」が71.3%となっている。

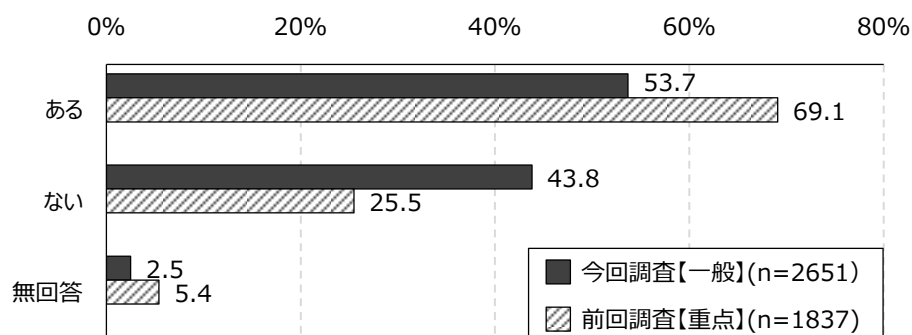
【図表 93】 認知症に関する相談窓口の認知度 〈前回比較〉



問63 あなたは今までに、自身や家族等が認知症になったときのことについて、考えたことがありますか。

今までに自身や家族等が認知症になったときのことを考えたことがあるかについて、「ある」が53.7%、「ない」が43.8%となっている。

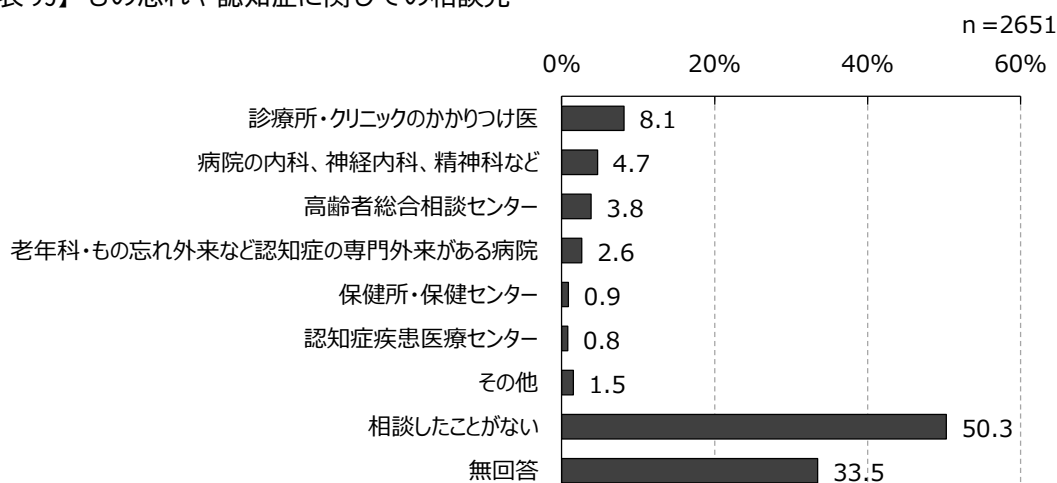
【図表 94】自身や家族が認知症になったときのことについて、考えたことの有無〈前回比較〉



問64 もの忘れや認知症に関して相談したことがある方は、どちらに相談しましたか。  
(複数回答)

もの忘れや認知症に関しての相談先について、「相談したことがない」が50.3%と最も多く、次いで「診療所・クリニックのかかりつけ医」が8.1%、「病院の内科、神経内科、精神科など」が4.7%となっている。

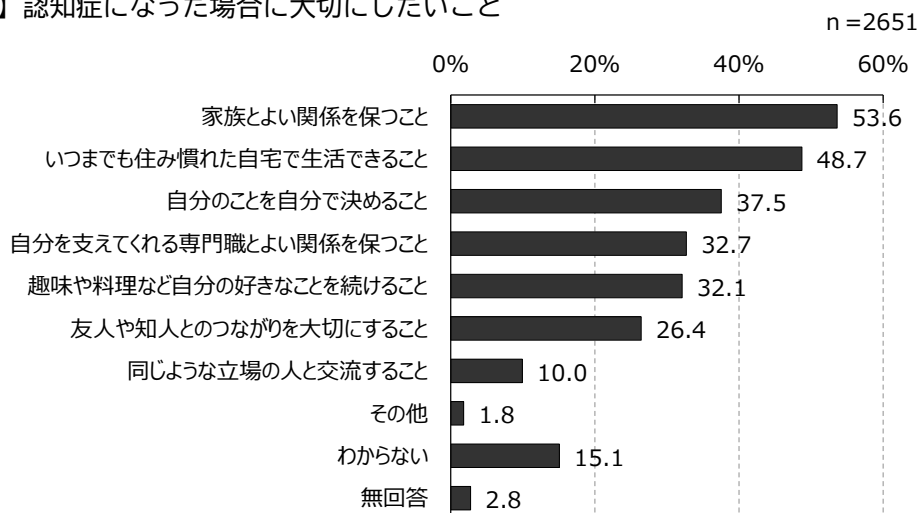
【図表 95】もの忘れや認知症に関しての相談先



問65 もしあなたが認知症になった場合、大切にしたいことは何ですか。(複数回答)

認知症になった場合に大切にしたいことについては、「家族とよい関係を保つこと」が53.6%と最も多く、次いで「いつまでも住み慣れた自宅で生活できること」が48.7%、「自分のことを自分で決めること」が37.5%となっている。

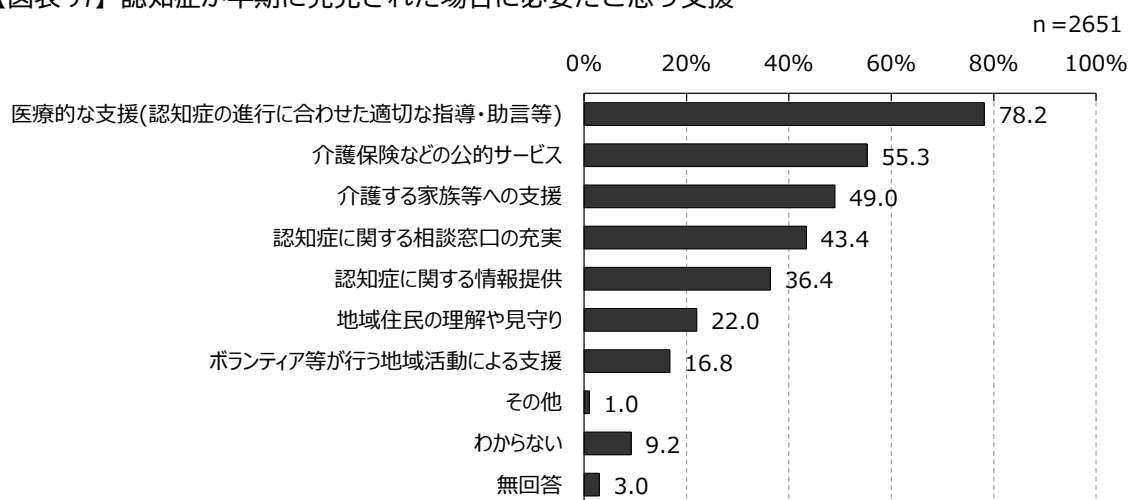
【図表 96】 認知症になった場合に大切にしたいこと



問66 認知症が早期に発見された場合、進行を遅らせるなどの対応策があることがわかってきています。早期に発見された場合、どのような支援が必要だと思いますか。(複数回答)

認知症が早期に発見された場合に必要だと思う支援については、「医療的な支援（認知症の進行に合わせた適切な指導・助言等）」が78.2%と最も多く、次いで「介護保険などの公的サービス」が55.3%、「介護する家族等への支援」が49.0%となっている。

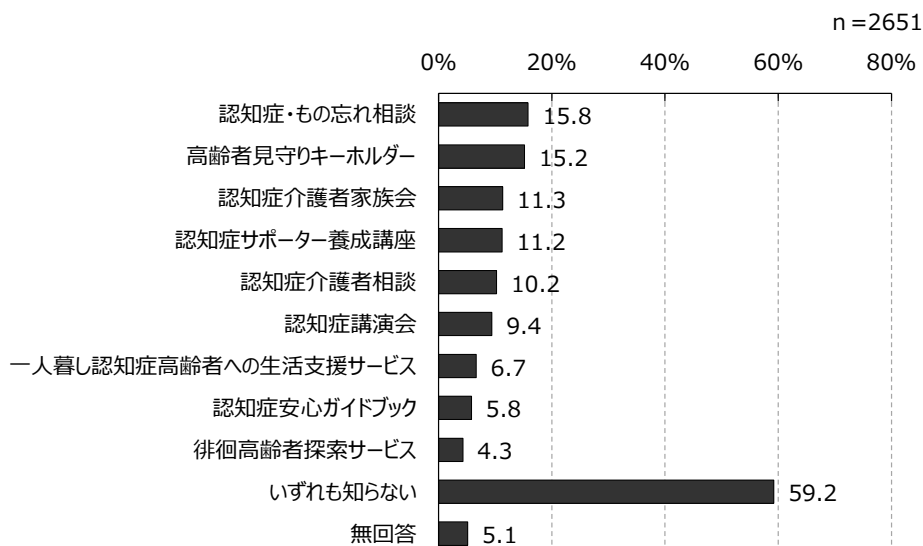
【図表 97】 認知症が早期に発見された場合に必要だと思う支援



## 問67 以下の認知症に関する事業やサービスを知っていますか。(複数回答)

認知症に関する事業やサービスの認知度については、「いずれも知らない」が59.2%と最も多く、次いで「認知症・もの忘れ相談」が15.8%、「高齢者見守りキーホルダー」が15.2%となっている。

【図表 98】 認知症に関する事業やサービスの認知度

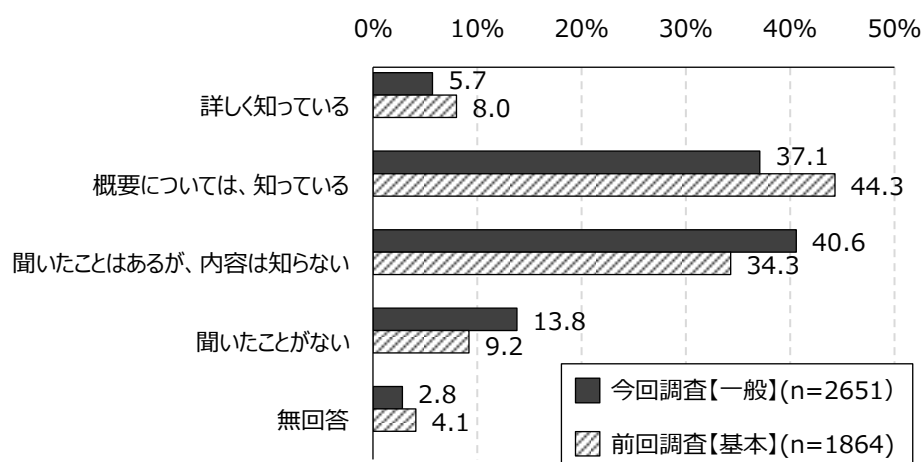


## 権利擁護について

## 問68 あなたは、成年後見制度を知っていますか。

成年後見制度の認知度については、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が40.6%と最も多く、次いで「概要については、知っている」が37.1%、「聞いたことがない」が13.8%となっている。

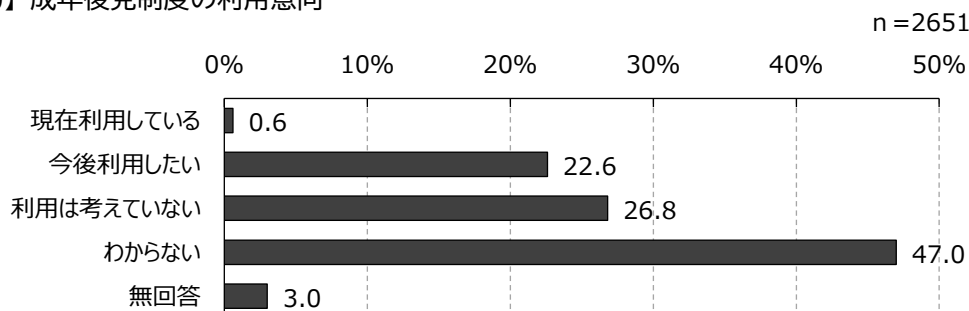
【図表 99】 成年後見制度の認知度〈前回比較〉



問69 あなたは、あなた自身あるいは家族・親族が認知症等により判断能力が十分でなくなったとき、成年後見制度を利用したいと思いますか。

自身あるいは家族・親族が認知症等により判断能力が十分でなくなったときの成年後見制度の利用意向について、「わからない」が47.0%と最も多く、次いで「利用は考えていない」が26.8%、「今後利用したい」が22.6%となっている。

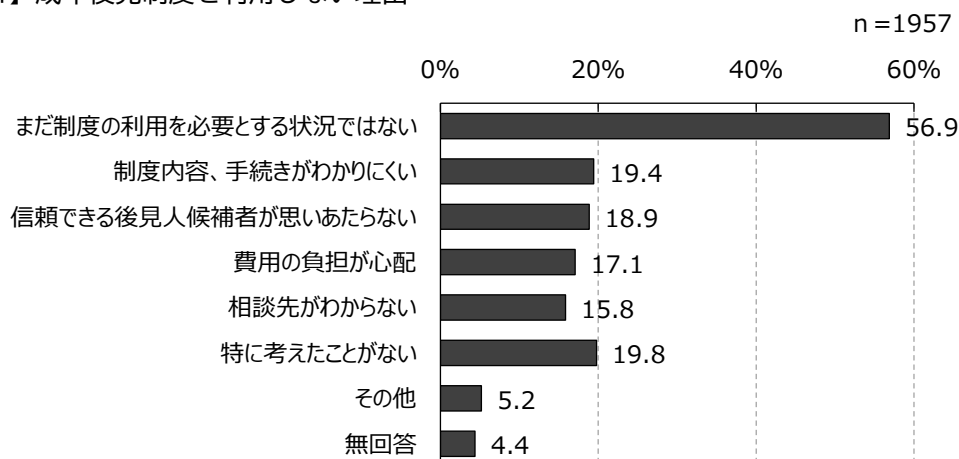
【図表 100】 成年後見制度の利用意向



問69-1 成年後見制度を利用しない理由として、どのようなものがありますか。  
(複数回答)

成年後見制度の利用意向で「利用は考えていない」、「わからない」と回答した人にその理由を聞いたところ、「まだ制度の利用を必要とする状況ではない」が56.9%と最も多く、次いで「特に考えたことがない」が19.8%、「制度内容、手続きがわかりにくい」が19.4%となっている。

【図表 101】 成年後見制度を利用しない理由



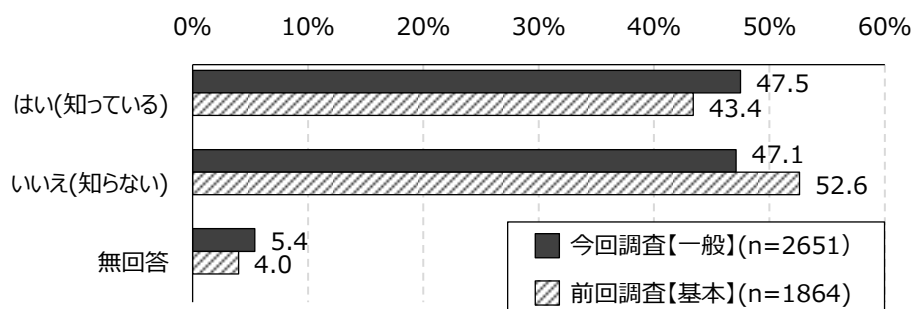


## 健康・福祉サービスの情報や相談窓口について

問70 あなたは、「高齢者総合相談センター」の名称を知っていますか。

高齢者総合相談センターの名称の認知度については、「はい」が47.5%、「いいえ」が47.1%となっている。

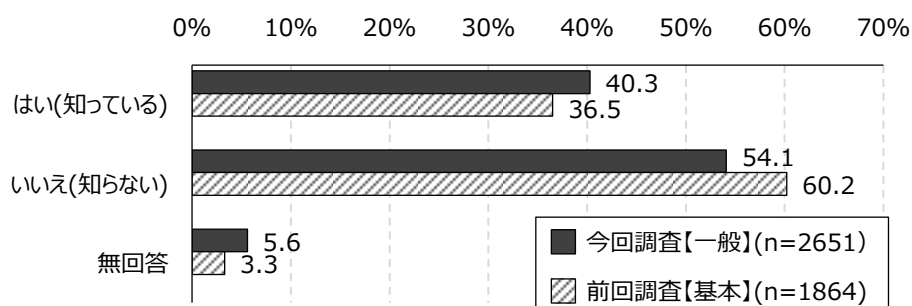
【図表 102】 高齢者総合相談センターの名称の認知度〈前回比較〉



問71 あなたは、「高齢者総合相談センター」が何をする機関か知っていますか。

機能の認知度については、「はい」が40.3%、「いいえ」が54.1%となっている。

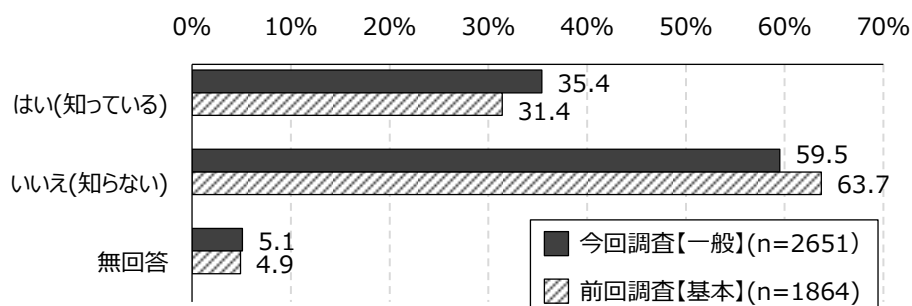
【図表 103】 高齢者総合相談センターの機能の認知度〈前回比較〉



問72 あなたは、あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるか知っていますか。

所在地の認知度については、「はい」が35.4%、「いいえ」が59.5%となっている。

【図表 104】 高齢者総合相談センターの所在地の認知度〈前回比較〉

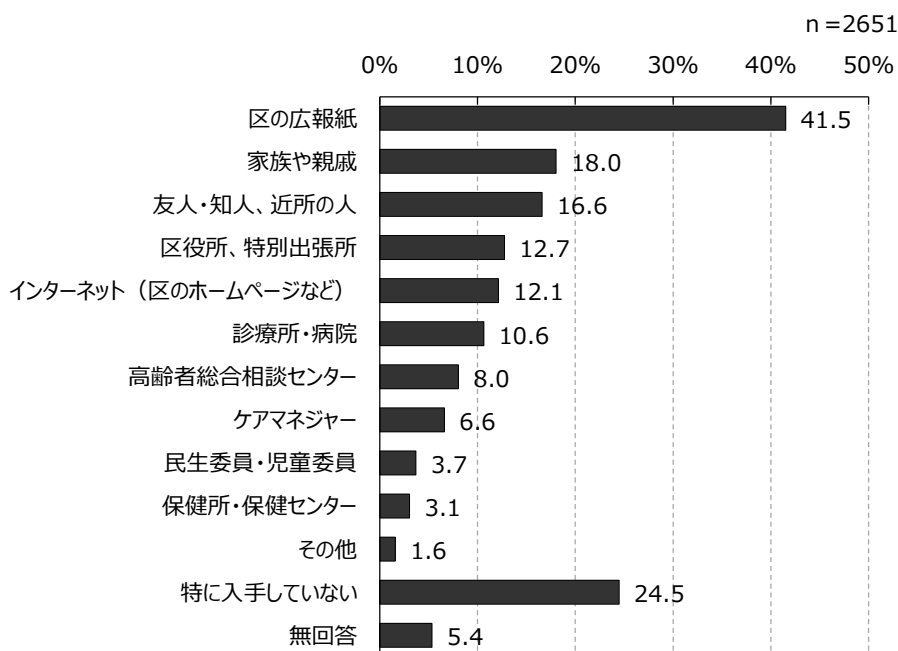


問73 健康や福祉サービスに関する情報についてうかがいます。

(1)あなたは日ごろ、健康や福祉サービスに関する情報をどのような手段で入手していますか。(複数回答)

健康や福祉サービスに関する情報の入手手段について、「区の広報紙」が41.5%と最も多く、次いで「家族や親戚」が18.0%、「友人・知人、近所の人」が16.6%となっている。一方、「特に入手していない」は24.5%となっている。

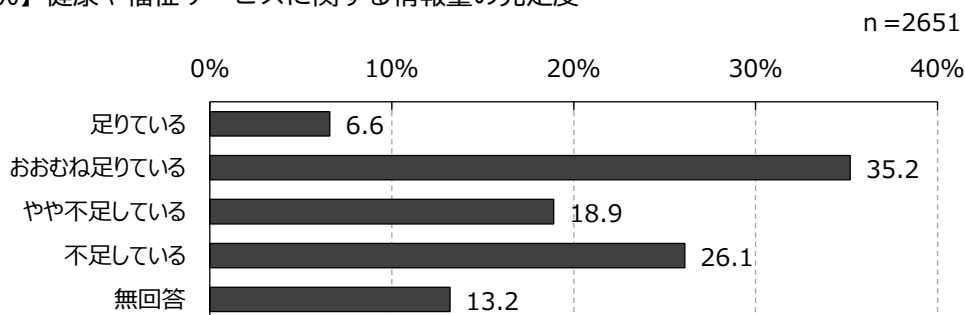
【図表 105】健康や福祉サービスに関する情報の入手手段



(2)あなたの入手している健康や福祉サービスに関する情報量は足りていると思いますか。

健康や福祉サービスに関する情報量の充足度について、「おおむね足りている」が35.2%と最も多く、次いで「不足している」が26.1%、「やや不足している」が18.9%となっている。

【図表 106】健康や福祉サービスに関する情報量の充足度

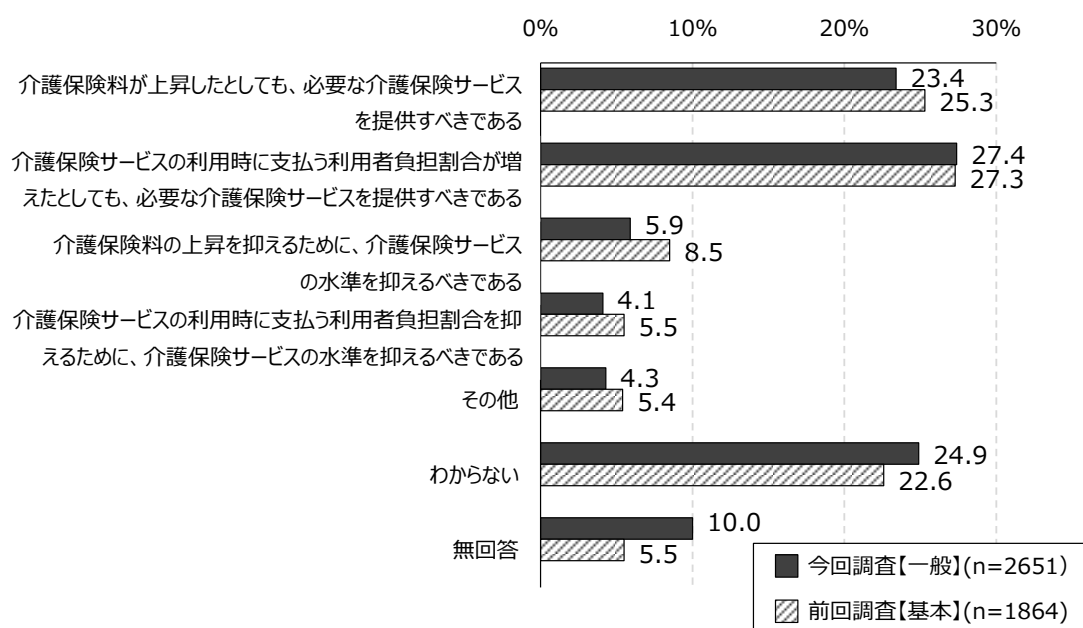


## 介護保険制度について

問74 今後、高齢者の増加に伴い、サービスにかかる費用も増大することが予想されます。介護保険のサービスと費用負担について、あなたのお考えに最も近いものは、次のうちどれですか。

介護保険のサービスと費用負担については、「介護保険サービスの利用時に支払う利用者負担割合が増えたとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」が27.4%と最も多く、次いで「わからない」が24.9%、「介護保険料が上昇したとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」が23.4%となっている。

【図表 107】 介護保険のサービスと費用負担〈前回比較〉



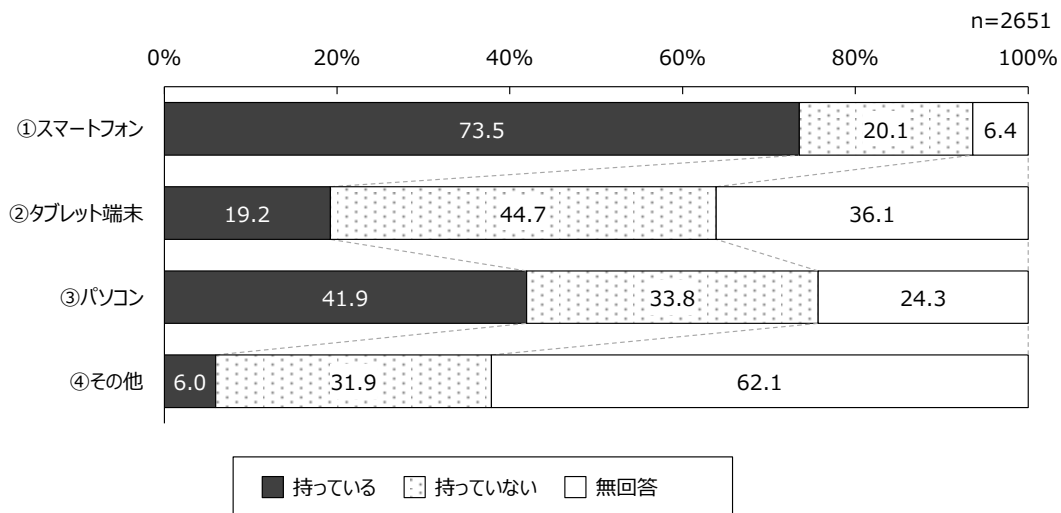
## 通信機器の利用状況等について

問75 通信機器の所有状況やインターネット等の利用状況についておたずねします。

### (1)所有状況

通信機器の所有状況については、①スマートフォンを「持っている」が73.5%、②タブレット端末を「持っている」が19.2%、③パソコンを「持っている」が41.9%となっている。

【図表 108】通信機器の所有状況



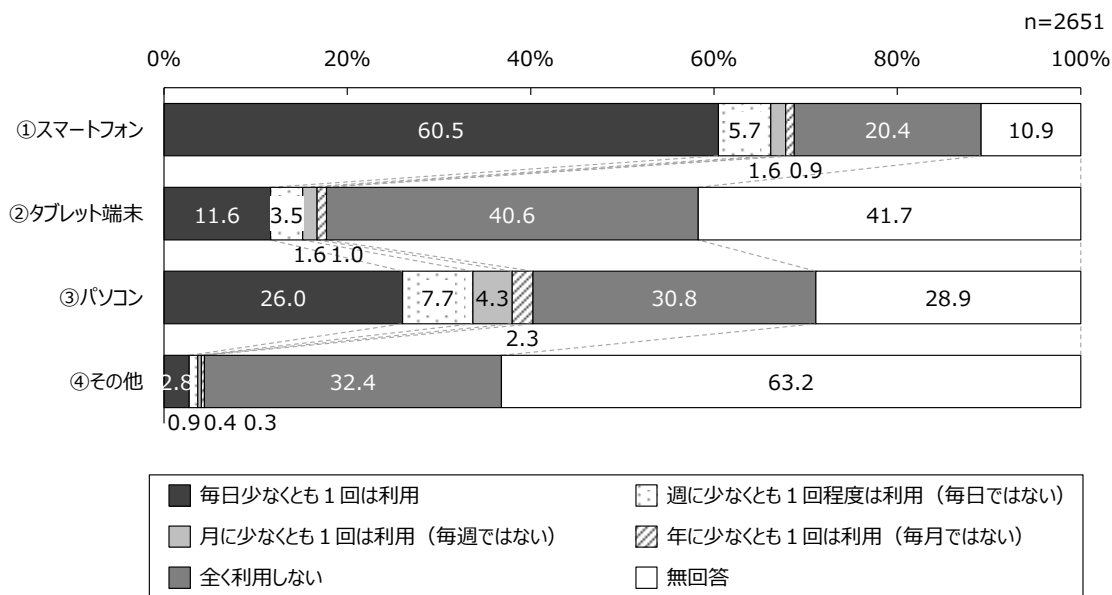
#### ▼その他の主な内容

携帯電話（ガラケー）／固定電話 等

## (2)過去1年のインターネットの利用状況

過去1年のインターネットの利用状況について、①スマートフォンでは、「毎日少なくとも1回は利用」が60.5%と最も多く、次いで「全く利用しない」が20.4%となっている。②タブレット端末では、「全く利用しない」が40.6%と最も多く、次いで「毎日少なくとも1回は利用」が11.6%となっている。③パソコンでは、「全く利用しない」が30.8%と最も多く、次いで「毎日少なくとも1回は利用」が26.0%となっている。

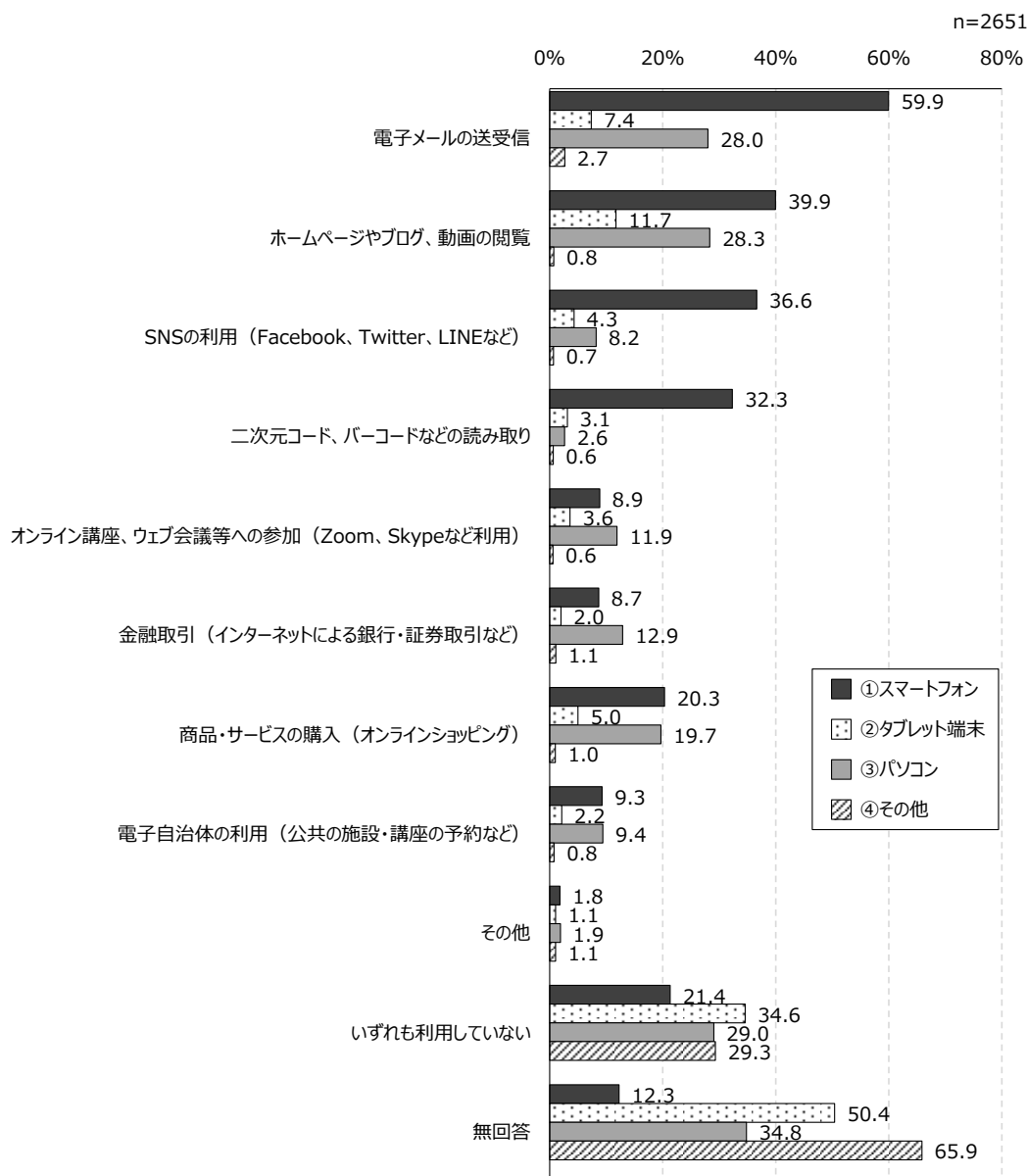
【図表 109】 過去1年のインターネットの利用状況



### (3)過去1年間に利用した通信機器を使った機能・サービス(複数回答)

過去1年間に通信機器を使って利用した機能・サービスについて、①スマートフォンでは、「電子メールの送受信」が59.9%と最も多く、次いで「ホームページやブログ、動画の閲覧」が39.9%となっている。②タブレット端末では、「ホームページやブログ、動画の閲覧」が11.7%、次いで「電子メールの送受信」が7.4%となっている。③パソコンでは、「ホームページやブログ、動画の閲覧」が28.3%、次いで「電子メールの送受信」が28.0%となっている。

【図表 110】過去1年間に通信機器を使って利用した機能・サービス



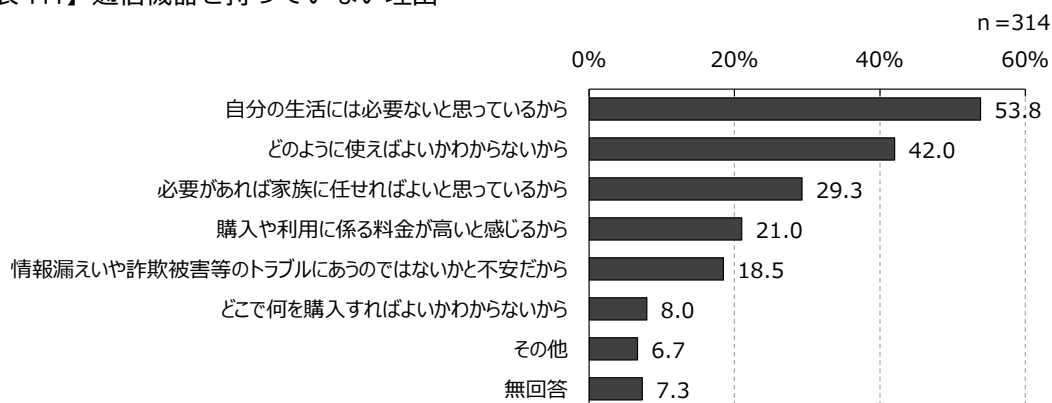
▼その他の主な内容

仕事／動画配信サービス／ゲームアプリ／表計算や文書作成 等

### 問75-1 スマートフォンなど通信機器を持っていない理由は何ですか。(複数回答)

すべての通信機器で「持っていない」と回答した人にその理由を聞いたところ、「自分の生活には必要ないと思っているから」が53.8%と最も多く、次いで「どのように使えばよいかわからないから」が42.0%、「必要があれば家族に任せればよいと思っているから」が29.3%となっている。

【図表 111】通信機器を持っていない理由



#### ▼その他の主な内容

携帯電話で十分／今後使いたい・検討中／視力低下のため／トラブル発生時に不安 等

## 自由記述

問76 高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区へのご要望・ご意見がありましたらご自由にお書きください。

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、682人から738件の回答があった。意見を18の項目にまとめた各項目の主な意見は以下のとおり。(その他を除く)

<b>介護保険・保険料について</b>	<b>131件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年金から引かれる介護保険料が高い。</li> <li>・介護保険料が高い。介護保険を利用していない人、健康な人の保険料が高額すぎる。</li> <li>・介護の5段階がどのように決められているのかが良くわからない。</li> </ul>	
<b>情報提供・相談について</b>	<b>100件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小冊子でQ&amp;Aのようなものや、こうなったらどこに連絡するなどまとめたものを送ってほしい。</li> <li>・高齢者の保健・福祉や介護等について、窓口がどこにあり具体的にどのような基準で、どのような対応をしてもらえるのかわからない。具体的な手引書等があればいいと思う。</li> <li>・マンション住まいの為、情報がなかなか入って来ない。特に地域の活動などは、大切なケア情報など、メール配信を考えてみてはどうか。</li> </ul>	
<b>高齢者施策について</b>	<b>57件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守りサポートの緊急通報システムの利用ができれば安心だ。</li> <li>・国や都に先がけて、福祉に重点を置いてすすめてほしい。最も困難をきわめている人に寄り添う新宿区であってほしい。</li> <li>・運転免許証の返納者にシルバーパスの先行発行及び個人負担分の(区としての)補助をしてほしい。</li> <li>・新宿区には全国的にも極めて「注目度」が高い地域があり、その意味でも高いレベルの保健と福祉が実施・提供されていることをアピールできるような施策を積極的に行うべきである。</li> <li>・高齢者が詐欺に遭わないように絶えず注意喚起をしてほしい。</li> <li>・元気に仕事がしたいのに年齢制限があり、思うように仕事が見つからない。高齢者でも働きたい人が就労できる仕組みをつくっていくべきだと思う。</li> </ul>	
<b>行政への要望等について</b>	<b>51件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・带状疱疹ワクチンの費用を助成してほしい。</li> <li>・エレベーター、スロープ、手すり等の設置を充実してほしい。</li> <li>・安全に歩ける道路や歩道となるように整備してほしい。</li> <li>・山手通りに区のミニバスが走っていたらいいと思う。</li> </ul>	
<b>健康・介護予防について</b>	<b>40件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護を必要としない為に高齢者に施策をするのではなく、中年層に運動・健康意識等の対応が必要だと思う。</li> <li>・介護予防講習会や健康相談等、出張所などで開催してくれたら参加したいと思う。</li> <li>・介護予防に関して基礎体力、運動能力の維持、向上をすすめるための活動・サービスの充実・制度の改正を望む。</li> </ul>	



<b>アンケートについて</b>	<b>40件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・このアンケートの質問数が多すぎて、後期高齢者では答えられない。もっと設問を簡単にしないと無駄になるのでは。</li> <li>・このような調査をすることで、より良い施策を期待している。</li> <li>・今回のアンケートは、介護保険等今後考える機会となった。このアンケートに保健福祉の案内チラシ等を同封しているとよかった。</li> <li>・このアンケートのおかげで、成年後見制度の事も勉強になった。</li> </ul>	
<b>サービスについて</b>	<b>32件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出来れば質の良い介護を希望したいと思う。</li> <li>・家族にあまり負担をかけずに自宅で過ごせるような介護サービスを手厚くしてほしい。</li> <li>・一人暮らしと同居人がいる場合で受けられるサービスが違うというのが納得いかない。</li> </ul>	
<b>国民健康保険・後期高齢者医療保険について</b>	<b>23件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期高齢者医療保険料が高く年金の手取りが少なくなり、生活に影響し経済的にゆとりがなくなるように感じている。</li> <li>・後期高齢者健康保険料負担1割から2割はきつい。</li> <li>・後期高齢者の医療費負担割合の2割への切り替えについて、家族全員が対象となっている。保険料は配偶者とは別々に支払っているのに、収入の少ない配偶者も2割負担となることに疑問がある。</li> </ul>	
<b>IT・通信機器について</b>	<b>22件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・都内でもいくつかの区はスマートフォンの貸与等の取り組みをしていると新聞で見たが、新宿区はなぜしないのか。</li> <li>・スマホ、パソコン、タブレット等、自分で使えるように基本的な使い方を教えてくれる場所がほしい。</li> <li>・65才以上の高齢者には希望の有無を問わず、区の広報と直結するタブレットを配るべきだと思う。</li> <li>・電子処理が多くなり高齢者には、生きづらいと感じる。</li> </ul>	
<b>高齢者向け施設について</b>	<b>21件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が安心して入居できる施設をつくってほしい。</li> <li>・高齢者（低所得者）が利用できる介護施設を多く建設して、老後、心配のない福祉社会になってほしい。</li> <li>・高齢者が元気うちに、行政は地方に有料老人生活施設をつくり、自然の中で（但し、都市に出る交通機関があること）種々の職業の専門経験者は大歓迎で入居させる施設はどうか。</li> </ul>	
<b>生活不安・将来不安について</b>	<b>19件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年金が減額されるというニュースを見るが、大変不安。</li> <li>・動けなくなり日常生活が困難になった時、一人で病院へも行けなくなった時どうしたらいいのか。</li> <li>・80才になった。これから先はたして元気で過ごせるのか、子どもに迷惑がかからないか、そういう事を考えると、とても不安になる。</li> </ul>	
<b>独居高齢者について</b>	<b>19件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らしの高齢者が認知症になった場合の対応、包括をしっかりとしてほしい。</li> <li>・高齢者の一人暮らしで持家があり面倒を見る人がいないとき、事前に区に全財産を渡す契約を交わし、亡くなるまでの面倒を区が見るとするのはどうだろうか。</li> </ul>	

1 一般高齢者+介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

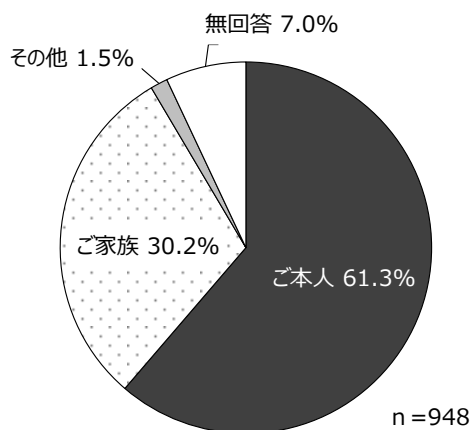
<b>地域のコミュニケーションについて</b>	<b>10件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちや全世代層と、日常的にふれ合う機会がある環境づくり。</li> <li>・地域ごとに、隣、近所の方々とふれあいの場所があれば嬉しい。</li> <li>・ワンルームマンションの建設が進みどのような人々が居住しているのかわからないなか、地域のつながりが少なく支えてくれる人々が減少している。</li> </ul>	
<b>住まいについて</b>	<b>9件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らし高齢者でも安心して入居できる住宅が増えるとよい。</li> <li>・高齢者のアパート賃貸契約の保証会社利用可能拡大策。</li> </ul>	
<b>かかりつけ医・医療体制について</b>	<b>5件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・かかりつけ医がどこまで対応してくれるか不安。緊急医療が心配。</li> <li>・長年通院していても夜間はほとんど受診できない。夜間の医療体制が安心できるものになってほしいと思う。</li> </ul>	
<b>災害時・緊急時のことについて</b>	<b>2件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別のレスキュー計画、薬、病院についてなど災害時の対応がどうなっているのか知りたい。</li> <li>・近所でも一人暮らしの高齢者が多い。緊急時の連絡や情報の提供をどの様にしたら良いのか考える。</li> </ul>	
<b>認知症について</b>	<b>2件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症が心配なので、認知症の予防方法などを教えてほしい。</li> <li>・認知症であるために健康維持が難しい場面に多く遭遇した。治療の余地のある段階で検査や診察を受けやすくなる方策があればいいと思う。</li> </ul>	
<b>その他</b>	<b>155件</b>

## 2 要支援・要介護認定者調査

### あなたご自身のことについて

調査票を記入した人

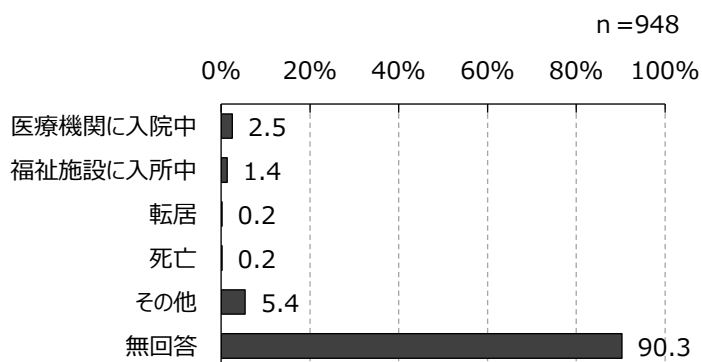
【図表 112】 調査票の記入者



記入者	人数
ご本人	582
ご家族	286
その他	14
無回答	66
合計	948

ご本人が何らかの事情によりご不在の場合

【図表 113】 不在の事情

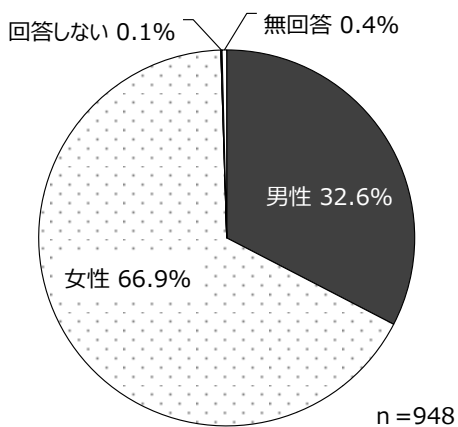


不在の事情	人数
医療機関に入院中	24
福祉施設に入所中	13
転居	2
死亡	2
その他	51
上記に該当しない	856
合計	948

2 要支援・要介護認定者調査

問1 性別を教えてください。

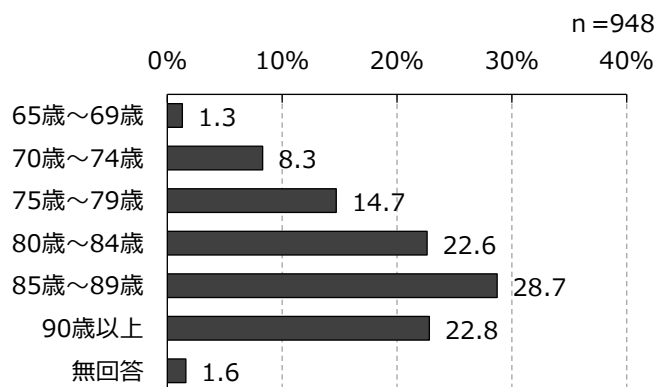
【図表 114】性別



性別	人数
男性	309
女性	634
その他	0
回答しない	1
無回答	4
合計	948

問2 年齢をご記入ください。

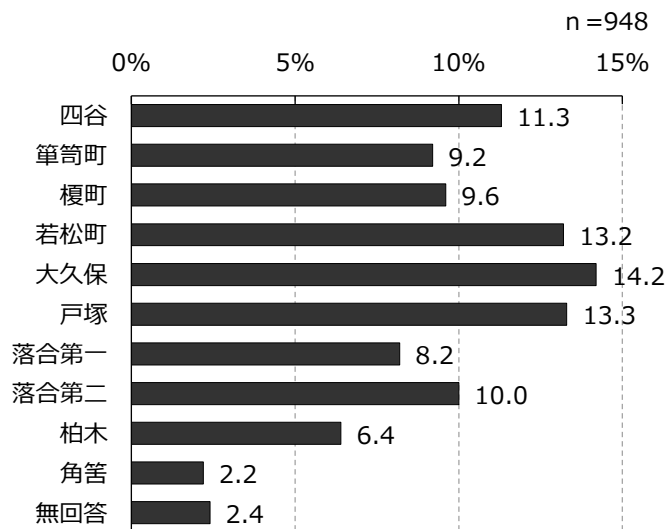
【図表 115】年齢



年齢	人数
65～69歳	12
70～74歳	79
75～79歳	139
80～84歳	214
85～89歳	273
90歳以上	216
無回答	15
合計	948

問3 あなたのお住まいは、どの特別出張所管内ですか。

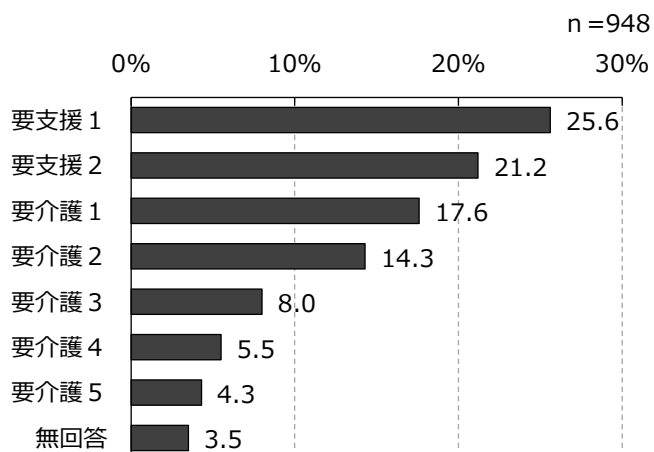
【図表 116】 居住地域



居住地域	人数
四谷	107
箆笥町	87
榎町	91
若松町	125
大久保	134
戸塚	126
落合第一	78
落合第二	95
柏木	61
角筈	21
無回答	23
合計	948

問4 あなたの現在の要介護度は、次のうちどれですか。

【図表 117】 現在の要介護度



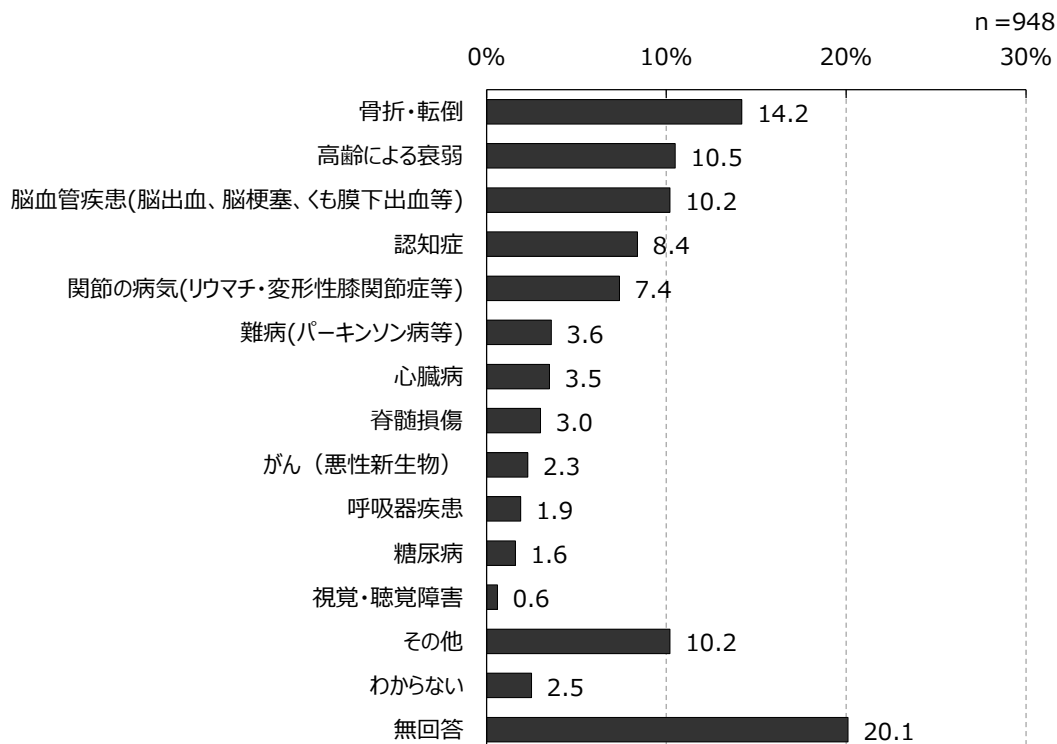
現在の要介護度	人数
要支援1	242
要支援2	201
要介護1	167
要介護2	136
要介護3	76
要介護4	52
要介護5	41
無回答	33
合計	948

## 2 要支援・要介護認定者調査

問5 あなたが、介護を必要とするようになった主な原因は、次のうちどれですか。

介護が必要になった主な原因については、「骨折・転倒」が14.2%と最も多く、次いで「高齢による衰弱」が10.5%、「脳血管疾患(脳出血、脳梗塞、くも膜下出血等)」が10.2%となっている。

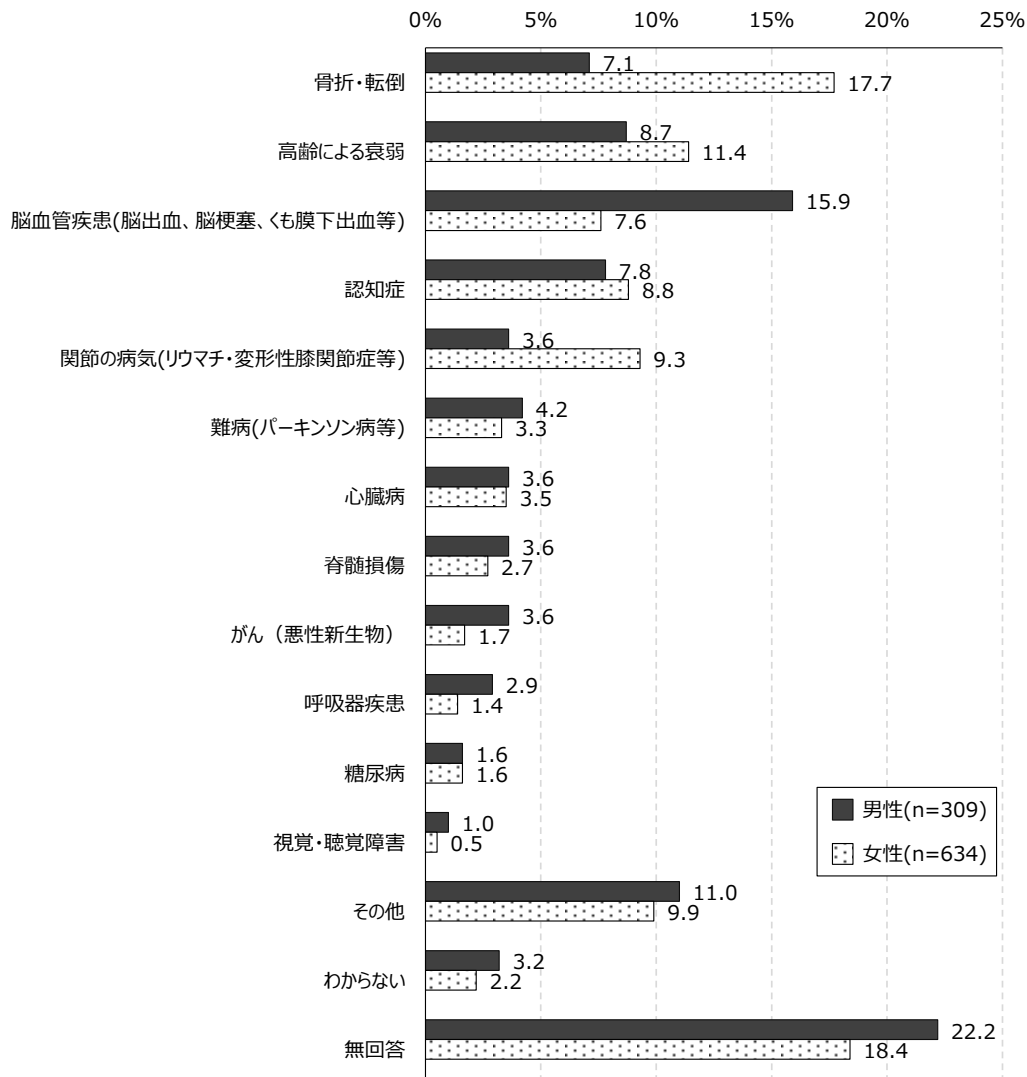
【図表 118】 介護が必要になった主な原因



## ■介護が必要になった主な原因〈性別〉

介護が必要になった主な原因について性別にみると、「脳血管疾患(脳出血、脳梗塞、くも膜下出血等)」は男性の方が女性より8.3ポイント高く、「骨折・転倒」は女性の方が男性より10.6ポイント高くなっている。

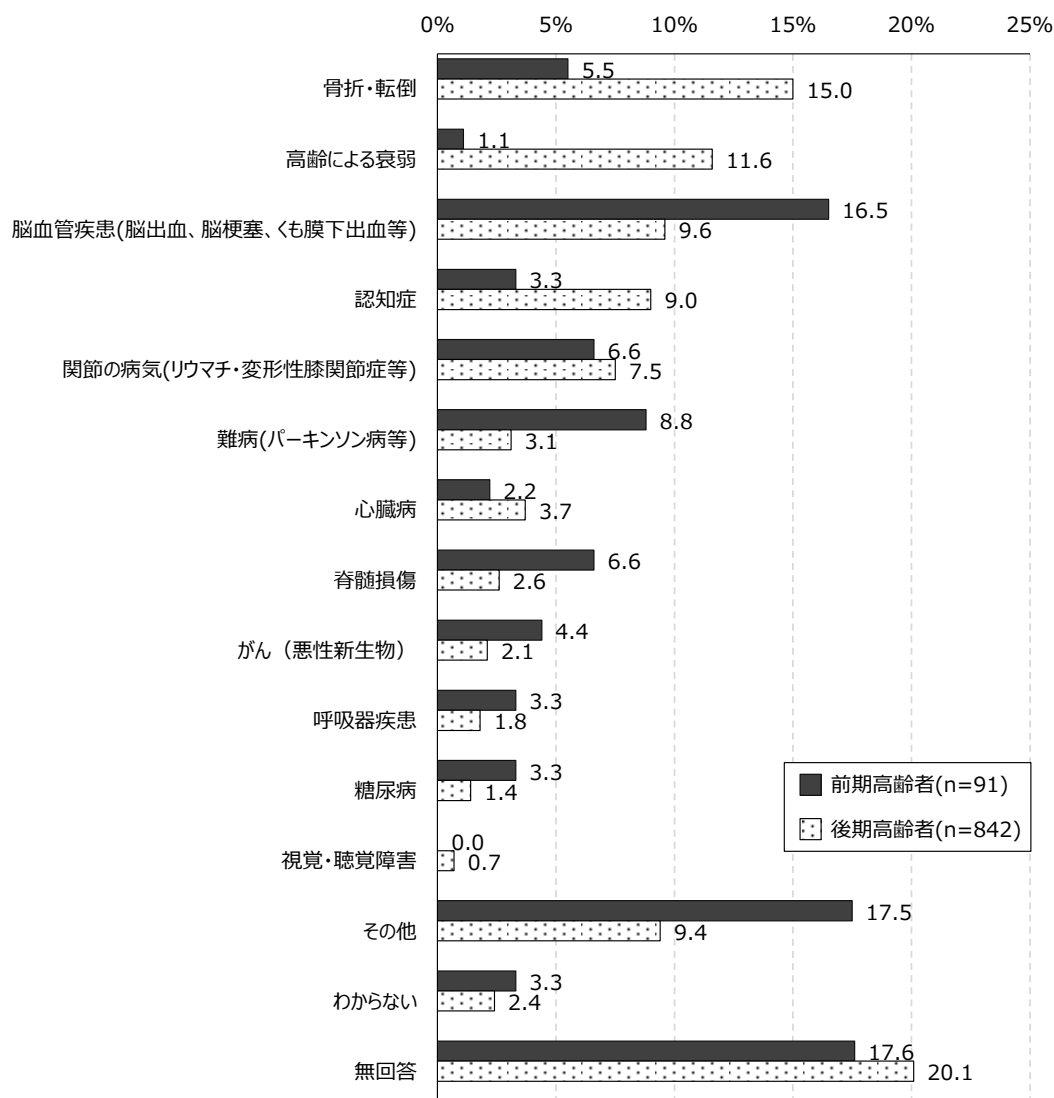
【図表 119】 介護が必要になった主な原因 〈性別〉



■介護が必要になった主な原因〈年齢別〉

介護が必要になった主な原因について年齢別にみると、「脳血管疾患(脳出血、脳梗塞、くも膜下出血等)」は前期高齢者の方が後期高齢者より6.9ポイント高く、「骨折・転倒」は後期高齢者の方が前期高齢者より9.5ポイント高くなっている。

【図表 120】 介護が必要になった主な原因 〈年齢別〉



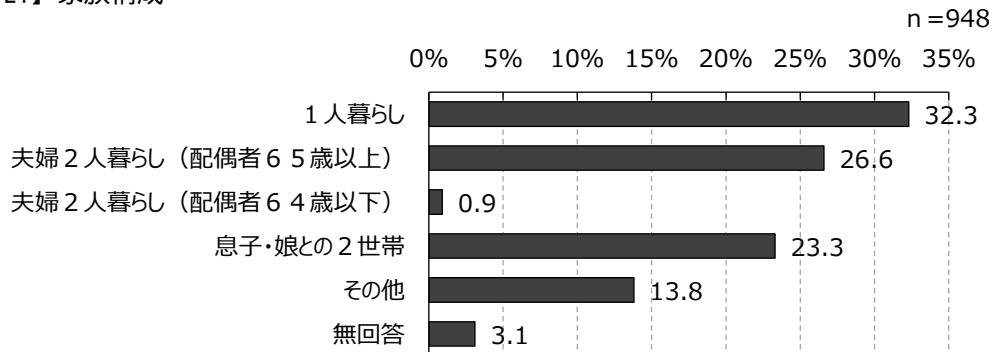


## あなたのご家族や生活状況について

### 問6 家族構成を教えてください。

家族構成については、「1人暮らし」が32.3%と最も多く、次いで「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が26.6%、「息子・娘との2世帯」が23.3%となっている。

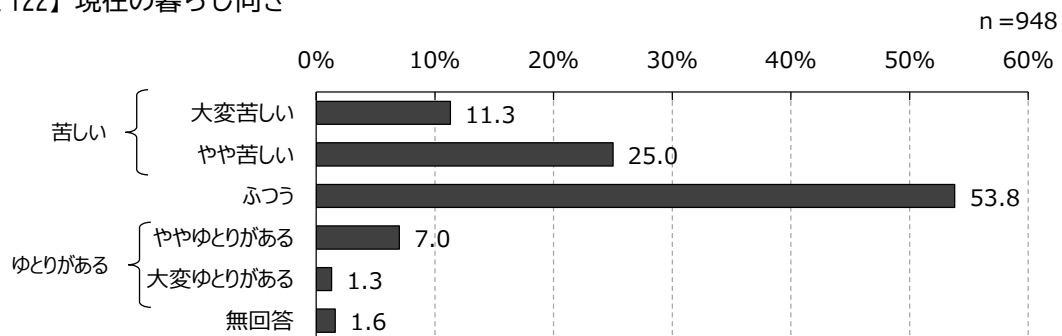
【図表 121】 家族構成



### 問7 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。

現在の暮らしの経済的な状況については、「ふつう」が53.8%と最も多く、「大変苦しい」（11.3%）と「やや苦しい」（25.0%）を合わせた“苦しい”は36.3%となっている。一方、「ややゆとりがある」（7.0%）と「大変ゆとりがある」（1.3%）を合わせた“ゆとりがある”は8.3%となっている。

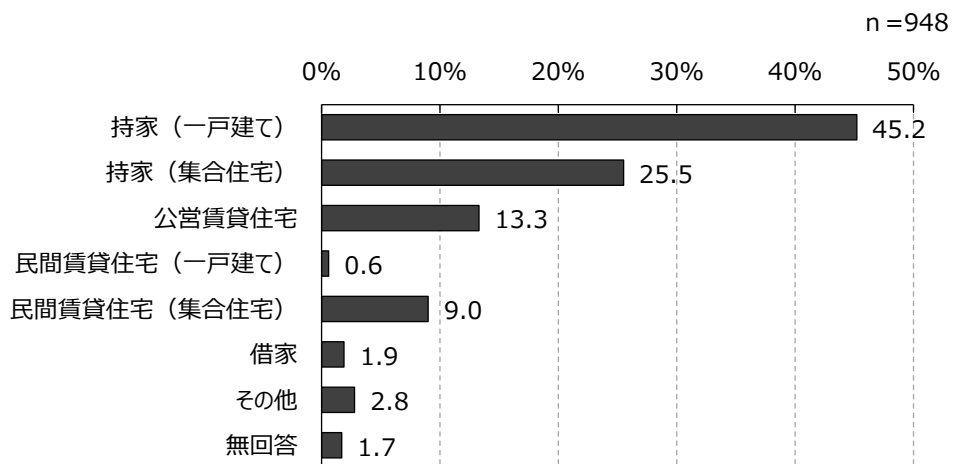
【図表 122】 現在の暮らし向き



問8 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。

住まいについては、「持家（一戸建て）」が45.2%と最も多く、次いで「持家（集合住宅）」が25.5%、「公営賃貸住宅」が13.3%となっている。

【図表 123】住居の形態



## 食べることについて

問9 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。

問10 お茶や汁物等でむせることがありますか。

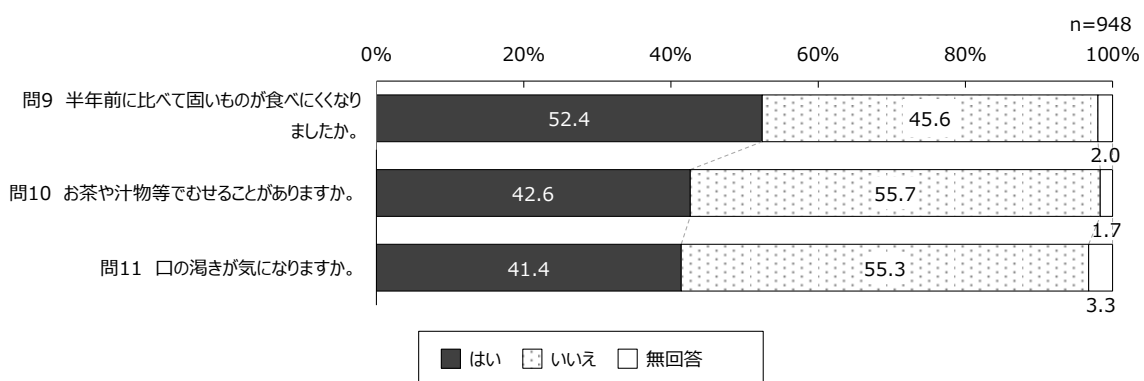
問11 口の渇きが気になりますか。

半年前に比べて固いものが食べにくくなったかでは、「はい」が52.4%、「いいえ」が45.6%となっている。

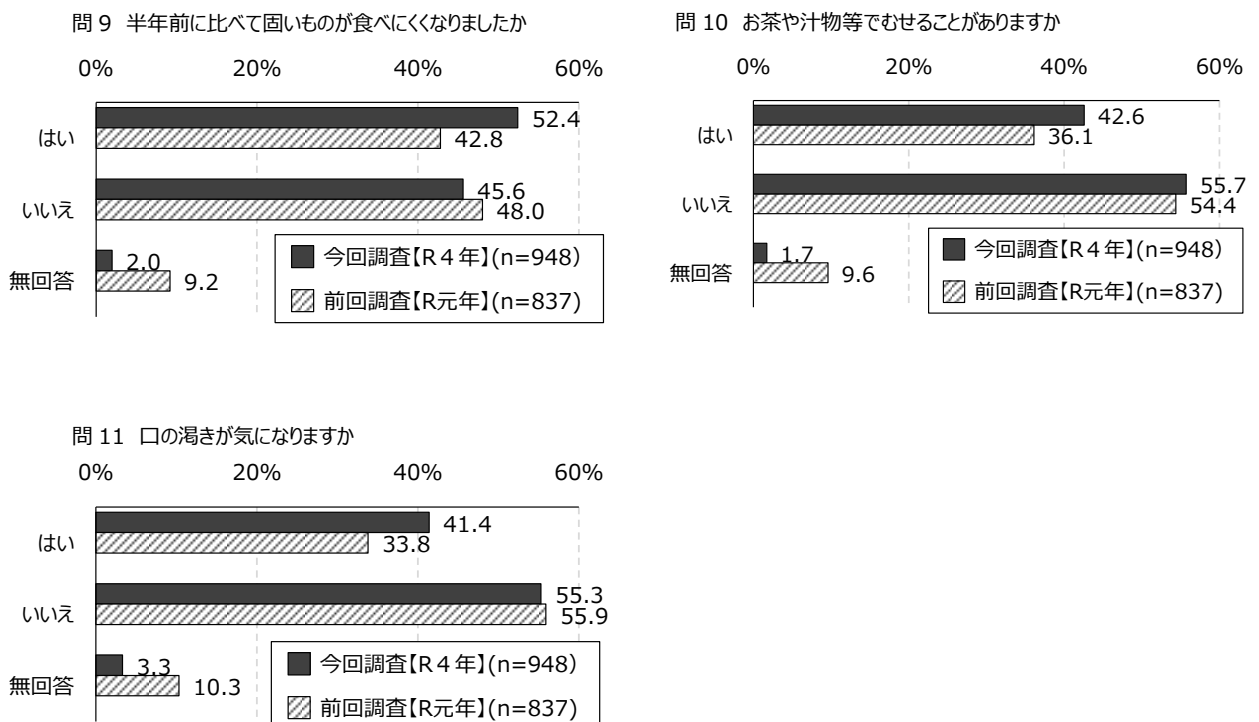
お茶や汁物等でむせることがあるかでは、「はい」が42.6%、「いいえ」が55.7%となっている。

口の渇きが気になるかでは、「はい」が41.4%、「いいえ」が55.3%となっている。

【図表 124】口腔機能について



【図表 125】口腔機能について〈前回比較〉

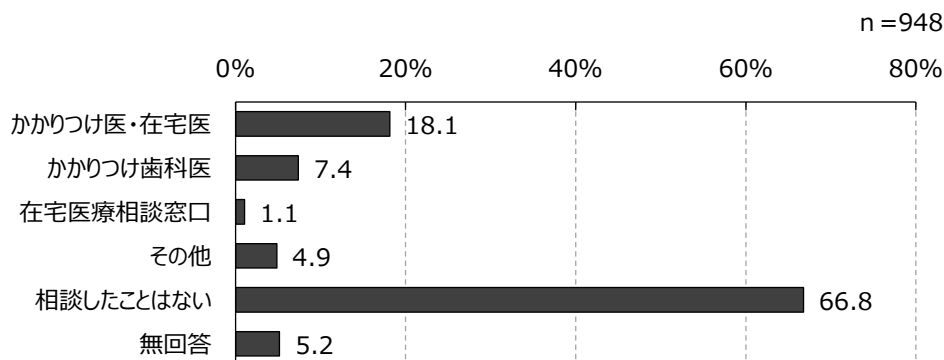


2 要支援・要介護認定者調査

問12 摂食嚥下(食べたり、飲み込んだりすること)についてどこかに相談したことがありますか。(複数回答)

摂食嚥下についてどこかに相談したことがあるかについては、「相談したことはない」が66.8%と最も多く、次いで「かかりつけ医・在宅医」が18.1%、「かかりつけ歯科医」が7.4%となっている。

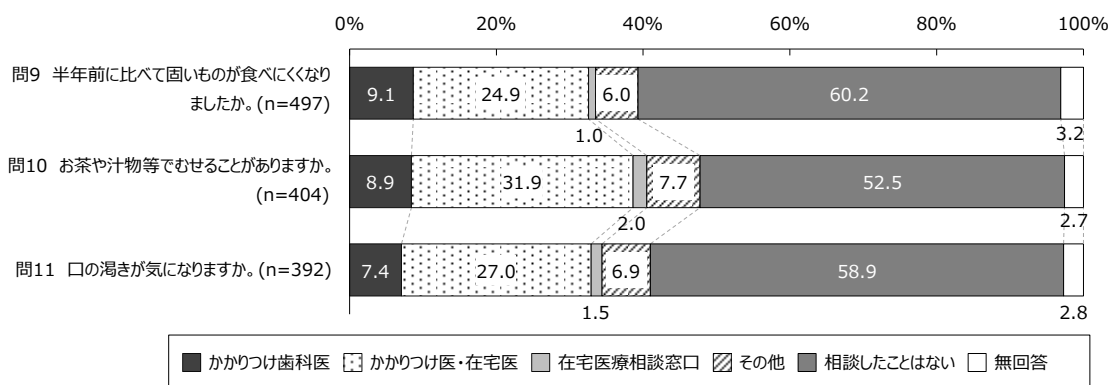
【図表 126】 摂食嚥下についての相談先



■ 摂食嚥下についての相談先<口腔機能別>

摂食嚥下についての相談先を口腔機能別にみると、いずれも『はい』と回答した人のうち「相談したことはない」の割合が最も高くなっている。

【図表 127】 摂食嚥下についての相談先 <問9~11 口腔機能の設問で「はい」と回答した人別>



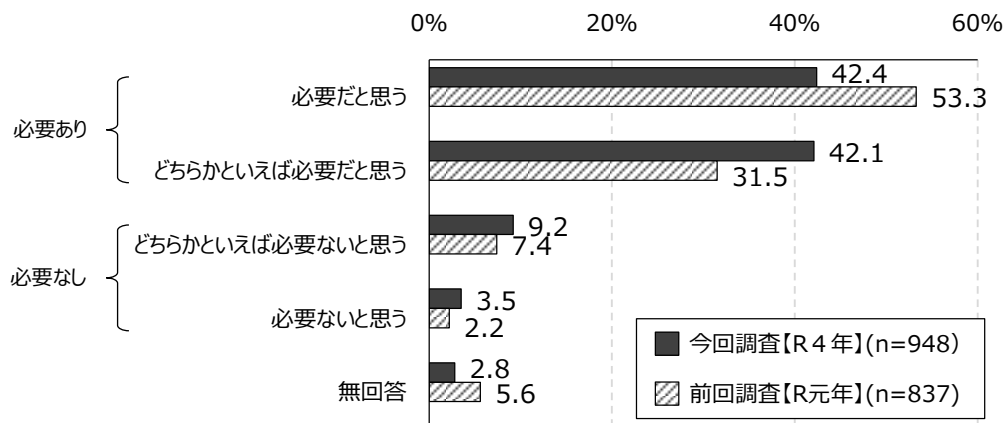
## たすけあいについて

問13 あなたの日々の暮らしの中で、地域のつながり(住民同士の助け合い・支え合いなど)についておたずねします。

## (1)地域のつながりの必要性

地域のつながりの必要性については、「必要だと思う」(42.4%)と「どちらかといえば必要だと思う」(42.1%)を合わせた“必要あり”は84.5%となっている。

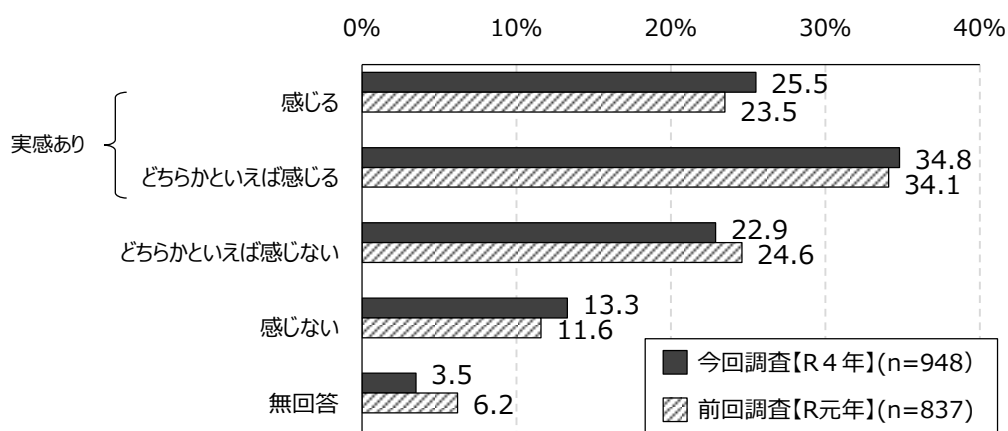
【図表 128】地域のつながりの必要性〈前回比較〉



## (2)地域のつながりの実感

地域のつながりの実感については、「感じる」(25.5%)と「どちらかといえば感じる」(34.8%)を合わせた“実感あり”は60.3%となっている。

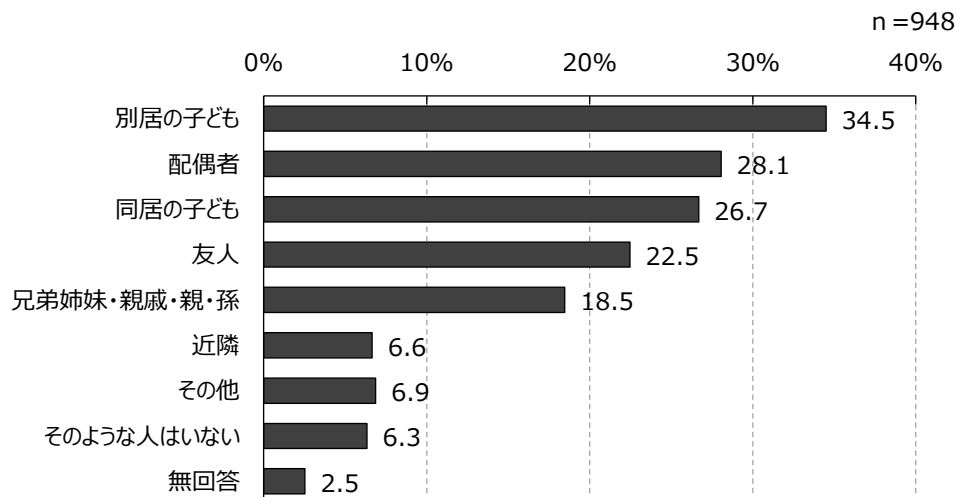
【図表 129】地域のつながりの実感〈前回比較〉



問14 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人。(複数回答)

心配事や愚痴を聞いてくれる人については、「別居の子ども」が34.5%と最も多く、次いで「配偶者」が28.1%、「同居の子ども」が26.7%となっている。

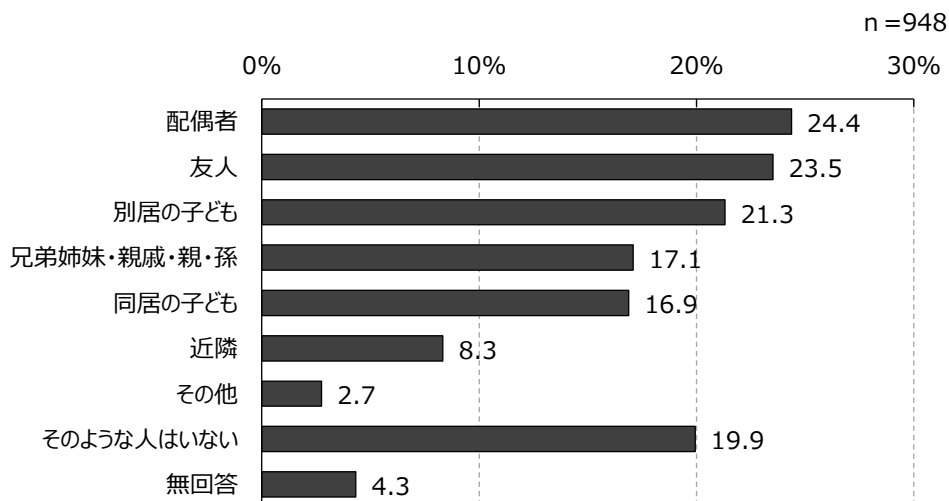
【図表 130】 心配事や愚痴を聞いてくれる人



問15 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人。(複数回答)

心配事や愚痴を聞いてあげる人については、「配偶者」が24.4%と最も多く、次いで「友人」が23.5%、「別居の子ども」が21.3%となっている。

【図表 131】 心配事や愚痴を聞いてあげる

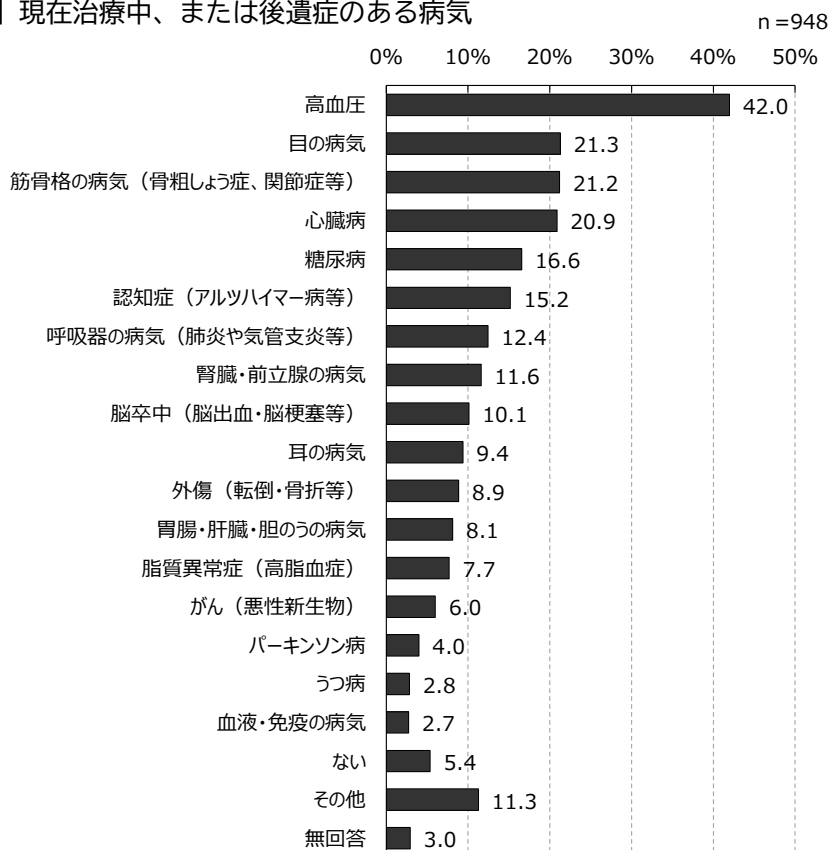


## 健康状態について

## 問16 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(複数回答)

現在治療中、または後遺症のある病気については、「高血圧」が42.0%と最も多く、次いで「目の病気」が21.3%、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」が21.2%となっている。

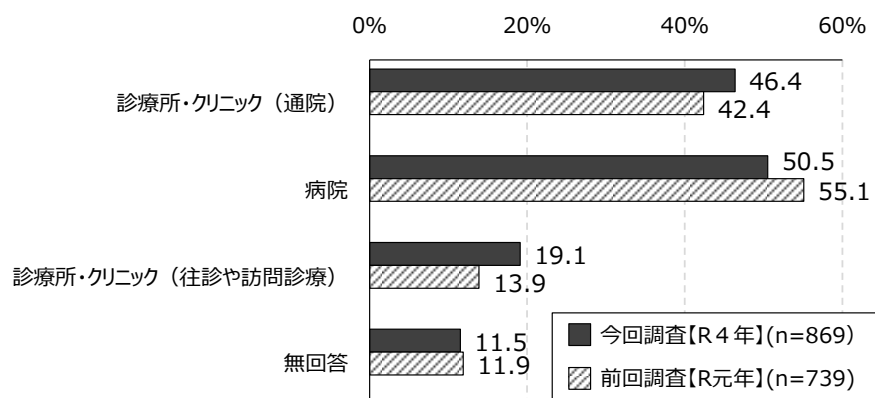
【図表 132】 現在治療中、または後遺症のある病気



## 問16-1 受診している医療機関は、次のうちどれですか。(複数回答)

現在治療中、または後遺症のある病気について『ある』と回答した人に、受診している医療機関を聞いたところ、「病院」が50.5%と最も多く、次いで「診療所・クリニック（通院）」が46.4%、「診療所・クリニック（往診や訪問診療）」が19.1%となっている。

【図表 133】 受診している医療機関〈前回比較〉

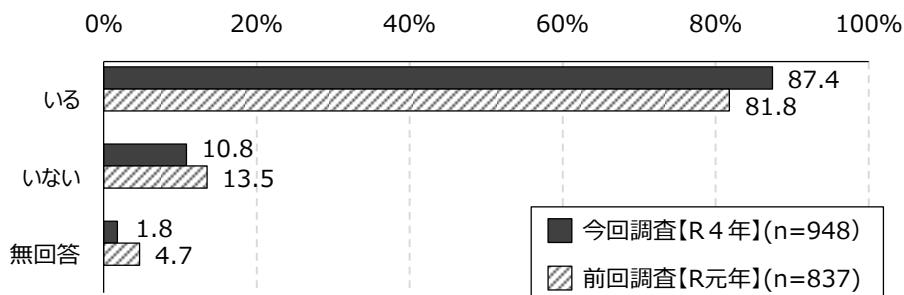


## かかりつけの医療機関について

問17 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる診療所・クリニックの「かかりつけ医」がいますか。

かかりつけ医の有無については、「いる」が87.4%、「いない」が10.8%となっている。

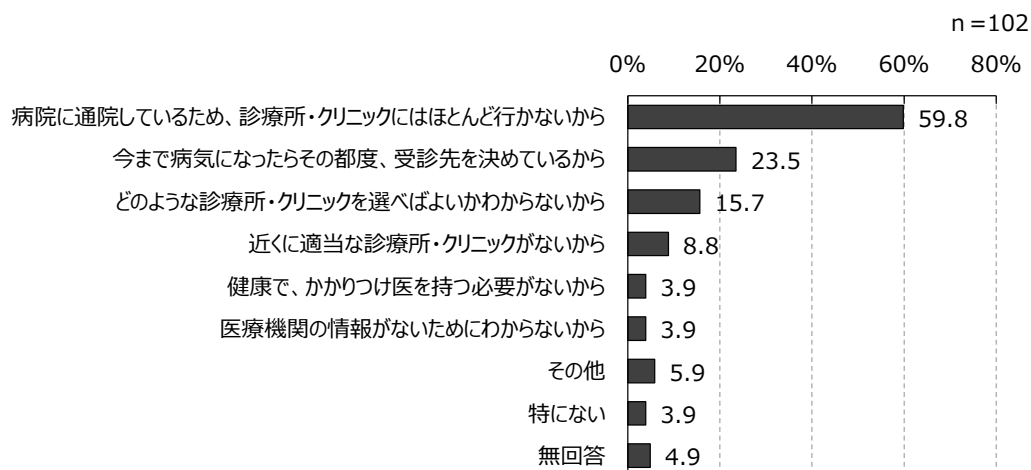
【図表 134】 かかりつけ医の有無



問17-1 かかりつけ医がいない理由は、次のうちどれですか。(複数回答)

かかりつけ医が「いない」と回答した人にその理由を聞いたところ、「病院に通院しているため、診療所・クリニックにはほとんど行かないから」が59.8%と最も多く、次いで「今まで病気になったらその都度、受診先を決めているから」が23.5%、「どのような診療所・クリニックを選べばよいかわからないから」が15.7%となっている。

【図表 135】 かかりつけ医がいない理由

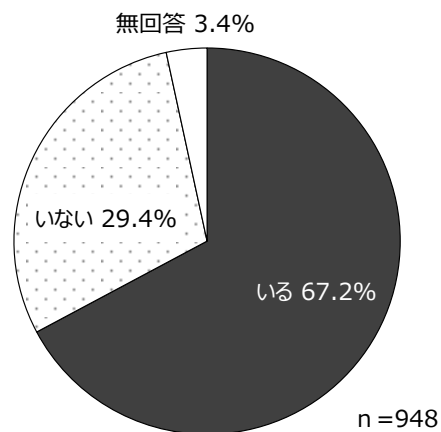




問18 あなたは、治療や予防のために定期的に受診している「かかりつけ歯科医」がいますか。

かかりつけ歯科医の有無については、「いる」が67.2%、「いない」が29.4%となっている。

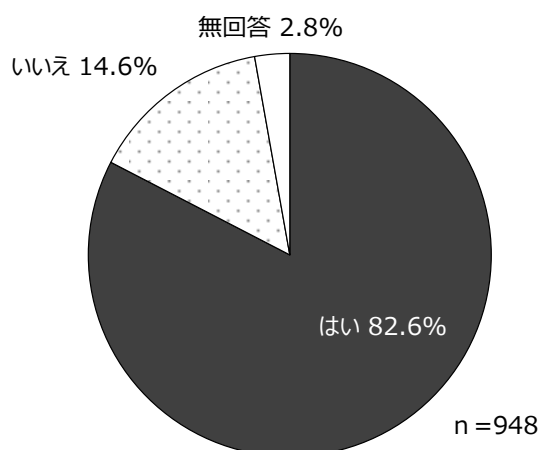
【図表 136】 かかりつけ歯科医の有無



問19 あなたは、病院・診療所から処方された薬について相談できる「かかりつけ薬局」がありますか。

かかりつけ薬局の有無については、「はい」が82.6%、「いいえ」が14.6%となっている。

【図表 137】 かかりつけ薬局の有無

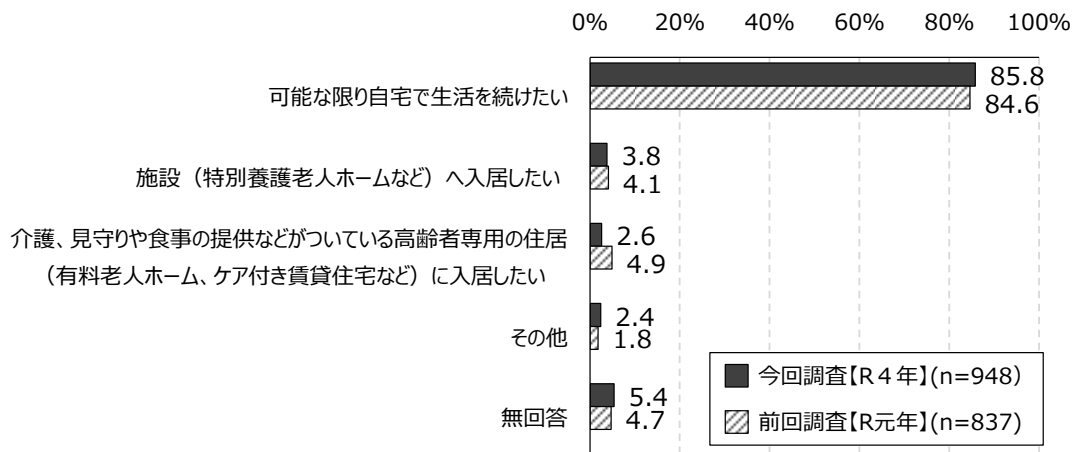


## 在宅療養等について

問20 あなたは、これからも今のお住まい(自宅等)で生活を続けたいと思いますか。

これからも今の住まいで生活を続けたいと思うかについては、「可能な限り自宅で生活を続けたい」が85.8%と最も多くなっている。

【図表 138】今の住まいで生活を続けたいと思うか〈前回比較〉

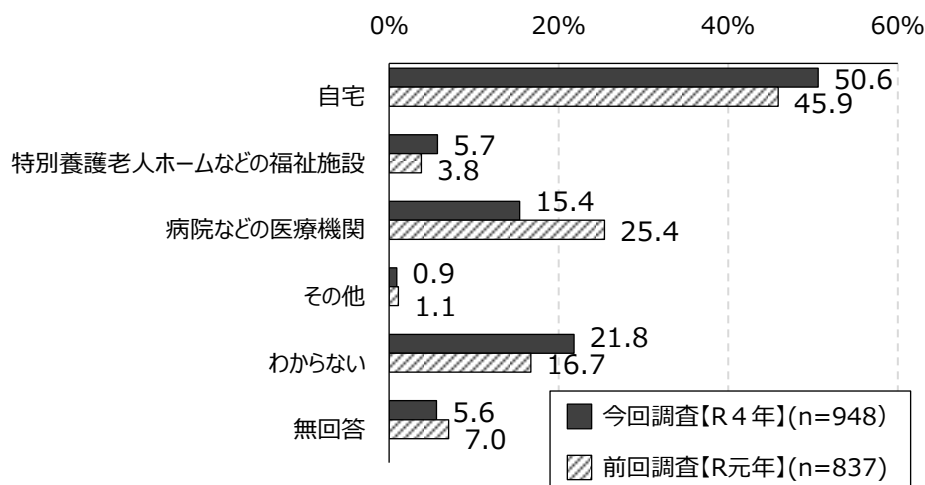


## ACP（人生会議）について

## 問21 あなたは、ご自身の最期をどこで迎えたいと思いますか。

自身の最期を迎えたい場所については、「自宅」が50.6%と最も多く、次いで「わからない」が21.8%、「病院などの医療機関」が15.4%、となっている。

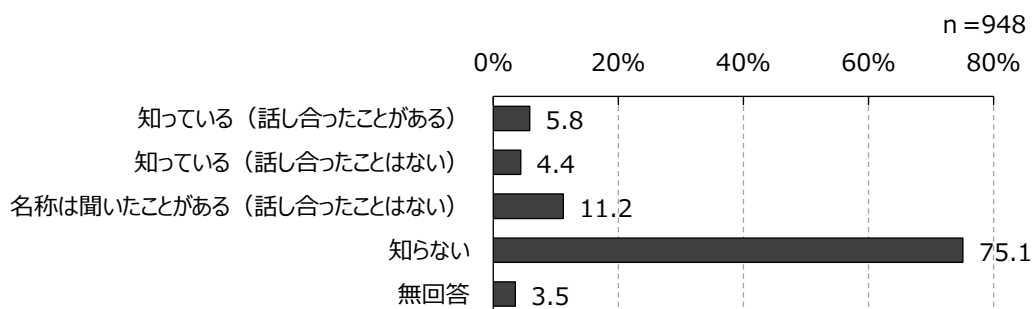
【図表 139】最期を迎えたい場所〈前回比較〉



## 問22 あなたは、ACP(人生会議)について知っていますか。

ACP（人生会議）についての認知度は、「知らない」が75.1%と最も多く、次いで「名称は聞いたことがある（話し合ったことはない）」が11.2%、「知っている（話し合ったことがある）」が5.8%となっている。

【図表 140】ACP（人生会議）の認知度

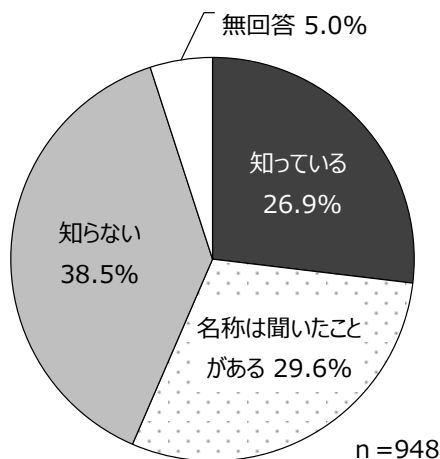


## 緩和ケアについて

問23 あなたは、「緩和ケア」について、知っていますか。

緩和ケアについての認知度は、「知らない」が38.5%と最も多く、次いで「名称は聞いたことがある」が29.6%、「知っている」が26.9%となっている。

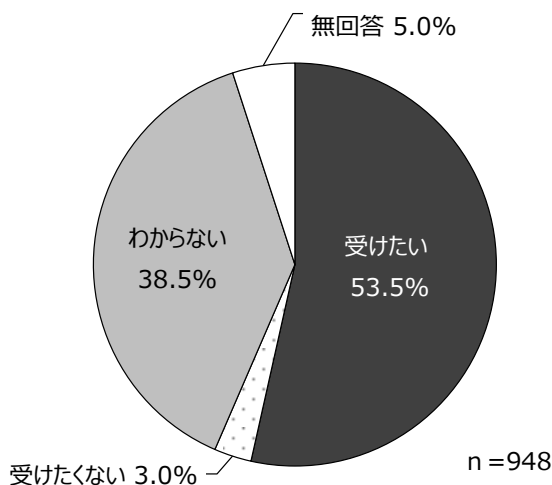
【図表 141】 緩和ケアの認知度



問24 あなたは、緩和ケアが必要になった時、早期から痛みやつらさの緩和を主とした「緩和ケア」を受けたいですか。

緩和ケアが必要になった時、緩和ケアを受けたいと思うかについて、「受けたい」が53.5%と最も多く、次いで「わからない」が38.5%、「受けたくない」が3.0%となっている。

【図表 142】 緩和ケアを受けたいと思うか

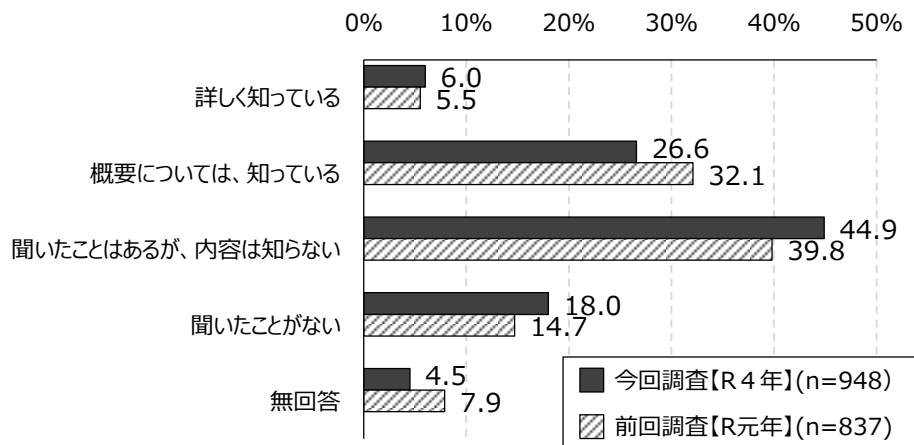


## 権利擁護について

### 問25 あなたは、成年後見制度を知っていますか。

成年後見制度の認知度については、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が44.9%と最も多く、次いで「概要については、知っている」が26.6%、「聞いたことがない」が18.0%となっている。

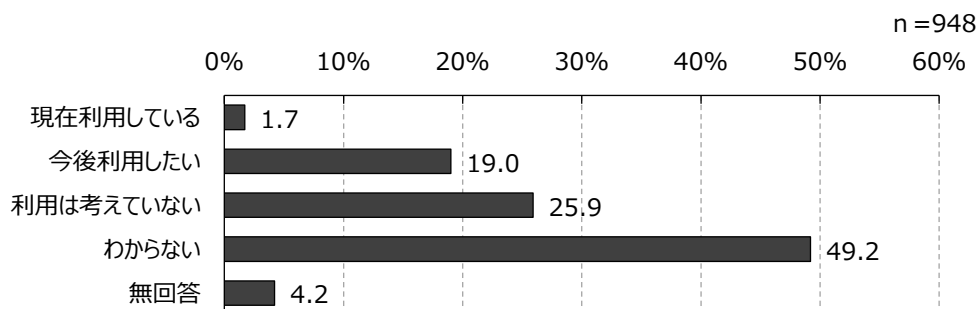
【図表 143】成年後見制度の認知度〈前回比較〉



### 問26 あなたは、あなた自身あるいは家族・親族が認知症等により判断能力が十分でなくなったとき、成年後見制度を利用したいと思いますか。

自身あるいは家族・親族が認知症等により判断能力が十分でなくなったときの成年後見制度の利用意向について、「わからない」が49.2%と最も多く、次いで「利用は考えていない」が25.9%、「今後利用したい」が19.0%となっている。

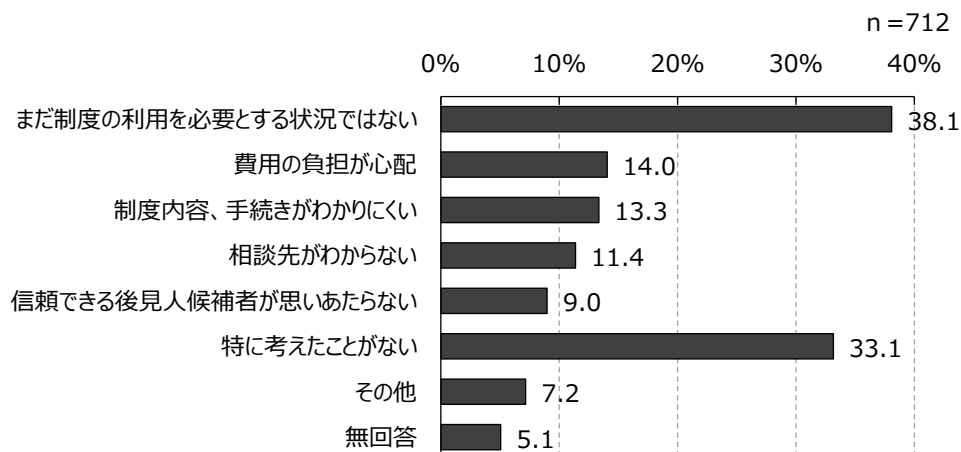
【図表 144】成年後見制度の利用意向



問26-1 成年後見制度を利用しない理由として、どのようなものがありますか。  
(複数回答)

成年後見制度の利用意向で「利用は考えていない」、「わからない」と回答した人にその理由を聞いたところ、「まだ制度の利用を必要とする状況ではない」が38.1%と最も多く、次いで「特に考えたことがない」が33.1%、「費用の負担が心配」が14.0%となっている。

【図表 145】成年後見制度を利用しない理由

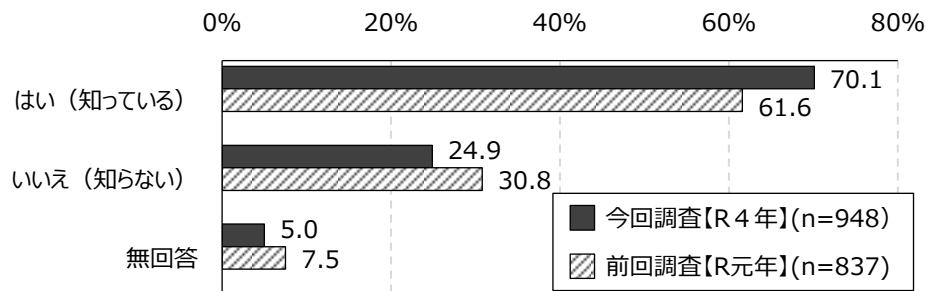


## 健康・福祉サービスの情報や相談窓口について

問27 あなたは、「高齢者総合相談センター」の名称を知っていますか。

高齢者総合相談センターの名称の認知度については、「はい」が70.1%、「いいえ」が24.9%となっている。

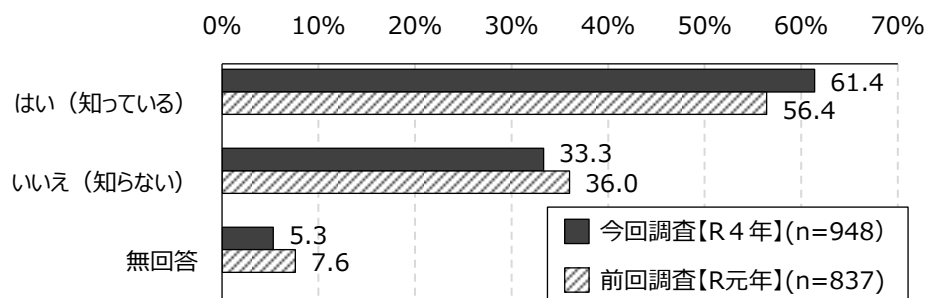
【図表 146】 高齢者総合相談センターの名称の認知度〈前回比較〉



問28 あなたは、「高齢者総合相談センター」が何をする機関か知っていますか。

機能の認知度については、「はい」が61.4%、「いいえ」が33.3%となっている。

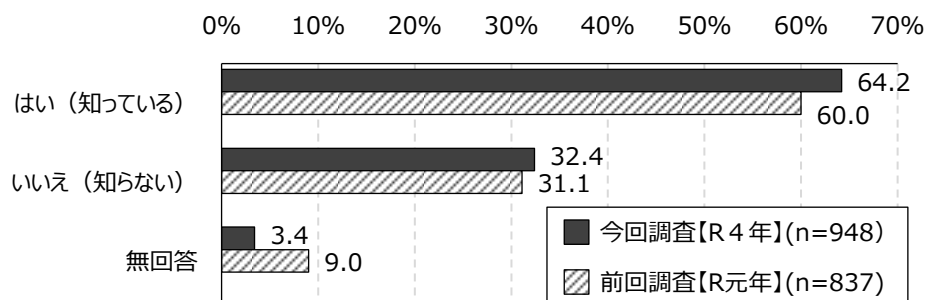
【図表 147】 高齢者総合相談センターの機能の認知度〈前回比較〉



問29 あなたは、あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるか知っていますか。

所在地の認知度については、「はい」が64.2%、「いいえ」が32.4%となっている。

【図表 148】 高齢者総合相談センターの所在地の認知度〈前回比較〉

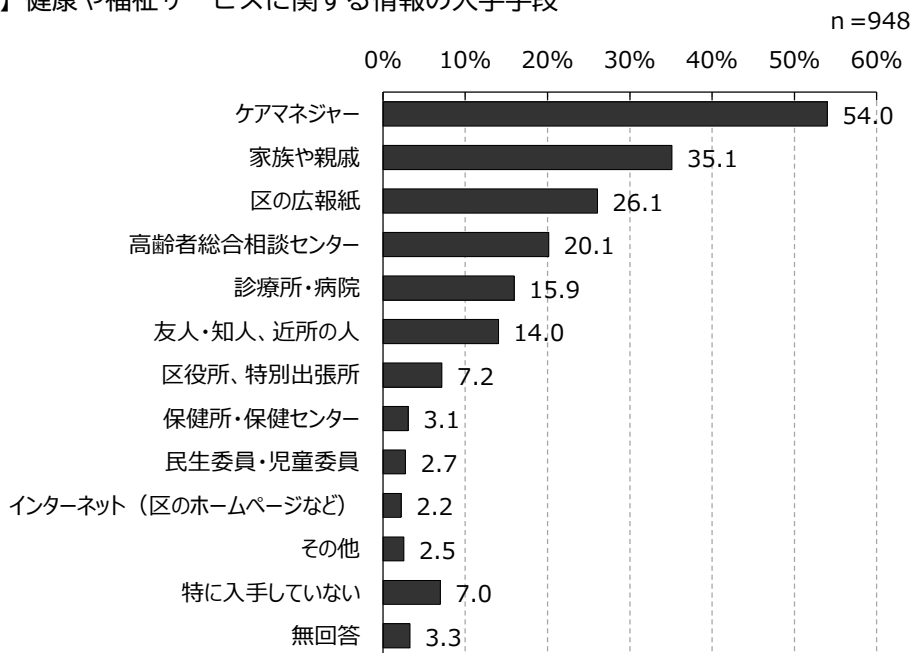


問30 健康や福祉サービスに関する情報についてうかがいます。

(1)あなたは日ごろ、健康や福祉サービスに関する情報をどのような手段で入手していますか。(複数回答)

健康や福祉サービスに関する情報の入手手段について、「ケアマネジャー」が54.0%と最も多く、次いで「家族や親戚」が35.1%、「区の広報紙」が26.1%となっている。

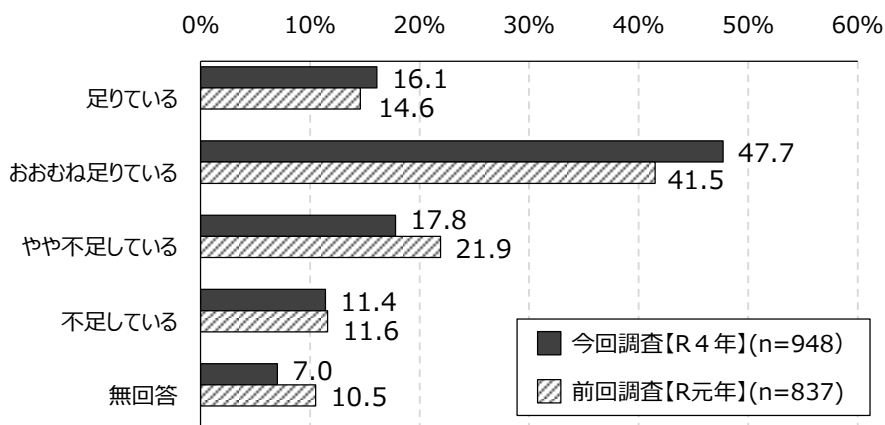
【図表 149】健康や福祉サービスに関する情報の入手手段



(2)あなたの入手している健康や福祉サービスに関する情報量は足りていると思いますか。

健康や福祉サービスに関する情報量の充足度について、「おおむね足りている」が47.7%と最も多く、次いで「やや不足している」が17.8%、「足りている」が16.1%となっている。

【図表 150】健康や福祉サービスに関する情報量の充足度〈前回比較〉



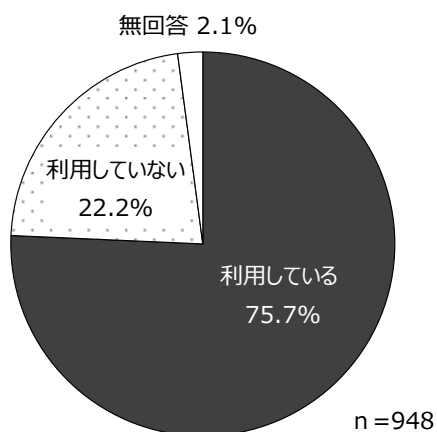


## 介護保険サービスの利用状況と利用意向について

### 問31 あなたは、現在介護保険サービスを利用していますか。

介護保険サービスの利用の有無については、「利用している」が75.7%、「利用していない」が22.2%となっている。

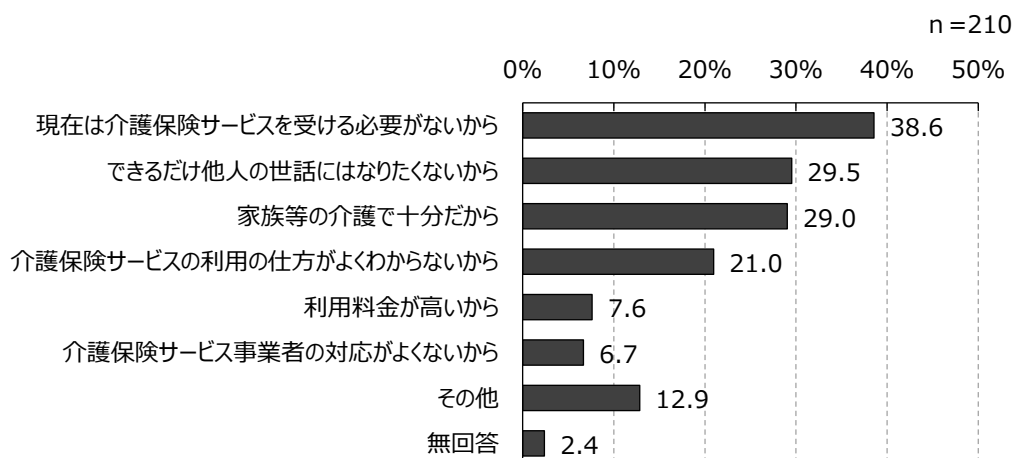
【図表 151】 介護保険サービスの利用の有無



### 問31-1 介護保険サービスを利用していない理由は、次のうちどれですか。 (複数回答)

現在介護保険サービスを「利用していない」と回答した人にその理由を聞いたところ、「現在は介護保険サービスを受ける必要がないから」が38.6%と最も多く、次いで「できるだけ他人の世話にはなりたくないから」が29.5%、「家族等の介護で十分だから」が29.0%となっている。

【図表 152】 介護保険サービスを利用していない理由

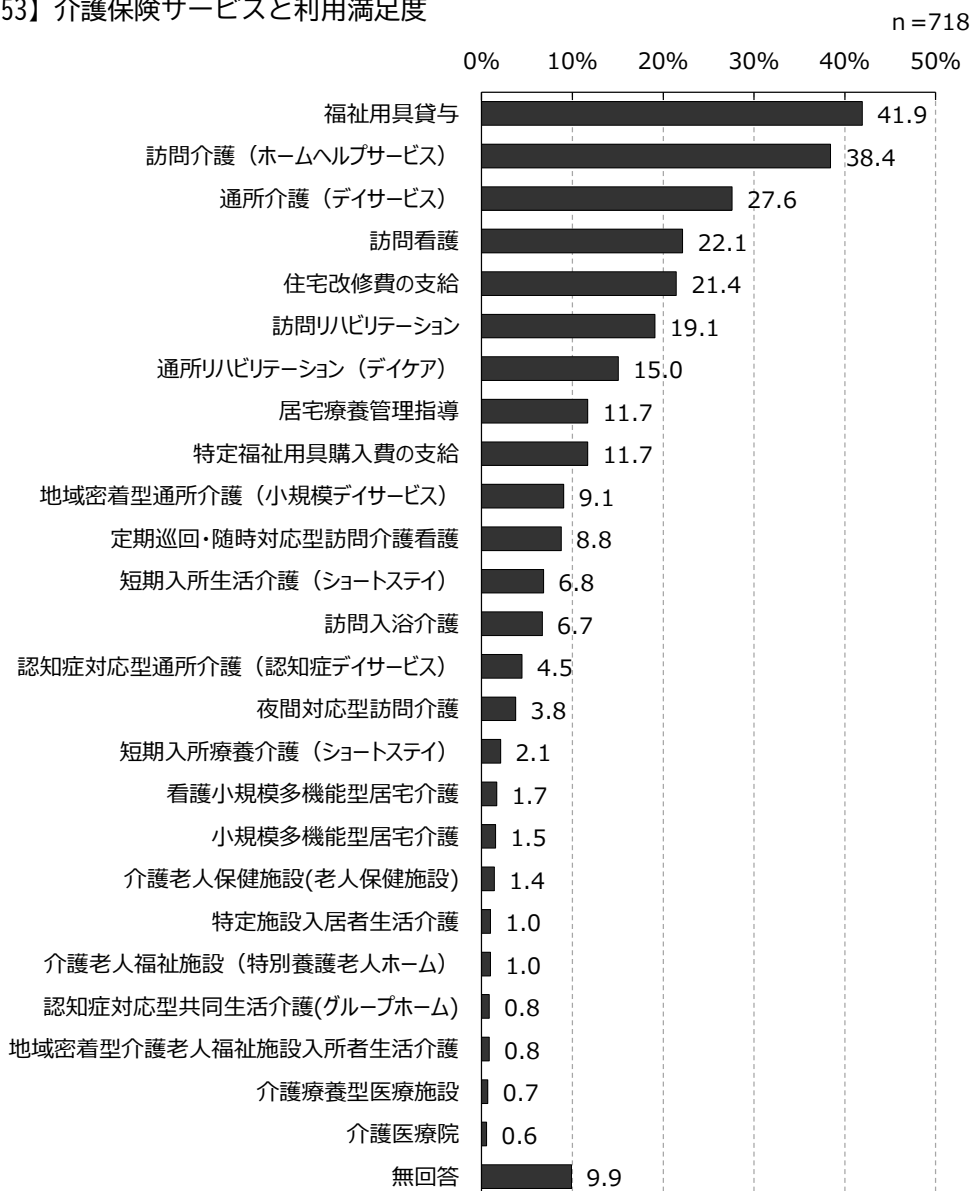


問31-2 現在ご利用の介護保険サービスと利用満足度についておたずねします。

(1)現在利用しているサービス(複数回答)

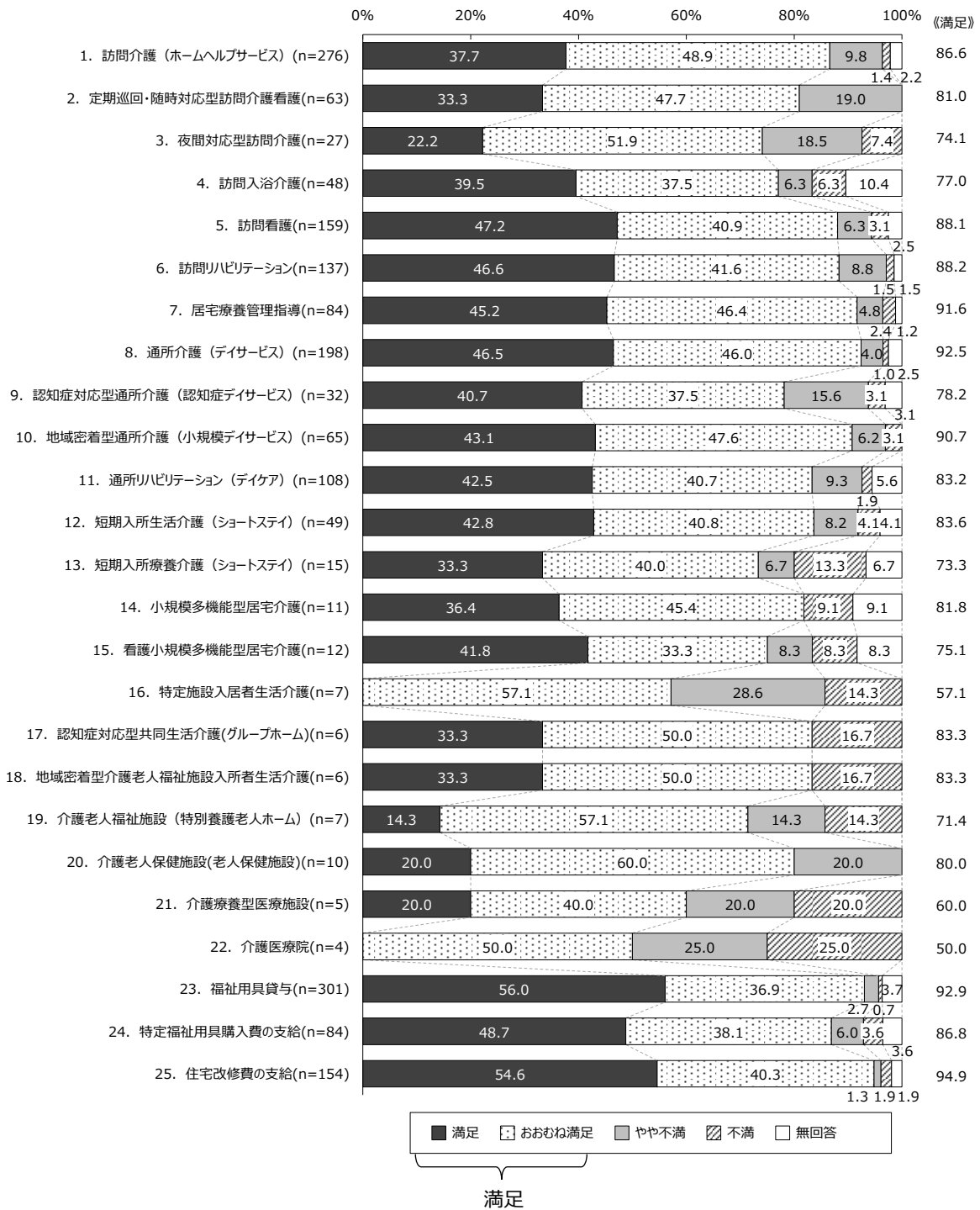
現在介護保険サービスを「利用している」と回答した人に利用しているサービスを聞いたところ、「福祉用具貸与」が41.9%と最も多く、次いで「訪問介護（ホームヘルプサービス）」が38.4%、「通所介護（デイサービス）」が27.6%となっている。

【図表 153】介護保険サービスと利用満足度



(2)現在利用しているすべてのサービスの満足度

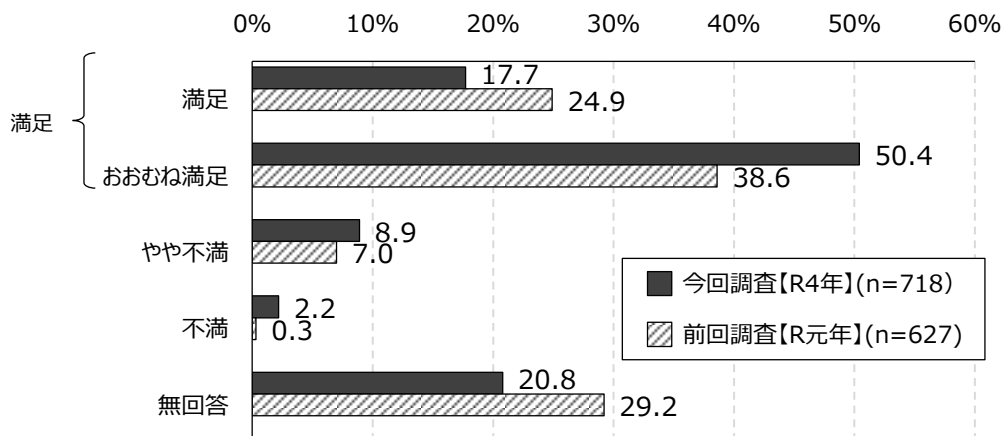
【図表 154】 現在利用しているすべてのサービスの満足度



(3)介護保険サービスの総合的な満足度は、次のうちどれですか。

現在介護保険サービスを「利用している」と回答した人に利用しているサービスの総合的な満足度を聞いたところ、「おおむね満足」が50.4%と最も多く、「満足」(17.7%)を合わせた“満足”は68.1%となっている。

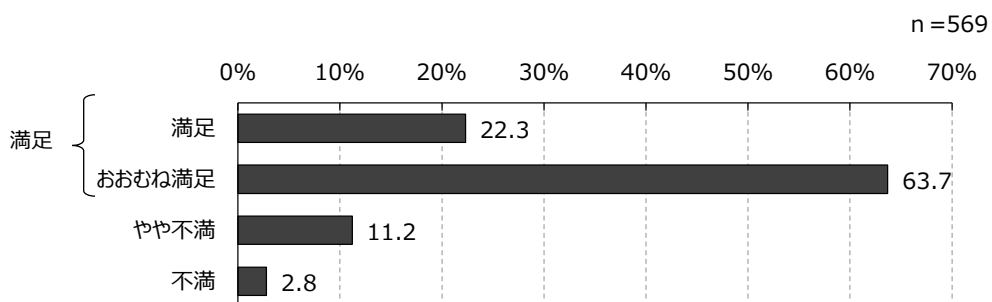
【図表 155】 介護保険サービスの総合的な満足度〈前回比較〉



<介護保険サービスの総合的な満足度(無回答を除いた集計)>

介護保険サービスの総合的な満足度について、無回答を除いた「満足」と「おおむね満足」を合わせた“満足”は86.0%となっている。

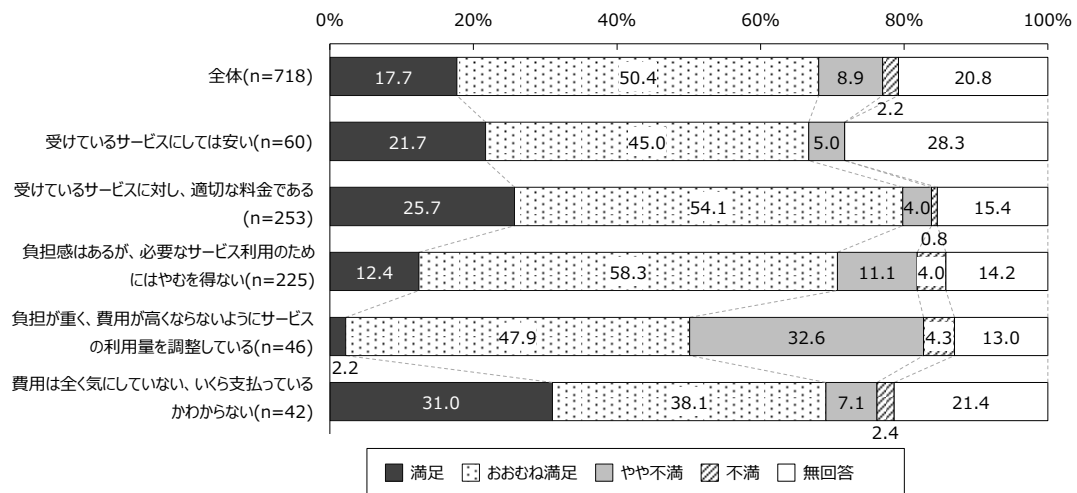
【図表 156】 介護保険サービスの総合的な満足度 (無回答を除いた集計)



## ■介護保険サービスの総合的な満足度〈介護保険サービスの利用に要する費用感別〉

介護保険サービスの利用に要する費用感別にみると、「受けているサービスに対し、適切な料金である」と回答した人のうち、8割弱が「満足」、「おおむね満足」と回答している。

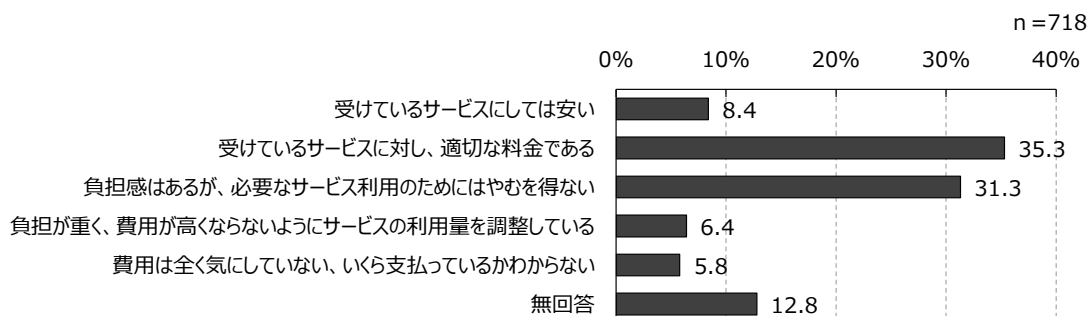
【図表 157】 介護保険サービスの総合的な満足度 〈問 31-3 介護保険サービスの利用に要する費用感別〉



問31-3 介護保険サービスの利用に要する費用(1割～3割の利用者負担)について、  
どのようにお感じですか。

現在介護保険サービスを「利用している」と回答した人にサービスの利用に要する費用について聞いたところ、「受けているサービスに対し、適切な料金である」が35.3%と最も多く、次いで「負担感はあるが、必要なサービス利用のためにはやむを得ない」が31.3%、「受けているサービスにしては安い」が8.4%となっている。

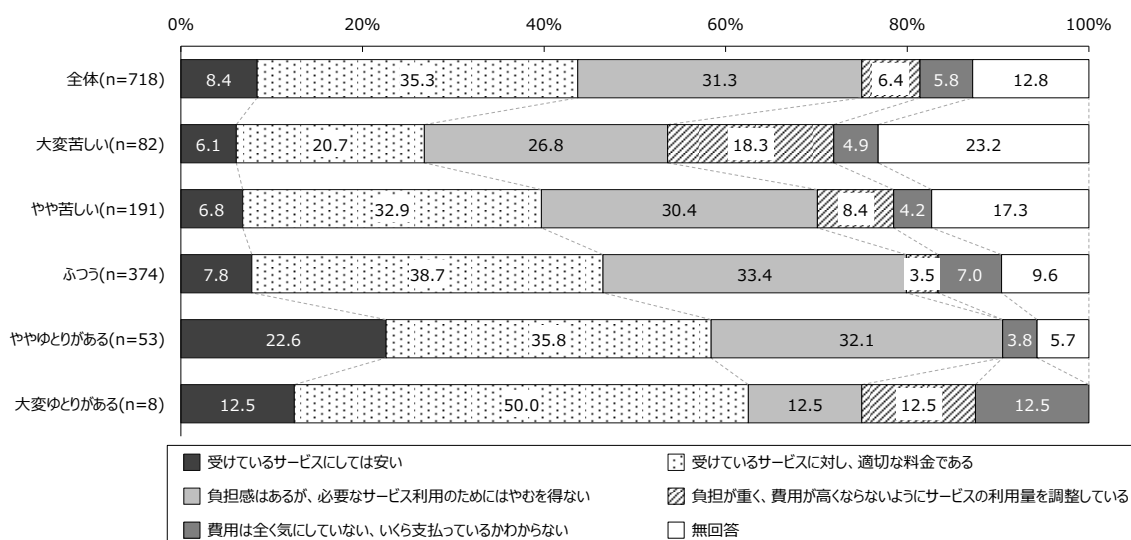
【図表 158】 介護保険サービスの利用に要する費用について



■介護保険サービスの利用に要する費用について〈暮らし向き別〉

サービスの利用に要する費用について暮らし向き別にみると、暮らしにゆとりがあると感じている人ほど「受けているサービスにしては安い」、「受けているサービスに対し、適切な料金である」の割合が高くなっている。

【図表 159】 介護保険サービスの利用に要する費用について 〈問7暮らし向き別〉



問32 介護保険サービスで、あなたが今後新たに利用してみたい(または続けたい)ものは、次のうちどれですか。(複数回答)

介護保険サービスの今後の利用意向については、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」が26.6%と最も多く、次いで「福祉用具貸与」が26.2%、「通所介護（デイサービス）」が21.6%となっている。

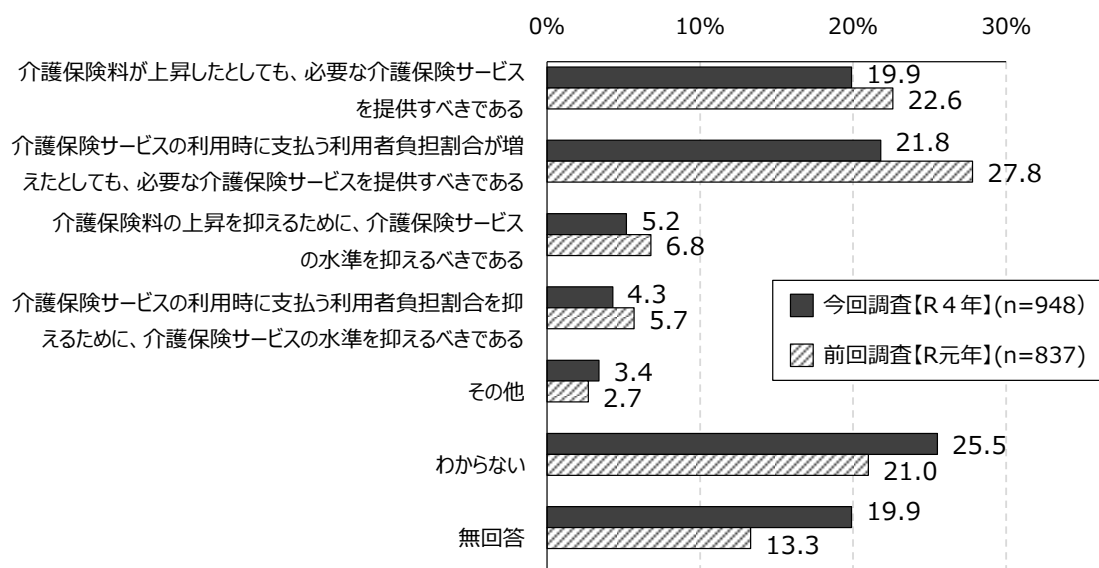
【図表 160】 介護保険サービスの今後の利用意向



問33 今後、高齢者の増加に伴い、サービスにかかる費用も増大することが予想されます。介護保険のサービスと費用負担について、あなたのお考えに最も近いものは、次のうちどれですか。

介護保険のサービスと費用負担については、「わからない」が25.5%と最も多く、次いで「介護保険サービスの利用時に支払う利用者負担割合が増えたとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」が21.8%、「介護保険料が上昇したとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」が19.9%となっている。

【図表 161】 介護保険のサービスと費用負担〈前回比較〉



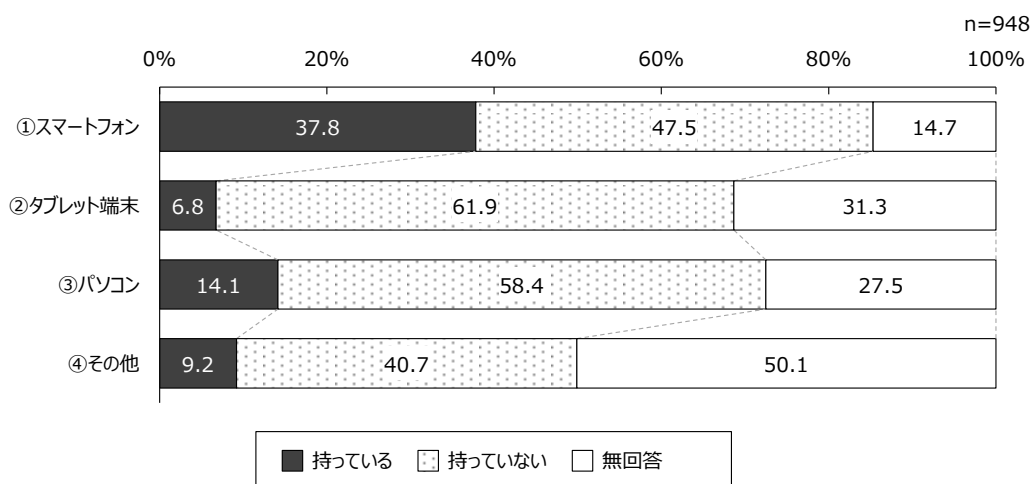


## 通信機器の利用状況等について

問34 通信機器の所有状況やインターネット等の利用状況についておたずねします。  
(1)所有状況

通信機器の所有状況については、①スマートフォンを「持っている」が37.8%、②タブレット端末を「持っている」が6.8%、③パソコンを「持っている」が14.1%となっている

【図表 162】通信機器の所有状況



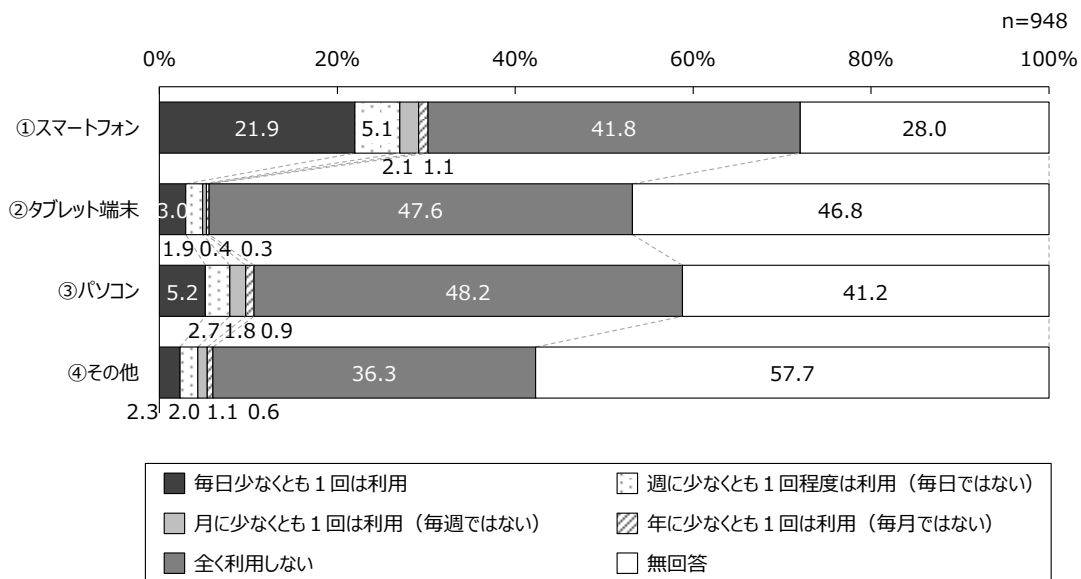
### ▼その他の主な内容

携帯電話（ガラケー）／固定電話 等

(2)過去1年のインターネットの利用状況

過去1年のインターネットの利用状況について、①スマートフォンでは、「全く利用しない」が41.8%と最も多く、次いで「毎日少なくとも1回は利用」が21.9%となっている。②タブレット端末では、「全く利用しない」が47.6%と最も多く、次いで「毎日少なくとも1回は利用」が3.0%となっている。③パソコンでは、「全く利用しない」が48.2%と最も多く、次いで「毎日少なくとも1回は利用」が5.2%となっている。

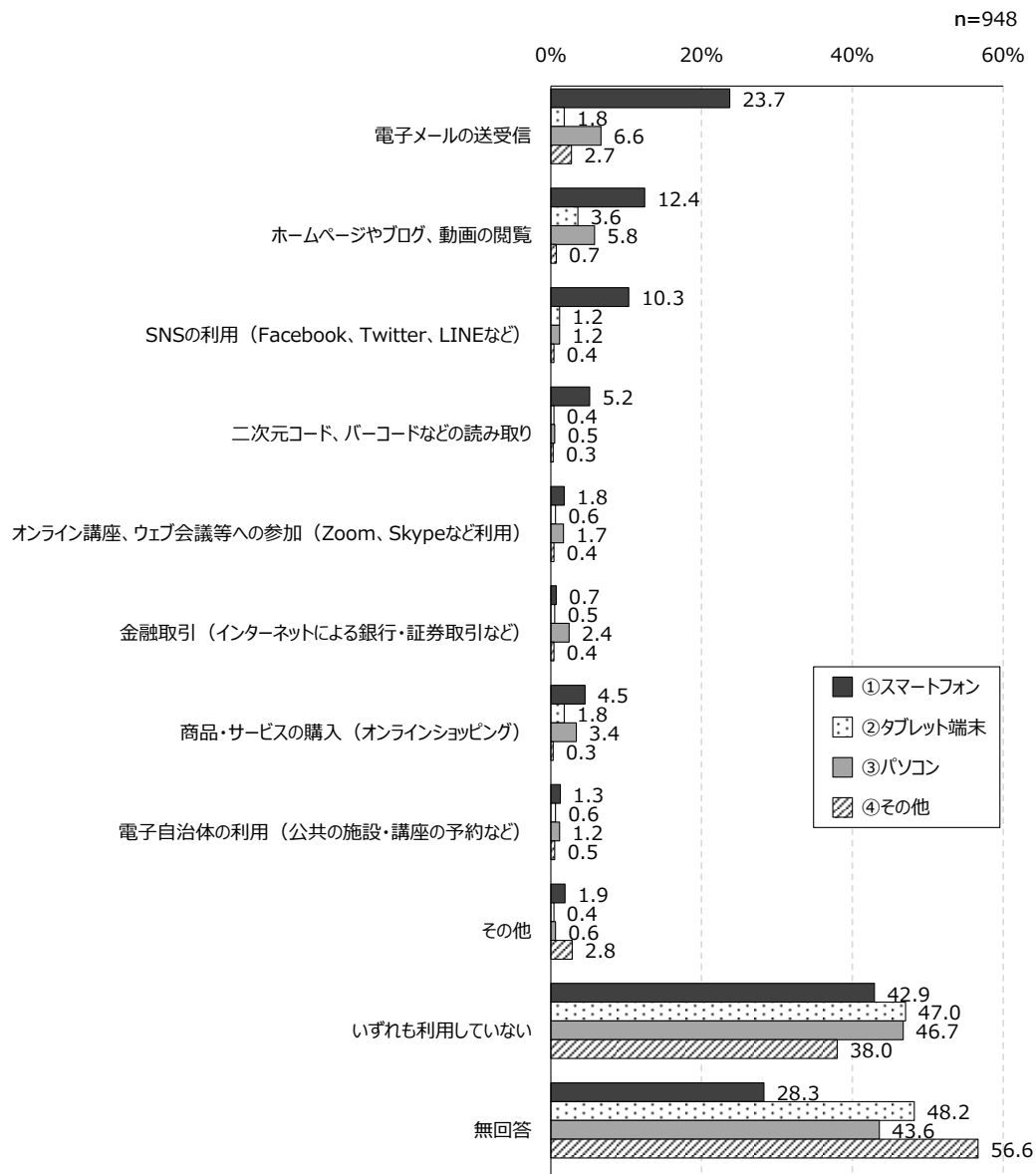
【図表 163】 過去1年のインターネットの利用状況



## (3)過去1年間に利用した通信機器を使った機能・サービス(複数回答)

過去1年間に通信機器を使って利用した機能・サービスについて、①スマートフォンでは、「電子メールの送受信」が23.7%、次いで「ホームページやブログ、動画の閲覧」が12.4%となっている。②タブレット端末では「ホームページやブログ、動画の閲覧」が3.6%、次いで「電子メールの送受信」及び「商品・サービスの購入」が同率で1.8%となっている。③パソコンでは「電子メールの送受信」が6.6%、次いで「ホームページやブログ、動画の閲覧」が5.8%となっている。

【図表 164】過去1年間に通信機器を使って利用した機能・サービス



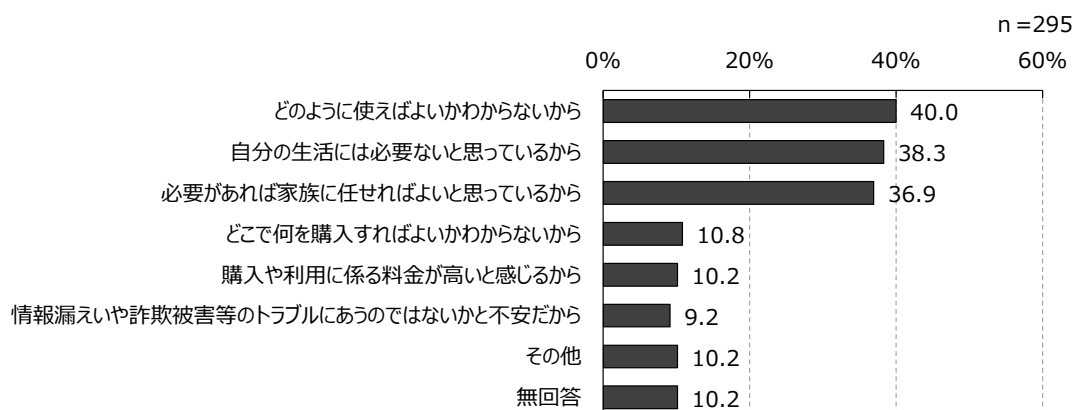
## ▼機能・サービスのその他の主な内容

動画配信サービス／ゲームアプリ／通話のみ 等
------------------------

問34-1 スマートフォンなど通信機器を持っていない理由は何ですか。(複数回答)

すべての通信機器で「持っていない」と回答した人にその理由を聞いたところ、「どのように使えばよいかわからないから」が40.0%と最も多く、次いで「自分の生活には必要ないと思っているから」が38.3%、「必要があれば家族に任せればよいと思っているから」が36.9%となっている。

【図表 165】通信機器を持っていない理由



▼その他の主な内容

携帯電話で十分／視力低下のため／使い方がわからない／手が不自由で使えない 等

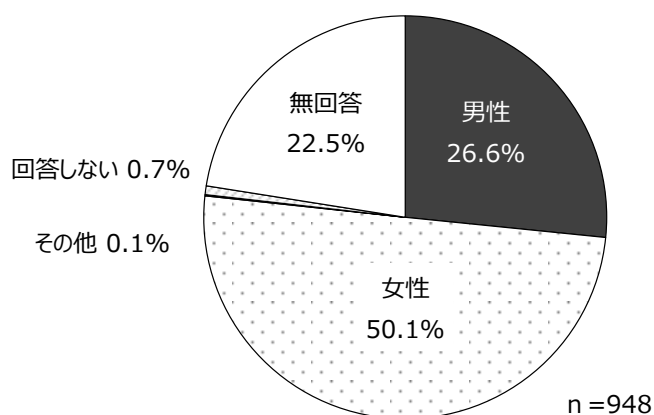
## 家族等介護者の状況について

★問35から問43は主な介護者の方(以下、「あなた」)におたずねします。

問35 あなたの性別を教えてください。

主な介護者の性別については、「男性」が26.6%、「女性」が50.1%となっている。

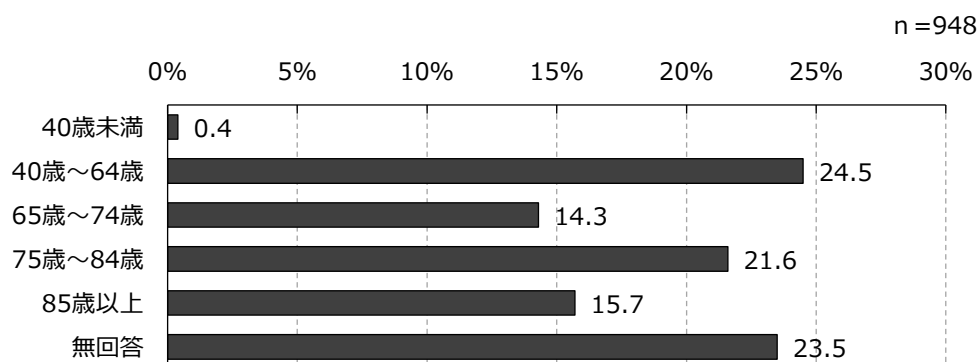
【図表 166】 主な介護者の性別



問36 あなたの年齢をご記入ください。

主な介護者の年齢については、「40歳～64歳」が24.5%と最も多く、次いで「75歳～84歳」が21.6%となっている。

【図表 167】 主な介護者の年齢

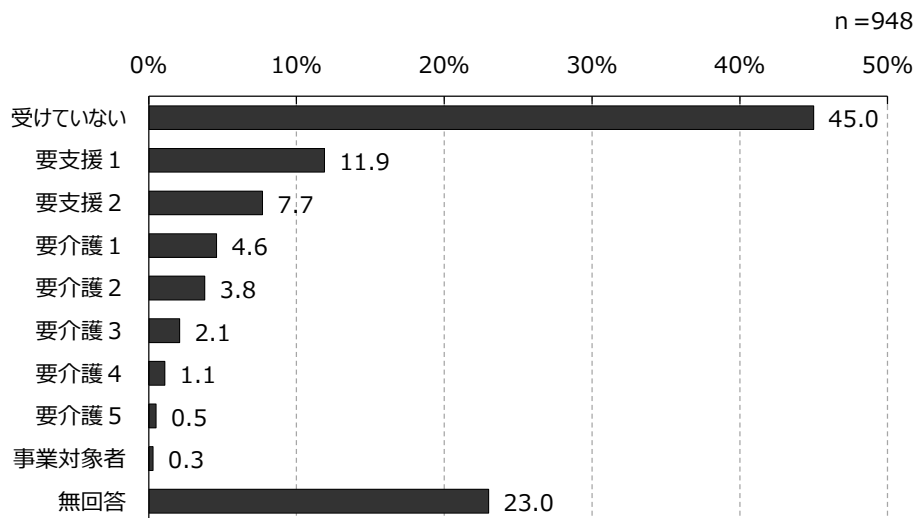


## 2 要支援・要介護認定者調査

### 問37 あなたは、介護保険の認定を受けていますか。

主な介護者の要介護認定については、「受けていない」が45.0%と最も多く、次いで「要支援1」が11.9%、「要支援2」が7.7%となっている。

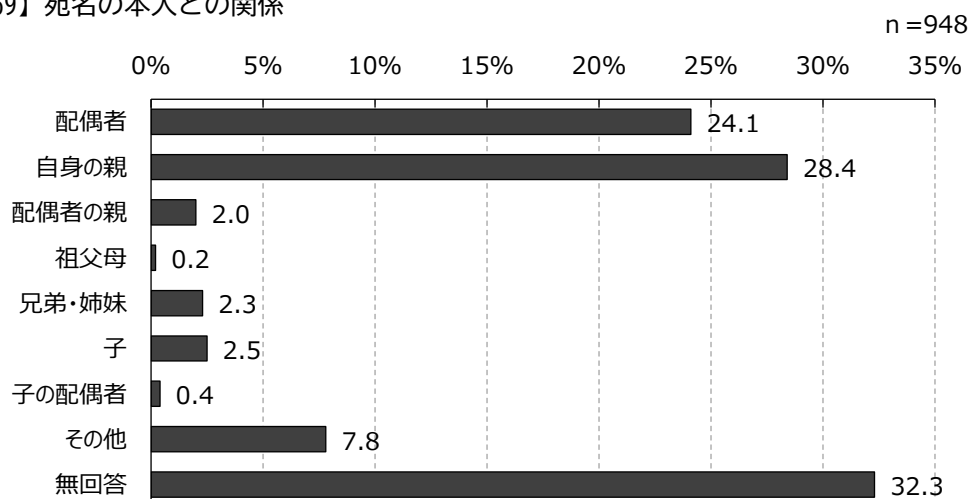
【図表 168】 主な介護者の要介護認定



### 問38 あなたからみて、宛名のご本人はどちらにあたりますか。

主な介護者からみた、本人の続柄については、「自身の親」が28.4%と最も多く、次いで「配偶者」が24.1%となっている。

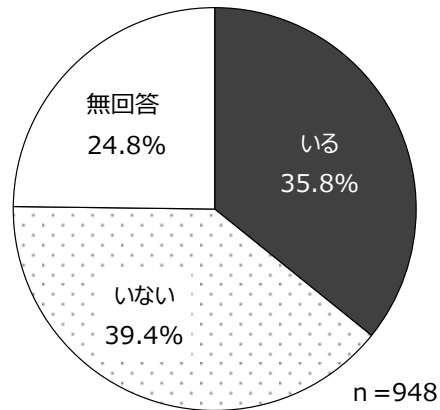
【図表 169】 宛名の本人との関係



### 問39 あなたを手助けするような、副介護者の方はいますか。

副介護者の有無については、「いる」が35.8%、「いない」が39.4%となっている。

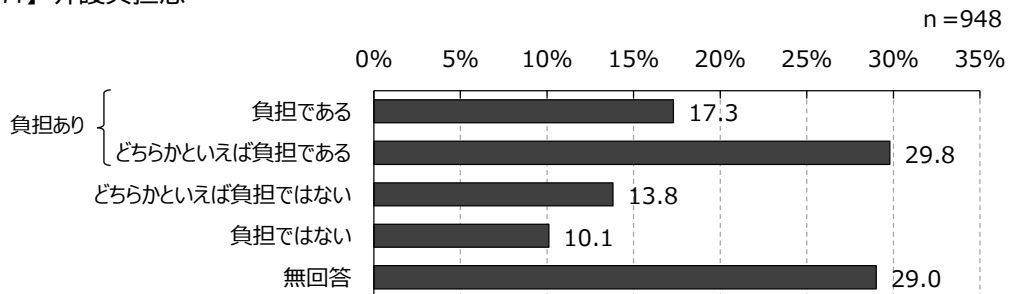
【図表 170】 副介護者の有無



### 問40 あなたの介護負担感は、次のうちどれですか。

主な介護者の介護負担感については、「どちらかといえば負担である」が29.8%と最も多く、「負担である」(17.3%)を合わせた“負担あり”は47.1%となっている。

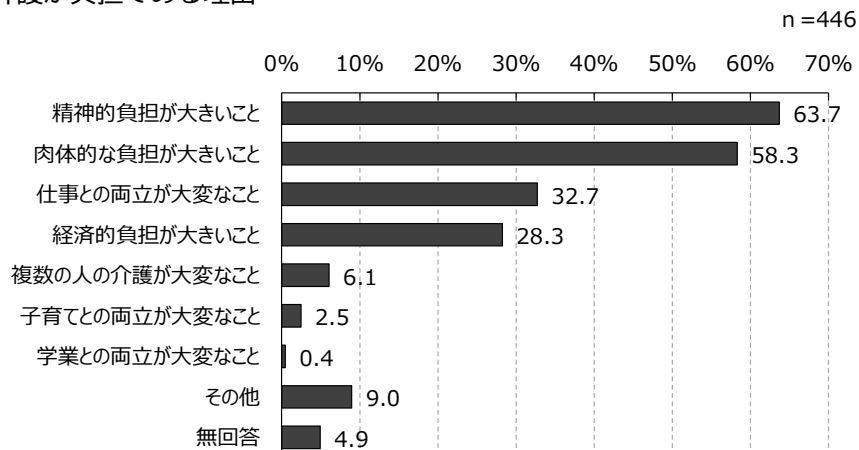
【図表 171】 介護負担感



問40-1 それはどのような理由からですか。(複数回答)

主な介護者の介護負担感について「負担である」「どちらかといえば負担である」と回答した人にその理由を聞いたところ、「精神的負担が大きいこと」が63.7%と最も多く、次いで「肉体的な負担が大きいこと」が58.3%、「仕事との両立が大変なこと」が32.7%となっている。

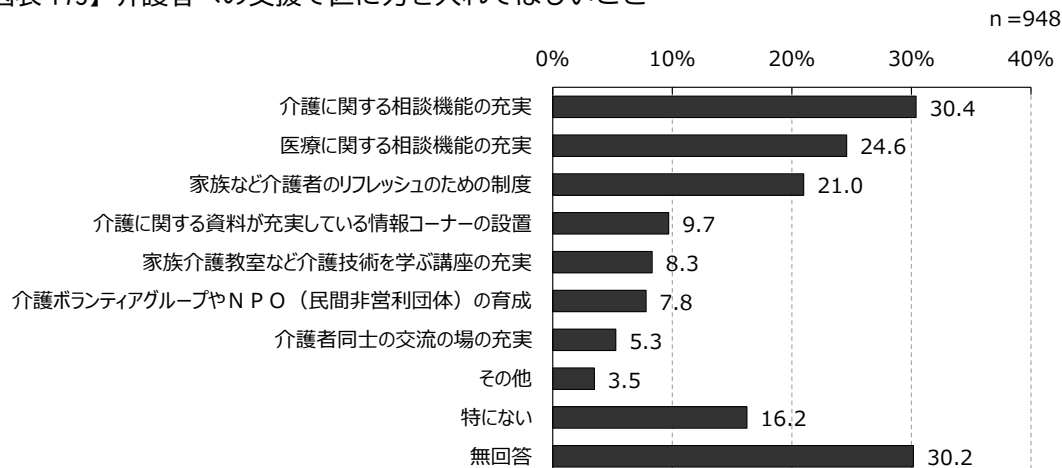
【図表 172】 介護が負担である理由



問41 介護者(あなた)への支援として、区に力を入れてほしいことは、次のうちどれですか。(複数回答)

介護者への支援で区に力を入れてほしいことについては、「介護に関する相談機能の充実」が30.4%と最も多く、次いで「医療に関する相談機能の充実」が24.6%、「家族など介護者のリフレッシュのための制度」が21.0%となっている。

【図表 173】 介護者への支援で区に力を入れてほしいこと



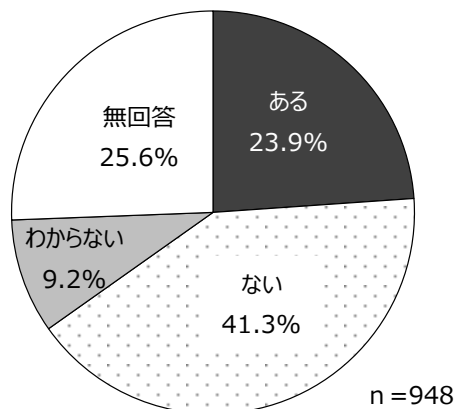


## (宛名のご本人の) 認知症について

問42 あなたが介護している方(宛名のご本人)には、認知症の症状がありますか。

認知症の症状の有無については、「ない」が41.3%と最も多く、次いで「ある」が23.9%、「わからない」が9.2%となっている。

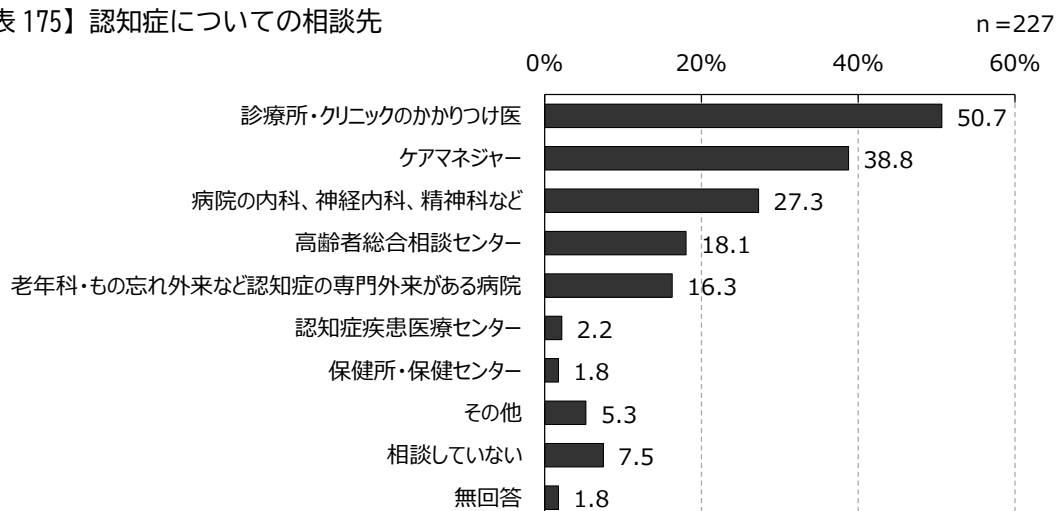
【図表 174】 認知症の症状の有無



問42-1 あなたは、介護している方が認知症ではないかと気づいた、あるいは不安になったときに、どちらに相談しましたか。(複数回答)

認知症の症状が「ある」と回答した人に相談先を聞いたところ、「診療所・クリニックのかかりつけ医」が50.7%と最も多く、次いで「ケアマネジャー」が38.8%、「病院の内科、神経内科、精神科など」が27.3%となっている。

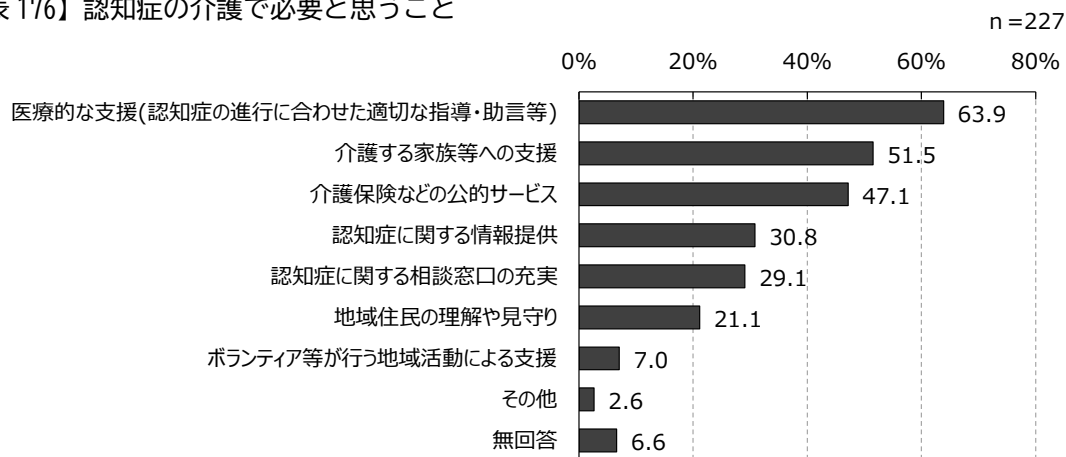
【図表 175】 認知症についての相談先



問42-2 認知症のご本人の介護において、必要と思うことは何ですか。(複数回答)

認知症の症状が「ある」と回答した人に認知症の介護で必要と思うことを聞いたところ、「医療的な支援(認知症の進行に合わせた適切な指導・助言等)」が63.9%と最も多く、次いで「介護する家族等への支援」が51.5%、「介護保険などの公的サービス」が47.1%となっている。

【図表 176】 認知症の介護で必要と思うこと



## 自由記述

問43 介護者の立場から、高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区へのご要望・ご意見がありましたらご自由にお書きください。

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、239人から264件の回答があった。意見を13の項目にまとめた各項目の主な意見は以下のとおり。(その他を除く)

<b>サービスについて</b>	<b>52件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護や介助のバリエーションを増やしてほしい。</li> <li>・もっと感染対策を徹底したデイケアやデイサービスを増やしてほしい。</li> <li>・日数、費用、送迎などショートステイを利用しやすくしてほしい。</li> <li>・デイサービスとショートステイが同日に使えない事やヘルパーを頼む際、病院の送迎と買い物等を続けてお願いできないことが不便。</li> <li>・利用額を抑えた状態で今までのサービスを受けられる事が理想。利用額を上げるならサービス提供者の質の向上もお願いしたい。</li> </ul>	
<b>介護保険・保険料について</b>	<b>37件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険料が高すぎる。</li> <li>・手続きに時間がかかりすぎる。</li> <li>・介護認定や更新の際、土・日等も対応してほしいと思う。</li> </ul>	
<b>家族等介護者について</b>	<b>34件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症介護者の会に月1回参加することでストレスを減らせるので、本当に助かっている。</li> <li>・自宅介護と仕事との両立は負担が大きい。金銭面、精神面、体力の面でのサポートを手厚くしてほしい。</li> <li>・介護されている本人が公的なサービスを拒否するなど、介護サービスまでたどり着けない介護者が一番苦しんでいると思う。介護者が少しでも楽になるきっかけがあればと願う。</li> </ul>	
<b>情報提供・相談について</b>	<b>33件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんの支援があるが、申請が大変で自分が対象になるかもわかりづらい。もう少し情報がわかりやすく提供されたらよかった。</li> <li>・すべてにおいて簡単にわかりやすいようにしてほしい。</li> <li>・高齢者の保険、福祉に関する施設や介護保険についてよくわかる資料がほしい。</li> <li>・相談窓口の土・日の開放終日と時間延長をしてほしい。</li> </ul>	
<b>高齢者施策について</b>	<b>14件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者とその家族が安心して暮らせる住居の充実をサポートしてほしい。</li> <li>・高齢者も健康で文化的な生活を送れる制度にしてほしい。</li> <li>・医療的な支援、介護する家族等への支援。</li> <li>・育児と介護をやっている人への支援をもっと拡充してほしい。</li> </ul>	

2 要支援・要介護認定者調査

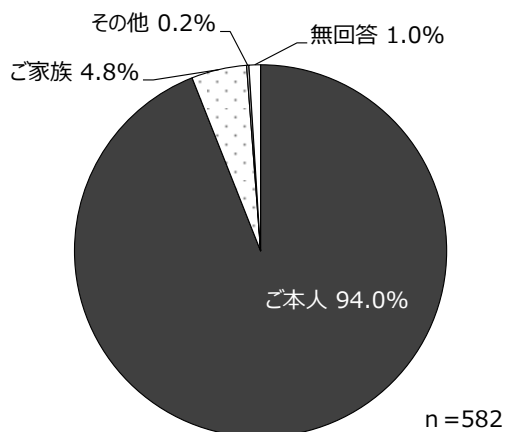
<b>アンケートについて</b>	<b>12件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の調査の重要性は理解しているつもりだが、質問項目が多すぎる。</li> <li>・本調査は介護を受けている者、介護をしている者（家族）にとって大変刺激的で効果が期待される。老老介護は難しいものだが、本調査ではこれに触れる事はなかった。</li> <li>・このようなアンケートは必要かもしれないが時間がないので負担ではある。書ける人はそんなに困っていない、困っている人はアンケートを書けないと思うのでこれで実態がわかるかどうかは疑問。</li> </ul>	
<b>行政への要望</b>	<b>11件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・横断歩道の信号機、延長信号機の増加を希望。</li> <li>・高齢者の安全に配慮したまちづくりに期待する。年配でも安全に暮らせるということは小さな子ども、障害のある人でも生活しやすい環境につながると思う。</li> <li>・土・日(せめて土曜日に)手続きができる事が望ましいと思う。</li> </ul>	
<b>認知症について</b>	<b>9件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者でも気軽に立ち寄れる認知症カフェが近くにあっていいなと思っている。</li> <li>・認知症に対して周囲が温かく見守る対応の仕方をもう少しPRしてもいいのかなと思う。</li> <li>・認知症、障害者の人々に偏見を持たない社会になるように願っている。</li> </ul>	
<b>医療について</b>	<b>8件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受傷後のケアの期間が150日では足りない。個人的なケアは不十分で治療には経済的負担が大きい。特にコロナ後は通院が大変だった。</li> </ul>	
<b>生活不安・将来不安</b>	<b>8件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリの出張ができるが預金が心配。</li> <li>・精神的な負担が大きく、どう対応すればよいかわからない事が多く出てきた。</li> </ul>	
<b>高齢者向け施設について</b>	<b>7件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護老人福祉施設の拡充をお願いしたい。</li> <li>・特別養護老人ホームへ入りやすくしてほしい。</li> </ul>	
<b>後期高齢者の医療費負担について</b>	<b>4件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期高齢者医療保険が2割負担となった。</li> <li>・医療の負担が3割になるのは知っていたが、きびしいなと思う。</li> </ul>	
<b>その他</b>	<b>35件</b>

### 3 第2号被保険者調査

#### あなた自身のことについて

調査票を記入した人

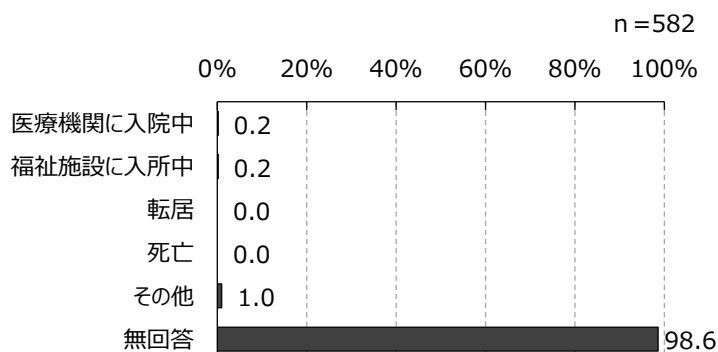
【図表 177】 調査票の記入者



記入者	人数
ご本人	547
ご家族	28
その他	1
無回答	6
合計	582

ご本人が何らかの事情によりご不在の場合

【図表 178】 不在の事情

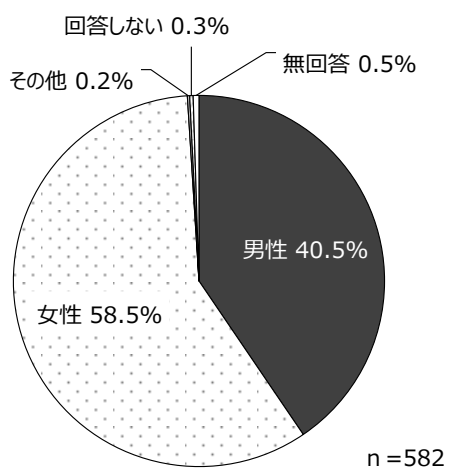


不在の事情	人数
医療機関に入院中	1
福祉施設に入所中	1
転居	0
死亡	0
その他	6
上記に該当しない	574
合計	582

3 第2号被保険者調査

問1 性別を教えてください。

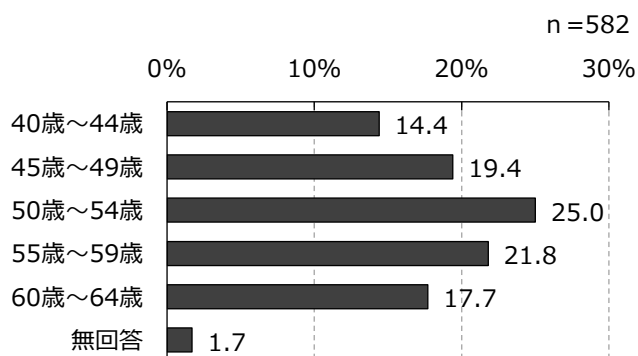
【図表 179】性別



性別	人数
男性	236
女性	340
その他	1
回答しない	2
無回答	3
合計	582

問2 年齢をご記入ください。

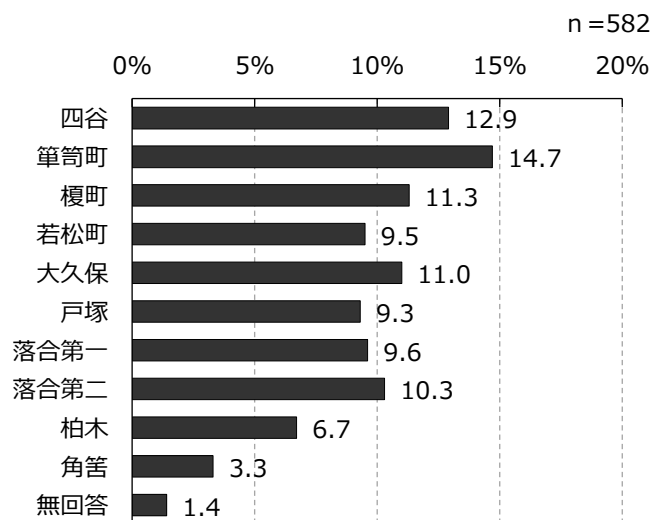
【図表 180】年齢



年齢	人数
40歳～44歳	84
45歳～49歳	113
50歳～54歳	145
55歳～59歳	127
60歳～64歳	103
無回答	10
合計	582

問3 あなたのお住まいは、どの特別出張所管内ですか。

【図表 181】 居住地域



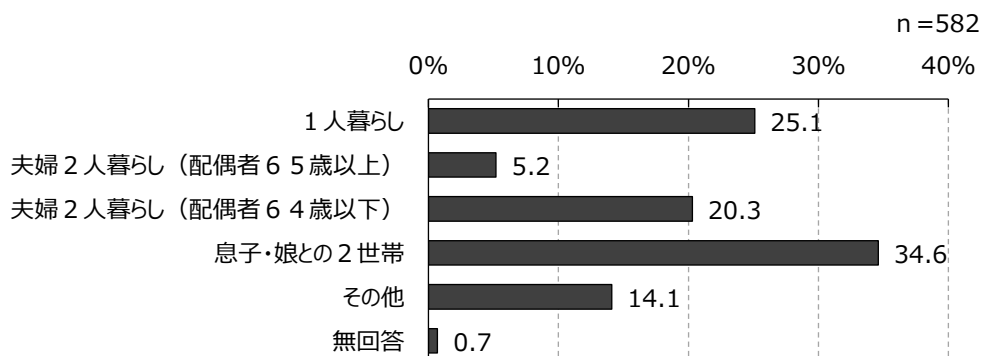
居住地域	人数
四谷	75
箆笥町	86
榎町	66
若松町	55
大久保	64
戸塚	54
落合第一	56
落合第二	60
柏木	39
角筈	19
無回答	8
合 計	582

## あなたのご家族や生活状況について

### 問4 家族構成を教えてください。

家族構成については、「息子・娘との2世帯」が34.6%と最も多く、次いで「1人暮らし」が25.1%、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」が20.3%となっている。

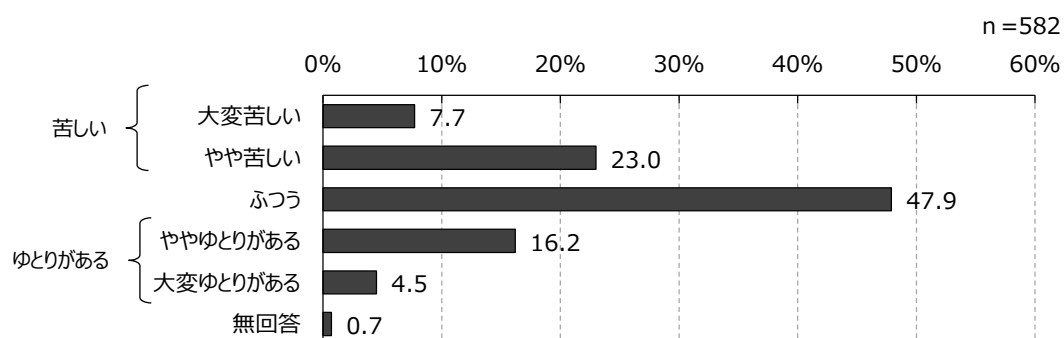
【図表 182】 家族構成



### 問5 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。

現在の暮らしの経済的な状況については、「ふつう」が47.9%と最も多く、「大変苦しい」（7.7%）と「やや苦しい」（23.0%）を合わせた“苦しい”は30.7%となっている。一方、「ややゆとりがある」（16.2%）と「大変ゆとりがある」（4.5%）を合わせた“ゆとりがある”は20.7%となっている。

【図表 183】 現在の暮らし向き





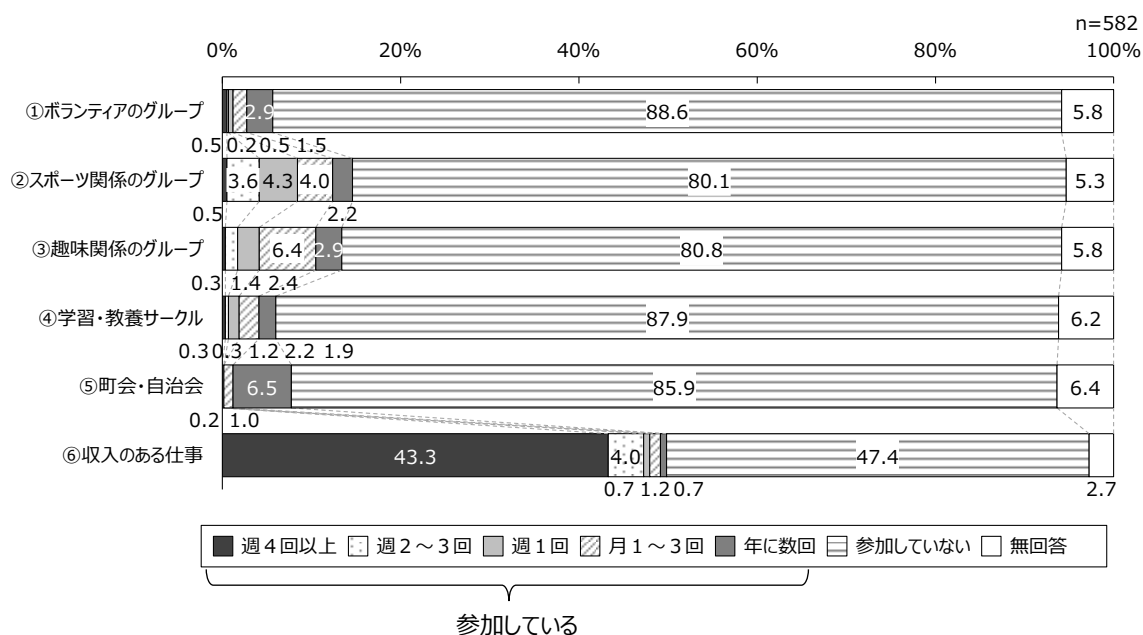
地域での活動について

問6 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

会・グループ等への参加頻度については、すべての会・グループ等で「参加していない」との回答が最も多くなっている。

「週4日以上」から「年に数回」までを合わせた“参加している”は①ボランティアのグループで5.6%、②スポーツ関係のグループで14.6%、③趣味関係のグループで13.4%、④学習・教養サークルで5.9%、⑤町会・自治会で7.7%、⑥収入のある仕事で49.9%となっている。

【図表 184】 会・グループ等への参加頻度

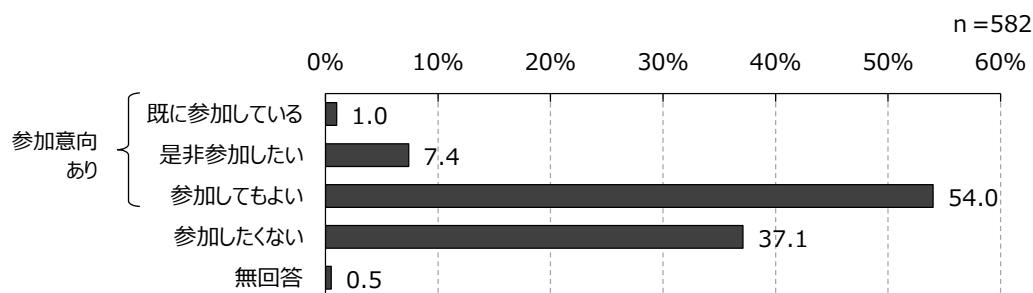


### 3 第2号被保険者調査

問7 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

地域住民の有志による地域づくりへの参加者としての参加意向については、「既に参加している」が1.0%、「是非参加したい」が7.4%、「参加してもよい」が54.0%となっており、これらを合わせた“参加意向あり”は62.4%となっている。

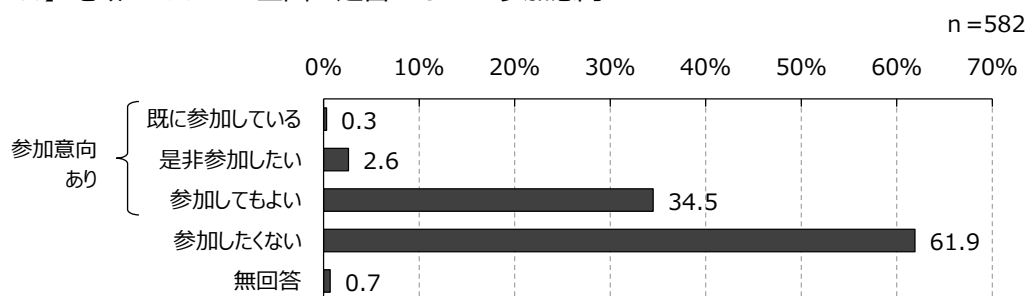
【図表 185】地域づくりへの参加者としての参加意向



問8 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか。

地域住民の有志による地域づくりへの企画・運営としての参加意向については、「既に参加している」が0.3%、「是非参加したい」が2.6%、「参加してもよい」が34.5%となっており、これらを合わせた“参加意向あり”は37.4%となっている。

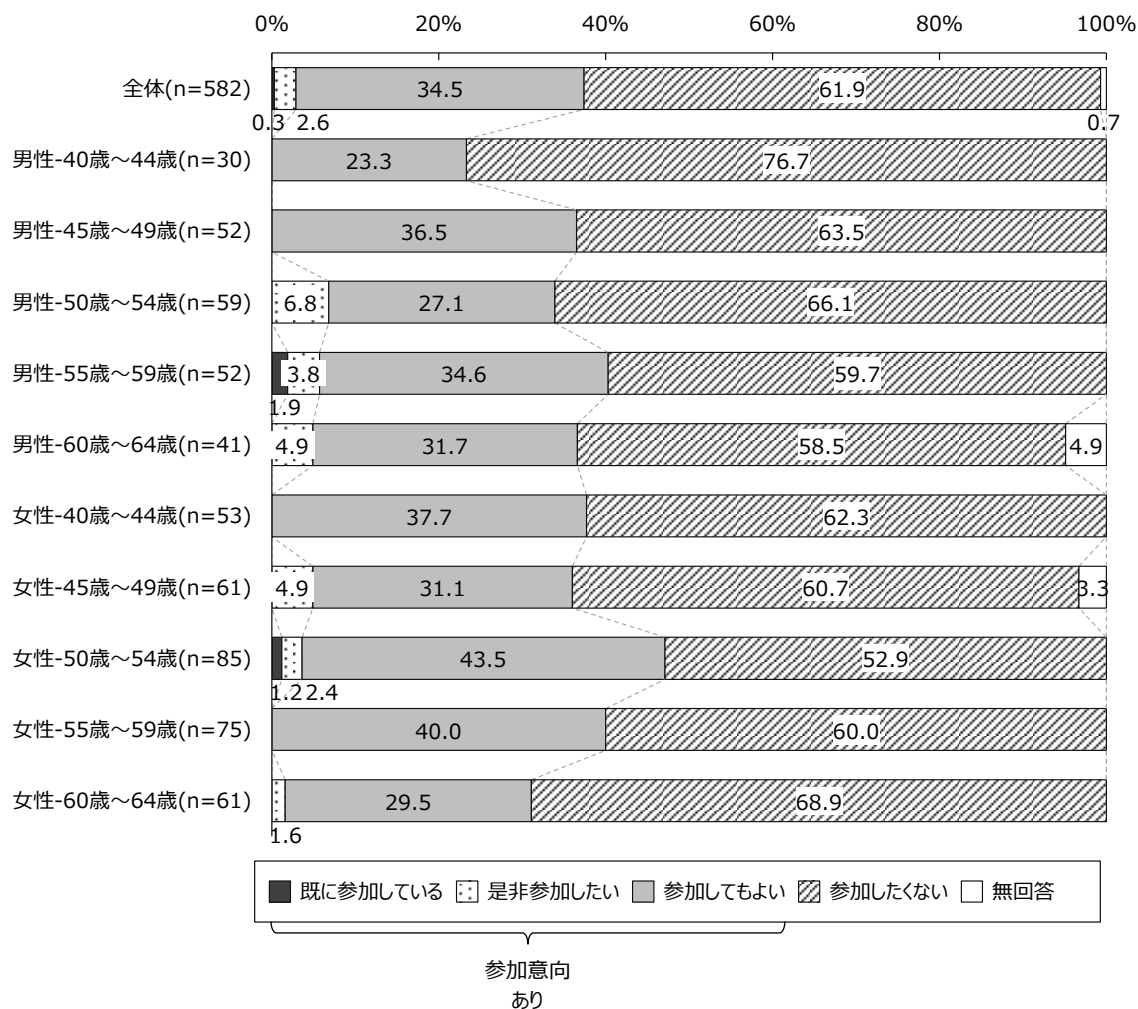
【図表 186】地域づくりへの企画・運営としての参加意向



■地域づくりへの参加者としての参加意向〈性・年齢別〉

地域づくりへの企画・運営としての参加意向を性・年齢別にみると、女性の方が男性より“参加意向あり”が高い傾向がみられる。

【図表 187】 地域づくりへの企画・運営としての参加意向 〈性・年齢別〉

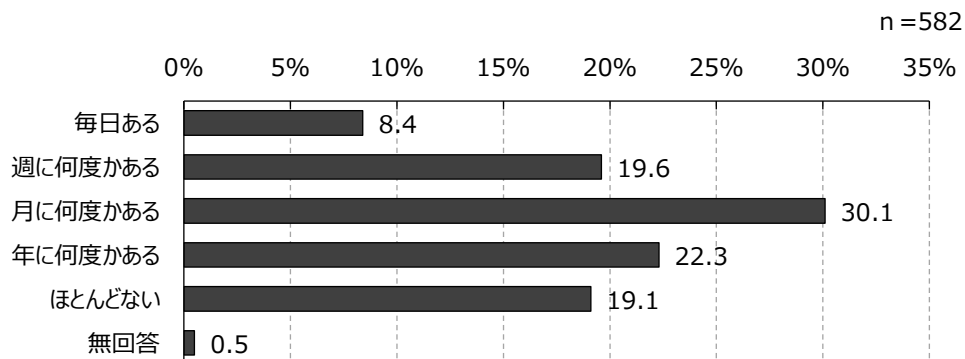


## たすけあいについて

### 問9 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。

友人・知人と会う頻度について、「月に何度かある」が30.1%と最も多く、次いで「年に何度かある」が22.3%、「週に何度かある」が19.6%となっている。

【図表 188】友人・知人と会う頻度

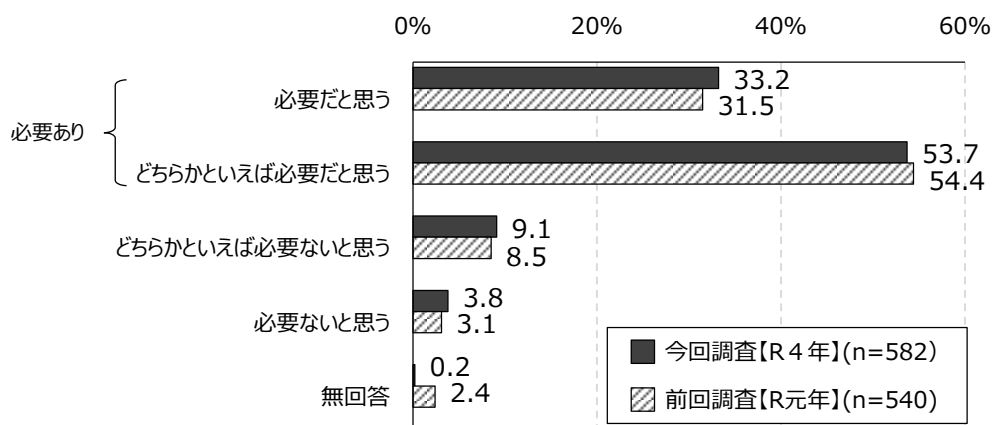


### 問10 あなたの日々の暮らしの中で、地域のつながり(住民同士の助け合い・支え合いなど)についておたずねします。

#### (1)地域のつながりの必要性

地域のつながりの必要性については、「どちらかといえば必要だと思う」が53.7%と最も多く、「必要だと思う」(33.2%)と合わせた“必要あり”は86.9%となっている。

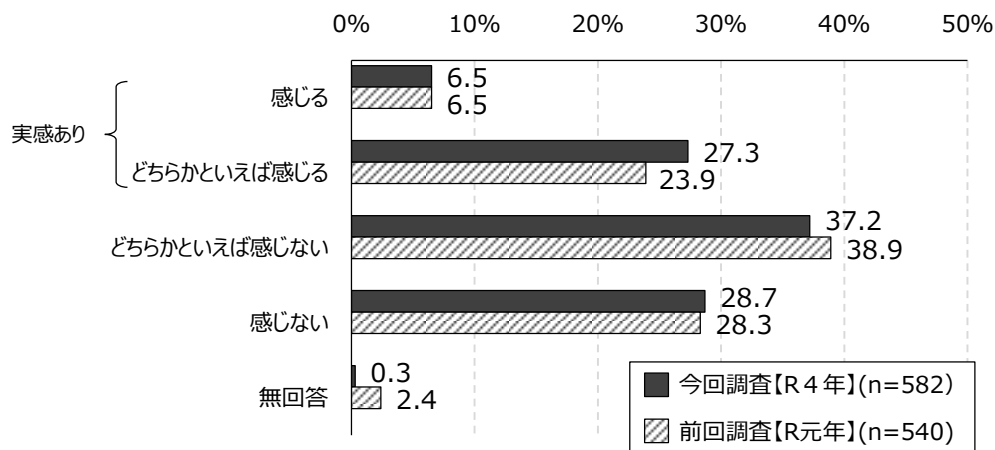
【図表 189】地域のつながりの必要性〈前回比較〉



## (2)地域のつながりの実感

地域のつながりの実感については、「感じる」(6.5%)と「どちらかといえば感じる」(27.3%)を合わせた“実感あり”は33.8%となっている。

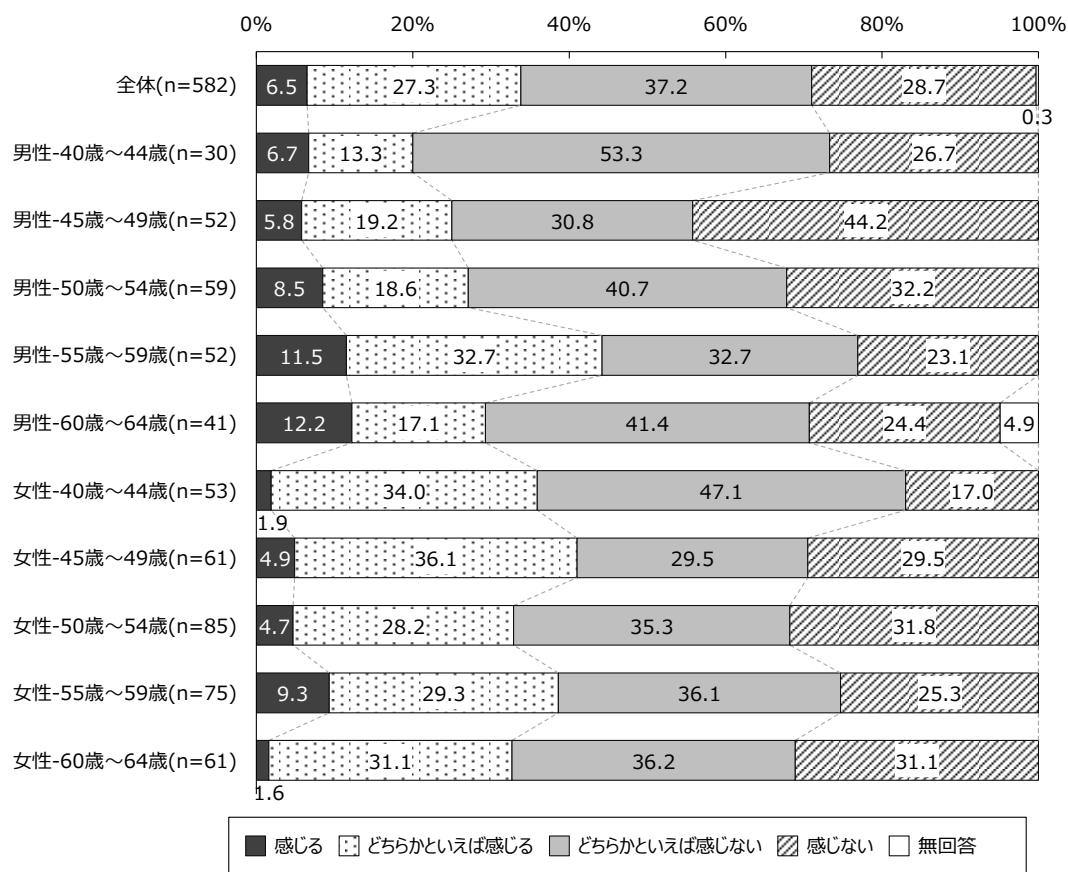
【図表 190】地域のつながりの実感〈前回比較〉



### ■地域のつながりの実感〈性・年齢別〉

地域のつながりの実感を性・年齢別にみると、“実感あり”と回答している割合は、男性では年齢が上がるにつれ高くなる傾向がみられ、女性は『45歳～49歳』が41.0%で最も多くなっている。

【図表 191】地域のつながりの実感〈性・年齢別〉



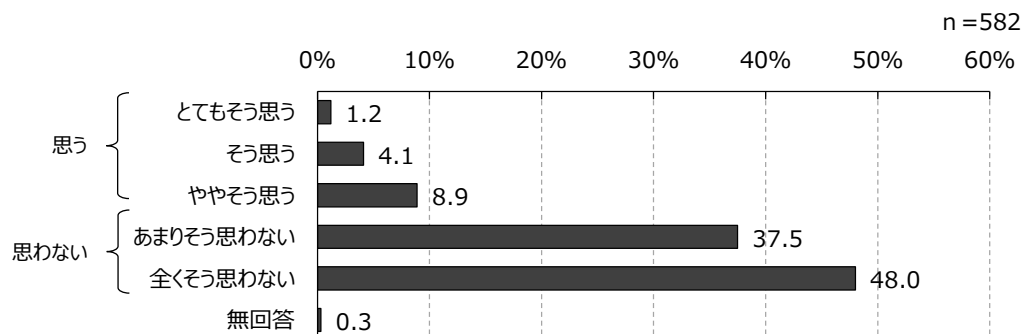
実感あり

3 第2号被保険者調査

問11 あなたは、お住まいの地域の人から何らかの役割を期待されたり、頼りにされていると思いますか。

地域住人から何らかの役割を期待されたり、頼りにされていると思うかについて、「全くそう思わない」が48.0%と最も多く、「あまりそう思わない」(37.5%)と合わせた“思わない”は85.5%となっている。一方、「とてもそう思う」(1.2%)、「そう思う」(4.1%)、「ややそう思う」(8.9%)を合わせた“思う”は14.2%となっている。

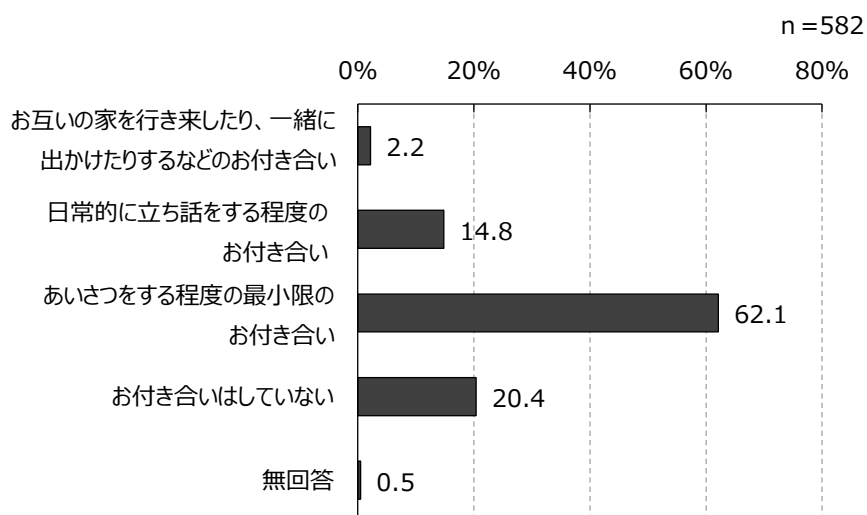
【図表 192】 地域の人から期待、頼りにされていると思うか



問12 あなたは、近所の方とどのようなお付き合いをしていますか。

近所の方との付き合いの程度については、「あいさつをする程度の最小限のお付き合い」が62.1%と最も多く、次いで「お付き合いはしていない」が20.4%、「日常的に立ち話をする程度のお付き合い」が14.8%となっている。

【図表 193】 近所の方との付き合いの程度

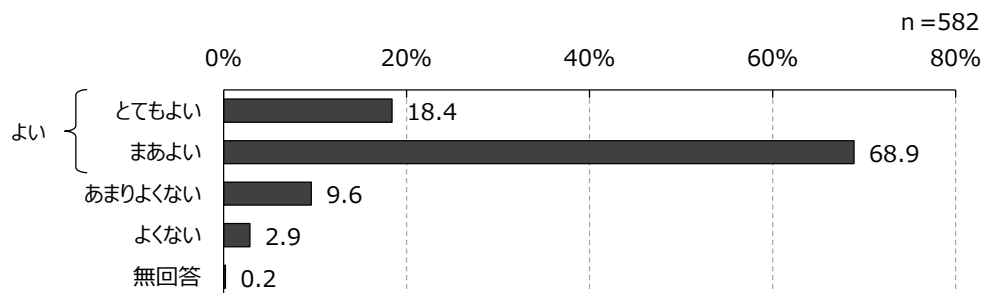


## 健康状態や健康づくり等について

## 問13 現在のあなたの健康状態はいかがですか。

現在の健康状態については、「まあよい」が68.9%と最も多く、「とてもよい」(18.4%)と合わせた“よい”は87.3%となっている。

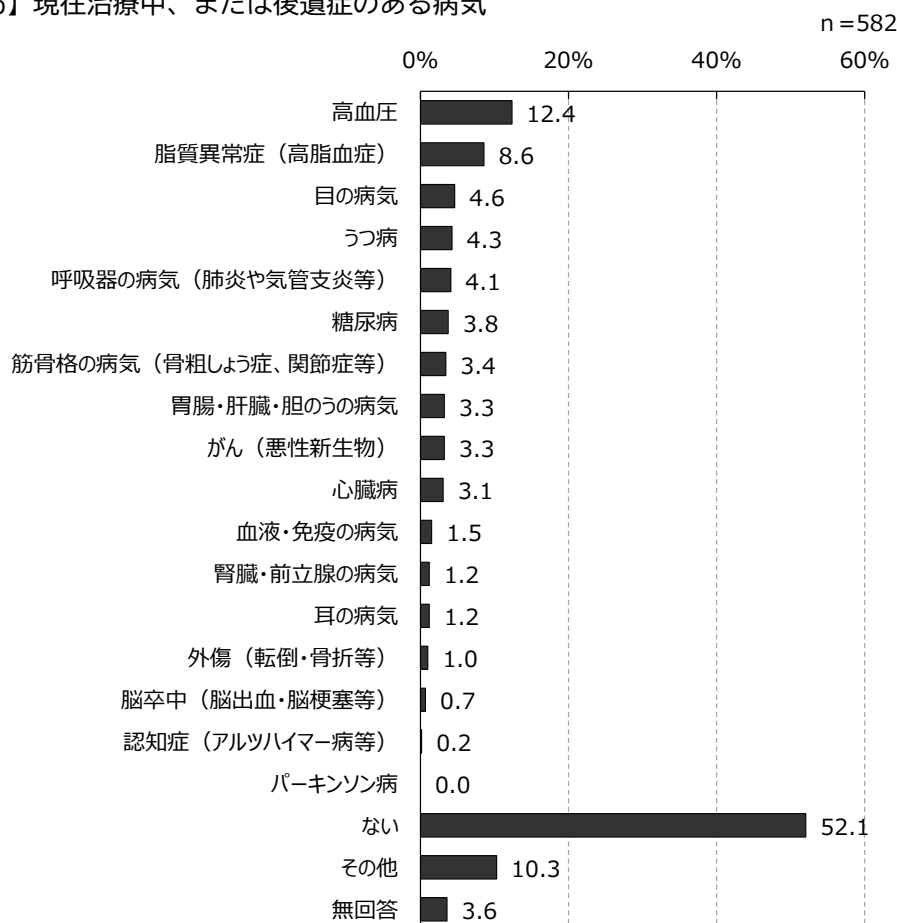
【図表 194】現在の健康状態



## 問14 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(複数回答)

現在治療中、または後遺症のある病気については、「ない」が52.1%と最も多く、次いで「高血圧」が12.4%、「脂質異常症(高脂血症)」が8.6%となっている。

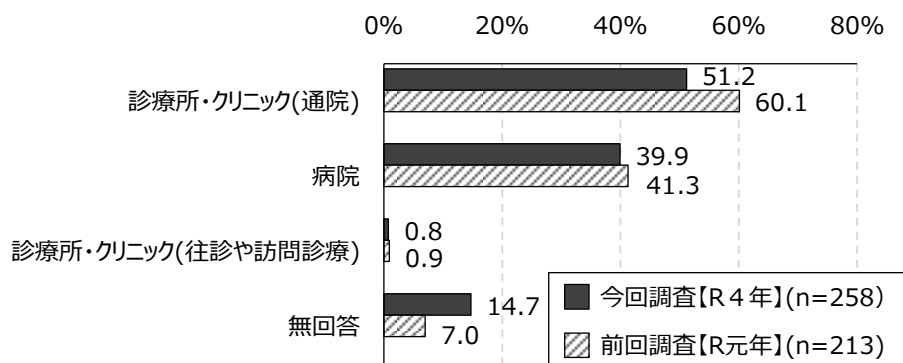
【図表 195】現在治療中、または後遺症のある病気



問14-1 受診している医療機関は、次のうちどれですか。(複数回答)

現在治療中、または後遺症のある病気について「ある」と回答した人に、受診している医療機関を聞いたところ、「診療所・クリニック（通院）」が51.2%と最も多く、次いで「病院」が39.9%となっている。

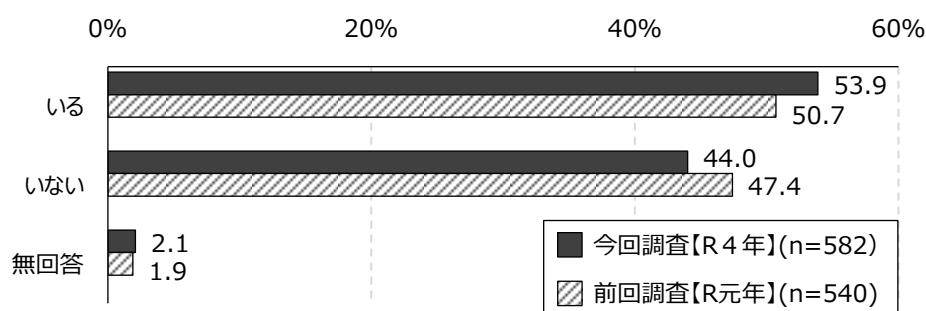
【図表 196】 受診している医療機関 〈前回比較〉



問15 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる診療所・クリニックの「かかりつけ医」がいますか。

かかりつけ医の有無については、「いる」が53.9%、「いない」が44.0%となっている。

【図表 197】 かかりつけ医の有無 〈前回比較〉

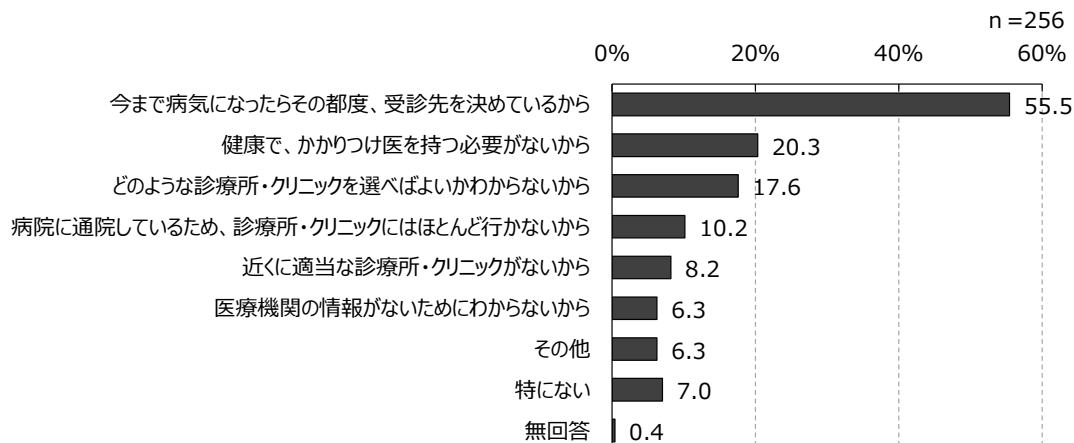




### 問15-1 かかりつけ医がない理由は、次のうちどれですか。(複数回答)

かかりつけ医が「いない」と回答した人にその理由を聞いたところ、「今まで病気になったらその都度、受診先を決めているから」が55.5%と最も多く、次いで「健康で、かかりつけ医を持つ必要がないから」が20.3%、「どのような診療所・クリニックを選べばよいかわからないから」が17.6%となっている。

【図表 198】かかりつけ医がない理由

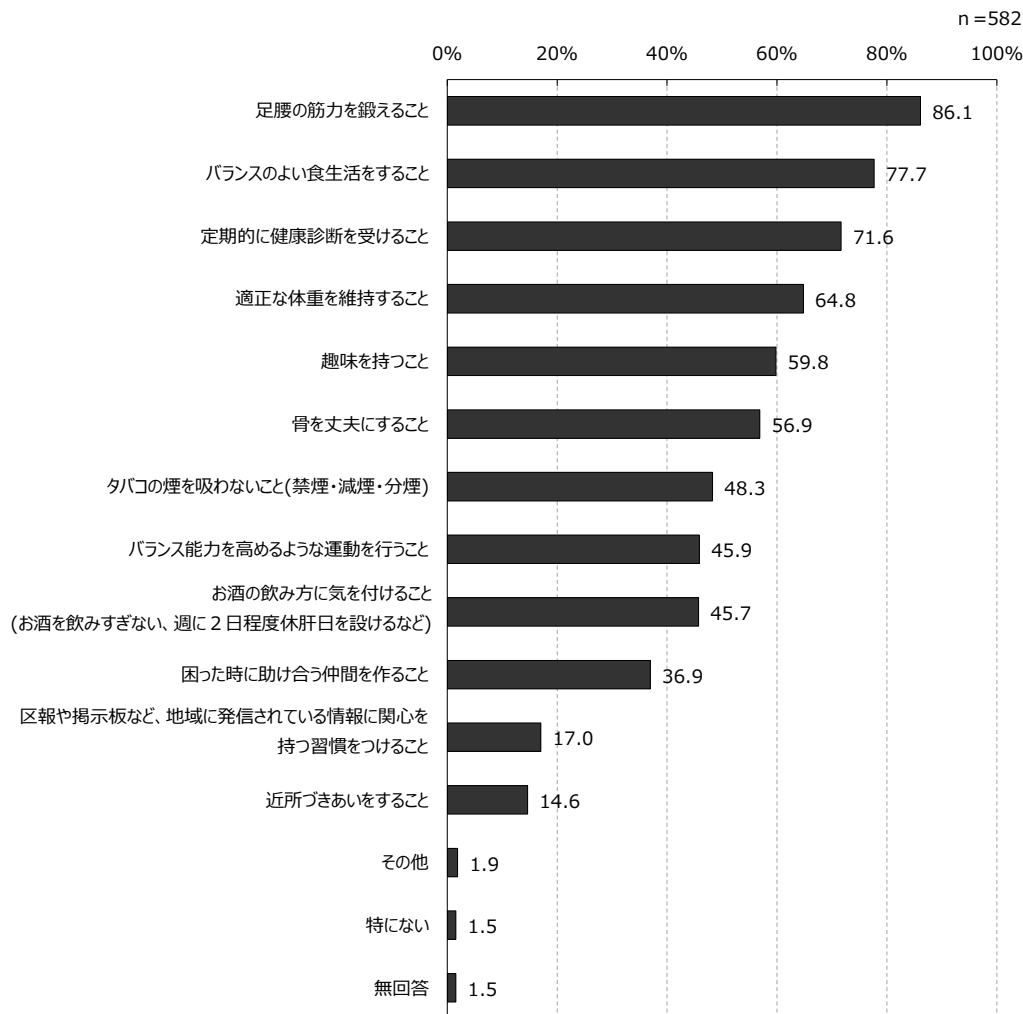


3 第2号被保険者調査

問16 いきいきと充実した活動的な高齢期を実現するために、40代から取り組んだほうがよいことは何だと思えますか。(複数回答)

活動的な高齢期を実現するために、40代から取り組んだほうがよいことについては、「足腰の筋力を鍛えること」が86.1%と最も多く、次いで「バランスのよい食生活をする事」が77.7%、「定期的に健康診断を受けること」が71.6%となっている。

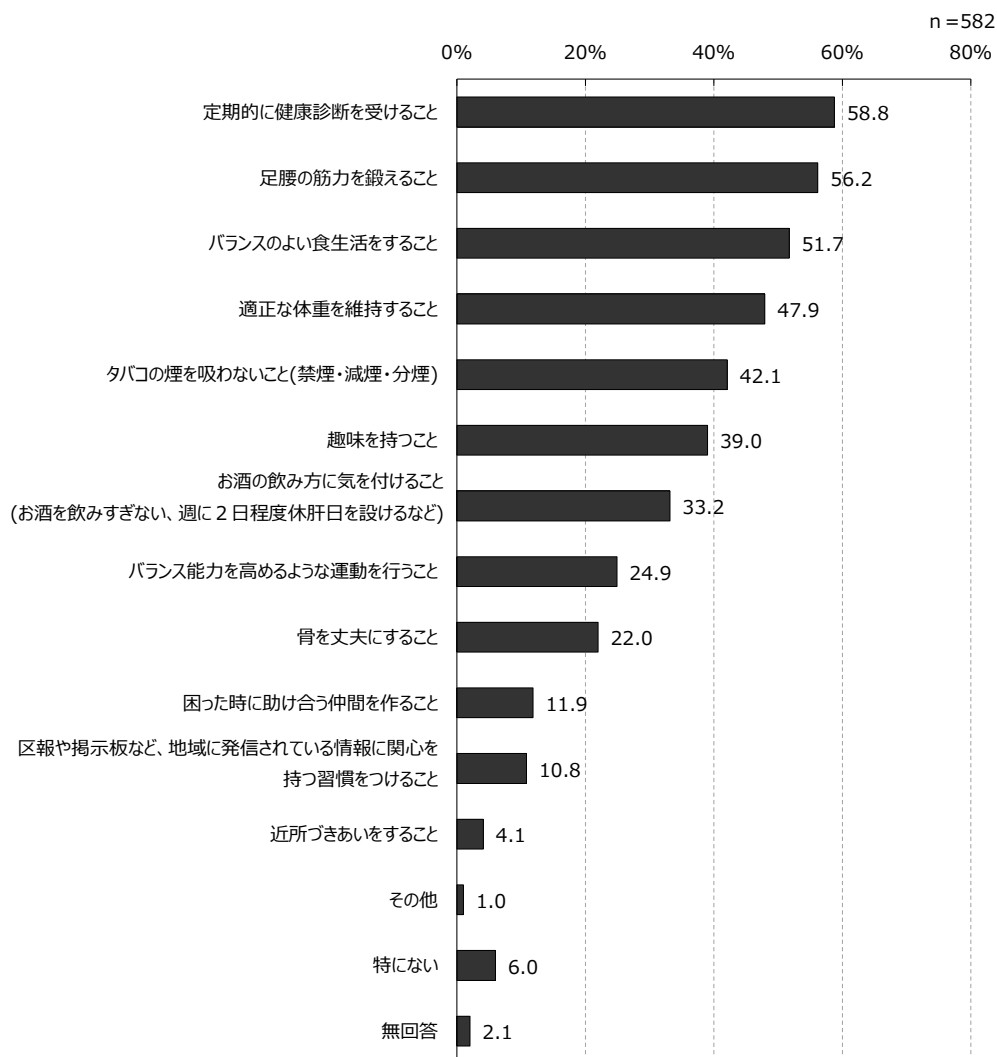
【図表 199】 40代から取り組んだほうがよいこと



### 問17 あなたが現在、実践していることはありますか。(複数回答)

現在、実践していることについては、「定期的に健康診断を受けること」が58.8%と最も多く、次いで「足腰の筋力を鍛えること」が56.2%、「バランスのよい食生活をする事」が51.7%となっている。

【図表 200】現在、実践していること

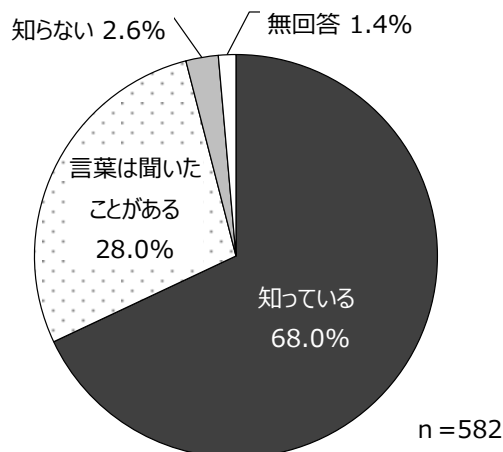


## 若年性認知症について

### 問18 あなたは「若年性認知症」という病気を知っていますか。

若年性認知症という病気の認知度については、「知っている」が68.0%と最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が28.0%、「知らない」が2.6%となっている。

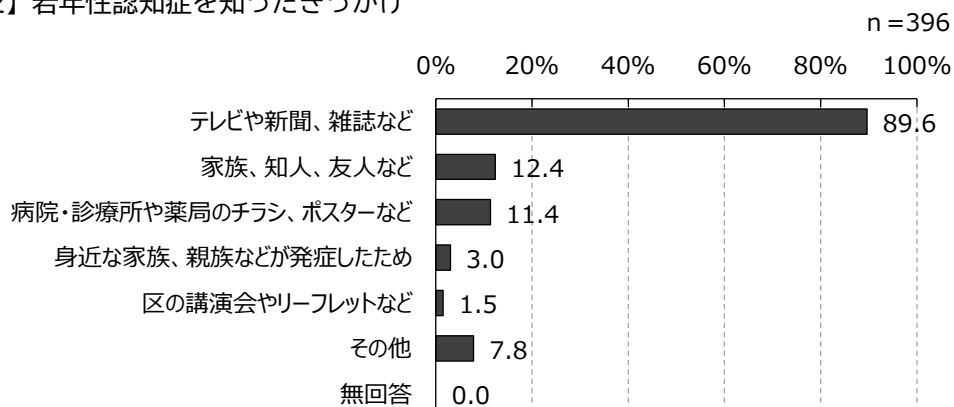
【図表 201】若年性認知症の認知度



### 問18-1 「若年性認知症」を何でお知りになりましたか。(複数回答)

若年性認知症という病気を「知っている」と回答した人に、知ったきっかけについて聞いたところ、「テレビや新聞、雑誌など」が89.6%と最も多く、次いで「家族、知人、友人など」が12.4%、「病院・診療所や薬局のチラシ、ポスターなど」が11.4%となっている。

【図表 202】若年性認知症を知ったきっかけ

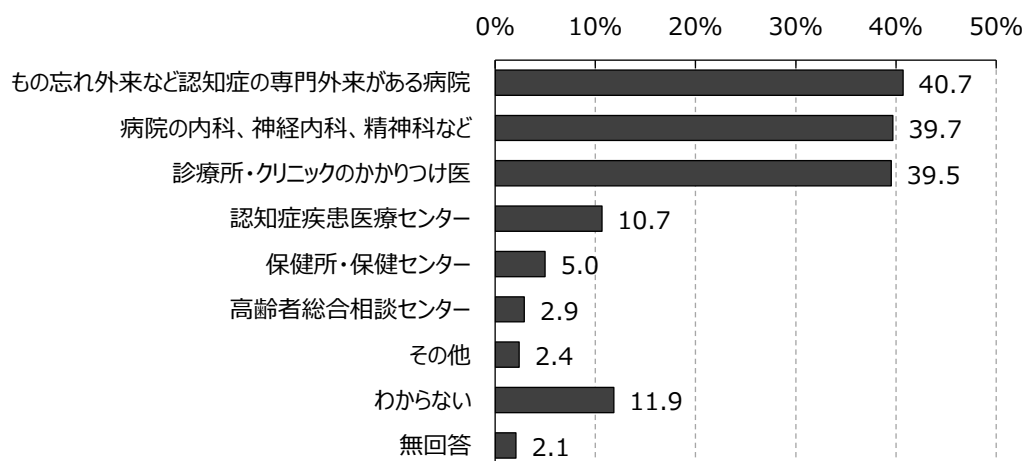


問19 あなたは、もの忘れや理解・判断力の低下、そのことによる仕事上のトラブルなど気になる症状があったとき、どちらに相談しようと思いますか。(複数回答)

もの忘れ等気になる症状があったときの相談先については、「もの忘れ外来など認知症の専門外来がある病院」が40.7%と最も多く、次いで「病院の内科、神経内科、精神科など」が39.7%、「診療所・クリニックのかかりつけ医」が39.5%となっている。

【図表 203】もの忘れ等気になる症状があったときの相談先

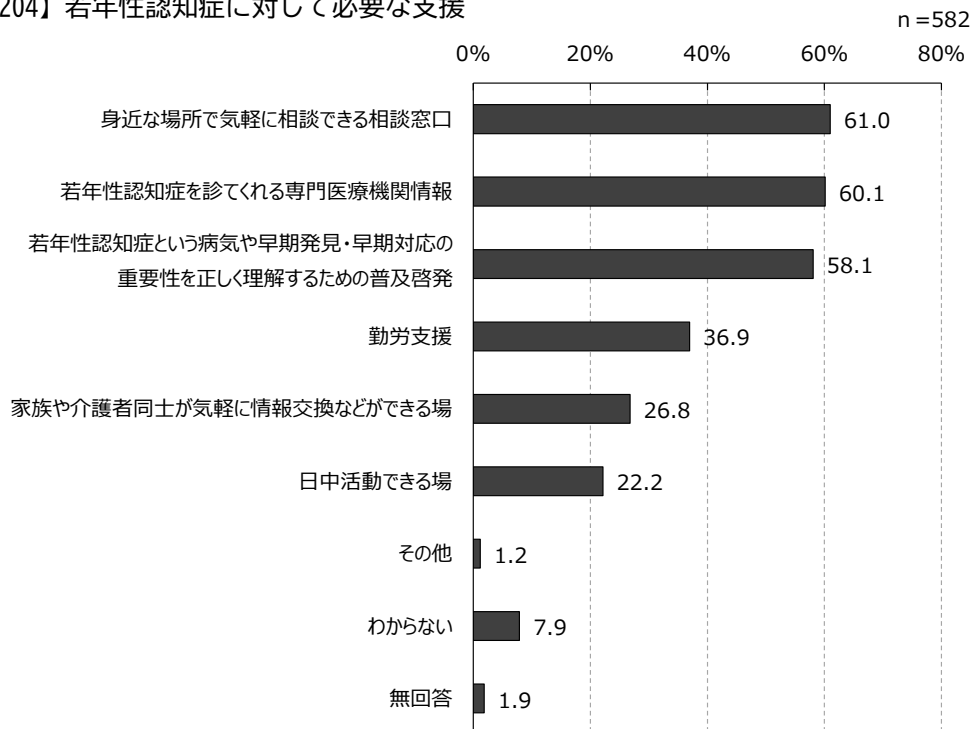
n = 582



問20 あなたは、若年性認知症の支援には何が必要だと思いますか。(複数回答)

若年性認知症に対して必要な支援については、「身近な場所で気軽に相談できる相談窓口」が61.0%と最も多く、次いで「若年性認知症を診てくれる専門医療機関情報」が60.1%、「若年性認知症という病気や早期発見・早期対応の重要性を正しく理解するための普及啓発」が58.1%となっている。

【図表 204】若年性認知症に対して必要な支援

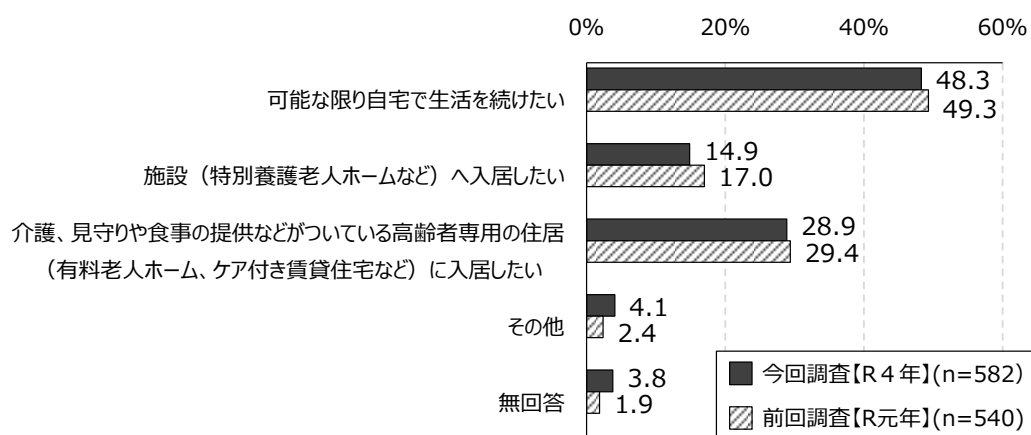


## 在宅療養等について

### 問21 あなたは、介護が必要になった場合、どこで生活を続けたいと思いますか。

介護が必要になった場合に生活を続けたい場所については、「可能な限り自宅で生活を続けたい」が48.3%と最も多く、次いで「介護、見守りや食事の提供などがついている高齢者専用の住居（有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅など）に入居したい」が28.9%、「施設（特別養護老人ホームなど）へ入居したい」が14.9%となっている。

【図表 205】 介護が必要になった場合の生活を続けたい場所（前回比較）

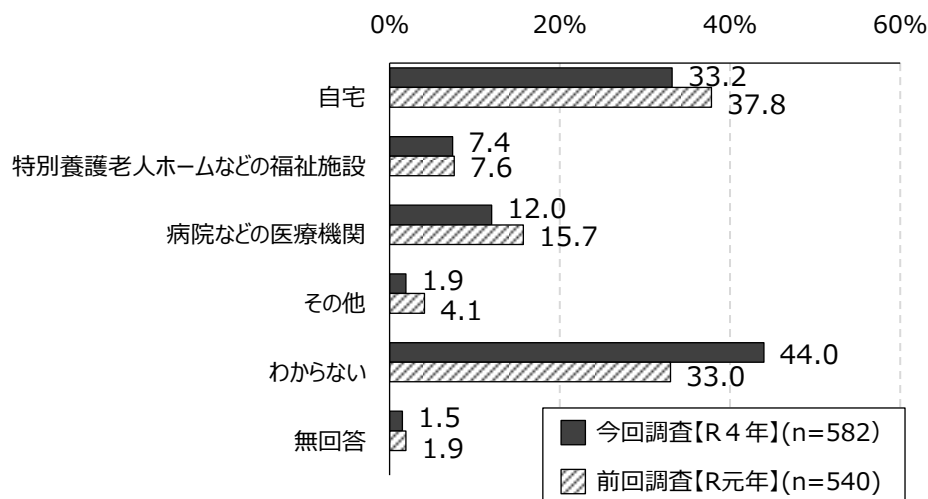


## ACP（人生会議）について

問22 あなたは、ご自身の最期をどこで迎えたいと思いますか。

自身の最期を迎えたい場所については、「わからない」が44.0%と最も多く、次いで「自宅」が33.2%、「病院などの医療機関」が12.0%となっている。

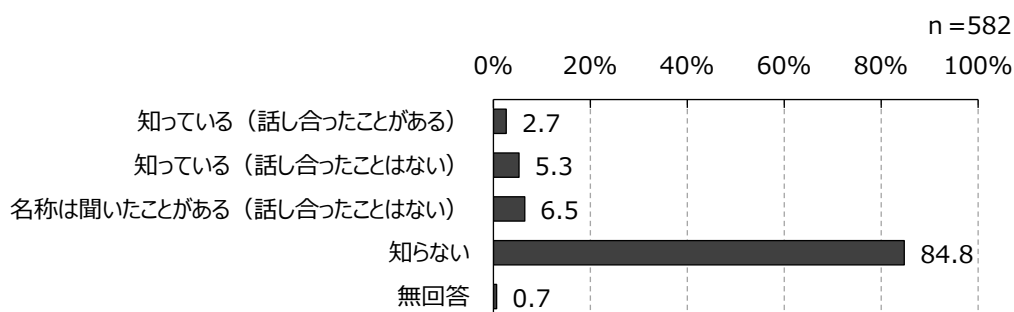
【図表 206】最期を迎えたい場所〈前回比較〉



問23 あなたは、ACP(人生会議)について知っていますか。

ACP（人生会議）についての認知度は、「知らない」が84.8%と最も多く、次いで「名称は聞いたことがある（話し合ったことはない）」が6.5%、「知っている（話し合ったことはない）」が5.3%、「知っている（話し合ったことがある）」が2.7%となっている。

【図表 207】ACP（人生会議）の認知度



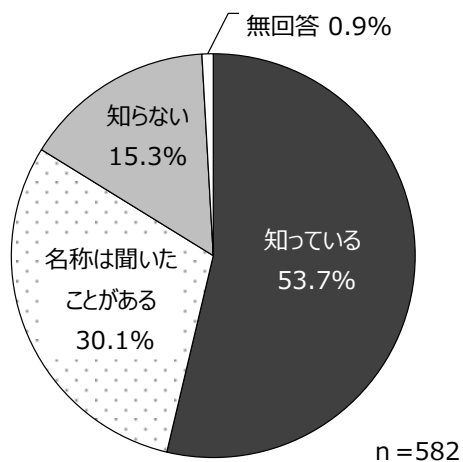


## 緩和ケアについて

問24 あなたは、「緩和ケア」について、知っていますか。

緩和ケアについての認知度は、「知っている」が53.7%と最も多く、次いで「名称は聞いたことがある」が30.1%、「知らない」が15.3%となっている。

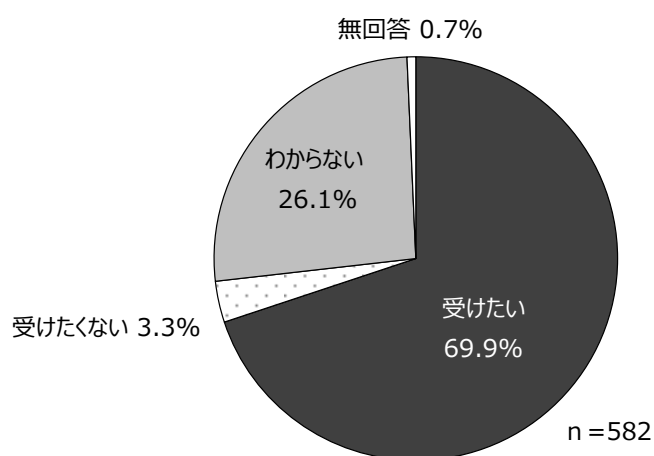
【図表 208】緩和ケアの認知度



問25 あなたは、緩和ケアが必要になった時、早期から痛みやつらさの緩和を主とした「緩和ケア」を受けたいですか。

緩和ケアが必要になった時、緩和ケアを受けたいと思うかについて、「受けたい」が69.9%と最も多く、次いで「わからない」が26.1%、「受けたくない」が3.3%となっている。

【図表 209】緩和ケアを受けたいと思うか

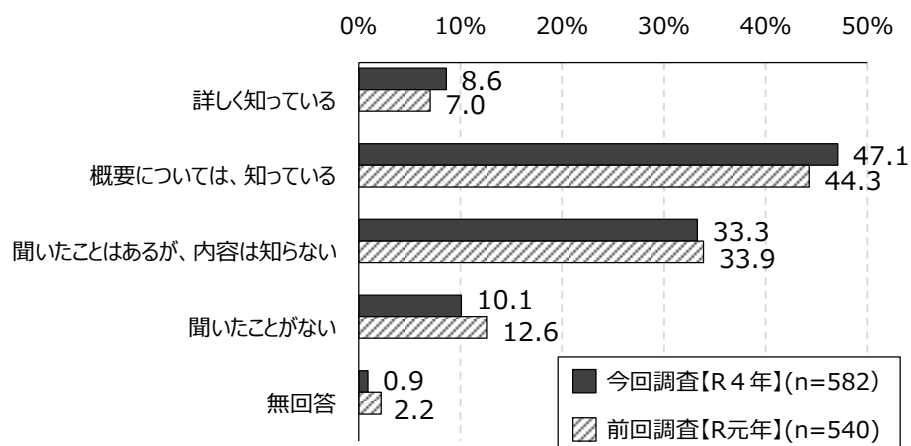


## 権利擁護について

### 問26 あなたは、成年後見制度を知っていますか。

成年後見制度の認知度については、「概要については、知っている」が47.1%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」が33.3%、「聞いたことがない」が10.1%となっている。

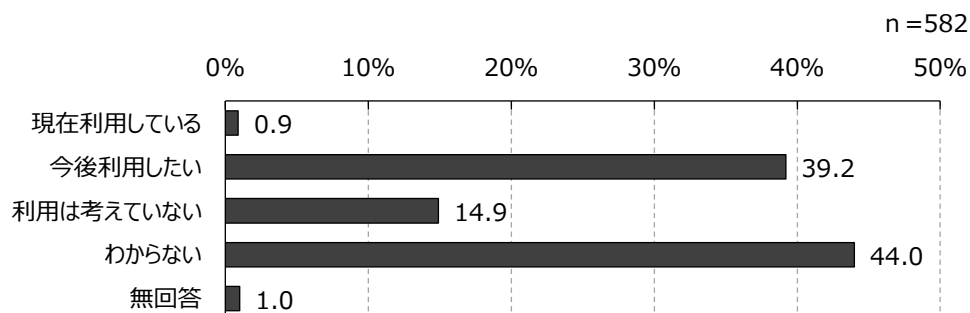
【図表 210】成年後見制度の認知度〈前回比較〉



### 問27 あなたは、あなた自身あるいは家族・親族が認知症等により判断能力が十分でなくなったとき、成年後見制度を利用したいと思いますか。

自身あるいは家族・親族が認知症等により判断能力が十分でなくなったときの成年後見制度の利用意向について、「わからない」が44.0%と最も多く、次いで「今後利用したい」が39.2%、「利用は考えていない」が14.9%となっている。

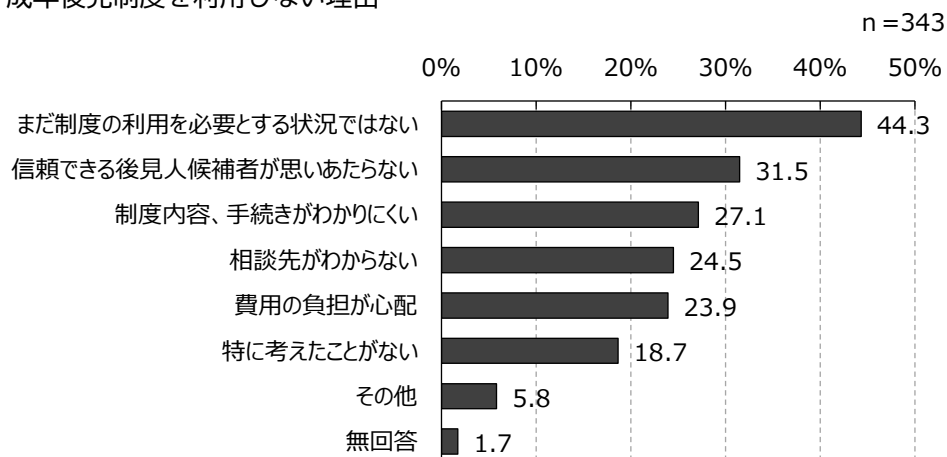
【図表 211】成年後見制度の利用意向



問27-1 成年後見制度を利用しない理由として、どのようなものがありますか。  
(複数回答)

成年後見制度の利用意向で「利用は考えていない」、「わからない」と回答した人にその理由を聞いたところ、「まだ制度の利用を必要とする状況ではない」が44.3%と最も多く、次いで「信頼できる後見人候補者が思いあたらない」が31.5%、「制度内容、手続きがわかりにくい」が27.1%となっている。

【図表 212】 成年後見制度を利用しない理由

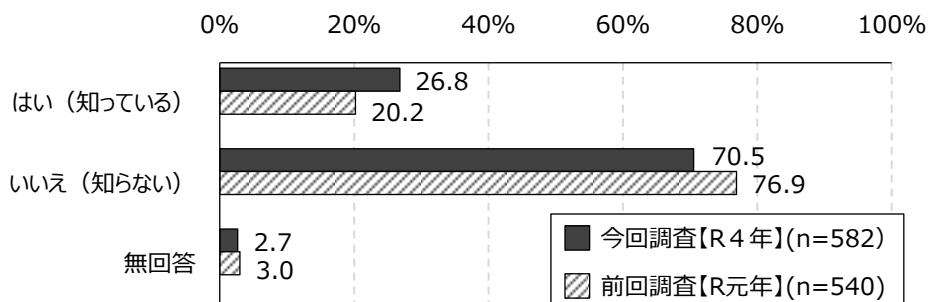


健康・福祉サービスの相談窓口について

問28 あなたは、「高齢者総合相談センター」の名称を知っていますか。

高齢者総合相談センターの名称の認知度については、「はい」が26.8%、「いいえ」が70.5%となっている。

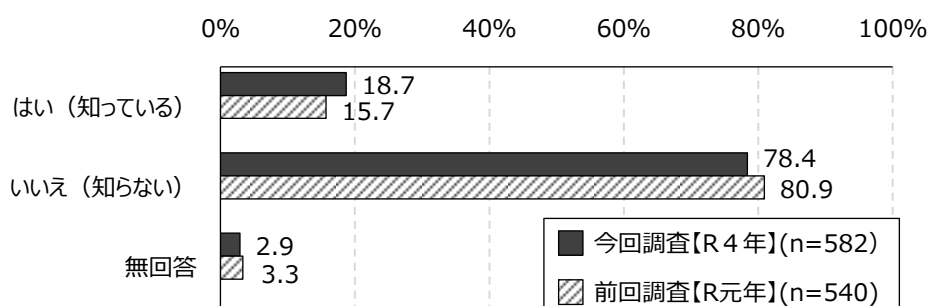
【図表 213】 高齢者総合相談センターの名称の認知度〈前回比較〉



問29 あなたは、「高齢者総合相談センター」が何をする機関か知っていますか。

機能の認知度については、「はい」が18.7%、「いいえ」が78.4%となっている。

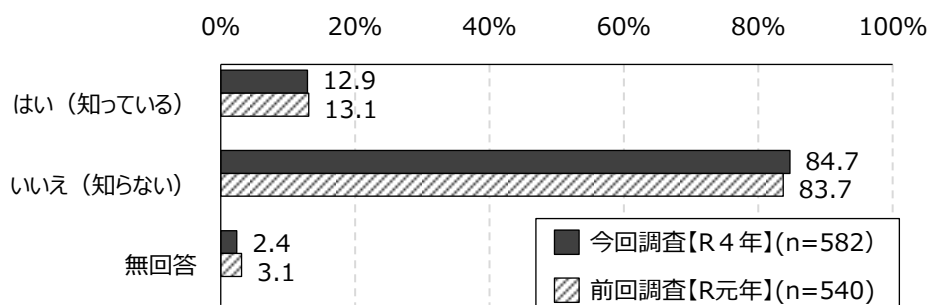
【図表 214】 高齢者総合相談センターの機能の認知度〈前回比較〉



問30 あなたは、あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるか知っていますか。

所在地の認知度については、「はい」が12.9%、「いいえ」が84.7%となっている。

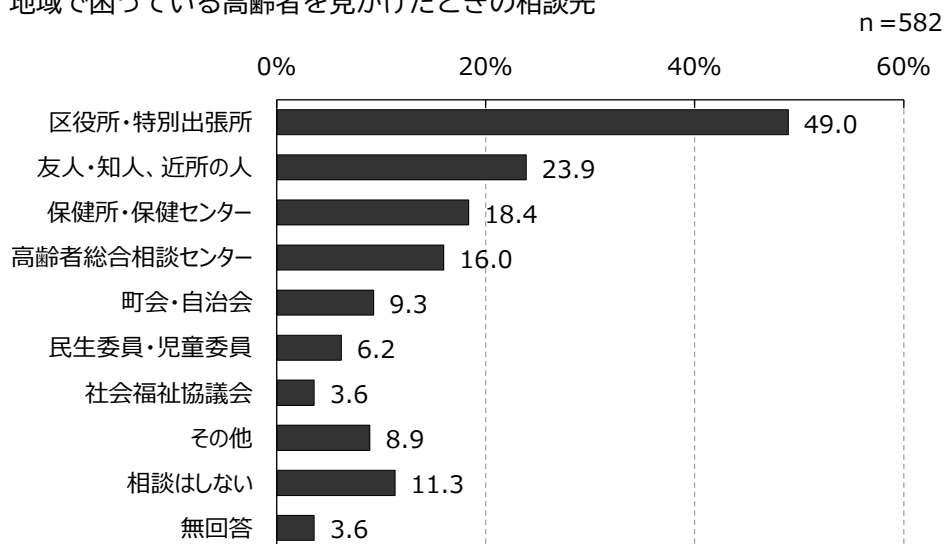
【図表 215】 高齢者総合相談センターの所在地の認知度〈前回比較〉



問31 あなたは、地域で困っている高齢者を見かけたり、異変に気付いたとき、どちらに相談しますか。(複数回答)

地域で困っている高齢者を見かけたときの相談先については、「区役所・特別出張所」が49.0%と最も多く、次いで「友人・知人、近所の人」が23.9%、「保健所・保健センター」が18.4%となっている。

【図表 216】地域で困っている高齢者を見かけたときの相談先

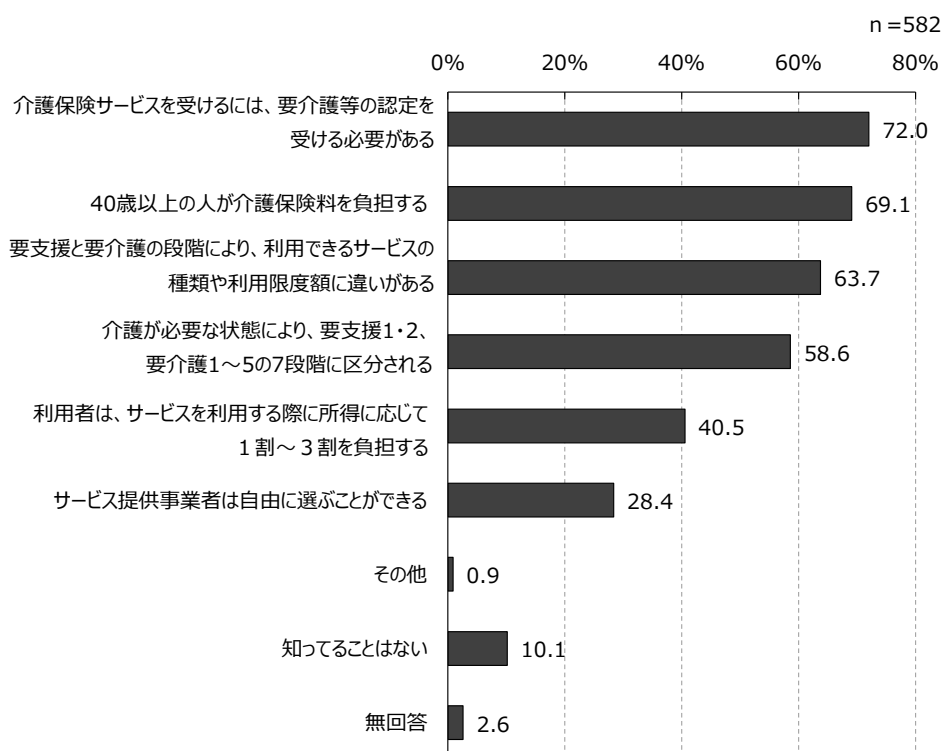


## 介護保険制度について

問32 あなたは「介護保険制度」について、どのようなことを知っていますか。  
(複数回答)

介護保険制度の周知度については、「介護保険サービスを受けるには、要介護等の認定を受ける必要がある」が72.0%と最も多く、次いで「40歳以上の人介護保険料を負担する」が69.1%、「要支援と要介護の段階により、利用できるサービスの種類や利用限度額に違いがある」が63.7%となっている。

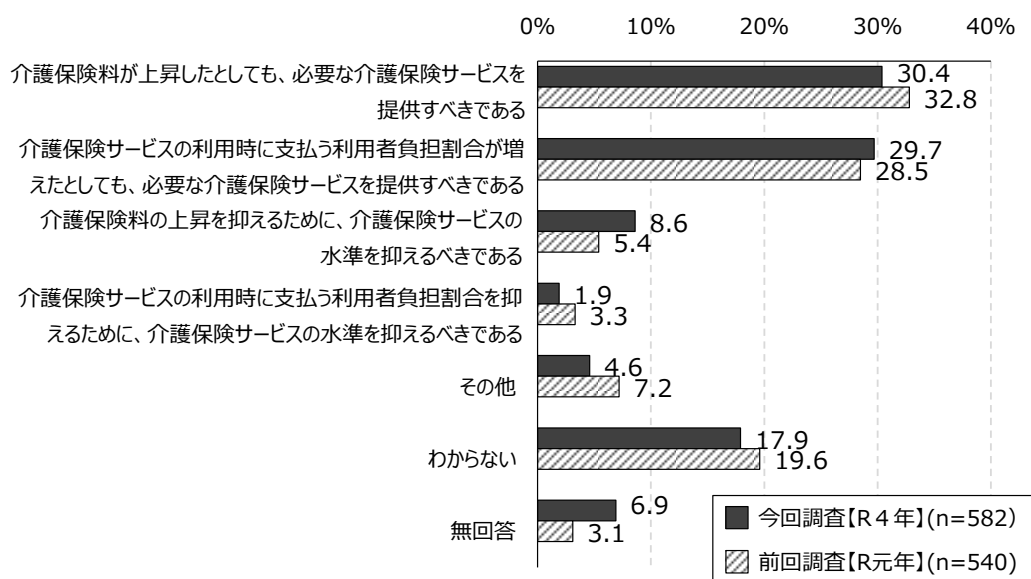
【図表 217】 介護保険制度の周知度



問33 今後、高齢者の増加に伴い、サービスにかかる費用も増大することが予想されます。介護保険のサービスと費用負担について、あなたのお考えに最も近いものは、次のうちどれですか。

介護保険のサービスと費用負担については、「介護保険料が上昇したとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」が30.4%と最も多く、次いで「介護保険サービスの利用時に支払う利用者負担割合が増えたとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」が29.7%、「わからない」が17.9%となっている。

【図表 218】 介護保険のサービスと費用負担〈前回比較〉



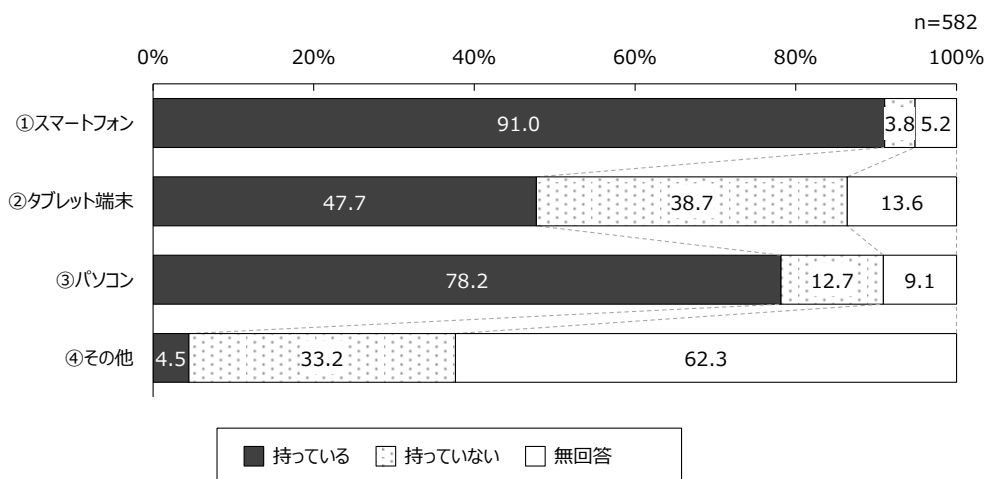
## 通信機器の利用状況等について

問34 通信機器の所有状況やインターネット等の利用状況についておたずねします。

### (1)所有状況

通信機器の所有状況については、①スマートフォンを「持っている」が91.0%、②タブレット端末を「持っている」が47.7%、③パソコンを「持っている」が78.2%となっている

【図表 219】 通信機器の所有状況



### ▼その他の主な内容

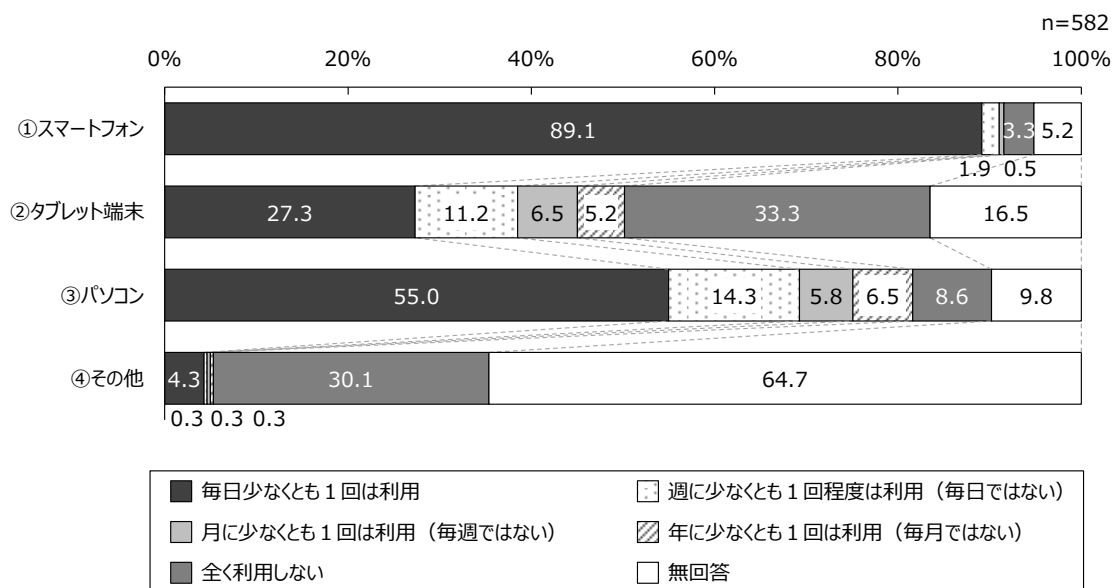
携帯電話（ガラケー）／ネット対応型テレビ／ゲーム機 等



## (2)過去1年のインターネットの利用状況

過去1年のインターネットの利用状況について、①スマートフォンでは、「毎日少なくとも1回は利用」が89.1%と最も多く、次いで「全く利用しない」が3.3%となっている。②タブレット端末では、「全く利用しない」が33.3%と最も多く、次いで「毎日少なくとも1回は利用」が27.3%となっている。③パソコンでは、「毎日少なくとも1回は利用」が55.0%と最も多く、次いで「週に少なくとも1回程度は利用（毎日ではない）」が14.3%となっている。

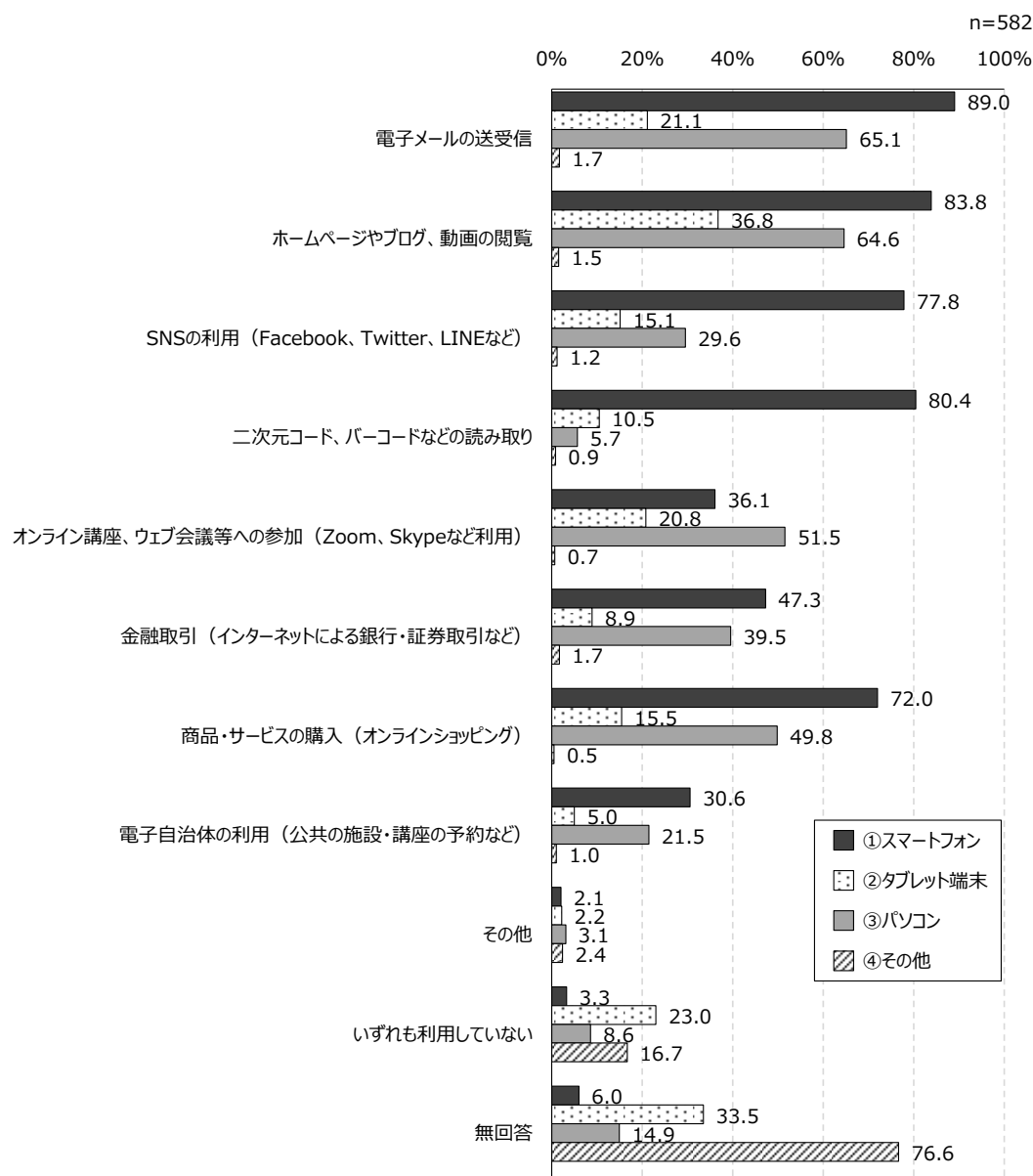
【図表 220】 過去1年のインターネットの利用状況



(3)過去1年間に利用した通信機器を使った機能・サービス(複数回答)

過去1年間に通信機器を使って利用した機能・サービスについて、①スマートフォンでは、「電子メールの送受信」が89.0%と最も多く、次いで「ホームページやブログ、動画の閲覧」が83.8%となっている。②タブレット端末では、「ホームページやブログ、動画の閲覧」が36.8%と最も多く、次いで「電子メールの送受信」が21.1%となっている。③パソコンでは、「電子メールの送受信」が65.1%と最も多く、次いで「ホームページやブログ、動画の閲覧」が64.6%となっている。

【図表 221】過去1年間に通信機器を使って利用した機能・サービス



▼その他の主な内容

仕事／動画配信サービス／ゲームアプリ／電子書籍 等

## 自由記述

問35 高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区へのご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、99人から105件の回答があった。意見を9の項目にまとめた各項目の主な意見は以下のとおり。(その他を除く)

<b>施策全般について</b>	<b>26件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・独居老人等への介入、支援を行ってほしい。</li> <li>・高齢者が暮らしやすい社会はどの世代にとっても暮らしやすい社会だと思う。保健・福祉サービスを利用したい人が適切に利用できるよう一層の充実を求める。</li> <li>・高齢者よりも将来のある子どもたちや、新社会人を助ける方策に力を入れてほしい。</li> </ul>	
<b>情報提供・相談について</b>	<b>25件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自助努力のための準備呼びかけ、必要な資金、公的福祉財源についての情報などわかりやすくPRしてほしい。</li> <li>・高齢者に必要な情報が届くよう工夫してほしい。</li> <li>・保健、福祉に関するワンストップの相談・連絡調整窓口を整備し、周知を図ってほしい。</li> </ul>	
<b>介護保険・サービスについて</b>	<b>18件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、年金生活になった時、金銭的にもケア内容も十分な介護を受けられるか不安。</li> <li>・多様な生活で、全ての人を満足させるケアはできないまでも、真摯にできるところで取り組んでくれることに、心より感謝している。</li> </ul>	
<b>行政への要望</b>	<b>8件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平日は働いているので、土・日にも窓口を開けてほしい。</li> <li>・年齢を重ねるにつれ近所での施設充実が、いろいろな事への参加意欲につながると思うので区役所やセンター内での催し物を増やしてほしい。</li> <li>・粗大ごみの不法投棄や路上駐輪が多く街並みが汚く不快。</li> </ul>	
<b>アンケートについて</b>	<b>3件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・だれもがいつか必要になる事だが、自ら関心がなければ知り得ない内容だなと感じた。</li> <li>・このアンケートによって、高齢者総合相談センターの存在を知った。</li> </ul>	
<b>健康・介護予防について</b>	<b>3件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の一人暮らしがとても多いと思う。ラジオ体操のような簡単な運動、筋力づくりを定期的にもらえるような、内向的な人も参加したくなるようなコミュニティの場を工夫してつくるのが良いのではないか。</li> </ul>	
<b>就労・地域活動について</b>	<b>2件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会に入っていないが、未入会の住民へ定期的に入るように勧誘をしてほしい。地域への関心を深める必要性を感じている。</li> </ul>	
<b>医療・保健について</b>	<b>2件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の医療について緊急や重大な病気以外は制限等を設けて、医療費の削減を行ってほしい。</li> <li>・高齢者への薬の処方過多はどうすれば防ぐことができるか。将来的にはAIで管理することを検討していくのが課題かと考える。</li> </ul>	
<b>その他</b>	<b>18件</b>

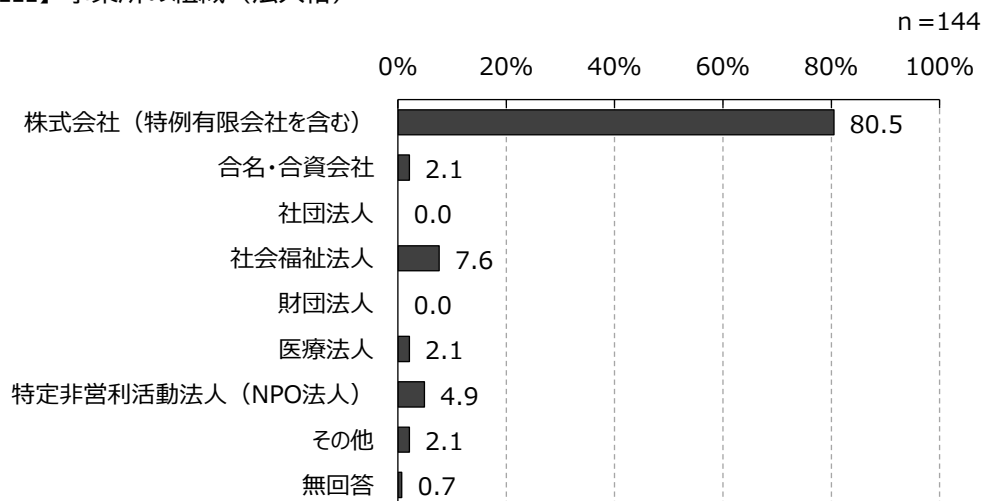
## 4 ケアマネジャー調査

### 勤務先の事業所の概要について

問1 あなたの所属する事業所の組織(法人格)は、次のうちどれですか。

事業所の組織（法人格）については、「株式会社（特例有限会社を含む）」が80.5%と最も多くなっている。

【図表 222】 事業所の組織（法人格）

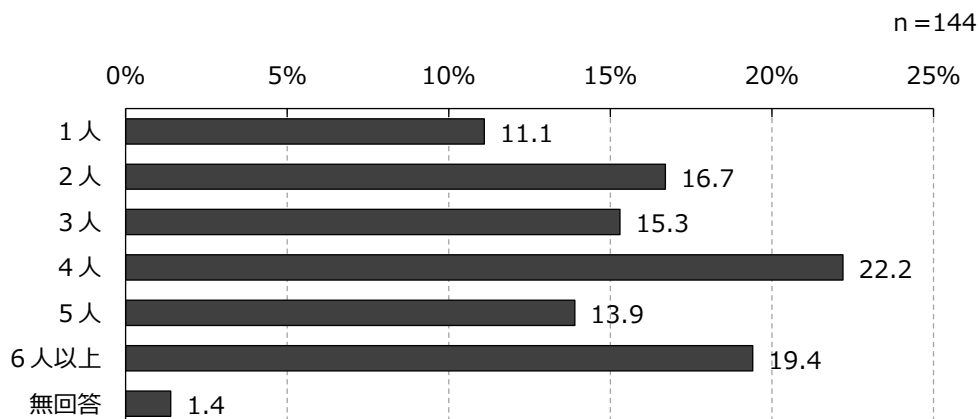


問2 あなたの居宅介護支援事業所のケアマネジャーは、あなたも含めて何人ですか。  
そのうち、主任ケアマネジャーは何人ですか。

### ■ケアマネジャーの人数

居宅介護支援事業所のケアマネジャーの人数については、「4人」が22.2%と最も多く、次いで「6人以上」が19.4%、「2人」が16.7%となっている。

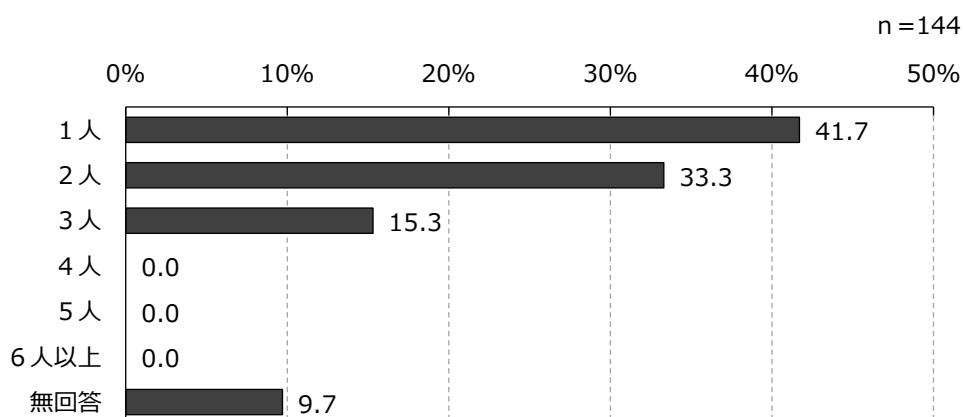
【図表 223】 居宅介護支援事業所のケアマネジャーの人数



### ■主任ケアマネジャーの人数

主任ケアマネジャーの人数については、「1人」が41.7%と最も多くなっている。

【図表 224】 主任ケアマネジャーの人数

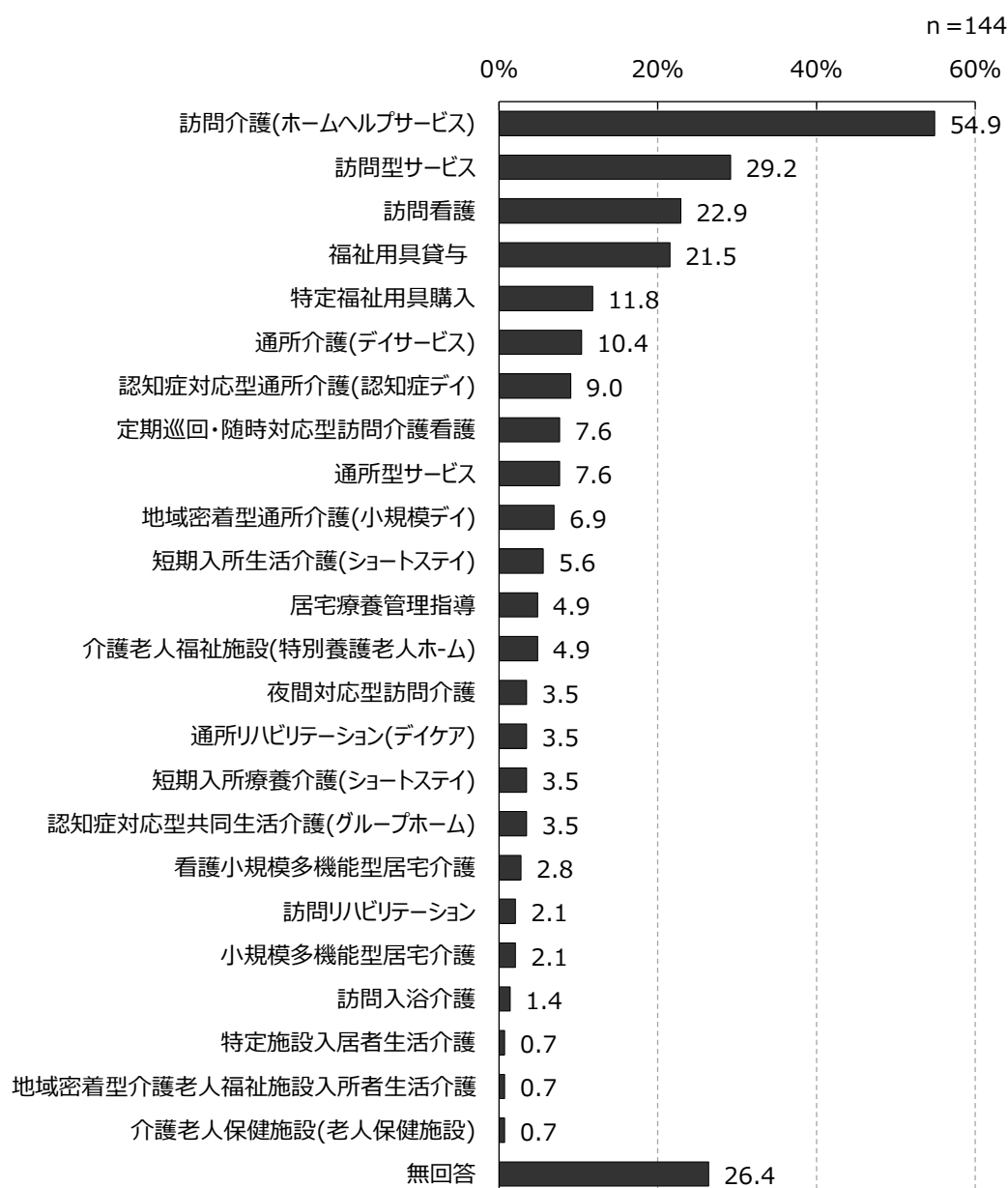


#### 4 ケアマネジャー調査

問3 あなたの所属する事業所が、居宅介護支援事業の他に提供しているサービスはどれですか。(複数回答)

居宅介護支援事業の他に提供しているサービスについては、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」が54.9%と最も多く、次いで「訪問型サービス」が29.2%、「訪問看護」が22.9%となっている。

【図表 225】居宅介護支援事業の他に提供しているサービス

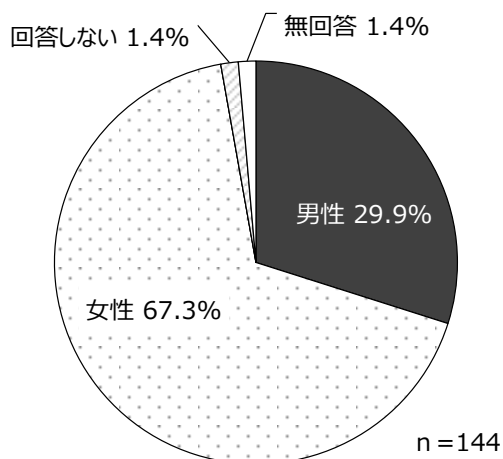


## あなた自身のことについて

問4 あなたの性別をお選びください。

性別については、「男性」が29.9%、「女性」が67.3%となっている。

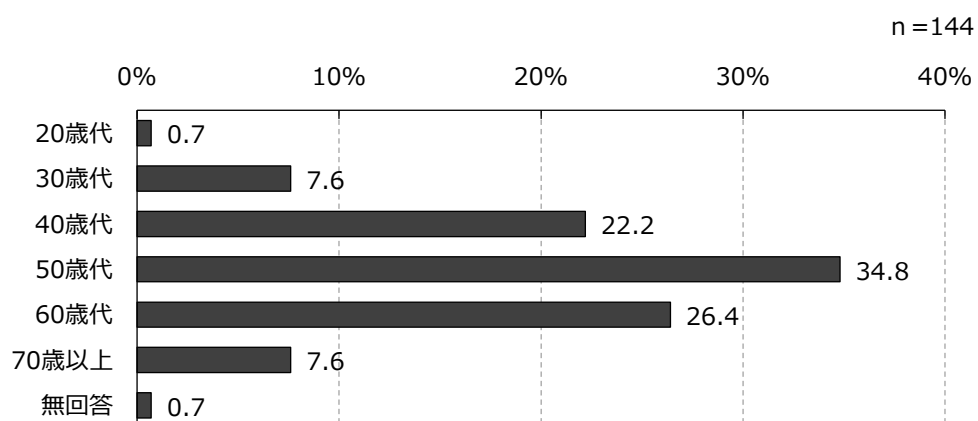
【図表 226】性別



問5 あなたの年齢をお選びください。

年齢については、「50歳代」が34.8%と最も多く、次いで「60歳代」が26.4%、「40歳代」が22.2%となっている。

【図表 227】年齢

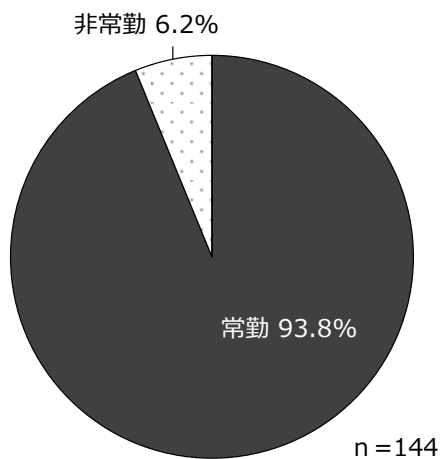


4 ケアマネジャー調査

問6 あなたの勤務形態をお選びください。

勤務形態については、「常勤」が93.8%、「非常勤」が6.2%となっている。

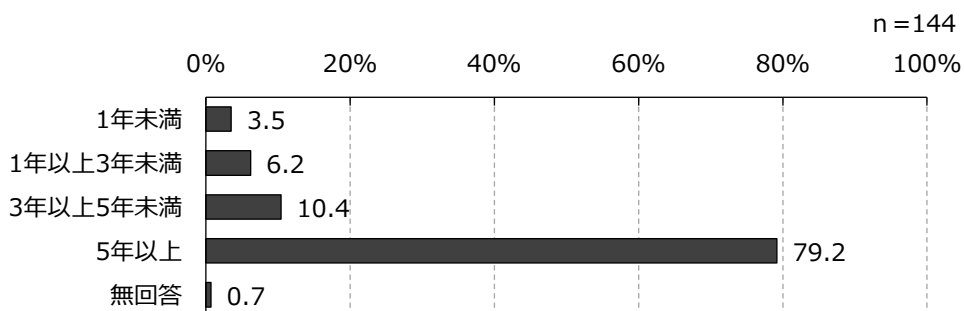
【図表 228】勤務形態



問7 あなたのケアマネジャーの経験年数をお選びください。

ケアマネジャーの経験年数については、「5年以上」が79.2%と最も多く、次いで「3年以上5年未満」が10.4%、「1年以上3年未満」が6.2%となっている。

【図表 229】経験年数

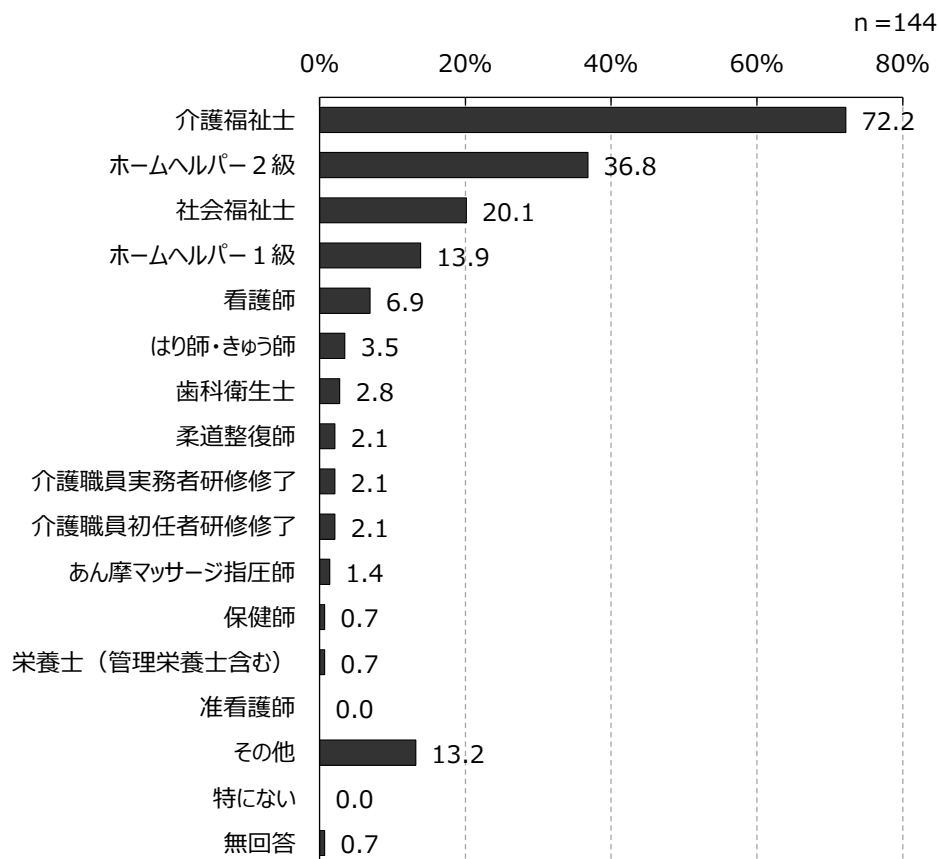




### 問8 あなたは、介護支援専門員以外にどのような資格をお持ちですか。(複数回答)

介護支援専門員以外に所有している資格については、「介護福祉士」が72.2%と最も多く、次いで「ホームヘルパー2級」が36.8%、「社会福祉士」が20.1%となっている。

【図表 230】 介護支援専門員以外に所有している資格



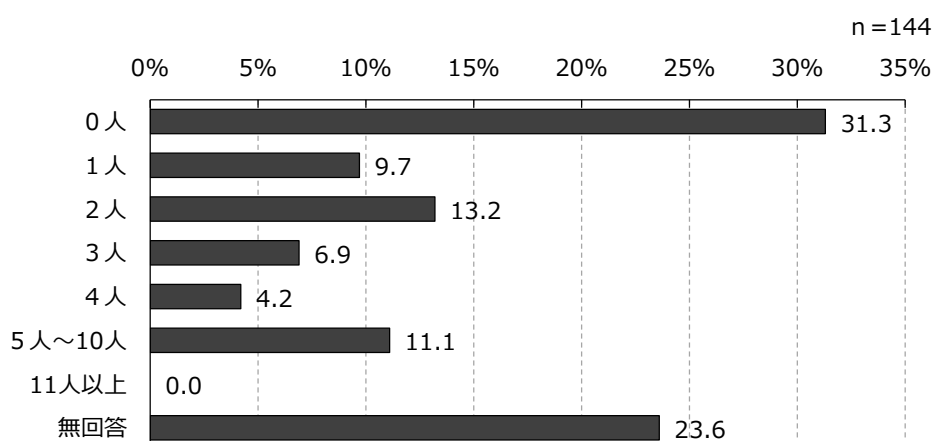
## ケアマネジメントの状況について

問9 あなたが令和4年9月1日現在、担当している人数を教えてください。

### ■担当している予防支援者の人数

担当している予防支援者数については、「0人」が31.3%と最も多く、次いで「2人」が13.2%、「5人～10人」が11.1%となっている。

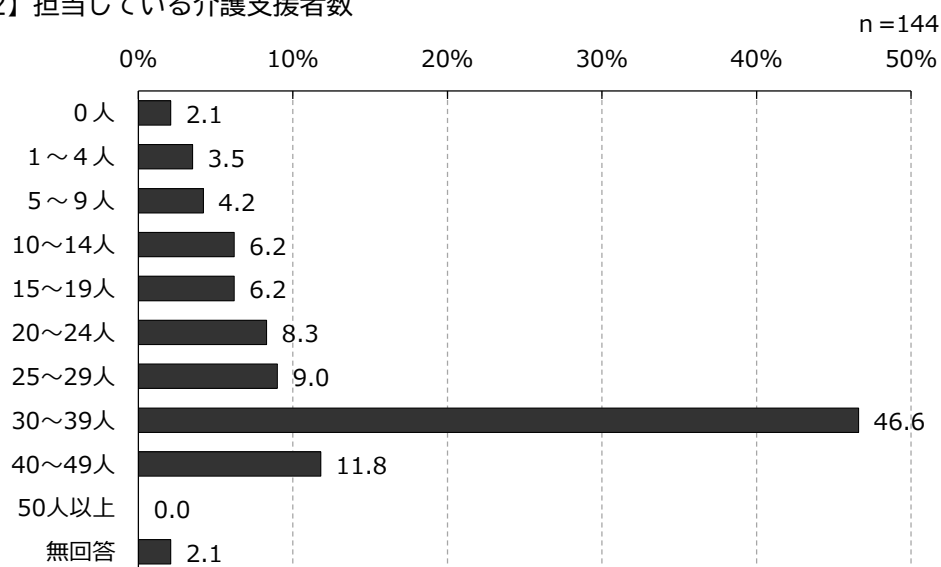
【図表 231】 担当している予防支援者数



### ■担当している介護支援者の人数

担当している介護支援者数については、「30～39人」が46.6%と最も多く、次いで「40～49人」が11.8%、「25～29人」が9.0%となっている。

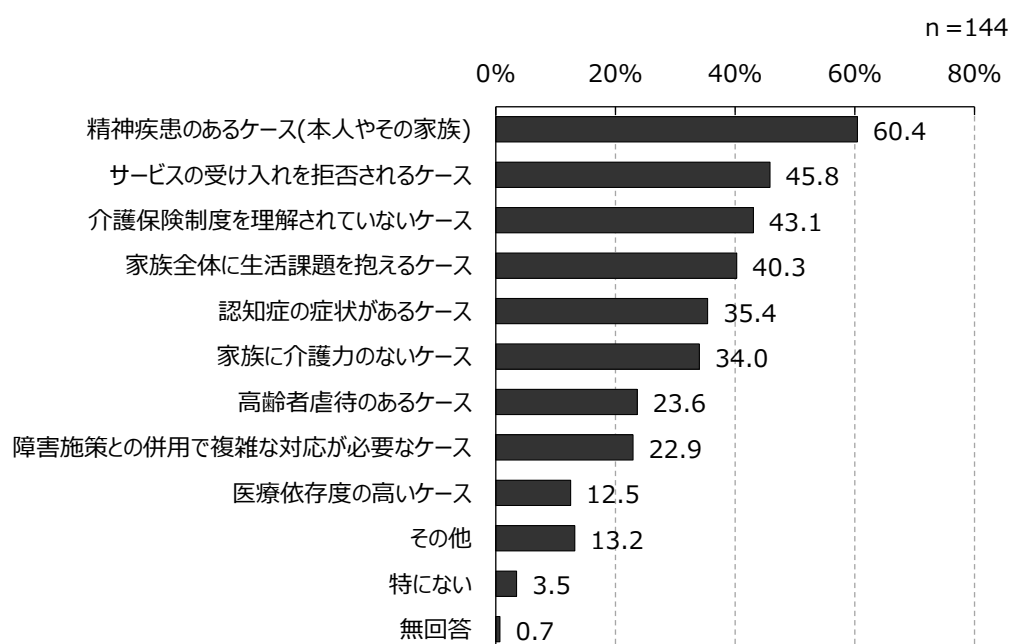
【図表 232】 担当している介護支援者数



問10 過去1年間で、あなたが支援困難と感じたケースは、次のうちどれですか。  
(複数回答)

過去1年間で、あなたが支援困難と感じたケースについては、「精神疾患のあるケース（本人やその家族）」が60.4%と最も多く、次いで「サービスの受け入れを拒否されるケース」が45.8%、「介護保険制度を理解されていないケース」が43.1%となっている。

【図表 233】 過去1年間で、支援困難と感じたケース

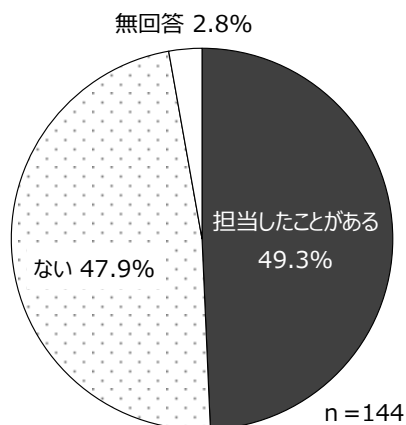


#### 4 ケアマネジャー調査

問11 あなたは、過去1年間で、虐待につながる可能性のあるケースを担当したことがありますか。

過去1年間で、虐待につながる可能性のあるケースを担当したことの有無については、「担当したことがある」が49.3%、「ない」が47.9%となっている。

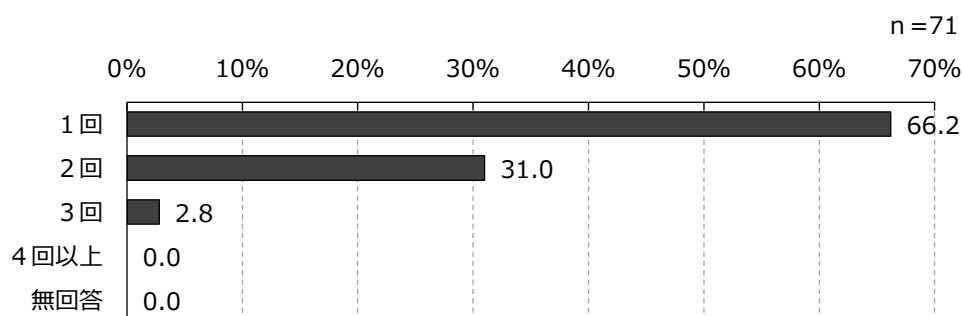
【図表 234】 過去1年間で、虐待につながる可能性のあるケースを担当したことの有無



#### ■担当したことがある回数

過去1年間で、虐待につながる可能性のあるケースを「担当したことがある」と回答した人に回数について聞いたところ、「1回」が66.2%と最も多くなっている。

【図表 235】 過去1年間で、虐待につながる可能性のあるケースを担当した回数

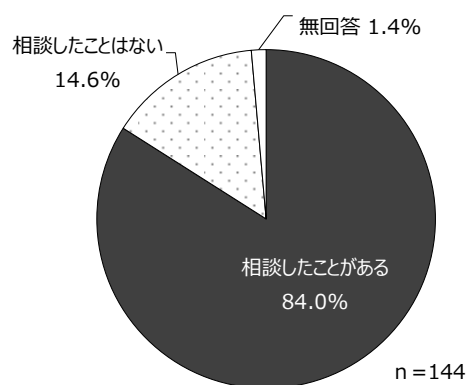


## 高齢者総合相談センターのケアマネジャーへの支援について

問12 過去1年間で、あなたは、利用者に関して高齢者総合相談センターへ相談したことがありますか。

過去1年間の高齢者総合相談センターの相談状況については、「相談したことがある」が84.0%、「相談したことはない」が14.6%となっている。

【図表 236】 過去1年間の高齢者総合相談センターの相談状況

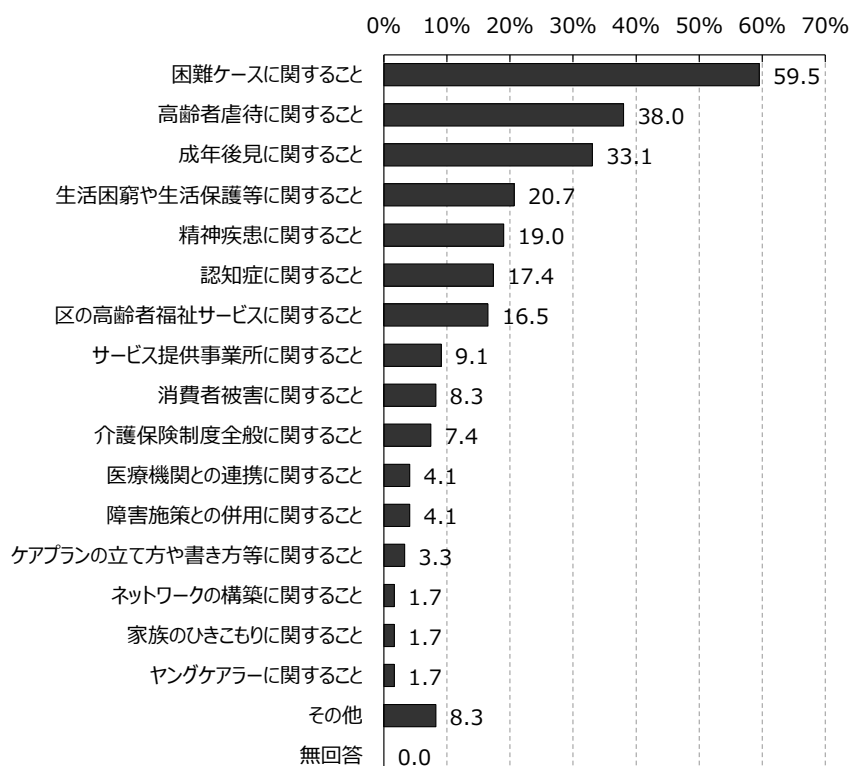


問12-1 相談した分野は、次のうちどれですか。(複数回答)

過去1年間に高齢者総合相談センターに「相談したことがある」と回答した人に相談した分野を聞いたところ、「困難ケースに関すること」が59.5%と最も多く、次いで「高齢者虐待に関すること」が38.0%、「成年後見に関すること」が33.1%となっている。

【図表 237】 高齢者総合相談センターに相談した分野

n=121

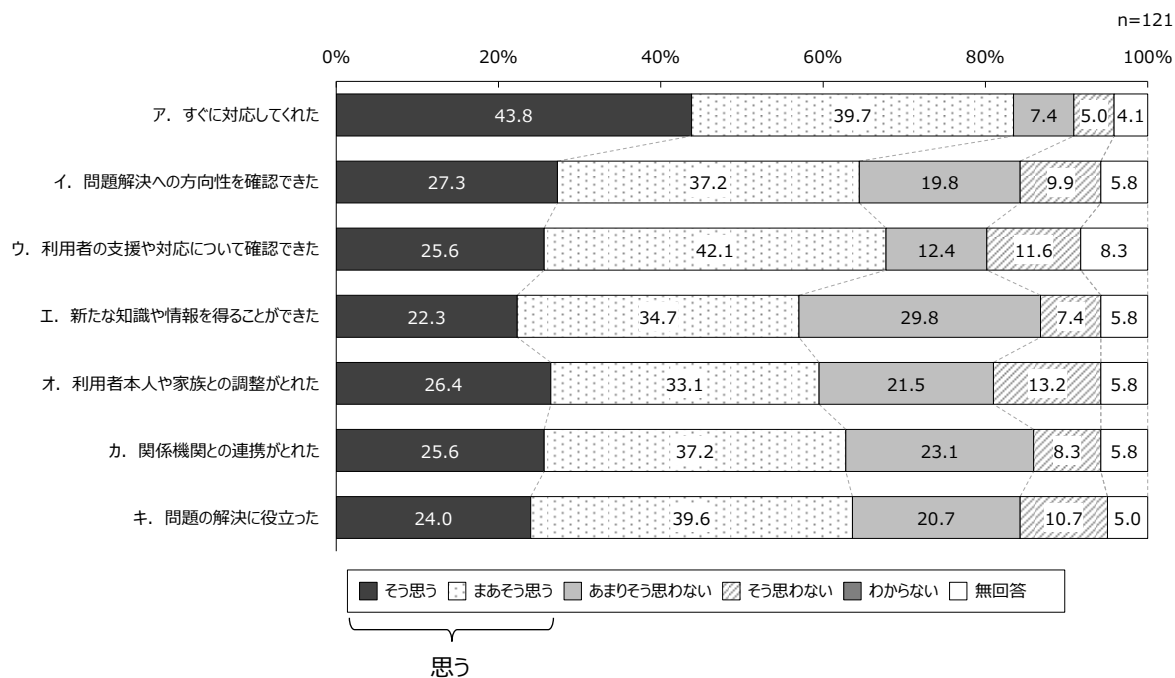


4 ケアマネジャー調査

問12-2 高齢者総合相談センターへ相談した際の全般的な評価は、次のうちどれですか。

過去1年間に高齢者総合相談センターに「相談したことがある」と回答した人に高齢者総合相談センターに対する評価を聞いたところ、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた“思う”は、『ア. すぐに対応してくれた』が83.5%と最も多く、次いで『ウ. 利用者の支援や対応について確認できたが』67.7%、『イ. 問題解決への方向性を確認できた』が64.5%となっている。

【図表 238】 高齢者総合相談センターに対する評価

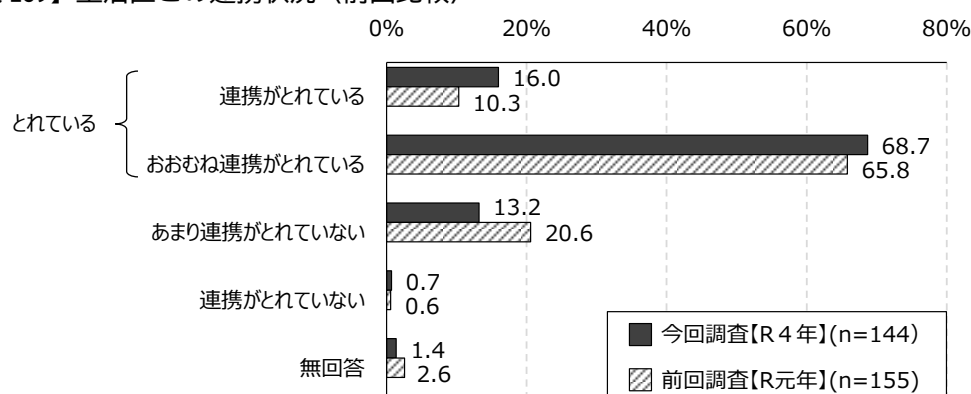


## 各種連携の状況について

問13 あなたはケアマネジャーとして、主治医(かかりつけ診療所・クリニック)との連携はとれていますか。

主治医との連携状況については、「おおむね連携がとれている」が68.7%と最も多く、「連携がとれている」(16.0%)と合わせた“とれている”は84.7%となっている。

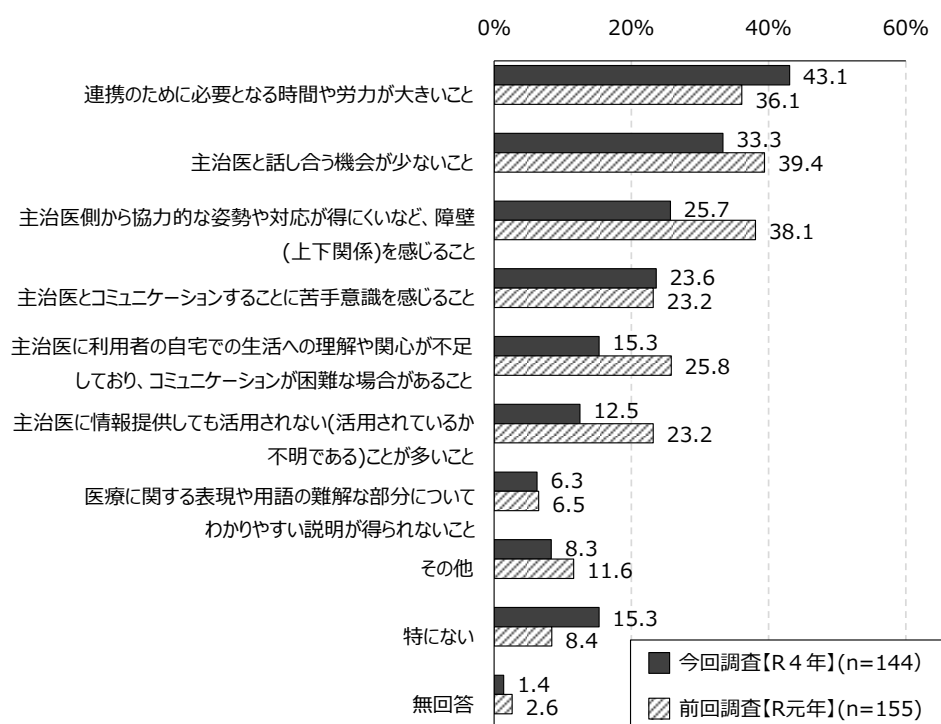
【図表 239】主治医との連携状況〈前回比較〉



問14 あなた自身の、主治医(かかりつけ診療所・クリニック)との連携における課題は何だと思えますか。(複数回答)

主治医との連携における課題については、「連携のために必要となる時間や労力が大きいこと」が43.1%と最も多く、次いで「主治医と話し合う機会が少ないこと」が33.3%、「主治医側から協力的な姿勢や対応が得にくいなど、障壁(上下関係)を感じる」が25.7%となっている。

【図表 240】主治医との連携における課題〈前回比較〉

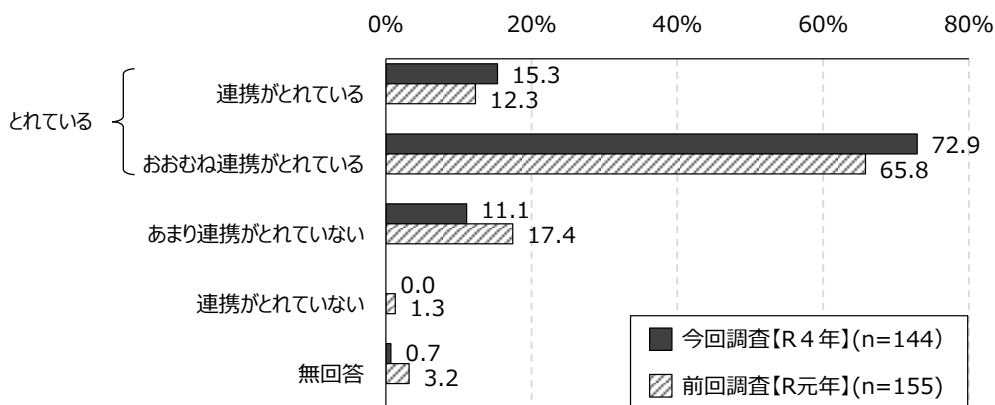


4 ケアマネジャー調査

問15 あなたはケアマネジャーとして、病院(医師、看護師、医療ソーシャルワーカー等)との連携はとれていますか。

病院との連携状況については、「おおむね連携がとれている」が72.9%と最も多く、「連携がとれている」(15.3%)と合わせた“とれている”は88.2%となっている。

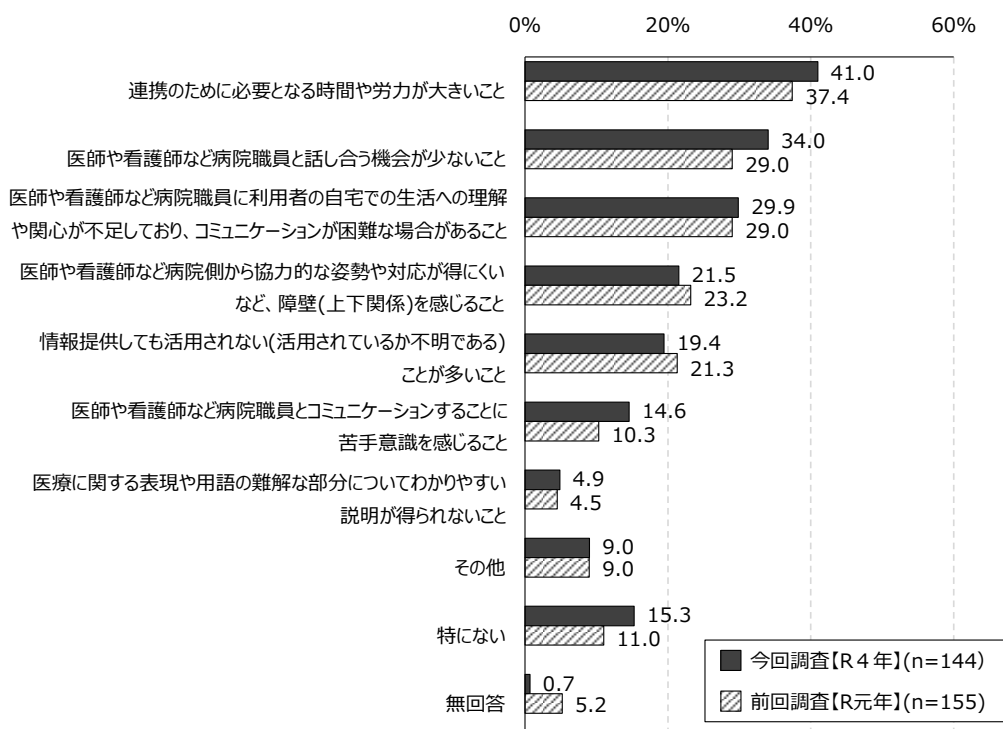
【図表 241】病院との連携状況〈前回比較〉



問16 あなた自身の、病院(医師、看護師、医療ソーシャルワーカー等)との連携における課題は何だと思いますか。(複数回答)

病院との連携における課題については、「連携のために必要となる時間や労力が大きいこと」が41.0%と最も多く、次いで「医師や看護師など病院職員と話し合う機会が少ないこと」が34.0%、「医師や看護師など病院職員に利用者の自宅での生活への理解や関心が不足しており、コミュニケーションが困難な場合があること」が29.9%となっている。

【図表 242】病院との連携における課題〈前回比較〉

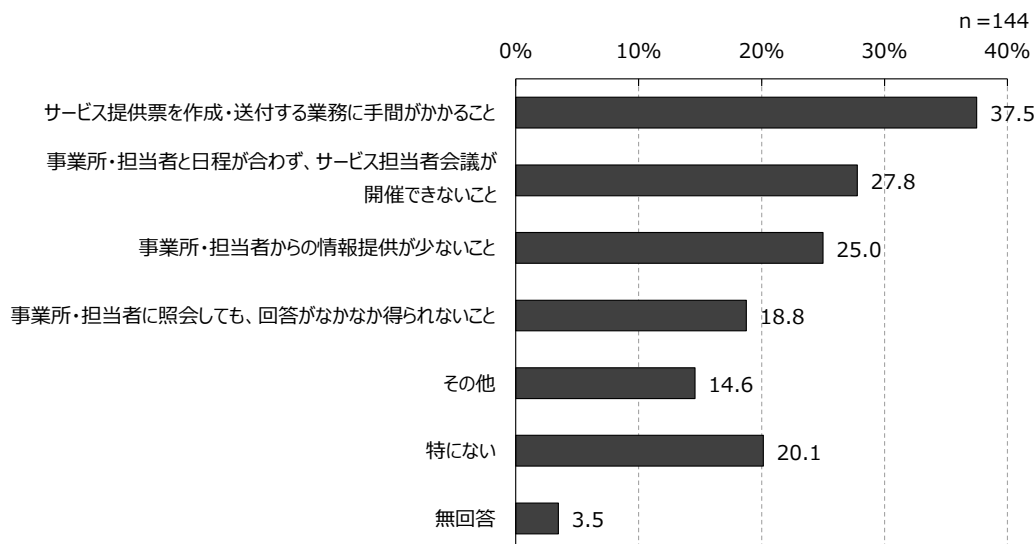




問17 あなた自身の、介護保険サービス事業所との連携における課題は何だと思えますか。(複数回答)

介護保険サービス事業所との連携における課題については、「サービス提供票を作成・送付する業務に手間がかかること」が37.5%と最も多く、次いで「事業所・担当者との日程が合わず、サービス担当者会議が開催できないこと」が27.8%、「事業所・担当者からの情報提供が少ないこと」が25.0%となっている。

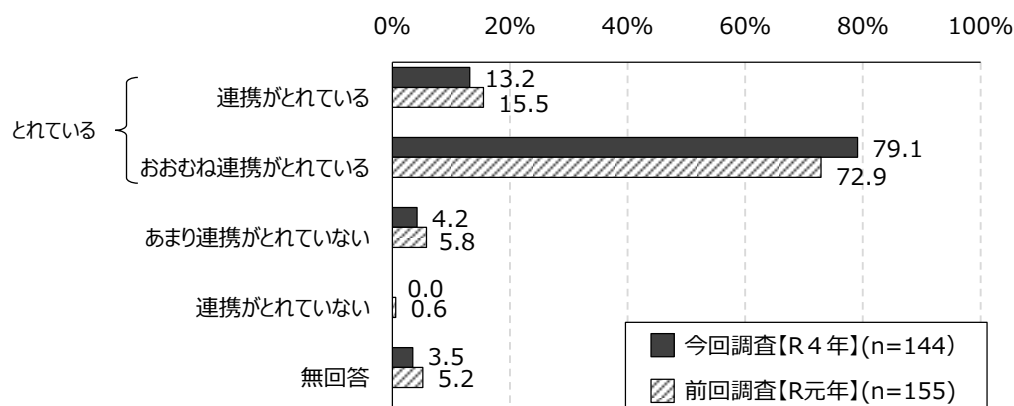
【図表 243】介護保険サービス事業所との連携における課題〈前回比較〉



問18 あなたからみて、新宿区内の在宅医療・介護連携の状況について、どのように思えますか。

新宿区内の在宅医療・介護連携の状況については、「おおむね連携がとれている」が79.1%と最も多く、「連携がとれている」(13.2%)と合わせた“とれている”は92.3%となっている。

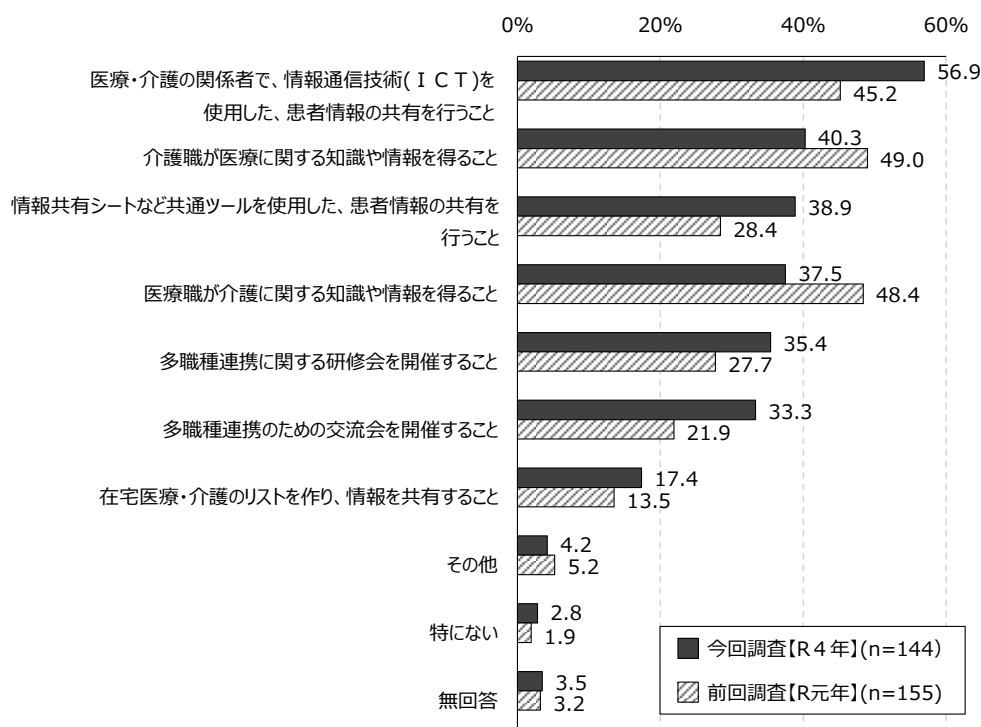
【図表 244】新宿区内の在宅医療・介護連携の状況〈前回比較〉



問19 あなたからみて、新宿区内の在宅医療・介護連携を推進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

在宅医療・介護連携を推進するために必要なことについては、「医療・介護の関係者で、情報通信技術(ICT)を使用した、患者情報の共有を行うこと」が56.9%と最も多く、次いで「介護職が医療に関する知識や情報を得ること」が40.3%、「情報共有シートなど共通ツールを使用した、患者情報の共有を行うこと」が38.9%となっている。

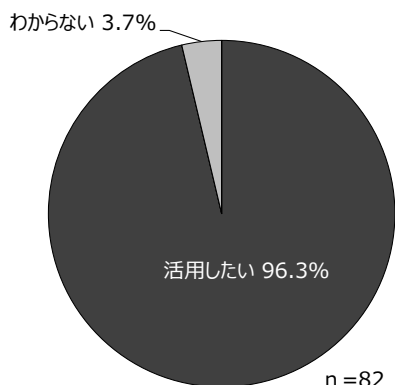
【図表 245】在宅医療・介護連携を推進するために必要なこと〈前回比較〉



問19-1 多職種で患者情報の共有を行うためにICTを活用することについて、どのように考えますか。

在宅医療・介護連携を推進するために必要だと思うことで、「医療・介護の関係者で、情報通信技術(ICT)を使用した、患者情報の共有を行うこと」と回答した人にICTを活用することについて聞いたところ、「活用したい」が96.3%と最も多くなっている。

【図表 246】患者情報の共有のために ICT を活用すること



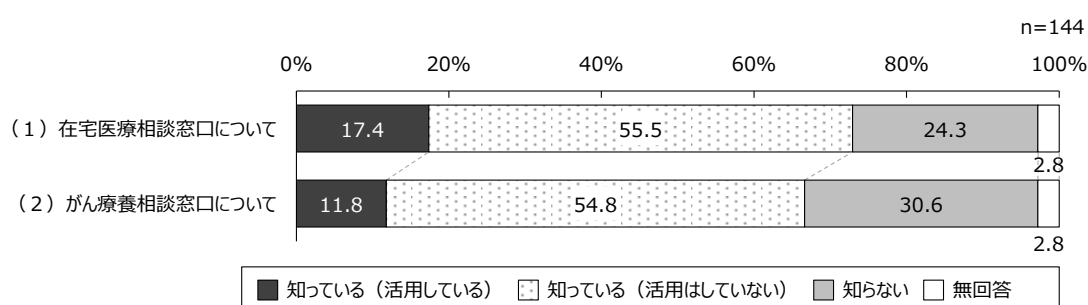
## 在宅医療への対応について

問20 あなたは、区の「在宅医療相談窓口」や「がん療養相談窓口」で相談を受けられるということを知っていますか。

在宅医療相談窓口については、「知っている（活用はしていない）」が55.5%と最も多くなっている。

がん療養相談窓口については、「知っている（活用はしていない）」が54.8%と最も多くなっている。

【図表 247】 相談窓口の活用状況



問20-1 「在宅医療相談窓口」や「がん療養相談窓口」の活用状況や期待することについて、ご自由にお書きください。

区の「在宅医療相談窓口」や「がん療養相談窓口」で相談を受けられること「知っている（活用している）」と回答した人が、「在宅医療相談窓口」や「がん療養相談窓口」の活用状況や期待することについての主な意見は以下のとおり。

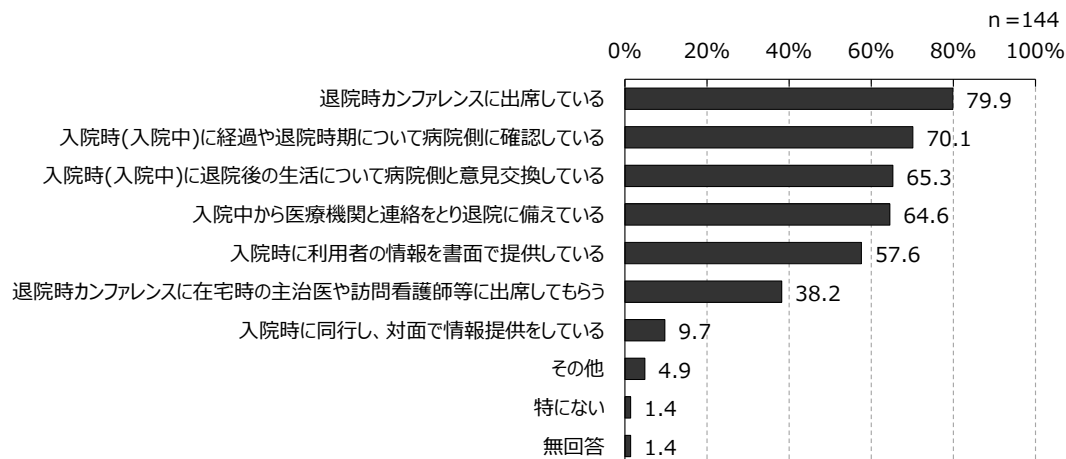
- ・ 情報提供をしてくれて大変助かった。
- ・ 大変有意義な事業で、日々の業務、特に相談支援のための情報や助言をもらっている。
- ・ その疾病におけるこれから起こりうること、対応の仕方などについて具体的なところを相談に乗ってもらえるとよりケアプランを作成する際の参考になり、的確なプランになるのではないと思う。
- ・ 使用できる介護サービスや医療サービスについても説明してほしい。
- ・ 在宅医療の専科の医師やクリニックを紹介してくれて助かった。
- ・ 医療介護の知識を持つ相談員が、紹介や連絡調整などしてくれて助かった。

#### 4 ケアマネジャー調査

問21 あなたは、利用者が入院している時の病院との連携について、入院時、退院が決まった時、退院直後の高齢者等の医療の継続のためにどのように対応していますか。(複数回答)

退院直後の高齢者等の医療の継続のための対応については、「退院時カンファレンスに出席している」が79.9%と最も多く、次いで「入院時(入院中)に経過や退院時期について病院側に確認している」が70.1%、「入院時(入院中)に退院後の生活について病院側と意見交換している」が65.3%となっている。

【図表 248】退院直後の高齢者等の医療の継続のための対応



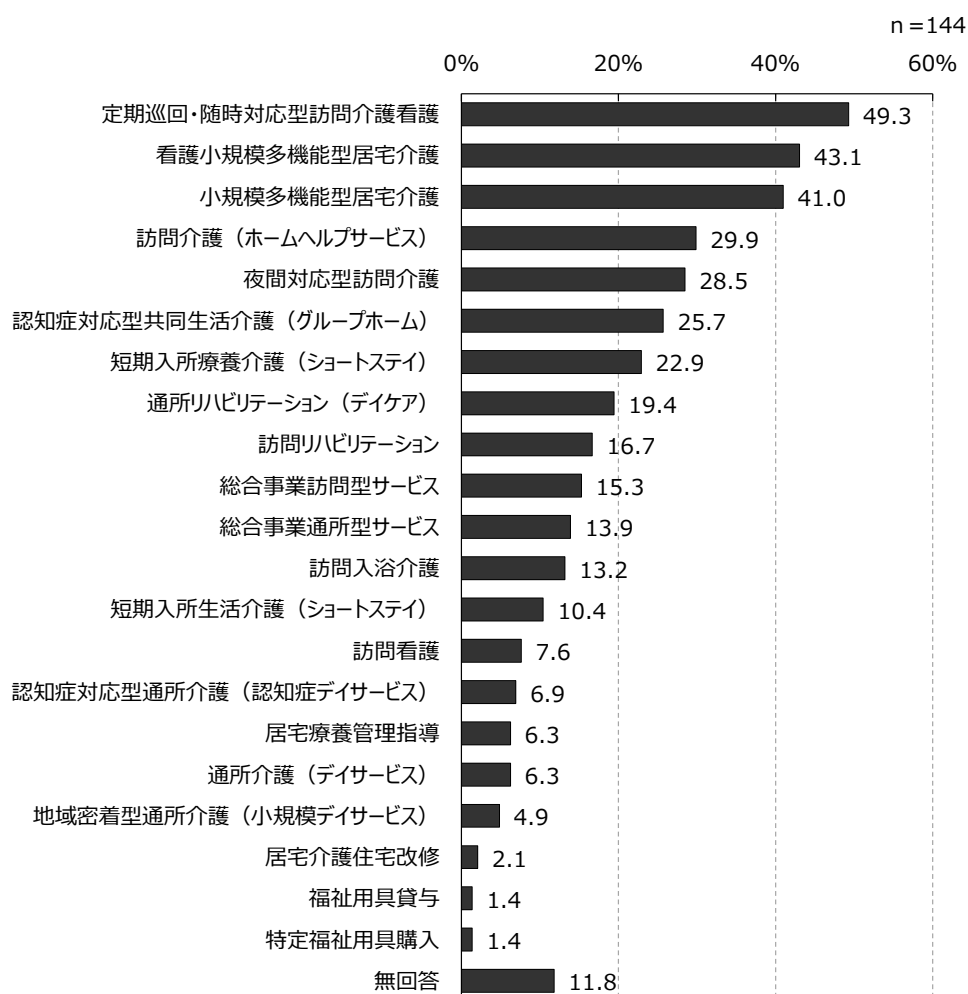
## ケアプランへの組み込みについて

問22 あなたは、ケアプランの作成にあたって、(ア)組み込みにくいと思う介護保険のサービスはありますか。ある場合は、(イ)その理由をお答えください。

(ア)組み込みにくいと思う介護保険のサービス(複数回答)

ケアプランの作成にあたって、組み込みにくいと思うサービスについては、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」が49.3%と最も多く、次いで「看護小規模多機能型居宅介護」が43.1%、「小規模多機能型居宅介護」が41.0%となっている。

【図表 249】 ケアプランの作成にあたって、組み込みにくいと思うサービス



#### 4 ケアマネジャー調査

##### (イ)その理由(複数回答)

ケアプランの作成にあたって、組み込みにくいと思う理由について、回答者が多かったサービス順にみると、『定期巡回・随時対応型訪問介護看護』で「今まで利用していたサービス事業所との連携が困難になる」が40.8%、『看護小規模多機能型居宅介護』の35.5%と『小規模多機能型居宅介護』の32.2%が「サービス内容に関する自身の知識が不足している」と回答している。

【図表 250】ケアプランの作成にあたって、組み込みにくいと思う理由

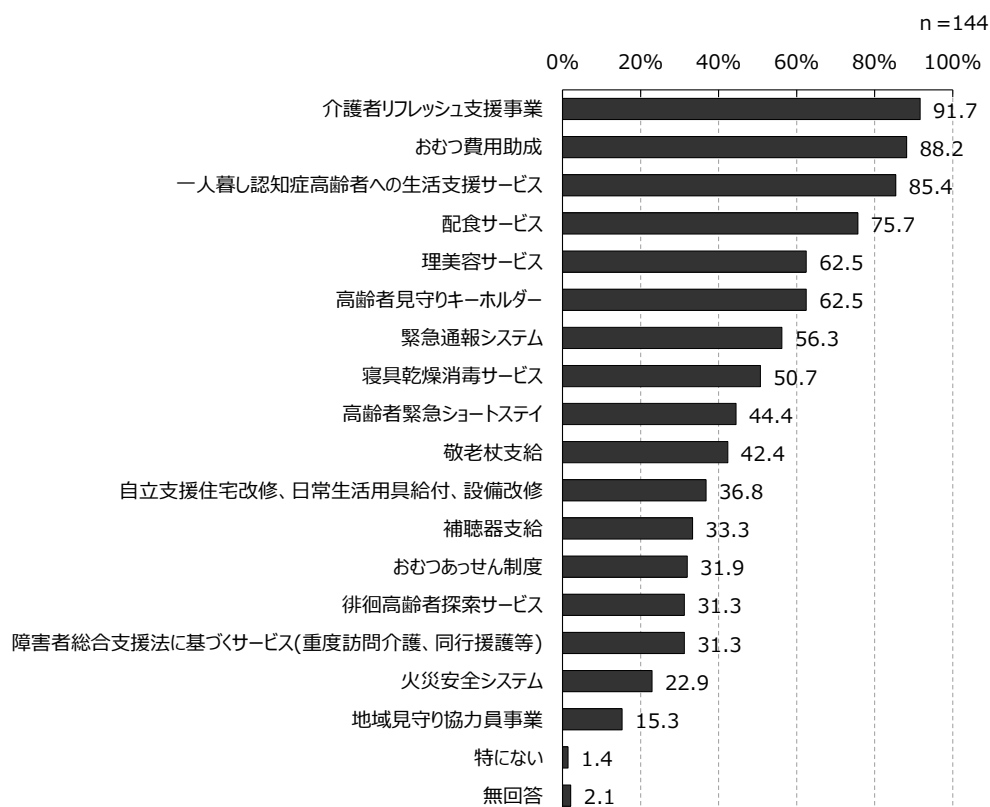
(%)

サービス名	n (回答数)	サービスが 不足している	サービス内容 に関する自身 の知識が不 足している	今まで利用し ていたサービ ス事業所との 連携が困難 になる	利用者やそ の家族等が 望まない	費用面	その他	無回答
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	71	33.8	14.1	40.8	16.9	29.6	19.7	0.0
看護小規模多機能型居宅介護	62	30.6	35.5	19.4	14.5	19.4	11.3	3.2
小規模多機能型居宅介護	59	30.5	32.2	22.0	15.3	15.3	13.6	3.4
訪問介護（ホームヘルプサービス）	43	67.4	4.7	11.6	18.6	9.3	7.0	2.3
夜間対応型訪問介護	41	43.9	12.2	12.2	14.6	36.6	9.8	0.0
認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	37	35.1	21.6	8.1	2.7	40.5	10.8	0.0
短期入所療養介護（ショートステイ）	33	51.5	24.2	0.0	3.0	21.2	24.2	0.0
通所リハビリテーション（デイケア）	28	50.0	17.9	0.0	3.6	21.4	28.6	0.0
訪問リハビリテーション	24	54.2	4.2	0.0	4.2	16.7	33.3	4.2
総合事業訪問型サービス	22	45.5	40.9	4.5	0.0	0.0	31.8	0.0
総合事業通所型サービス	20	40.0	55.0	5.0	0.0	0.0	25.0	0.0
訪問入浴介護	19	63.2	5.3	0.0	0.0	26.3	10.5	0.0
短期入所生活介護（ショートステイ）	15	66.7	6.7	6.7	0.0	6.7	13.3	0.0
訪問看護	11	18.2	9.1	9.1	9.1	45.5	9.1	9.1
認知症対応型通所介護（認知症デイサービス）	10	20.0	40.0	0.0	10.0	40.0	0.0	0.0
居宅療養管理指導	9	0.0	33.3	0.0	22.2	11.1	11.1	22.2
通所介護（デイサービス）	9	11.1	11.1	0.0	44.4	22.2	11.1	0.0
地域密着型通所介護（小規模デイサービス）	7	0.0	42.9	14.3	42.9	14.3	14.3	0.0
居宅介護住宅改修	3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
福祉用具貸与	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
特定福祉用具購入	2	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0

問23 区などが提供している介護保険外の高齢者福祉サービス等で、あなたがケアプランの作成にあたり、検討するものは、次のうちどれですか。(複数回答)

ケアプラン作成時に検討する介護保険以外の高齢者福祉サービスについては、「介護者リフレッシュ支援事業」が91.7%と最も多く、次いで「おむつ費用助成」が88.2%、「一人暮らし認知症高齢者への生活支援サービス」が85.4%となっている。

【図表 251】 ケアプラン作成時に検討する介護保険以外の高齢者福祉サービス

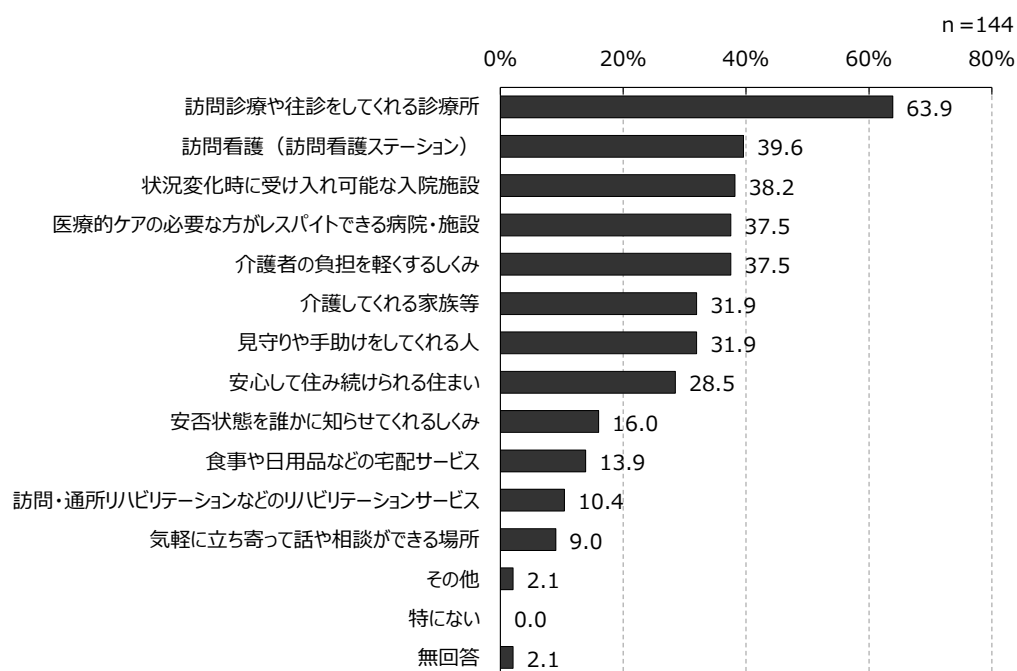


## 在宅高齢者に必要な支援について

問24 介護や医療が必要になっても、高齢者が在宅で暮らし続けるために、特に重要だと思うものは何ですか。(複数回答)

高齢者が在宅で暮らし続けるために、特に重要だと思うものについては、「訪問診療や往診をしてくれる診療所」が63.9%と最も多く、次いで「訪問看護（訪問看護ステーション）」が39.6%、「状況変化時に受け入れ可能な入院施設」が38.2%となっている。

【図表 252】 高齢者が在宅で暮らし続けるために、特に重要だと思うもの





問25 要介護者等(特に、一人暮らしの高齢者)が、在宅で暮らし続けるために、今後必要なサービスとして、どのようなものが考えられますか。ご自由にお書きください。

要介護者等（特に、一人暮らしの高齢者）が、在宅で暮らし続けるために、今後必要なサービスについて、122件の回答があった。意見を13の項目にまとめた各項目の主な意見は以下のとおり。（その他を除く）

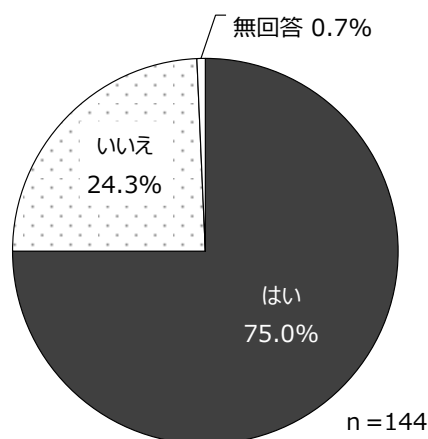
<b>見守り・安否確認</b>	<b>22件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・操作の必要のない安否確認できるツール（夜間対応型で使用しているもの）。</li> <li>・高齢者見守りシールについて、QRコード版（衣類につけられるもの）を検討してほしい。</li> <li>・地域での見守り体制の充実（民生委員の活用など）。</li> </ul>	
<b>生活支援</b>	<b>22件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険で対応できない家事支援サービス。</li> <li>・一人暮らしの認知症高齢者への生活支援サービスの拡大。</li> </ul>	
<b>インフォーマルサービス</b>	<b>15件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険サービス以外の地域資源（お金のあまりかからないもの）、ボランティアなど。</li> <li>・インフォーマルなサービスの充実。</li> </ul>	
<b>金銭管理・手続き代行</b>	<b>12件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域権利擁護による郵便の確認、金銭管理。</li> <li>・介護保険外の手続きや書類等の受け取りができない人への支援。</li> </ul>	
<b>デイサービス・通いの場・地域との関わり</b>	<b>9件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用時間が曜日ごとに調整できるデイサービス。</li> <li>・近所付き合いや地域間交流が減少しているので地域交流を活発にする工夫が必要。</li> </ul>	
<b>緊急時対応</b>	<b>7件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ショートステイ利用、急な時の受け入れ可能施設。</li> <li>・高齢者総合相談センターも区も連絡つかない時に対応してくれるサービス。</li> </ul>	
<b>在宅医療・服薬管理</b>	<b>6件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療面のサービスは必須と考える。</li> <li>・服薬ロボットの活用。</li> </ul>	
<b>リフレッシュサービス</b>	<b>5件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らし生活支援サービスや介護者リフレッシュのどちらにも該当しないが必要としている人がいるので対象者の拡大をしてほしい。</li> <li>・介護保険では対応できない部分をリフレッシュサービス以外でも活用できる制度が必要。</li> </ul>	
<b>移送・付き添い</b>	<b>5件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・通院の支援（送り出し、同行）が時間、費用で難しい。</li> <li>・見守りサービス、買い物や病院へ行く際の送迎サービス。</li> </ul>	
<b>訪問介護</b>	<b>4件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問介護、定期巡回訪問介護のスタッフの充足が必要と思う。</li> </ul>	
<b>食事・配食サービス</b>	<b>4件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・食料・惣菜など（スーパーから）少量からでも配達してもらえるシステムづくり。</li> </ul>	
<b>相談支援体制・関係機関との連携</b>	<b>2件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・警察との連携。（休日、夜間でも徘徊時に呼び出せる）。</li> </ul>	
<b>その他</b>	<b>9件</b>

## 認知症について

## 問26 あなたには、認知症に関して相談のできる機関がありますか。

認知症に関して相談のできる機関の有無については、「はい」が75.0%、「いいえ」が24.3%となっている。

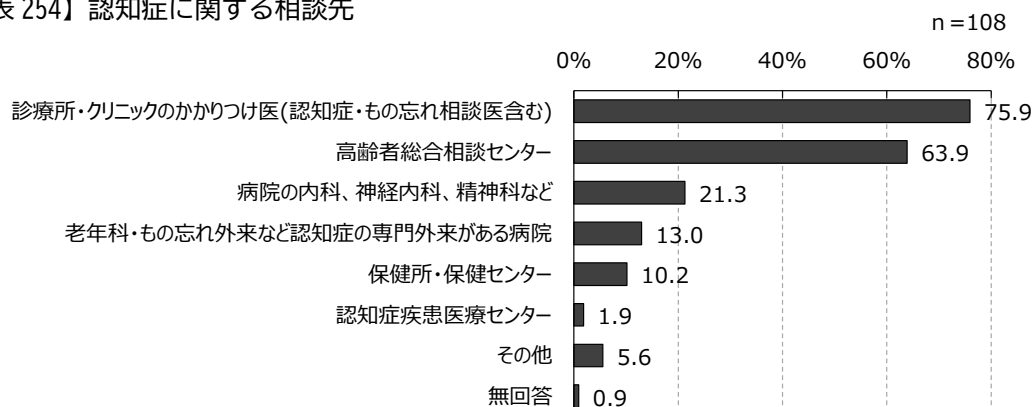
【図表 253】 認知症に関して相談のできる機関の有無



## 問26-1 どちらに相談していますか。(複数回答)

認知症に関して相談のできる機関の有無について「はい」と回答した人に相談先について聞いたところ、「診療所・クリニックのかかりつけ医（認知症・もの忘れ相談医含む）」が75.9%と最も多く、次いで「高齢者総合相談センター」が63.9%、「病院の内科、神経内科、精神科など」が21.3%となっている。

【図表 254】 認知症に関する相談先

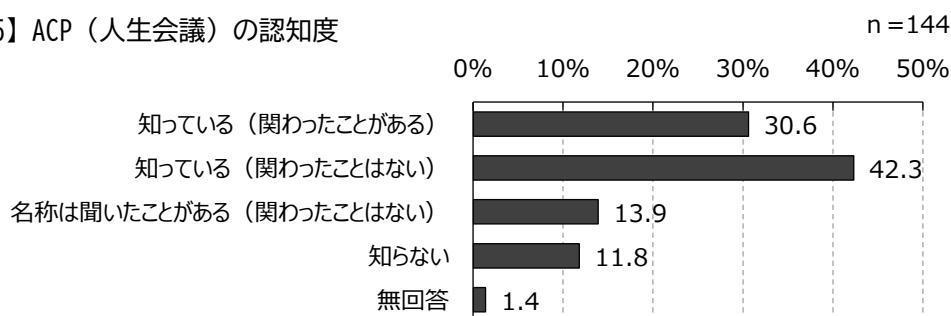


## ACP（人生会議）について

問27 あなたは、ACP(人生会議)について知っていますか。

ACP（人生会議）の認知度については、「知っている（関わったことはない）」が42.3%と最も多く、次いで「知っている（関わったことがある）」が30.6%、「名称は聞いたことがある（関わったことはない）」が13.9%となっている。

【図表 255】 ACP（人生会議）の認知度

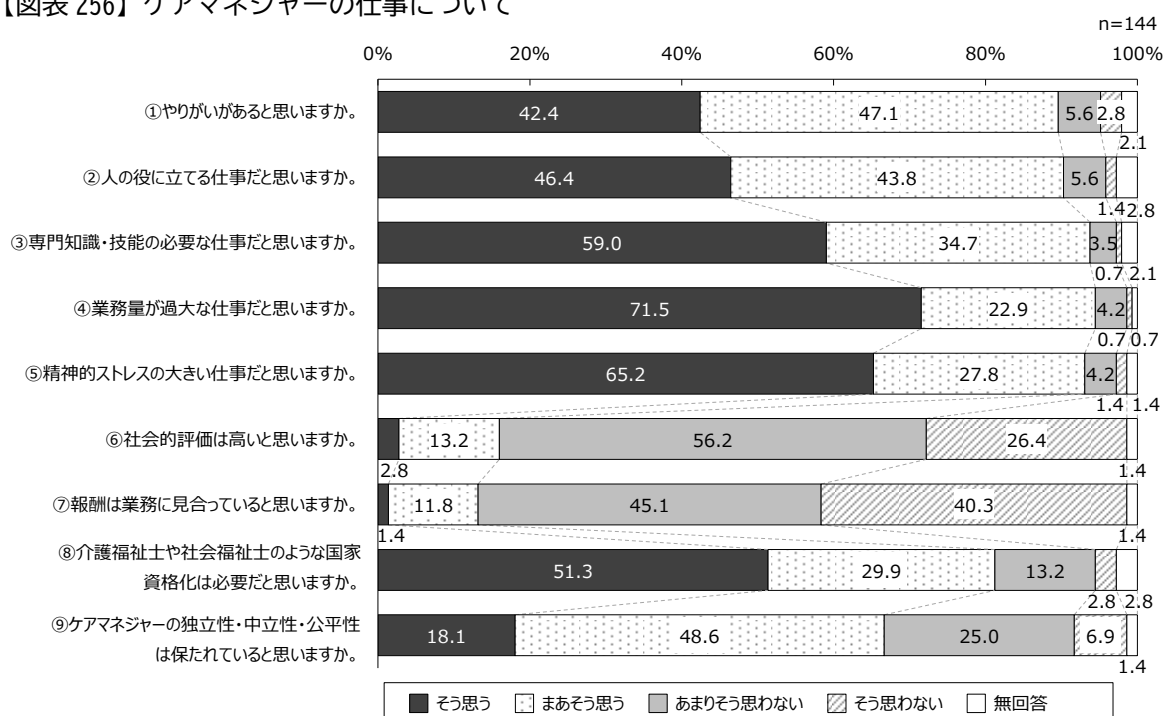


## ケアマネジャーの仕事について

問28 あなたは、ケアマネジャーの仕事について、どのようにお考えですか。

ケアマネジャーの仕事について「そう思う」との回答が多かったものは、『④業務量が過大な仕事だと思いませんか』が71.5%、次いで『⑤精神的ストレスの大きい仕事だと思いませんか』が65.2%、『③専門知識・技能の必要な仕事だと思いませんか』が59.0%となっている。一方、「そう思わない」との回答が多かったものは、『⑦報酬は業務に見合っていると思いませんか』で40.3%、『⑥社会的評価は高いと思いませんか』で26.4%となっている。

【図表 256】 ケアマネジャーの仕事について

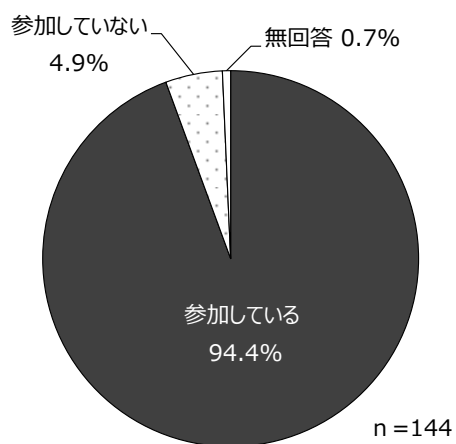


## スキルアップについて

問29 あなたは、研修に参加していますか。

研修への参加状況については、「参加している」が94.4%、「参加していない」が4.9%となっている。

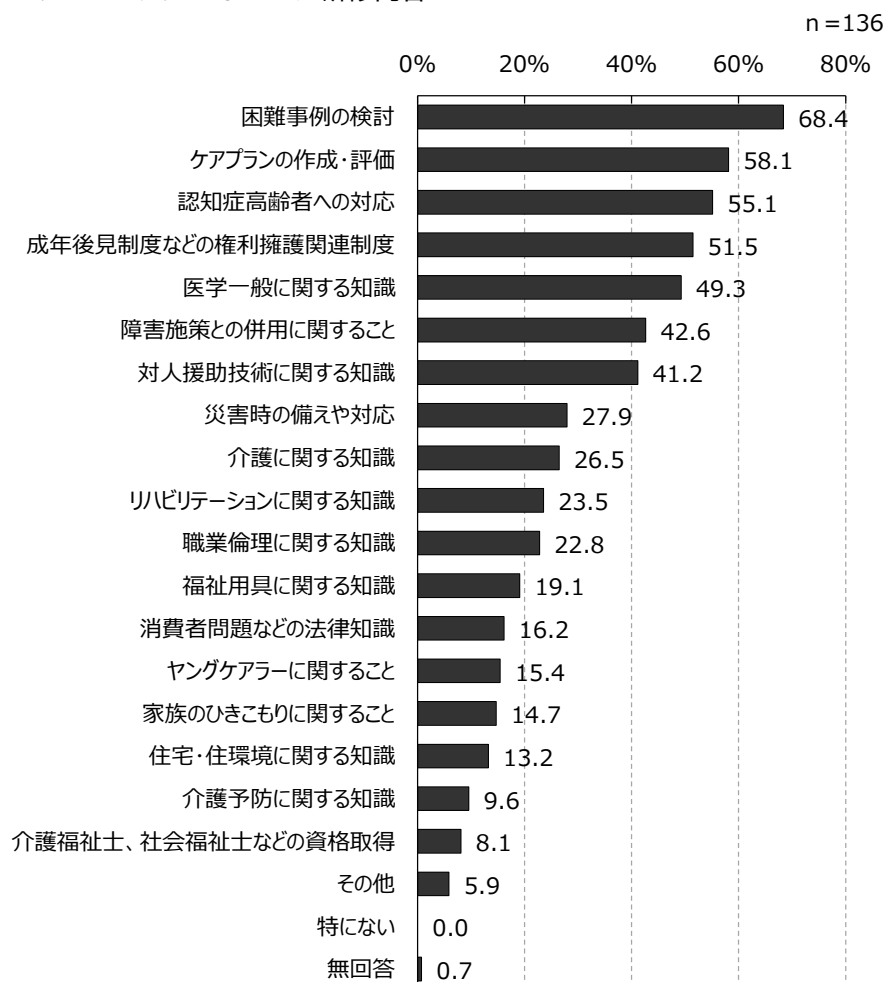
【図表 257】 研修への参加状況



問29-1 どのような研修内容が、あなたのスキルアップにつながりましたか。  
(複数回答)

研修への参加状況について「参加している」と回答した人にスキルアップにつながった研修内容について聞いたところ、「困難事例の検討」が68.4%と最も多く、次いで「ケアプランの作成・評価」が58.1%、「認知症高齢者への対応」が55.1%となっている。

【図表 258】スキルアップにつながった研修内容

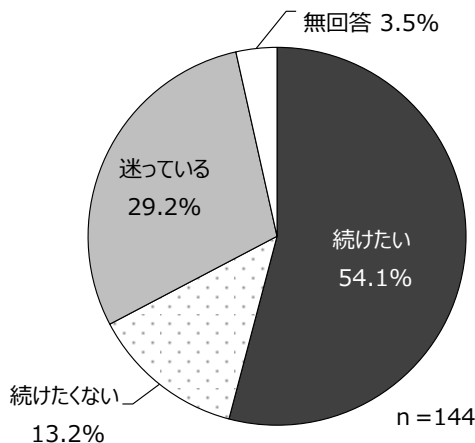


今後の意向について

問30 あなたは、これからもケアマネジャーを続けたいと思いますか。

ケアマネジャーの継続意向については、「続けたい」が54.1%と最も多く、次いで「迷っている」が29.2%、「続けたくない」が13.2%となっている。

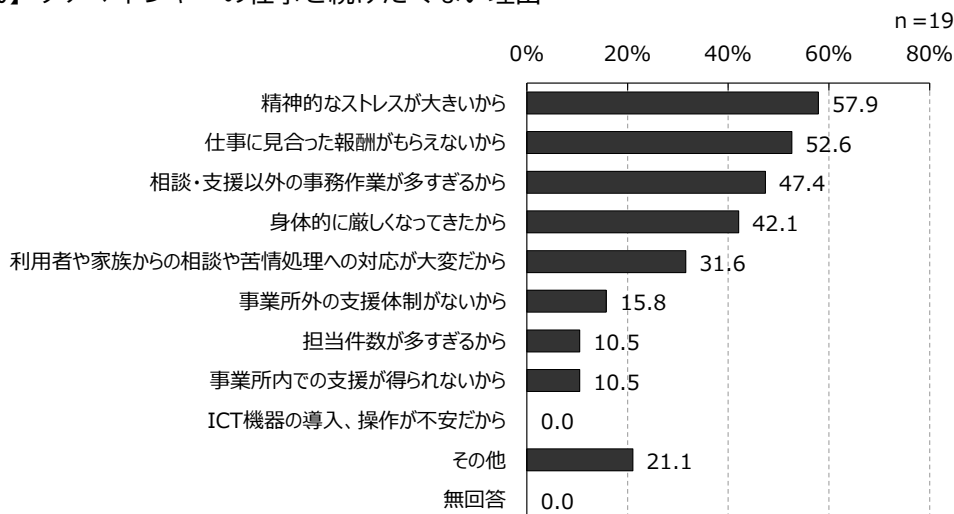
【図表 259】 ケアマネジャーの継続意向



問30-1 ケアマネジャーを続けたくないと思う理由は、次のうちどれですか。  
(複数回答)

ケアマネジャーの仕事を「続けたくない」と回答した人にその理由を聞いたところ、「精神的なストレスが大きいから」が57.9%と最も多く、次いで「仕事に見合った報酬がもらえないから」が52.6%、「相談・支援以外の事務作業が多すぎるから」が47.4%となっている。

【図表 260】 ケアマネジャーの仕事を続けたくない理由



### 問30-2 迷っている理由があればお聞かせください。

ケアマネジャーの仕事の継続意向について「迷っている」と回答した人にその理由を聞いたところ、主な意見は以下のとおりとなっている。

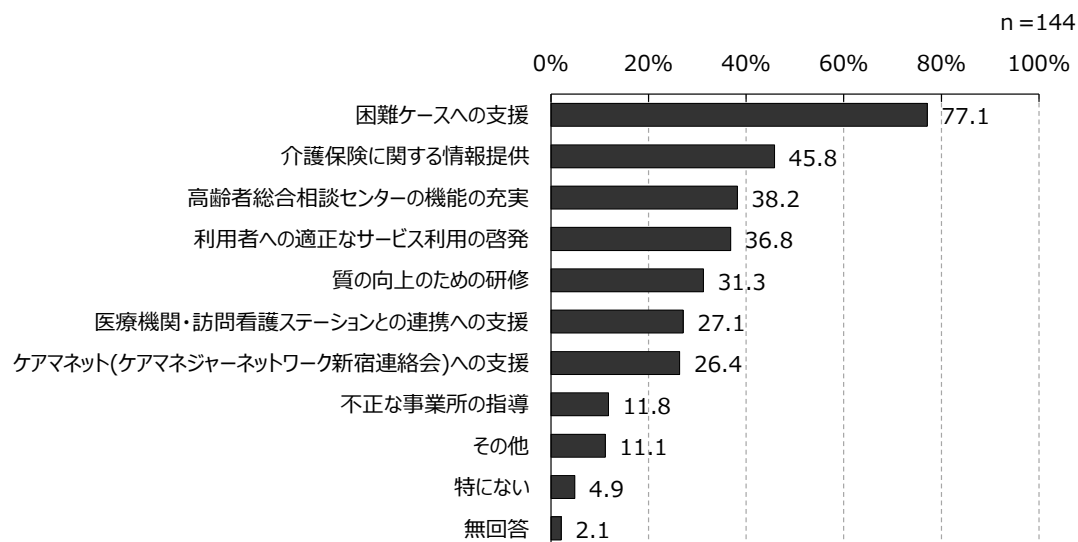
- ・業務量が多く体力的、精神的に不安を感じている。
- ・加齢による心身機能の低下がある。
- ・業務量に比べ、社会的な評価が低い。
- ・利用者や家族からの相談や苦情処理への対応が大変。
- ・相談・支援以外の事務作業が多すぎる。

## 新宿区への要望について

### 問31 ケアマネジャーの立場からみて、保険者である区に対して、何を望みますか。 (複数回答)

ケアマネジャーの立場から区に対して望むことについては、「困難ケースへの支援」が77.1%と最も多く、次いで「介護保険に関する情報提供」が45.8%、「高齢者総合相談センターの機能の充実」が38.2%となっている。

【図表 261】 ケアマネジャーの立場から区に対して望むこと

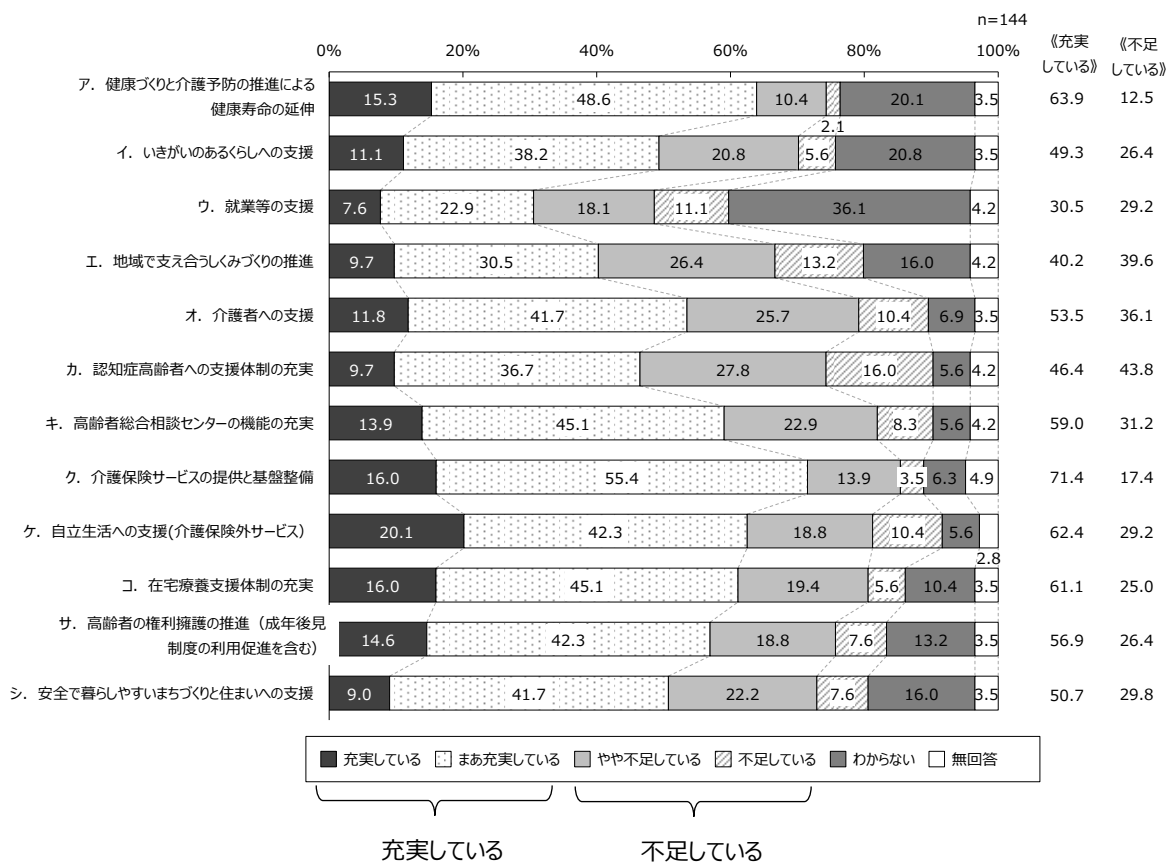


4 ケアマネジャー調査

問32 ケアマネジャーの立場からみて、区の高齢者の支援状況をどうお考えですか。

ケアマネジャーの立場からみた、区の高齢者支援の状況については、「充実している」と「まあ充実している」を合わせた“充実している”は『ク. 介護保険サービスの提供と基盤整備』が71.4%と最も多く、次いで『ア. 健康づくりと介護予防の推進による健康寿命の延伸』が63.9%、『ケ. 自立生活への支援(介護保険外サービス)』が62.4%となっている。一方「やや不足している」と「不足している」を合わせた“不足している”は『カ. 認知症高齢者への支援体制の充実』が43.8%で最も多く、『エ. 地域で支え合うしくみづくりの推進』が39.6%、『オ. 介護者への支援』が36.1%となっている。

【図表 262】ケアマネジャーの立場からみた、区の高齢者支援の状況

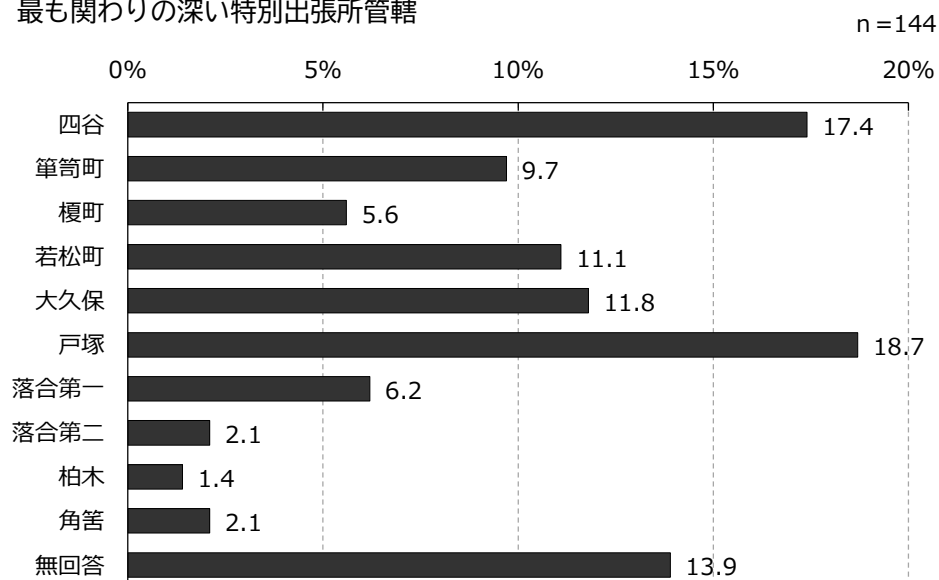




問33 あなたが日頃、利用者や介護事業者等の関係機関と接している中で、関わりの一番深い特別出張所管轄をお選びください。

最も関わりの深い特別出張所管轄については、「戸塚」が18.7%と最も多く、次いで「四谷」が17.4%、「大久保」が11.8%となっている。

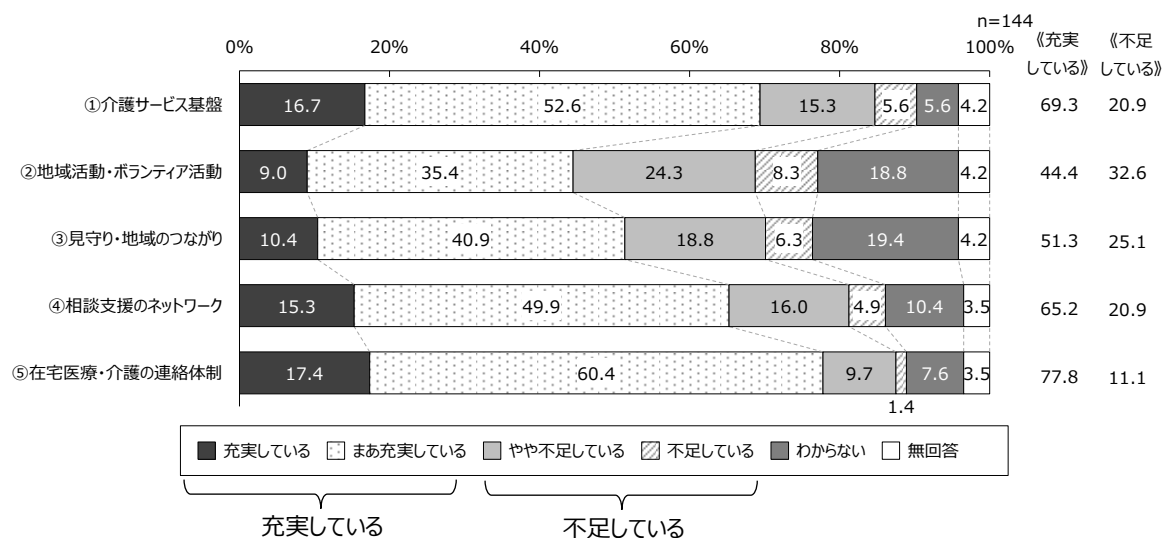
【図表 263】最も関わりの深い特別出張所管轄



問33-1 当該の管轄地域について、どのように思われますか。

管轄地域についての評価は、「充実している」と「まあ充実している」を合わせた“充実している”は『⑤在宅医療・介護の連絡体制』が77.8%で最も多く、次いで『①介護サービス基盤』が69.3%、『④相談支援のネットワーク』が65.2%となっている。

【図表 264】管轄地域についての評価



## 自由記述

問34 在宅介護に関して気になっている点など、ご自由にお書きください。

在宅介護に関して気になっている点について、回答があった主な意見は以下のとおり。

<b>在宅介護・サービスに関すること</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・同居者がいても、家事能力も経済力もない場合はサービスを利用できない。</li> <li>・訪問介護のできる仕事が限られている。もっと柔軟に対応できないか。</li> <li>・在宅介護は介護保険サービスを利用したら全てが解決できる訳もなく、制度には制約があり日々変化があり今日の問題が片づくわけではない。「痒いところに手の届く」制度にならないものだろうか。</li> </ul>
<b>独居高齢者に関すること</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に在宅で独居で暮らしていくには、介護保険だけでは単位的にもサービス内容的にも無理があり限界だと思う。</li> <li>・「一人暮らし生活支援サービス」が認知症の人しか使えないこと。</li> <li>・家族のいない独居高齢者への支援の充実を図る必要がある。</li> </ul>
<b>介護人材に関すること</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護人材の不足でサービス量が足りなくなるおそれがある。</li> <li>・ヘルパー能力に差がありすぎる。</li> </ul>
<b>第2号被保険者向け介護サービスに関すること</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・若年性アルツハイマー型認知症の人は、制度のすき間に存在しているかのような状況で、自費の費用がかかり、在宅生活継続が困難になりがちである。</li> <li>・高齢者ではない要介護者向けのサービスが今後必要になると思う。</li> </ul>
<b>認知症に関すること</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・独居で認知症の診断を受けている人のサポート。</li> <li>・在宅で過ごしている認知症の人、サービス拒否、ものとられ妄想の人への対処法は頭を悩まされる。</li> </ul>
<b>障害者支援に関すること</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害サービスとの併用。みなしの場合、障害サービスが優先されるが、提供可能な時間も検討となり、時間的に空白がある。また、第1号被保険者は介護優先だが、不足しても介護度の見直しが先となるが、要介護度5はなかなか望めない。障害サービスにしかない同行援護は受ける事はできるが、対応する事業者が少ない。</li> </ul>

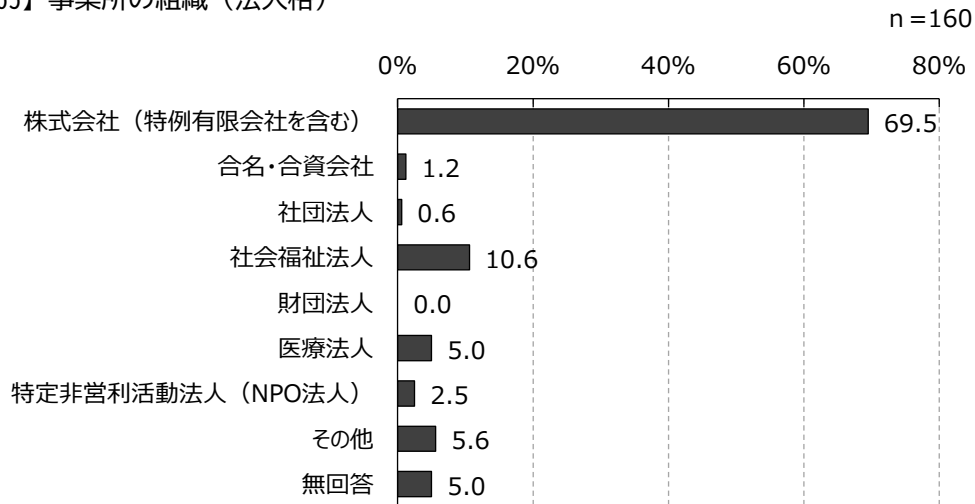
## 5 介護保険サービス事業所調査

### 貴事業所の概要について

問1 貴事業所の組織(法人格)は、次のうちどれですか。

事業所の組織（法人格）については、「株式会社（特例有限会社を含む）」が69.5%と最も多く、次いで「社会福祉法人」が10.6%となっている。

【図表 265】事業所の組織（法人格）

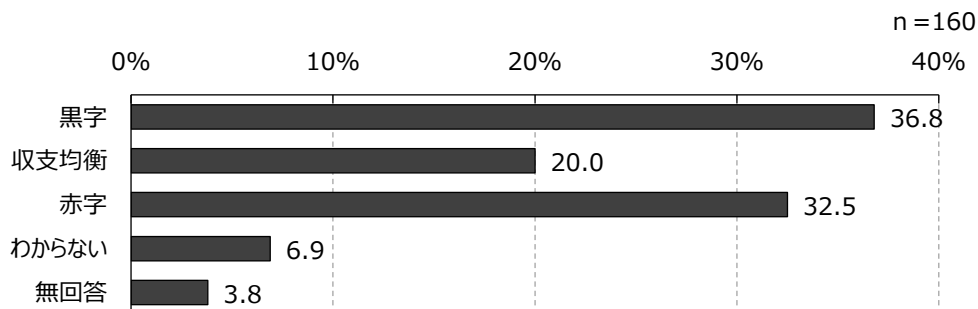


## 収支状況・処遇改善の状況について

### 問2 貴事業所の、前年度の収支状況はどうでしたか。

前年度の収支状況については、「黒字」が36.8%と最も多く、次いで「赤字」が32.5%、「収支均衡」が20.0%となっている。

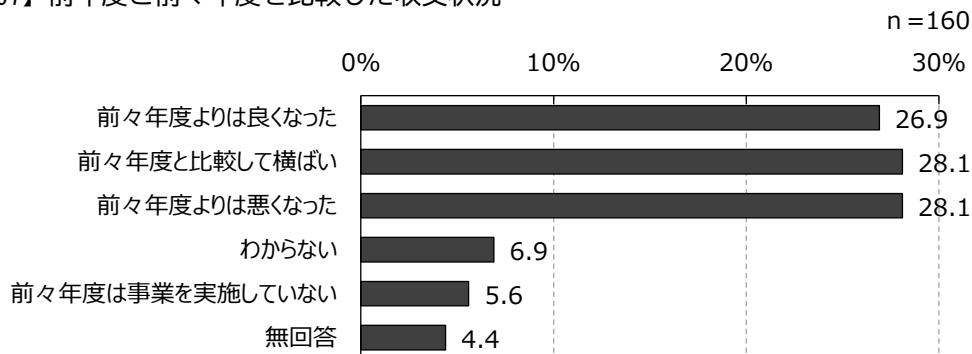
【図表 266】前年度の収支状況



### 問3 貴事業所の、前年度と前々年度を比較した収支状況はどうでしたか。

前年度と前々年度を比較した収支状況については、「前々年度と比較して横ばい」及び「前々年度よりは悪くなった」が同率で28.1%と最も多く、次いで、「前々年度よりは良くなった」が26.9%となっている。

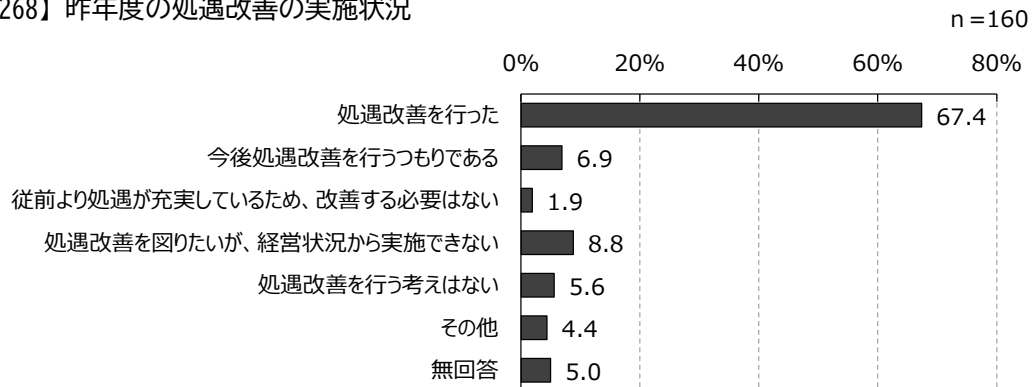
【図表 267】前年度と前々年度を比較した収支状況



#### 問4 貴事業所では昨年度、処遇改善(給与や時給単価のアップなど)を行いましたか。

昨年度の処遇改善の実施状況については、「処遇改善を行った」が67.4%と最も多くなっている。

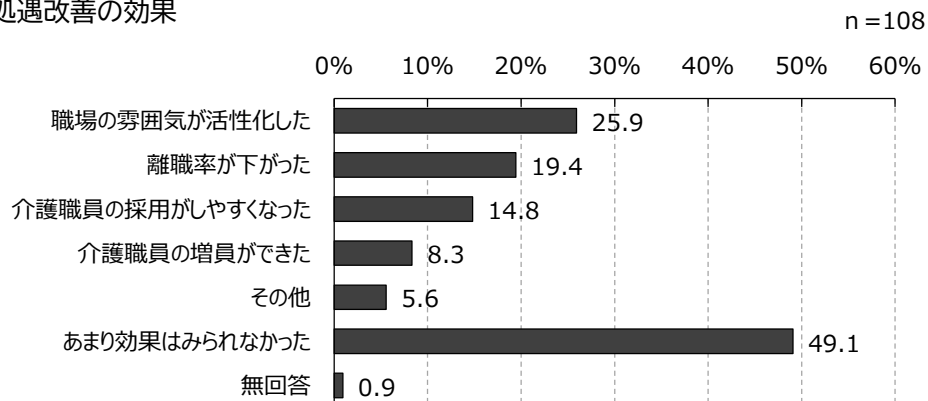
【図表 268】昨年度の処遇改善の実施状況



#### 問4-1 貴事業所の従業員にどのような効果があったと思いますか。(複数回答)

昨年度「処遇改善を行った」と回答した事業所に処遇改善の効果について聞いたところ、「あまり効果はみられなかった」が49.1%と最も多く、次いで「職場の雰囲気が活性化した」が25.9%、「離職率が下がった」が19.4%となっている。

【図表 269】処遇改善の効果

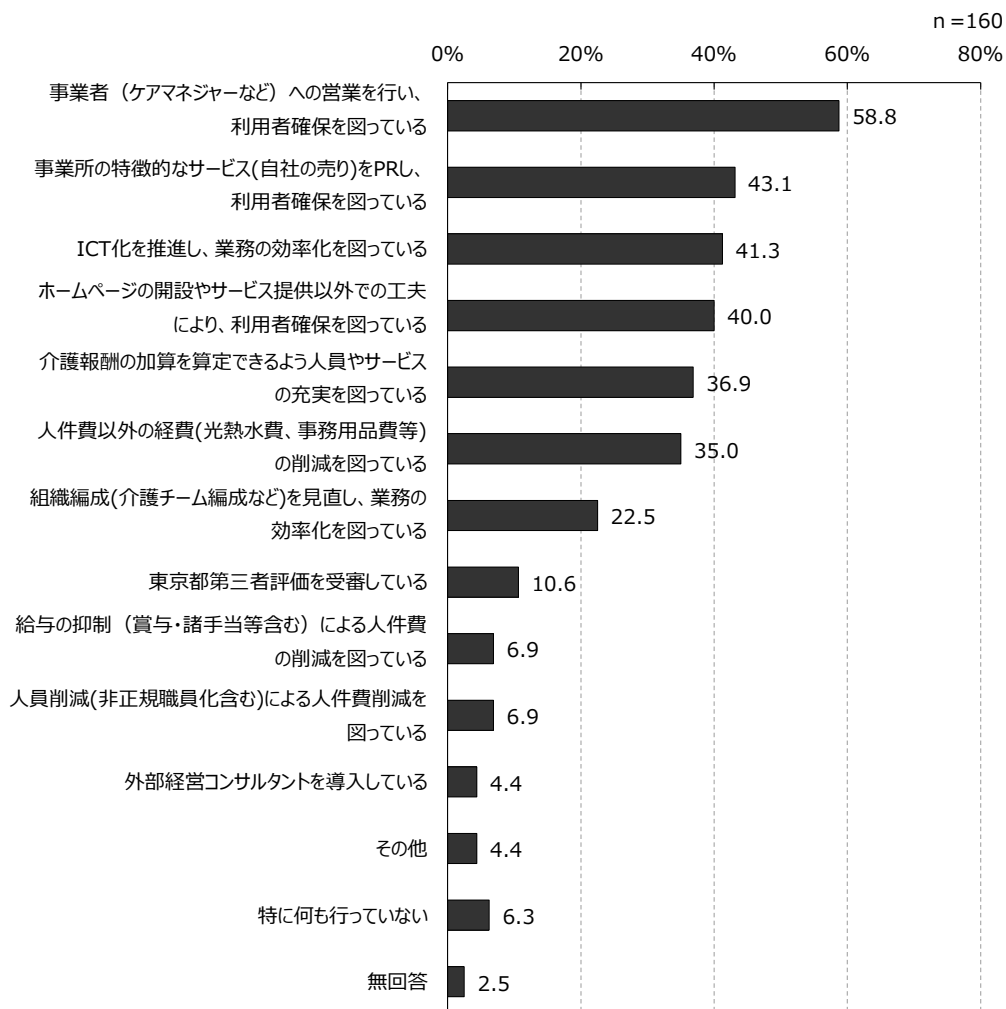


5 介護保険サービス事業所調査

問5 貴事業所では、収支の向上や改善に向けて、どのような取り組みを行っていますか。  
(複数回答)

収支の向上や改善に向け行っている取り組みについては、「事業者（ケアマネジャーなど）への営業を行い、利用者確保を図っている」が58.8%と最も多く、次いで「事業所の特徴的なサービス（自社の売り）をPRし、利用者確保を図っている」が43.1%、「ICT化を推進し、業務の効率化を図っている」が41.3%となっている。

【図表 270】 収支の向上や改善に向け行っている取り組み



問6 貴事業所での収支の向上や改善に向けての特徴的な取り組みがあれば、ご自由にお書きください。

収支の向上や改善に向けた取り組みについて、回答があった主な意見は以下のとおり。

<b>サービスの質の向上に関すること</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者の満足度向上の為、環境整備、プログラム内容の見直しを行った。</li> <li>・事業所の雰囲気的大事にし、利用者に通所を楽しんでもらうことで稼働率を上げ、収益改善を試みる。</li> <li>・特徴的な取り組みとして起業時より、常に質の向上を図っている。</li> </ul>
<b>人材確保・定着に関すること</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルパーがいてこそ収支向上が見込める事業であり、特徴的と言えば「ヘルパー重視」、「ヘルパーファースト」を全面的に打ち出した営業展開をしている。</li> <li>・フレックス、在宅ワークなど、取り入れて働きやすいよう、改善している。</li> <li>・SNSを活用して採用力に力を入れている。職員満足度を上げるために福利厚生を新しく制度化している。</li> </ul>
<b>業務効率化に関すること</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・DX化を進めて効率アップを図っている。</li> <li>・全員にノートパソコン（小型）及びタブレット端末配布、リモートワーク、在宅勤務体制を整備している。</li> </ul>
<b>インフォーマル活動に関すること</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス提供以外の地域支援として「困ったことがあれば、ご相談にのります」などのよろず相談を受けている。</li> </ul>
<b>連携体制に関すること</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新宿区の緊急的な事に対応して、今まで関わりのなかったケアマネジャーと繋がれるように努力している。</li> </ul>

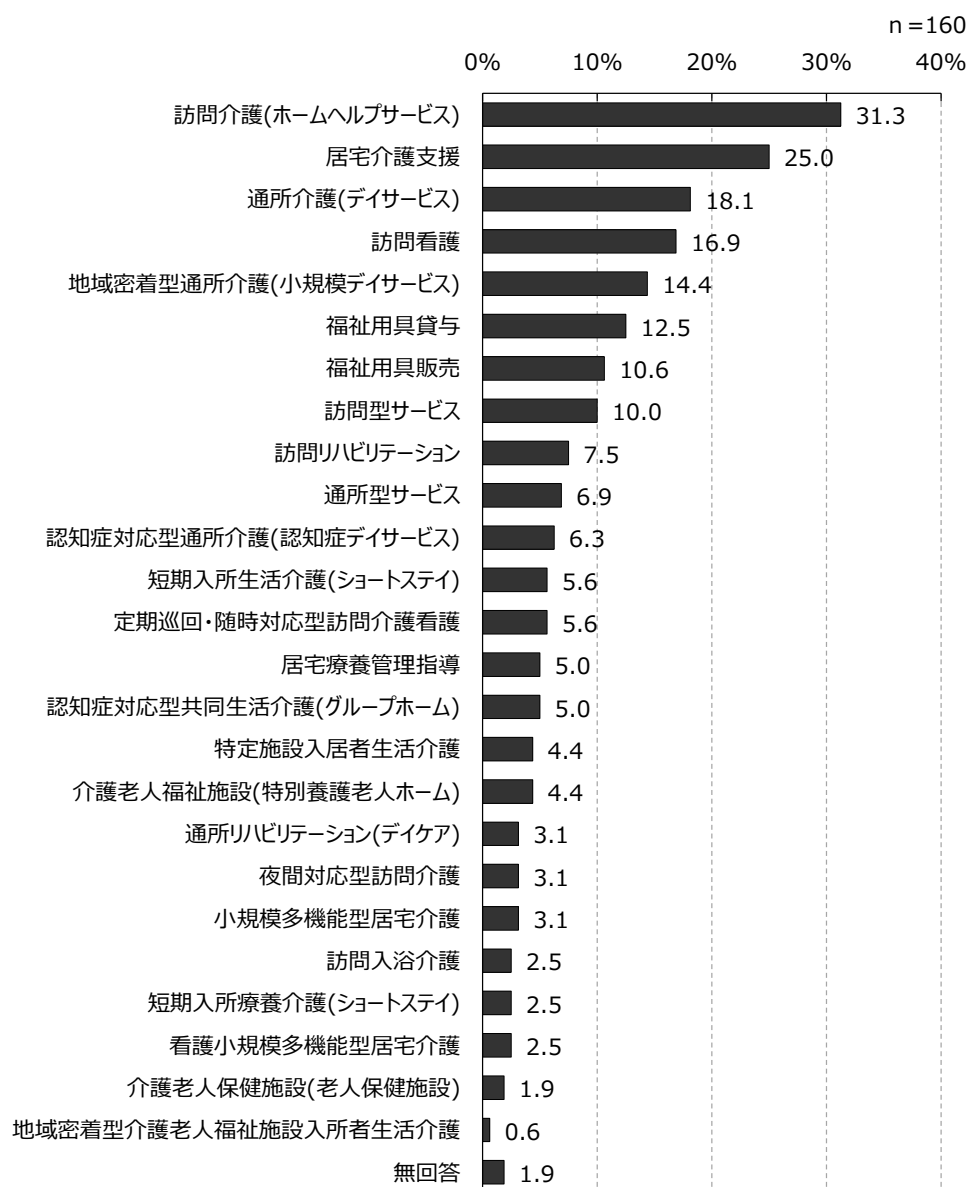
## 事業所で取り扱っているサービスについて

問7 貴事業所が区内で提供しているサービスの種類、利用申込者の受入状況、経営状況、今後4年間における事業展開の意向についておたずねします。

## ア)現在取り扱っているサービスの種類(複数回答)

現在取り扱っているサービスの種類については、「訪問介護(ホームヘルプサービス)」が31.3%と最も多く、次いで「居宅介護支援」が25.0%、「通所介護(デイサービス)」が18.1%となっている。

【図表 271】現在取り扱っているサービスの種類





## イ)利用申込者の受入状況

利用申込者の受入状況について、取り扱い事業所の多い順に示した。取り扱い事業所が最も多い『訪問介護（ホームヘルプサービス）』では、「曜日や時間帯により対応できないことがある」が48.0%と最も多く、次いで「あまり余裕はない」が28.0%、「余裕がない（利用を断っている）」が14.0%となっている。

【図表 272】利用申込者の受入状況

(%)

サービス名	n (回答数)	余裕がある	曜日や時間帯により対応できないことがある	あまり余裕はない	余裕がない (利用を断っている)	現在は事業を 休止している	無回答
訪問介護（ホームヘルプサービス）	50	10.0	48.0	28.0	14.0	0.0	0.0
居宅介護支援	40	25.0	0.0	57.5	17.5	0.0	0.0
通所介護(デイサービス)	29	58.7	27.6	6.9	3.4	0.0	3.4
訪問看護	27	22.2	59.3	7.4	7.4	0.0	3.7
地域密着型通所介護(小規模デイサービス)	23	30.4	48.0	13.0	0.0	4.3	4.3
福祉用具貸与	20	65.0	0.0	10.0	10.0	0.0	15.0
福祉用具販売	17	70.5	0.0	5.9	11.8	0.0	11.8
訪問型サービス	16	0.0	43.7	25.0	25.0	6.3	0.0
訪問リハビリテーション	12	8.3	58.4	8.3	16.7	8.3	0.0
通所型サービス	11	36.4	45.4	0.0	9.1	9.1	0.0
認知症対応型通所介護(認知症デイサービス)	10	50.0	30.0	10.0	10.0	0.0	0.0
短期入所生活介護(ショートステイ)	9	11.1	77.8	0.0	11.1	0.0	0.0
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	9	33.4	33.3	0.0	22.2	11.1	0.0
居宅療養管理指導	8	37.5	25.0	0.0	12.5	12.5	12.5
通所リハビリテーション(デイケア)	5	20.0	20.0	20.0	40.0	0.0	0.0
夜間対応型訪問介護	5	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0
小規模多機能型居宅介護	5	20.0	20.0	40.0	20.0	0.0	0.0
訪問入浴介護	4	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0
短期入所療養介護(ショートステイ)	4	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0
看護小規模多機能型居宅介護	4	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0
介護老人保健施設(老人保健施設)	3	33.4	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0

5 介護保険サービス事業所調査

ウ)経営状況

経営状況ついて、取り扱い事業所の多い順に示した。取り扱い事業所が最も多い『訪問介護（ホームヘルプサービス）』では、「安定的に運営できている」が40.0%、「厳しい」が50.0%となっている。

【図表 273】 経営状況

サービス名	n (回答数)	(%)		
		安定的に運営 できている	厳しい	無回答
訪問介護（ホームヘルプサービス）	50	40.0	50.0	10.0
居宅介護支援	40	65.0	30.0	5.0
通所介護(デイサービス)	29	31.0	62.1	6.9
訪問看護	27	66.7	29.6	3.7
地域密着型通所介護(小規模デイサービス)	23	17.4	60.9	21.7
福祉用具貸与	20	65.0	15.0	20.0
福祉用具販売	17	64.8	17.6	17.6
訪問型サービス	16	18.8	56.2	25.0
訪問リハビリテーション	12	50.0	33.3	16.7
通所型サービス	11	27.3	54.5	18.2
認知症対応型通所介護(認知症デイサービス)	10	0.0	90.0	10.0
短期入所生活介護(ショートステイ)	9	33.3	44.5	22.2
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	9	33.3	44.5	22.2
居宅療養管理指導	8	75.0	12.5	12.5
認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	8	37.5	62.5	0.0
特定施設入居者生活介護	7	42.9	57.1	0.0
介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	7	42.9	57.1	0.0
通所リハビリテーション(デイケア)	5	40.0	40.0	20.0
夜間対応型訪問介護	5	40.0	40.0	20.0
小規模多機能型居宅介護	5	20.0	80.0	0.0
訪問入浴介護	4	0.0	75.0	25.0
短期入所療養介護(ショートステイ)	4	0.0	50.0	50.0
看護小規模多機能型居宅介護	4	25.0	50.0	25.0
介護老人保健施設(老人保健施設)	3	0.0	66.7	33.3
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	1	0.0	100.0	0.0

## 工)今後4年間(令和8年度まで)の新宿区内での事業規模の意向

今後4年間の新宿区内での事業規模の意向について、取り扱い事業所の多い順に示した。取り扱い事業所が最も多い『訪問介護(ホームヘルプサービス)』では、「現状維持」が46.0%と最も多く、次いで「拡大・新規展開したい」が36.0%、「縮小したい(やめたい)」が4.0%となっている。

【図表 274】 今後4年間の新宿区内での事業規模の意向

(%)

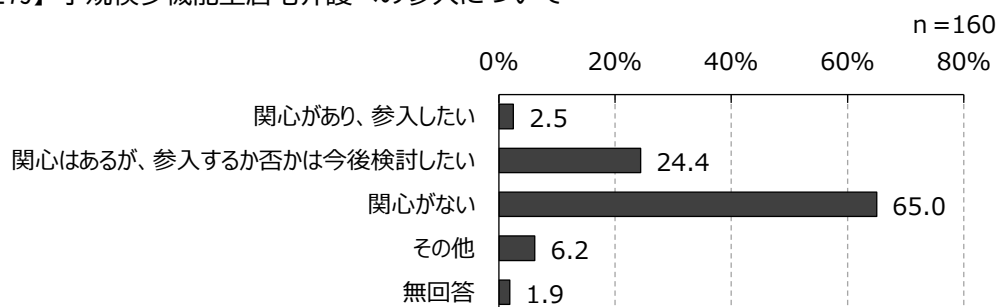
サービス名	n (回答数)	現状維持	拡大・新規 展開したい	縮小したい (やめたい)	無回答
訪問介護(ホームヘルプサービス)	50	46.0	36.0	4.0	14.0
居宅介護支援	40	65.0	22.5	0.0	12.5
通所介護(デイサービス)	29	65.6	24.1	0.0	10.3
訪問看護	27	33.3	59.3	0.0	7.4
地域密着型通所介護(小規模デイサービス)	23	34.8	39.2	4.3	21.7
福祉用具貸与	20	40.0	35.0	0.0	25.0
福祉用具販売	17	41.2	35.3	0.0	23.5
訪問型サービス	16	43.6	18.8	6.3	31.3
訪問リハビリテーション	12	50.0	25.0	0.0	25.0
通所型サービス	11	54.5	18.2	0.0	27.3
認知症対応型通所介護(認知症デイサービス)	10	70.0	0.0	10.0	20.0
短期入所生活介護(ショートステイ)	9	66.7	0.0	0.0	33.3
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	9	44.5	11.1	11.1	33.3
居宅療養管理指導	8	25.0	37.5	12.5	25.0
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	8	62.5	12.5	0.0	25.0
特定施設入居者生活介護	7	57.1	28.6	0.0	14.3
介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	7	85.7	0.0	0.0	14.3
通所リハビリテーション(デイケア)	5	40.0	20.0	0.0	40.0
夜間対応型訪問介護	5	40.0	20.0	0.0	40.0
小規模多機能型居宅介護	5	60.0	20.0	0.0	20.0
訪問入浴介護	4	25.0	25.0	0.0	50.0
短期入所療養介護(ショートステイ)	4	25.0	0.0	0.0	75.0
看護小規模多機能型居宅介護	4	50.0	0.0	0.0	50.0
介護老人保健施設(老人保健施設)	3	33.3	0.0	0.0	66.7
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	1	0.0	0.0	0.0	100.0

## 今後の参入意向について

問8 貴事業所では、小規模多機能型居宅介護への参入についてどのようにお考えですか。

小規模多機能型居宅介護への参入については、「関心がない」が65.0%と最も多く、次いで「関心はあるが、参入するか否かは今後検討したい」が24.4%となっている。

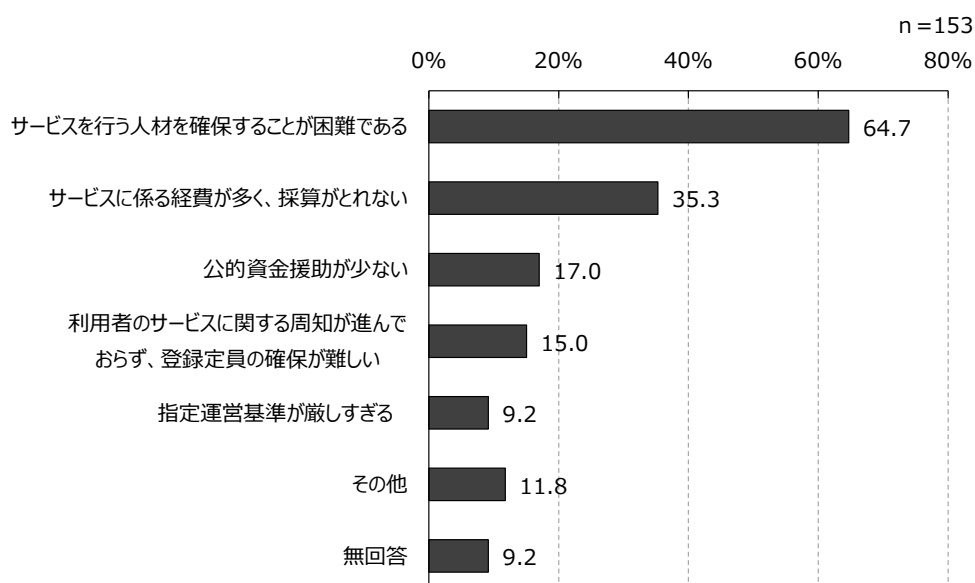
【図表 275】小規模多機能型居宅介護への参入について



問8-1 貴事業所では、小規模多機能型居宅介護への参入課題をどのようにお考えですか。(複数回答)

小規模多機能型居宅介護への参入について「関心があり、参入したい」以外を回答した事業所に参入課題について聞いたところ、「サービスを行う人材を確保することが困難である」が64.7%と最も多く、次いで「サービスに係る経費が多く、採算がとれない」が35.3%、「公的資金援助が少ない」が17.0%となっている。

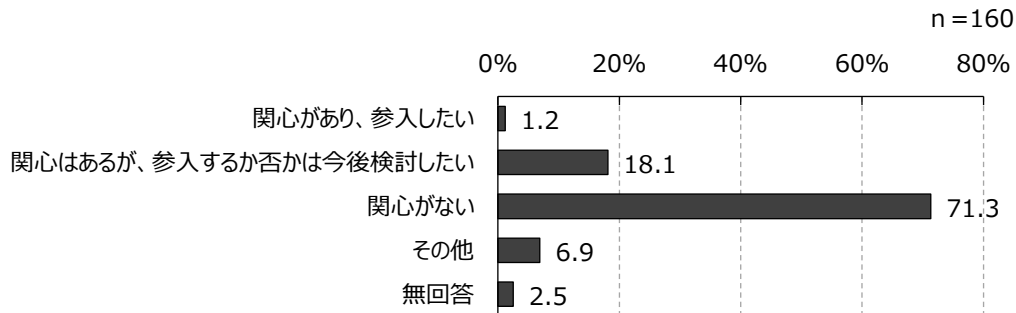
【図表 276】小規模多機能型居宅介護への参入課題



問9 貴事業所では、看護小規模多機能型居宅介護への参入についてどのようにお考えですか。

看護小規模多機能型居宅介護への参入については、「関心がない」が71.3%と最も多く、次いで「関心はあるが、参入するか否かは今後検討したい」が18.1%となっている。

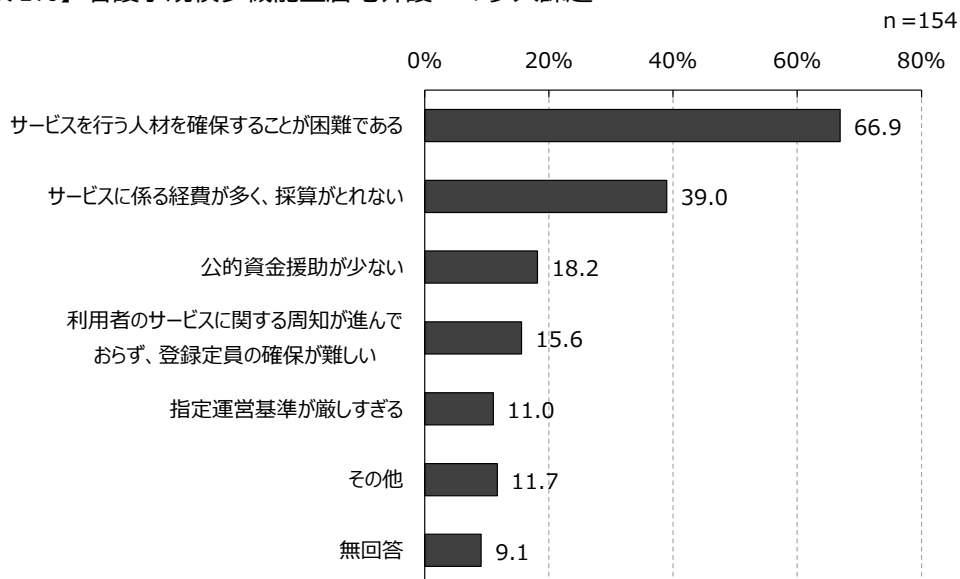
【図表 277】 看護小規模多機能型居宅介護への参入について



問9-1 看護小規模多機能型居宅介護への参入課題をどのようにお考えですか。  
(複数回答)

看護小規模多機能型居宅介護への参入について「関心があり、参入したい」以外を回答した事業所に参入課題について聞いたところ、「サービスを行う人材を確保することが困難である」が66.9%と最も多く、次いで「サービスに係る経費が多く、採算がとれない」が39.0%、「公的資金援助が少ない」が18.2%となっている。

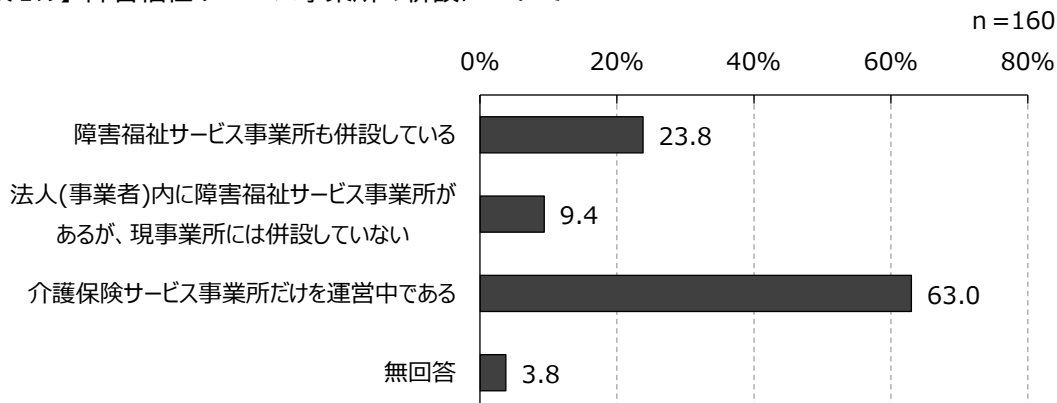
【図表 278】 看護小規模多機能型居宅介護への参入課題



問10 貴事業所には、障害福祉サービス事業所を併設していますか。

障害福祉サービス事業所の併設については、「介護保険サービス事業所だけを運営中である」が63.0%と最も多くなっている。

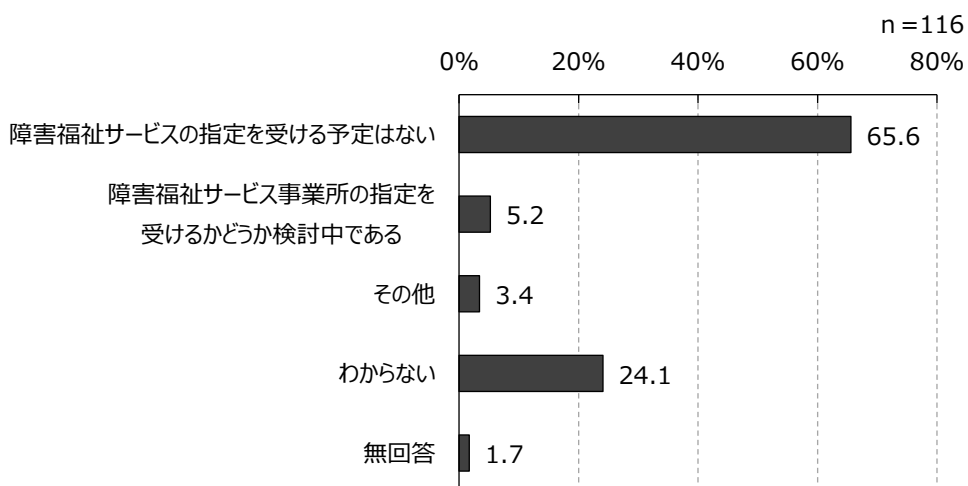
【図表 279】 障害福祉サービス事業所の併設について



問10-1 貴事業所では、新たに障害福祉サービス事業所の指定を受ける予定はありますか。

障害福祉サービス事業所を「併設している」以外を回答した事業所に指定を受ける予定について聞いたところ、「障害福祉サービスの指定を受ける予定はない」が65.6%と最も多くなっている。

【図表 280】 新たに障害福祉サービス事業所の指定を受ける予定

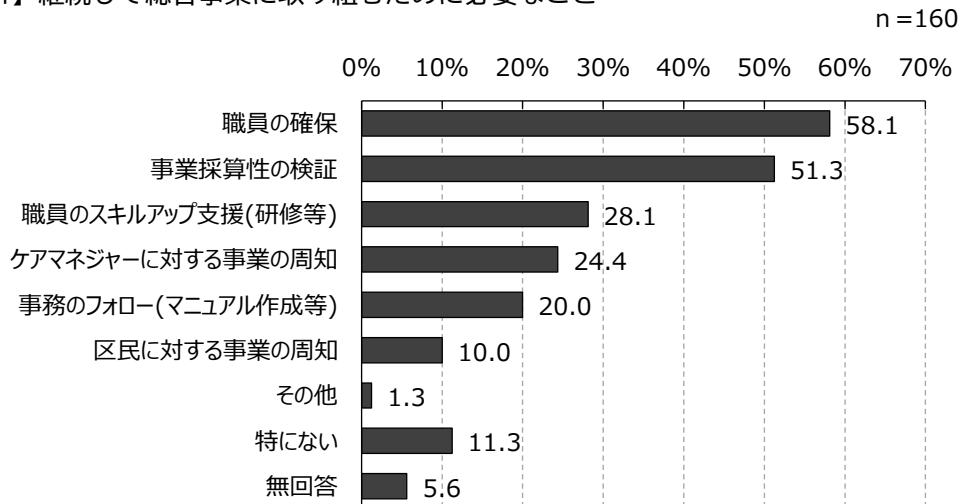


## 総合事業について

問11 貴事業所では、今後も継続して総合事業に取り組むために必要なことは、次のうちどれですか。(複数回答)

今後も継続して総合事業に取り組むために必要なことについては、「職員の確保」が58.1%と最も多く、次いで「事業採算性の検証」が51.3%、「職員のスキルアップ支援(研修等)」が28.1%となっている。

【図表 281】 継続して総合事業に取り組むために必要なこと

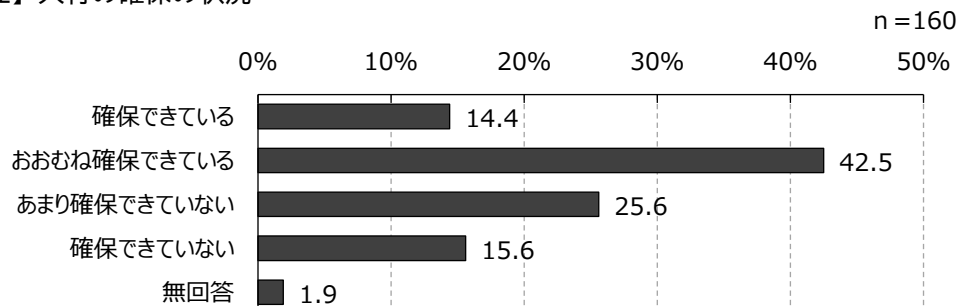


## 人材の確保・定着・育成について

問12 この1年間、貴事業所の人材の確保の状況はどうか。

人材の確保の状況については、「おおむね確保できている」が42.5%と最も多く、次いで「あまり確保できていない」が25.6%となっている。

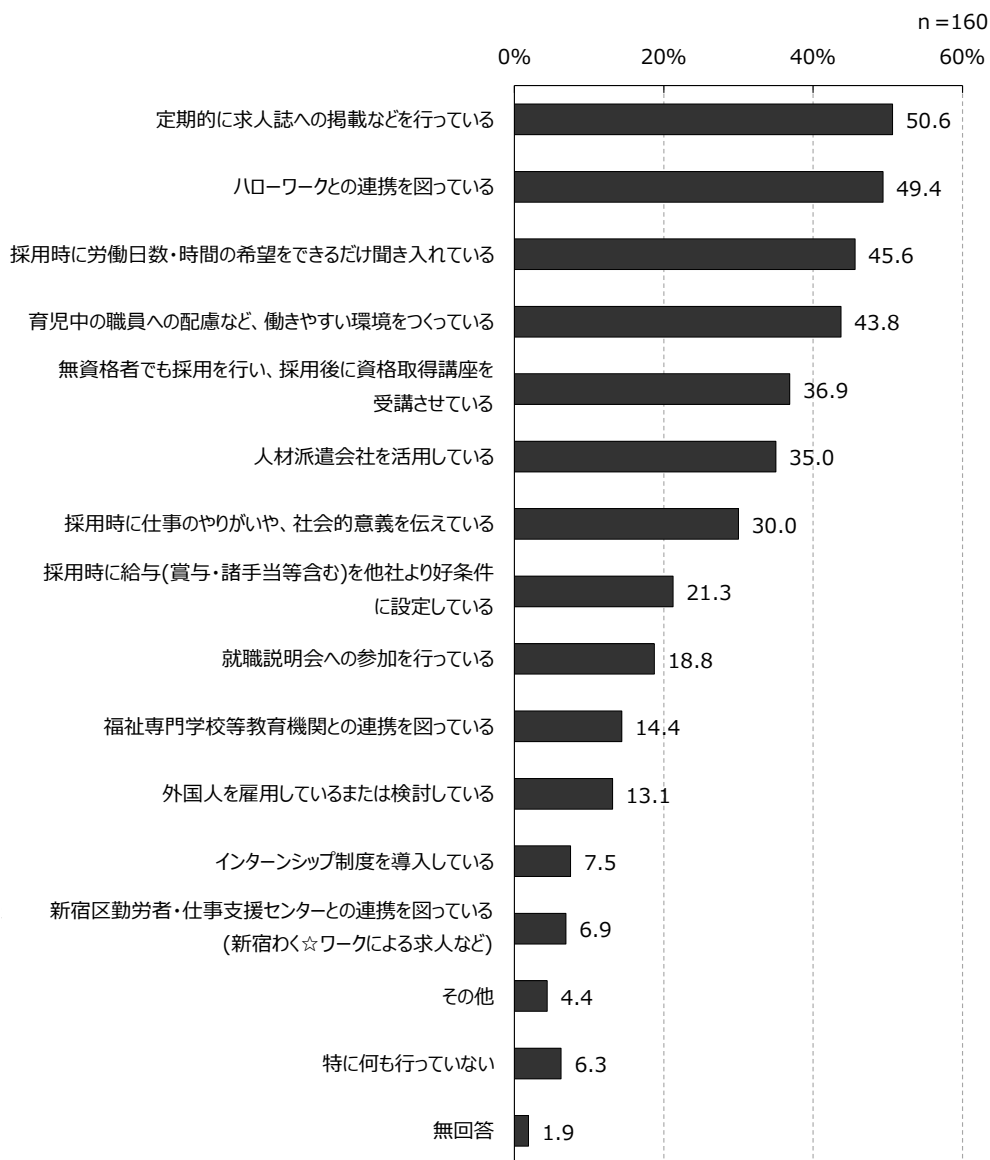
【図表 282】 人材の確保の状況



問13 貴事業所では、人材の確保について、どのような取り組みを行っていますか。  
(複数回答)

人材の確保について行っている取り組みの内容は、「定期的に求人誌への掲載などを行っている」が50.6%と最も多く、次いで「ハローワークとの連携を図っている」が49.4%、「採用時に労働日数・時間の希望をできるだけ聞き入れている」が45.6%となっている。

【図表 283】 人材の確保について行っている取り組みの内容





問14 貴事業所での人材の確保についての特徴的な取り組みがあれば、ご自由にお書きください。

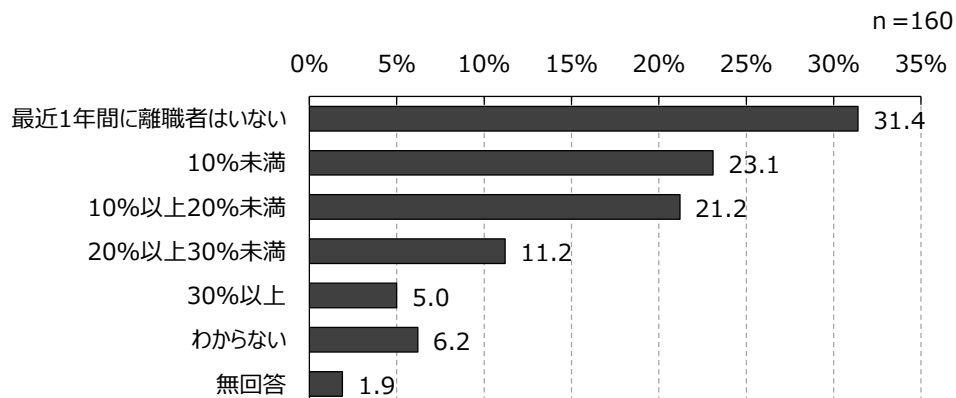
人材の確保についての特徴的な取り組みについて、回答があった主な意見は以下のとおり。

- ・オンラインのマッチングサービスを使って多くの人（介護職員）に会っている。
- ・インターン生の受け入れ、インスタグラムの活用。
- ・体験同行を取り入れ、現場を体感してもらっている。
- ・特定技能外国人介護人材の活用を行っている。
- ・在宅ワーク・フレックス制を取り入れている。
- ・資格取得制度を導入し未経験者でも働きながら資格が取れる仕組み。

問15 貴事業所のこの1年間の離職率はどのくらいですか。

1年間の離職率については、「最近1年間に離職者はいない」が31.4%と最も多く、次いで「10%未満」が23.1%、「10%以上20%未満」が21.2%となっている。

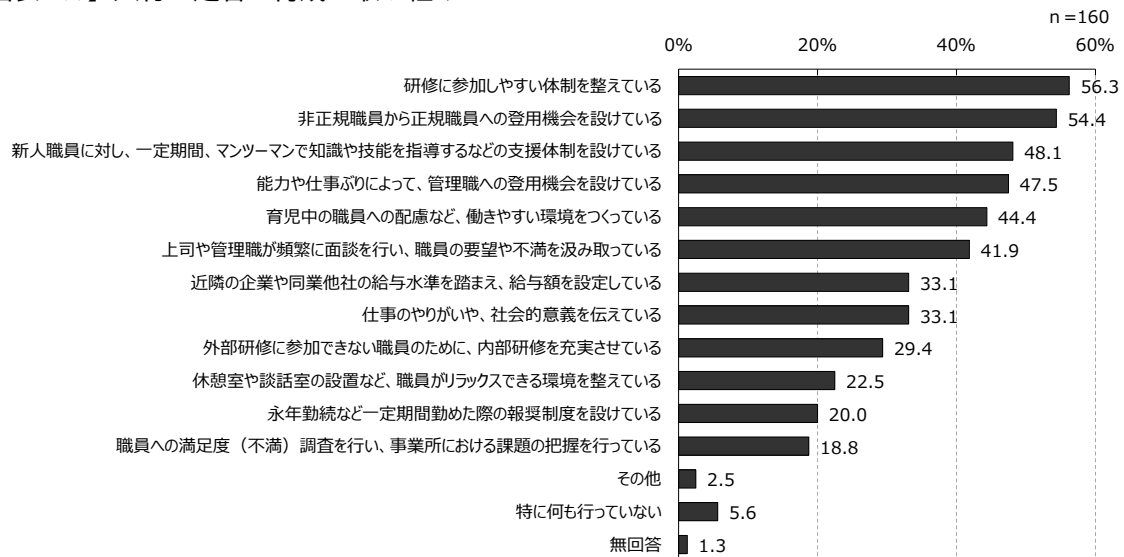
【図表 284】 1年間の離職率



問16 貴事業所では、人材の定着・育成について、どのような取り組みを行っていますか。  
(複数回答)

人材の定着・育成の取り組みについては、「研修に参加しやすい体制を整えている」が56.3%と最も多く、次いで「非正規職員から正規職員への登用機会を設けている」が54.4%、「新人職員に対し、一定期間、マンツーマンで知識や技能を指導するなどの支援体制を設けている」が48.1%となっている。

【図表 285】人材の定着・育成の取り組み



問17 貴事業所での人材の定着・育成についての特徴的な取り組みがあれば、ご自由にお書きください。

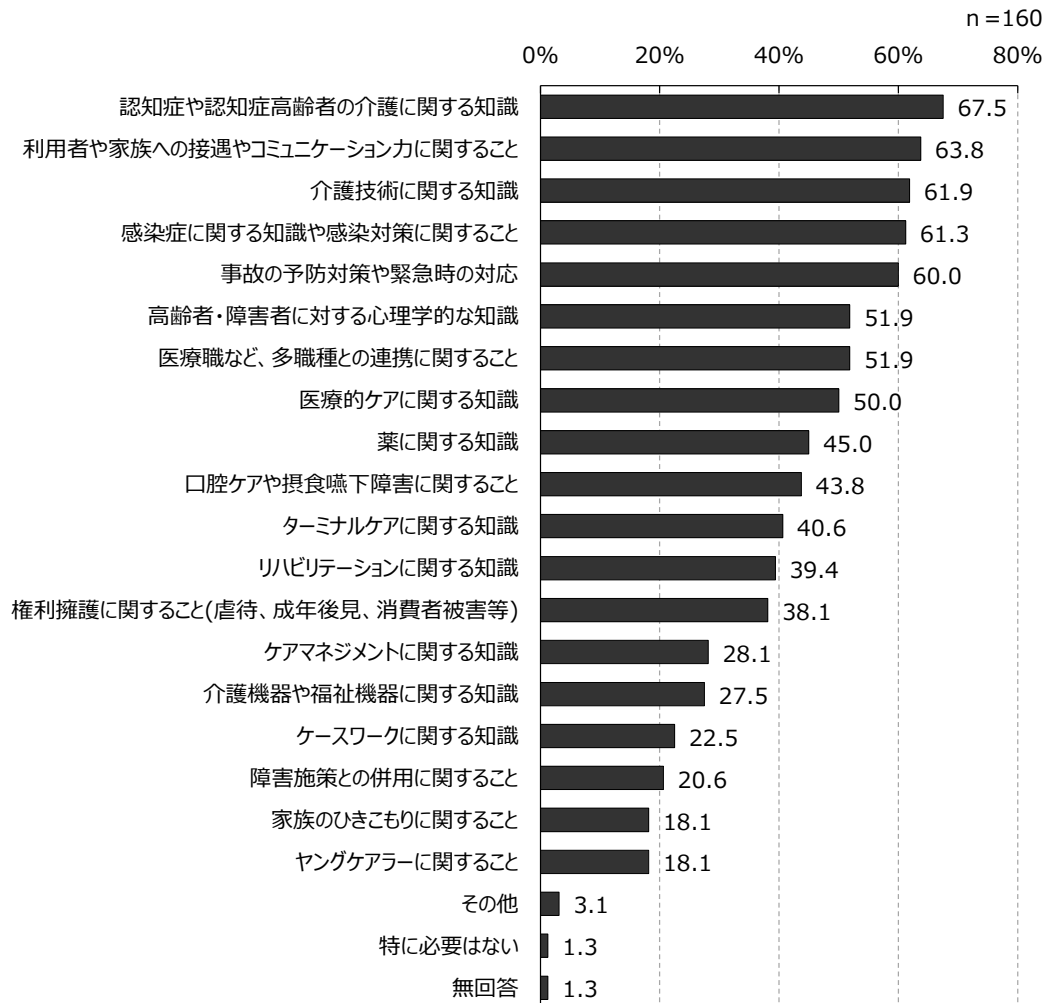
人材の定着・育成についての特徴的な取り組みについて、回答があった主な意見は以下のとおり。

- ・社内外での研修を行っている。
- ・能力に応じた管理職への登用。
- ・コミュニケーションを図る事を意識している。
- ・定期的（月1回）の研修会、勉強会、懇親会の開催。
- ・在宅ワーク・フレックス制を取り入れている。
- ・親の介護の為に負担のある職員への配慮。勤務時間の相談に応じ、働きやすい環境をつくっている。

問18 貴事業所で、職員のスキルアップを図るには、どのような実習・研修が必要だと思いますか。(複数回答)

職員のスキルアップに必要な実習・研修については、「認知症や認知症高齢者の介護に関する知識」が67.5%と最も多く、次いで「利用者や家族への接遇やコミュニケーション力に関すること」が63.8%、「介護技術に関する知識」が61.9%となっている。

【図表 286】 職員のスキルアップに必要な実習・研修



問19 貴事業所での人材の定着・育成にあたり、何か課題等があれば、ご自由にお書きください。

人材の定着・育成にあたっての課題等について、回答があった主な意見は以下のとおり。

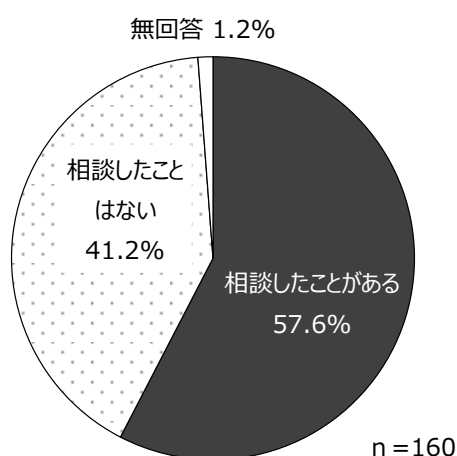
- ・ケアマネジャーに処遇改善の施策がない。ケアマネジャーの実習生のほとんどが施設ケアマネジャー希望、在宅のケアマネジャーはやりたくない、忙しさと責任の重さを理由にしている。また、ヘルパーやデイサービスの職員でケアマネジャー資格者は、現在の給与の方がケアマネジャーよりもよいとの理由で、ケアマネジャーのなり手がいない。
- ・マニュアルが不足しており、育成計画が曖昧。
- ・全て知識が無くても働けるのがおかしい。接遇、礼儀等の課題が多い。
- ・介護士同士のコミュニケーションと情報交換。(曜日毎に同じ人間が勤務する為、違う曜日のスタッフ同士が顔を合わせる事が無い)。
- ・オンライン研修を取り入れているが、リアル研修と違って効果が少ないようにも感じる。

### 高齢者総合相談センターの事業所への支援について

問20 貴事業所は、利用者に関して高齢者総合相談センターへ相談したことがありますか。

高齢者総合相談センターへの相談状況については、「相談したことがある」が57.6%、「相談したことはない」が41.2%となっている。

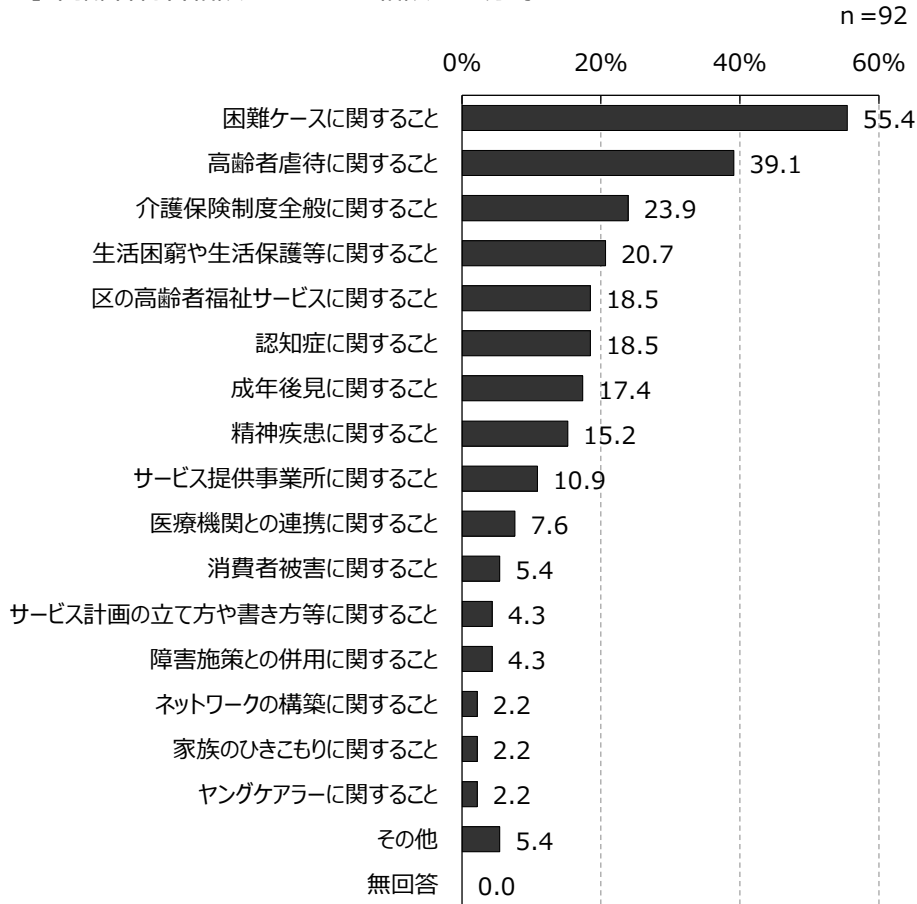
【図表 287】 高齢者総合相談センターへの相談状況



## 問20-1 相談した分野は、次のうちどれですか。(複数回答)

高齢者総合相談センターに「相談したことがある」と回答した人に相談した分野を聞いたところ、「困難ケースに関すること」が55.4%と最も多く、次いで「高齢者虐待に関すること」が39.1%、「介護保険制度全般に関すること」が23.9%となっている。

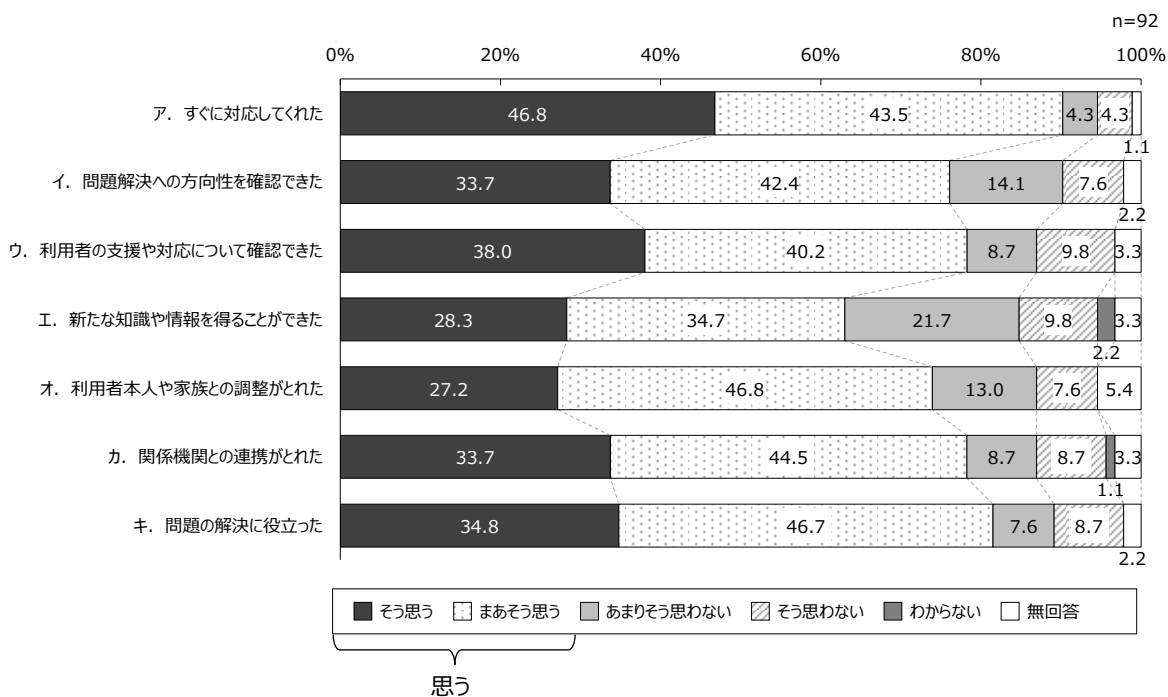
【図表 288】 高齢者総合相談センターに相談した分野



問20-2 高齢者総合相談センターへ相談した際の全般的な評価は、次のうちどれですか。

高齢者総合相談センターに「相談したことがある」と回答した人に高齢者総合相談センターに対する評価を聞いたところ、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた“思う”は、『ア. すぐに対応してくれた』が90.3%で最も多く、次いで『キ. 問題の解決に役立った』が81.5%、『ウ. 利用者の支援や対応について確認できた』及び『カ. 関係機関との連携がとれた』が同率で78.2%となっている。

【図表 289】 高齢者総合相談センターに対する評価

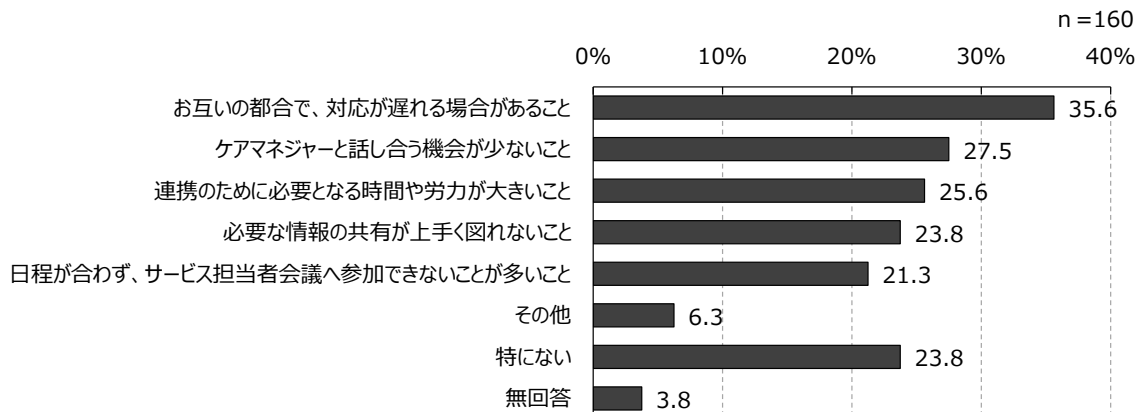


## 各種連携の状況について

問21 貴事業所において、ケアマネジャーとの連携における課題は何だと思えますか。  
(複数回答)

ケアマネジャーとの連携における課題については、「お互いの都合で、対応が遅れる場合があること」が35.6%と最も多く、次いで「ケアマネジャーと話し合う機会が少ないこと」が27.5%、「連携のために必要となる時間や労力が大きいこと」が25.6%となっている。

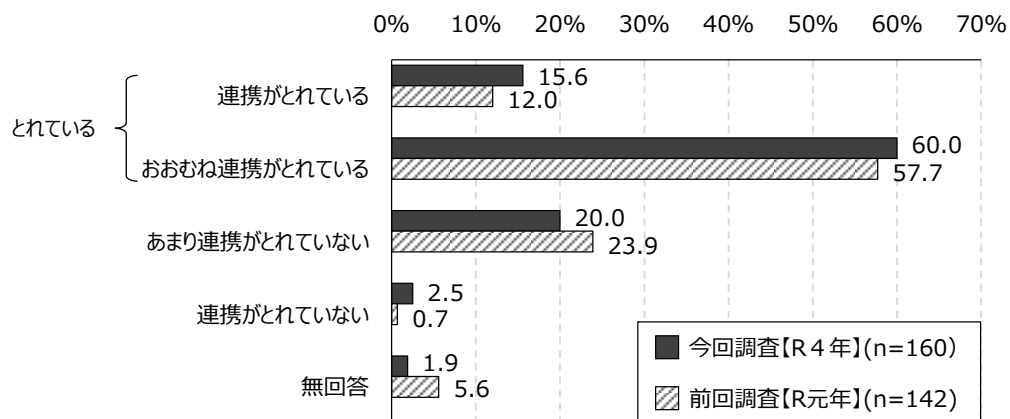
【図表 290】 ケアマネジャーとの連携における課題



問22 貴事業所からみて、新宿区内の在宅医療・介護連携の状況について、どのように思いますか。

新宿区内の在宅医療・介護連携の状況については、「おおむね連携がとれている」が60.0%と最も多く、「連携がとれている」(15.6%)と合わせた“とれている”は75.6%となっている。

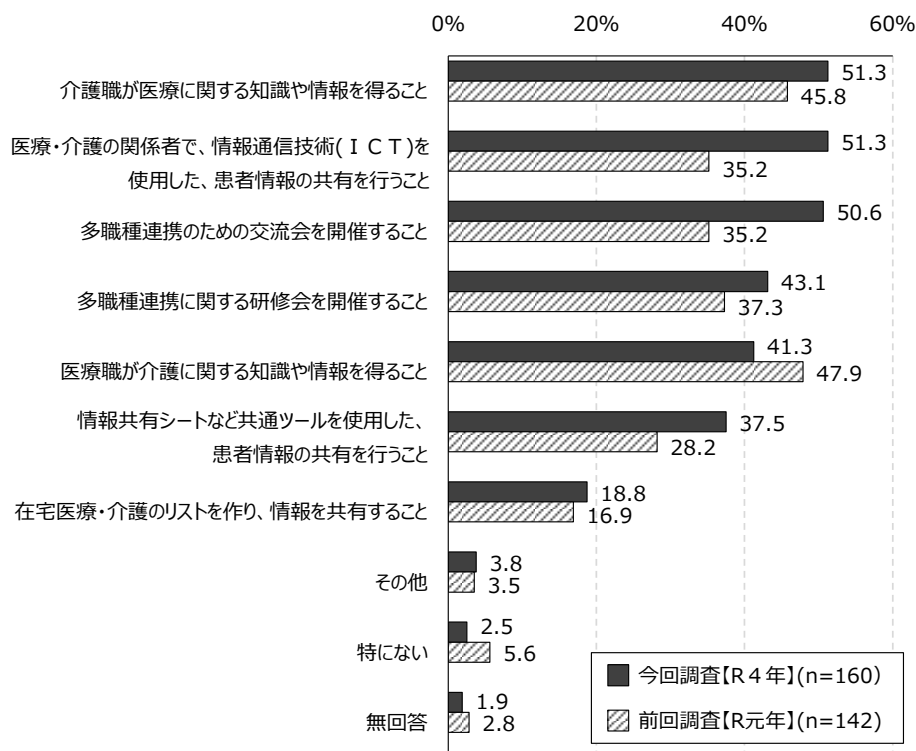
【図表 291】 新宿区内の在宅医療・介護連携の状況〈前回比較〉



問23 貴事業所からみて、新宿区内の在宅医療・介護連携を推進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

新宿区内の在宅医療・介護連携の推進のために必要なことについては、「介護職が医療に関する知識や情報を得ること」及び「医療・介護の関係者で、情報通信技術(ICT)を使用した、患者情報の共有を行うこと」が同率で51.3%と最も多く、次いで「多職種連携のための交流会を開催すること」が50.6%となっている。

【図表 292】在宅医療・介護連携の推進のために必要なこと〈前回比較〉

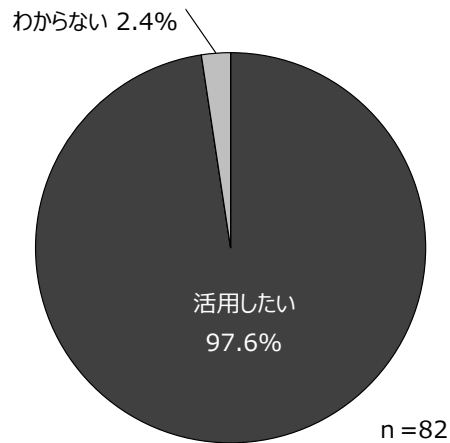




問23-1 多職種で患者情報の共有を行うためにICTを活用することについて、どのように考えますか。

在宅医療・介護連携を推進するために必要だと思うことで、「医療・介護の関係者で、情報通信技術(ICT)を使用した、患者情報の共有を行うこと」と回答した人にICTを活用することについて聞いたところ、「活用したい」が97.6%と最も多くなっている。

【図表 293】 患者情報の共有を行うために ICT を活用すること

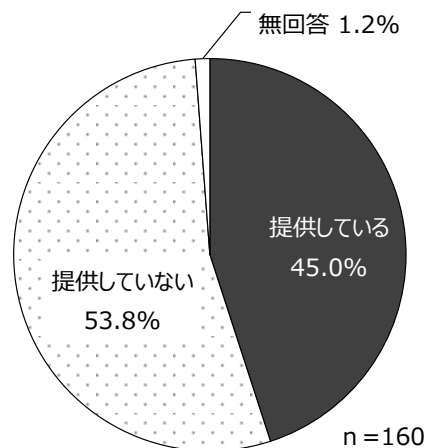


## 介護保険によらないサービスについて

問24 貴事業所では、介護保険の被保険者に対して、介護保険制度によらないサービスを提供していますか。

介護保険制度によらないサービスの提供状況については、「提供している」が45.0%、「提供していない」が53.8%となっている。

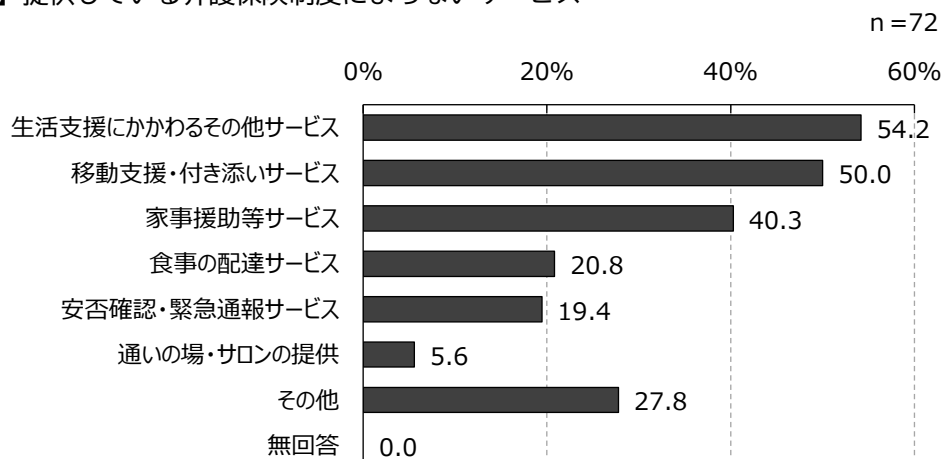
【図表 294】 介護保険制度によらないサービスの提供状況



問24-1 提供している介護保険制度によらないサービスは、次のうちどれですか。  
(複数回答)

介護保険制度によらないサービスを「提供している」と回答した事業所にサービスの種類を聞いたところ、「生活支援にかかわるその他サービス」が54.2%と最も多く、次いで「移動支援・付き添いサービス」が50.0%、「家事援助等サービス」が40.3%となっている。

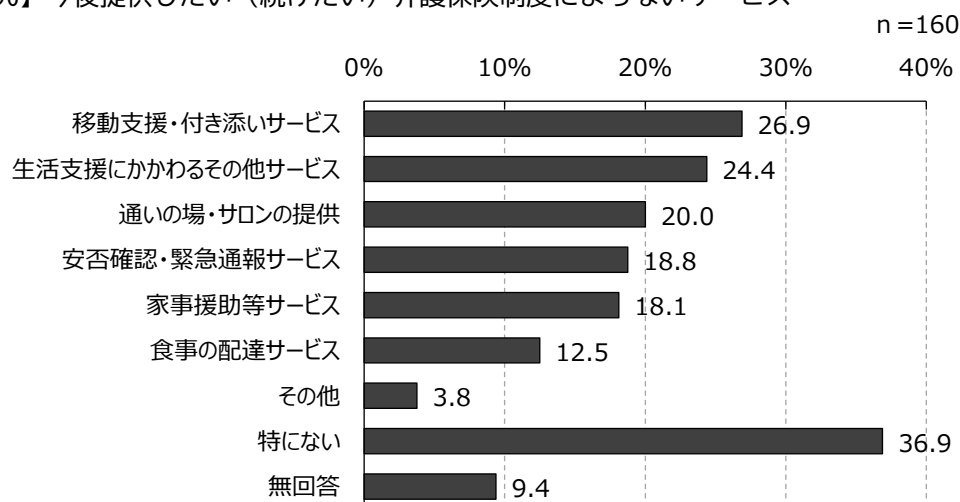
【図表 295】 提供している介護保険制度によらないサービス



問25 貴事業所で、介護保険の被保険者に対して、今後提供したい(続けたい)介護保険制度によらないサービスはありますか。(複数回答)

今後提供したい(続けたい)介護保険制度によらないサービスについては、「特にない」が36.9%と最も多く、次いで「移動支援・付き添いサービス」が26.9%、「生活支援にかかわるその他サービス」が24.4%となっている。

【図表 296】 今後提供したい(続けたい)介護保険制度によらないサービス

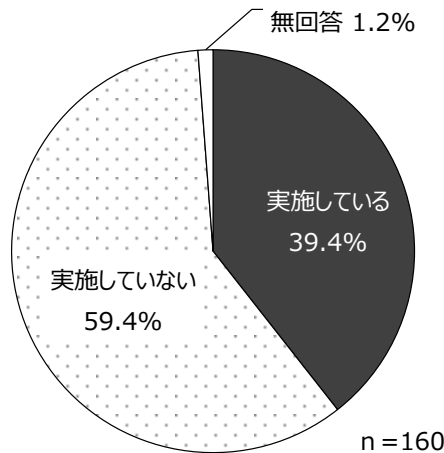


## 地域貢献活動について

### 問26 貴事業所では、地域と関わる活動を実施していますか。

地域と関わる活動の実施状況については、「実施している」が39.4%、「実施していない」が59.4%となっている。

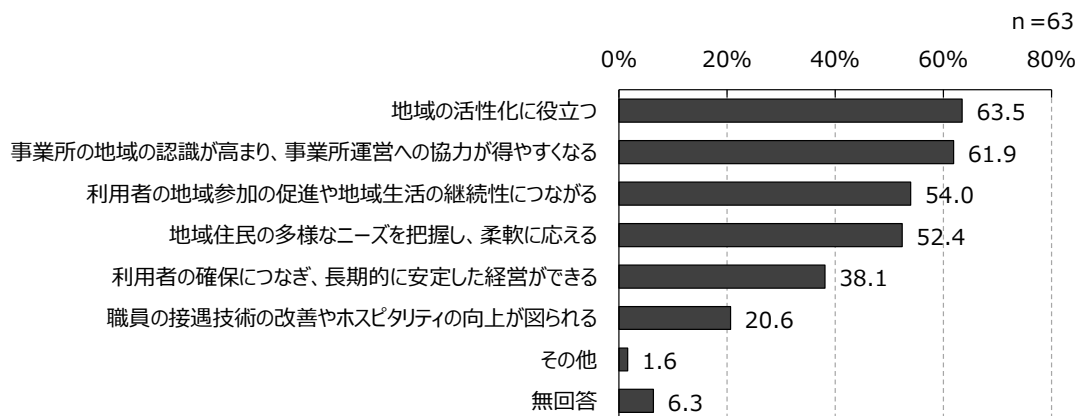
【図表 297】 地域と関わる活動の実施状況



### 問26-1 その理由は、次のうちどれですか。(複数回答)

地域と関わる活動を「実施している」と回答した事業所にその理由を聞いたところ、「地域の活性化に役立つ」が63.5%と最も多く、次いで「事業所の地域の認識が高まり、事業所運営への協力が得やすくなる」が61.9%、「利用者の地域参加の促進や地域生活の継続性につながる」が54.0%となっている。

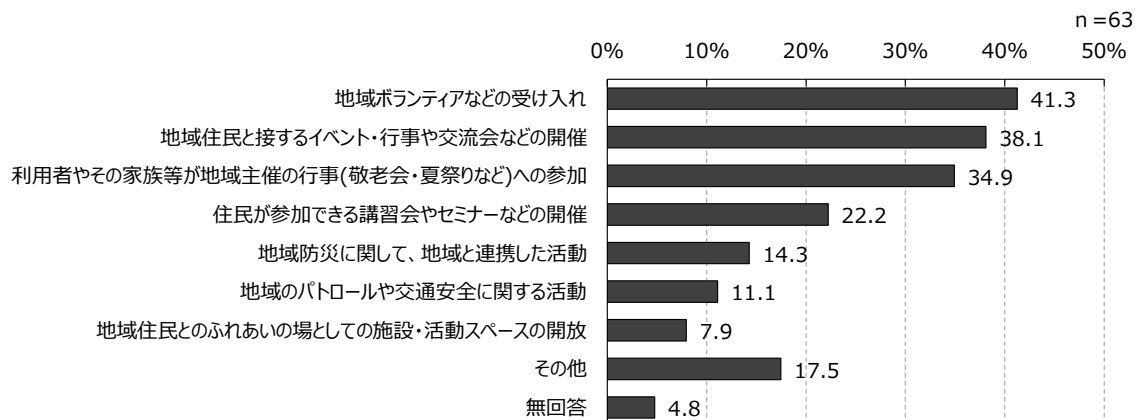
【図表 298】 地域と関わる活動を実施している理由



問26-2 どのような活動をしていますか。(複数回答)

地域と関わる活動を「実施している」と回答した事業所に活動内容を聞いたところ、「地域ボランティアなどの受け入れ」が41.3%と最も多く、次いで「地域住民と接するイベント・行事や交流会などの開催」が38.1%、「利用者やその家族等が地域主催の行事(敬老会・夏祭りなど)への参加」が34.9%となっている。

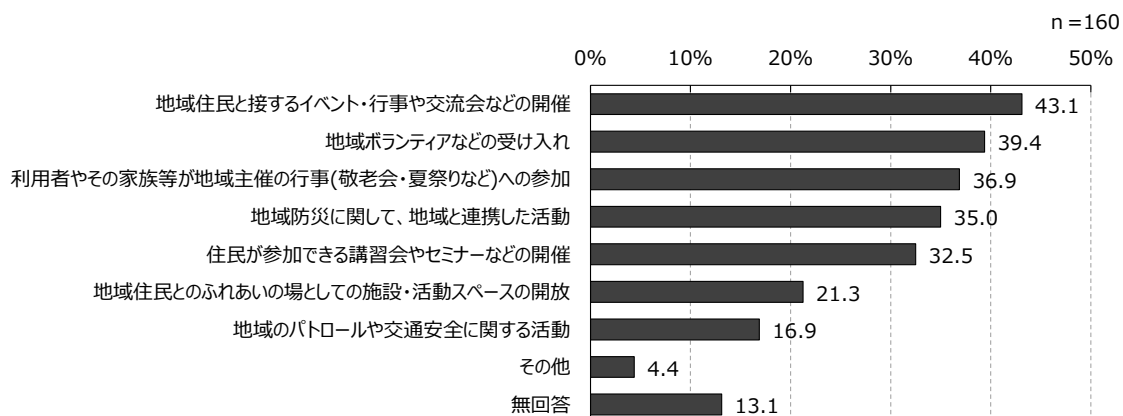
【図表 299】 地域と関わる活動の内容



問27 貴事業所で、今後実施したい(続けたい)地域と関わる活動はありますか。(複数回答)

今後実施したい(続けたい)地域と関わる活動については、「地域住民と接するイベント・行事や交流会などの開催」が43.1%と最も多く、次いで「地域ボランティアなどの受け入れ」が39.4%、「利用者やその家族等が地域主催の行事(敬老会・夏祭りなど)への参加」が36.9%となっている。

【図表 300】 今後実施したい(続けたい)地域と関わる活動



問28 地域包括ケアの担い手として行いたいと考えている活動があれば、ご自由にお書きください。

---

地域包括ケアの担い手として行いたいと考えている活動について、回答があった主な意見は以下のとおり。

---

- ・ 防災訓練。
- ・ 介護保険等のサービスをまだ使っていない人の窓口となり、必要機関へ情報を伝える、地域と機関の架け橋のような役割も考えている。
- ・ 地域を包括してケアしていくためには、業界として狭い所にとどまっているので、いろんな地域サービスと交流を深めて、地域の一つの機能となっていきたい。
- ・ 若年認知症専門員としての支援が必要な時は、協力したいと考えている。
- ・ 知識不足のため医療や介護に結びつかず、孤立していることで病気が悪化してしまうケースがある。病気の悪化を防ぎ支援を受けることで孤立を防ぐことができることを伝えていきたいと思っている。

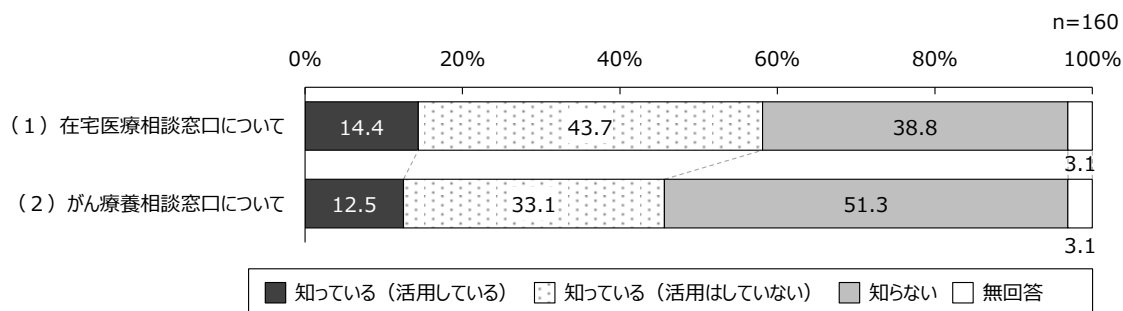
## 在宅医療への対応について

問29 区の「在宅医療相談窓口」や「がん療養相談窓口」で相談を受けられるということを知っていますか。

在宅医療相談窓口については、「知っている（活用はしていない）」が43.7%と最も多くなっている。

がん療養相談窓口については、「知らない」が51.3%と最も多くなっている。

【図表 301】 相談窓口の活用状況



問29-1 「在宅医療相談窓口」や「がん療養相談窓口」の活用状況や期待することについて、ご自由にお書きください。

区の「在宅医療相談窓口」や「がん療養相談窓口」で相談を受けられること「知っている（活用している）」と回答した人が、「在宅医療相談窓口」や「がん療養相談窓口」の活用状況や期待することについての主な意見は以下のとおり。

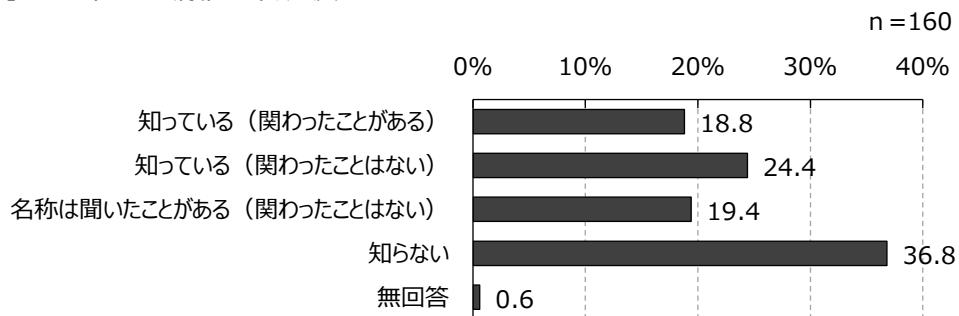
- ・施設に入居しながら末期を迎えるご家族（職員も）に対して、どのような選択肢があるのか等の情報提供をしてほしい。
- ・誰から（区民なのか、医療・介護従事者等）どのような相談が入っているのか、データ化されたものが公表されるとよい。
- ・有効な情報・助言をもらえるので、今後も活動を続けてほしい。

## ACP（人生会議）について

## 問30 ACP(人生会議)について知っていますか。

ACP（人生会議）の認知度については、「知らない」が36.8%と最も多く、次いで「知っている（関わったことはない）」が24.4%、「名称は聞いたことがある（関わったことはない）」が19.4%となっている。

【図表 302】 ACP（人生会議）の認知度

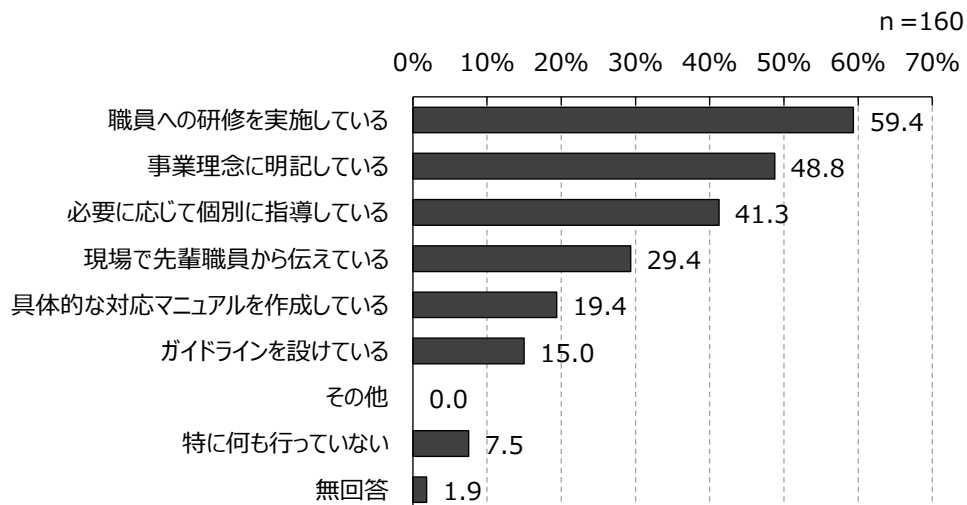


## 尊厳の保持について

## 問31 貴事業所では、利用者の尊厳の保持について、どのような取り組みを行っていますか。(複数回答)

利用者の尊厳の保持について行っている取り組みについては、「職員への研修を実施している」が59.4%と最も多く、次いで「事業理念に明記している」が48.8%、「必要に応じて個別に指導している」が41.3%となっている。

【図表 303】 利用者の尊厳の保持について行っている取り組み

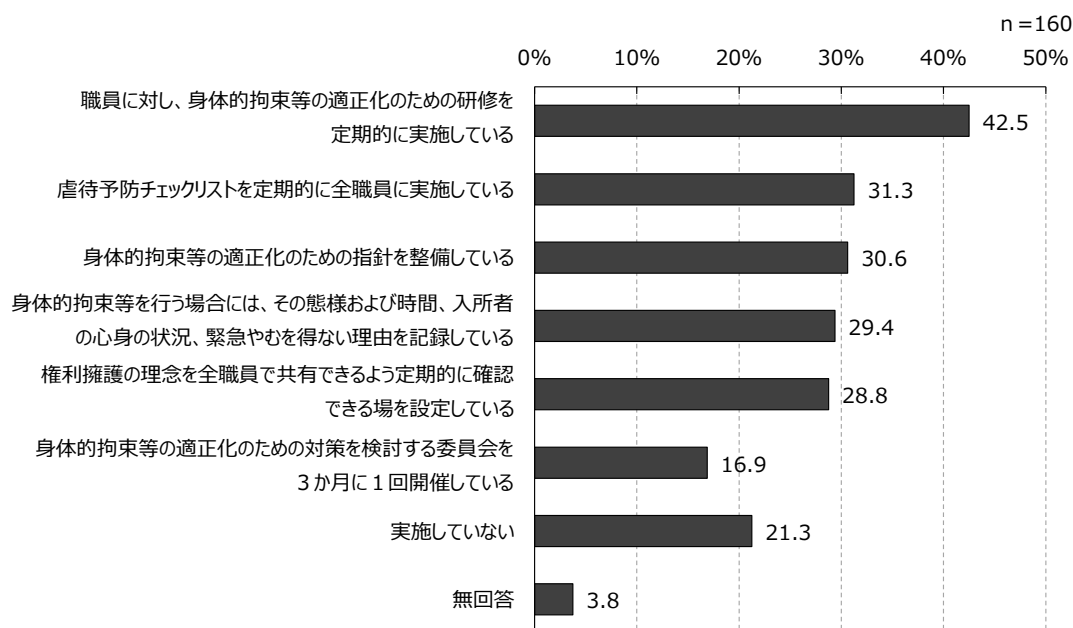


## 身体拘束等の廃止の取り組みについて

問32 貴事業所では、身体拘束の廃止に向けてどのような取り組みを行っていますか。  
(複数回答)

身体拘束の廃止に向けて行っている取り組みについては、「職員に対し、身体的拘束等の適正化のための研修を定期的実施している」が42.5%と最も多く、次いで「虐待予防チェックリストを定期的に全職員に実施している」が31.3%、「身体的拘束等の適正化のための指針を整備している」が30.6%となっている。

【図表 304】 身体拘束の廃止に向けて行っている取り組み



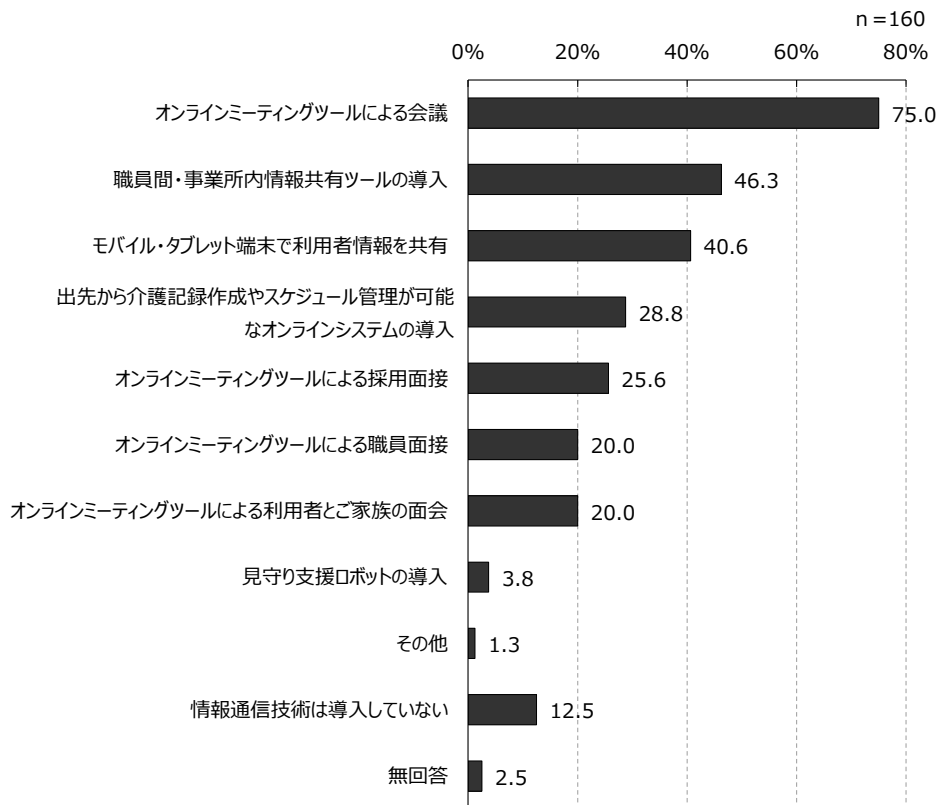


## 新型コロナウイルス感染症予防策として新たに導入された情報通信技術 (ICT) の導入状況について

### 問33 新たに導入・実施した情報通信技術 (ICT) の活用 (令和2年3月～令和4年9月現在) (複数回答)

新たに導入・実施した情報通信技術 (ICT) の活用については、「オンラインミーティングツールによる会議」が75.0%と最も多く、次いで「職員間・事業所内情報共有ツールの導入」が46.3%、「モバイル・タブレット端末で利用者情報を共有」が40.6%となっている。

【図表 305】新たに導入・実施した情報通信技術 (ICT) の活用

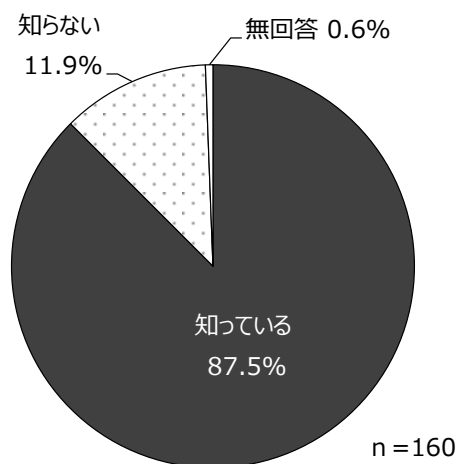


## BCP（業務継続計画）について

問34 貴事業所では、厚労省のHPにBCP(業務継続計画)作成支援のページがあることを知っていますか。

厚労省のHPのBCP（業務継続計画）作成支援のページの認知度については、「知っている」が87.5%、「知らない」が11.9%となっている。

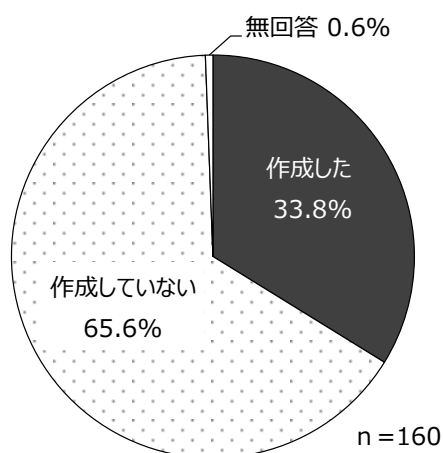
【図表 306】厚労省のHPのBCP(業務継続計画)作成支援のページの認知度



問35 感染症に係るBCP(業務継続計画)の作成状況についておたずねします。

感染症に係るBCP（業務継続計画）の作成状況については、「作成した」が33.8%、「作成していない」が65.6%となっている。

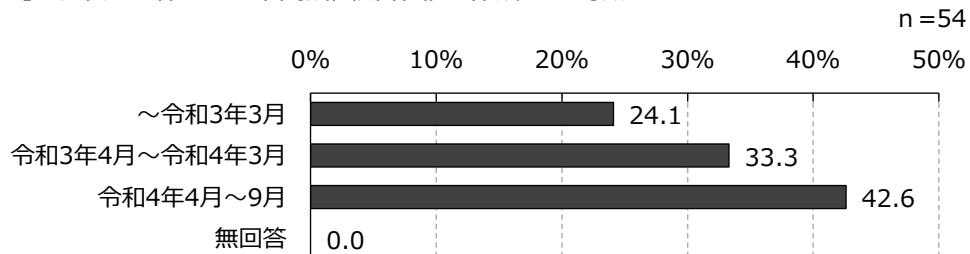
【図表 307】感染症に係るBCP(業務継続計画)の作成状況



### 問35-1 作成した時期は、次のうちどれですか。

感染症に係るBCP（業務継続計画）を「作成した」と回答した事業所に作成した時期について聞いたところ、「令和4年4月～9月」が42.6%と最も多く、次いで「令和3年4月～令和4年3月」が33.3%、「～令和3年3月」が24.1%となっている。

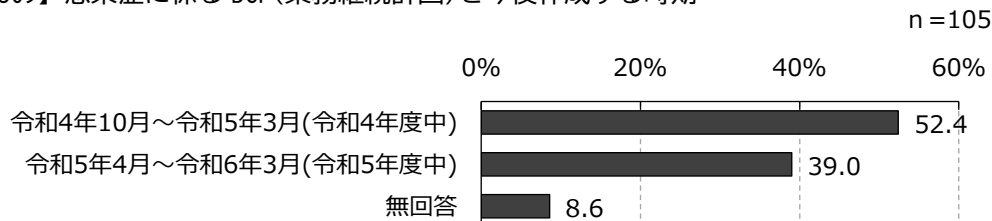
【図表 308】 感染症に係る BCP(業務継続計画)を作成した時期



### 問35-2 今後作成する時期は、次のうちどれですか。

感染症に係るBCP（業務継続計画）を「作成していない」と回答した事業所に今後作成する時期について聞いたところ、「令和4年10月～令和5年3月（令和4年度中）」が52.4%、「令和5年4月～令和6年3月（令和5年度中）」が39.0%となっている。

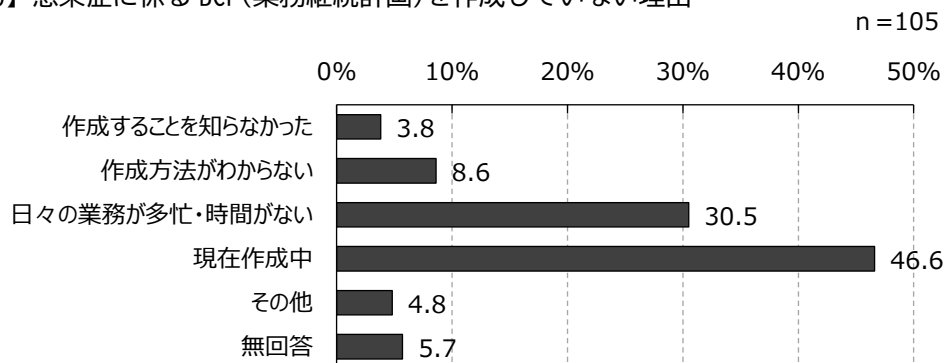
【図表 309】 感染症に係る BCP(業務継続計画)を今後作成する時期



### 問35-3 作成していない理由は次のうちどれですか。

感染症に係るBCP（業務継続計画）を「作成していない」と回答した事業所にその理由について聞いたところ、「現在作成中」が46.6%と最も多く、次いで「日々の業務が多忙・時間がない」が30.5%、「作成方法がわからない」が8.6%となっている。

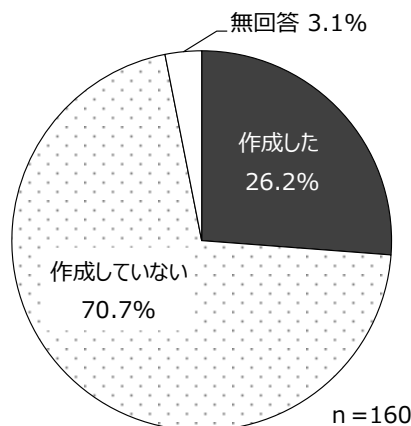
【図表 310】 感染症に係る BCP(業務継続計画)を作成していない理由



**問36 自然災害に係るBCP(業務継続計画)の作成状況についておたずねします。**

自然災害に係るBCP(業務継続計画)の作成状況については、「作成した」が26.2%、「作成していない」が70.7%となっている。

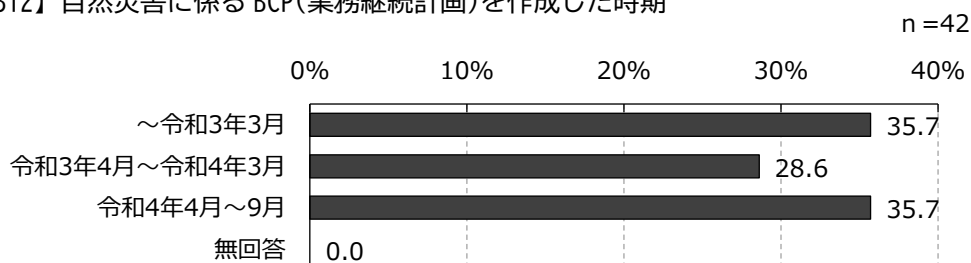
【図表 311】 自然災害に係る BCP(業務継続計画)の作成状況



**問36-1 作成した時期は、次のうちどれですか。**

自然災害に係るBCP(業務継続計画)を「作成した」と回答した事業所に作成した時期について聞いたところ、「令和4年4月～9月」及び「～令和3年3月」が同率で35.7%、「令和3年4月～令和4年3月」が28.6%となっている。

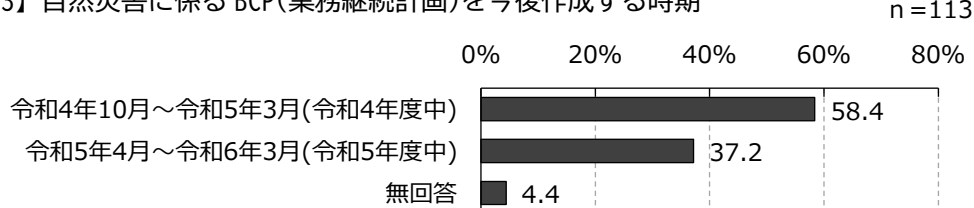
【図表 312】 自然災害に係る BCP(業務継続計画)を作成した時期



**問36-2 今後作成する時期は、次のうちどれですか。**

自然災害に係るBCP(業務継続計画)を「作成していない」と回答した事業所に今後作成する時期について聞いたところ、「令和4年10月～令和5年3月(令和4年度中)」が58.4%、「令和5年4月～令和6年3月(令和5年度中)」が37.2%となっている。

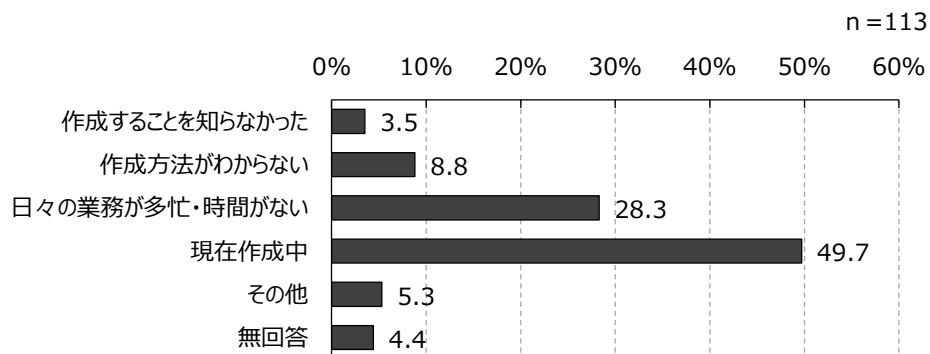
【図表 313】 自然災害に係る BCP(業務継続計画)を今後作成する時期



### 問36-3 作成していない理由は次のうちどれですか。

自然災害に係るBCP（業務継続計画）を「作成していない」と回答した事業所にその理由について聞いたところ、「現在作成中」が49.7%と最も多く、次いで「日々の業務が多忙・時間がない」が28.3%、「作成方法がわからない」が8.8%となっている。

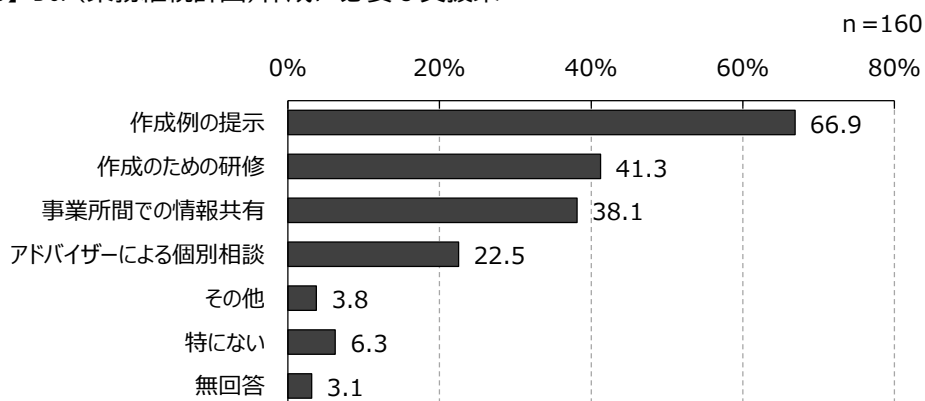
【図表 314】自然災害に係るBCP(業務継続計画)を作成していない理由



### 問37 BCP(業務継続計画)作成にあたって、必要な支援策は、次のうちどれですか。 (複数回答)

BCP（業務継続計画）作成に必要な支援策については、「作成例の提示」が66.9%と最も多く、次いで「作成のための研修」が41.3%、「事業所間での情報共有」が38.1%となっている。

【図表 315】BCP(業務継続計画)作成に必要な支援策

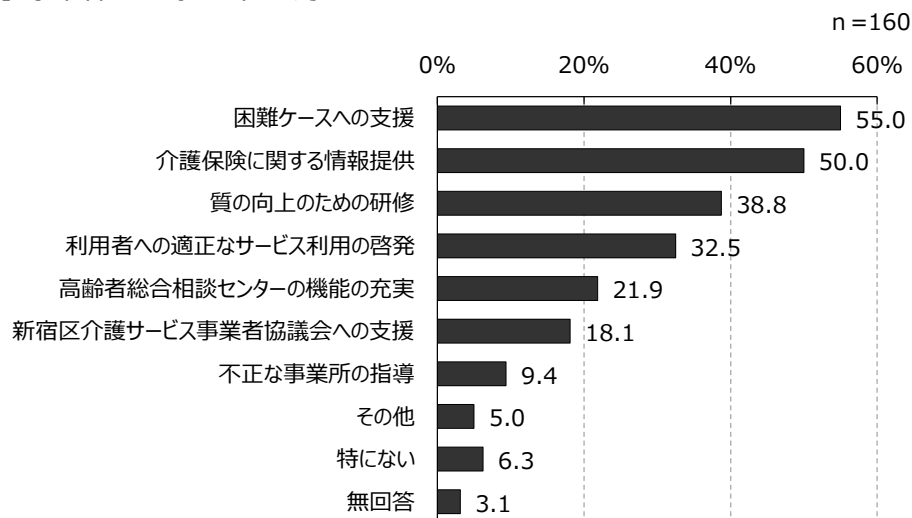


新宿区への要望について

問38 事業者の立場から、保険者である新宿区に対して、何を望みますか。(複数回答)

事業者の立場から区に対して望むことについては、「困難ケースへの支援」が55.0%と最も多く、次いで「介護保険に関する情報提供」が50.0%、「質の向上のための研修」が38.8%となっている。

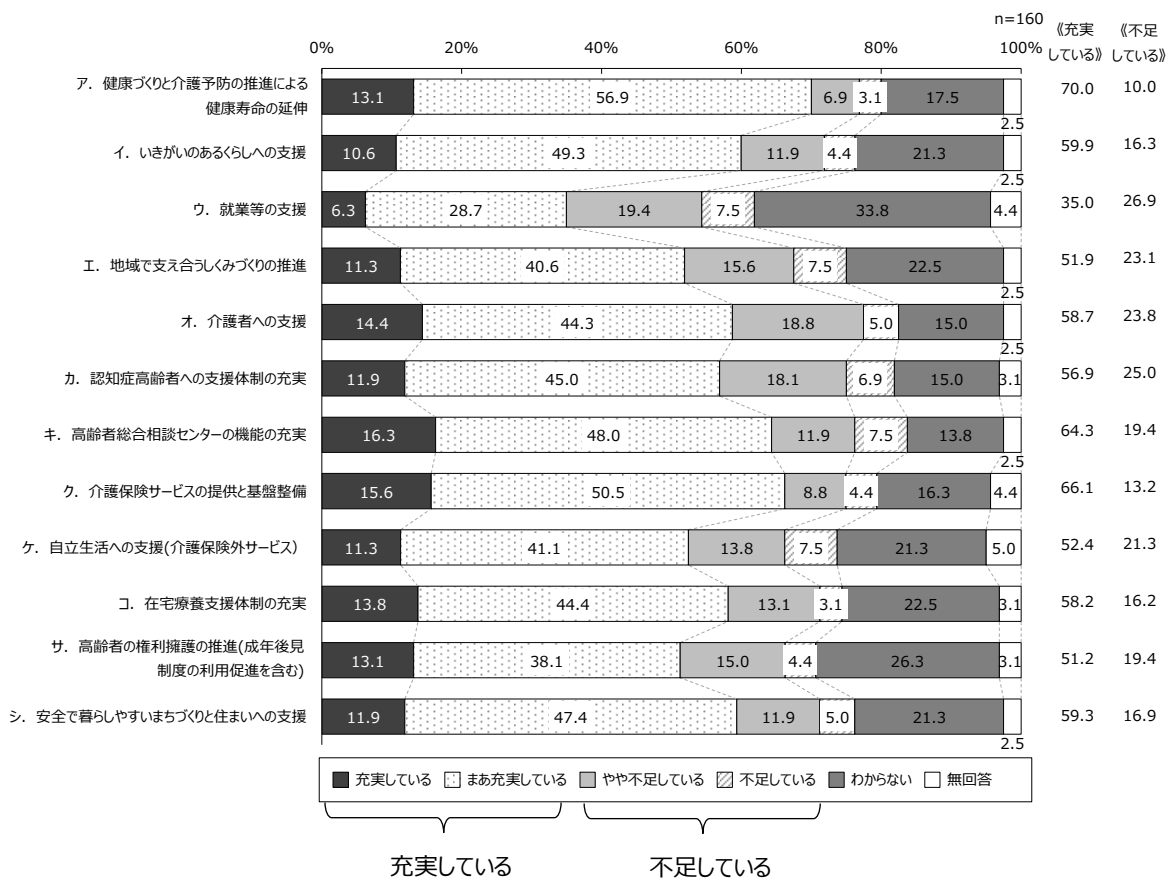
【図表 316】事業者の立場から区に対して望むこと



問39 事業者の立場からみて、新宿区の高齢者支援の状況をどうお考えですか。

事業者の立場からみた、新宿区の高齢者支援の状況については、「充実している」と「まあ充実している」を合わせた“充実している”は『ア. 健康づくりと介護予防の推進による健康寿命の延伸』が70.0%で最も多く、次いで『ク. 介護保険サービスの提供と基盤整備』が66.1%、『キ. 高齢者総合相談センターの機能の充実』が64.3%となっている。一方「やや不足している」と「不足している」を合わせた“不足している”は『ウ. 就業等の支援』が26.9%で最も多く、次いで『カ. 認知症高齢者への支援体制の充実』が25.0%、『オ. 介護者への支援』が23.8%となっている。

【図表 317】事業者の立場からみた、区の高齢者支援の状況



## 自由記述

問40 高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、ご要望・ご意見がありましたらご自由にお書きください。

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、回答があった主な意見は以下のとおり。

- ・高齢者よりも若年層の支援に注力してほしい。
- ・若者が多く行き交う所なので、若者が高齢者介護の理解を深める機会があると良いと思う。
- ・新宿区は施策としては揃っていると思うが、あと一步の踏み込みを期待したいところ。特に認知症高齢者を家族で支援する仕組みを充実させてほしい。
- ・組織が縦割りでどこに相談するのかわからなかったり、たらい回しにされることがある。

問41 今後の事業展開について、貴事業所のお考え、ご意見等がありましたらご自由にお書きください。

今後の事業展開について、回答があった主な意見は以下のとおり。

- ・利用者様を第一に考え、地域に信頼してもらえる事業所づくり。
- ・基本的には現在の事業所の質を高める（生産性を上げる）ことに注力したい。ノウハウができれば、ユニットを増やしたい。
- ・当事業所で提供しているサービスをもっと広め、健康寿命を延ばしていきたい。
- ・人員の確保がうまくできない為、より多くの利用者へサービス提供できるか不透明だ。
- ・事業展開として別の事業をということではなく、既存の事業をより充実させていくために、若干のスケールアップをしていきたい。
- ・店舗拡充も検討していたが、人材不足の問題がある。次世代の育成に力を入れる事を考えている。その為に若い世代へのアピールをHP、説明会等で行っていく必要があると考えている。
- ・事業収支の安定を図るため報酬増と事務労力の軽減をお願いしたい。
- ・膨大な量のアンケート記入に時間を割く事は苦痛。区の関係者はアンケートより、現場を知ってもらいたい。会議（机上）より現場の利用者に“実際に学ぶ事”が重要。



## 6 在宅介護実態調査

### 調査結果の留意点

- 報告書作成にあたり「厚生労働省老健局介護保険計画課 在宅介護実態調査自動集計分析ソフト」を用いて介護保険認定データと突合できた619人を母数として集計・分析を行った。
- 本文中の「サービスの利用回数」は、認定調査を行った月のサービスの利用回数または、認定調査を行った月の利用状況が通常の場合と異なる場合は、直近の月のサービス利用回数である。
- サービスの利用回数・組み合わせ等に着目した集計・分析に係る用語の定義は以下のとおりである。

#### <サービス利用の分析に用いた用語の定義>

用語	定義	
未利用	・「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみを利用している方については、「未利用」として集計している。	
訪問系	・（介護予防）訪問介護、（介護予防）訪問入浴介護、（介護予防）訪問看護、（介護予防）訪問リハビリテーション、（介護予防）居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護を「訪問系」として集計している。	
通所系	・（介護予防）通所介護、（介護予防）通所リハビリテーション、（介護予防）認知症対応型通所介護を「通所系」として集計している。	
短期系	・（介護予防）短期入所生活介護、（介護予防）短期入所療養介護を「短期系」として集計している。	
その他	小規模多機能	・（介護予防）小規模多機能型居宅介護を「小規模多機能」として集計している。
	看護多機能	・看護小規模多機能型居宅介護を「看護多機能」として集計している。
	定期巡回	・定期巡回・随時対応型訪問介護看護を「定期巡回」として集計している。

#### <サービス利用の組み合わせの分析に用いた用語の定義>

用語	定義
未利用	・上表に同じ
訪問系のみ	・上表の「訪問系」もしくは「定期巡回」のみの利用を集計している。
訪問系を含む 組み合わせ	・上表の「訪問系（もしくは定期巡回）」+「通所系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」+「短期系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」+「通所系」+「短期系」、「小規模多機能」、「看護多機能」の利用を集計している。
通所系・短期系のみ	・上表の「通所系」、「短期系」、「通所系」+「短期系」の利用を集計している。

※ 本報告書中、「1 調査結果の詳細（単純集計結果）」における「(8)障害高齢者の日常生活自立度」及び「(9)認知症高齢者の日常生活自立度」の合計値は、新型コロナウイルス感染症にかかる要介護認定の臨時的な取り扱いについて(令和2年2月18日厚生労働省老健局老人保健課事務連絡)により、一部認定調査を行っておらず、日常生活自立度が判定できないため、調査対象者619名とは一致しない。

6 在宅介護実態調査

< 障害高齢者の日常生活自立度 >

用語	説明	
J	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。	
	J 1	交通機関等を利用して外出する。
	J 2	隣近所へなら外出する。
A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。	
	A 1	介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。
	A 2	外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている。
B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ。	
	B 1	車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う。
	B 2	介助により車いすに移乗する。
C	1日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する。	
	C 1	自力で寝返りをうつ。
	C 2	自力では寝返りもうてない。

< 認知症高齢者の日常生活自立度 >

用語	説明	
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	
II	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
	II a	家庭外で上記IIの状態が見られる。
	II b	家庭内でも上記IIの状態が見られる。
III	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。	
	III a	日中を中心として上記IIIの状態が見られる。
	III b	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる。
IV	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	

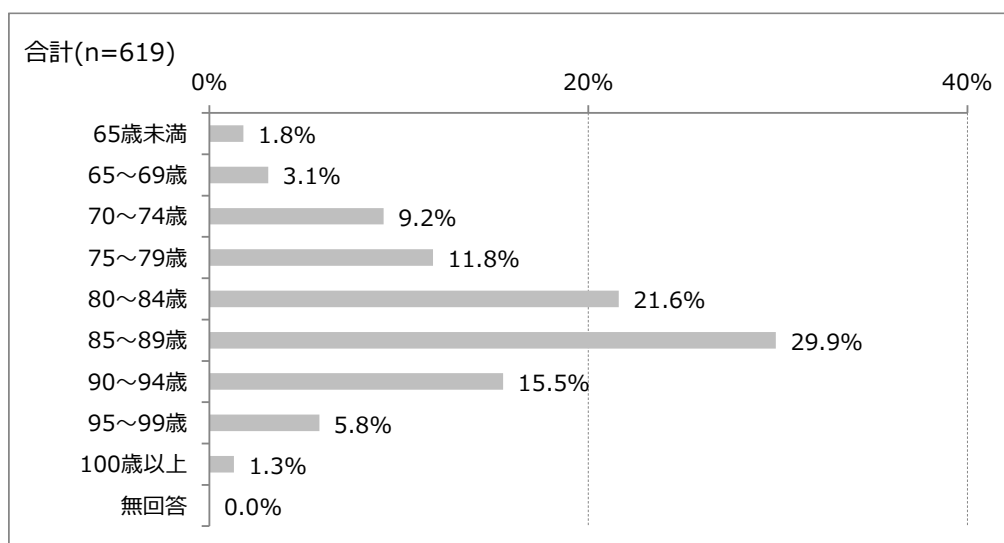
## 1 調査結果の詳細(単純集計結果)

### 要介護認定データ

#### (1) 年齢

調査対象者の年齢は、「85～89歳」の割合が最も高く29.9%となっている。次いで、「80～84歳 (21.6%)」、「90～94歳 (15.5%)」となっている。

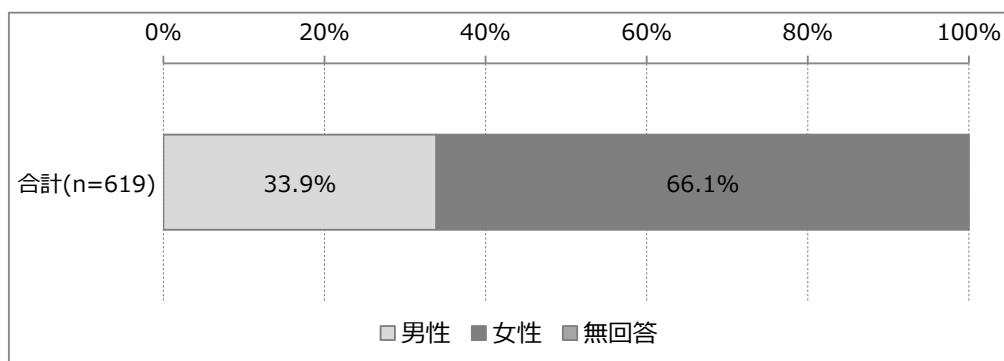
【図表 318】 年齢



#### (2) 性別

「男性」33.9%、「女性」66.1%となっている。

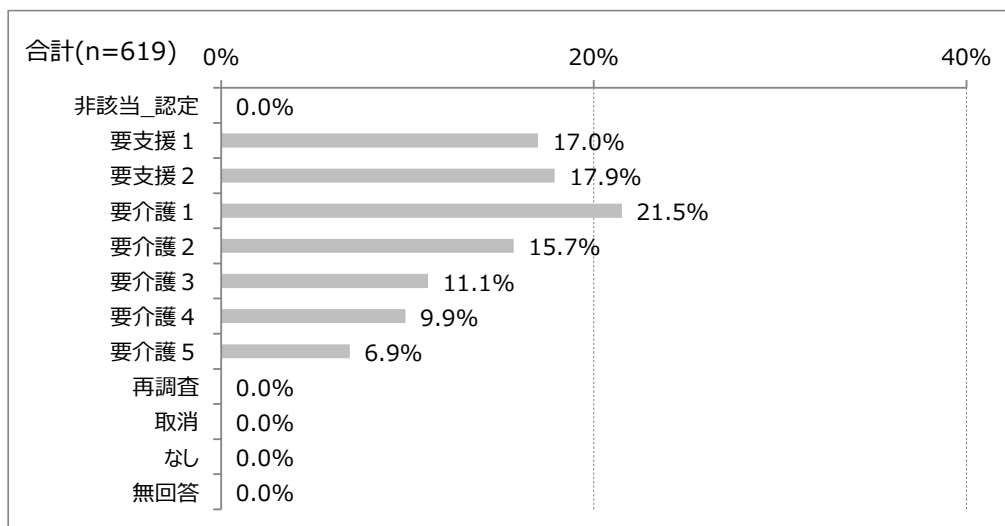
【図表 319】 性別



### (3) 二次判定結果(要介護度)

「要介護1」の割合が最も高く21.5%となっている。次いで、「要支援2（17.9%）」、「要支援1（17.0%）」となっている。

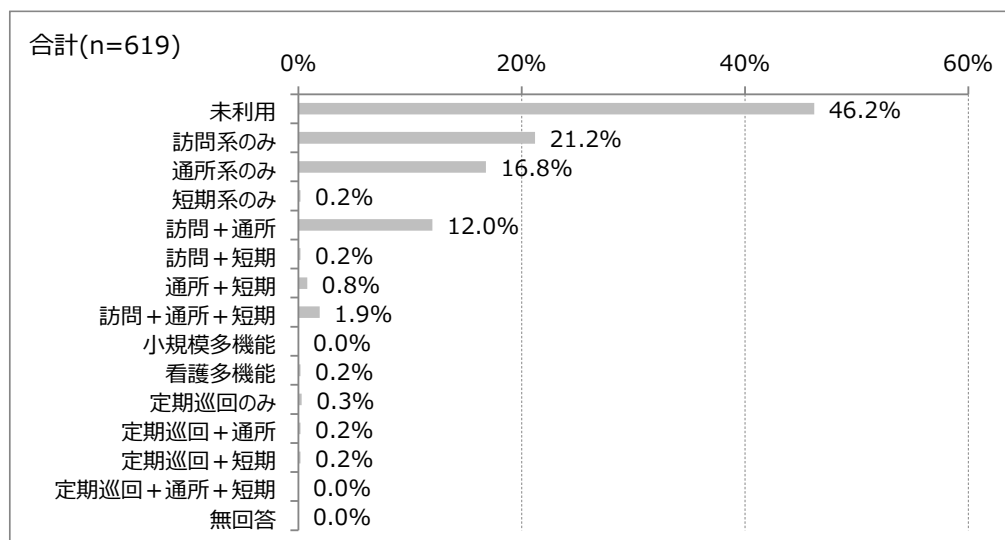
【図表 320】 要介護度



### (4) サービス利用の組み合わせ

「未利用」の割合が最も高く46.2%となっている。次いで、「訪問系のみ（21.2%）」、「通所系のみ（16.8%）」となっている。

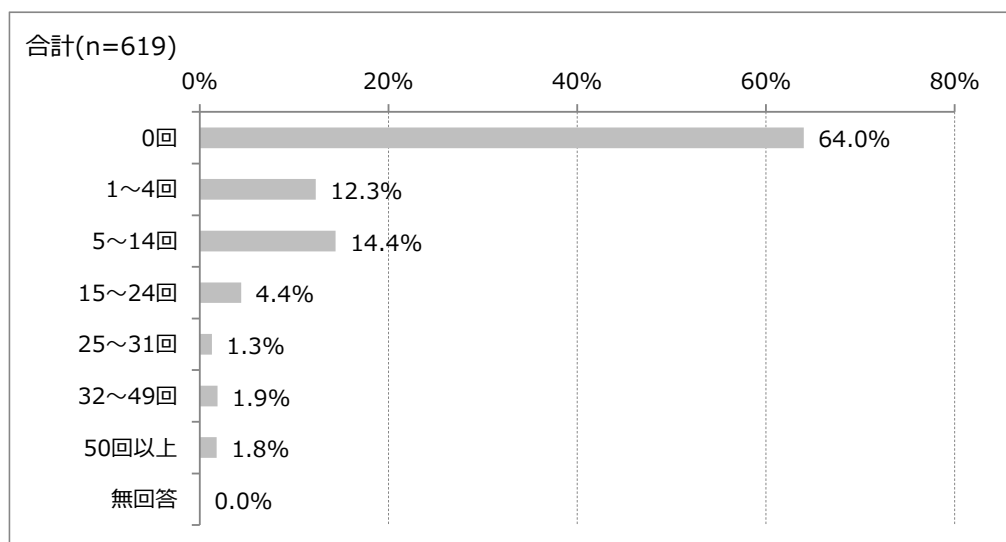
【図表 321】 サービス利用の組み合わせ



### (5) 訪問系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く64.0%となっている。次いで、「5～14回(14.4%)」、「1～4回(12.3%)」となっている。

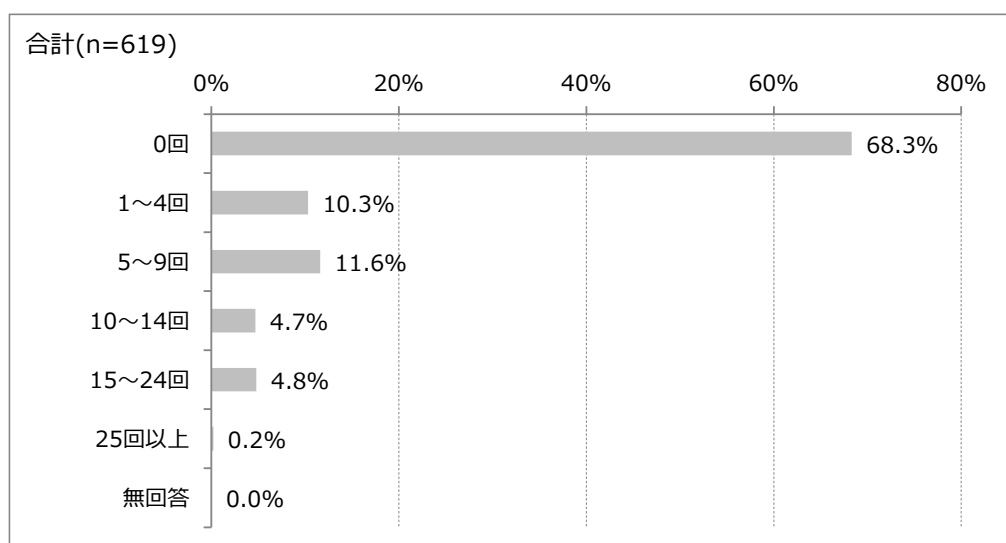
【図表 322】 サービスの利用回数（訪問系）



### (6) 通所系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く68.3%となっている。次いで、「5～9回(11.6%)」、「1～4回(10.3%)」となっている。

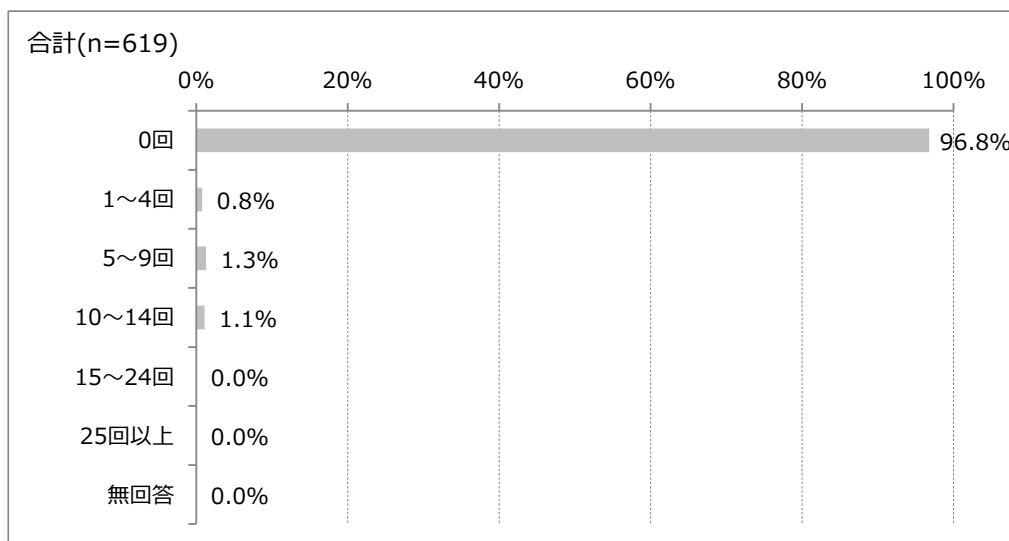
【図表 323】 サービスの利用回数（通所系）



(7) 短期系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く96.8%となっている。次いで、「5～9回(1.3%)」、「10～14回(1.1%)」となっている。

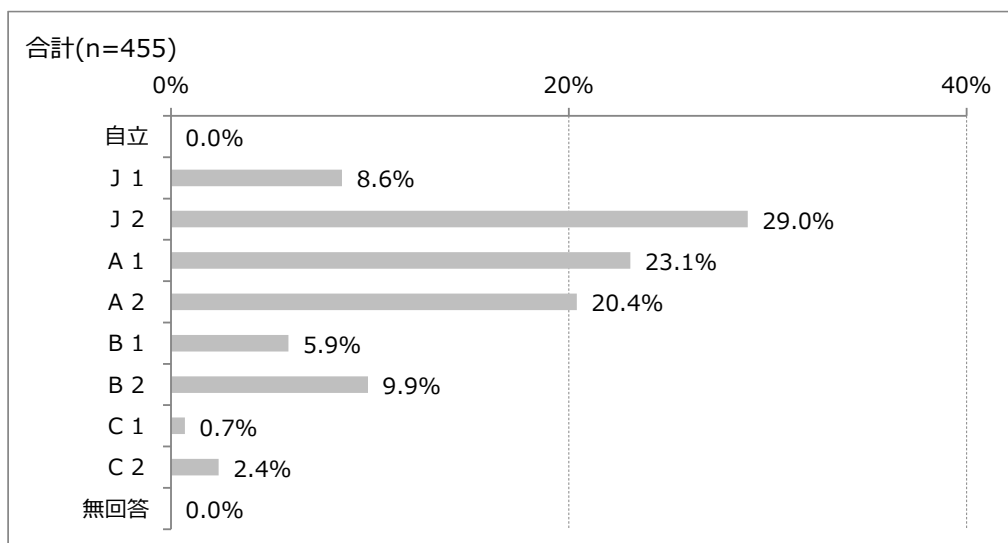
【図表 324】 サービスの利用回数（短期系）



(8) 障害高齢者の日常生活自立度

「J 2」の割合が最も高く29.0%となっている。次いで、「A 1 (23.1%)」、「A 2 (20.4%)」となっている。

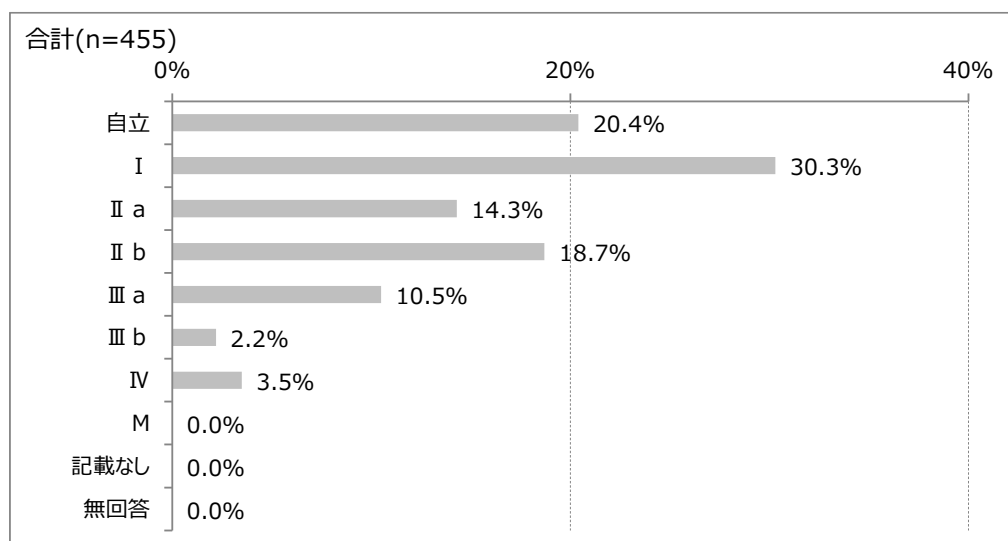
【図表 325】 障害高齢者の日常生活自立度



### (9) 認知症高齢者の日常生活自立度

「I」の割合が最も高く30.3%となっている。次いで、「自立（20.4%）」、「II b（18.7%）」となっている。

【図表 326】 認知症高齢者の日常生活自立度

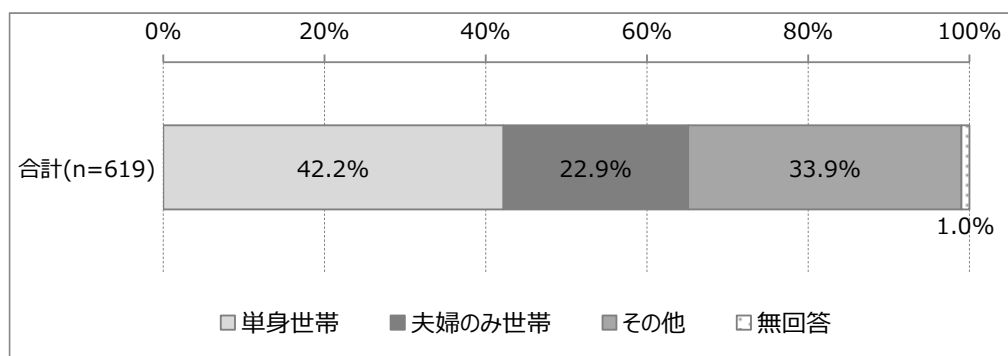


基本調査項目（A票）

(1) 世帯類型

「単身世帯」の割合が最も高く42.2%となっている。次いで、「その他（33.9%）」、「夫婦のみ世帯（22.9%）」となっている。

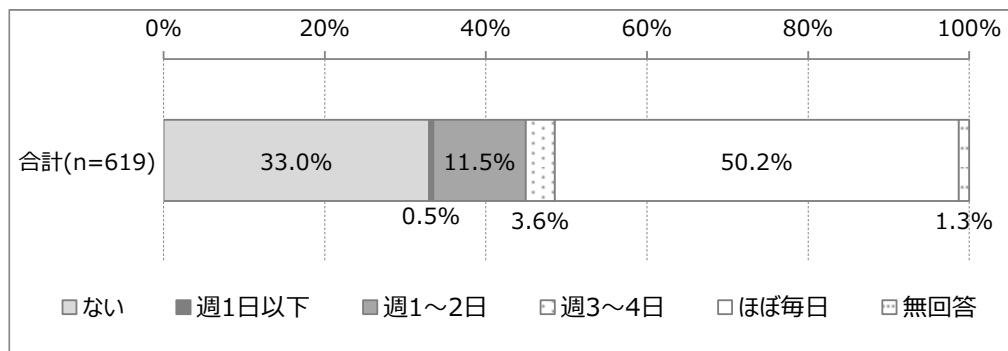
【図表 327】 世帯類型



(2) 家族等による介護の頻度

「ほぼ毎日」の割合が最も高く50.2%となっている。次いで、「ない（33.0%）」、「週1～2日（11.5%）」となっている。

【図表 328】 家族等による介護の頻度

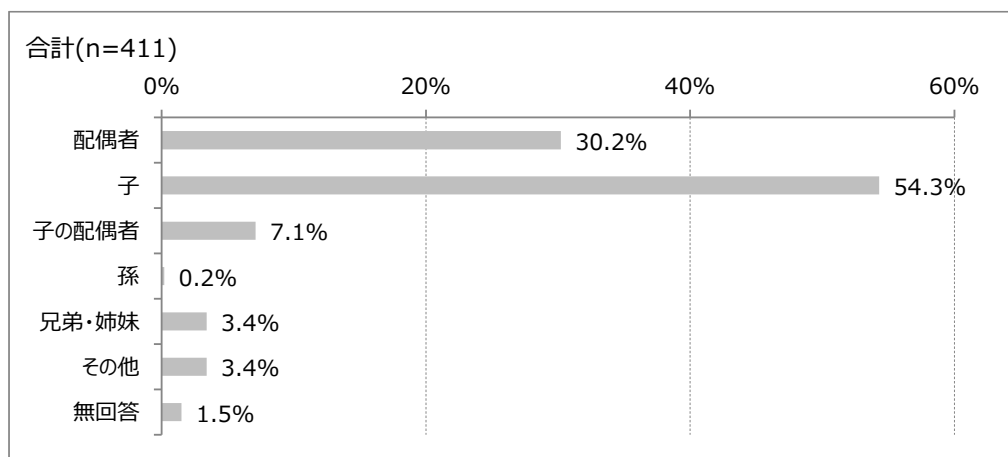




### (3) 主な介護者の本人との関係

「子」の割合が最も高く54.3%となっている。次いで、「配偶者(30.2%)」、「子の配偶者(7.1%)」となっている。

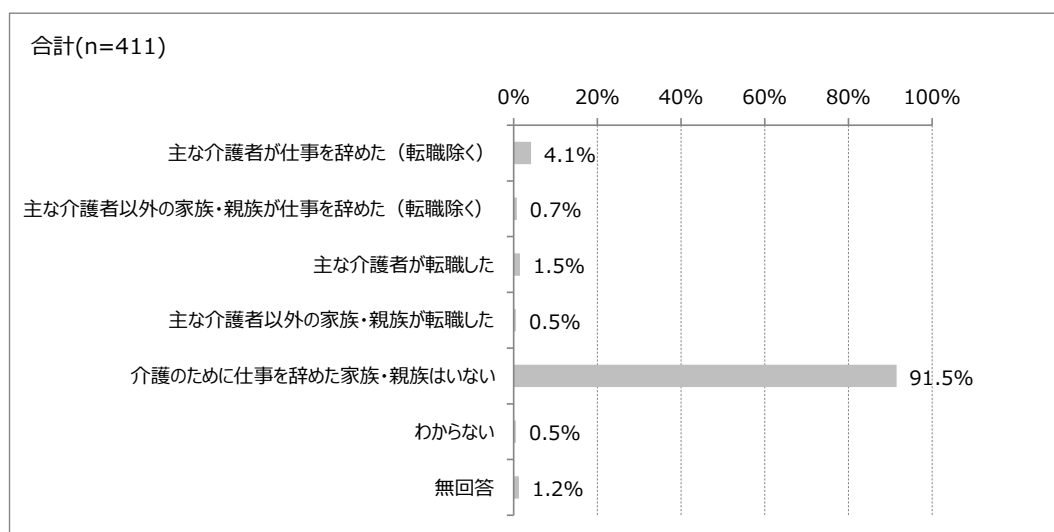
【図表 329】 主な介護者の本人との関係



### (4) 介護のための離職の有無(複数回答)

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く91.5%となっている。次いで、「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)(4.1%)」、「主な介護者が転職した(1.5%)」となっている。

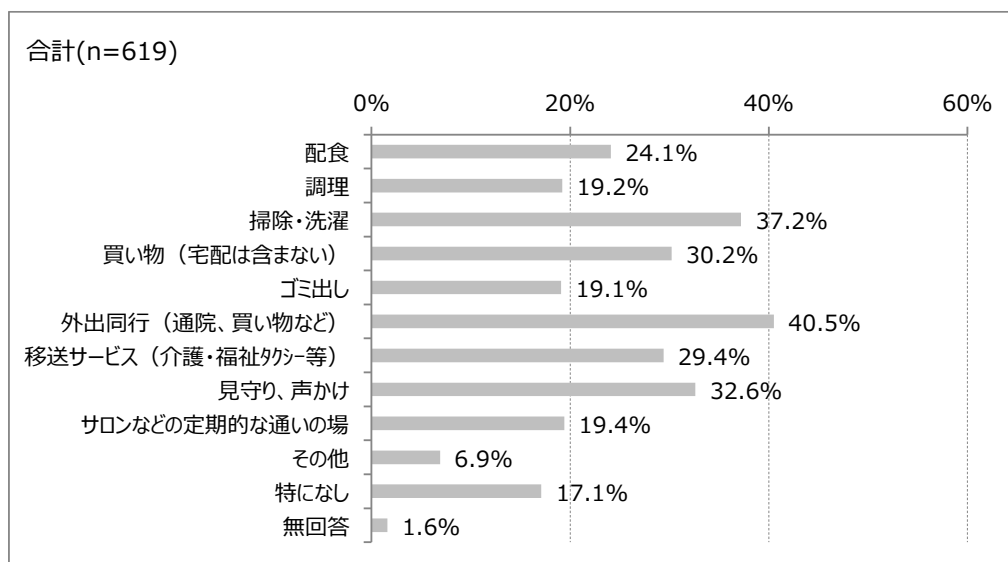
【図表 330】 介護のための離職の有無



(5) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス(複数回答)

「外出同行（通院、買い物など）」の割合が最も高く40.5%となっている。次いで、「掃除・洗濯（37.2%）」、「見守り、声かけ（32.6%）」となっている。

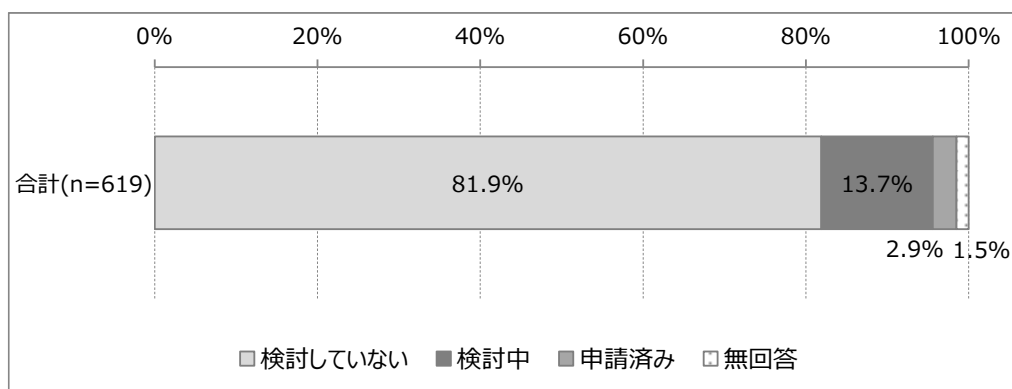
【図表 331】在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス



(6) 施設等検討の状況

「検討していない」の割合が最も高く81.9%となっている。次いで、「検討中（13.7%）」、「申請済み（2.9%）」となっている。

【図表 332】施設等検討の状況

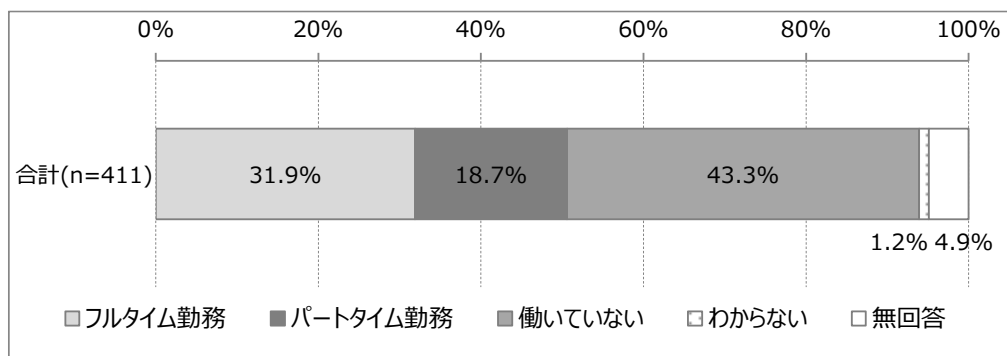


## 主な介護者様用の調査項目（B票）

### (1) 主な介護者の勤務形態

「働いていない」の割合が最も高く43.3%となっている。次いで、「フルタイム勤務(31.9%)」、「パートタイム勤務(18.7%)」となっている。

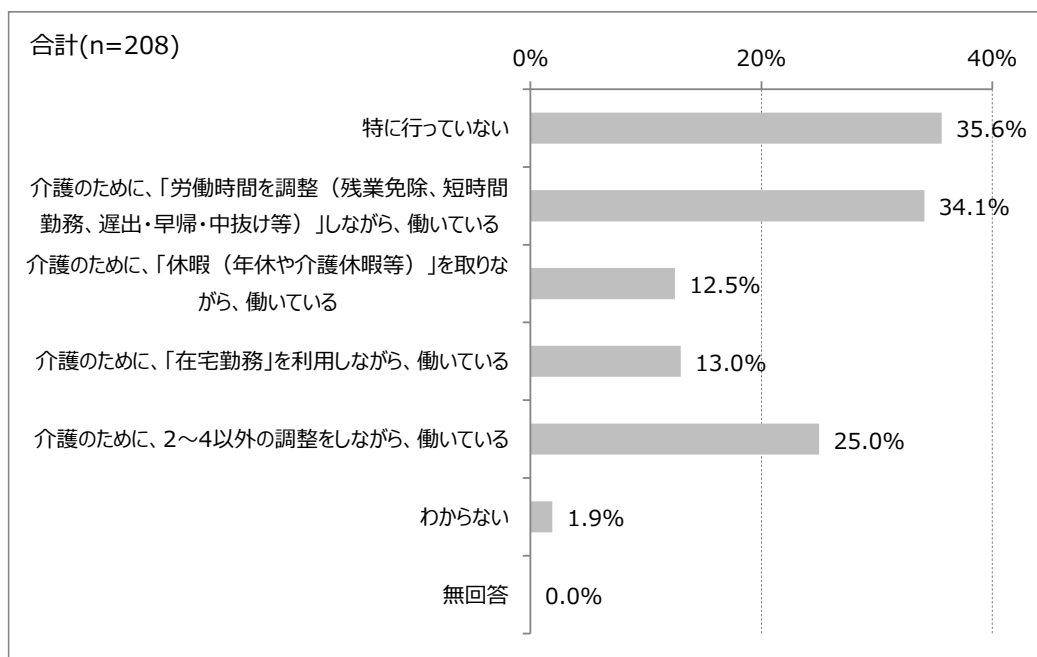
【図表 333】 主な介護者の勤務形態



### (2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況(複数回答)

「特に行っていない」の割合が最も高く35.6%となっている。次いで、「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている(34.1%)」、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている(25.0%)」となっている。

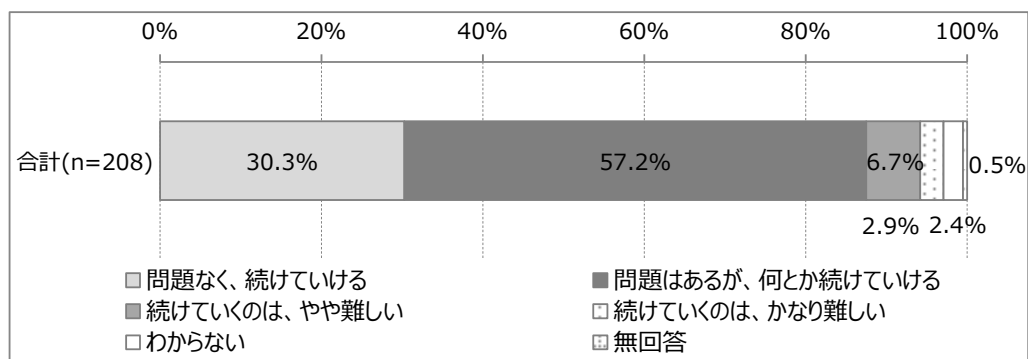
【図表 334】 主な介護者の働き方の調整状況



### (3) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高く57.2%となっている。次いで、「問題なく、続けていける (30.3%)」、「続けていくのは、やや難しい (6.7%)」となっている。

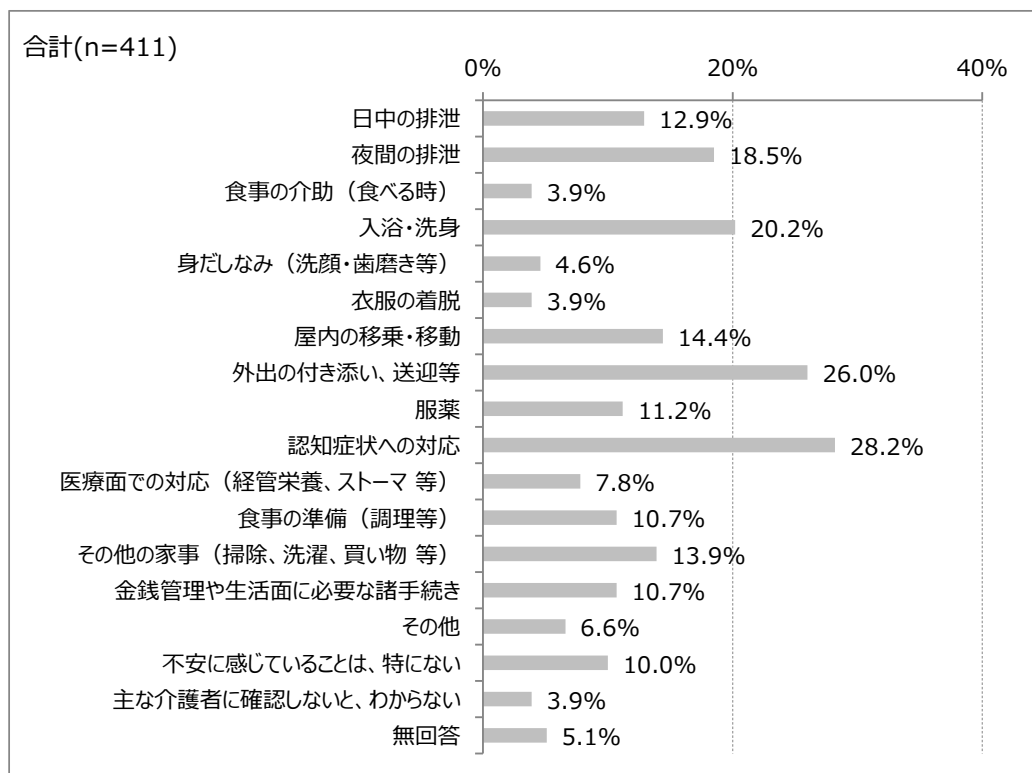
【図表 335】 主な介護者の就労継続の可否に係る意識



### (4) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護(複数回答)

「認知症状への対応」の割合が最も高く28.2%となっている。次いで、「外出の付き添い、送迎等 (26.0%)」、「入浴・洗身 (20.2%)」となっている。

【図表 336】 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護



## 2 調査結果の詳細(クロス集計結果)

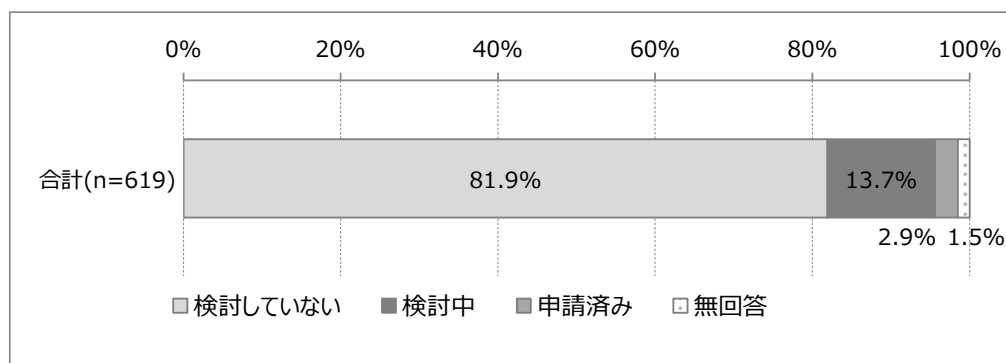
### 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

#### (1) 基礎集計

##### 【施設等検討の状況】

「検討していない」の割合が最も高く81.9%となっている。次いで、「検討中（13.7%）」、「申請済み（2.9%）」となっている。

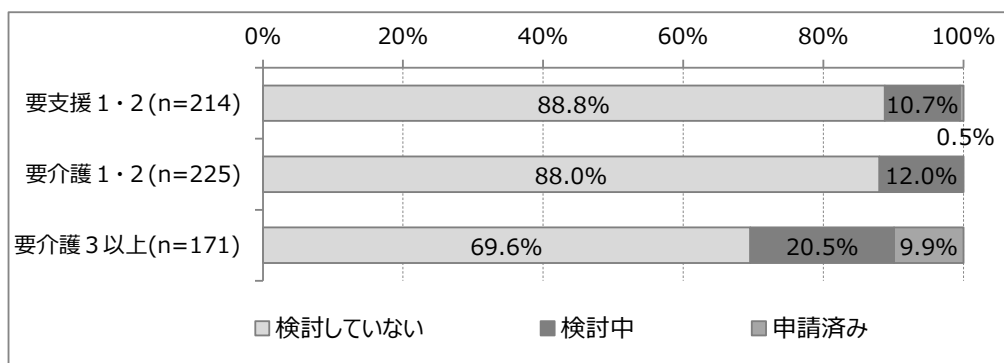
【図表 337】施設等検討の状況



##### 【要介護度別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を二次判定結果(要介護度)別にみると、『要支援1・2』では「検討していない」が88.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が10.7%となっている。『要介護1・2』では「検討していない」が88.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が12.0%となっている。『要介護3以上』では「検討していない」が69.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が20.5%となっている。

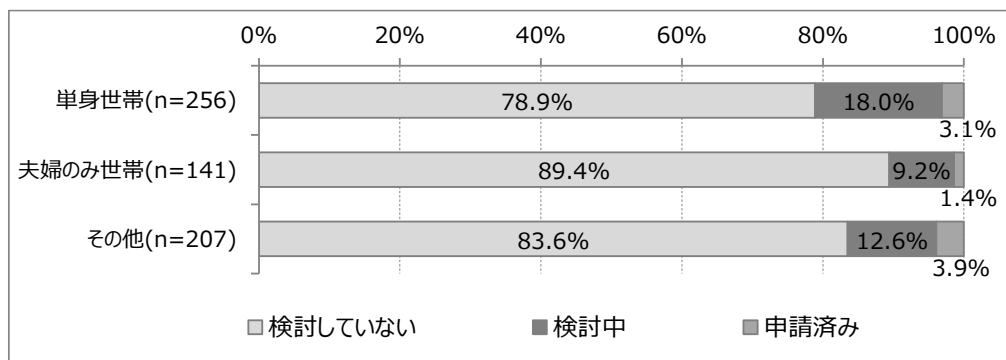
【図表 338】要介護度別・施設等検討の状況



### 【世帯類型別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、『単身世帯』では「検討していない」が78.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が18.0%となっている。『夫婦のみ世帯』では「検討していない」が89.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が9.2%となっている。『その他』では「検討していない」が83.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が12.6%となっている。

【図表 339】世帯類型別・施設等検討の状況

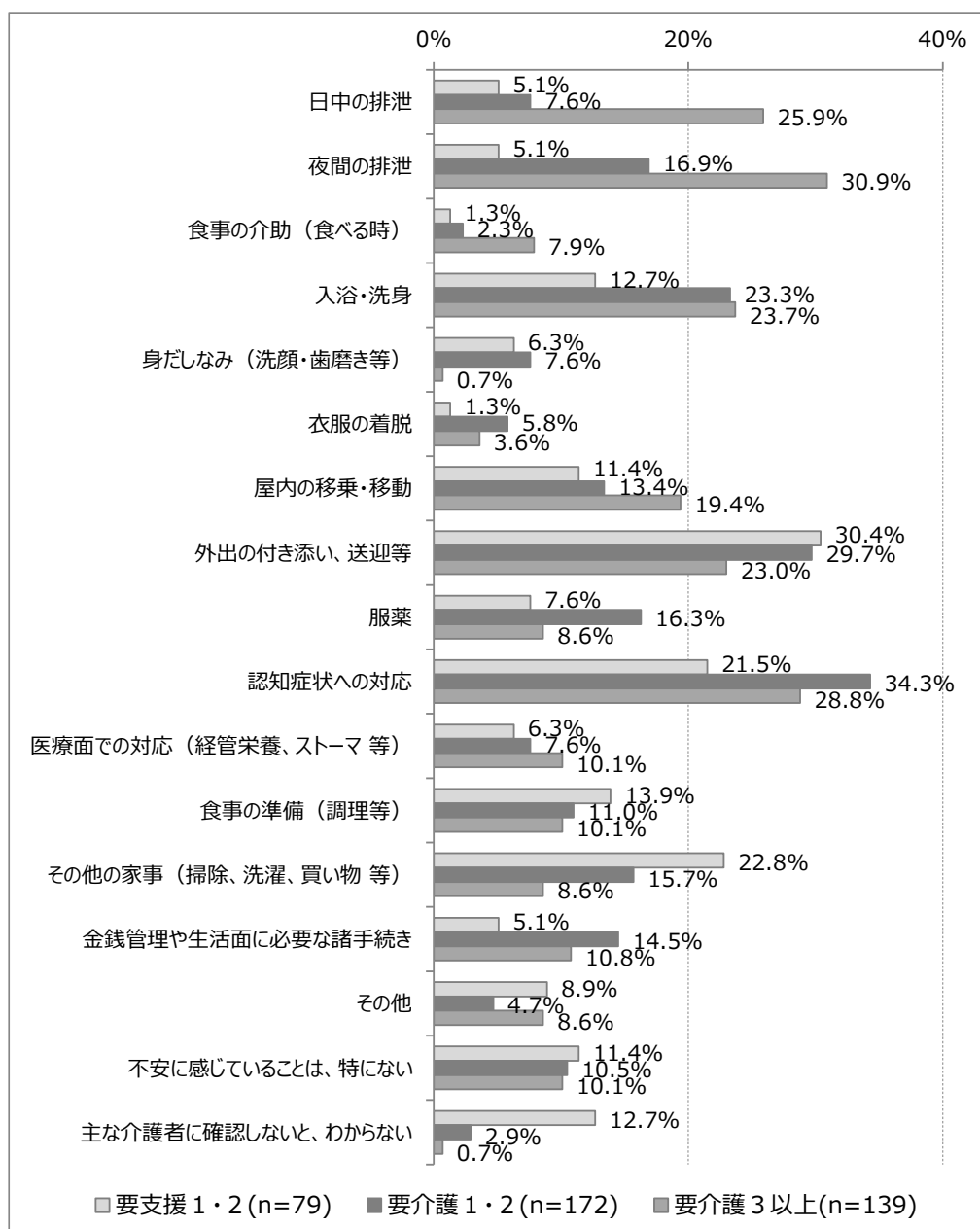


## (2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安を感じる介護」の変化

### 【要介護度別・介護者が不安を感じる介護】

介護者が不安を感じる介護を二次判定結果(要介護度)別にみると、『要支援1・2』では「外出の付き添い、送迎等」が30.4%と最も割合が高く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が22.8%となっている。『要介護1・2』では「認知症状への対応」が34.3%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が29.7%となっている。『要介護3以上』では「夜間の排泄」が30.9%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が28.8%となっている。

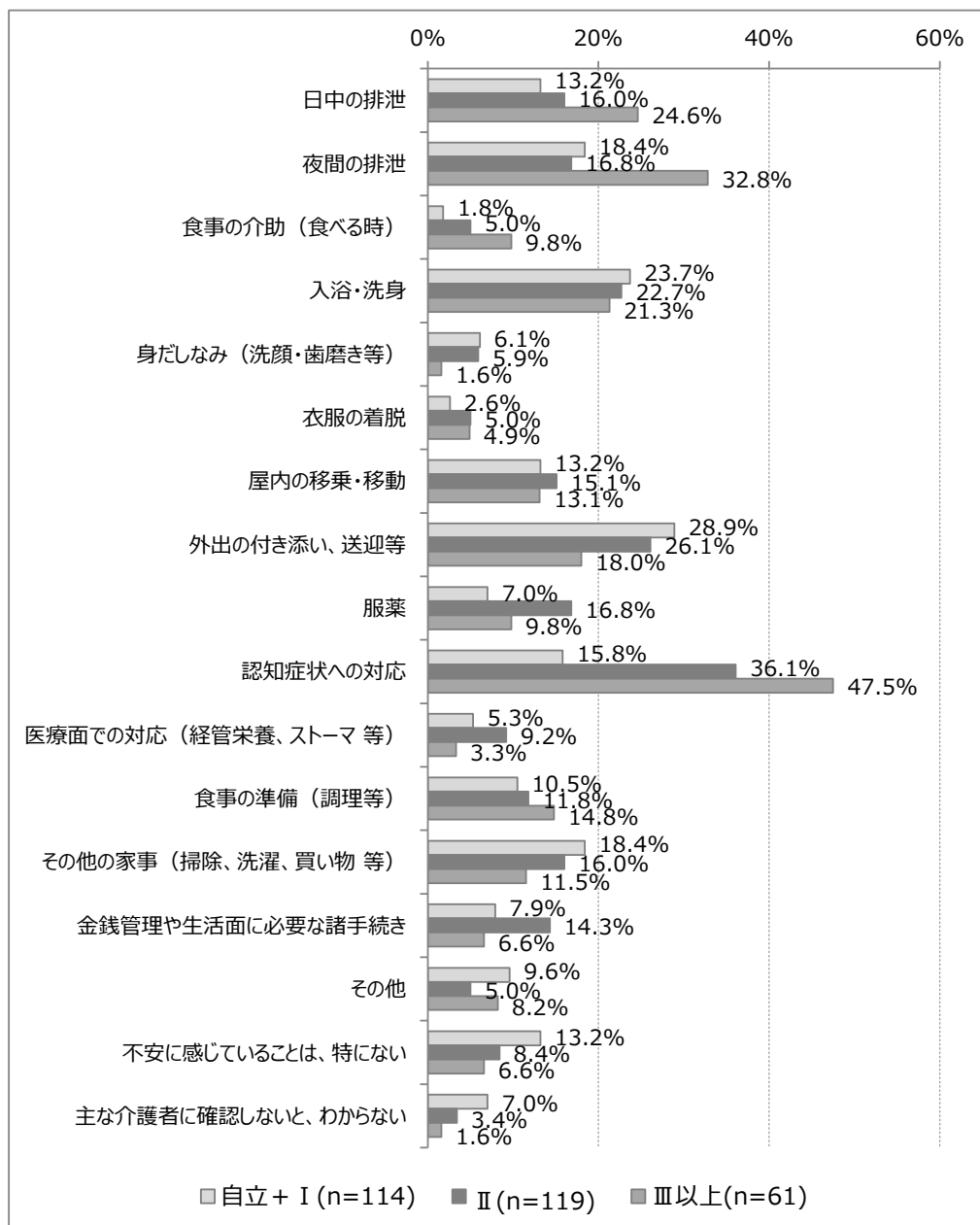
【図表 340】 要介護度別・介護者が不安を感じる介護



## 【認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を認知症高齢者自立度別にみると、『自立+ I』では「外出の付き添い、送迎等」が28.9%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が23.7%となっている。『II』では「認知症状への対応」が36.1%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が26.1%となっている。『III以上』では「認知症状への対応」が47.5%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が32.8%となっている。

【図表 341】 認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護

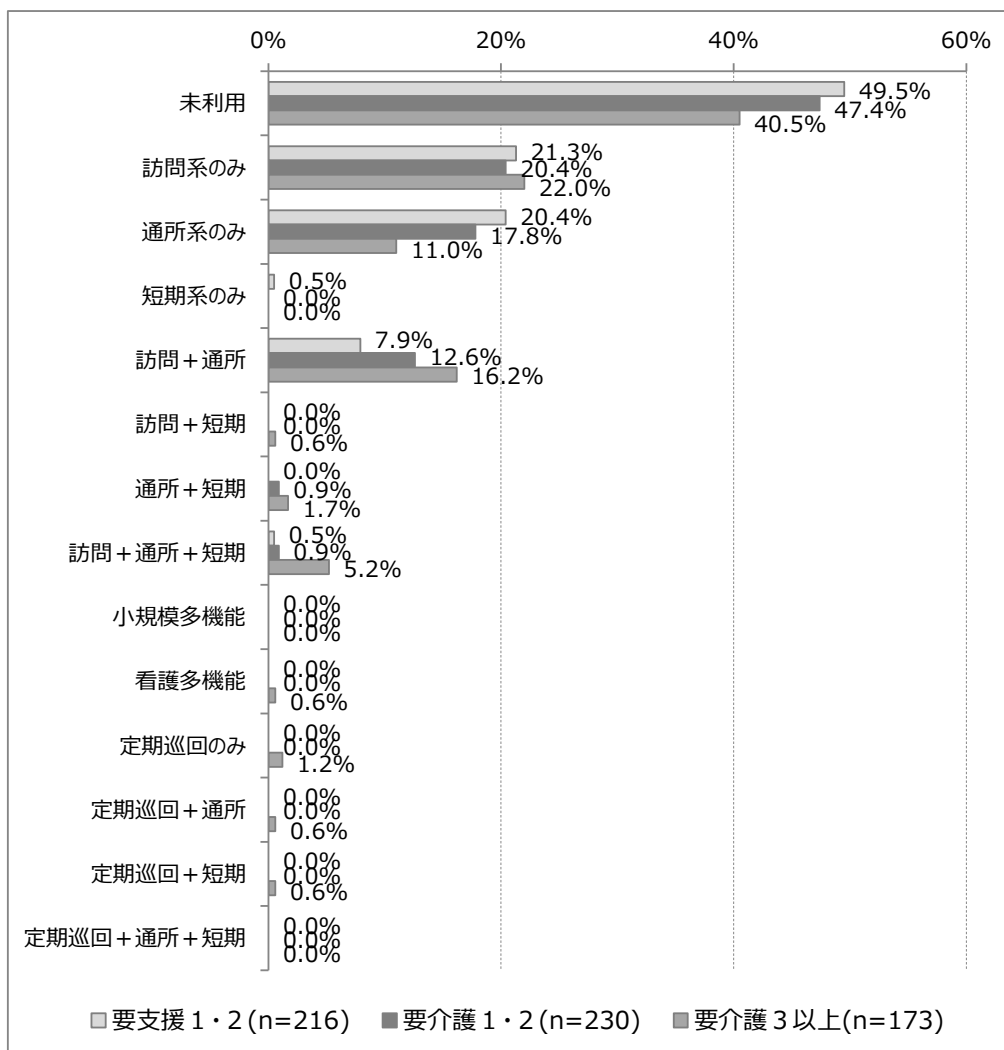




### (3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化 【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果(要介護度)別にみると、『要支援1・2』では「未利用」が49.5%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が21.3%となっている。『要介護1・2』では「未利用」が47.4%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が20.4%となっている。『要介護3以上』では「未利用」が40.5%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が22.0%となっている。

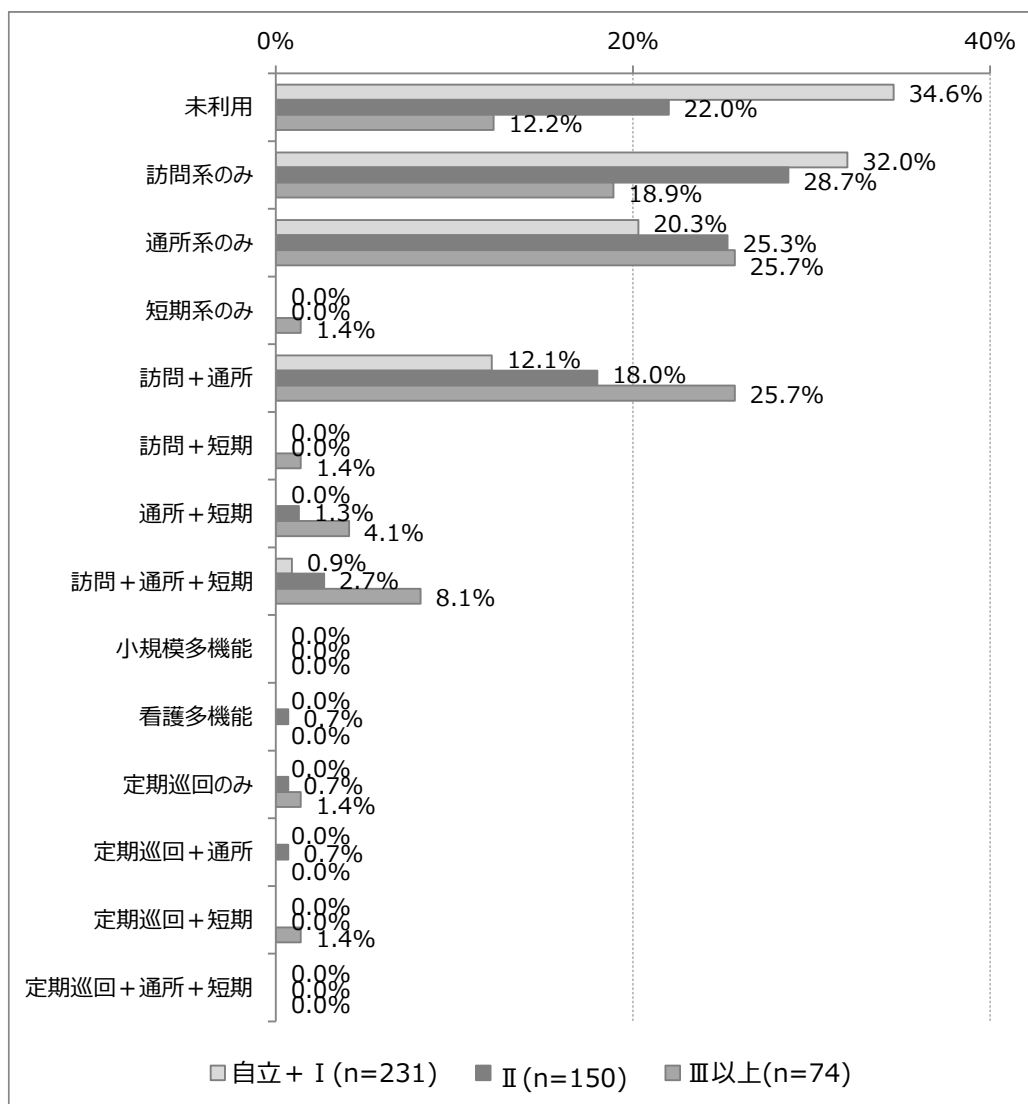
【図表 342】 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



## 【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、『自立+ I』では「未利用」が34.6%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が32.0%となっている。『II』では「訪問系のみ」が28.7%と最も割合が高く、次いで「通所系のみ」が25.3%となっている。『III以上』では「通所系のみ」、「訪問+通所」が25.7%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が18.9%となっている。

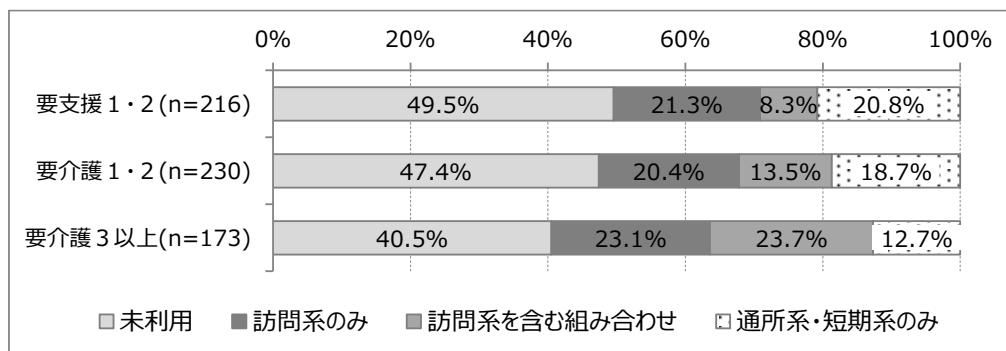
【図表 343】 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



### 【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果(要介護度)別にみると、『要支援1・2』では「未利用」が49.5%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が21.3%となっている。『要介護1・2』では「未利用」が47.4%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が20.4%となっている。『要介護3以上』では「未利用」が40.5%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が23.7%となっている。

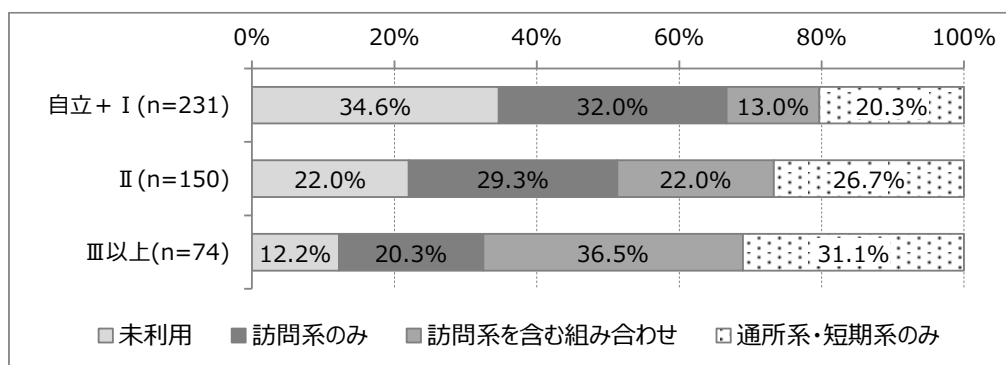
【図表 344】 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



### 【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、『自立+I』では「未利用」が34.6%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が32.0%となっている。『II』では「訪問系のみ」が29.3%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が26.7%となっている。『III以上』では「訪問系を含む組み合わせ」が36.5%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が31.1%となっている。

【図表 345】 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ

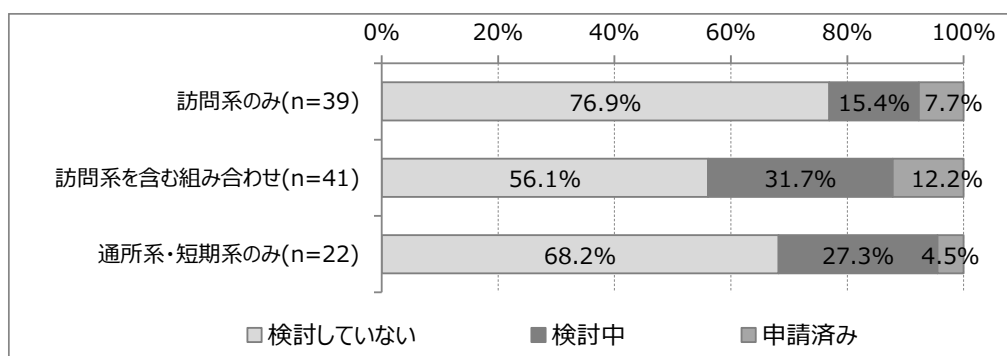


## (4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

## 【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護3以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、『訪問系のみ』では「検討していない」が76.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が15.4%となっている。『訪問系を含む組み合わせ』では「検討していない」が56.1%と最も割合が高く、次いで「検討中」が31.7%となっている。『通所系・短期系のみ』では「検討していない」が68.2%と最も割合が高く、次いで「検討中」が27.3%となっている。

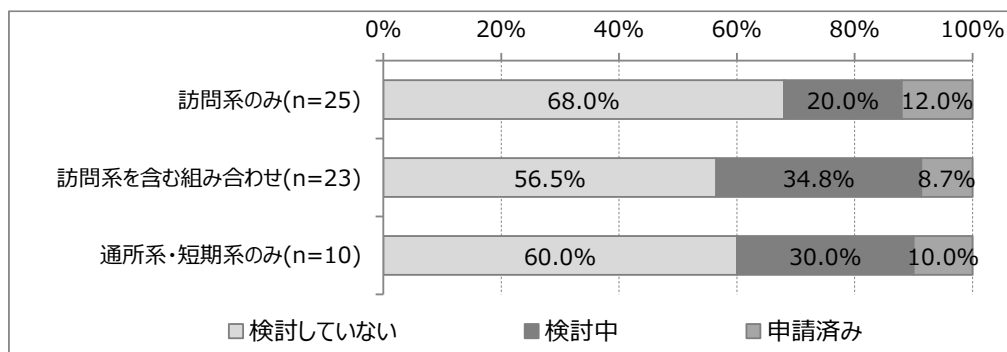
【図表 346】 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



## 【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護4以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、『訪問系のみ』では「検討していない」が68.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が20.0%となっている。『訪問系を含む組み合わせ』では「検討していない」が56.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が34.8%となっている。『通所系・短期系のみ』では「検討していない」が60.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が30.0%となっている。

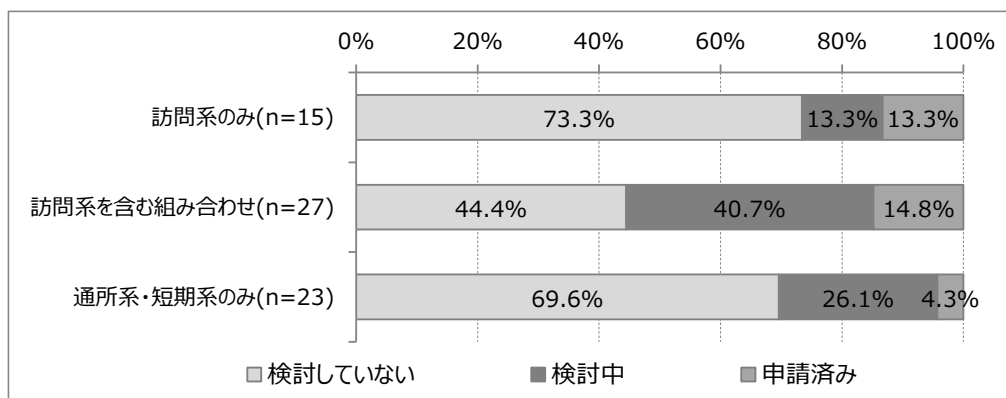
【図表 347】 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



### 【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、『訪問系のみ』では「検討していない」が73.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が13.3%となっている。『訪問系を含む組み合わせ』では「検討していない」が44.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が40.7%となっている。『通所系・短期系のみ』では「検討していない」が69.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が26.1%となっている。

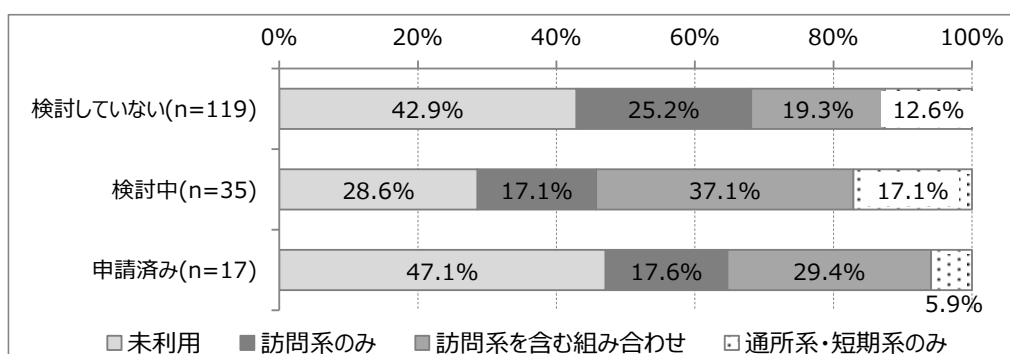
【図表 348】 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



### 【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護3以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、『検討していない』では「未利用」が42.9%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が25.2%となっている。『検討中』では「訪問系を含む組み合わせ」が37.1%と最も割合が高く、次いで「未利用」が28.6%となっている。『申請済み』では「未利用」が47.1%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が29.4%となっている。

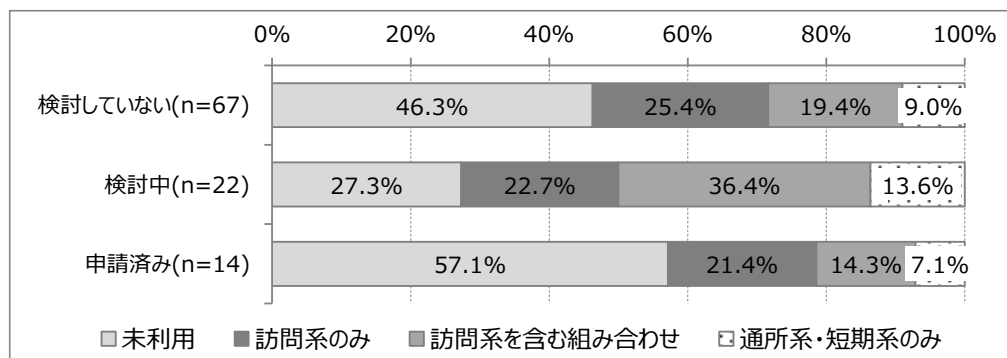
【図表 349】 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



## 【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護4以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、『検討していない』では「未利用」が46.3%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が25.4%となっている。『検討中』では「訪問系を含む組み合わせ」が36.4%と最も割合が高く、次いで「未利用」が27.3%となっている。『申請済み』では「未利用」が57.1%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が21.4%となっている。

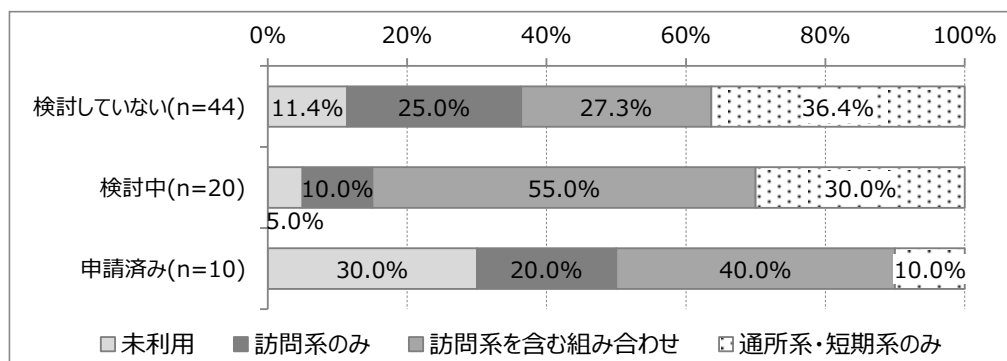
【図表 350】 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



## 【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(認知症Ⅲ以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、『検討していない』では「通所系・短期系のみ」が36.4%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が27.3%となっている。『検討中』では「訪問系を含む組み合わせ」が55.0%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が30.0%となっている。『申請済み』では「訪問系を含む組み合わせ」が40.0%と最も割合が高く、次いで「未利用」が30.0%となっている。

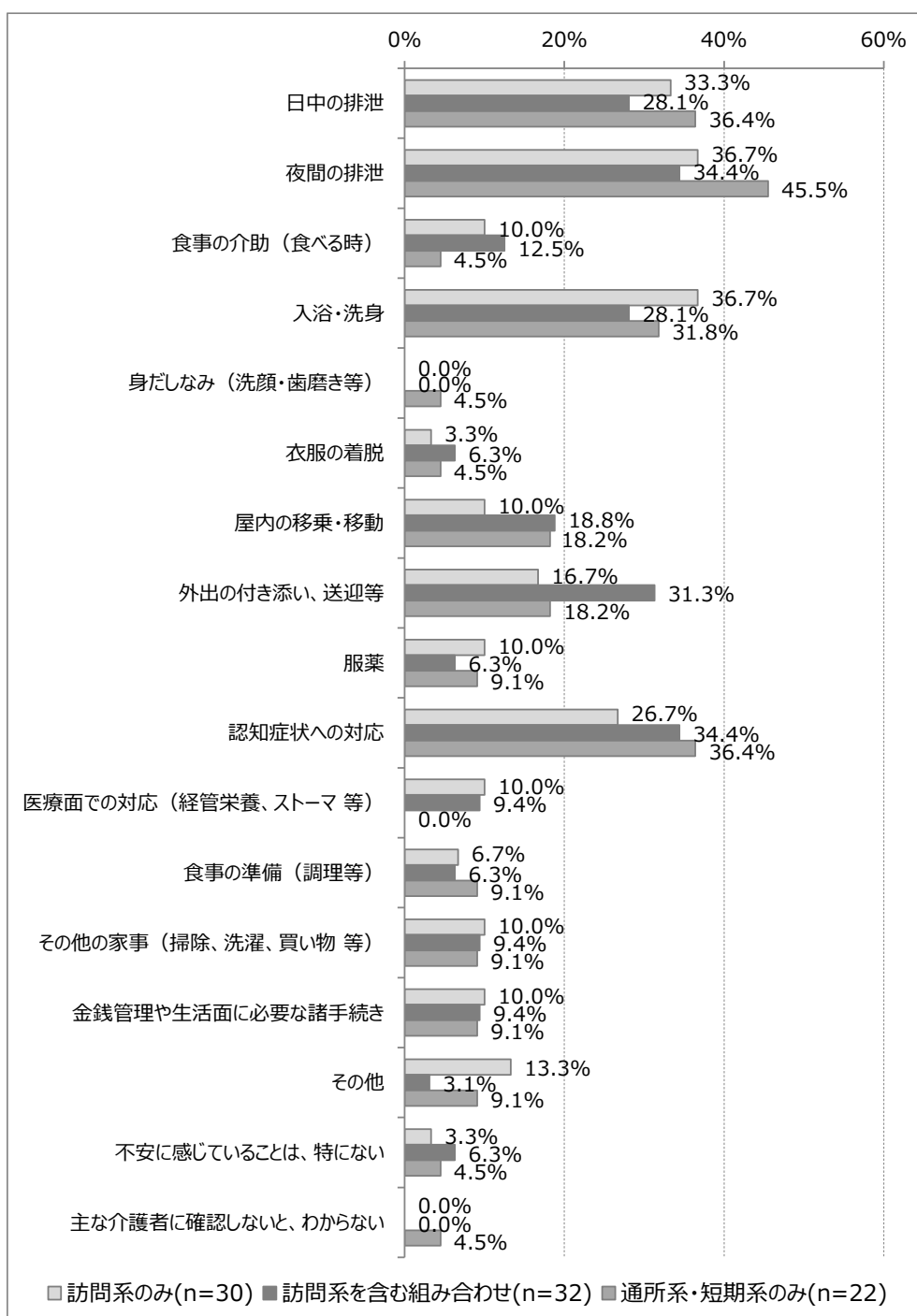
【図表 351】 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係  
 【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護(要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、『訪問系のみ』では「夜間の排泄」、「入浴・洗身」が36.7%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が33.3%となっている。『訪問系を含む組み合わせ』では「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が34.4%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が31.3%となっている。『通所系・短期系のみ』では「夜間の排泄」が45.5%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「認知症状への対応」が36.4%となっている。

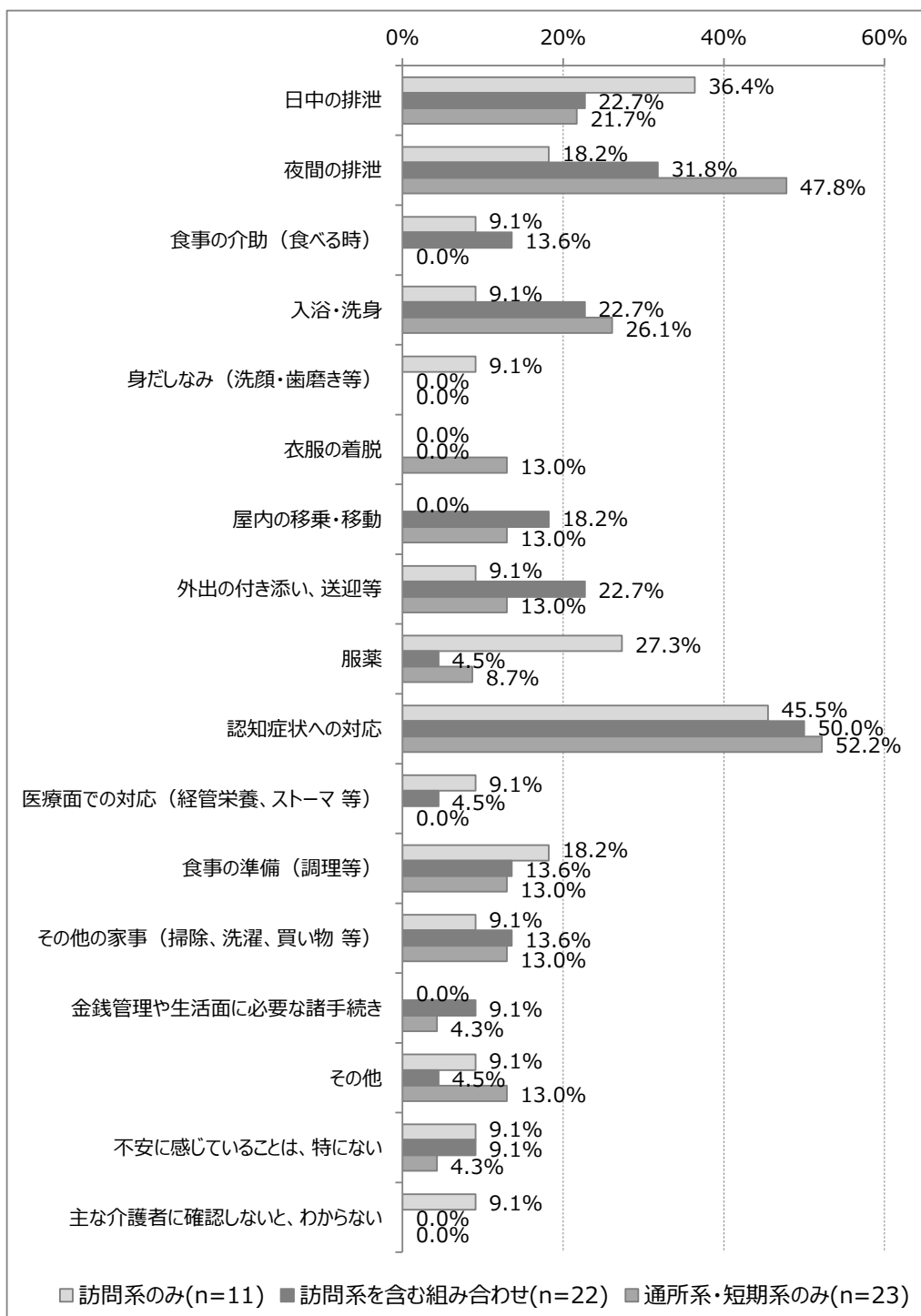
【図表 352】 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）



【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護(認知症Ⅲ以上)】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、『訪問系のみ』では「認知症状への対応」が45.5%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が36.4%となっている。『訪問系を含む組み合わせ』では「認知症状への対応」が50.0%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が31.8%となっている。『通所系・短期系のみ』では「認知症状への対応」が52.2%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が47.8%となっている。

【図表 353】 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）



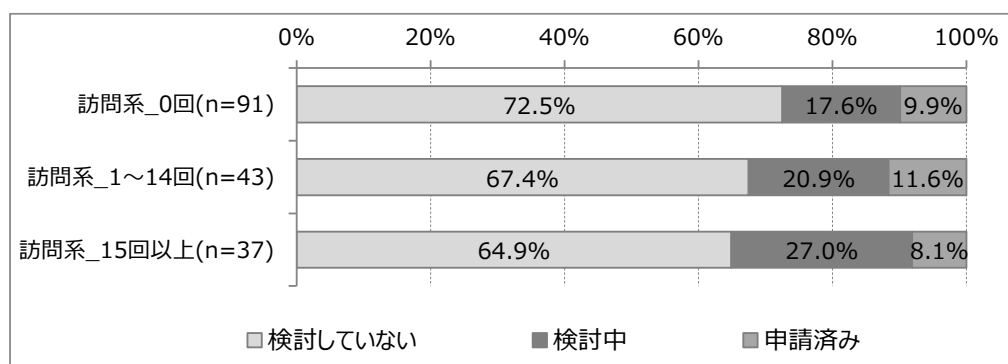


## (6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係

## 【サービス利用回数と施設等検討の状況(訪問系、要介護3以上)】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、『訪問系\_0回』では「検討していない」が72.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が17.6%となっている。『訪問系\_1～14回』では「検討していない」が67.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が20.9%となっている。『訪問系\_15回以上』では「検討していない」が64.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が27.0%となっている。

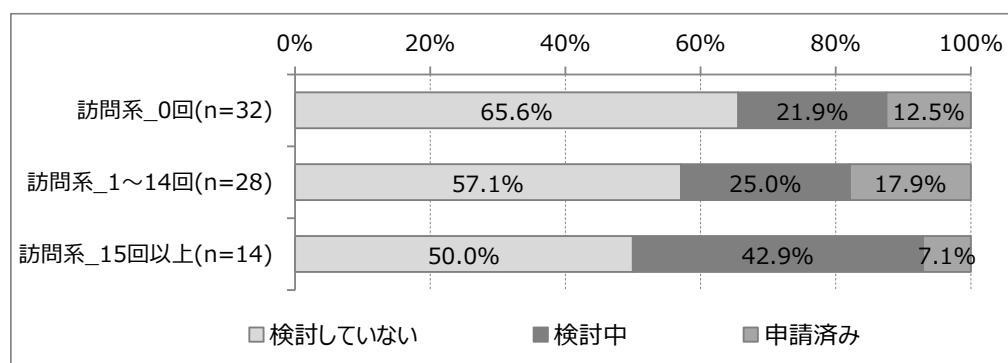
【図表 354】 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）



## 【サービス利用回数と施設等検討の状況(訪問系、認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、『訪問系\_0回』では「検討していない」が65.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が21.9%となっている。『訪問系\_1～14回』では「検討していない」が57.1%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.0%となっている。『訪問系\_15回以上』では「検討していない」が50.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が42.9%となっている。

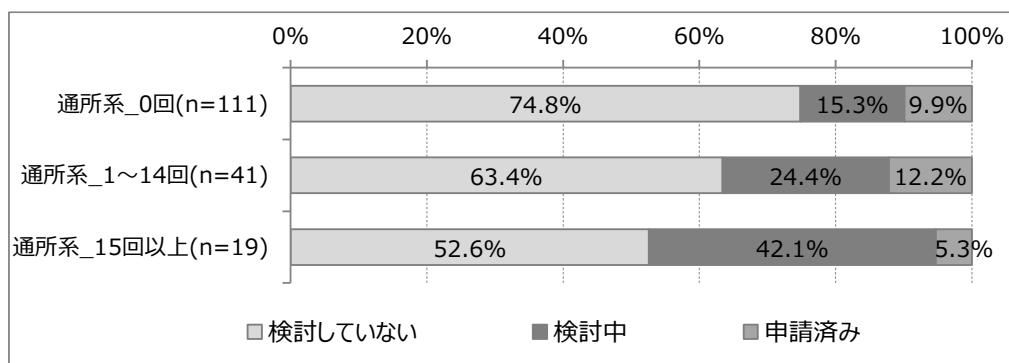
【図表 355】 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症Ⅲ以上）



### 【サービス利用回数と施設等検討の状況(通所系、要介護3以上)】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、『通所系\_0回』では「検討していない」が74.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が15.3%となっている。『通所系\_1～14回』では「検討していない」が63.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が24.4%となっている。『通所系\_15回以上』では「検討していない」が52.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が42.1%となっている。

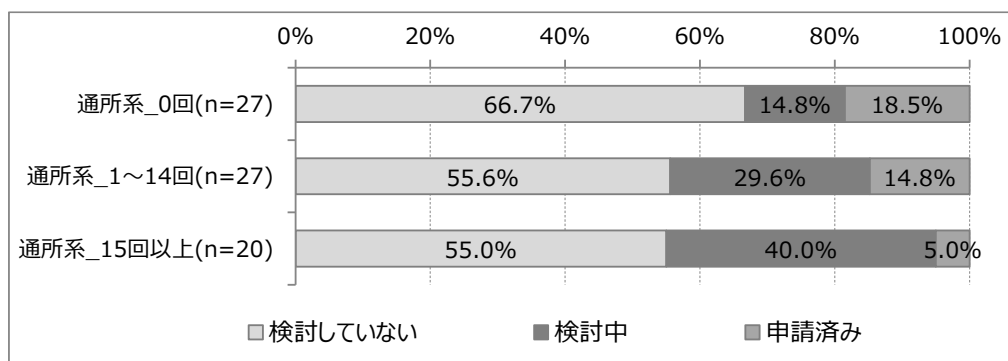
【図表 356】 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護3以上）



### 【サービス利用回数と施設等検討の状況(通所系、認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、『通所系\_0回』では「検討していない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が18.5%となっている。『通所系\_1～14回』では「検討していない」が55.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が29.6%となっている。『通所系\_15回以上』では「検討していない」が55.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が40.0%となっている。

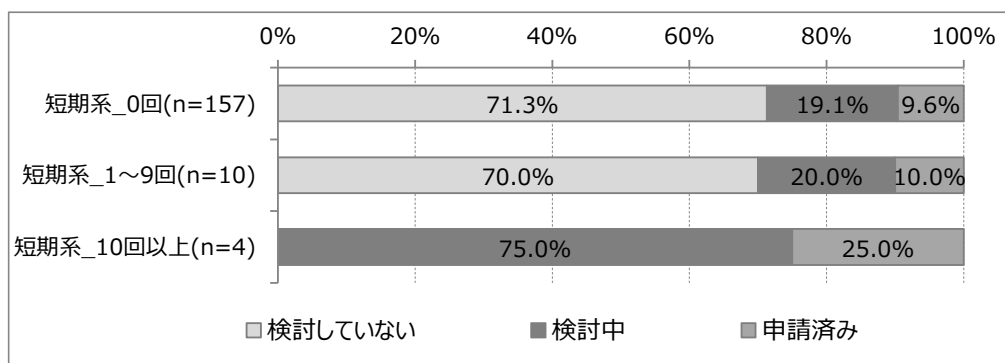
【図表 357】 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症Ⅲ以上）



### 【サービス利用回数と施設等検討の状況(短期系、要介護3以上)】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、『短期系\_0回』では「検討していない」が71.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が19.1%となっている。『短期系\_1～9回』では「検討していない」が70.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が20.0%となっている。『短期系\_10回以上』では「検討中」が75.0%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が25.0%となっている。

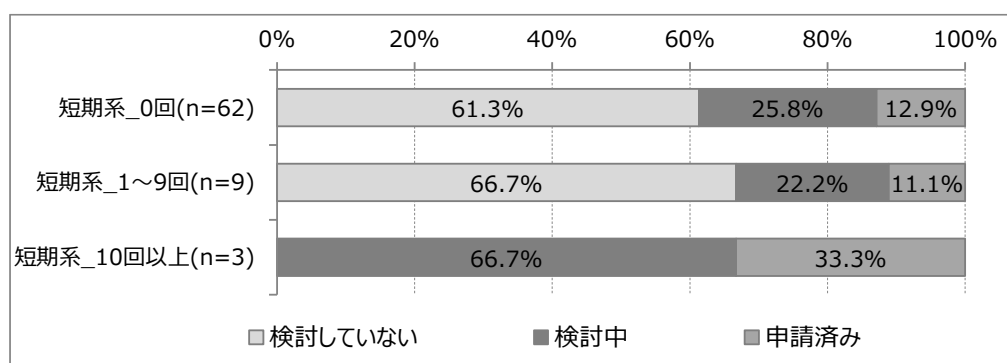
【図表 358】 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、要介護3以上）



### 【サービス利用回数と施設等検討の状況(短期系、認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、『短期系\_0回』では「検討していない」が61.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.8%となっている。『短期系\_1～9回』では「検討していない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が22.2%となっている。『短期系\_10回以上』では「検討中」が66.7%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が33.3%となっている。

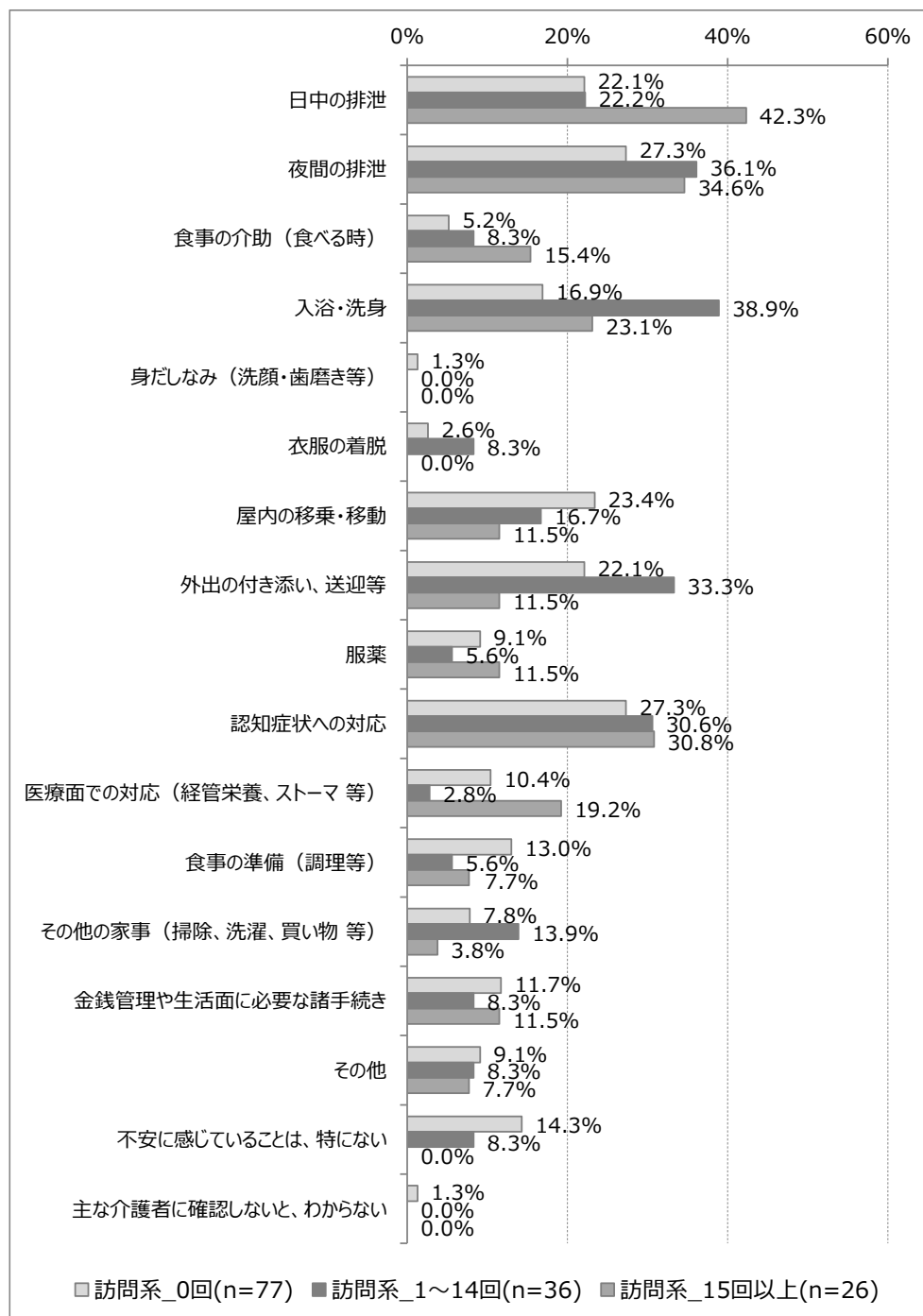
【図表 359】 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、認知症Ⅲ以上）



### (7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係 【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(訪問系、要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、『訪問系\_0回』では「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が27.3%と最も割合が高く、次いで「屋内の移乗・移動」が23.4%となっている。『訪問系\_1～14回』では「入浴・洗身」が38.9%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が36.1%となっている。『訪問系\_15回以上』では「日中の排泄」が42.3%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が34.6%となっている。

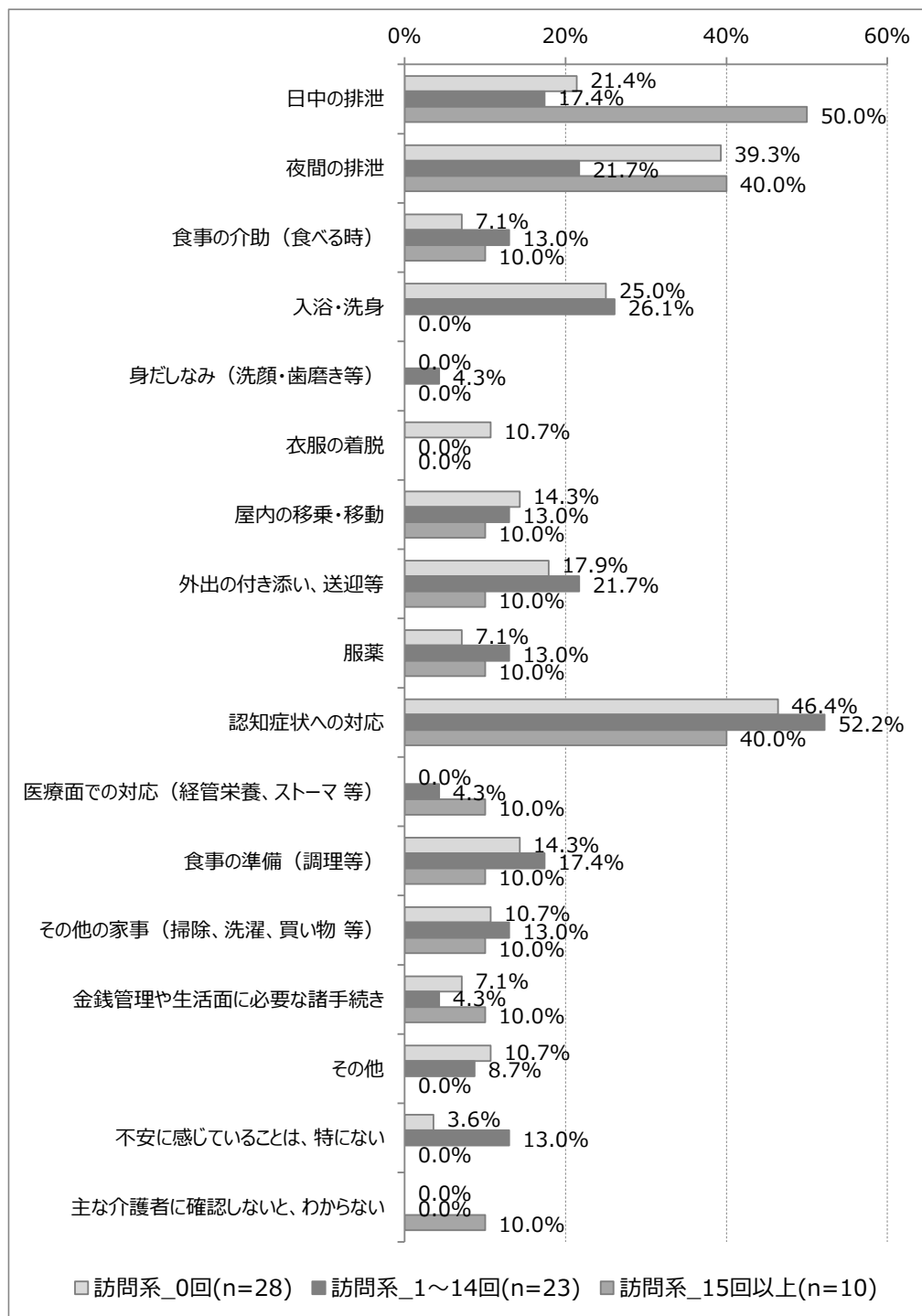
【図表 360】 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）



## 【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(訪問系、認知症Ⅲ以上)】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、『訪問系\_0回』では「認知症状への対応」が46.4%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が39.3%となっている。『訪問系\_1～14回』では「認知症状への対応」が52.2%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が26.1%となっている。『訪問系\_15回以上』では「日中の排泄」が50.0%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が40.0%となっている。

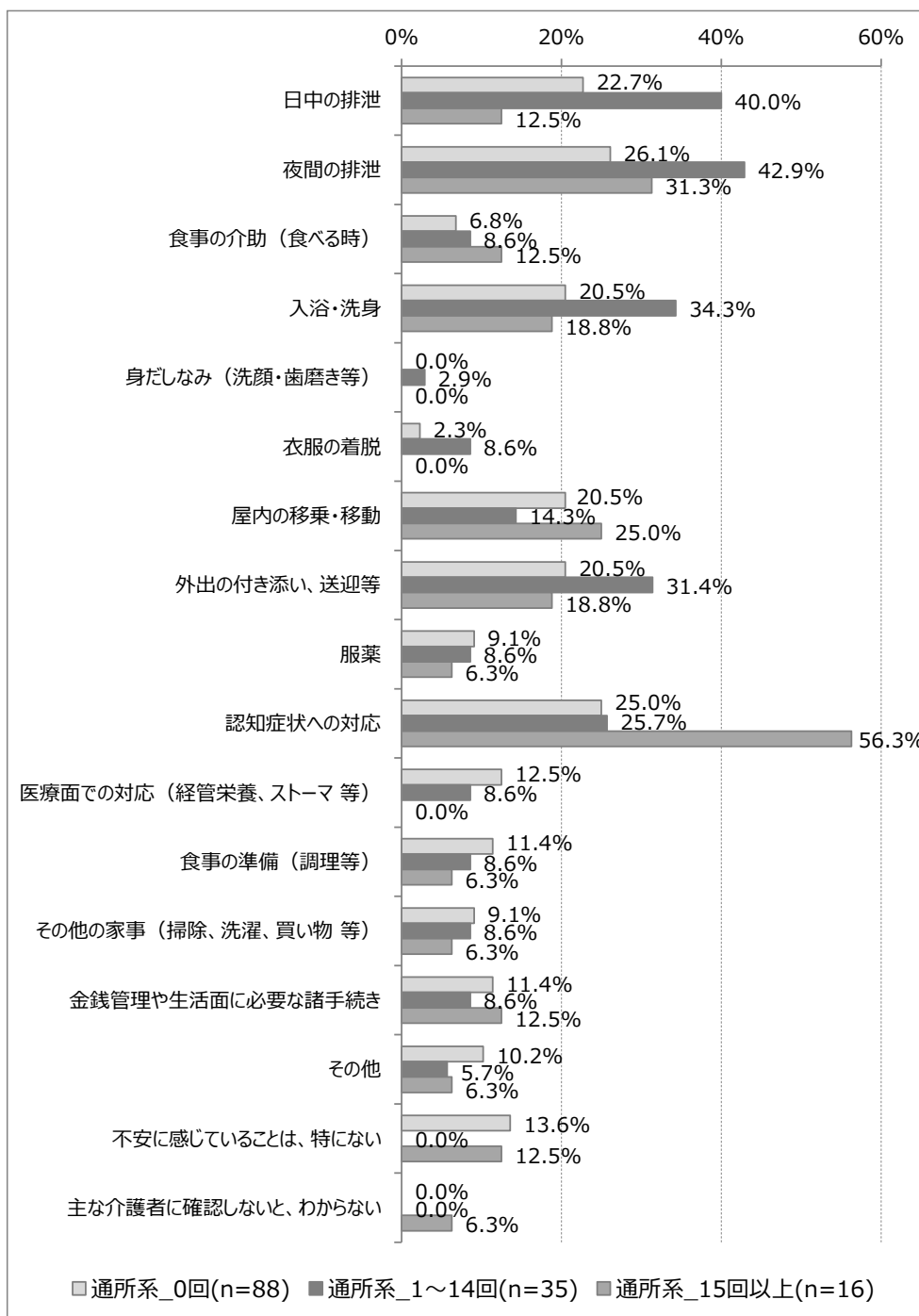
【図表 361】 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）



## 【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系、要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、『通所系\_0回』では「夜間の排泄」が26.1%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が25.0%となっている。『通所系\_1～14回』では「夜間の排泄」が42.9%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が40.0%となっている。『通所系\_15回以上』では「認知症状への対応」が56.3%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が31.3%となっている。

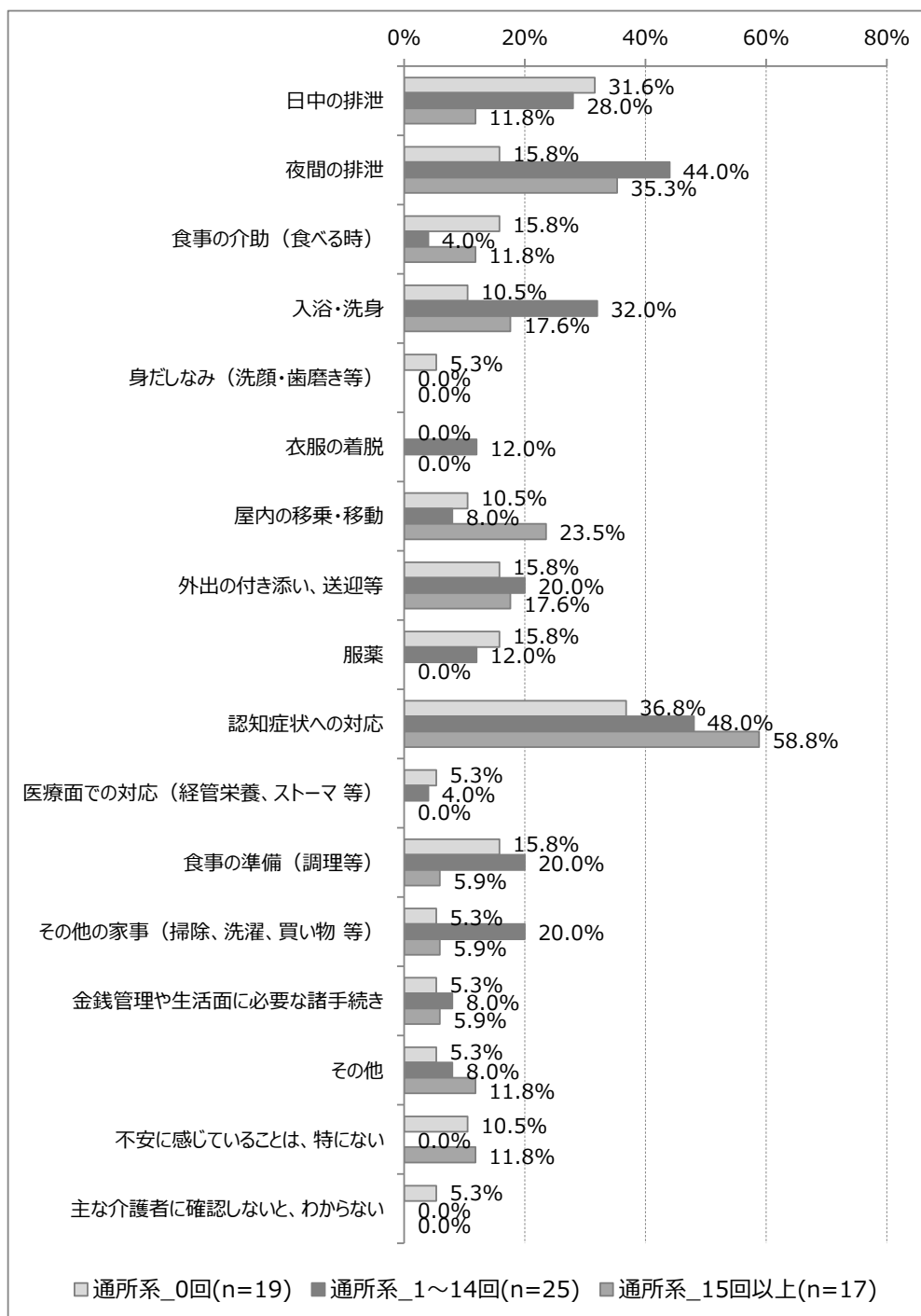
【図表 362】 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、要介護3以上）



## 【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系、認知症Ⅲ以上)】

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、『通所系\_0回』では「認知症状への対応」が36.8%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が31.6%となっている。『通所系\_1～14回』では「認知症状への対応」が48.0%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が44.0%となっている。『通所系\_15回以上』では「認知症状への対応」が58.8%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が35.3%となっている。

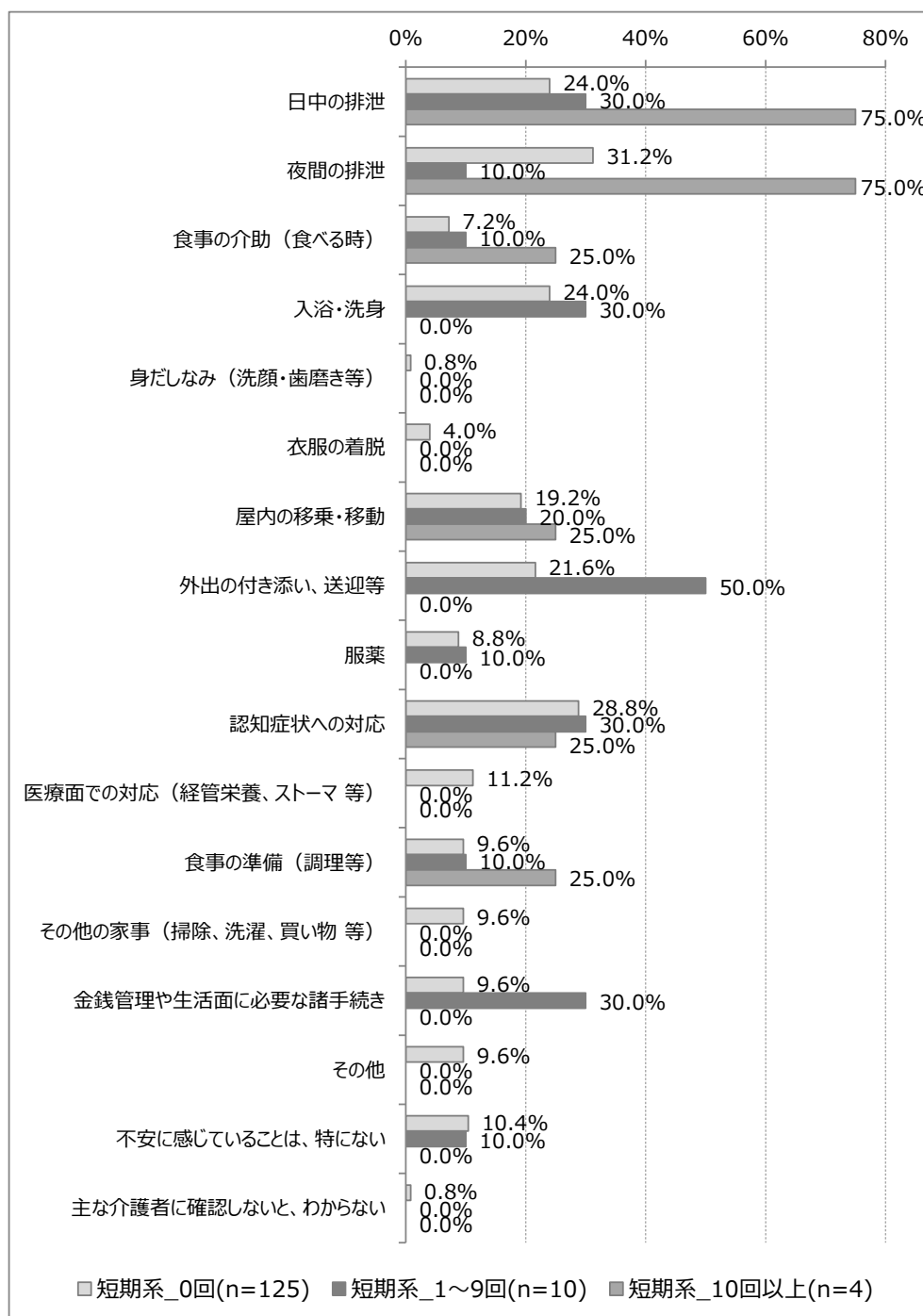
【図表 363】 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、認知症Ⅲ以上）



## 【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(短期系、要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、『短期系\_0回』では「夜間の排泄」が31.2%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が28.8%となっている。『短期系\_1～9回』では「外出の付き添い、送迎等」が50.0%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、 「入浴・洗身」、「認知症状への対応」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が30.0%となっている。『短期系\_10回以上』では「日中の排泄」、「夜間の排泄」が75.0%と最も割合が高く、次いで「食事の介助（食べる時）」、「屋内の移乗・移動」、「認知症状への対応」、「食事の準備（調理等）」が25.0%となっている。

【図表 364】 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、要介護3以上）

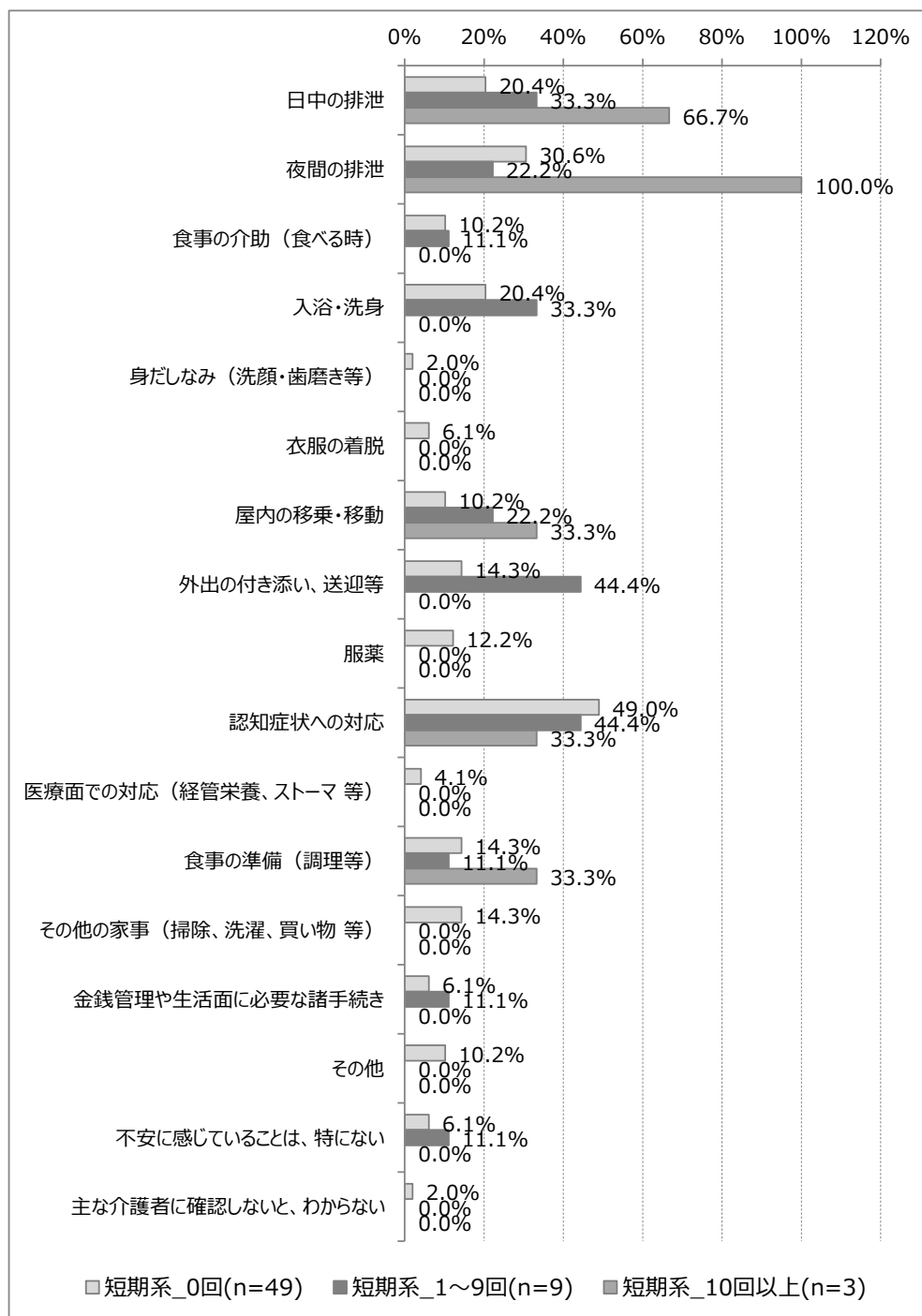




### 【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(短期系、認知症Ⅲ以上)】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、『短期系\_0回』では「認知症状への対応」が49.0%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が30.6%となっている。『短期系\_1～9回』では「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」が44.4%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「入浴・洗身」が33.3%となっている。『短期系\_10回以上』では「夜間の排泄」が100.0%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が66.7%となっている。

【図表 365】 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、認知症Ⅲ以上）



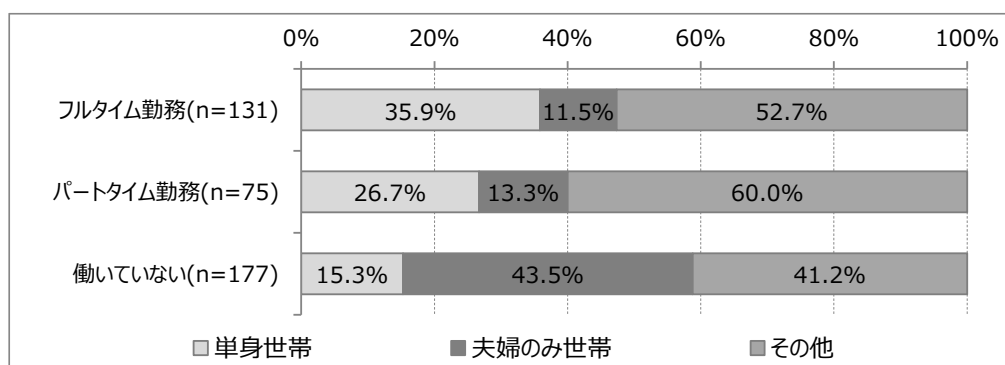
## 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

## (1) 基本集計

## 【就労状況別・世帯類型】

世帯類型を介護者の勤務形態別にみると、『フルタイム勤務』では「その他」が52.7%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が35.9%となっている。『パートタイム勤務』では「その他」が60.0%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が26.7%となっている。『働いていない』では「夫婦のみ世帯」が43.5%と最も割合が高く、次いで「その他」が41.2%となっている。

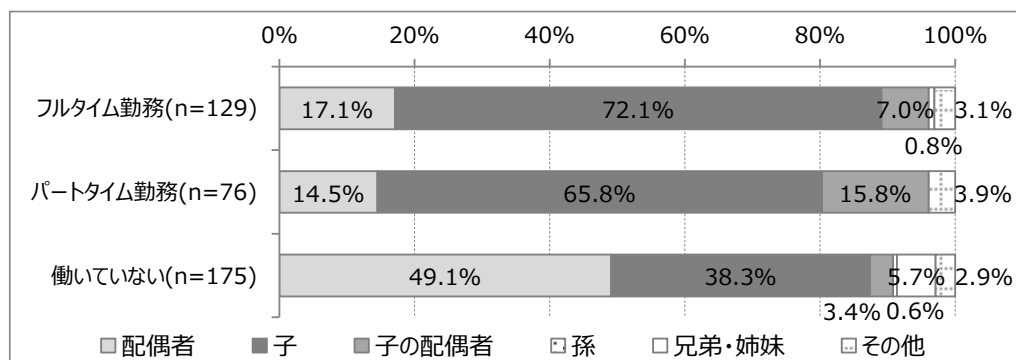
【図表 366】 就労状況別・世帯類型



## 【就労状況別・主な介護者の本人との関係】

主な介護者を介護者の勤務形態別にみると、『フルタイム勤務』では「子」が72.1%と最も割合が高く、次いで「配偶者」が17.1%となっている。『パートタイム勤務』では「子」が65.8%と最も割合が高く、次いで「子の配偶者」が15.8%となっている。『働いていない』では「配偶者」が49.1%と最も割合が高く、次いで「子」が38.3%となっている。

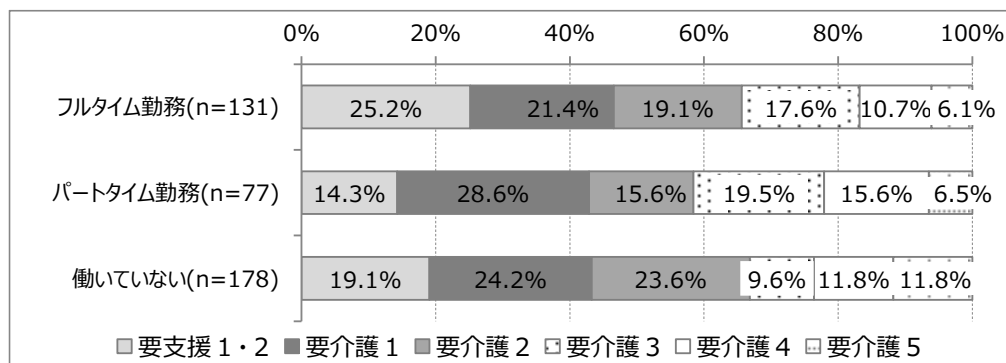
【図表 367】 就労状況別・主な介護者の本人との関係



### 【就労状況別・要介護度】

二次判定結果(要介護度)を介護者の勤務形態別にみると、『フルタイム勤務』では「要支援1・2」が25.2%と最も割合が高く、次いで「要介護1」が21.4%となっている。『パートタイム勤務』では「要介護1」が28.6%と最も割合が高く、次いで「要介護3」が19.5%となっている。『働いていない』では「要介護1」が24.2%と最も割合が高く、次いで「要介護2」が23.6%となっている。

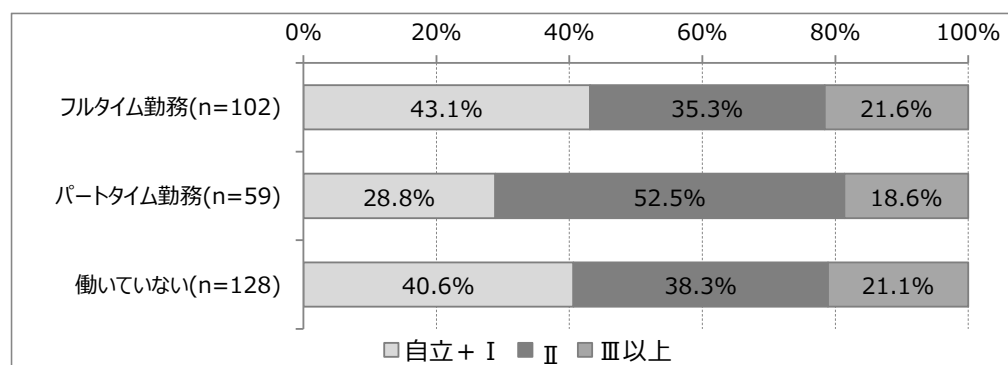
【図表 368】 就労状況別・要介護度



### 【就労状況別・認知症自立度】

認知症高齢者自立度を介護者の勤務形態別にみると、『フルタイム勤務』では「自立+ I」が43.1%と最も割合が高く、次いで「II」が35.3%となっている。『パートタイム勤務』では「II」が52.5%と最も割合が高く、次いで「自立+ I」が28.8%となっている。『働いていない』では「自立+ I」が40.6%と最も割合が高く、次いで「II」が38.3%となっている。

【図表 369】 就労状況別・認知症自立度

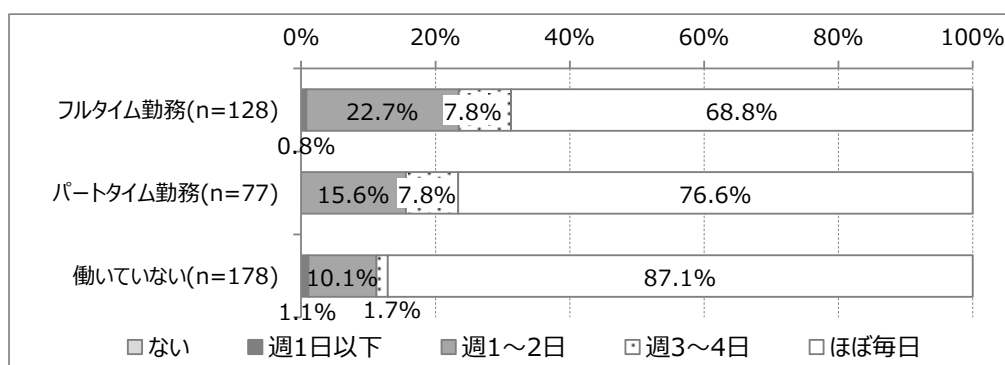


(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

【就労状況別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を介護者の勤務形態別にみると、『フルタイム勤務』では「ほぼ毎日」が68.8%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が22.7%となっている。『パートタイム勤務』では「ほぼ毎日」が76.6%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が15.6%となっている。『働いていない』では「ほぼ毎日」が87.1%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が10.1%となっている。

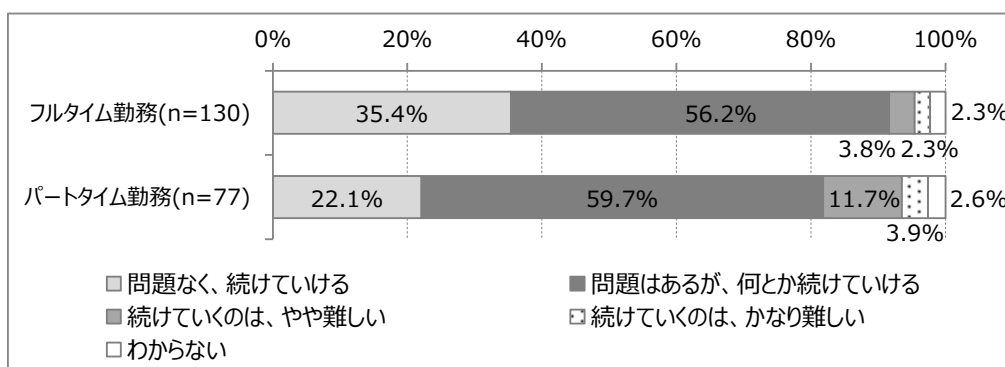
【図表 370】 就労状況別・家族等による介護の頻度



【就労状況別・就労継続見込み】

介護者の就労継続の可否に係る意識を介護者の勤務形態別にみると、『フルタイム勤務』では「問題はあるが、何とか続けていける」が56.2%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が35.4%となっている。『パートタイム勤務』では「問題はあるが、何とか続けていける」が59.7%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が22.1%となっている。

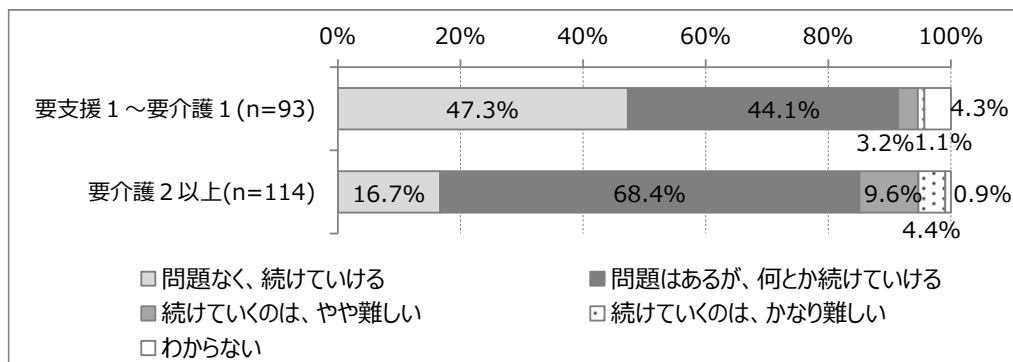
【図表 371】 就労状況別・就労継続見込み



### 【要介護度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を二次判定結果(要介護度)別にみると、『要支援1～要介護1』では「問題なく、続けていける」が47.3%と最も割合が高く、次いで「問題はあるが、何とか続けていける」が44.1%となっている。『要介護2以上』では「問題はあるが、何とか続けていける」が68.4%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が16.7%となっている。

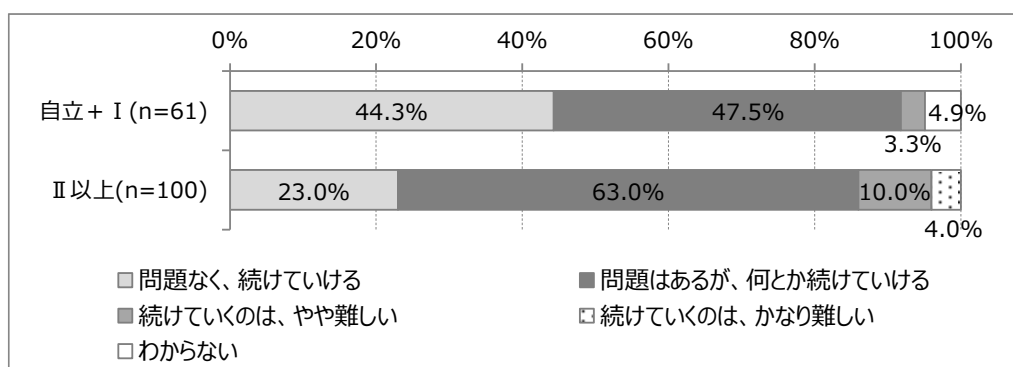
【図表 372】 要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



### 【認知症自立度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を認知症高齢者自立度別にみると、『自立+ I』では「問題はあるが、何とか続けていける」が47.5%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が44.3%となっている。『II以上』では「問題はあるが、何とか続けていける」が63.0%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が23.0%となっている。

【図表 373】 認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）

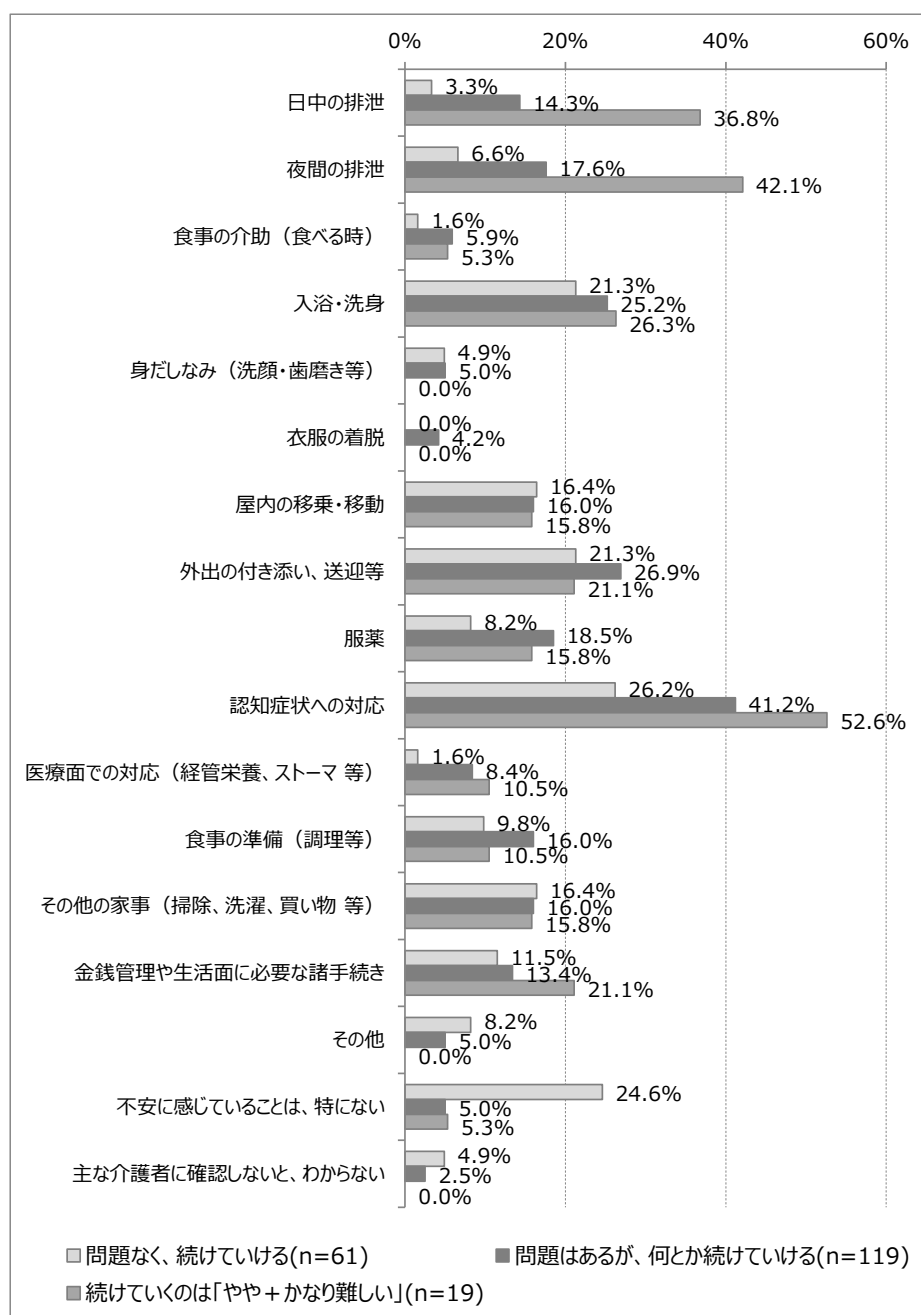


## (3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係

## 【就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者が不安に感じる介護を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、『問題なく、続けていける』では「認知症状への対応」が26.2%と最も割合が高く、次いで「不安を感じていることは、特にない」が24.6%となっている。『問題はあるが、何とか続けていける』では「認知症状への対応」が41.2%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が26.9%となっている。『続けていくのは「やや+かなり難しい』』では「認知症状への対応」が52.6%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が42.1%となっている。

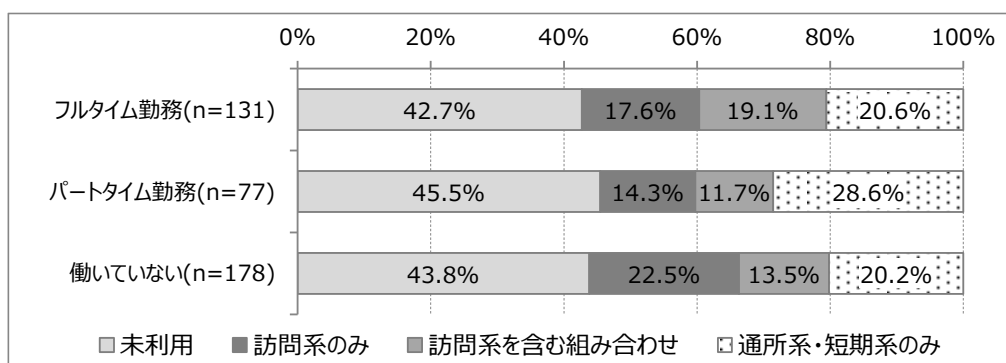
【図表 374】 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



#### (4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係 【就労状況別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを介護者の勤務形態別にみると、『フルタイム勤務』では「未利用」が42.7%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が20.6%となっている。『パートタイム勤務』では「未利用」が45.5%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が28.6%となっている。『働いていない』では「未利用」が43.8%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が22.5%となっている。

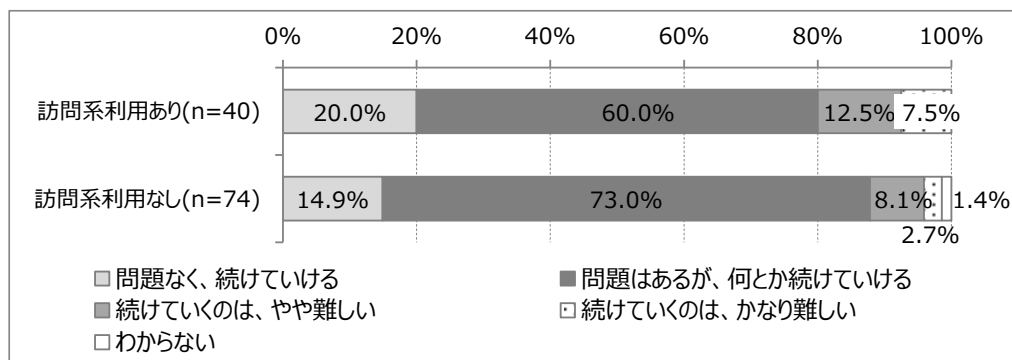
【図表 375】 就労状況別・サービス利用の組み合わせ



#### 【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、『訪問系利用あり』では「問題はあるが、何とか続けていける」が60.0%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が20.0%となっている。『訪問系利用なし』では「問題はあるが、何とか続けていける」が73.0%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が14.9%となっている。

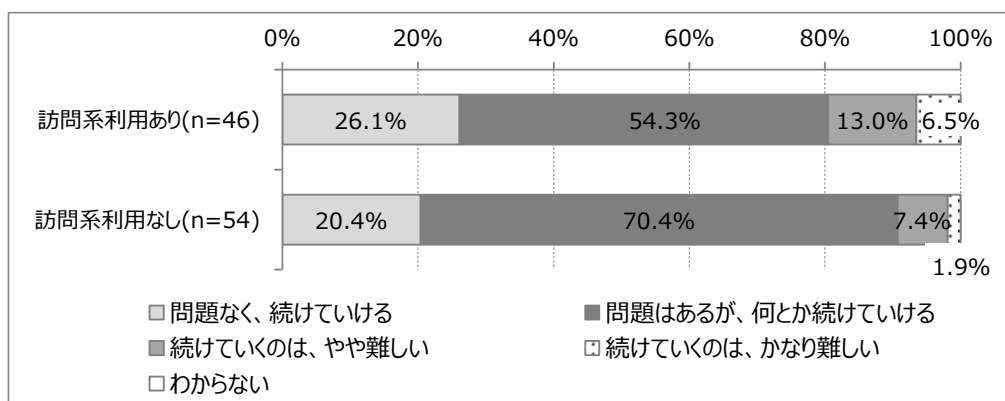
【図表 376】 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み  
(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み(認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、『訪問系利用あり』では「問題はあるが、何とか続けていける」が54.3%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が26.1%となっている。『訪問系利用なし』では「問題はあるが、何とか続けていける」が70.4%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が20.4%となっている。

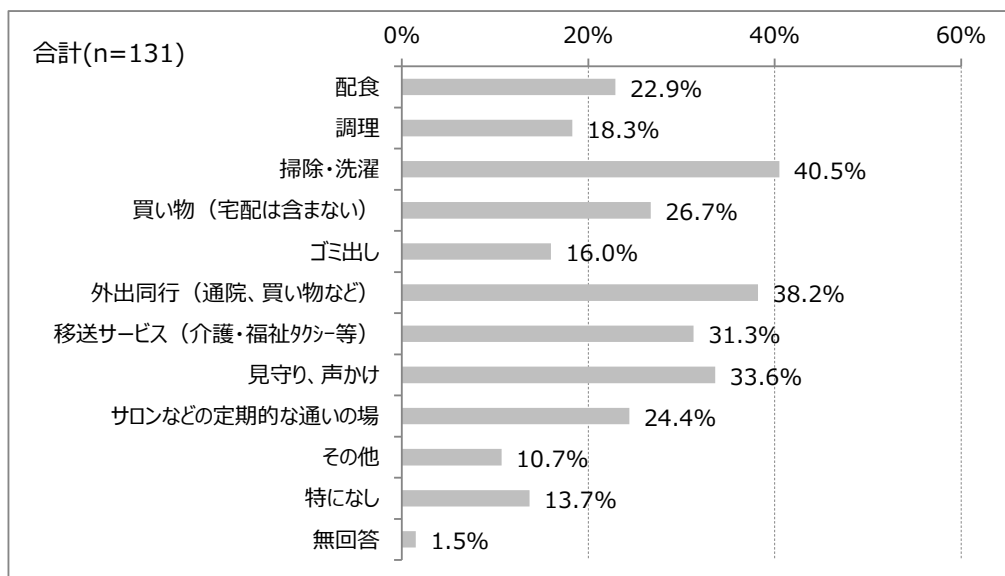
【図表 377】 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み  
(認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



(5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況  
【在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(フルタイム勤務)】

「掃除・洗濯」の割合が最も高く40.5%となっている。次いで、「外出同行（通院、買い物など）(38.2%)」、「見守り、声かけ（33.6%）」となっている。

【図表 378】 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）

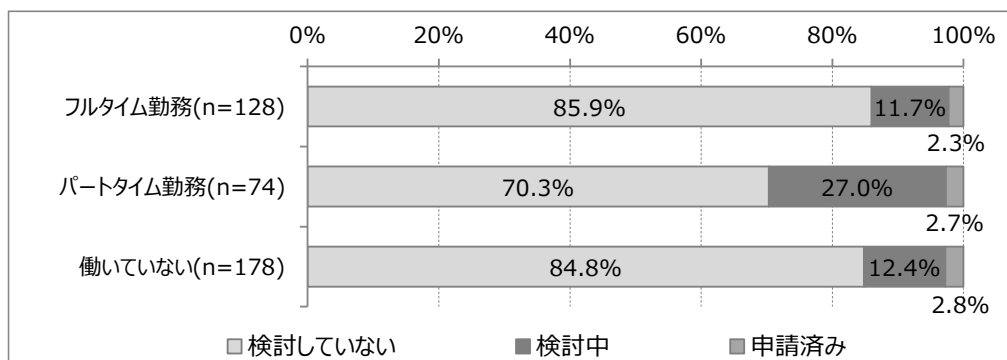




### 【就労状況別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を介護者の勤務形態別にみると、『フルタイム勤務』では「検討していない」が85.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が11.7%となっている。『パートタイム勤務』では「検討していない」が70.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が27.0%となっている。『働いていない』では「検討していない」が84.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が12.4%となっている。

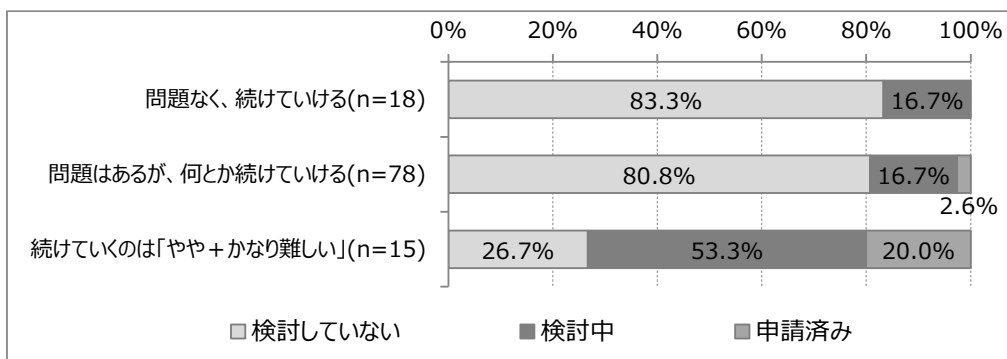
【図表 379】 就労状況別・施設等検討の状況



### 【就労継続見込み別・施設等検討の状況(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

施設等の検討状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、『問題なく、続けていける』では「検討していない」が83.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が16.7%となっている。『問題はあるが、何とか続けていける』では「検討していない」が80.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が16.7%となっている。『続けていくのは「やや+かなり難しい』』では「検討中」が53.3%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が26.7%となっている。

【図表 380】 就労継続見込み別・施設等検討の状況  
(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)

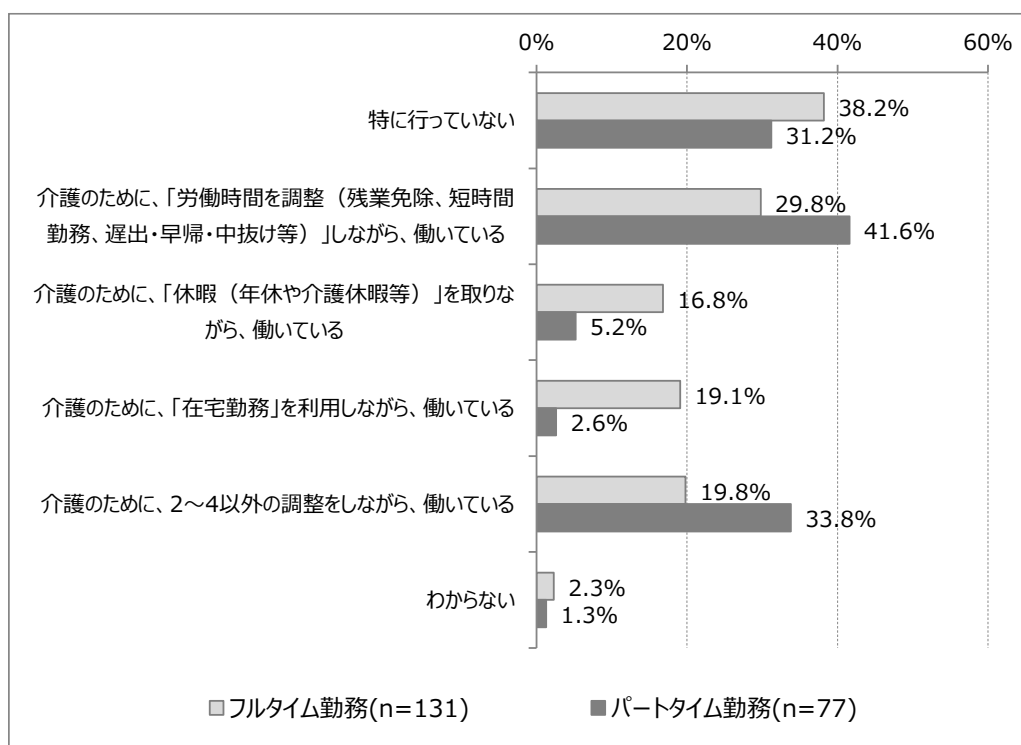


(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援

【就労状況別・介護のための働き方の調整】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の勤務形態別にみると、『フルタイム勤務』では「特に行っていない」が38.2%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が29.8%となっている。『パートタイム勤務』では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が41.6%と最も割合が高く、次いで「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が33.8%となっている。

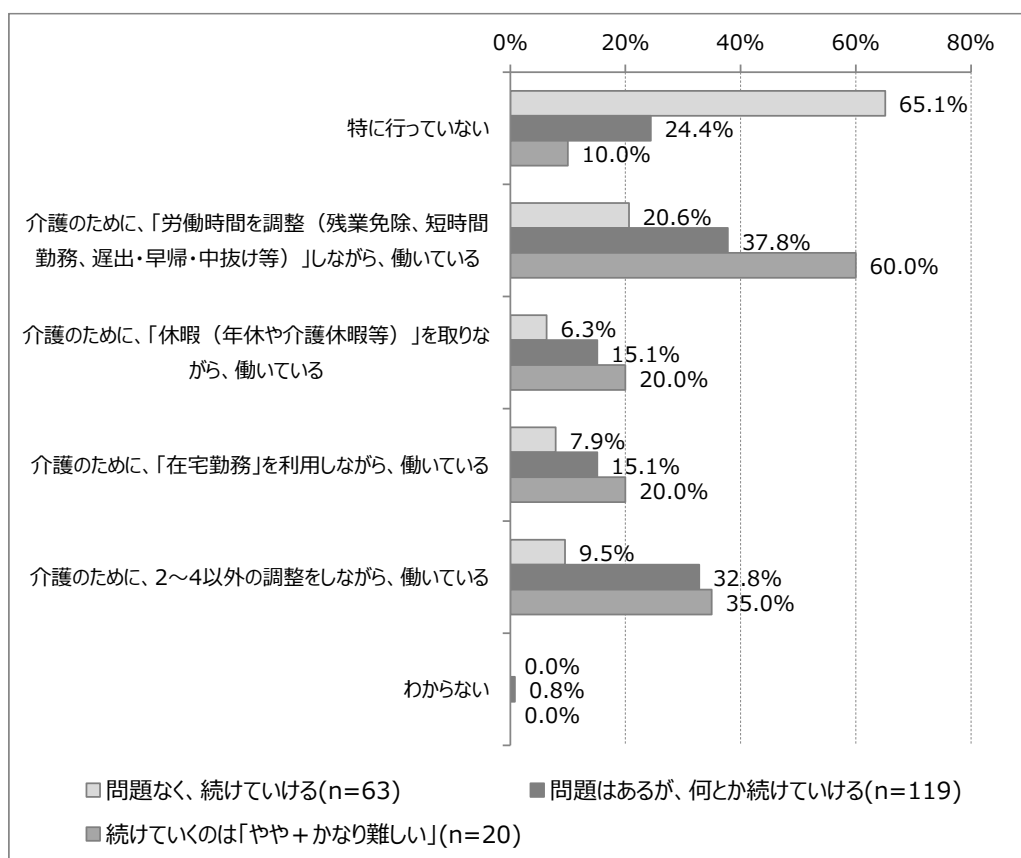
【図表 381】 就労状況別・介護のための働き方の調整



### 【就労継続見込み別・介護のための働き方の調整(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、『問題なく、続けていける』では「特に行っていない」が65.1%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が20.6%となっている。『問題はあるが、何とか続けていける』では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が37.8%と最も割合が高く、次いで「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が32.8%となっている。『続けていくのは「やや+かなり難しい』』では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が60.0%と最も割合が高く、次いで「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が35.0%となっている。

【図表 382】 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



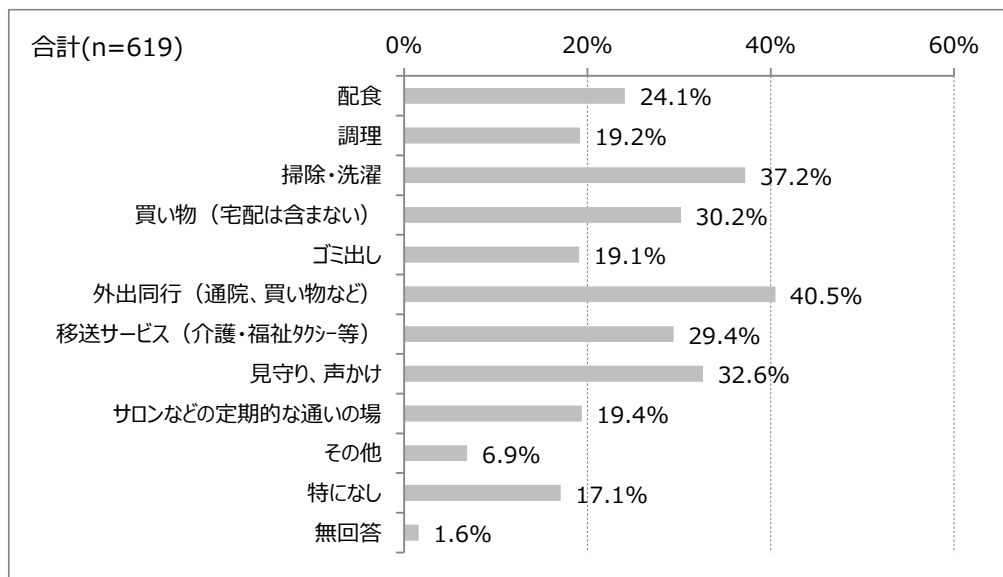
## 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

### (1) 基礎集計

#### 【在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

「外出同行（通院、買い物など）」の割合が最も高く40.5%となっている。次いで、「掃除・洗濯（37.2%）」、「見守り、声かけ（32.6%）」となっている。

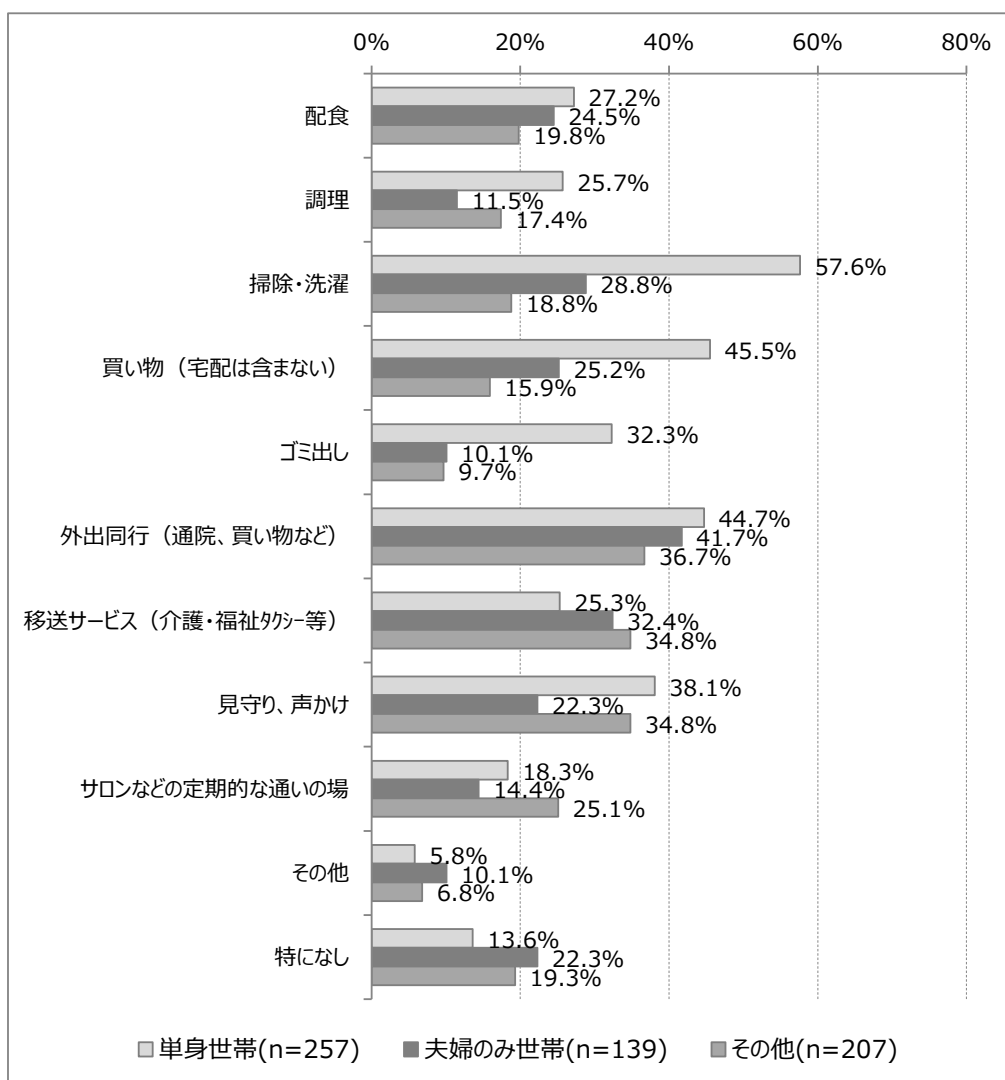
【図表 383】在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



## (2) 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス 【世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を世帯類型別にみると、『単身世帯』では「掃除・洗濯」が57.6%と最も割合が高く、次いで「買い物（宅配は含まない）」が45.5%となっている。『夫婦のみ世帯』では「外出同行（通院、買い物など）」が41.7%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が32.4%となっている。『その他』では「外出同行（通院、買い物など）」が36.7%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り、声かけ」が34.8%となっている。

【図表 384】 世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

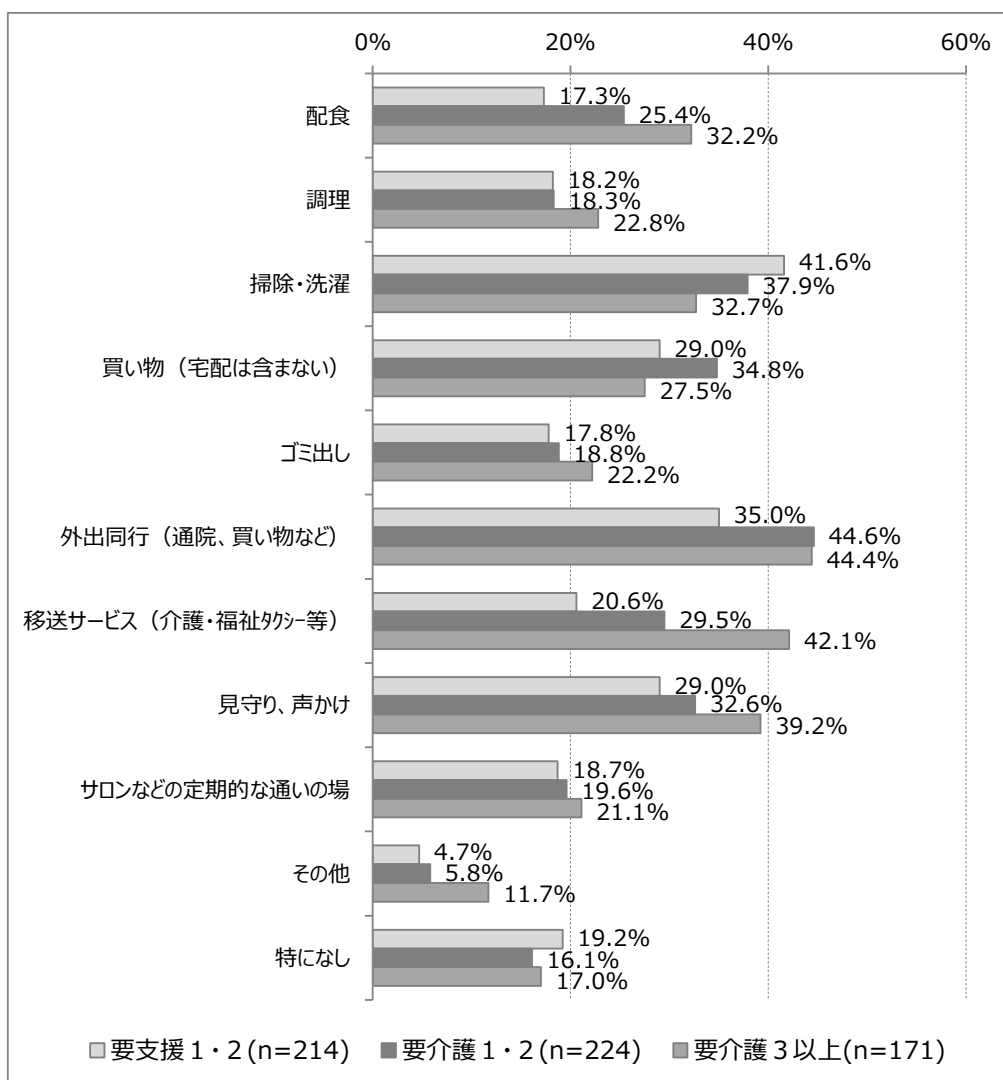


(3) 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」

【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果(要介護度)別にみると、『要支援1・2』では「掃除・洗濯」が41.6%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が35.0%となっている。『要介護1・2』では「外出同行(通院、買い物など)」が44.6%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が37.9%となっている。『要介護3以上』では「外出同行(通院、買い物など)」が44.4%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が42.1%となっている。

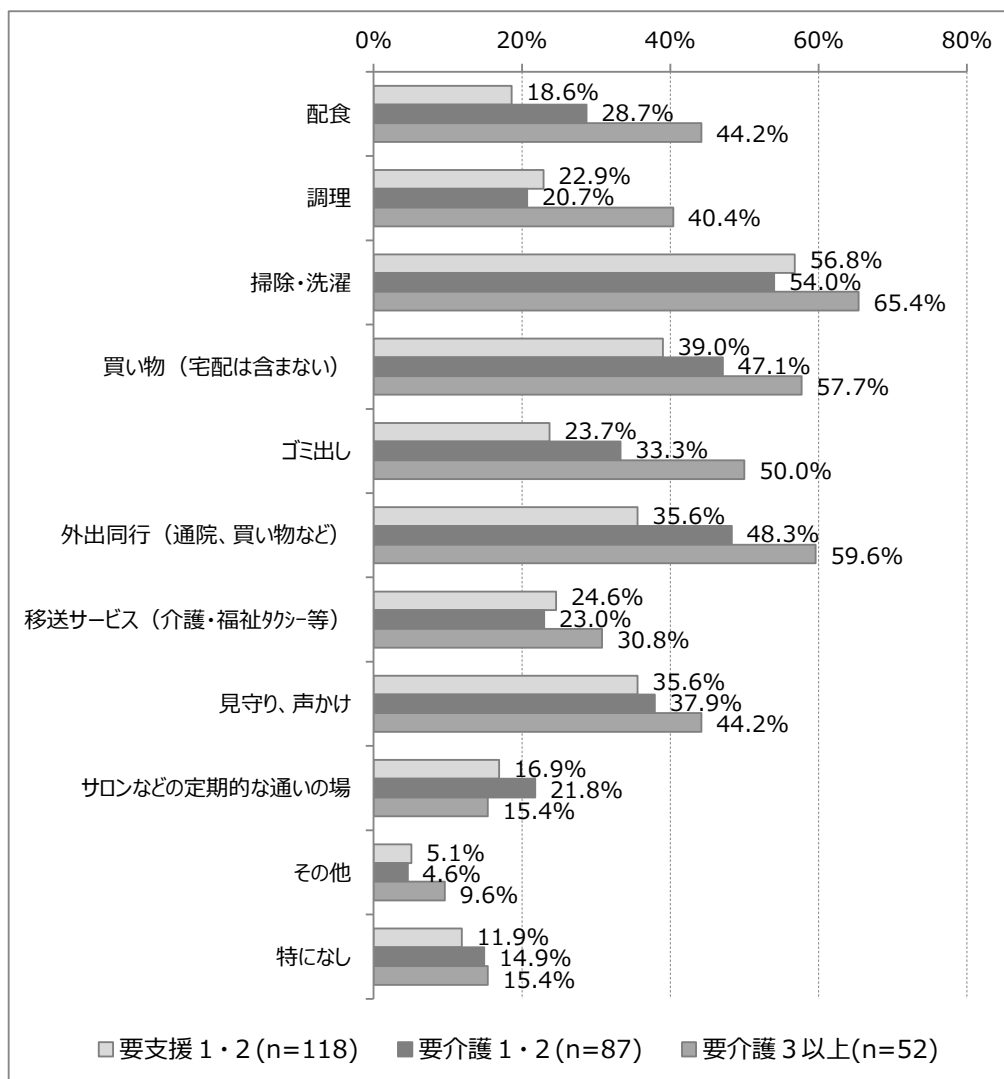
【図表 385】 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



### 【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果(要介護度)別にみると、『要支援1・2』では「掃除・洗濯」が56.8%と最も割合が高く、次いで「買い物(宅配は含まない)」が39.0%となっている。『要介護1・2』では「掃除・洗濯」が54.0%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が48.3%となっている。『要介護3以上』では「掃除・洗濯」が65.4%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が59.6%となっている。

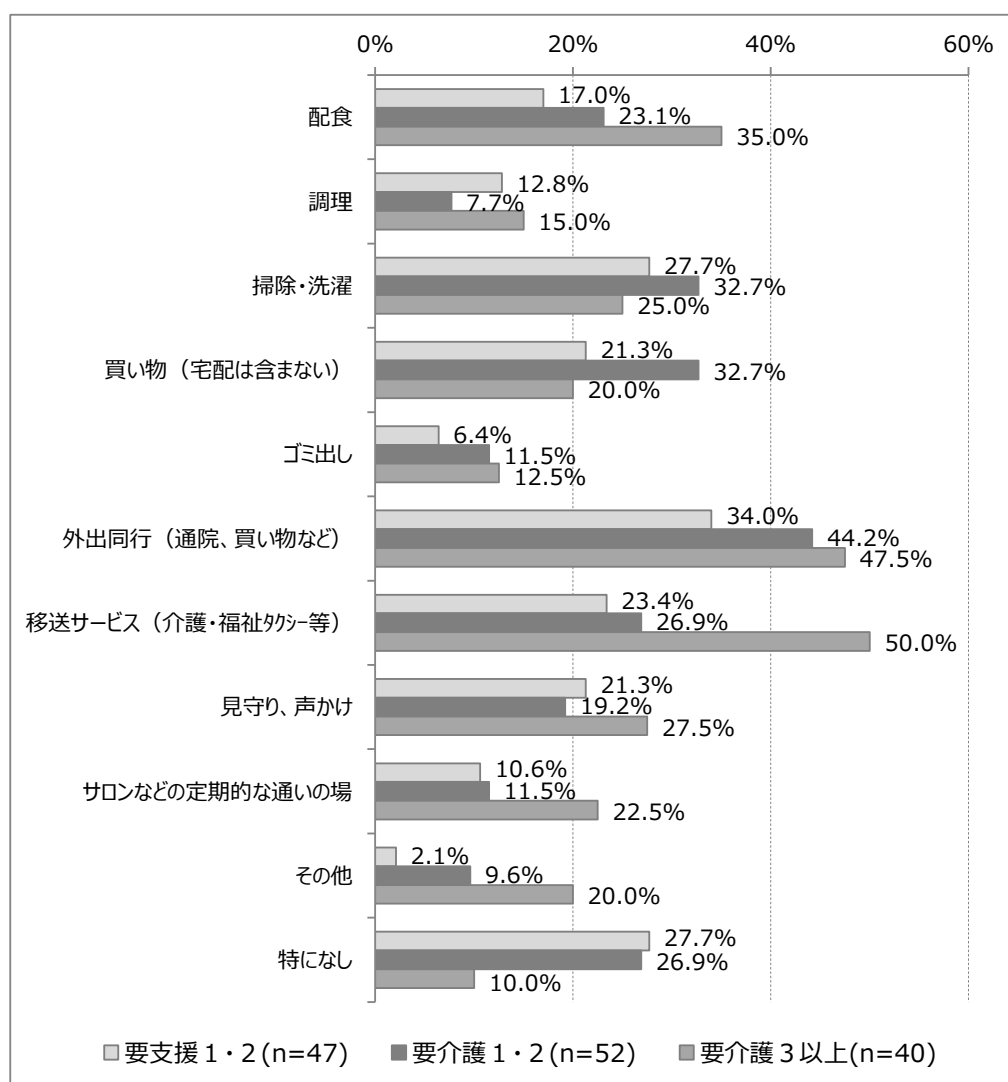
【図表 386】 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)



### 【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果(要介護度)別にみると、『要支援1・2』では「外出同行(通院、買い物など)」が34.0%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」、「特になし」が27.7%となっている。『要介護1・2』では「外出同行(通院、買い物など)」が44.2%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」、「買い物(宅配は含まない)」が32.7%となっている。『要介護3以上』では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が50.0%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が47.5%となっている。

【図表 387】 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)

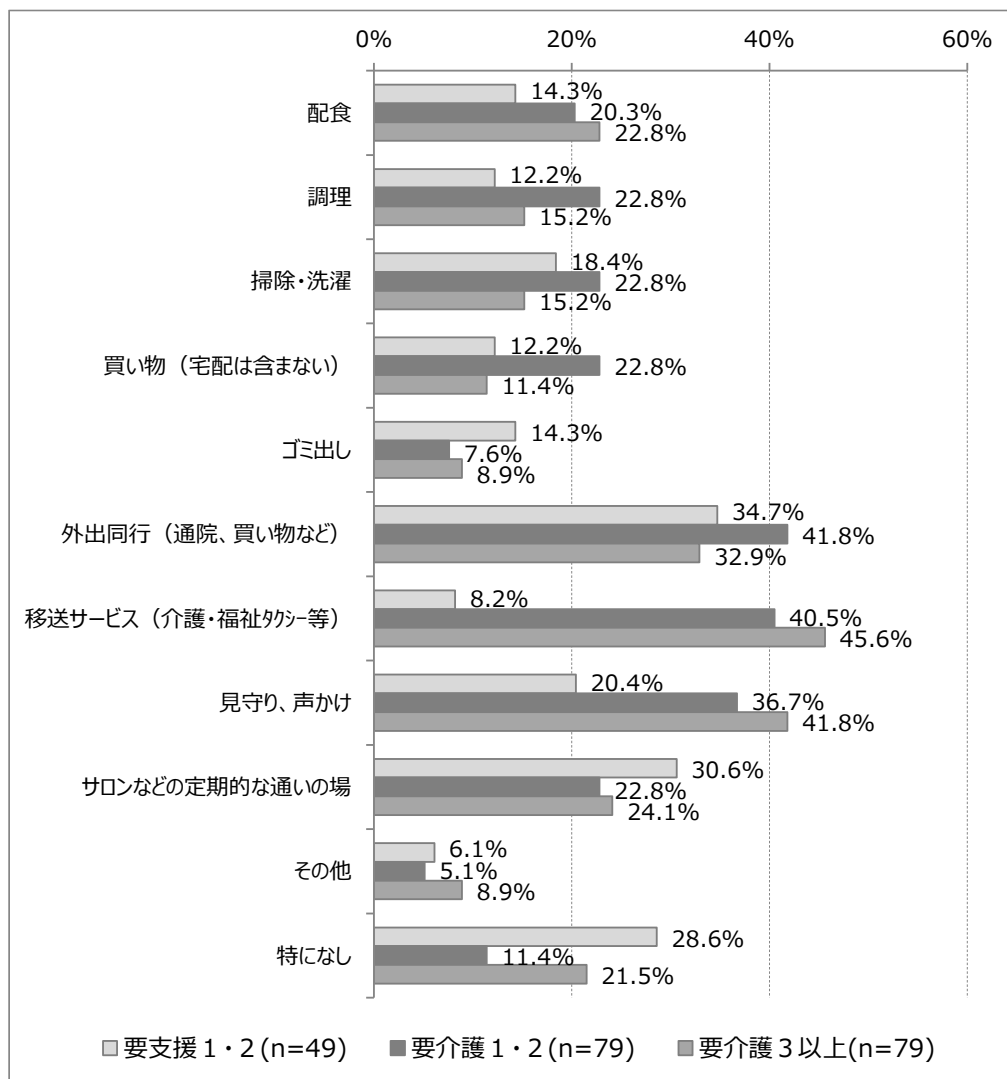




### 【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果(要介護度)別にみると、『要支援1・2』では「外出同行(通院、買い物など)」が34.7%と最も割合が高く、次いで「サロンなどの定期的な通いの場」が30.6%となっている。『要介護1・2』では「外出同行(通院、買い物など)」が41.8%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が40.5%となっている。『要介護3以上』では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が45.6%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が41.8%となっている。

【図表 388】 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)



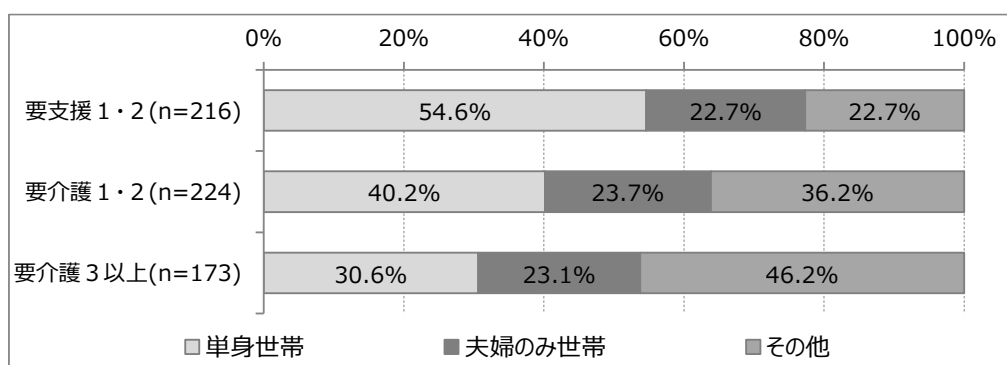
## 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

### (1) 基礎集計

#### 【要介護度別・世帯類型】

世帯類型を二次判定結果(要介護度)別にみると、『要支援1・2』では「単身世帯」が54.6%と最も割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」、「その他」が22.7%となっている。『要介護1・2』では「単身世帯」が40.2%と最も割合が高く、次いで「その他」が36.2%となっている。『要介護3以上』では「その他」が46.2%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が30.6%となっている。

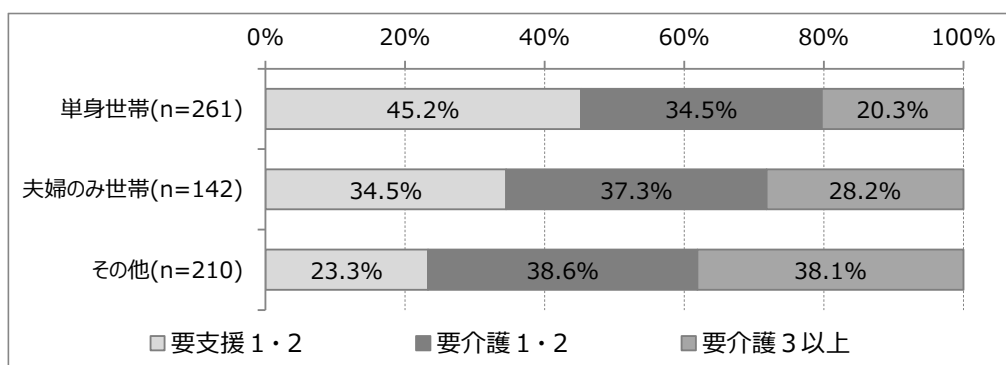
【図表 389】 要介護度別・世帯類型



#### 【世帯類型別・要介護度】

二次判定結果(要介護度)を世帯類型別にみると、『単身世帯』では「要支援1・2」が45.2%と最も割合が高く、次いで「要介護1・2」が34.5%となっている。『夫婦のみ世帯』では「要介護1・2」が37.3%と最も割合が高く、次いで「要支援1・2」が34.5%となっている。『その他』では「要介護1・2」が38.6%と最も割合が高く、次いで「要介護3以上」が38.1%となっている。

【図表 390】 世帯類型別・要介護度

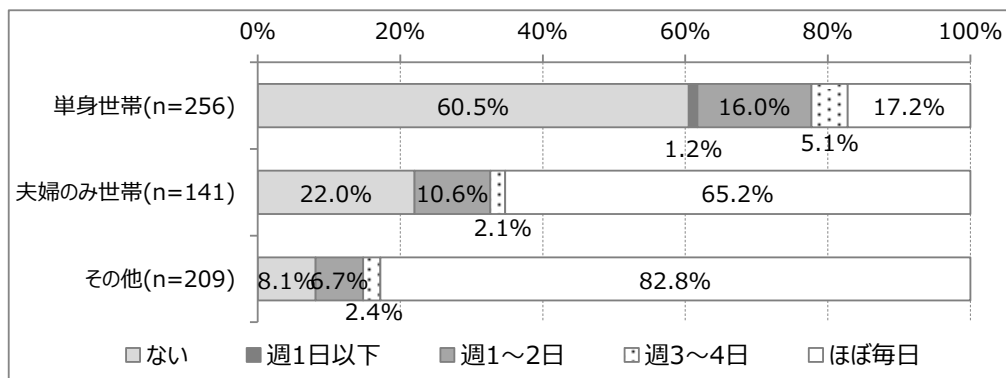


## (2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

## 【世帯類型別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を世帯類型別にみると、『単身世帯』では「ない」が60.5%と最も割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が17.2%となっている。『夫婦のみ世帯』では「ほぼ毎日」が65.2%と最も割合が高く、次いで「ない」が22.0%となっている。『その他』では「ほぼ毎日」が82.8%と最も割合が高く、次いで「ない」が8.1%となっている。

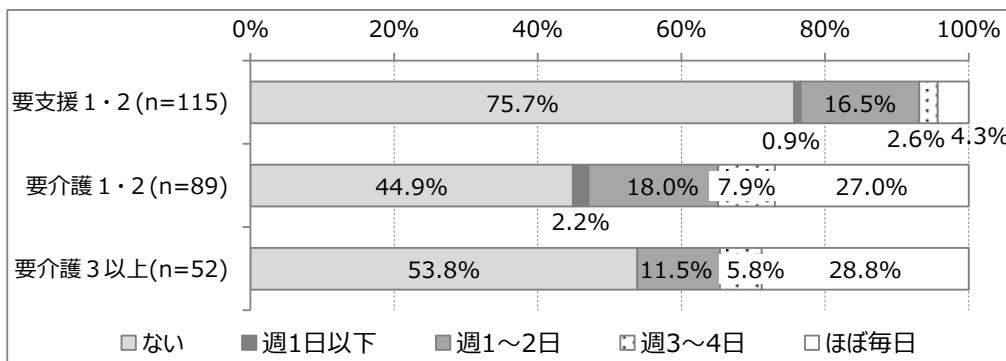
【図表 391】 世帯類型別・家族等による介護の頻度



## 【要介護度別・家族等による介護の頻度(単身世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果(要介護度)別にみると、『要支援1・2』では「ない」が75.7%と最も割合が高く、次いで「週1~2日」が16.5%となっている。『要介護1・2』では「ない」が44.9%と最も割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が27.0%となっている。『要介護3以上』では「ない」が53.8%と最も割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が28.8%となっている。

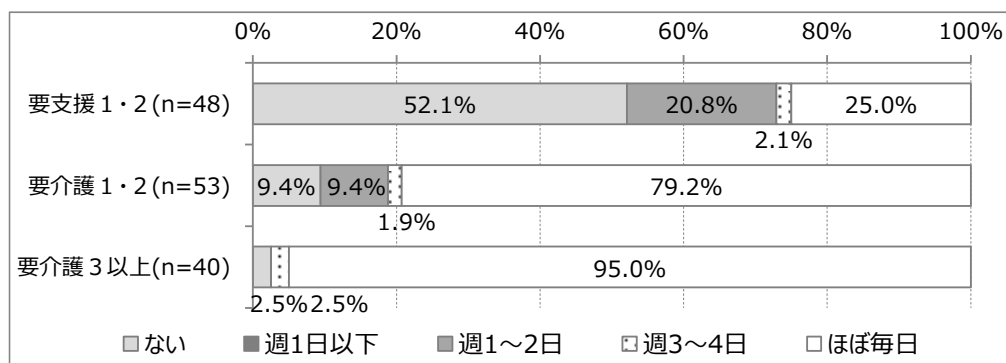
【図表 392】 要介護度別・家族等による介護の頻度 (単身世帯)



### 【要介護度別・家族等による介護の頻度(夫婦のみ世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果(要介護度)別にみると、『要支援1・2』では「ない」が52.1%と最も割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が25.0%となっている。『要介護1・2』では「ほぼ毎日」が79.2%と最も割合が高く、次いで「ない」、「週1～2日」が9.4%となっている。『要介護3以上』では「ほぼ毎日」が95.0%と最も割合が高く、次いで「ない」、「週3～4日」が2.5%となっている。

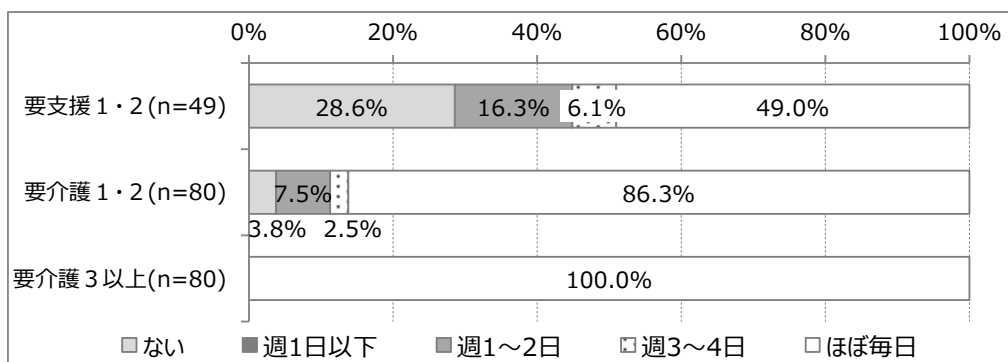
【図表 393】 要介護度別・家族等による介護の頻度（夫婦のみ世帯）



### 【要介護度別・家族等による介護の頻度(その他世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果(要介護度)別にみると、『要支援1・2』では「ほぼ毎日」が49.0%と最も割合が高く、次いで「ない」が28.6%となっている。『要介護1・2』では「ほぼ毎日」が86.3%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が7.5%となっている。『要介護3以上』では「ほぼ毎日」が100.0%となっている。

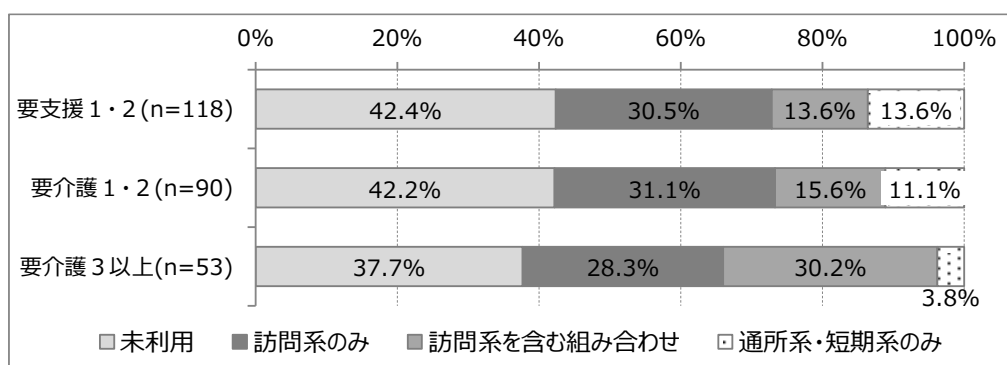
【図表 394】 要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）



### (3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」 【要介護度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果(要介護度)別にみると、『要支援1・2』では「未利用」が42.4%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が30.5%となっている。『要介護1・2』では「未利用」が42.2%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が31.1%となっている。『要介護3以上』では「未利用」が37.7%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が30.2%となっている。

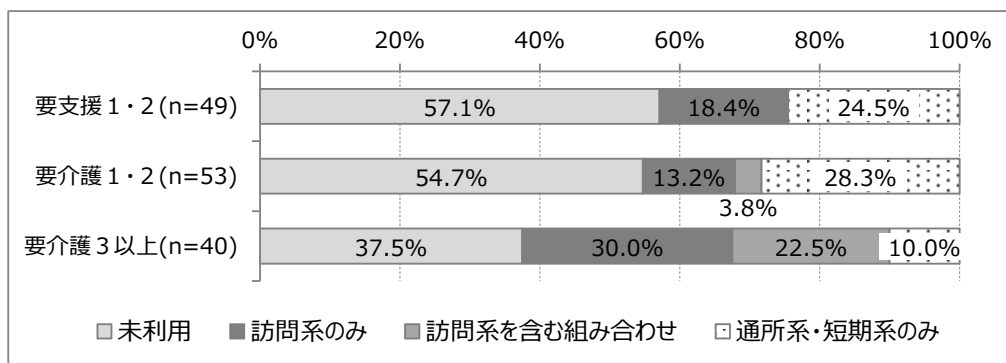
【図表 395】 要介護度別・サービス利用の組み合わせ (単身世帯)



### 【要介護度別・サービス利用の組み合わせ(夫婦のみ世帯)】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果(要介護度)別にみると、『要支援1・2』では「未利用」が57.1%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が24.5%となっている。『要介護1・2』では「未利用」が54.7%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が28.3%となっている。『要介護3以上』では「未利用」が37.5%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が30.0%となっている。

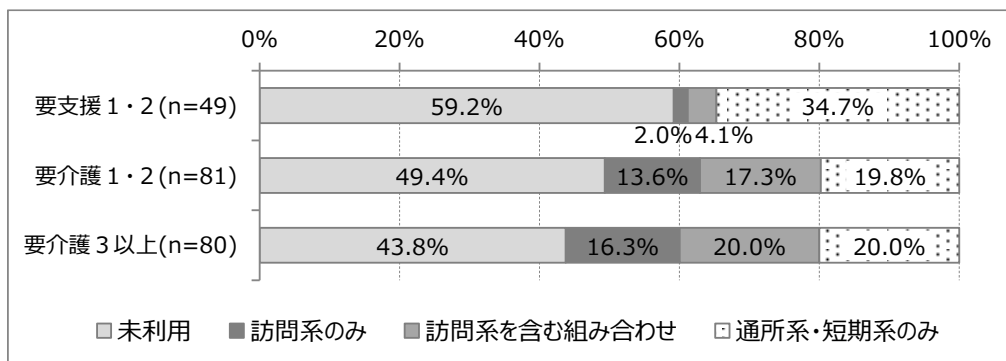
【図表 396】 要介護度別・サービス利用の組み合わせ (夫婦のみ世帯)



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯)】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果(要介護度)別にみると、『要支援1・2』では「未利用」が59.2%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が34.7%となっている。『要介護1・2』では「未利用」が49.4%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が19.8%となっている。『要介護3以上』では「未利用」が43.8%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」、「通所系・短期系のみ」が20.0%となっている。

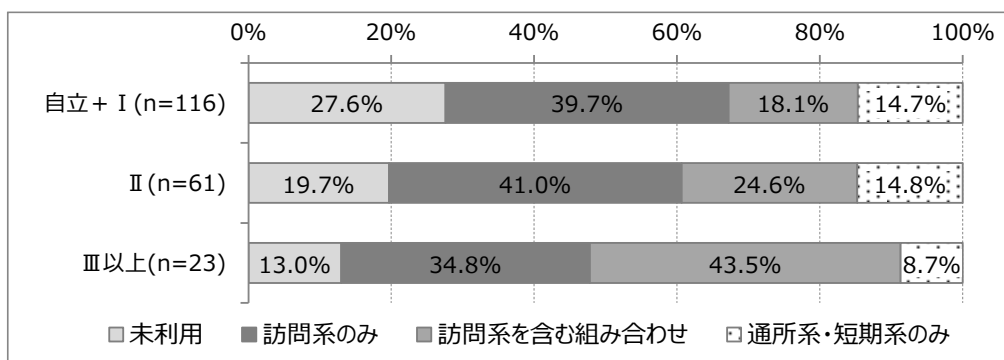
【図表 397】 要介護度別・サービス利用の組み合わせ (その他世帯)



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、『自立+I』では「訪問系のみ」が39.7%と最も割合が高く、次いで「未利用」が27.6%となっている。『II』では「訪問系のみ」が41.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が24.6%となっている。『III以上』では「訪問系を含む組み合わせ」が43.5%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が34.8%となっている。

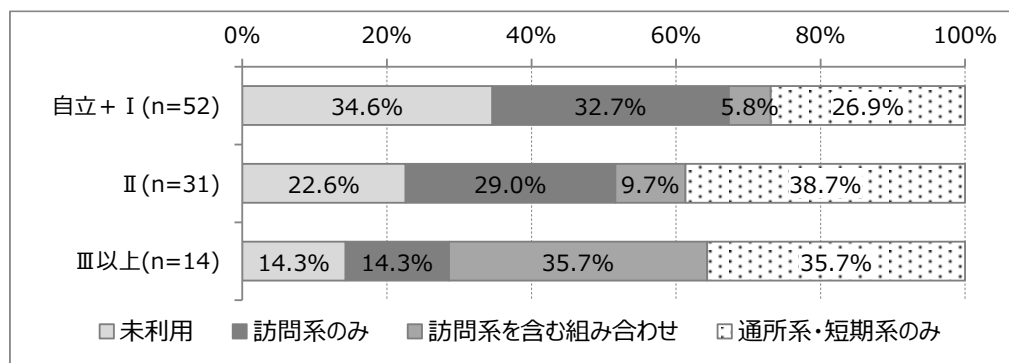
【図表 398】 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ (単身世帯)



### 【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(夫婦のみ世帯)】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、『自立+ I』では「未利用」が34.6%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が32.7%となっている。『II』では「通所系・短期系のみ」が38.7%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が29.0%となっている。『III以上』では「訪問系を含む組み合わせ」が35.7%と最も割合が高く、次いで「未利用」、「訪問系のみ」が14.3%となっている。

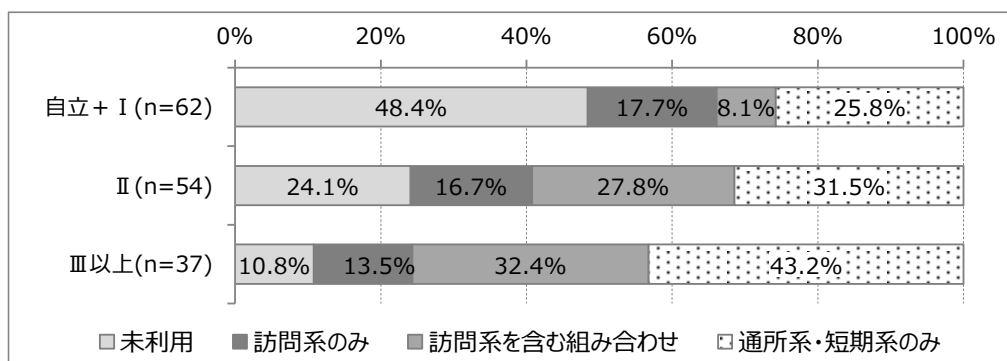
【図表 399】 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ (夫婦のみ世帯)



### 【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯)】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、『自立+ I』では「未利用」が48.4%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が25.8%となっている。『II』では「通所系・短期系のみ」が31.5%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が27.8%となっている。『III以上』では「通所系・短期系のみ」が43.2%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が32.4%となっている。

【図表 400】 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ (その他世帯)

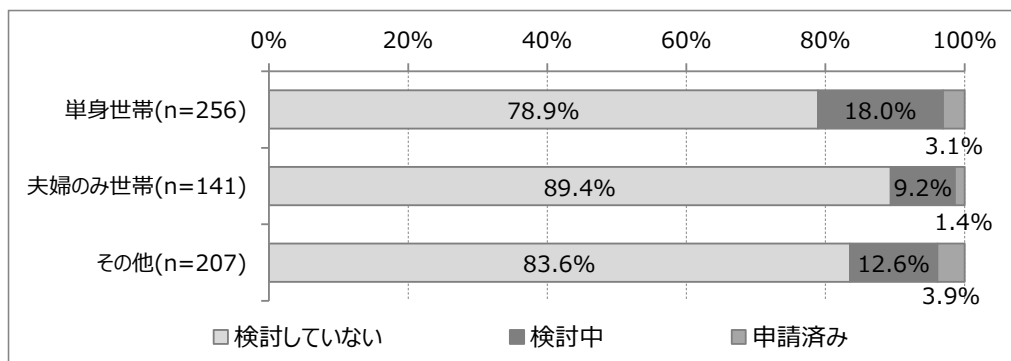


## (4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」

## 【世帯類型別・施設等検討の状況(全要介護度)】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、『単身世帯』では「検討していない」が78.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が18.0%となっている。『夫婦のみ世帯』では「検討していない」が89.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が9.2%となっている。『その他』では「検討していない」が83.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が12.6%となっている。

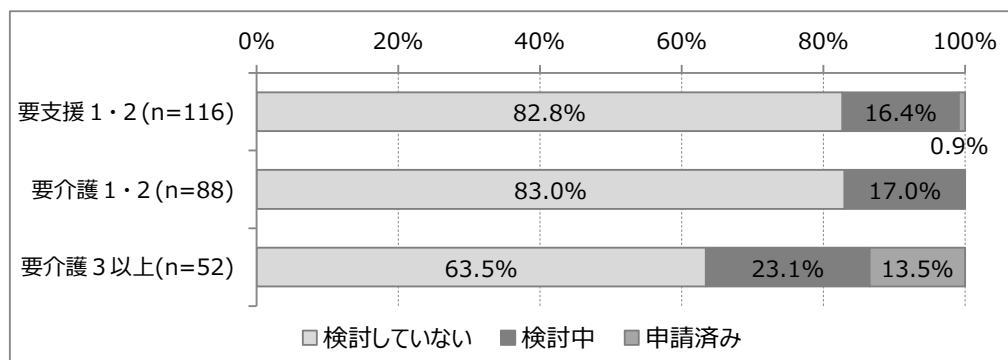
【図表 401】 世帯類型別・施設等検討の状況 (全要介護度)



## 【要介護度別・施設等検討の状況(単身世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果(要介護度)別にみると、『要支援1・2』では「検討していない」が82.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が16.4%となっている。『要介護1・2』では「検討していない」が83.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が17.0%となっている。『要介護3以上』では「検討していない」が63.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が23.1%となっている。

【図表 402】 要介護度別・施設等検討の状況 (単身世帯)

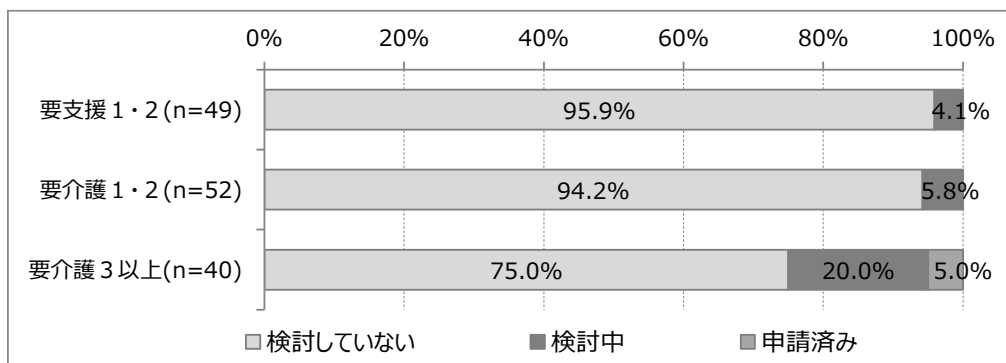




### 【要介護度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果(要介護度)別にみると、『要支援1・2』では「検討していない」が95.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が4.1%となっている。『要介護1・2』では「検討していない」が94.2%と最も割合が高く、次いで「検討中」が5.8%となっている。『要介護3以上』では「検討していない」が75.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が20.0%となっている。

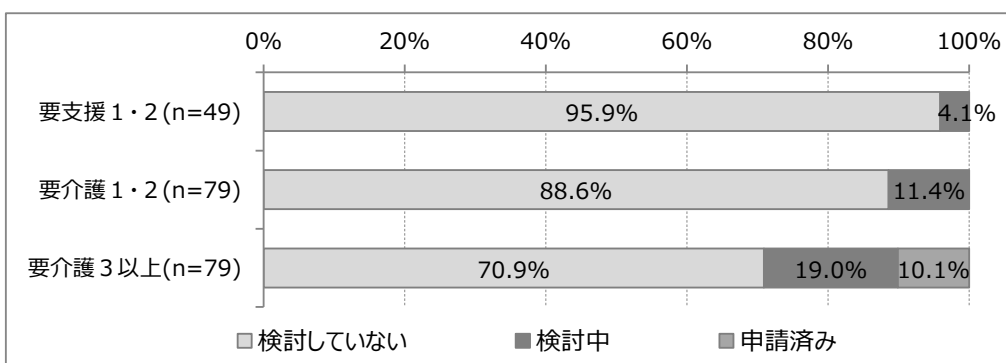
【図表 403】 要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



### 【要介護度別・施設等検討の状況(その他世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果(要介護度)別にみると、『要支援1・2』では「検討していない」が95.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が4.1%となっている。『要介護1・2』では「検討していない」が88.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が11.4%となっている。『要介護3以上』では「検討していない」が70.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が19.0%となっている。

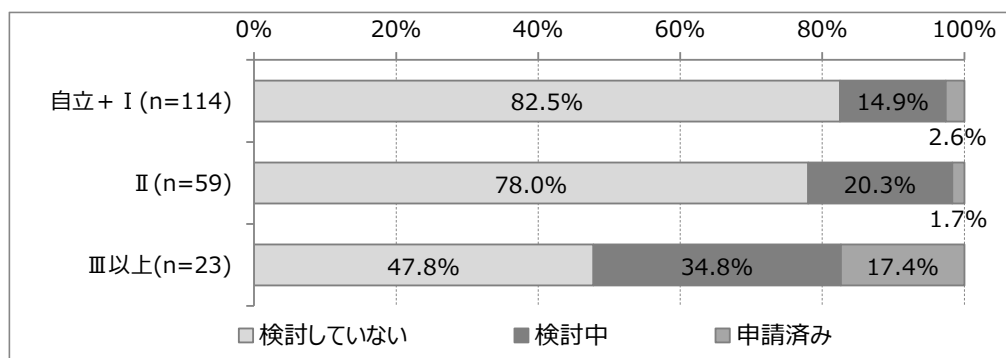
【図表 404】 要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）



### 【認知症自立度別・施設等検討の状況(単身世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、『自立+ I』では「検討していない」が82.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が14.9%となっている。『II』では「検討していない」が78.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が20.3%となっている。『III以上』では「検討していない」が47.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が34.8%となっている。

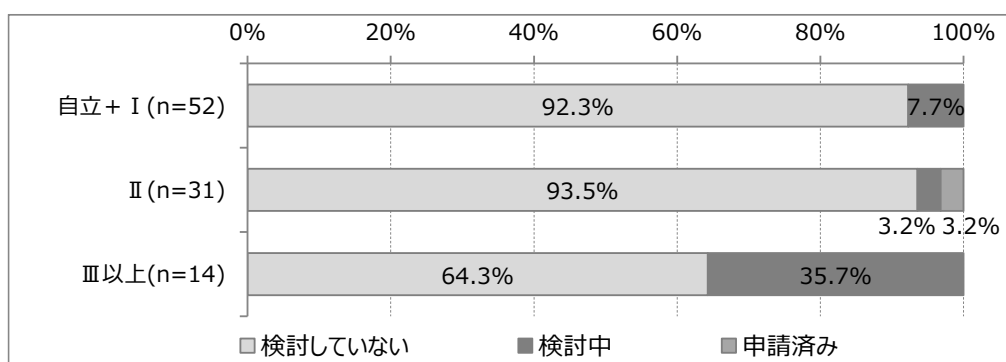
【図表 405】 認知症自立度別・施設等検討の状況 (単身世帯)



### 【認知症自立度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、『自立+ I』では「検討していない」が92.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が7.7%となっている。『II』では「検討していない」が93.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が3.2%となっている。『III以上』では「検討していない」が64.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が35.7%となっている。

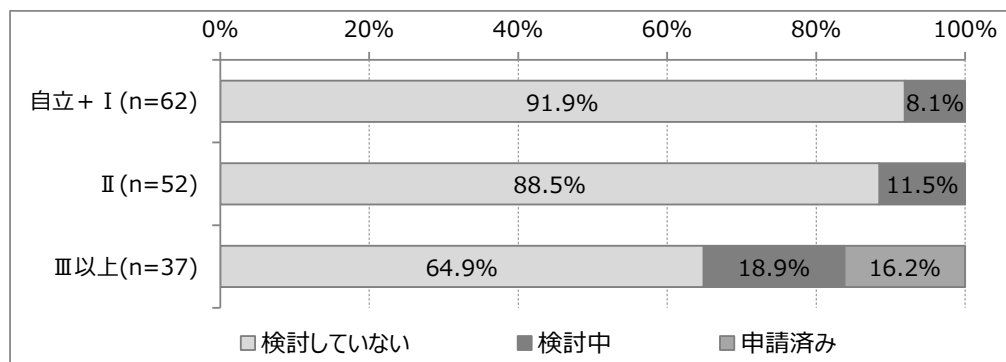
【図表 406】 認知症自立度別・施設等検討の状況 (夫婦のみ世帯)



### 【認知症自立度別・施設等検討の状況(その他の世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、『自立+ I』では「検討していない」が91.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が8.1%となっている。『II』では「検討していない」が88.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が11.5%となっている。『III以上』では「検討していない」が64.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が18.9%となっている。

【図表 407】 認知症自立度別・施設等検討の状況（その他の世帯）

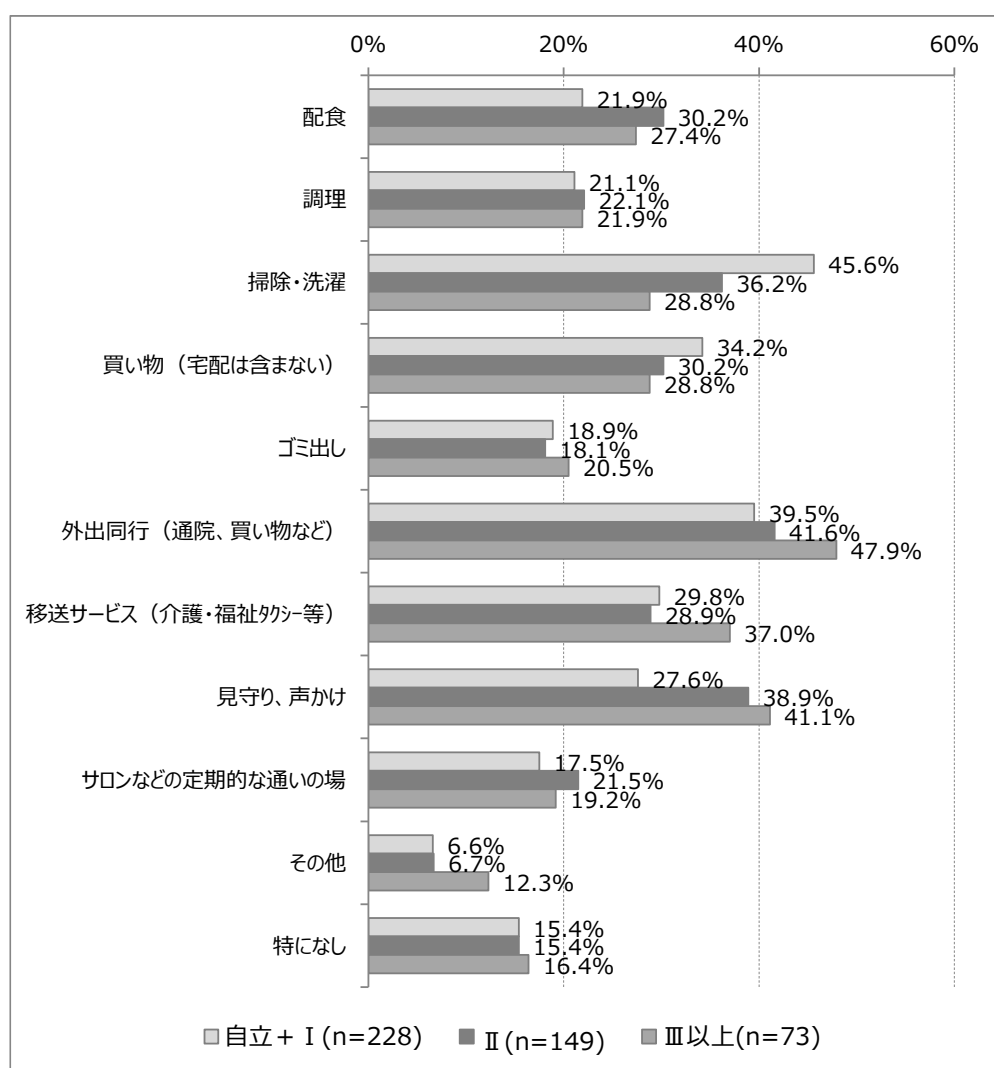


## サービス未利用の理由など

(1) 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービス  
 【認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、『自立+ I』では「掃除・洗濯」が45.6%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が39.5%となっている。『II』では「外出同行（通院、買い物など）」が41.6%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が38.9%となっている。『III以上』では「外出同行（通院、買い物など）」が47.9%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が41.1%となっている。

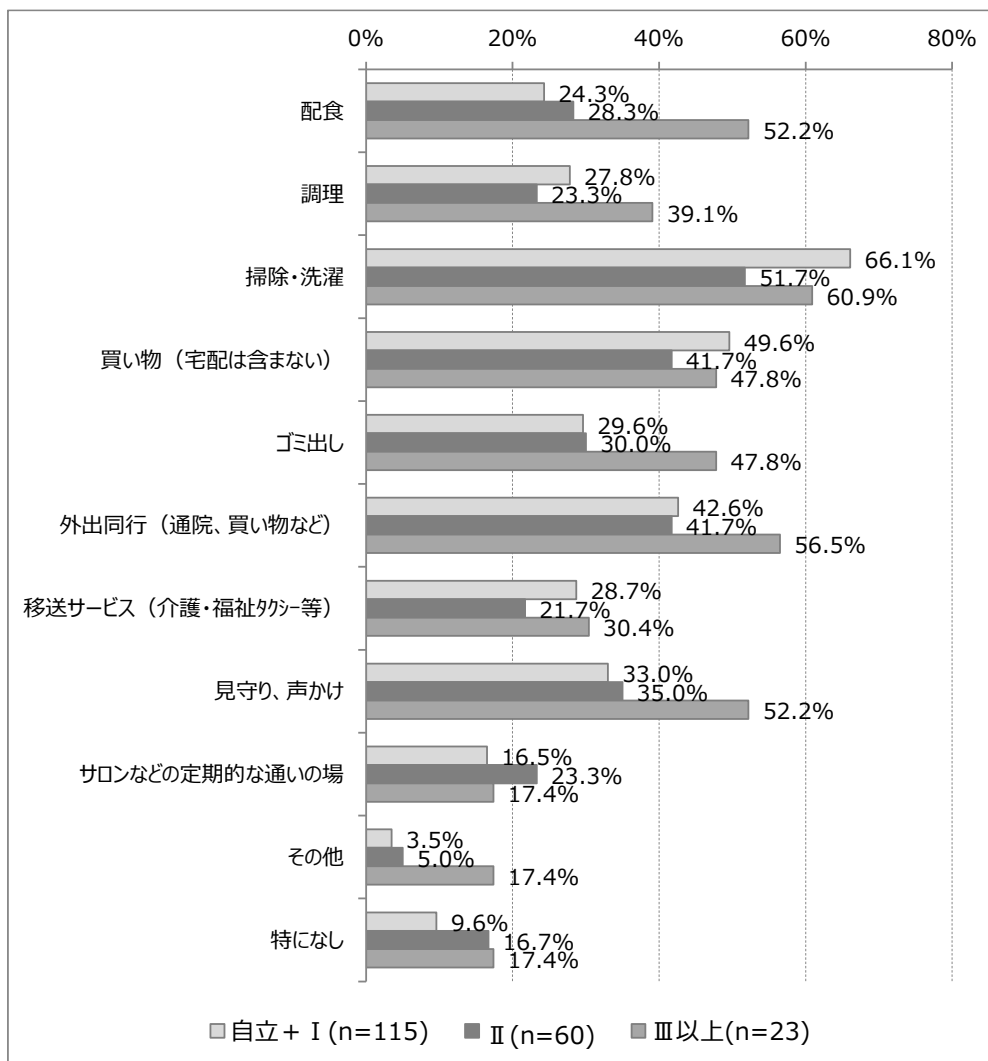
【図表 408】 認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



### 【認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、『自立+ I』では「掃除・洗濯」が66.1%と最も割合が高く、次いで「買い物(宅配は含まない)」が49.6%となっている。『II』では「掃除・洗濯」が51.7%と最も割合が高く、次いで「買い物(宅配は含まない)」、「外出同行(通院、買い物など)」が41.7%となっている。『III以上』では「掃除・洗濯」が60.9%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が56.5%となっている。

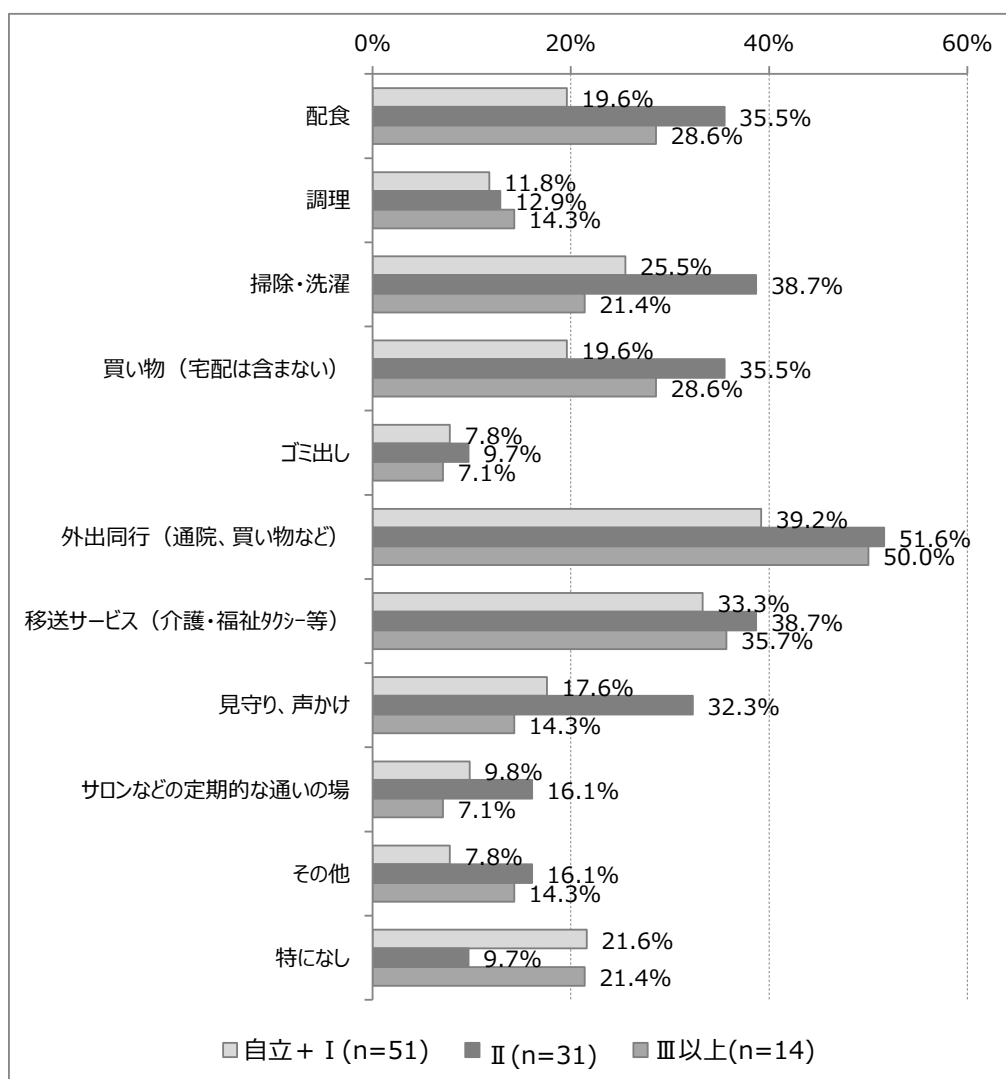
【図表 409】 認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス (単身世帯)



### 【認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、『自立+ I』では「外出同行（通院、買い物など）」が39.2%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が33.3%となっている。『II』では「外出同行（通院、買い物など）」が51.6%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が38.7%となっている。『III以上』では「外出同行（通院、買い物など）」が50.0%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が35.7%となっている。

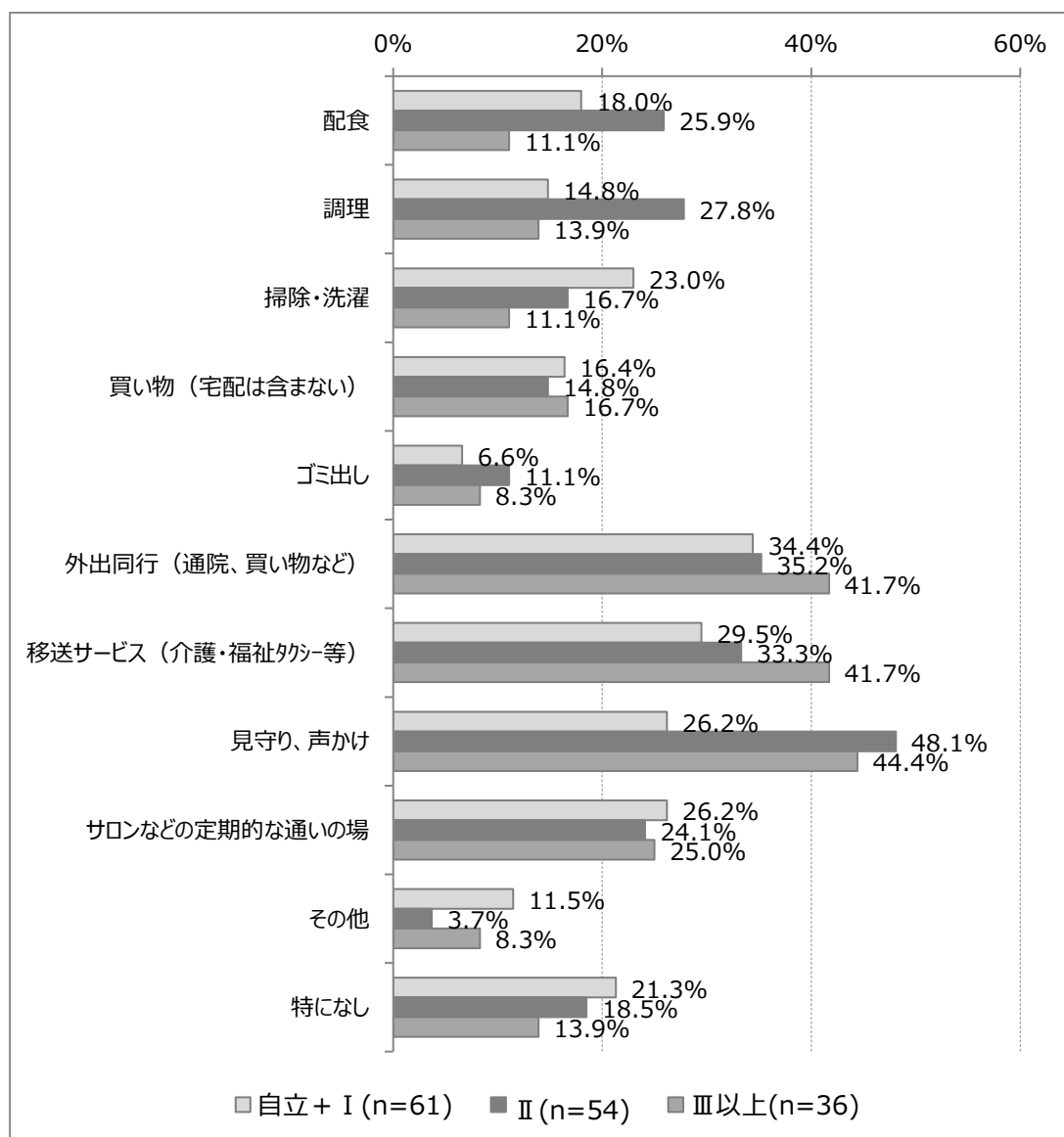
【図表 410】 認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）



### 【認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、『自立+ I』では「外出同行（通院、買い物など）」が34.4%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が29.5%となっている。『II』では「見守り、声かけ」が48.1%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が35.2%となっている。『III以上』では「見守り、声かけ」が44.4%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が41.7%となっている。

【図表 411】 認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）







## 參考資料

---



調査票

1. 一般高齢者+介護予防・日常生活圏域二一ズ調査 調査票

新市区高齢者の保健と福祉に関する調査

アンケート調査へのご協力のお願い

新市区では、高齢者の皆さんが、地域で自分らしくいきいきと暮らしていけるよう、だれもが人として尊重され、ともに支え合う地域社会をめざした取組を続けています。今後の取組を検討するにあたり、区民の皆さんのご意見をうかがいたく、このたびはあなた様へ調査へのご協力をお願いすることとなりました。

お忙しいところとは存じますが、より多くの皆さんのご意見を参考にしたいため、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和4年10月  
新市区

はじめにお読みください

- この調査は、区内にお住まいで要介護認定を受けていない、65歳以上の方(令和4年9月1日現在)を対象にしています。
- 質問には、令和4年9月1日現在の状況でお答えください。
- 回答は、あてはまる番号に○をつけてください。○をつける数はそれぞれの質問の指示に従ってください。(その他に○をつけた場合など、一部に、支字や数字を記入する質問もあります。)
- ご記入いただいた調査票は、10月26日(水)までに、筒封の返信用封筒でポストに投かんしてください。切手は必要ありません。
- ふりがなつきのアンケート用紙が必要な方は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

【個人情報保護および活用目的について】

- 調査で得た情報は、区の高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定や施策の推進のために利用し、目的以外の使用はいたしません。情報は、区および区指定の委託先にて適切に管理します。
- 本調査で得られた情報を活用するにあたり、厚生労働省の管理するデータベース内に情報を登録し、必要に応じて集計・分析するなど、個人が識別されない形で利用することがあります。



インターネットでアンケートに答えることもできます

下記のホームページから、パソコン、スマートフォン、タブレットが使えます。

<https://shinjuku-korei.com/>

見本

はじめに、右の「確認番号」を入力して送ってください。

確認番号は、個人を特定するものではありません。



確認番号

お問い合わせ先 新市区(Shinjuku City) 福祉部地域包括ケア推進課 担当:小池・松山  
Tel:03-5273-4193(直通) Fax:03-6205-5083

下の枠の中から調査票を記入した人に○をつけてください。  
この調査は宛名の本人にお願いしていますが、ご本人が回答できない場合、代理記入でも結構です。その場合はご家族等がご本人の意思を尊重して回答してください。

1. ご本人      2. ご家族      3. その他( )

ご本人が何らかの事情によりご不在の場合

この調査は、令和4年9月1日現在の情報でお送りしています。ご本人が何らかの事情によりご不在で、ご家族等が代わりに記入することが難しい場合には、下の枠のいずれかに○をつけ、筒封の返信用封筒で調査票を返送してください。

1. 医療機関に入院中      2. 福祉施設に入院中      3. 転居      4. 死亡  
5. その他( )

あなたご自身のことをおたずねします

問1 性別を教えてください。(1つに○)

1. 男性      2. 女性  
3. その他      4. 回答しない

問2 年齢をご記入ください。

令和4年9月1日現在の年齢でお答えください。

満( )歳 ※数字を記入してください。

問3 あなたのお住まいは、どの特別出張所管内ですか。(1つに○)

お届けした封筒の宛名ラベルの右下に記載されています。

1. 四谷      2. 算管町      3. 榎町      4. 若松町  
5. 大久保      6. 戸塚      7. 落合第一      8. 落合第二  
9. 柏木      10. 角管

問4 あなたの現在の状態は、次のうちどれですか。(1つに○)

おわかりにならない場合は、ご家族やケアマネジャーにおたずねになり、必ず記入してください。

1. 要介護認定を受けていない(非認定)      2. 要支援1  
3. 要支援2      4. 事業対象者(※)

※事業対象者  
基本チェックリストにより、介護予防・生活支援サービス事業(総合事業)の対象となった方。

**あなたのご家族や生活状況についておたずねします**

問5 家族構成を教えてください。(1つに○)  
ご夫婦と未婚のお子さんでお住まいの場合は、「4. 息子・娘との2世帯」に○をつけてください。孫を含む3世帯でお住まいの場合は「5. その他」に○をつけ、( )内に(孫を含む3世帯)と記入してください。

- 1. 1人暮らし
- 2. 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)
- 3. 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)
- 4. 息子・娘との2世帯
- 5. その他( )

問6 あなたは、普段の生活でとなたかの介護・介助が必要ですか。(1つに○)

- 1. 介護・介助は必要ない
- 2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
- 3. 現在、何らかの介護を受けている  
(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)

問7 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(1つに○)

- 1. 大変苦しい
- 2. やや苦しい
- 3. ふつう
- 4. ややゆとりがある
- 5. 大変ゆとりがある

問8 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。(1つに○)

16. 借家とは3～5以外の借家(UR・公社の借家、給与住宅等)を指します。

- 1. 持家(一戸建て)
- 2. 持家(集合住宅)
- 3. 公営賃貸住宅
- 4. 民間賃貸住宅(一戸建て)
- 5. 民間賃貸住宅(集合住宅)
- 6. 借家
- 7. その他( )

**からだを動かすことについておたずねします**

問9 階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか。(1つに○)  
手すりにつかまったり、壁を支えにせずに階段を昇っていますかということです。

- 1. できるし、している
- 2. できるだけしていない
- 3. できない

問10 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(1つに○)  
ひざ掛けやテーブルなどを支えにせずに椅子から立ち上がっていますかということです。

- 1. できるし、している
- 2. できるだけしていない
- 3. できない

問11 15分位続けて歩いていますか。(1つに○)

- 1. できるし、している
- 2. できるだけしていない
- 3. できない

問12 過去1年間に転んだ経験がありますか。(1つに○)

- 1. 何度もある
- 2. 1度ある
- 3. ない

問13 転倒に対する不安は大きいですか。(1つに○)

- 1. とても不安である
- 2. やや不安である
- 3. あまり不安でない
- 4. 不安でない

問14 週に1回以上は外出していますか。(1つに○)

- 1. ほとんど外出しない
- 2. 週1回
- 3. 週2～4回
- 4. 週5回以上

問15 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(1つに○)

- 1. とも減っている
- 2. 減っている
- 3. あまり減っていない
- 4. 減っていない

問 16 あなたは以下の運動(ウォーキング、体操、筋力トレーニング※)を、それぞれどれくらいの頻度でしていますか。(ア～ウそれぞれ1つに○)

	週2回以上	週1回程度	2週に1回程度	月1回以下	全くしない
ア. ウォーキング	1	2	3	4	5
イ. 体操	1	2	3	4	5
ウ. 筋力トレーニング	1	2	3	4	5

※筋力トレーニング  
筋力トレーニングとは、筋肉に「ややきつい」と感じる程度の負荷を繰り返しかける運動のことをいいます。  
足腰を揃えるためには、歩くなどの有酸素運動だけでなく、週1、2回の筋力トレーニングが効果的です。

**食べることにしておたずねします**

問 17 身長・体重を教えてください。(数字を記入 小数点以下は不要です)

身長 \_\_\_\_\_ cm      体重 \_\_\_\_\_ kg

問 18 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(1つに○)

1. はい      2. いいえ

問 19 お茶や汁物等でもせることがありますか。(1つに○)

1. はい      2. いいえ

問 20 口の渇きが気になりますか。(1つに○)

1. はい      2. いいえ

問 21 歯の数と入れ歯の利用状況を教えてください。(1つに○)  
(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて 32 本です。)

1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用  
2. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯の利用なし  
3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用  
4. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯の利用なし

問 22 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。(1つに○)

1. はい      2. いいえ

問 23 どなたかと食事をとにもする機会はありますか。(1つに○)

1. 毎日ある      2. 週に何度かある      3. 月に何度かある  
4. 年に何度かある      5. ほとんどない

問 24 最近一週間のうち、ほぼ毎日食べている食品に○をしてください。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 肉      2. 魚介類  
3. 卵      4. 大豆・大豆製品(納豆、豆腐など)  
5. 牛乳・乳製品(チーズ、ヨーグルトなど)      6. 緑黄色野菜(主に色の濃い野菜)  
7. 海藻類      8. いも類  
9. 果物      10. 油脂類(油を使った料理)

問 25 摂食嚥下(食べたり、飲み込んだりすること)についてどこかに相談したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. かかりつけ歯科医      2. かかりつけ医・在宅医(※)  
3. 在宅医療相談窓口      4. その他( )  
5. 相談したことはない

※在宅医  
訪問診療や往診を行う医師のことをいいます。

**日ごろの生活についておたずねします**

- 問 26 物忘れが多いと感じますか。(1つに○)  
 1. はい 2. いいえ
- 問 27 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。(1つに○)  
 1. はい 2. いいえ
- 問 28 今日が何月何日かわからない時がありますか。(1つに○)  
 1. はい 2. いいえ
- 問 29 バスや電車をを使って1人で外出していますか。(自家用車でも可)(1つに○)  
公共交通機関や自家用車を使って一人で外出していますかということです。  
 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
- 問 30 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(1つに○)  
 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
- 問 31 自分で食事の用意をしていますか。(1つに○)  
 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
- 問 32 自分で請求書の支払いをしていますか。(1つに○)  
 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
- 問 33 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(1つに○)  
 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

**地域での活動についておたずねします**

問 34 以下のような会・グループ等にとどのくらいの頻度で参加していますか。  
 ※①-⑧それぞれに回答してください。(それぞれ1つに○)

	週4回 以上	週2 ~3回	週1 回	月1 ~3回	年に 数回	参加して いない
①ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
②スポーツ関係のグループ	1	2	3	4	5	6
③趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤介護予防のための 通いの場(※)	1	2	3	4	5	6
⑥高齢者クラブ	1	2	3	4	5	6
⑦町会・自治会	1	2	3	4	5	6
⑧収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

※通いの場  
 高齢者の身近な場所で介護予防のために活動する「新宿いきいき体操」、「しんじゆく100ト  
 しに取組むグループ」、「通所型住民主体サードグループ」、「地域安心カフェ」、「ふれあ  
 いいきいきサロン」などを指します。

問 35 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、い  
 きいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたははその活動に参加者として参加して  
 たいと思いますか。(1つに○)

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい  
 3. 参加したくない 4. 既に参加している

問 36 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、い  
 きいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたははその活動に企画・運営(お世話役)  
 として参加してみたいと思いますか。(1つに○)

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい  
 3. 参加したくない 4. 既に参加している

**たすけあいについておたずねします**

問 37 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人。(あてはまるものすべてに○)

心配事や愚痴を聞いてくれる人が、子の配偶者(お嬢さん、お嫁さん)の場合は、「2. 同居の子ども」または「3. 別居の子ども」に○をつけてください。

- |                |               |           |
|----------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者         | 2. 同居の子ども     | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣         | 6. 友人     |
| 7. その他( )      | 8. そのような人はいない |           |

問 38 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人。(あてはまるものすべてに○)

心配事や愚痴を聞いてあげる人が、子の配偶者(お嬢さん、お嫁さん)の場合は、「2. 同居の子ども」または「3. 別居の子ども」に○をつけてください。

- |                |               |           |
|----------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者         | 2. 同居の子ども     | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣         | 6. 友人     |
| 7. その他( )      | 8. そのような人はいない |           |

問 39 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人。

(あてはまるものすべてに○)

看病や世話をしてくれる人が、子の配偶者(お嬢さん、お嫁さん)の場合は、「2. 同居の子ども」または「3. 別居の子ども」に○をつけてください。

- |                |               |           |
|----------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者         | 2. 同居の子ども     | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣         | 6. 友人     |
| 7. その他( )      | 8. そのような人はいない |           |

問 40 反対に、看病や世話をしてあげる人。(あてはまるものすべてに○)

看病や世話をしてあげる人が、子の配偶者(お嬢さん、お嫁さん)の場合は、「2. 同居の子ども」または「3. 別居の子ども」に○をつけてください。

- |                |               |           |
|----------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者         | 2. 同居の子ども     | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣         | 6. 友人     |
| 7. その他( )      | 8. そのような人はいない |           |

問 41 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。(1つに○)

- |            |            |            |
|------------|------------|------------|
| 1. 毎日ある    | 2. 週に何度かある | 3. 月に何度かある |
| 4. 年に何度かある | 5. ほとんどない  |            |

問 42 あなたの日々の暮らしの中で、地域のつながり(住民同士の助け合い・支え合いなど)についておたずねします。

(1) 地域のつながりの必要性(1つに○)

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 1. 必要だと思ふ          | 2. どちらかといえば必要だと思ふ |
| 3. どちらかといえば必要ないと思ふ | 4. 必要ないと思ふ        |

(2) 地域のつながりの実感(1つに○)

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1. 感じる          | 2. どちらかといえば感じる |
| 3. どちらかといえば感じない | 4. 感じない        |

問 43 あなたは、お住まいの地域の人から何らかの役割を期待されたり、頼りにされていると思いますか。(1つに○)

- |             |              |
|-------------|--------------|
| 1. とてもそう思ふ  | 2. そう思ふ      |
| 3. ややそう思ふ   | 4. あまりそう思わない |
| 5. 全くそう思わない |              |

問 44 あなたは、近所の方とどのようなお付き合いをしていますか。(1つに○)

- |                                    |
|------------------------------------|
| 1. お互いの家を行き来したり、一緒に出かけたりするなどのお付き合い |
| 2. 日常的に立ち話をする程度のお付き合い              |
| 3. あいさつをする程度の最小限のお付き合い             |
| 4. お付き合いはしていない                     |

問 50 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                         |
|-------------------------|
| 1. ない                   |
| 2. 高血圧                  |
| 3. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等)        |
| 4. 心臓病                  |
| 5. 糖尿病                  |
| 6. 脂質異常症(高脂血症)          |
| 7. 呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)     |
| 8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気         |
| 9. 腎臓・前立腺の病気            |
| 10. 筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等) |
| 11. 外傷(転倒・骨折等)          |
| 12. がん(悪性新生物)           |
| 13. 血液・免疫の病気            |
| 14. うつ病                 |
| 15. 認知症(アルツハイマー病等)      |
| 16. パーキンソン病             |
| 17. 目の病気                |
| 18. 耳の病気                |
| 19. その他( )              |

問 50で「1. ない」以外を選んだ方のみお答えください

問 50-1 受診している医療機関は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                       |
|-----------------------|
| 1. 診療所・クリニック(通院)      |
| 2. 病院                 |
| 3. 診療所・クリニック(往診や訪問診療) |

**介護予防(※)についておたずねします**

問 51 あなたは、「介護予防」について関心がありますか。(1つに○)

- |                  |
|------------------|
| 1. 関心がある         |
| 2. どちらかといえば関心がある |
| 3. どちらかといえば関心がない |
| 4. 関心がない         |

※介護予防

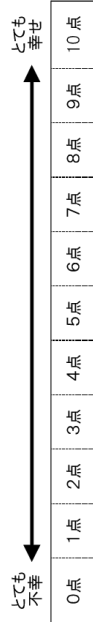
介護予防とは、高齢者が介護の必要な状態になることまでできる限り予防し、また介護の必要な方もできるだけ悪化しないようにすることです。住み慣れた地域で、いつまでも自分らしく、元気でいきいきと暮らしていくために、早めにフレイル(加齢に伴い心身の活力が低下した状態)に気づき、介護予防に取り組むことが大切です。

**健康状態についておたずねします**

問 45 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(1つに○)

- |            |
|------------|
| 1. とてもよい   |
| 2. まあよい    |
| 3. あまりよくない |
| 4. よくない    |

問 46 あなたは、現在のどの程度幸せですか。(1つに○)  
 (「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、該当すると感じる点数に○をつけてください。)



問 47 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。(1つに○)

- |        |
|--------|
| 1. はい  |
| 2. いいえ |

問 48 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しい感じがよくありましたか。(1つに○)

- |        |
|--------|
| 1. はい  |
| 2. いいえ |

問 49 タバコは吸っていますか。(1つに○)

- |               |
|---------------|
| 1. ほぼ毎日吸っている  |
| 2. 時々吸っている    |
| 3. 吸っていたがやめた  |
| 4. もともと吸っていない |



**かかりつけの医療機関についておたずねします**

問 52 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる診療所・クリニックの「かかりつけ医」がいますか。(1つに○)

- 1. いる
- 2. いない

**問 52 で「2. いない」を選んだ方のみお答えください**

問 52-1 かかりつけ医がない理由は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 今まで病気になる前からその程度、受診先を決めているから
- 2. 病院に通院しているため、診療所・クリニックにはほとんど行かないから
- 3. 健康で、かかりつけ医を持つ必要がないから
- 4. どのような診療所・クリニックを選べばよいかわからないから
- 5. 医療機関の情報がないためにわからないから
- 6. 近くに適当な診療所・クリニックがないから
- 7. その他( )
- 8. 特になし

(全員におたずねします。)

問 53 あなたは、治療や予防のために定期的に受診している「かかりつけ歯科医」がいますか。(1つに○)

- 1. いる
- 2. いない

問 54 あなたは、病院・診療所から処方された薬について相談できる「かかりつけ薬局」がありますか。(1つに○)

- 1. はい
- 2. いいえ

**在宅療養等についておたずねします**

問 55 あなたは、介護が必要になった場合、どこで生活を続けたいと思いますか。(1つに○)

- 1. 可能な限り自宅で生活を続けたい
- 2. 施設(特別養護老人ホームなど)へ入居したい
- 3. 介護、見守りや食事の提供などがついている高齢者専用の住居(有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅など)に入居したい
- 4. その他( )

問 56 ご自宅での療養は実現可能だと思いますか。(1つに○)

- 1. 実現可能だと思う
- 2. 実現は難しいと思う
- 3. わからない

**問 56 で「2. 実現は難しいと思う」を選んだ方のみお答えください**

問 56-1 実現は難しいと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 在宅医療や在宅介護でどのようなケアが受けられるかわからないから
- 2. 急に病状が変わったときの対応が不安だから
- 3. 往診してくれる医師がいないから
- 4. 訪問看護や介護の体制が不十分だから
- 5. 家族に負担をかけるから
- 6. 療養できる部屋やトイレなど、住環境が整っていないから
- 7. 介護してくれる家族がいないから
- 8. お金がかかるから
- 9. その他( )
- 10. 特に理由はない

**ACP（人生会議）（※）についておたずねします**

問 57 あなたは、ご自身の最期をどこで迎えたいと思いますか。(1つに○)

- 1. 自宅
- 2. 特別養護老人ホームなどの福祉施設
- 3. 病院などの医療機関
- 4. その他( )
- 5. わからない

問 58 あなたは、ACP（人生会議）について知っていますか。(1つに○)

- 1. 知っている(話し合ったことがある)
- 2. 知っている(話し合ったことはない)
- 3. 名称は聞いたことがある(話し合ったことはない)
- 4. 知らない

※ACP(人生会議)

生涯にわたって自分らしく生きていくために、自らが望む人生の最終段階における医療やケアについて、前もって考え、家族や友人、医療や介護の関係者などと繰り返し話し合い共有する取組を「ACP:アドバンス・ケア・プランニング(人生会議)」と呼びます。より馴染みやすい言葉となるよう、「人生会議」と愛称がつけました。

**緩和ケア（※）についておたずねします**

問 59 あなたは、「緩和ケア」について、知っていますか。(1つに○)

- 1. 知っている
- 2. 名称は聞いたことがある
- 3. 知らない

問 60 あなたは、緩和ケアが必要になった時、早期から痛みやつらさの緩和を主とした「緩和ケア」を受けたいですか。(1つに○)

- 1. 受けたい
- 2. 受けたくない
- 3. わからない

※緩和ケア

がんやその他の病気の治療に伴う「体のつらさ」「心のつらさ」「生活のつらさ」などの「つらさ」を持つご本人とご家族に対する治療や支援のことです。

**認知症についておたずねします**

問 61 認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいますか。(1つに○)

- 1. はい
- 2. いいえ

問 62 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(1つに○)

- 1. はい
- 2. いいえ

問 63 あなたは今までに、自身や家族等が認知症になったときのことについて、考えたことがありますか。(1つに○)

- 1. ある
- 2. ない

問 64 もの忘れや認知症に関して相談したことがある方は、どちらに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 診療所・クリニックのかかりつけ医
- 2. 病院の内科、神経内科、精神科など
- 3. 老年科・もの忘れ外来など認知症の専門外来がある病院
- 4. 認知症疾患医療センター(※)
- 5. 保健所・保健センター
- 6. 高齢者総合相談センター
- 7. その他( )
- 8. 相談したことがない

※認知症疾患医療センター

認知症の専門相談、診断、身体合併症や行動・心理症状への対応、地域連携の推進、人材育成等を実施している医療機関です。(東京都指定)

問 65 もしあなたが認知症になった場合、大切にしたいことは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. いままでも住み慣れた自宅で生活できること
2. 家族とよい関係を築くこと
3. 自分のことを自分で決めること
4. 友人や知人とのつながりを大切にすること
5. 趣味や料理など自分の好きなことを続けること
6. 自分を支えてくれる専門職とよい関係を保つこと
7. 同じような立場の人と交流すること
8. その他( )
9. わからない

問 66 認知症が早期に発見された場合、進行を遅らせるなどの対応策があることがわかってきています。早期に発見された場合、どのような支援が必要だと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 医療的な支援(認知症の進行に合わせた適切な指導・助言等)
2. 介護保険などの公的サービス
3. ボランティア等が行う地域活動による支援
4. 介護する家族等への支援
5. 認知症に関する情報提供
6. 認知症に関する相談窓口の充実
7. 地域住民の理解や見守り
8. その他( )
9. わからない

16

問 67 以下の認知症に関する事業やサービスを知っていますか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 認知症サポーター養成講座
2. 認知症講演会
3. 認知症介護者家族会
4. 認知症・もの忘れ相談
5. 高齢者見守りキーホルダー
6. 認知症安心ガイドブック
7. 認知症介護者相談
8. 徘徊高齢者探検サービス
9. 一人暮らし認知症高齢者への生活支援サービス
10. 1～9をいずれも知らない

**権利擁護についておたずねします**

問 68 あなたは、成年後見制度(※)を知っていますか。(1つに○)

1. 詳しく知っている
2. 概要については、知っている
3. 聞いたことはあるが、内容は知らない
4. 聞いたことがない

※成年後見制度  
認知症、知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない人の権利を守る制度です。成年後見人などがこうした人の意思を尊重し、法律面や生活面でその人らしい生活を守るため、お手伝いします。  
制度には次の2種類があります。  
○「法定後見」<すでに判断能力が不十分な方に>  
家庭裁判所によって選ばれた成年後見人・保佐人・補助人が、本人の利益を考えながら、代理権や同意権・取消権を活用することによって、本人を保護・支援する制度です。  
○「任意後見」<将来の不安に備えたい方に>  
判断能力が不十分になった場合に備えて、本人があらかじめ選んだ方(将来の任意後見人)と将来お願いする内容を決め、公正証書で契約します。

17

問 69 あなたは、あなた自身あるいは家族・親族が認知症等により判断能力が十分でなくなつたとき、成年後見制度を利用したいと思いませんか。(1つに○)

- 1. 現在利用している
- 2. 今後利用したい
- 3. 利用は考えていない
- 4. わからない

問 69 で「3. 利用は考えていない」または「4. わからない」を選んだ方のみお答えください

問 69-1 成年後見制度を利用しない理由として、どのようなものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. まだ制度の利用を必要とする状況ではない
- 2. 制度内容、手続きがわかりにくい
- 3. 相談先がわからない
- 4. 費用の負担が心配
- 5. 信頼できる後見人候補者が思いあたららない
- 6. 特に考えたことがない
- 7. その他( )

健康・福祉サービスの情報や相談窓口についておたずねします

問 70 あなたは、「高齢者総合相談センター(※)」の名称を知っていますか。(1つに○)

- 1. はい
- 2. いいえ

※高齢者総合相談センター  
高齢者の介護、福祉、健康、医療などに関して総合的な支援を行うために、区内 11 か所に設置している相談機関です。保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャー等の資格を持った職員が、連携しながらチームとなって相談支援にあたっています。

問 71 あなたは、「高齢者総合相談センター」が何をする機関か知っていますか。(1つに○)

- 1. はい
- 2. いいえ

問 72 あなたは、あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるか知っていますか。(1つに○)

- 1. はい
- 2. いいえ

問 73 健康や福祉サービスに関する情報についてうかがいます。

(1) あなたは日ごろ、健康や福祉サービスに関する情報をどのような手段で入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 家族や親戚
- 2. 友人・知人、近所の人
- 3. 民生委員・児童委員
- 4. 区役所、特別出張所
- 5. 保健所・保健センター
- 6. 診療所・病院
- 7. ケアマネジャー
- 8. 高齢者総合相談センター
- 9. 区の広報紙
- 10. インターネット(区のホームページなど)
- 11. その他( )
- 12. 特に入手していない

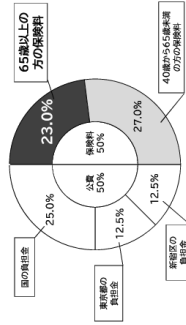
(2) あなたの入手している健康や福祉サービスに関する情報量は足りていると思えますか。(1つに○)

- 1. 足りている
- 2. おおむね足りている
- 3. やや不足している
- 4. 不足している

**介護保険制度(※)についておたずねします**

※介護保険制度は、40歳以上の方が加入者となり保険料を納め、介護が必要となった時に1割、2割または3割の利用者負担を支払い、サービスを利用できる制度です。  
介護保険サービス費用に対する保険料、公費(税)の負担割合が決まっていますので、サービス利用が多くなり費用が増加すれば、保険料もそれに伴って上昇する仕組みです。

介護保険の財源構成(公費と保険料の関係)



問 74 今後、高齢者の増加に伴い、サービスにかかる費用も増大することが予想されます。介護保険のサービスと費用負担について、あなたのお考えに最も近いものは、次のうちどれですか。(1つに○)

1. 介護保険料が上昇したとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである
2. 介護保険サービスの利用時に支払う利用者負担割合が増えたとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである
3. 介護保険料の上昇を抑えるために、介護保険サービスの水準を抑えるべきである
4. 介護保険サービスの利用時に支払う利用者負担割合を抑えるために、介護保険サービスの水準を抑えるべきである
5. その他( )
6. わからない

**通信機器の利用状況等についておたずねします**

問 75 通信機器の所有状況やインターネット等の利用状況についておたずねします。

(1) 所有状況※①-④それぞれに回答してください。(それぞれ1つに○)

	①スマートフォン	②タブレット端末	③パソコン	④その他( )
1. 持っている	1	1	1	1
2. 持っていない	2	2	2	2

(2) 過去1年のインターネットの利用状況(ここでいうインターネットの利用には、仕事やプライベートの別、利用した場所、所有機器(自分の機器かどうか)などを問いません。)\*①-④それぞれに回答してください。(それぞれ1つに○)

	①スマートフォン	②タブレット端末	③パソコン	④その他( )
1. 毎日少なくとも1回は利用	1	1	1	1
2. 週に少なくとも1回程度は利用(毎日ではない)	2	2	2	2
3. 月に少なくとも1回は利用(毎週ではない)	3	3	3	3
4. 年に少なくとも1回は利用(毎月ではない)	4	4	4	4
5. 全く利用しない	5	5	5	5



2. 要支援・要介護認定者調査 調査票

新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査

アンケート調査へのご協力のお願い

新宿区では、高齢者の皆さんが、地域で自分らしくいきいきと暮らしていただけるよう、だれもが元気で尊重され、ともに支え合う地域社会をめざした取組を続けています。今後の取組を検討するにあたり、区民の皆さんのご意見をうかがいたく、このたびはあなた様へのご協力を願います。

お忙しいところとは存じますが、より多くの皆さんのご意見を参考にしたいため、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和4年10月  
新宿区

はじめにお読みください

- この調査は、区内にお住まいで要支援・要介護認定を受けている65歳以上の方(令和4年9月1日現在)を対象としています。問35からはご家族等に回答をお願いするものです。
- 質問には、令和4年9月1日現在の状況でお答えください。
- 回答は、あてはまる番号に○をつけてください。○をつける数はそれぞれ質問の指示に従ってください。「その他」に○をつけた場合など、一部に、文字や数字を記入する箇所もあります。
- ご記入いただいた調査票は、10月26日(水)までに、同封の返封封筒でポストに投かんしてください。切手は必要ありません。
- ふりなつきのアンケート用紙が変更の方は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

【個人情報保護および活用目的について】

○調査で得た情報は、区の高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定や施策の評価のために利用し、目的以外の使用はいたしません。情報は、区および区指定の委託先にて適切に管理します。



インターネットでアンケートに答えることもできます

カードのホームページから、パソコン、スマートフォン、タブレットが使えます。

<https://shinjuku-korei.com/> 見本

はじめに、若の「確認番号」を「力」して運んでください。

確認番号は、個人を特定するものではありません。



見本

確認番号

調査内容についてご不明な点は、下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先 新宿区(Shinjuku City)福祉部地域包括ケア推進課 担当:小笠・松山

Tel:03-5273-4193(直通) Fax:03-6205-5083

★問1から問34は宛名のご本人(以下、「あなた」)についておたずねします。

下の枠の中から調査票を記入した人に○をつけてください。

この調査は宛名のご本人にお願していますが、ご本人が回答できない場合、代理記入でも結構です。その場合はご家族等がご本人の意思を尊重して回答してください。

1. ご本人      2. ご家族      3. その他( )

ご本人が何らかの事情によりご不在の場合

この調査は、令和4年9月1日現在の情報でお送りしています。ご本人が何らかの事情によりご不在で、ご家族等が代わりに記入することが難しい場合には、下の枠のいずれかに○をつけ、同封の返信用封筒で調査票を返送してください。

1. 医療機関に入院中      2. 福祉施設に入院中      3. 転居      4. 死亡  
5. その他( )

あなたご自身のことをおたずねします

問1 性別を教えてください。(1つに○)

1. 男性      2. 女性  
3. その他      4. 回答しない

問2 年齢をご記入ください。

令和4年9月1日現在の年齢をお答えください。

満( )歳 ※数字を記入してください。

問3 あなたのお住まいは、どの特別出張所管内ですか。(1つに○)

お届れた封筒の宛名ラベルの右下に記載されています。

1. 四谷      2. 筆筒町      3. 櫻町      4. 若松町  
5. 大久保      6. 戸塚      7. 落合第一      8. 落合第二  
9. 柏木      10. 角普

問4 あなたの現在の要介護度は、次のうちどれですか。(1つに○)

おわかりにならない場合は、ご家族やケアマネジャーにおたずねになり、必ず記入してください。

1. 要支援1      2. 要支援2      3. 要介護1      4. 要介護2  
5. 要介護3      6. 要介護4      7. 要介護5

問5 あなたが、介護を必要とするようになった主な原因は、次のうちどれですか。(1つに○)

- |                           |              |
|---------------------------|--------------|
| 1. 脳血管疾患(脳出血、脳梗塞、くも膜下出血等) | 2. 骨折・転倒     |
| 3. 高齢による衰弱                | 4. 心臓病       |
| 5. 関節の病気(リウマチ・変形性膝関節症等)   | 6. 認知症       |
| 7. 難病(パーキンソン病等)           | 8. がん(悪性新生物) |
| 9. 呼吸器疾患                  | 10. 糖尿病      |
| 11. 脊髄損傷                  | 12. 視覚・聴覚障害  |
| 13. その他( )                | 14. わからない    |

**あなたのご家族や生活状況についておたずねします**

問6 家族構成を教えてください。(1つに○)  
ご夫婦と未婚のお子さんでお住まいの場合は、「4. 息子・娘との2世帯」に○をつけてください。孫を含む3世帯でお住まいの場合は「5. その他」に○をつけ、( )内に(孫を含む3世帯)と記入してください。

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1. 1人暮らし             | 2. 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上) |
| 3. 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下) | 4. 息子・娘との2世帯         |
| 5. その他( )            |                      |

問7 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(1つに○)

- |             |             |        |
|-------------|-------------|--------|
| 1. 大変苦しい    | 2. やや苦しい    | 3. ふつう |
| 4. ややゆとりがある | 5. 大変ゆとりがある |        |

問8 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。(1つに○)

- 「6. 借家」は3～5以外の借家(UR・公社の借家、給与住宅等)を指します。
- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1. 持家(一戸建て)     | 2. 持家(集合住宅)     |
| 3. 公営賃貸住宅       | 4. 民間賃貸住宅(一戸建て) |
| 5. 民間賃貸住宅(集合住宅) | 6. 借家           |
| 7. その他( )       |                 |

**食べることにしておたずねします**

問9 半年前と比べて固いものが食べにくくなりましたか。(1つに○)

- |       |        |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問10 お茶や汁物等でむせることがありますか。(1つに○)

- |       |        |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問11 口の渇きが気になりますか。(1つに○)

- |       |        |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問12 摂食嚥下(食べたり、飲み込んだりすること)についてどこかに相談したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- |              |                  |
|--------------|------------------|
| 1. かかりつけ歯科医  | 2. かかりつけ医・在宅医(※) |
| 3. 在宅医療相談窓口  | 4. その他( )        |
| 5. 相談したことはない |                  |

※在宅医  
訪問診療や往診を行う医師のことをいいます。



**たすけあいについておたずねします**

問 13 あなたの日々の暮らしの中で、地域のつながりが(住民同士の助け合い・支え合いなど)についておたずねします。

(1) 地域のつながりの必要性(1つに○)

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 1. 必要だと思う          | 2. どちらかといえば必要だと思う |
| 3. どちらかといえば必要ないと思う | 4. 必要ないと思う        |

(2) 地域のつながりの実感(1つに○)

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1. 感じる          | 2. どちらかといえば感じる |
| 3. どちらかといえば感じない | 4. 感じない        |

問 14 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人。(あてはまるものすべてに○)

心配事や愚痴を聞いてくれる人が、子の配偶者(お婿さん、お嫁さん)の場合は、「2. 同居の子ども」または「3. 別居の子ども」に○をつけてください。

- |                |               |           |
|----------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者         | 2. 同居の子ども     | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣         | 6. 友人     |
| 7. その他( )      | 8. そのような人はいない |           |

問 15 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人。(あてはまるものすべてに○)

心配事や愚痴を聞いてあげる人が、子の配偶者(お婿さん、お嫁さん)の場合は、「2. 同居の子ども」または「3. 別居の子ども」に○をつけてください。

- |                |               |           |
|----------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者         | 2. 同居の子ども     | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣         | 6. 友人     |
| 7. その他( )      | 8. そのような人はいない |           |

**健康状態についておたずねします**

問 16 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                         |                     |
|-------------------------|---------------------|
| 1. ない                   | 3. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等)    |
| 2. 高血圧                  | 5. 糖尿病              |
| 4. 心臓病                  | 7. 呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等) |
| 6. 脂質異常症(高脂血症)          | 9. 腎臓・前立腺の病気        |
| 8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気         | 11. 外傷(転倒・骨折等)      |
| 10. 筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等) | 13. 血液・免疫の病気        |
| 12. がん(悪性新生物)           | 15. 認知症(アルツハイマー病等)  |
| 14. うつ病                 | 17. 目の病気            |
| 16. パーキンソン病             | 19. その他( )          |
| 18. 耳の病気                |                     |

問 16で「1. ない」以外を選んだ方のみお答えください

問 16-1 受診している医療機関は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                       |       |
|-----------------------|-------|
| 1. 診療所・クリニック(通院)      | 2. 病院 |
| 3. 診療所・クリニック(往診や訪問診療) |       |

**かかりつけの医療機関についておたずねします**

問 17 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる診療所・クリニックの「かかりつけ医」がいますか。(1つに○)

- 1. いる
- 2. いない

問 17で「2. いない」を選んだ方のみお答えください

問 17-1 かかりつけ医がない理由は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 今まで病気になる前からその都度、受診先を決めているから
- 2. 病院に通院しているため、診療所・クリニックにはほとんど行かないから
- 3. 健康で、かかりつけ医を持つ必要がないから
- 4. どのような診療所・クリニックを選べばよいかわからないから
- 5. 医療機関の情報がないためにわからないから
- 6. 近くに適当な診療所・クリニックがないから
- 7. その他( )
- 8. 特になし

(全員におたずねします。)

問 18 あなたは、治療や予防のために定期的に受診している「かかりつけ歯科医」がいますか。(1つに○)

- 1. いる
- 2. いない

問 19 あなたは、病院・診療所から処方された薬について相談できる「かかりつけ薬局」がありますか。(1つに○)

- 1. はい
- 2. いいえ

**在宅療養等についておたずねします**

問 20 あなたは、これから今のお住まい(自宅等)で生活を続けたいと思いますか。(1つに○)

- 1. 可能な限り自宅で生活を続けたい
- 2. 施設(特別養護老人ホームなど)へ入居したい
- 3. 介護、見守りや食事の提供などがついている高齢者専用の住居(有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅など)に入居したい
- 4. その他( )

**ACP(人生会議)※についておたずねします**

問 21 あなたは、ご自身の最期をどこで迎えたいと思いますか。(1つに○)

- 1. 自宅
- 2. 特別養護老人ホームなどの福祉施設
- 3. 病院などの医療機関
- 4. その他( )
- 5. わからない

問 22 あなたは、ACP(人生会議)について知っていますか。(1つに○)

- 1. 知っている(話し合ったことがある)
- 2. 知っている(話し合ったことはない)
- 3. 名称は聞いたことがある(話し合ったことはない)
- 4. 知らない

※ACP(人生会議)

生涯にわたって自分らしく生きていくために、自らが望む人生の最終段階における医療やケアについて、前もって考え、家族や友人、医療や介護の関係者などと繰り返し話し合い共有する取組を「ACP:アドバンス・ケア・プランニング(人生会議)」と呼びます。より馴染みやすい言葉となるよう、「人生会議」と愛称がつきました。

問 26 で「3. 利用は考えていない」または「4. わからない」を選んだ方のみお答えください

問 26-1 成年後見制度を利用しない理由として、どのようなものがありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. まだ制度の利用を必要とする状況ではない
2. 制度内容、手続きがわかりにくい
3. 相談先がわからない
4. 費用の負担が心配
5. 信頼できる後見人候補者が思いあたらない
6. 特に考えたことがない
7. その他( )

**健康・福祉サービスの情報や相談窓口についておたずねします**

問 27 あなたは、「高齢者総合相談センター(※)」の名称を知っていますか。(1つに○)

1. はい
2. いいえ

問 28 あなたは、「高齢者総合相談センター」が何をする機関か知っていますか。(1つに○)

1. はい
2. いいえ

問 29 あなたは、あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるか知っていますか。(1つに○)

1. はい
2. いいえ

※高齢者総合相談センター  
高齢者の介護、福祉、健康、医療などに關して総合的な支援を行うために、区内11か所に設置している相談機関です。保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャー等の資格を持った職員が、連携しながらチームとなって相談支援にあたっています。

**緩和ケア(※)についておたずねします**

問 23 あなたは、「緩和ケア」について、知っていますか。(1つに○)

1. 知っている
2. 名称は聞いたことがある
3. 知らない

問 24 あなたは、緩和ケアが必要になった時、早期から痛みやつらさの緩和を主とした「緩和ケア」を受けたいですか。(1つに○)

1. 受けたい
2. 受けたくない
3. わからない

※緩和ケア  
がんやその他の病気の治癒に伴う「体のつらさ」「心のつらさ」「生活のつらさ」などの「つらさ」を持つ本人とご家族に対する治療や支援のことです。

**権利擁護についておたずねします**

問 25 あなたは、成年後見制度(※)を知っていますか。(1つに○)

1. 詳しく知っている
2. 概要については、知っている
3. 聞いたことはあるが、内容は知らない
4. 聞いたことがない

※成年後見制度  
認知症、知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない人の権利を守る制度です。成年後見人などがこうした人の意思を尊重し、法律面や生活面でその人らしい生活を守るため、お手伝いします。  
制度には次の2種類があります。  
○「法定後見」<すでに判断能力が不十分な方へ>  
家庭裁判所によって選ばれた成年後見人・保佐人・補助人が、本人の利益を考えながら、代理権や同意権・取消権を活用することによって、本人を保護・支援する制度です。  
○「任意後見」<将来の不安に備えたい方へ>  
判断能力が不十分になった場合に備えて、本人があらかじめ選んだ方(将来の任意後見人)と将来お願いする内容を定め、公正証書で契約します。

問 26 あなたは、あなた自身あるいは家族・親族が認知症等により判断能力が十分でなくなったとき、成年後見制度を利用したいと思えますか。(1つに○)

1. 現在利用している
2. 今後利用したい
3. 利用は考えていない
4. わからない

問 30 健康や福祉サービスに関する情報についてうかがいます。

(1) あなたは日ごろ、健康や福祉サービスに関する情報をどのような手段で入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 家族や親戚
- 2. 友人・知人、近所の人
- 3. 民生委員・児童委員
- 4. 区役所、特別出張所
- 5. 保健所・保健センター
- 6. 診療所・病院
- 7. ケアマネジャー
- 8. 高齢者総合相談センター
- 9. 区の広報紙
- 10. インターネット(区のホームページなど)
- 11. その他( )
- 12. 特に入手していない

(2) あなたの入手している健康や福祉サービスに関する情報量は足りていると思いますか。(1つに○)

- 1. 足りている
- 2. おおむね足りている
- 3. やや不足している
- 4. 不足している

**介護保険サービスの利用状況と利用意向についておたずねします**

問 31 あなたは、現在介護保険サービスを利用していますか。(1つに○)

- 1. 利用している
- 2. 利用していない

問 31で「2. 利用していない」を選んだ方のみお答えください

問 31-1 介護保険サービスを利用していない理由は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. できるだけ他人の世話にはなりたくないから
- 2. 家族等の介護で十分だから
- 3. 利用料金が高いから
- 4. 介護保険サービス事業者の対応がよくないから
- 5. 介護保険サービスの利用の仕方がよくわからないから
- 6. 現在は介護保険サービスを受ける必要がないから
- 7. その他( )

問 31で「1. 利用している」を選んだ方のみお答えください

問 31-2 現在ご利用の介護保険サービスと利用満足度についておたずねします。

訪問系	介護保険サービス名 ※下記1および8のサービスは介護予防・生活支援サービス事業(総合事業)も含む	(1)現在利用しているサービス(あてはまるものすべてに○)				(2)現在利用しているサービスサービスの満足度(それぞれ1つに○)			
		1	2	3	4	1.満足	2.おおむね満足	3.やや不満	4.不満
訪問系	1. 訪問介護(ホームヘルプサービス)	ホームヘルパーに自宅を訪問してもらい、身体介護や生活援助を利用できる				1.満足	2.おおむね満足	3.やや不満	4.不満
	2. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	日中・夜間を通じて、定期巡回や緊急時など必要に応じて随時訪問を行う。介護と看護の連携を図り、入浴、排せつの介護や療養上の世話や診療の補助などのサービスを利用できる				1.満足	2.おおむね満足	3.やや不満	4.不満
	3. 夜間対応型訪問介護	24時間安心して在宅生活が送れるよう、定期巡回や通報システムを合わせた夜間専用の訪問介護を利用できる				1.満足	2.おおむね満足	3.やや不満	4.不満
	4. 訪問入浴介護	自宅に浴槽を持ち込んでもらい、入浴の介助を受ける				1.満足	2.おおむね満足	3.やや不満	4.不満
	5. 訪問看護	看護師に訪問してもらい、病状の観察、薬の指導、医療的な処置等(医師の指示による)をしてもらう				1.満足	2.おおむね満足	3.やや不満	4.不満
	6. 訪問リハビリテーション	リハビリの専門家に訪問してもらい、自宅でリハビリを利用できる				1.満足	2.おおむね満足	3.やや不満	4.不満
	7. 居宅療養管理指導	医師、歯科医師、薬剤師、歯科衛生士などに訪問してもらい、薬の飲み方、食事など療養上の管理・指導を利用できる				1.満足	2.おおむね満足	3.やや不満	4.不満
	8. 通所介護(デイサービス)	デイサービスセンターなどで、食事・入浴などの介護や機能訓練を利用できる				1.満足	2.おおむね満足	3.やや不満	4.不満
	9. 認知症対応型通所介護(認知症デイサービス)	認知症の方が食事・入浴などの介護や支援、機能訓練を日帯的に行うことができる				1.満足	2.おおむね満足	3.やや不満	4.不満
	10. 地域密着型通所介護(小規模デイサービス)	定員18人以下の小規模な通所介護				1.満足	2.おおむね満足	3.やや不満	4.不満
	11. 通所リハビリテーション(デイケア)	介護老人保健施設や病院・診療所で、リハビリの専門家による機能訓練などを日帯的に行うことができる				1.満足	2.おおむね満足	3.やや不満	4.不満
	12. 短期入所生活介護(ショートステイ)	介護老人福祉施設などに短期間入所し、食事・入浴などの介護や機能訓練を利用できる				1.満足	2.おおむね満足	3.やや不満	4.不満
	13. 短期入所看護介護(ショートステイ)	介護老人保健施設などに短期間入所し、医学的な管理のもとでの介護や看護、機能訓練などを利用できる				1.満足	2.おおむね満足	3.やや不満	4.不満

問31で「1. 利用している」を選んだ方のみお答えください

問 31-3 介護保険サービスの利用に要する費用(1割~3割の利用者負担)について、どのようにお感じですか。(1つに○)

1. 受けているサービスには安い
2. 受けているサービスに対し、適切な料金である
3. 負担感はあるが、必要なサービス利用のためにはやむを得ない
4. 負担が重く、費用が高くないようサービスの利用量を調整している
5. 費用は全く気にしていない、いくら支払っているかわからない

(全員におたずねします。)  
問 32 介護保険サービスで、あなたが今後新たに利用してみたい(または続けたい)ものは、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- |        |                           |                       |
|--------|---------------------------|-----------------------|
| 【訪問系】  | 1. 訪問介護(ホームヘルプサービス)       | 2. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護   |
|        | 3. 夜間対応型訪問介護              | 4. 訪問入浴介護             |
|        | 5. 訪問看護                   | 6. 訪問リハビリテーション        |
|        | 7. 居宅療養管理指導               |                       |
| 【通所系】  |                           |                       |
|        | 8. 通所介護(デイサービス)           | 9. 認知症対応型通所介護(認知症デイ)  |
|        | 10. 地域密着型通所介護(小規模デイ)      | 11. 通所リハビリテーション(デイケア) |
| 【短期入所】 |                           |                       |
|        | 12. 短期入所生活介護(ショートステイ)     | 13. 短期入所療養介護(ショートステイ) |
| 【多機能型】 |                           |                       |
|        | 14. 小規模多機能型居宅介護           | 15. 看護小規模多機能型居宅介護     |
| 【居住系】  |                           |                       |
|        | 16. 特定施設入居者生活介護           |                       |
|        | 17. 認知症対応型共同生活介護(グループホーム) |                       |
|        | 18. 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護  |                       |
| 【施設系】  |                           |                       |
|        | 19. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)   | 20. 介護老人保健施設(老人保健施設)  |
|        | 21. 介護療養型医療施設             | 22. 介護医療院             |
| 【その他】  |                           |                       |
|        | 23. 福祉用具貸与                | 24. 特定福祉用具購入費の支給      |
|        | 25. 住宅改修費の支給              | 26. 特になし              |

13

介護保険サービス名	(1)現在利用しているサービス(あてはまるものすべてに○)	(2)現在利用しているサービスの満足度(それぞれ1つに○)
多機能型	14. 小規模多機能型居宅介護	1. 満足 2. おおむね満足 3. やや不満 4. 不満
	15. 看護小規模多機能型居宅介護	1. 満足 2. おおむね満足 3. やや不満 4. 不満
居住系	16. 特定施設入居者生活介護	1. 満足 2. おおむね満足 3. やや不満 4. 不満
	17. 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	1. 満足 2. おおむね満足 3. やや不満 4. 不満
	18. 地域密着型介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	1. 満足 2. おおむね満足 3. やや不満 4. 不満
施設系	19. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	1. 満足 2. おおむね満足 3. やや不満 4. 不満
	20. 介護老人保健施設(老人保健施設)	1. 満足 2. おおむね満足 3. やや不満 4. 不満
	21. 介護療養型医療施設	1. 満足 2. おおむね満足 3. やや不満 4. 不満
	22. 介護医療院	1. 満足 2. おおむね満足 3. やや不満 4. 不満
その他	23. 福祉用具貸与	1. 満足 2. おおむね満足 3. やや不満 4. 不満
	24. 特定福祉用具購入費の支給	1. 満足 2. おおむね満足 3. やや不満 4. 不満
	25. 住宅改修費の支給	1. 満足 2. おおむね満足 3. やや不満 4. 不満

(3) 介護保険サービスの総合的な満足度は、次のうちどれですか。(1つに○)

1. 満足
2. おおむね満足
3. やや不満
4. 不満

12

(2) 過去1年のインターネットの利用状況(ここでいうインターネットの利用には、仕事やプライベートの別、利用した場所、所有機器(自分の機器かどうか)などを問いません。)※①-④それぞれに回答してください。(それぞれ1つに○)

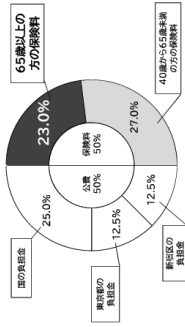
	①スマートフォン	②タブレット端末	③パソコン	④その他( )
1. 毎日少なくとも1回は利用	1	1	1	1
2. 週に少なくとも1回程度は利用(毎日ではない)	2	2	2	2
3. 月に少なくとも1回は利用(毎週ではない)	3	3	3	3
4. 年に少なくとも1回は利用(毎月ではない)	4	4	4	4
5. 全く利用しない	5	5	5	5

(3) 過去1年間に利用した通信機器を使った機能・サービス

※①-④それぞれに回答してください。(それぞれあてはまるものすべてに○)

	①スマートフォン	②タブレット端末	③パソコン	④その他( )
1. 電子メールの送受信	1	1	1	1
2. ホームページやブログ、動画の閲覧	2	2	2	2
3. SNS(※)の利用(Facebook, Twitter, LINE など)	3	3	3	3
4. 二次元コード、バーコード(※)などの読み取り	4	4	4	4
5. オンライン講座、ウェブ会議等(※)への参加 (Zoom, Skype など利用)	5	5	5	5
6. 金融取引(インターネットによる銀行・証券取引など)	6	6	6	6
7. 商品・サービスの購入(オンラインショッピング)	7	7	7	7
8. 電子自治体の利用(公共の施設・講座の予約など)	8	8	8	8
9. その他( )	9	9	9	9
10. いずれも利用していない	10	10	10	10

介護保険の財源構成(公費と保険料の関係)



【介護保険制度について】  
介護保険制度は、40歳以上の方が加入者となり保険料を納め、介護が必要となった時に1割、2割または3割の利用者負担を支払い、サービスを利用できる制度です。  
介護保険サービス費用に対する保険料、公費(税)の負担割合が決まっていますので、サービス利用が多くなり費用が増加すれば、保険料はそれに応じて上昇する仕組みです。

問 33 今後、高齢者の増加に伴い、サービスにかかる費用も増大することが予想されます。介護保険のサービスと費用負担について、あなたのお考えに最も近いものは、次のうちどれですか。(1つに○)

1. 介護保険料が上昇したとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである
2. 介護保険サービスの利用時に支払う利用者負担割合が増えたとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである
3. 介護保険料の上昇を抑えるために、介護保険サービスの水準を抑えるべきである
4. 介護保険サービスの利用時に支払う利用者負担割合を抑えるために、介護保険サービスの水準を抑えるべきである
5. その他( )
6. わからない

**通信機器の利用状況等についておたずねします**

問 34 通信機器の所有状況やインターネット等の利用状況についておたずねします。

(1) 所有状況※①-④それぞれに回答してください。(それぞれ1つに○)

	①スマートフォン	②タブレット端末	③パソコン	④その他( )
1. 持っている	1	1	1	1
2. 持っていない	2	2	2	2

※SNS  
自分の日記やコメント、意見、写真などをインターネットに公開して、個人が情報を発信できる仕組み。友人を招待したり、他の利用者と交流することもできます。  
※二次元コード、バーコード  
緑線様の帯や白黒模様様の四角い図形(本調査票の裏面にもあります)をカメラで撮ると様々な情報を読み取ってくれるもので、スマートフォンなどのほとんどが対応しています。チラシやテレビ画面の二次元コードからホームページを見たり、お店で現金を使わずに支払いすることなどにも使われています。  
※オンライン講座、ウェブ会議等  
実際に対面せず、通信機器の画面を使い、インターネットを通じて受講したり会議をするものです。

問 34 (1) のすべての通信機器で「2. 持っていない」を選んだ方のみお答えください  
問 34-1 スマートフォンなど通信機器を持っていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自分の生活には必要ないと思っているから
2. どのように使えばよいかわからないから
3. 必要があれば家族に任せればよいと思っているから
4. 情報漏えいや詐欺被害等のトラブルにあうのではないかと不安だから
5. 購入や利用に係る料金が高いと感じるから
6. どこで何を購入すればよいかわからないから
7. その他( )

**家族等介護者の状況についておたずねします**

★問 35 から問 43 は主な介護者の方(以下、「あなた」)におたずねします。

- 問 35 あなたの性別を教えてください。(1つに○)
1. 男性
  2. 女性
  3. その他
  4. 回答しない

問 36 あなたの年齢をご記入ください。  
令和4年9月1日現在の年齢でお答えください。  
満( )歳 ※数字を記入してください。

- 問 37 あなたは、介護保険の認定を受けていますか。(1つに○)
1. 受けていない
  2. 要支援1
  3. 要支援2
  4. 要介護1
  5. 要介護2
  6. 要介護3
  7. 要介護4
  8. 要介護5
  9. 事業対象者(※)

※事業対象者  
基本予備システムにより、介護予防・生活支援サービス事業(総合事業)の対象となった方。

- 問 38 あなたからみて、宛名のご本人はどちらにあたりますか。(1つに○)
1. 配偶者
  2. 自身の親
  3. 配偶者の親
  4. 祖父母
  5. 兄弟・姉妹
  6. 子
  7. 子の配偶者
  8. その他( )

- 問 39 あなたを手助けするような、副介護者の方はいますか。(1つに○)
1. いる
  2. いない

- 問 40 あなたの介護負担感は、次のうちどれですか。(1つに○)
1. 負担である
  2. どちらかといえば負担である
  3. どちらかといえば負担ではない
  4. 負担ではない

問 40で「1. 負担である」または「2. どちらかといえば負担である」を選んだ方のみお答えください

- 問 40-1 それはどのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)
1. 仕事との面立が大変なこと
  2. 子育てとの面立が大変なこと
  3. 学業との面立が大変なこと
  4. 複数の人の介護が大変なこと
  5. 経済的負担が大きいこと
  6. 精神的負担が大きいこと
  7. 肉体的な負担が大きいこと
  8. その他( )

問 42 問 42 で「1. ある」を選んだ方のみお答えください

問 42-2 認知症のご本人の介護において、必要と思うことは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 医療的な支援(認知症の進行に合わせた適切な指導・助言等)
2. 介護保険などの公的サービス
3. ボランティア等が行う地域活動による支援
4. 介護する家族等への支援
5. 認知症に関する情報提供
6. 認知症に関する相談窓口の充実
7. 地域住民の理解や見守り
8. その他( )

(全員におたずねします。)

問 43 介護者の立場から、高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区へのご要望、ご意見がありましたらご自由にお書きください。


以上で質問は終了です。ご協力ありがとうございました。  
記入が済みましたら調査票を同封の返信用封筒に入れて、  
切手は貼らずに令和4年10月26日(水)までに  
ポストに投かんしてください。

(全員におたずねします。)

問 41 介護者(あなた)への支援として、区に力を入れてほしいことは、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 介護に関する相談機能の充実
2. 医療に関する相談機能の充実
3. 家族など介護者のリフレッシュのための制度
4. 家族介護教室など介護技術を学ぶ講座の充実
5. 介護者同士の交流の場の充実
6. 介護に関する資料が充実している情報コーナーの設置
7. 介護ボランティアグループやNPO(民間非営利団体)の育成
8. その他( )
9. 特にない

**(宛名のご本人の) 認知症についておたずねします**

問 42 あなたが介護している方(宛名のご本人)には、認知症の症状がありますか。  
(1つに○)

1. ある      2. ない      3. わからない

問 42 問 42 で「1. ある」を選んだ方のみお答えください

問 42-1 あなたは、介護している方が認知症ではないかと気づいた、あるいは不安になったときに、どちらに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 診療所・クリニックのかかりつけ医
2. 病院の内科、神経内科、精神科など
3. 老年科・もの忘れ外来など認知症の専門外来がある病院
4. 認知症疾患医療センター(※)
5. 保健所・保健センター
6. 高齢者総合相談センター
7. ケアマネジャー
8. その他( )
9. 相談していない

※認知症疾患医療センター  
認知症の専門相談、診断、身体合併症や行動・心理症状への対応、地域連携の推進、人材育成等を実施している医療機関です。(東京都指定)



### 3. 第2号被保険者調査 調査票

下の枠の中から調査票を記入した人に○をつけてください。  
 この調査は宛名のご本人にお願いしていますが、ご本人が回答できない場合、代理記入でも結構です。その場合はご家族等がご本人の意思を尊重して回答してください。

1. ご本人      2. ご家族      3. その他(      )

ご本人が何らかの事情によりご不在の場合  
 この調査は、令和4年9月1日現在の情報でお送りしています。ご本人が何らかの事情によりご不在で、ご家族等が代わりに記入することが難しい場合には、下の枠のいずれかに○をつけ、同封の返信用封筒で調査票を送してください。

1. 医療機関に入院中      2. 福祉施設に入所中      3. 転居      4. 死亡  
 5. その他(      )

#### あなたご自身のことをおたずねします

問1 性別を教えてください。(1つに○)  
 1. 男性      2. 女性  
 3. その他      4. 回答しない

問2 年齢をご記入ください。  
 令和4年9月1日現在の年齢でお答えください。  
 満(      )歳 ※数字を記入してください。

問3 あなたのお住まいは、どの特別出張所管内ですか。(1つに○)  
 お届けした封筒の宛名ラベルの右下に記載されています。

1. 四谷	2. 笹笥町	3. 櫻町	4. 若松町
5. 大久保	6. 戸塚	7. 落合第一	8. 落合第二
9. 柏木	10. 角善		

### 新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査

アンケート調査へのご協力をお願いします

新宿区では、皆さんが将来にわたり地域で自分らしくいきいきと暮らしていけるよう、だれもが安心して尊重され、ともに支え合う地域社会をめざした取組を続けています。今後の取組を検討するにあたり、区民の皆さんのご意見をうかがいたく、このたびはあなた様にご協力をお願いすることとなりました。

お忙しいところとは存じますが、より多くの皆さんのご意見を参考にしたいため、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和4年10月  
 新宿区

#### はじめにお読みください

- この調査は、区内にお住まいで妻交棒・妻介護認定を受けていない40歳～64歳の方(令和4年9月1日現在)を対象としています。
- 質問には、令和4年9月1日現在の状況でお答えください。
- 回答は、あてはまる番号に○をつけてください。○をつける数はそれぞれの質問の指示に従ってください。「その他」に○をつけた場合など、一部に、文字や数字を記入する質問もあります。
- ご記入いただいた調査票は、10月26日(水)までに、同封の返信用封筒でポストに投かんしてください。切手は必要ありません。
- かりなづきのアンケート用紙が必要の方は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

【個人情報保護および活用目的について】  
 ○調査で得た情報は、区の高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定や施策の評価のために利用し、目的以外の使用はいたしません。情報は、区および区指定の委託先にて適切に管理します。

インターネットでアンケートに答えることもできます  
 下記のホームページから、パソコン、スマートフォン、タブレットが使えます。  
<https://shinjuku-korei.com/> 見本

はじめに、右の「確認番号」を入力して運んでください。  
 確認番号は、個人を特定するものではありません。

調査内容についてご不明な点は、下記までお問い合わせください。  
 お問い合わせ先 新宿区(Shinjuku City)福祉地域包括ケア推進課 担当:小笠・松山  
 Tel:03-5273-4193(直通) Fax:03-6205-5083

**あなたのご家族や生活状況についておたずねします**

問4 家族構成を教えてください。(1つに○)  
ご夫婦と未婚のお子さんでお住まいの場合は、「1. 息子・娘との2世帯」に○をつけください。孫を含む3世帯でお住まいの場合は「5. その他」に○をつけ、( )内に(孫を含む3世帯)と記入してください。

- 1. 1人暮らし
- 2. 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)
- 3. 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)
- 4. 息子・娘との2世帯
- 5. その他( )

問5 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(1つに○)

- 1. 大変苦しい
- 2. やや苦しい
- 3. ぶつう
- 4. ややゆとりがある
- 5. 大変ゆとりがある

**地域での活動についておたずねします**

問6 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。  
※①～⑥それぞれに回答してください。(それぞれ1つに○)

	週4回 以上	週2 ～3回	週1回	月1 ～3回	年に 数回	参加して いない
①ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
②スポーツ関係のグループ	1	2	3	4	5	6
③趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤町会・自治会	1	2	3	4	5	6
⑥収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

問7 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(1つに○)

- 1. 是非参加したい
- 2. 参加してもよい
- 3. 参加したくない
- 4. 既に参加している

問8 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(1つに○)

- 1. 是非参加したい
- 2. 参加してもよい
- 3. 参加したくない
- 4. 既に参加している

**たすけあいについておたずねします**

問9 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。(1つに○)

- 1. 毎日ある
- 2. 週に何度かある
- 3. 月に何度かある
- 4. 年に何度かある
- 5. ほとんどない

問10 あなたの日々の暮らしの中で、地域のつながり(住民同士の助け合い・支え合いなど)についておたずねします。

(1) 地域のつながりの必要性(1つに○)

- 1. 必要だと思う
- 2. どちらかといえば必要だと思う
- 3. どちらかといえば必要ないと思う
- 4. 必要ないと思う

(2) 地域のつながりの実感(1つに○)

- 1. 感じる
- 2. どちらかといえば感じる
- 3. どちらかといえば感じない
- 4. 感じない

問11 あなたは、お住まいの地域の人から何らかの役割を期待されたり、頼りにされると感じますか。(1つに○)

- 1. とてもそう思う
- 2. そう思う
- 3. ややそう思う
- 4. あまりそう思わない
- 5. 全くそう思わない

問 12 あなたは、近所の方とどのようなお付き合いをしていますか。(1つに○)

1. お互いの家を行き来したり、一緒に出かけたりするなどのお付き合い
2. 日常的に立ち話をする程度のお付き合い
3. あいさつをする程度の最小限のお付き合い
4. お付き合いはしていない

**健康状態や健康づくり等についておたずねします**

問 13 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(1つに○)

1. とてもよい
2. まあよい
3. あまりよくない
4. よくない

問 14 現在治療中、または後遺症のある病気がありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. ない
2. 高血圧
3. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等)
4. 心臓病
5. 糖尿病
6. 脂質異常症(高脂血症)
7. 呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)
8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気
9. 腎臓・前立腺の病気
10. 筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)
11. 外傷(転倒・骨折等)
12. がん(悪性新生物)
13. 血液・免疫の病気
14. うつ病
15. 認知症(アルツハイマー病等)
16. パーキンソン病
17. 目の病気
18. 耳の病気
19. その他( )

問 14で「1. ない」以外を選んだ方のお答えください

問 14-1 受診している医療機関は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 診療所・クリニック(通院)
2. 病院
3. 診療所・クリニック(往診や訪問診療)

(全員におたずねします。)

問 15 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる診療所・クリニックの「かかりつけ医」がいますか。(1つに○)

1. いる
2. いない

問 15で「2. いない」を選んだ方のお答えください

問 15-1 かかりつけ医がいない理由は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 今まで病気になることがその都度、受診先を決めているから
2. 病院に通院しているため、診療所・クリニックにはほとんど行かないから
3. 健康で、かかりつけ医を持つ必要がないから
4. どのような診療所・クリニックを選べばよいかわからないから
5. 医療機関の情報がわからないためわからないから
6. 近くに適当な診療所・クリニックがないから
7. その他( )
8. 特になし

(全員におたずねします。)

問 16 いまいきと充実した活動的な高齢期を実現するために、40代から取り組んだほうがよいことは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 足腰の筋力を鍛えること
2. バランス能力を高めるような運動を行うこと
3. 骨を丈夫にすること
4. 適正な体重(※)を維持すること
5. バランスのよい食生活をすること
6. タバコの煙を吸わないこと(禁煙・減煙・分煙)
7. お酒の飲み方に気を付けること(お酒を飲みすぎない、週に2日程度休肝日を設けるなど)
8. 定期的に健康診断を受けること
9. 区報や掲示板など、地域に発信されている情報に関心を持つ習慣をつけること
10. 近所づきあいをすること
11. 趣味を持つこと
12. 因った時に助け合う仲間を作ること
13. その他( )
14. 特になし

問 17 あなたが現在、実践していることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 足腰の筋力を鍛えること
2. バランス能力を高めるような運動を行うこと
3. 骨を丈夫にすること
4. 適正な体重(※)を維持すること
5. バランスのよい食生活すること
6. タバコの煙を吸わないこと(禁煙・減煙・分煙)
7. お酒の飲み方に気を付けること(お酒を飲みすぎない、週に2日程度休肝日を設けるなど)
8. 定期的に健康診断を受けること
9. 区報や掲示板など、地域に発信されている情報に関心を持つ習慣をつけること
10. 近所づきあいをすること
11. 趣味を持つこと
12. 困った時に助け合う仲間を作ること
13. その他( )
14. 待っていない

※適正な体重  
 ※目標とするBMI(体格指数)=体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)の範囲は、年齢によって異なります。18～49歳は18.5～24.9、50～64歳は20.0～24.9、65歳以上は21.5～24.9です。

**若年性認知症(※)についておたずねします**

※若年性認知症  
 65歳未満で発症する認知症を指します。  
 高齢期に発症する認知症も65歳未満で発症する認知症も病理的な違いはありません。  
 (原因になる疾患)  
 アルツハイマー病、脳血管疾患、頭部外傷後遺症、前頭側頭葉変性症等  
 (症 状)  
 意欲低下や抑うつ状態、性格変化、行動様式の変化等  
 年齢的に若いことから、うつ病やストレスなどといった他の病気と誤解され、なかなか診断がつかない場合も少なくありません。また、働き盛りに発症するため、治療や介護の期間が長期にわたったり、本人や家族の経済面や心理面等においての負担は大きいといえます。  
 (医 療)  
 若年性認知症の診断・治療を行うには、神経内科や精神科、もの忘れ外来など、専門医療機関を受診する必要があります。

問 18 あなたは「若年性認知症」という病気を知っていますか。(1つに○)

1. 知っている
2. 言葉は聞いたことがある
3. 知らない

問 18で「1. 知っている」を選んだ方のみお答えください

問 18-1 「若年性認知症」を何でお知りになりましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. テレビや新聞、雑誌など
2. 家族、知人、友人など
3. 区の講演会やリーフレットなど
4. 病院・診療所や薬局のチラシ、ポスターなど
5. 身近な家族、親族などが発症したため
6. その他( )

(全員におたずねします。)

問 19 あなたは、もの忘れや理解・判断力の低下、そのことによる仕事上のトラブルなど気になる症状があったとき、どちらに相談しようと思いますか。  
 (あてはまるものすべてに○)

1. 診療所・クリニックのかかりつけ医
2. 病院の内科、神経内科、精神科など
3. もの忘れ外来など認知症の専門外来がある病院
4. 認知症疾患医療センター(※)
5. 保健所・保健センター
6. 高齢者総合相談センター
7. その他( )
8. わからない

※認知症疾患医療センター  
 認知症の専門相談、診断、身体合併症や行動・心理症状への対応、地域連携の推進、人材育成等を実施している医療機関です。(東京都指定)

問 20 あなたは、若年性認知症の支援には何が必要だと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 若年性認知症という病気や早期発見・早期対応の重要性を正しく理解するための普及啓発
2. 若年性認知症を診てくれる専門医療機関情報
3. 身近な場所で気軽に相談できる相談窓口
4. 家族や介護者同士が気軽に情報交換などができる場
5. 勤労支援
6. 日中活動できる場
7. その他( )
8. わからない

### 在宅療養等についておたずねします

問 21 あなたは、介護が必要になった場合、どこで生活を続けたいと思いますか。  
(1つに○)

1. 可能な限り自宅で生活を続けたい
2. 施設(特別養護老人ホームなど)へ入居したい
3. 介護、見守りや食事の提供などがついている高齢者専用の住居(有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅など)に入居したい
4. その他( )

### ACP(人生会議) ※)についておたずねします

問 22 あなたは、ご自身の最期をどこで迎えたいと思いますか。(1つに○)

1. 自宅
2. 特別養護老人ホームなどの福祉施設
3. 病院などの医療機関
4. その他( )
5. わからない

問 23 あなたは、ACP(人生会議)について知っていますか。(1つに○)

1. 知っている(話し合ったことがある)
2. 知っている(話し合ったことはない)
3. 名称は聞いたことがある(話し合ったことはない)
4. 知らない

※ACP(人生会議)

生涯にわたって自分らしく生きていくために、自らが望む人生の最終段階における医療やケアについて、前もって考え、家族や友人、医療や介護の関係者などと繰り返し話し合い共有する取組を「ACP:アドバンス・ケア・プランニング(人生会議)」と呼びます。より馴染みやすい言葉となるよう、「人生会議」と愛称がつけました。

### 緩和ケア ※)についておたずねします

問 24 あなたは、「緩和ケア」について、知っていますか。(1つに○)

1. 知っている
2. 名称は聞いたことがある
3. 知らない

問 25 あなたは、緩和ケアが必要になった時、早期から痛みやつらさの緩和を主とした「緩和ケア」を受けたいですか。(1つに○)

1. 受けたい
2. 受けたくない
3. わからない

※緩和ケア

がんやその他の病気の治療に伴う「体のつらさ」「心のつらさ」「生活のつらさ」などの「つらさ」を持つご本人とご家族に知する治療や支援のことです。

**健康・福祉サービスの相談窓口についておたずねします**

問 28 あなたは、「高齢者総合相談センター（※）」の名称を知っていますか。(1つに○)  
 1. はい 2. いいえ

問 29 あなたは、「高齢者総合相談センター」が何をする機関か知っていますか。(1つに○)  
 1. はい 2. いいえ

問 30 あなたは、あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるか知っていますか。(1つに○)  
 1. はい 2. いいえ

※高齢者総合相談センター  
 高齢者の介護、福祉、健康、医療などに關して総合的な支援を行うために、区内11か所に設置している相談機関です。保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャー等の資格を持った職員が、連携しながらチームとなって相談支援にあたっています。

問 31 あなたは、地域で困っている高齢者を見かけたり、異変に気付いたとき、どちらに相談しますか。(あてはまるものすべてに○)  
 1. 友人・知人、近所の人 2. 町会・自治会  
 3. 民生委員・児童委員 4. 区役所・特別出張所  
 5. 高齢者総合相談センター 6. 保健所・保健センター  
 7. 社会福祉協議会 8. その他( )  
 9. 相談はしない

**権利擁護についておたずねします**

問 26 あなたは、成年後見制度(※)を知っていますか。(1つに○)  
 1. 詳しく知っている 2. 概要については、知っている  
 3. 聞いたことはあるが、内容は知らない 4. 聞いたことがない

※成年後見制度  
 認知症、知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない人の権利を守る制度です。成年後見人などがこうした人の意思を尊重し、法律面や生活面でその人らしい生活を守るため、お手伝いします。  
 制度には次の2種類があります。  
 ○「法定後見」<すでに判断能力が不十分な方へ>  
 家庭裁判所によって選ばれた成年後見人・保佐人・補助人が、本人の利益を考えながら、代理権や同意権・取消権を活用することによって、本人を保護・支援する制度です。  
 ○「任意後見」<将来の不安に備えたい方へ>  
 判断能力が不十分になつた場合に備えて、本人があらかじめ選んだ方(将来の任意後見人)と将来お願ひする内容を定め、公正証書で契約します。

問 27 あなたは、あなた自身あるいは家族・親族が認知症等により判断能力が十分でなくなつたとき、成年後見制度を利用したいと思いませんか。(1つに○)  
 1. 現在利用している 2. 今後利用したい  
 3. 利用は考えていない 4. わからない

**問 27で「3. 利用は考えていない」または「4. わからない」を選んだ方のみお答えください**

問 27-1 成年後見制度を利用しない理由として、どのようなものがありますか。(あてはまるものすべてに○)  
 1. まだ制度の利用を必要とする状況ではない  
 2. 制度内容、手続きがわかりにくい  
 3. 相談先がわからない  
 4. 費用の負担が心配  
 5. 信頼できる後見人候補者が思いあたらぬ  
 6. 特に考えたことがない  
 7. その他( )

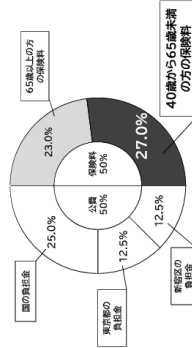
**介護保険制度(※)についておたずねします**

問 32 あなたは「介護保険制度」について、どのようなことを知っていますか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 40歳以上の人が介護保険料を負担する
2. 介護保険サービスを受けるには、要介護等の認定を受ける必要がある
3. 介護が必要な状態により、要支援1・2、要介護1～5の7段階に区分される
4. 要支援と要介護の段階により、利用できるサービスの種類や利用限度額に違いがある
5. サービス提供事業者は自由に選ぶことができる
6. 利用者は、サービスを利用する際に所得に応じて1割～3割を負担する
7. その他( )
8. 知っていない

※介護保険制度  
介護保険制度は、40歳以上の方が加入者となり保険料を納め、介護が必要となった時にサービスを利用できる制度です。  
介護保険サービス費用に対する保険料、公費(税)の負担割合が決まっていますので、サービス利用が多くなり費用が増加すれば、保険料もそれに応じて上昇する仕組みです。

介護保険の財源構成(公費と保険料の割合)



問 33 今後、高齢者の増加に伴い、サービスにかかる費用も増大することが予想されます。介護保険のサービスと費用負担について、あなたのお考えに最も近いものは、次のうちどれですか。(1つに○)

1. 介護保険料が上昇したとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである
2. 介護保険サービスの利用時に支払う利用者負担割合が増えたとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである
3. 介護保険料の上昇を抑えるために、介護保険サービスの水準を抑えるべきである
4. 介護保険サービスの利用時に支払う利用者負担割合を抑えるために、介護保険サービスの水準を抑えるべきである
5. その他( )
6. わからない

**通信機器の利用状況等についておたずねします**

問 34 通信機器の所有状況やインターネット等の利用状況についておたずねします。

(1) 所有状況※①-④それぞれに回答してください。(それぞれ1つに○)

	①スマートフォン	②タブレット端末	③パソコン	④その他( )
1. 持っている	1	1	1	1
2. 持っていない	2	2	2	2

(2) 過去1年のインターネットの利用状況(ここでいうインターネットの利用には、仕事やプライベートの別、利用した場所、所有機器(自分の機器かどうか)などを問いません。)\*①-④それぞれに回答してください。(それぞれ1つに○)

	①スマートフォン	②タブレット端末	③パソコン	④その他( )
1. 毎日少なくとも1回は利用	1	1	1	1
2. 週に少なくとも1回程度は利用(毎日ではない)	2	2	2	2
3. 月に少なくとも1回は利用(毎週ではない)	3	3	3	3
4. 年に少なくとも1回は利用(毎月ではない)	4	4	4	4
5. 全く利用しない	5	5	5	5





## 4. ケアマネジャー調査 調査票

### 新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査

#### アンケート調査へのご協力をお願いします

皆さまには日頃より新宿区の高齢者福祉・介護保険事業にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。  
 新宿区では、高齢者が住み慣れた地域の中でその人らしく安心して暮らしていただくことができるよう、令和3～5年度を計画期間とする「高齢者保健福祉計画」および「第8期介護保険事業計画」を策定し、区のためすべき基本的な目標と施策の方向性を明らかにしています。

このたび、次期計画の策定にあたり、区内の事業所で活動されている介護支援専門員（ケアマネジャー）の皆さまを対象に、サービスの現状やこれからの課題などについて伺いたく、本調査を実施することとなりました。

お忙しいところとは存じますが、何とぞ本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和4年10月  
 新宿区

#### はじめにお読みください

- 本調査は無記名調査です。調査票にお名前を書いたいただく必要はありません。
- お答えいただいた内容はすべて統計的に処理し、個々の回答やプライバシーに関わる内容が公表されることは一切ありません。
- 質問には、令和4年9月1日現在の状況でお答えください。
- 回答は、あてはまる番号に○をつけてください。○をつける数はそれぞれの質問の指示に従ってください。「その他」に○をつけた場合など、一部に、文字や数字を記入する質問もあります。
- ご記入いただいた調査票は、**10月24日（月）までに**、同封の返信用封筒でポストに投かんしてください。切手は必要ありません。
- 調査についてご不明な点がありましたら、下記の「お問い合わせ先」までお問い合わせください。また、在籍するケアマネジャーの人数と調査票の数が一致しない場合についても下記までご連絡ください。



インターネットでアンケートに答えることもできます

下記のホームページから、パソコン、スマートフォン、タブレットが使えます。

<https://shinjuku-korei.com/>



確認番号

最初の画面で、右の「確認番号」を入力して進んでください。

確認番号は、個人を特定するものではありません。

#### お問い合わせ先

【調査全般について】  
 新宿区福祉部地域包括ケア推進課 担当:小池・松山  
 Tel:03-5273-4193(直通) Fax:03-6205-5083

【調査の内容について】  
 新宿区福祉部介護保険課 担当:奥山・星野  
 Tel:03-5273-4596(直通) Fax:03-3209-6010

#### 勤務先の事業所の概要についてお答えください

問1 あなたの所属する事業所の組織(法人格)は、次のうちどれですか。(1つに○)

- |                      |            |
|----------------------|------------|
| 1. 株式会社(特例有限会社を含む)   | 2. 合名・合資会社 |
| 3. 社団法人              | 4. 社会福祉法人  |
| 5. 財団法人              | 6. 医療法人    |
| 7. 特定非営利活動法人(NPO 法人) | 8. その他( )  |

問2 あなたの居宅介護支援事業所のケアマネジャーは、あなたも含めて何人ですか。

そのうち、主任ケアマネジャーは何人ですか。 ※数字を記入してください。

ケアマネジャー数	( ) 人
うち主任ケアマネジャー	( ) 人

問3 あなたの所属する事業所が、居宅介護支援事業の他に提供しているサービスはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                           |                          |
|---------------------------|--------------------------|
| 1. 訪問介護(ホームヘルプサービス)       | 2. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護      |
| 3. 夜間対応型訪問介護              | 4. 訪問入浴介護                |
| 5. 訪問看護                   | 6. 訪問リハビリテーション           |
| 7. 居宅療養管理指導               | 8. 通所介護(デイサービス)          |
| 9. 認知症対応型通所介護(認知症デイ)      | 10. 地域密着型通所介護(小規模デイ)     |
| 11. 通所リハビリテーション(デイケア)     | 12. 短期入所生活介護(ショートステイ)    |
| 13. 短期入所療養介護(ショートステイ)     | 14. 小規模多機能型居宅介護          |
| 15. 看護小規模多機能型居宅介護         | 16. 特定施設入居者生活介護          |
| 17. 認知症対応型共同生活介護(グループホーム) | 18. 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 |
| 19. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)   | 20. 介護老人保健施設(老人保健施設)     |
| 【介護予防・生活支援サービス事業(総合事業)】   |                          |
| 21. 訪問型サービス               | 22. 通所型サービス              |
| 【その他】                     |                          |
| 23. 福祉用具貸与                | 24. 特定福祉用具購入             |

あなた自身のことについておたずねします

問4 あなたの性別をお選びください。(1つに○)

1. 男性	2. 女性
3. その他	4. 回答しない

問5 あなたの年齢をお選びください。(1つに○)

1. 20 歳代	2. 30 歳代	3. 40 歳代
4. 50 歳代	5. 60 歳代	6. 70 歳以上

問6 あなたの勤務形態をお選びください。(1つに○)

1. 常勤	2. 非常勤
-------	--------

問7 あなたのケアマネジャーの経験年数をお選びください。

※他事業所での年数も含む(1つに○)

1. 1 年未満	2. 1 年以上 3 年未満
3. 3 年以上 5 年未満	4. 5 年以上

問8 あなたは、介護支援専門員以外にどのような資格をお持ちですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 社会福祉士	2. 介護福祉士
3. 保健師	4. 看護師
5. 准看護師	6. 歯科衛生士
7. 栄養士(管理栄養士含む)	8. あん摩マッサージ指圧師
9. はり師・きゅう師	10. 柔道整復師
11. ホームヘルパー1級	12. 介護職員実務者研修修了
13. ホームヘルパー2級	14. 介護職員初任者研修修了
15. その他( )	16. 特になし

ケアマネジメンツの状況についておたずねします

問9 あなたが令和 4 年 9 月 1 日現在、担当している人数を教えてください。

※数字を記入してください。

担当している人数	予防支援者	介護支援者
	人	人

問10 過去1年間で、あなたが支援困難と感じたケースは、次のうちどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 介護保険制度を理解されていないケース 2. 認知症の症状があるケース 3. 精神疾患のあるケース(本人やその家族) 4. 医療依存度の高いケース 5. サービスの受け入れを拒否されるケース 6. 家族に介護力のないケース 7. 高齢者虐待のあるケース 8. 家族全体に生活課題を抱えるケース 9. 障害施策との併用で複雑な対応が必要なケース 10. その他( ) 11. 特になし
---

問11 あなたは、過去1年間で、虐待につながる可能性のあるケースを担当したことがありますか。なお、ある場合は、回数をご記入ください。

1. 担当したことがある	→( )回/年	2. ない
--------------	---------	-------

高齢者総合相談センターのケアマネジャーへの支援についてお答えねします

問 12 過去1年間で、あなたは、利用者に関して高齢者総合相談センターへ相談したことがありますか。(1つに○)

- 1. 相談したことがある
- 2. 相談したことはない

《問 12 で「1. 相談したことがある」を選んだ方のみお答えください》

問 12-1 相談した分野は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. ケアプランの立て方や書き方等に関する事
- 2. 介護保険制度全般に関する事
- 3. 区の高齢者福祉サービスに関する事
- 4. 医療機関との連携に関する事
- 5. 高齢者虐待に関する事
- 6. 成年後見に関する事
- 7. 消費者被害に関する事
- 8. 生活困窮や生活保護等に関する事
- 9. 認知症に関する事
- 10. 精神疾患に関する事
- 11. 困難ケースに関する事
- 12. サービス提供事業所に関する事
- 13. ネットワークの構築に関する事
- 14. 家族のひきこもり(※<sup>1</sup>)に関する事
- 15. ヤングケアラー(※<sup>2</sup>)に関する事
- 16. 障害施設との併用に関する事
- 17. その他( )

※<sup>1</sup>ひきこもり  
「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人の交流をほとんどせずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態」を言います。

※<sup>2</sup>ヤングケアラー  
法令上の定義はありませんが、一般に、本来本人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども(18歳未満)とされています。

《問 12 で「1. 相談したことがある」を選んだ方のみお答えください》

問 12-2 高齢者総合相談センターへ相談した際の全般的な評価は、次のうちどれですか。(それぞれ1つに○)

	そう思う	まあそう思う	あまりそう思うはない	そう思わない	わからない
ア. すぐに対応してくれた	1	2	3	4	5
イ. 問題解決への方向性を確認できた	1	2	3	4	5
ウ. 利用者の支援や対応について確認できた	1	2	3	4	5
エ. 新たな知識や情報を得ることができた	1	2	3	4	5
オ. 利用者本人や家族との調整がとれた	1	2	3	4	5
カ. 関係機関との連携がとれた	1	2	3	4	5
キ. 問題の解決に役立った	1	2	3	4	5

各種連携の状況についてお答えねします

問 13 あなたはケアマネジャーとして、主治医(かかりつけ診療所・クリニック)との連携はとれていますか。(1つに○)

- 1. 連携がとれている
- 2. おおむね連携がとれている
- 3. あまり連携がとれていない
- 4. 連携がとれていない

問 14 あなた自身の、主治医(かかりつけ診療所・クリニック)との連携における課題は何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 連携のために必要となる時間や労力が大きいこと
2. 医療に関する表現や用語の難解な部分についてわかりやすい説明が得られないこと
3. 主治医とコミュニケーションすることに苦手意識を感じる
4. 主治医側から協力的な姿勢や対応が得にくいなど、障壁(上下関係)を感じる
5. 主治医に情報提供しても活用されない(活用されているが不明である)ことが多いこと
6. 主治医と話し合う機会が少ないこと
7. 主治医に利用者の自宅での生活への理解や関心が不足しており、コミュニケーションが困難な場合があること
8. その他( )
9. 特になし

問 15 あなたはケアマネジャーとして、病院(医師、看護師、医療ソーシャルワーカー等)との連携はとれていますか。(1つに○)

1. 連携がとれている
2. おおむね連携がとれている
3. あまり連携がとれていない
4. 連携がとれていない

問 16 あなた自身の、病院(医師、看護師、医療ソーシャルワーカー等)との連携における課題は何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 連携のために必要となる時間や労力が大きいこと
2. 医療に関する表現や用語の難解な部分についてわかりやすい説明が得られないこと
3. 医師や看護師など病院職員とコミュニケーションすることに苦手意識を感じる
4. 医師や看護師など病院側から協力的な姿勢や対応が得にくいなど、障壁(上下関係)を感じる
5. 情報提供しても活用されない(活用されているが不明である)ことが多いこと
6. 医師や看護師など病院職員と話し合う機会が少ないこと
7. 医師や看護師など病院職員に利用者の自宅での生活への理解や関心が不足しており、コミュニケーションが困難な場合があること
8. その他( )
9. 特になし

問 17 あなた自身の、介護保険サービス事業所との連携における課題は何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

1. サービス提供票を作成・送付する業務に手間がかかること
2. 事業所・担当者からの情報提供が少ないこと
3. 事業所・担当者に照会しても、回答がなかなか得られないこと
4. 事業所・担当者と日程が合わず、サービス担当者会議が開催できないこと
5. その他( )
6. 特になし

問 18 あなたからみて、新宿区内の在宅医療・介護連携の状況について、どのように思えますか。(1つに○)

1. 連携がとれている
2. おおむね連携がとれている
3. あまり連携がとれていない
4. 連携がとれていない

問 19 あなたからみて、新宿区内の在宅医療・介護連携を推進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 多職種連携のための交流会を開催すること
2. 多職種連携に関する研修会を開催すること
3. 医療職が介護に関する知識や情報を得ること
4. 介護職が医療に関する知識や情報を得ること
5. 在宅医療・介護のリストを作り、情報を共有すること
6. 情報共有シートなど共通ツールを使用し、患者情報の共有を行うこと
7. 医療・介護の関係者で、情報通信技術(ICT※)を使用した、患者情報の共有を行うこと
8. その他( )
9. 特になし

※ICT  
在宅医療・介護は、多職種が様々な時間帯に支援を行うため、患者の日常の様子や状態の変化を速やかに把握し、関係者間で共有するためには、タブレット端末等、インターネット通信を活用した患者情報の共有(画像等も含める)の効果が高いとして、取り組みが広がっています。



ケアプランへの組み込みについておたずねします

問 22 あなたは、ケアプランの作成にあたって、(ア)組み込みにくいと思う介護保険のサービスはありますか。ある場合は、(イ)その理由をお答えください。

	(イ)その理由 (あてはまるものすべてに○)	(ア)組み込みにくいと思う介護保険のサービス(あてはまる番号に○)					
		サービスが不足している	知識が不足している	今までの運用していたサービスと異なるため、運用が困難になる	利用者の要請が望まない	費用面	
①訪問介護(ホームヘルプサービス)	1	1	2	3	4	5	6
②定期巡回・随時対応型訪問介護看護	2	1	2	3	4	5	6
③夜間対応型訪問介護	3	1	2	3	4	5	6
④訪問入浴介護	4	1	2	3	4	5	6
⑤訪問看護	5	1	2	3	4	5	6
⑥訪問リハビリテーション	6	1	2	3	4	5	6
⑦居宅療養管理指導	7	1	2	3	4	5	6
⑧通所介護(デイサービス)	8	1	2	3	4	5	6
⑨地域密着型通所介護(小規模デイサービス)	9	1	2	3	4	5	6
⑩認知症対応型通所介護(認知症デイサービス)	10	1	2	3	4	5	6
⑪通所リハビリテーション(デイケア)	11	1	2	3	4	5	6
⑫短期入所生活介護(ショートステイ)	12	1	2	3	4	5	6
⑬短期入所療養介護(ショートステイ)	13	1	2	3	4	5	6
⑭小規模多機能型居宅介護	14	1	2	3	4	5	6
⑮看護小規模多機能型居宅介護	15	1	2	3	4	5	6
⑯認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	16	1	2	3	4	5	6
⑰福祉用具貸与	17	1	2	3	4	5	6
⑱特定福祉用具購入	18	1	2	3	4	5	6
⑲居宅介護住宅改修	19	1	2	3	4	5	6
⑳総合事業(※)訪問型サービス	20	1	2	3	4	5	6
㉑総合事業(※)通所型サービス	21	1	2	3	4	5	6

※総合事業  
介護予防・生活支援サービス事業のことです。

問 23 区などが提供している介護保険外の高齢者福祉サービス等で、あなたがケアプランの作成にあたり、検討するものは、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自立支援住宅改修、日常生活用具給付、設備改修
2. 寝具乾燥消毒サービス
3. 理美容サービス
4. おむつ費用助成
5. おむつあっせん制度
6. 配食サービス
7. 敬老杖支給
8. 補聴器支給
9. 介護者リフレッシュ支援事業
10. 一人暮らし認知症高齢者への生活支援サービス
11. 徘徊高齢者探索サービス
12. 緊急通報システム
13. 火災安全システム
14. 高齢者見守りキーホルダー
15. 地域見守り協力員事業
16. 高齢者緊急ショートステイ
17. 障害者総合支援法に基づくサービス(重度訪問介護、同行援護 等)
18. 特になし

**在宅高齢者に必要な支援についておたずねします**

問 24 介護や医療が必要になっても、高齢者が在宅で暮らし続けるために、特に重要だと思  
うものは何ですか。(あてはまるもの3つに○)

- |                                   |  |
|-----------------------------------|--|
| 1. 訪問診療や往診をしてくれる診療所               |  |
| 2. 訪問看護(訪問看護ステーション)               |  |
| 3. 訪問・通所リハビリテーションなどのリハビリテーションサービス |  |
| 4. 医療的ケアの必要な方がレスパイトできる病院・施設       |  |
| 5. 状況変化時に受け入れ可能な入院施設              |  |
| 6. 気軽に立ち寄って話や相談ができる場所             |  |
| 7. 介護してくれる家族等                     |  |
| 8. 安心して住み続けられる住まい                 |  |
| 9. 見守りや手助けをしてくれる人                 |  |
| 10. 食事や日用品などの宅配サービス               |  |
| 11. 安否状態を誰かに知らせてくれるしくみ            |  |
| 12. 介護者の負担を軽減するしくみ                |  |
| 13. その他( )                        |  |
| 14. 特にない                          |  |

問 25 要介護者等(特に、一人暮らしの高齢者)が、在宅で暮らし続けるために、今後必要な  
サービスとして、どのようなものが考えられますか。ご自由にお書きください。


**認知症についておたずねします**

問 26 あなたには、認知症に関して相談のできる機関がありますか。(1つに○)

- |        |  |
|--------|--|
| 1. はい  |  |
| 2. いいえ |  |

《問 26 で「1. はい」を選んだ方のみお答えください》

問 26-1 どちらに相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                                       |  |
|---------------------------------------|--|
| 1. 診療所・クリニックのかかりつけ医(認知症・もの忘れ相談医(※)含む) |  |
| 2. 病院の内科、神経内科、精神科など                   |  |
| 3. 老年科・もの忘れ外来など認知症の専門外来がある病院          |  |
| 4. 認知症疾患医療センター(※?)                    |  |
| 5. 保健所・保健センター                         |  |
| 6. 高齢者総合相談センター                        |  |
| 7. その他( )                             |  |

※1 認知症・もの忘れ相談医  
東京都医師会および新宿区医師会所定の研修を修了した医師です。  
※2 認知症疾患医療センター  
認知症の専門相談、診断、身体合併症や行動・心理症状への対応、地域連携の推進、人材育成等を実施している医療機関です。(東京都指定)

**ACP(人生会議)(※)についておたずねします**

問 27 あなたは、ACP(人生会議)について知っていますか。(1つに○)

- |                           |  |
|---------------------------|--|
| 1. 知っている(関わったことがある)       |  |
| 2. 知っている(関わったことはない)       |  |
| 3. 名称は聞いたことがある(関わったことはない) |  |
| 4. 知らない                   |  |

※ACP(人生会議)  
生涯にわたって自分らしく生きていくために、自らが望む人生の最終段階における医療やケ  
アについて、前もって考え、家族や友人、医療や介護の関係者などと繰り返し話し合い共有  
する取組を「ACP:アドバンス・ケア・プランニング(人生会議)」と呼びます。より馴染みやすい  
言葉となるよう、「人生会議」と名称がつけました。

ケアマネジャーの仕事についておたずねします

問 28 あなたは、ケアマネジャーの仕事について、どのようにお考えですか。  
(それぞれ1つに○)

	そう思う	まあそう 思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない
①やりがいがあると思いますか。	1	2	3	4
②人の役に立てる仕事だと思いますか。	1	2	3	4
③専門知識・技能の必要な仕事だと思いますか。	1	2	3	4
④業務量が過大な仕事だと思いますか。	1	2	3	4
⑤精神的ストレスの大きい仕事だと思いますか。	1	2	3	4
⑥社会的評価は高いと思いますか。	1	2	3	4
⑦報酬は業務に見合っていると思いますか。	1	2	3	4
⑧介護福祉士や社会福祉士のような国家資格は必要だと思いますか。	1	2	3	4
⑨ケアマネジャーの独立性・中立性・公平性は保たれていると思いますか。	1	2	3	4

スキルアップについておたずねします

問 29 あなたは、研修に参加していますか。(1つに○)

1. 参加している  
2. 参加していない

《問 29 で1. 参加している》を選んでください

問 29-1 どのような研修内容が、あなたのスキルアップにつながりましたか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. ケアプランの作成・評価
2. 介護に関する知識
3. 介護予防に関する知識
4. リハビリテーションに関する知識
5. 医学一般に関する知識
6. 困難事例の検討
7. 災害時の備えや対応
8. 住宅・住環境に関する知識
9. 福祉用具に関する知識
10. 認知症高齢者への対応
11. 成年後見制度などの権利擁護関連制度
12. 消費者問題などの法律知識
13. 介護福祉士、社会福祉士などの資格取得
14. 職業倫理に関する知識
15. 対人援助技術に関する知識
16. 家族のひきこもり(※<sup>1</sup>)に関すること
17. ヤングケアラー(※<sup>2</sup>)に関すること
18. 障害施設との併用に関すること
19. その他( )
20. 持たない

※<sup>1</sup> ひきこもり

「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせず、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態」を言います。

※<sup>2</sup> ヤングケアラー

法上の定義はありませんが、一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども(18歳未満)とされています。



今後の意向についておたずねします

問 30 あなたは、これからもケアマネジャーを続けたいと思いますか。  
(1つに○)

- 1. 続けたい
- 2. 続けたくない
- 3. 迷っている

《問 30 で「2. 続けたくない」を選んだ方のみお答えください》

問 30-1 ケアマネジャーを続けたくないと思う理由は、次のうちどれですか。  
(あてはまるものすべてに○)

- 1. 担当件数が多すぎるから
- 2. 相談・支援以外の事務作業が多すぎるから
- 3. 仕事に見合った報酬がもらえないから
- 4. 利用者や家族からの相談や苦情処理への対応が大変だから
- 5. 事業所内での支援が得られないから
- 6. 事業所外の支援体制がないから
- 7. 精神的なストレスが大きいから
- 8. 身体的に厳しくなってきたから
- 9. ICT 機器の導入、操作が不安だから
- 10. その他( )

《問 30 で「3. 迷っている」を選んだ方のみお答えください》

問 30-2 迷っている理由があればお聞かせください。


新宿区への要望についておたずねします

問 31 ケアマネジャーの立場からみて、保険者である区に対して、何を望みますか。  
(あてはまるものすべてに○)

- 1. 介護保険に関する情報提供
- 2. 質の向上のための研修
- 3. 不正な事業所の指導
- 4. 利用者への適正なサービス利用の啓発
- 5. 困難ケースへの支援
- 6. 高齢者総合相談センターの機能の充実
- 7. ケアネットワーク(ケアマネジャーネットワーク新宿連絡会)への支援
- 8. 医療機関・訪問看護ステーションとの連携への支援
- 9. その他( )
- 10. 特にない



## 5. 介護保険サービス事業所調査 調査票

### 新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査


#### アンケート調査へのご協力をお願い

皆さまには日頃より新宿区の高齢者福祉・介護保険事業にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。  
 新宿区では、高齢者が住み慣れた地域の中でその人らしく安心して心豊かに暮らし続けることができるよう、令和3～5年度を計画期間とする「高齢者保健福祉計画」および「第8期介護保険事業計画」を策定し、区のみならず基本的な目標と施策の方向性を明らかにしています。  
 このたび、次期計画の策定にあたり、区内で介護保険サービスを実施している事業所の皆さまを対象に、サービスの現状やこれからの課題などについて伺いたく、本調査を実施することとなりました。  
 お忙しいところとは存じますが、何とぞ本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和4年 10月  
 新宿区

#### はじめにお読みください

- 調査票に事業所名を書いていただく必要はありません。
- お答えいただいた内容は計画策定のための基礎資料としてのみ使用いたします。すべて統計的に処理し、貴事業所の回答やお考えが特定・公表されることは一切ありません。
- 貴事業所単独での回答・判断が難しい質問については、運営主体の法人と調整のうえお答えください。
- 質問には、令和4年9月1日現在の状況でお答えください。
- 回答は、あてはまる番号に○をつけてください。○をつける数はそれぞれの質問の指示に従ってください。「その他」に○をつけた場合など、一部に、文字や数字を記入する質問もあります。
- ご記入いただいた調査票は、**10月24日（月）までに**、同封の返信用封筒でポストに投入してください。切手は必要ありません。
- 調査についてご不明な点がありましたら、下記の「お問い合わせ先」までお問い合わせください。



インターネットでアンケートに答えることもできます  
 下記のホームページから、パソコン、スマートフォン、タブレットが使えます。  
<https://shinjuku-korei.com/> 見本

最初の画面で、右の「確認番号」を入力して進んでください。  
 確認番号は、事業所を特定するものではありません。

お問い合わせ先  
 【調査全般について】 新宿区福祉地域包括ケア推進課 担当小池・松山  
 Tel:03-5273-4193(直通) Fax:03-6205-5083  
 【調査の内容について】 新宿区福祉部介護保険課 担当:奥山・星野  
 Tel:03-5273-4596(直通) Fax:03-3209-6010

**貴事業所の概要についてお答えください**

問1 貴事業所の組織(法人格)は、次のうちどれですか。(1つに○)

1. 株式会社(特例有限会社を含む)	2. 合名・合資会社
3. 社団法人	4. 社会福祉法人
5. 財団法人	6. 医療法人
7. 特定非営利活動法人(NPO法人)	8. その他( )

**収支状況・処遇改善の状況についてお答えください**

問2 貴事業所の、前年度の収支状況はどうでしたか。(1つに○)

1. 黒字	2. 収支均衡	3. 赤字	4. わからない
-------	---------	-------	----------

問3 貴事業所の、前年度と前々年度を比較した収支状況はどうでしたか。(1つに○)

1. 前々年度よりは良くなった	2. 前々年度と比較して横ばい
3. 前々年度よりは悪くなった	4. わからない
5. 前々年度は事業を実施していない	

問4 貴事業所では昨年度、処遇改善(給与や時給単価のアップなど)を行いましたか。(1つに○)

1. 処遇改善を行った	2. 今後処遇改善を行うつもりである
3. 従前より処遇が充実しているため、改善する必要はない	4. 処遇改善を図りたいが、経営状況から実施できない
5. 処遇改善を行う考えはない	6. その他( )

**《問4で「1. 処遇改善を行った」を選んだ方のみお答えください》**

問4-1 貴事業所の従業員にどのような効果があったと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 離職率が下がった	2. 職場の雰囲気活性化した
3. 介護職員の採用がやすくなった	4. 介護職員の増員ができた
5. その他( )	6. あまり効果はみられなかった



今後の参入意向についてお答え下さい

問8 貴事業所では、小規模多機能型居宅介護への参入についてどのようなようにお考えですか。(1つに○)

- 1. 関心があり、参入したい
- 2. 関心はあるが、参入するか否かは今後検討したい
- 3. 関心がない
- 4. その他( )

《問8で「2」～「4」を選んだ方のみお答えください》

問8-1 貴事業所では、小規模多機能型居宅介護への参入課題をどのようなようにお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. サービスに係る経費が多く、採算がとれない
- 2. サービスを行う人材を確保することが困難である
- 3. 指定運営基準が厳しすぎる
- 4. 公的資金援助が少ない
- 5. 利用者のサービスに関する周知が進んでおらず、登録定員の確保が難しい
- 6. その他( )

(全員におたずねします)

問9 貴事業所では、看護小規模多機能型居宅介護への参入についてどのようなようにお考えですか。(1つに○)

- 1. 関心があり、参入したい
- 2. 関心はあるが、参入するか否かは今後検討したい
- 3. 関心がない
- 4. その他( )

《問9で「2」～「4」を選んだ方のみお答えください》

問9-1 看護小規模多機能型居宅介護への参入課題をどのようなようにお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. サービスに係る経費が多く、採算がとれない
- 2. サービスを行う人材を確保することが困難である
- 3. 指定運営基準が厳しすぎる
- 4. 公的資金援助が少ない
- 5. 利用者のサービスに関する周知が進んでおらず、登録定員の確保が難しい
- 6. その他( )

1	2	3	エ) 今後4年間(令和8年度までの 新市区内での事業規模の意向 (1つに○))		
			現状維持	拡大 したい	縮小 したい
1	訪問介護(ホームヘルプサービス)	1	2	3	
2	訪問入浴介護	1	2	3	
3	訪問看護	1	2	3	
4	訪問リハビリテーション	1	2	3	
5	居宅療養管理指導	1	2	3	
6	通所介護(デイサービス)	1	2	3	
7	通所リハビリテーション(デイケア)	1	2	3	
8	短期入所生活介護(ショートステイ)	1	2	3	
9	短期入所療養介護(ショートステイ)	1	2	3	
10	福祉用具貸与	1	2	3	
11	福祉用具販売	1	2	3	
12	居宅介護支援	1	2	3	
13	特定施設入居者生活介護	1	2	3	
14	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	1	2	3	
15	介護老人保健施設(老人保健施設)	1	2	3	
16	夜間対応型訪問介護	1	2	3	
17	認知症対応型通所介護(認知症デイサービス)	1	2	3	
18	地域密着型通所介護(小規模デイサービス)	1	2	3	
19	小規模多機能型居宅介護	1	2	3	
20	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1	2	3	
21	看護小規模多機能型居宅介護	1	2	3	
22	認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	1	2	3	
23	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	1	2	3	
24	訪問型サービス	1	2	3	
25	通所型サービス	1	2	3	

ウ) 経営状況  
(1つに○)

1. 安定している

2. 厳しい

(全員におたずねします)

問 10 貴事業所には、障害福祉サービス事業所を併設していますか。(1つに○)

1. 障害福祉サービス事業所も併設している
2. 法人(事業者)内に障害福祉サービス事業所があるが、現事業所には併設していない
3. 介護保険サービス事業所だけを運営中である

《問 10 で「2」または「3」を選んだ方のみお答えください》

問 10-1 貴事業所では、新たに障害福祉サービス事業所の指定を受ける予定はありますか。(1つに○)

1. 障害福祉サービスサービスの指定を受ける予定はない
2. 障害福祉サービス事業所の指定を受けるかどうか検討中である
3. その他( )
4. わからない

**総合事業(※)についておたずねします**

問 11 貴事業所では、今後も継続して総合事業に取り組みするために必要なことは、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 職員の確保
2. 事業採算性の検証
3. 事務のフォロワー(マニュアル作成等)
4. 職員のスキルアップ支援(研修等)
5. ケアマネジャーに対する事業の周知
6. 区民に対する事業の周知
7. その他( )
8. 特になし

※総合事業  
介護予防・生活支援サービス事業のことです。

**人材の確保・定着・育成についておたずねします**

問 12 この1年間、貴事業所の人材の確保の状況はどうですか。(1つに○)

1. 確保できている
2. おおむね確保できている
3. あまり確保できていない
4. 確保できていない

問 13 貴事業所では、人材の確保について、どのような取り組みを行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 定期的に求人誌への掲載などを行っている
2. 就職説明会への参加を行っている
3. 福祉専門学校等教育機関との連携を図っている
4. ハローワークとの連携を図っている
5. 新宿区勤労者・仕事支援センターとの連携を図っている(新宿わく☆ワークによる求人など)
6. 人材派遣会社を活用している
7. 無資格者でも採用を行い、採用後に資格取得講座を受講させている
8. 採用時に給与(賞与・諸手当等含む)を他社より好条件に設定している
9. 採用時に労働日数・時間の希望をできるだけ聞き入れている
10. 育児中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくっている
11. 採用時に仕事のやりがいや、社会的意義を伝えている
12. インターンシップ制度を導入している
13. 外国人を雇用しているまたは検討している
14. その他( )
15. 特に何も行っていない

問 14 貴事業所での人材の確保についての特徴的な取り組みがあれば、ご自由にお書きください。


問 15 貴事業所のこの1年間の離職率(※)はどのくらいですか。(1つに○)

- 1. 最近1年間に離職者がいない
- 2. 10%未満
- 3. 10%以上20%未満
- 4. 20%以上30%未満
- 5. 30%以上
- 6. わからない

※離職率  
この1年の退職者数÷1年前の在職者数×100 とします。

問 16 貴事業所では、人材の定着・育成について、どのような取り組みを行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 近隣の企業や同業他社の給与水準を踏まえ、給与額を設定している
- 2. 永年勤続など一定期間勤めた際の報奨制度を設けている
- 3. 能力や仕事ぶりによって、管理職への登用機会を設けている
- 4. 非正規職員から正規職員への登用機会を設けている
- 5. 研修に参加しやすい体制を整えている
- 6. 外部研修に参加できない職員のために、内部研修を充実させている
- 7. 新人職員に対し、一定期間、マンツーマンで知識や技能を指導するなどの支援体制を設けている
- 8. 育児中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくっている
- 9. 休憩室や談話室の設置など、職員がリラックスできる環境を整えている
- 10. 上司や管理職が頻繁に面談を行い、職員の要望や不満を汲み取っている
- 11. 仕事のやりがいや、社会的意義を伝えている
- 12. 職員への満足度(不満)調査を行い、事業所における課題の把握を行っている
- 13. その他( )
- 14. 特に何も行っていない

問 17 貴事業所での人材の定着・育成についての特徴的な取り組みがあれば、ご自由にお書きください。


問 18 貴事業所で、職員のスキルアップを図るには、どのような実習・研修が必要だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 医療的ケアに関する知識
- 2. 介護技術に関する知識
- 3. リハビリテーションに関する知識
- 4. 薬に関する知識
- 5. 認知症や認知症高齢者の介護に関する知識
- 6. 高齢者、障害者に対する心理学的な知識
- 7. ケアマネジメントに関する知識
- 8. ターミナルケアに関する知識
- 9. ケースワークに関する知識
- 10. 介護機器や福祉機器に関する知識
- 11. 事故の予防対策や緊急時の対応
- 12. 口腔ケアや摂食嚥下障害に関する知識
- 13. 感染症に関する知識や感染対策に関する知識
- 14. 医療職など、多職種との連携に関する知識
- 15. 利用者や家族への接遇やコミュニケーション力に関する知識
- 16. 権利擁護に関する知識(虐待、成年後見、消費者被害等)
- 17. 家族のひきこもり(※)に関する知識
- 18. ヤングケアラー(※)に関する知識
- 19. 障害施策との併用に関する知識
- 20. その他( )
- 21. 特に必要はない

※1 ひきこもり  
「仕事や学校に行かず、かつ家族以外のひととの交流をほとんどせずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態」を言います。  
※2 ヤングケアラー  
法令上の定義はありませんが、一親に、本妻本人が相うつらと想定されている家事や家族の世話を日常的に行っている子ども(18歳未満)とされています。

問 19 貴事業所での人材の定着・育成にあたり、何か課題等があれば、ご自由にお書きください。


高齢者総合相談センターの事業所への支援についておたずねします

問 20 貴事業所は、利用者に関して高齢者総合相談センターへ相談したことがありますか。  
(1つに○)

- 1. 相談したことがある
- 2. 相談したことはない

※問 20 で「1. 相談したことがある」を選んだ方のみお答えください

問 20-1 相談した分野は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. サービス計画の立て方や書き方等に関すること
- 2. 介護保険制度全般に関すること
- 3. 区の高齢者福祉サービスに関すること
- 4. 医療機関との連携に関すること
- 5. 高齢者虐待に関すること
- 6. 成年後見に関すること
- 7. 消費者被害に関すること
- 8. 生活困窮や生活保護等に関すること
- 9. 認知症に関すること
- 10. 精神疾患に関すること
- 11. 困難ケースに関すること
- 12. サービス提供事業所に関すること
- 13. ネットワークの構築に関すること
- 14. 家族のひきこもり(※1)に関すること
- 15. ヤングケアラー(※2)に関すること
- 16. 障害施策との併用に関すること
- 17. その他( )

※1 ひきこもり  
「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態」を言います。  
※2 ヤングケアラー  
法令上の定義はありませんが、一般に、本来本人が担うと想定されている家事や家族の世話を日常的に行っている子ども(18歳未満)とされています。

問 20-2 高齢者総合相談センターへ相談した際の全般的な評価は、次のうちどれですか。  
(それぞれ1つに○)

	そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない
ア. すぐに対応してくれた	1	2	3	4
イ. 問題解決への方向性を確認できた	1	2	3	4
ウ. 利用者の支援や対応について確認できた	1	2	3	4
エ. 新たな知識や情報を得ることができた	1	2	3	4
オ. 利用者本人や家族との調整がとれた	1	2	3	4
カ. 関係機関との連携がとれた	1	2	3	4
キ. 問題の解決に役立った	1	2	3	4

各種連携の状況についておたずねします

問 21 貴事業所において、ケアマネジャーとの連携における課題は何だと思えますか。  
(あてはまるものすべてに○)

- 1. 日程が合わず、サービス担当者会議へ参加できないことが多いこと
- 2. 必要な情報の共有が上手く図れないこと
- 3. 連携のために必要となる時間や労力が大きいこと
- 4. お互いの都合で、対応が遅れる場合があること
- 5. ケアマネジャーと話し合う機会が少ないこと
- 6. その他( )
- 7. 特になし

問 22 貴事業所からみて、新宿区内の在宅医療・介護連携の状況について、どのように思えますか。(1つに○)

- 1. 連携がとれている
- 2. おおむね連携がとれている
- 3. あまり連携がとれていない
- 4. 連携がとれていない



問 23 貴事業所からみて、新宿区内の在宅医療・介護連携を推進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 多職種連携のための交流会を開催すること
- 2. 多職種連携に関する研修会を開催すること
- 3. 医療職が介護に関する知識や情報を得ること
- 4. 介護職が医療に関する知識や情報を得ること
- 5. 在宅医療・介護のリストを作り、情報を共有すること
- 6. 情報共有シートなど共通ツールを使用した、患者情報の共有を行うこと
- 7. 医療・介護の関係者で、情報通信技術(ICT)(※)を使用した、患者情報の共有を行うこと
- 8. その他( )
- 9. 特になし

※ICT  
在宅医療・介護は、多職種が様々な時間帯に支援を行うため、患者の日常の様子や状態の変化を速やかに把握し、関係者間で共有するためには、タブレット端末等、インターネット通信を活用した患者情報の共有(画像等も含める)の効果が高いと見て、取り組みが広がっています。

《問 23 で「1」を選んだ方のみお答えください》  
問 23-1 多職種で患者情報の共有を行うためにICTを活用することについて、どのように考えますか。(1つに○)

- 1. 活用したい
- 2. 活用したいと思わない
- 3. わからない

**介護保険によらないサービスについておたずねします**

問 24 貴事業所では、介護保険の被保険者に対して、介護保険制度によらないサービスを提供していますか。(1つに○)

- 1. 提供している
- 2. 提供していない

《問 24 で「1」提供している」を選んだ方のみお答えください》

問 24-1 提供している介護保険制度によらないサービスは、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 家事援助等サービス
- 2. 食事の配達サービス
- 3. 生活支援にかかわるその他サービス
- 4. 安否確認・緊急通報サービス
- 5. 移動支援・付き添いサービス
- 6. 通いの場・サロンの提供
- 7. その他( )

(全員におたずねします)

問 25 貴事業所で、介護保険の被保険者に対して、今後提供したい(続けたい)介護保険制度によらないサービスはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 家事援助等サービス
- 2. 食事の配達サービス
- 3. 生活支援にかかわるその他サービス
- 4. 安否確認・緊急通報サービス
- 5. 移動支援・付き添いサービス
- 6. 通いの場・サロンの提供
- 7. その他( )
- 8. 特になし

**地域貢献活動についておたずねします**

問 26 貴事業所では、地域と関わる活動を実施していますか。(1つに○)

- 1. 実施している
- 2. 実施していない

《問 26 で「1」実施している」を選んだ方のみお答えください》

問 26-1 その理由は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 利用者の地域参加の促進や地域生活の継続性につながる
- 2. 事業所の地域の認識が高まり、事業所運営への協力が得やすくなる
- 3. 職員の接遇技術の改善やホスピタリティの向上が図られる
- 4. 地域の活性化に役立つ
- 5. 地域住民の多様なニーズを把握し、柔軟に対応できる
- 6. 利用者の確保につながる、長期的に安定した経営ができる
- 7. その他( )

問 26-2 どのような活動をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 利用者やその家族等が地域主催の行事(敬老会・夏祭りなど)への参加
- 2. 地域住民と接するイベント・行事や交流会などの開催
- 3. 住民が参加できる講習会やセミナーなどの開催
- 4. 地域ボランティアなどの受け入れ
- 5. 地域住民とのふれあいの場としての施設・活動スペースの開放
- 6. 地域防災に関して、地域と連携した活動
- 7. 地域のバートルや交通安全に関する活動
- 8. その他( )

(全員におたずねします)

問 27 貴事業所で、今後実施したい(続けたい)地域と関わる活動はありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 利用者やその家族等が地域主催の行事(敬老会・夏祭りなど)への参加
2. 地域住民と接するイベント・行事や交流会などの開催
3. 住民が参加できる講習会やセミナーなどの開催
4. 地域ボランティアなどの受け入れ
5. 地域住民とのふれあいの場としての施設・活動スペースの開放
6. 地域防災に関して、地域と連携した活動
7. 地域のバリエーションや交通安全に関する活動
8. その他( )

問 28 地域包括ケアの担い手として行いたいと考えている活動があれば、ご自由にお書きください。


在宅医療への対応についておたずねします

問 29 区の「在宅医療相談窓口」や「がん療養相談窓口」で相談を受けられるということを知っていますか。

(1)在宅医療相談窓口について(1つに○)

1. 知っている(活用している)	2. 知っている(活用していない)	3. 知らない
------------------	-------------------	---------

(2)がん療養相談窓口について(1つに○)

1. 知っている(活用している)	2. 知っている(活用していない)	3. 知らない
------------------	-------------------	---------

《問 29の(1)または(2)で「1. 知っている(活用している)」を選んだ方のみお答えください》

問 29-1 「在宅医療相談窓口」や「がん療養相談窓口」の活用状況や期待することについて、ご自由にお書きください。


ACP(人生会議)(※)についておたずねします

問 30 ACP(人生会議)について知っていますか。(1つに○)

1. 知っている(関わったことがある)
2. 知っている(関わったことはない)
3. 名称は聞いたことがある(関わったことはない)
4. 知らない

※ACP(人生会議)

生涯にわたって自分らしく生きていくために、自らが望む人生の最終段階における医療やケアについて、前もって考え、家族や友人、医療や介護の関係者などと繰り返し話し合い共有する取り組みを「ACP:アドバンス・ケア・プランニング(人生会議)」と呼びます。より馴染みやすい言葉となるよう、「人生会議」と愛称がつけました。

尊厳の保持についておたずねします

問 31 貴事業所では、利用者の尊厳の保持について、どのような取り組みを行っていますか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 事業理念に明記している	2. 職員への研修を実施している
3. 現場で先輩職員から伝えている	4. ガイドラインを設けている
5. 具体的な対応マニュアルを作成している	6. 必要に応じて個別に指導している
7. その他( )	8. 特に何も行っていない

身体拘束等の廃止の廃止の取り組みについておたずねします

問 32 貴事業所では、身体拘束の廃止に向けてどのような取り組みを行っていますか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 身体的拘束等を行う場合には、その態様および時間、入所者の心身の状況、緊急やむを得ない理由を記録している
2. 身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を3か月に1回開催している
3. 身体的拘束等の適正化のための指針を整備している
4. 職員に対し、身体的拘束等の適正化のための研修を定期的に実施している
5. 権利擁護の理念を全職員で共有できるように定期的に確認できる場を設定している
6. 虐待予防チェックリストを定期的に全職員に実施している
7. 実施していない

新型コロナウイルス感染症予防策として新たに導入された情報通信技術(ICT)(※)の導入状況についておたずねします

問 33 新たに導入・実施した情報通信技術(ICT)の活用(令和2年3月～令和4年9月現在)(あてはまるものすべてに○)

- 1. オンラインミーティングツールによる会議
- 2. オンラインミーティングツールによる職員面接
- 3. オンラインミーティングツールによる採用面接
- 4. オンラインミーティングツールによる利用者ご家族の面会
- 5. 職員間・事業所内情報共有ツールの導入
- 6. モバイル・タブレット端末で利用者情報を共有
- 7. 出先から介護記録作成やスケジュール管理が可能なオンラインシステムの導入
- 8. 見守り支援ロボットの導入
- 9. その他( )
- 10. 情報通信技術は導入していない

※ICT  
 新型コロナウイルス感染症対策として、介護現場においては見守り支援機器の活用やインターネット通信を介した情報共有が行われるなど、非接触による感染リスク低減のための取り組みが進んでいます。

BCP(業務継続計画)についておたずねします

問 34 貴事業所では、厚労省のHPにBCP(業務継続計画)作成支援のページがあることを知っていますか。(1つに○)

- 1. 知っている
- 2. 知らない

問 35 感染症に係るBCP(業務継続計画)の作成状況についておたずねします。(1つに○)

- 1. 作成した
- 2. 作成していない

《問 35 で1. 作成した」を選んだ方のみお答えください》

問 35-1 作成した時期は、次のうちどれですか。(1つに○)

- 1. ～令和3年3月
- 2. 令和3年4月～令和4年3月
- 3. 令和4年4月～9月

《問 35 で2. 作成していない」を選んだ方のみお答えください》

問 35-2 今後作成する時期は、次のうちどれですか。(1つに○)

- 1. 令和4年10月～令和5年3月(令和4年度中)
- 2. 令和5年4月～令和6年3月(令和5年度中)

問 35-3 作成していない理由は次のうちどれですか。(1つに○)

- 1. 作成することを知らなかった
- 2. 作成方法がわからない
- 3. 日々の業務が多忙・時間がない
- 4. 現在作成中
- 5. その他( )

(全員におたずねします)

問 36 自然災害に係るBCP(業務継続計画)の作成状況についておたずねします。(1つに○)

- 1. 作成した
- 2. 作成していない

《問 36 で1. 作成した」を選んだ方のみお答えください》

問 36-1 作成した時期は、次のうちどれですか。(1つに○)

- 1. ～令和3年3月
- 2. 令和3年4月～令和4年3月
- 3. 令和4年4月～9月

《問 36 で2. 作成していない」を選んだ方のみお答えください》

問 36-2 今後作成する時期は、次のうちどれですか。(1つに○)

- 1. 令和4年10月～令和5年3月(令和4年度中)
- 2. 令和5年4月～令和6年3月(令和5年度中)

問 36-3 作成していない理由は次のうちどれですか。(1つに○)

- 1. 作成することを知らなかった
- 2. 作成方法がわからない
- 3. 日々の業務が多忙・時間がない
- 4. 現在作成中
- 5. その他( )

(全員におたずねします)

問 37 BCP(業務継続計画)作成にあたって、必要な支援策は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 作成のための研修
- 2. 作成別の提示
- 3. アドバイザーによる個別相談
- 4. 事業所間での情報共有
- 5. その他( )
- 6. 特にない

**新宿区への要望についておたずねします**

問 38 事業者の立場から、保険者である新宿区に対して、何を望みますか。  
(あてはまるものすべてに○)

- 1. 介護保険に関する情報提供
- 2. 質の向上のための研修
- 3. 不正な事業所の指導
- 4. 利用者への適正なサービス利用の啓発
- 5. 困難ケースへの支援
- 6. 高齢者総合相談センターの機能の充実
- 7. 新宿区介護サービス事業者協議会への支援
- 8. その他( )
- 9. 特になし

問 39 事業者の立場からみて、新宿区の高齢者支援の状況をどうお考えですか。  
(それぞれ1つに○)

	充実している	まあ充実している	やや不足している	不足している	わからない
ア. 健康づくりと介護予防の推進による健康寿命の延伸	1	2	3	4	5
イ. いきがいのあるくらしへの支援	1	2	3	4	5
ウ. 就業等の支援	1	2	3	4	5
エ. 地域で支え合うしくみづくりの推進	1	2	3	4	5
オ. 介護者への支援	1	2	3	4	5
カ. 認知症高齢者への支援体制の充実	1	2	3	4	5
キ. 高齢者総合相談センターの機能の充実	1	2	3	4	5
ク. 介護保険サービスの提供と基盤整備	1	2	3	4	5
ケ. 自立生活への支援(介護保険外サービス)	1	2	3	4	5
コ. 在宅介護支援体制の充実	1	2	3	4	5
サ. 高齢者の権利擁護の推進(成年後見制度の利用促進を含む)	1	2	3	4	5
シ. 安全で暮らしやすいまちづくりと住まいへの支援	1	2	3	4	5

問 40 高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、ご要望・ご意見がありましたらご自由にお書きください。


問 41 今後の事業展開について、貴事業所のお考え、ご意見等がありましたらご自由にお書きください。


以上で質問は終了です。ご協力ありがとうございました。  
記入が済みましたら調査票を同封の返信用封筒に入れて、  
切手は貼らずに令和4年10月24日(月)までに  
ポストに投かんしてください。

## 6 在宅介護実態調査 調査票

問5 今後の在宅生活継続に必要だと思うサービスはどれか (複数選択可)

- 1. 配食
- 2. 調理
- 3. 掃除・洗濯
- 4. 買い物 (宅配は含まない)
- 5. ゴミ出し
- 6. 外出同行 (通院、買い物など)
- 7. 移送サービス (介護・福祉バス等)
- 8. 見守り、声かけ
- 9. サロンなどの定期的な通いの場
- 10. その他
- 11. 特になし

問6 現時点で、施設等への入所・入居を検討しているか (1つを選択)

- 1. 検討していない
- 2. 検討している
- 3. すでに申し込みをしている

\_\_\_\_\_介護者がいない方はここで終了です\_\_\_\_\_

- ・問2で「2.」(家族や親族からの介護あり)と回答され、主な介護者が調査に同席されている場合、主な介護者に問7からの質問を行ってください。
- ・主な介護者が同席されていない場合は、ご本人にお答えいただいても結構です。質問によってご本人ではわからない場合は、「主な介護者に確認しないと、わからない」を選択してください。
- ・ご本人に回答をお願いすることが困難な場合は無回答で構いません。

問7 主な介護者の現在の勤務形態はどれか (1つを選択)

- 1. フルタイムで働いている →問8 へ
- 2. パートタイムで働いている →問8 へ
- 3. 働いていない →問10 へ
- 4. 主な介護者に確認しないと、わからない →問10 へ

問8 介護をするにあたって、働き方の調整等をしているか (複数選択可)

- 1. 特に行っていない
- 2. 労働時間を調整 (残業免除、短時間勤務、退出・早帰・中抜け等) しながら、働いている
- 3. 休暇 (年休や介護休暇等) を取りながら、働いている
- 4. 在宅勤務を利用しながら、働いている
- 5. その他の調整をしながら、働いている
- 6. 主な介護者に確認しないと、わからない

(次ページにも設問があります。)

### 在宅介護実態調査 調査票

被保険者番号 [ \_\_\_\_\_ ]

【在宅介護実態調査】についての同意書 (チェック欄に✓をご記入ください。)

この調査で得られた情報及び要介護認定や介護サービスの利用状況のデータにつきましては、当区における「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討する際の基礎資料とすることを目的に使用し、本目的以外の使用はいたしません。

また、本調査でご回答いただいた内容 (被保険者番号を含む) は、集計・分析を委託する株式会社ぎょうせいに預託しますが、情報は適切に管理いたします。

上記調査について、  
 同意します。  同意しません。

【聞き取りを行った相手は誰か】 (複数選択可)

- 1. 本人
- 2. 主な介護者となっている家族・親族
- 3. 主な介護者以外の家族・親族
- 4. 調査対象者のケアマネジャー
- 5. その他

問1 世帯類型はどれか (1つを選択)

- 1. 単身世帯
- 2. 夫婦のみ世帯
- 3. その他

問2 家族や親族 (別居含む) からの介護は、週にどのくらいあるか (1つを選択)

- 1. ない →問5 へ
- 2. 週に ( ) 日 →問3 へ

問3 主な介護者は誰か (1つを選択)

- 1. 配偶者
- 2. 子
- 3. 子の配偶者
- 4. 孫
- 5. 兄弟・姉妹
- 6. その他

問4 家族や親族の中で、本人の介護を理由として、過去1年間に仕事を辞めた方はいるか (複数選択可)

- 1. 主な介護者が仕事を辞めた
- 2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた
- 3. 主な介護者が転職した
- 4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した
- 5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない
- 6. わからない

(次ページにも設問があります。)

**問9 今後も働きながら介護を続けていけそうか (1つを選択)**

- 1. 問題なく、続けていける
- 2. 問題はあるが、何とか続けていける
- 3. 続けていくのは、やや難しい
- 4. 続けていくのは、かなり難しい
- 5. 主な介護者に確認しないと、わからない

**問10 現在の生活を継続するにあたって、主な介護者が不安に感じることとはどれか (3つまで選択可)**

(身体介護)

- 1. 日中の排泄
- 2. 夜間の排泄
- 3. 食事の介助 (食べる時)
- 4. 入浴・洗身
- 5. 身だしなみ (洗顔・歯磨き等)
- 6. 衣服の着脱
- 7. 屋内の移乗・移動
- 8. 外出の付き添い、送迎等
- 9. 服薬
- 10. 認知症状への対応
- 11. 医療面での対応 (経管栄養、ストーマ等)

(生活援助)

- 12. 食事の準備 (調理等)
- 13. その他の家事 (掃除、洗濯、買い物等)
- 14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き
- 15. その他
- 16. 不安に感じていることは、特にない
- 17. 主な介護者に確認しないと、わからない

以上  
ご協力ありがとうございました。



## 新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査報告書

---

印刷物作成番号 2022-22-2912

発行年月:令和5年(2023年)3月

発行:新宿区 福祉部地域包括ケア推進課

〒160-8484 新宿区歌舞伎町一丁目4番1号

電話:03-5273-4193(直通)

F A X:03-6205-5083

※この印刷物は、業者委託により280部印刷製本しています。その経費として、1部あたり2,329円(税込み)がかかっています。ただし、編集時の職員人件費や配送経費などは含んでいません。